

府 中 市

福祉計画（高齢者福祉）
調査報告書

平成20年3月

府 中 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の種類と対象者	3
2 高齢者調査	4
(1) 高齢者一般調査	4
(2) 介護保険居宅サービス利用者調査	6
(3) 介護保険施設サービス利用者調査	8
(4) 介護保険サービス未利用者調査	10
3 事業者調査	12
(1) 居宅介護支援事業者調査	12
(2) 予防・居宅介護サービス提供事業者及び 施設サービス提供事業者調査	14
第2章 調査からみえた課題	17
1 高齢者調査	19
(1) 高齢者一般調査	19
(2) 介護保険居宅サービス利用者調査	20
(3) 介護保険施設サービス利用者調査	21
(4) 介護保険サービス未利用者調査	21
(5) 高齢者調査全体	22
2 事業者調査	23
(1) 居宅介護支援事業者調査	23
(2) 予防・居宅介護サービス提供事業者及び 施設サービス提供事業者調査	23
(3) 事業者調査全体	24
第3章 各調査の結果	25
I 高齢者調査	27
1 高齢者一般調査	27
(1) 基本属性	27
(2) 健康状態と介護予防	31
(3) 地域生活と日ごろの活動	38

(4) 保健福祉サービス	54
(5) 介護保険サービス	57
(6) 高齢者の権利擁護	65
(7) 市への要望	69

2 介護保険居宅サービス利用者調査 74

(1) 基本属性	74
(2) 医療の状況	78
(3) 介護保険	79
(4) 利用者本位のサービスのあり方	96
(5) 介護保険サービスの満足度	105
(6) 高齢者の権利擁護	109
(7) 保健福祉サービス	113
(8) 市への要望	115
(9) 介護者の状況・意向	119
(10) 介護者の意見・市への要望等	125

3 介護保険施設サービス利用者調査 131

(1) 基本属性	131
(2) 身体状況	134
(3) 入所までの期間等	136
(4) 施設での生活・サービス	138
(5) 介護保険	142
(6) 高齢者の権利擁護	147
(7) 介護者の状況・意向	149
(8) 介護者の意見・市への要望等	154

4 介護保険サービス未利用者調査 159

(1) 基本属性	159
(2) 医療の状況	163
(3) 介護保険サービスの利用	164
(4) 介護保険	171
(5) 保健福祉サービス	179
(6) 高齢者の権利擁護	182
(7) 市への要望	186
(8) 介護者の状況・意向	189
(9) 介護者の意見・市への要望等	196

5 高齢者調査共通設問の比較 199

(1) 基本属性	199
----------	-----

(2) 介護保険について	201
(3) 介護の問題・権利擁護	203
(4) 今後の生活場所・災害時のための個人情報提供の考え方	205

II 事業者調査 207

1 居宅介護支援事業者調査 207

(1) 事業所の活動状況	207
(2) 事業の状況	210
(3) サービスの質の向上に向けた取組み	212
(4) ケアマネジメント	216
(5) 今後の事業運営	222
(6) 市への要望	226

2 予防・居宅介護サービス提供事業者及び

施設サービス提供事業者調査 230

(1) 事業所の活動状況	230
(2) 今後の事業運営	235
(3) サービスの質の向上に向けた取組み	252
(4) 市への要望	257

資料編 調査票及び集計結果 263

高齢者一般調査 265

介護保険居宅サービス利用者調査 280

介護保険施設サービス利用者調査 301

介護保険サービス未利用者調査 312

居宅介護支援事業者調査 326

予防・居宅介護サービス提供事業者及び

施設サービス提供事業者調査 335

第1章 調査の概要

1 調査の種類と対象者

本調査では、以下の6つの調査を実施している。

区分	調査名	対象者	サンプリング
高齢者調査	調査1	高齢者一般調査 市内に居住する第1号被保険者（要支援・要介護認定者を除く）、3,000人	住民基本台帳から無作為抽出
	調査2	介護保険居宅サービス利用者調査 介護保険居宅サービスを利用する第1号被保険者、1,800人	居宅サービスを受けている方から無作為抽出
	調査3	介護保険施設サービス利用者調査 介護保険施設サービス利用する第1号被保険者、500人	施設サービスを受けている方から無作為抽出
	調査4	介護保険サービス未利用者調査 介護保険サービス未利用者、500人	要支援・要介護認定者のうち、介護保険サービスを利用していない方から無作為抽出
事業者調査	調査1	居宅介護支援事業者調査 府中市の要支援・要介護認定者のケアプランを作成する居宅介護支援事業所 45事業所	事業所リスト等から抽出
	調査2	予防・居宅介護サービス、施設サービス提供事業者調査 市内で事業を展開している予防・居宅サービス提供事業者及び施設サービス提供事業者 100事業者	事業所リスト等から抽出

2 高齢者調査

(1) 高齢者一般調査

① 調査の目的

市内に居住し、要支援・要介護認定を受けていない高齢者の意識と生活実態を把握し、サービスの潜在需要や介護予防の具体化に向けた方策を検討する。

② 調査対象

市内に居住する第1号被保険者（要支援・要介護認定者を除く） 3,000人
平成19年9月30日現在で住民基本台帳より無作為抽出

③ 調査方法

郵送配布－郵送回収（督促礼状1回送付）

④ 調査時期

平成19年10月9日～10月26日

⑤ 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
3,000	2,475 (82.5%)	2,468 (82.3%)

⑥ 調査項目

調査項目	問番号	設問
A 基本属性	F 1	居住場所
	F 2	記入者
	F 3	性別
	F 4	年齢
	F 5	家族構成（同居家族・同居者の年齢・配偶者の年齢）
	F 6	居住地域
	F 7	住宅の所有形態・住宅の問題点
B 健康状態・介護予防	問 1	治療中の病気の有無
	問 2	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無
	問 3	介護予防事業の利用状況・利用意向
	問 4	介護予防に対する考え方や実際の行動
	問 5	健康づくりのために実行していること＜自由回答＞
C 地域生活・日ごろの活動	問 6	地域活動への参加程度（付問：参加している地域活動の種類）
	問 7	今後参加したい地域活動
	問 8	地域の活動を行う上で必要な環境・条件
	問 9	地域住民の協力関係の必要性 （付問：地域住民の協力関係を築くために必要なこと）
	問 10	就労状況（付問：望ましい働き方）
	問 11	地域福祉充実のために必要な住民参加の方法
	問 12	近所づきあいの程度（付問：つきあいのない理由）
	問 13	自分や家族について不安に感じる事
	問 14	災害時のための個人情報提供への考え方
	問 15	健康、介護予防、福祉サービス、地域活動の情報入手方法
	問 16	暮らしの問題や福祉についての相談先
D 保健福祉サービス	問 17	高齢者保健福祉サービスの利用状況・利用意向
	問 18	市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス
E 介護保険	問 19	保険料段階
	問 20	介護保険サービスと保険料についての考え方
	問 21	介護保険サービスの利用意向（付問：利用したい条件）
	問 22	介護保険サービスの認識度・利用意向
	問 23	地域密着型サービスの認識度・利用意向
	問 24	介護が必要になったときの暮らし方
	問 25	介護保険制度をよりよくするために市が力をいれるべきこと
F 権利擁護	問 26	権利擁護の制度や相談窓口の周知状況
	問 27	周囲で困っている人の有無（付問：困っている人、事例）
G 要望	問 28	市への要望＜自由回答＞

(2) 介護保険居宅サービス利用者調査

① 調査の目的

介護保険の居宅サービスの利用者に対して、サービスの利用状況と利用意向を探り、サービス水準の目標設定やサービスと保険料の妥当性などに関する検討を行うための参考とする。

② 調査対象

介護保険居宅サービスを利用する第1号被保険者 1,800人
平成19年9月30日現在で居宅サービスを受けている方から無作為抽出

③ 調査方法

郵送配布－郵送回収（督促礼状1回送付）

④ 調査時期

平成19年10月9日～10月26日

⑤ 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
1,800	1,394 (77.4%)	1,392 (77.3%)

⑥ 調査項目

調査項目	問番号	設問
A 基本属性	F 1	現在の居住場所
	F 2	記入者
	F 3	性別
	F 4	年齢
	F 5	家族構成（付問：同居家族、同居者年齢、配偶者年齢）
	F 6	居住地域
	F 7	住宅の所有形態（付問：住宅の問題点）
B 医療の状況	問 1	治療中の病気の有無
	問 2	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局
C 介護保険	問 3	要介護度
	問 4	保険料段階
	問 5	介護保険サービスと保険料についての考え方
	問 6	介護保険サービスの利用の変化（付問：変化の内容）
	問 7	介護保険サービスの利用料（付問：限度額以上の理由、限度額以内の理由）
	問 8	居宅サービスの利用状況
	問 9	介護保険サービスの利用意向（居宅サービス・施設サービス）
	問 10	地域密着型サービスの認識度・利用意向
	問 11	今後、生活したい場所
	問 12	介護保険制度をよりよくするため市が力をいれるべきこと
D 利用者本位のサービスのあり方	問 13	（要介護者）ケアプランに対する満足度（付問：不満の内容）
	問 14	（要支援者）介護予防ケアプランに対する満足度（付問：不満の内容）
	問 15	ケアマネジャーに対する満足度
	問 16	ケアマネジャーの対応への評価
	問 17	介護サービス事業者を評価する点
	問 18	介護サービス事業者に不満・苦情を言える環境か（付問：言えない理由）
	問 19	マイケアプラン（予防介護マイケアプラン）の周知（付問：作成意向）
E 介護保険サービスの満足度	問 20	利用している居宅サービス、満足度、不満の理由
	問 21	サービス利用後の変化（付問：変化がない理由）
F 高齢者の権利擁護	問 22	権利擁護の制度や相談窓口の周知状況
	問 23	周囲で困っている人の有無（付問：困っている人、事例）
	問 24	災害時のための個人情報提供への考え方
G 保健福祉サービス	問 25	保健福祉サービスの利用状況・利用意向
H 市への要望	問 26	市への要望＜自由回答＞
H 介護者の状況・意向	問 27	主な介護者
	問 28	主な介護者の年齢
	問 29	主な介護者の居住地
	問 30	介護している期間
	問 31	1日の介護時間
	問 32	介護されている人の今後の生活の場所
	問 33	介護の問題点
	問 34	介護者の意見・市への要望等＜自由回答＞

(3) 介護保険施設サービス利用者調査

① 調査の目的

介護保険の施設サービスの利用者に対して、サービスの利用状況と利用意向を探り、サービス水準の目標設定やサービスと保険料の妥当性などに関する検討を行うための参考とする。

② 調査対象

介護保険施設サービスを利用する第1号被保険者 500名
平成19年9月30日現在で施設サービスを受けている方から無作為抽出

③ 調査方法

郵送配布－郵送回収（督促礼状1回送付）

④ 調査時期

平成19年10月9日～10月26日

⑤ 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
500	368 (73.6%)	366 (73.2%)

⑥ 調査項目

調査項目	問番号	設問
A 基本属性	◆	入所施設の種類
	◆	回答できない理由
	F 1	記入者
	F 2	性別
	F 3	年齢
	F 4	入所期間
	F 5	入所する前に同居していた人（付問：配偶者年齢）
B 身体状況	問 1	病歴
	問 2	（老人保健施設、介護療養型医療施設入居者へ）医療処置等
C 入所までの期間等	問 3	入所までの期間
	問 4	入所直前の住まい（または施設）
D 施設での生活・サービス	問 5	居室定員（付問：個室への希望）
	問 6	入所時の重要事項の説明に対する評価
	問 7	サービスの分かりやすい説明に対する評価
	問 8	サービスの提案の有無
	問 9	施設でのサービスの効果
	問 10	サービスの満足度
E 介護保険	問 11	要介護度
	問 12	保険料段階
	問 13	介護保険サービスと保険料についての考え方
	問 14	施設利用料の負担感
	問 15	日常生活費の負担感
	問 16	居住費・食費の負担感
	問 17	介護療養型医療施設廃止の周知状況
	問 18	介護保険制度をよりよくするため市が力をいれるべきこと
F 高齢者の権利擁護	問 19	施設でのプライバシーの配慮の有無
	問 20	施設での本人の意向や希望の尊重の有無
	問 21	施設でのからだの動作制限の有無
G 介護者の状況・意向	問 22	主たる連絡先
	問 23	主たる連絡先の年齢
	問 24	主たる連絡先の居住地
	問 25	認知症の診断の有無（付問：症状）
	問 26	介護されている人の今後の生活の場所
	問 27	介護の問題点
	問 28	介護費用負担などの問題、要望等＜自由回答＞

(4) 介護保険サービス未利用者調査

① 調査の目的

介護保険サービス未利用者に対して、未利用であった理由と、今後の意向について把握し、適正なサービス利用につなげる方策を探るための参考とする。

② 調査対象

介護保険サービス未利用者 500 人

平成 19 年 9 月 30 日現在で市内に居住する要支援・要介護認定者のうち、介護保険サービスを利用していない第 1 号被保険者から無作為抽出

③ 調査方法

郵送配布－郵送回収（督促礼状 1 回送付）

④ 調査時期

平成 19 年 10 月 9 日～10 月 26 日

⑤ 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
500	378 (75.6%)	371 (74.2%)

⑥ 調査項目

調査項目	問番号	設問
A 基本属性	F 1	現在の居住場所
	F 2	記入者
	F 3	性別
	F 4	年齢
	F 5	家族構成（付問：同居家族、同居者年齢、配偶者年齢）
	F 6	居住地域
	F 7	住宅の所有形態（付問：住宅の問題点）
B 医療の状況	問 1	治療中の病気の有無
	問 2	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局
C 介護保険サービスの利用	問 3	要介護度
	問 4	要支援・要介護になった理由
	問 5	要介護認定の申請の理由
	問 6	介護保険サービスを利用しない理由
	問 7	現在介護を受けている方法
	問 8	介護保険サービスの利用意向
	問 9	今後、生活したい場所
D 介護保険	問 10	保険料段階
	問 11	介護保険サービスと保険料についての考え方
	問 12	介護保険サービスの認識度・利用意向
	問 13	地域密着型サービスの認識度・利用意向
	問 14	介護保険制度をよりよくするため市が力をいれるべきこと
E 保健福祉サービス	問 15	保健福祉サービスの利用状況・利用意向
	問 16	市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス
F 高齢者の権利擁護	問 17	権利擁護の制度や相談窓口の周知状況
	問 18	周囲で困っている人の有無（付問：困っている人、事例）
	問 19	災害時のための個人情報提供への考え方
G 市への要望	問 20	市への要望＜自由回答＞
H 介護者の状況・意向	問 21	主な介護者
	問 22	主な介護者の年齢
	問 23	主な介護者の居住地
	問 24	介護している期間
	問 25	1日の介護時間
	問 26	認知症の症状
	問 27	介護されている人の今後の生活の場所
	問 28	介護の問題点
	問 29	介護者の意見・市への要望等＜自由回答＞

3 事業者調査

(1) 居宅介護支援事業者調査

① 調査の目的

市内に事業所を設置し、市内在住の高齢者の居宅介護計画（ケアプラン）を作成している事業所に対し、事業所の実情や、今後の事業展開、市への意見や要望等を把握し、介護保険制度の適切な運営に向けた方策を検討する。

② 調査対象

府中市の要支援・要介護認定者のケアプランを作成する居宅介護支援事業所 45 事業所

③ 調査方法

郵送配布－郵送回収（督促礼状 1 回送付）

④ 調査時期

平成 19 年 10 月 9 日～10 月 26 日

⑤ 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
45	41 (91.1%)	41 (91.1%)

⑥ 調査項目

調査項目	問番号	設問
A 事業所プロフィール	問 1	法人名・事業所名・所在地等
	問 2	活動状況（組織形態／併設事業所の種類／職員・スタッフ人数／資格の状況）
B 事業の状況	問 3	ケアプランの給付管理件数
	問 4	ケアマネジャー（市内で活動する人数／在職年数／離職状況）
	問 5	ケアプランの作成方法
	問 6	ケアプラン作成関係者
	問 7	（サービス併設事業所に）事業所内で対応した割合
C 質の向上への取組み	問 8	質の向上に対する取組み
	問 9	第三者評価の実施予定（付問：実施しない理由）
	問 10	人材確保の取組み（現在・今後）
	問 11	研修（実施状況・参加支援）
D ケアマネジメント	問 12	ケアプラン作成が困難だった程度
	問 13	ケアプラン作成が困難だったケース
	問 14	困難だったケースの相談先
	問 15	具体的な困難事例＜自由意見＞
E 今後の事業運営	問 16	昨年度の採算性
	問 17	介護報酬変更による運営への影響
	問 18	今後 3 年間の事業規模
	問 19	介護予防プラン作成への参入意向
	問 20	力を入れていること・入れたいこと
F 要望	問 21	事業者として市に望むこと
	問 22	介護保険制度全体をよりよくするため市が力をいれるべきこと
	問 23	介護保険に関する要望＜自由意見＞

(2) 予防・居宅介護サービス提供事業者及び施設サービス提供事業者調査

① 調査の目的

市内に事業所を設置し、市内在住の高齢者に予防・居宅介護サービス提供事業者及び施設サービス提供している事業所に対し、事業所の実情や、今後の事業展開、市への意見や要望等を把握し、介護保険制度の適切な運営に向けた方策を検討する。

② 調査対象

市内で事業を展開している予防・居宅介護サービス提供事業者及び施設サービスを提供している事業所 100 事業所

③ 調査方法

郵送配布－郵送回収（督促礼状1回送付）

④ 調査時期

平成19年10月9日～10月26日

⑤ 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
100	79 (79.0%)	79 (79.0%)

⑥ 調査項目

調査項目	問番号	設問
A 事業所プロフィール	問 1	法人名・事業所名・所在地等
	問 2	活動状況（組織形態／事業所の種類／併設事業所の種類／職員・スタッフ人数／資格の状況）
B 今後の事業運営	問 3	昨年度の採算
	問 4	介護報酬変更による影響
	問 5	今後3年間の事業規模／職員の在職年数・離職状況／離職の理由
	問 6	利用者の信頼を得るための事項 （予防・居宅介護サービス提供事業者への設問）
	問 7	利用者からのサービスへの要望や意見 （予防・居宅介護サービス提供事業者への設問）
	問 8	利用者の信頼を得るための事項 （施設サービス提供事業者への設問）
	問 9	利用者からのサービスへの要望や意見 （施設サービス提供事業者への設問）
	問 10	介護予防プラン作成事業への参入意向／参入意向なしの理由 （介護予防事業をしていない事業者への設問）
	問 11	地域密着型事業への参入意向／参入意向なしの理由
C 質の向上への取組み	問 12	質の向上に対する取組み
	問 13	第三者評価の実施予定（付問：実施しない理由）
	問 14	人材確保の取組み（現在・今後）
	問 15	研修について（実施状況・参加支援）
D 要望	問 16	事業者として市に望むこと
	問 17	介護保険制度全体をよりよくするために市が力をいれるべきこと
	問 18	介護保険に関する要望＜自由意見＞

第2章 調査からみえた課題

1 高齢者調査

(1) 高齢者一般調査

① 介護予防の推進

市の65歳以上の高齢者は約4万1千人、その84%の約3万4千人は、介護保険料を払うものの、サービスを必要としていない（市の平成19年6月現在の要支援・要介護認定率は約16%）元気な高齢者である。この介護保険を支えている元気な高齢者が、さらに健康で要介護状態にならないよう介護予防を推進する必要がある。

介護予防に対する考え方や実際の行動をたずねたところ、「現在は介護予防に取り組んでいないが、近い将来は何かに取り組もうと考えている」が最も多く5割を占める。しかし、年齢が高くなると介護予防に対する興味や意欲が薄れる傾向がみられる（問4）。

市では、いきいきプラザを介護予防の中心拠点とし、地域の在宅介護支援センターに配置した介護予防コーディネーターと連携しながら、介護予防健診、介護予防に関する講座・研修、介護予防教室（転倒予防、認知症予防、尿失禁予防、栄養改善・口腔ケア）の介護予防事業に積極的に取り組んでいる。調査の結果をみると、現在の利用は余り高くないが、利用意向をみると、介護予防健診に対しては3割以上、介護予防に関する講座・研修や各種介護予防教室に対しても2割以上の利用意向がある（問3）。

この利用意向を実際の参加につなげていくため、現在行っている介護予防事業を分かりやすく積極的にPRを行うことで、多くの高齢者の関心を高めていく必要がある。さらに、介護予防に継続して取り組めるよう、介護予防に携わる人材の育成など環境整備が求められる。

② 経験や知識・技能を活かす活動支援

参加したい地域活動についてたずねたところ、「楽しみが得られる活動」、「生きがいや健康づくりができる活動」、「隣近所の人と協力しあえる活動」が上位にあるが、「地域や社会に役立つ活動」や「知識や経験をいかせる活動」もそれぞれ2割程度の意向がある（問7）。また、「仕事をしたいが仕事がない」と回答した人に望ましい働き方をたずねたところ、「自分の知識や技能を生かす仕事であれば収入は少なくてもよい」が最も多く4割、「地域に貢献できる仕事できれば収入は少なくてもよい」が2割で、続いている（問10-1）。

元気高齢者や団塊世代が、生きがいづくりや健康づくりに取り組めるよう、その経験・知識・技能を生かした地域活動への支援が求められる。

③ 住民相互の協力関係づくり

住民相互の協力関係についてたずねたところ、『必要があると思う人』は約9割を占める（問9）。その協力関係を築くために必要なこととしては、「自ら進んで住民相互のつながりを持つように心がける」と「町内会・自治会が中心となって交流活動を進める」が多いが、次いで「地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作る」、「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介する」が上位にあげられている（問9-1）。

住民が気軽に集まる場や情報提供などを支援する取組みが求められる。

（2）介護保険居宅サービス利用者調査

① 制度変化への対応

平成18年4月の介護保険の制度改正以降、介護サービスの利用の変化があったかを、たずねたところ、「あった」との回答は約4割で、介護度別にみると、要支援2と要介護5に、比較的多い様子がみられた（問6）。変化の内容は、「家族の負担が増えた（介護時間）」が最も多く、「希望するサービスが受けられなくなった」、「家族の負担が増えた（介護費用）」の順になっている。介護度別にみると、家族の負担で介護時間が増えたのは要介護3以上で比較的多く、家族の負担で介護費用が増えたのは要介護4・5となっている。「希望するサービスが受けられなくなった」のは要支援1と2に多い（問6-1）。

重度者と軽度者の本人及び介護者、それぞれのニーズに応じた支援を行うと共に、制度を持続するために改正された点について、市民に分かりやすく説明して、理解を得て行くことが求められる。

② 利用者の満足度水準のさらなる向上

ケアプランの満足度（「満足」と「やや満足」の合計）は6割、介護予防ケアプランは5割であり、一方、不満の内容をみると、どちらも「サービスに制限が多い」ことが一番にあげられている（問13、14）。

また、ケアマネジャーに対しての満足度は約7割とかなり高い水準にある。評価内容としては「プラン作成前に話をよく聞いてくれた」と「定期的に訪問してくれる」ことが上位にあげられている（問13、14）。

前回調査と比べると、ケアプランの満足度は59%から64%に、ケアマネジャーへの満足度は58%から69%に増加している。

満足度水準をさらに高めるため、ケアマネジャーのレベルアップ研修、人材確保・育成などの支援が求められる。

（３）介護保険施設サービス利用者調査

① 高齢期の住まい・施設の選択肢の多様化

介護療養型医療施設の削減が国の方針として決められているが、介護療養型医療施設の入所者の３割は「知らない」と回答している（問 17）。また、介護保険制度をよくするために市が力を入れるべきこととして、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」が第 1 位にあげられている（問 18）。

依然として高い施設ニーズに対応するため、介護保険施設の整備のほかに、在宅医療と連携した住まい、見守りサービスのある住まい、小規模多機能型居宅介護、グループホーム、地域密着型特定施設など、高齢期の住まい・施設の選択肢を広げ、多様化することが求められる。

（４）介護保険サービス未利用者調査

① サービス利用意向を適切なサービスにつなぐ支援

要介護認定を受けながらサービスを利用しない理由としては、「家族が介護してくれる」、「まだ利用しなくてもよい」が上位にあげられている（問 6）。介護保険サービスの利用意向のある人は４割であり（問 8）、住宅改修費の支給や福祉用具の貸与など居住改善サービスと、訪問系サービスへの意向が比較的高い（問 12）。また、保健福祉サービスの利用状況は低いが、利用意向は、車いす福祉タクシーが最も高く約 3 割、家具転倒防止器具の取付や寝具乾燥サービス、訪問理髪サービス、日常生活用具給付、おむつ助成などは 2 割以上の利用意向がある。

利用意向を適切なサービスにつなぐ情報提供、身近な相談・適切な助言などの支援が望まれる。併せて、真に必要な保健福祉サービスのあり方を検証していく必要がある。

② 重度要介護者への支援

サービス未利用者の 1 割は要介護 3 以上の重度要介護者であり、介護方法についてたずねたところ、「家族が全て介護している」か「現在入院中」の回答が多かった（問 7）。

介護保険サービスの利用意向をたずねたところ、「利用したい」が 5～6 割あり、また、「分からない」の回答も 1～3 割ある（問 8）。当事者と介護者が制度の理解を深め、介護保険サービスや保健福祉サービスのできるよう、分かりやすい情報提供、身近な相談・適切な助言などの支援を行い、サービスにつなげていくことが求められる。

(5) 高齢者調査全体

① 介護者の負担軽減

主な介護者の年齢をたずねたところ、65歳以上の高齢者が、居宅利用者と未利用者では2割、施設利用者では3割弱であることから、老々介護が2～3割を占めていると推察される。

介護者に介護の問題をたずねたところ、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」、「介護がいつまで続くか分からない」、「肉体的に疲れる」、「経済的な負担がかさむ」が上位にあげられている（居宅サービス利用者：問28、施設サービス利用者：問23、サービス未利用者：問22）。また、自由記述の市への要望や介護者の意見をみると、介護者の負担は、認知症高齢者の介護、年金生活での経済的負担によるサービス利用の抑制、遠距離介護、呼び寄せ介護など、非常に多様で重いことが示されている（居宅サービス利用者：問34、施設サービス利用者：問28、サービス未利用者：問34）。

介護者の負担を軽減するため、情報提供、身近な相談と適切な助言の体制を一層充実させるとともに、介護者の交流や介護者教室などの開催、地域ぐるみの見守りと支えあいをさらに充実させることが望まれる。

② 災害時の要援護者対策

災害時に避難を助けたり、避難状況を確認するため、住所・氏名・連絡先などを事前に市役所などに知らせておくことについてたずねたところ、「最低限の情報なら知らせてもよい」との回答が非常に多かった（高齢者一般調査：81.4%、居宅サービス利用者：74.1%、サービス未利用者：69.0%）。

阪神・淡路大震災など、先の事例では、要介護、ひとり暮らし、日中ひとりなどの要援護の高齢者の多くは、大震災等の災害時に一人で避難することが難しい状況が明らかにされており、災害時の要援護者対策は大きな課題である。しかし、個人情報保護の問題から対応がなかなか進まない状況となっている。

アンケート調査の結果をふまえ、災害時の要援護者対策を関係機関と協力しながら構築していく必要がある。

2 事業者調査

(1) 居宅介護支援事業者調査

① 人材確保・育成に向けた取組み

市内で活動しているケアマネジャーは、事業者あたり在籍年数が平均 3.66 年である(問 4)。人材確保に向けた取組みは、現在・今後とも「求人広告の掲載」がもっとも多いが、「研修会への参加支援」、「資格取得の支援」、「中途採用枠の拡大」が上位 4 位である(問 10)。また、市に対しては「介護保険に関する情報提供、研修の実施」が最も多く(問 21)、人材確保・育成へ向けた支援が望まれる。

② 困難な方へのケアプラン作成支援

困難な方へのケアプラン作成のケースは、「ケアプランの内容について本人と家族からの理解が得られないケース」が最も多く、「ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース」、「認知症高齢者のケース」が続く(問 13)。相談先としては、「在宅介護支援センターに相談した」が最も多く、「地域包括支援センターに相談した」が続いている(問 14)。利用者に適切なサービスが提供できるよう、困難ケースのケアプラン作成に向けたレベルアップ研修や指導を充実する支援が望まれる。

(2) 予防・居宅介護サービス提供事業者及び施設サービス提供事業者調査

① 人材確保に向けた職場環境の整備支援

職員の在職年数を職種別でみると、「社会福祉士」は約 4 年ともっとも長く、「看護師」の約 1.7 倍であった。事業者別でみると、施設では、看護師は「2～3 年未満」と短く、社会福祉士は「5 年以上」が一番長い。予防・居宅介護サービス提供事業者はヘルパー「2～3 年未満」、介護福祉士「1～2 年未満」の割合が高い。離職状況を見ると、退職も転職も介護福祉士が多く、一番少ない社会福祉士の約 9 倍となっている。離職の理由は、「人間関係」が最も多く「給与・賃金」が続く(問 5)。人材確保に向けた職場環境の整備が求められる。

人材確保に向けた取組みは、現在・今後とも「求人広告の掲載」、「研修会への参加支援」、「資格取得の支援」があり、今後の取組みの上位 4 位に「賃金面の充実」がある(問 14)。人材確保・育成に向け、コミュニケーションを促す職場環境の整備に向けた支援や、研修会・講習会への参加支援が一層望まれる。

② 在宅サービスの充実に向けた対策

介護予防プラン作成事業への参入意向は、4事業所から寄せられた。不参加の理由は「採算があわない」、「人材不足」をあげている（問10）。地域密着型事業への参入意向は、「夜間対応型訪問介護」1事業所、「認知症対応型共同生活介護」2事業所であり、不参加の理由の第1位は「人材の不足」である。また、参入条件の第1位は「財政面の公的な支援」、次は「場の提供」である（問11）。介護予防プラン作成事業および地域密着型事業への参入意向は低いが、今後は、在宅ケアの推進のため、地域密着型サービスの充実に向けた対策が必要である。

（3）事業者調査全体

① 保健福祉サービスの更なる充実

介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこととして、「介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること」が最も多くあげられている（問17）。制度改正により、介護保険サービスの利用が制限されている現状をふまえ、保険サービスを補完する保健福祉サービスの取組みと併せて、真に必要な保健福祉サービスのあり方を検証していく必要がある。

② 事業者に対する制度や運営に関する情報提供・周知・啓発

事業者として市に望む上位3位は、「介護保険に関する情報提供、研修の実施」、「制度運営における保険者判断部分の周知」、「利用者への適正なサービス利用の啓発」である（問21）。制度や、運営に関する情報提供・周知・啓発が一層求められている。

第3章 各調査の結果

<図表のみかた>

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN（Number of case）、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合（例えば99.9%、100.1%）があります。
- 3 年代別、要介護度別などは、未回答の方がいたため、合計が全体とは一致しません。
- 4 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%にならないことがあります。
- 5 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。

I 高齢者調査

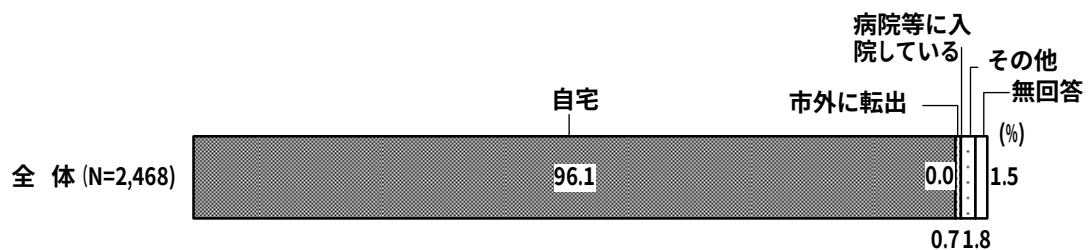
1 高齢者一般調査

(1) 基本属性

① 居住場所 (F 1)

居住場所は、「自宅 (96.1%)」が最も多く、「その他 (1.8%)」が続いている (図表 1 - 1 - 1)。

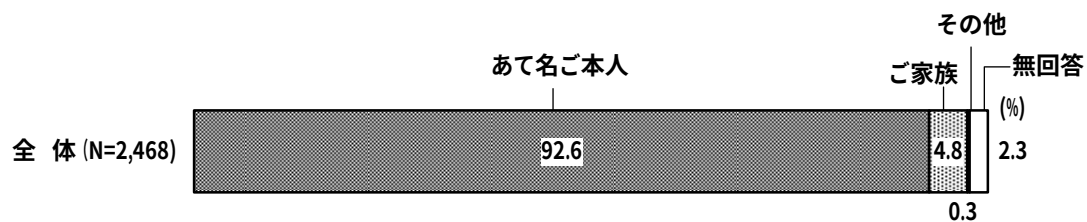
図表 1 - 1 - 1 居住場所 (全体)



② 記入者 (F 2)

調査票の記入者は、「あて名ご本人 (92.6%)」が最も多く、「ご家族 (4.8%)」が続いている (図表 1 - 1 - 2)。

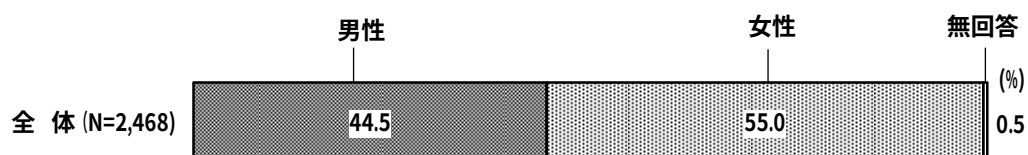
図表 1 - 1 - 2 記入者 (全体)



③ 性別 (F 3)

性別は、「男性 (44.5%)」、「女性 (55.0%)」で女性が約 1 割多い (図表 1 - 1 - 3)。

図表 1 - 1 - 3 性別 (全体)

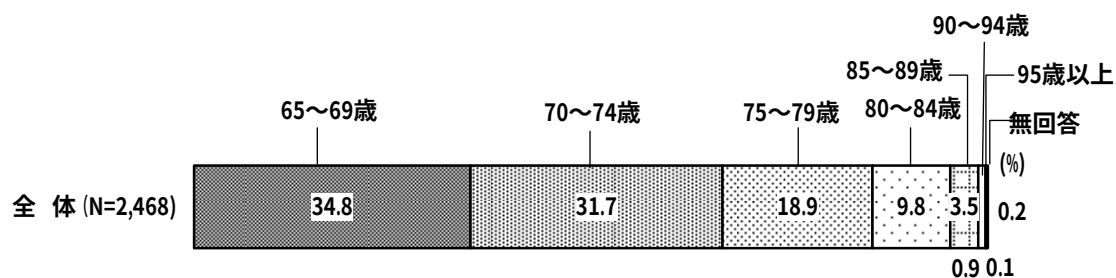


④ 年齢（F 4）

年齢は、「65～69歳（34.8%）」が最も多く、「70～74歳（31.7%）」、「75～79歳（18.9%）」が続いている。

前期高齢者（65～74歳）は66.5%、後期高齢者（75歳以上）は33.2%で前期高齢者が多い（図表1－1－4）。

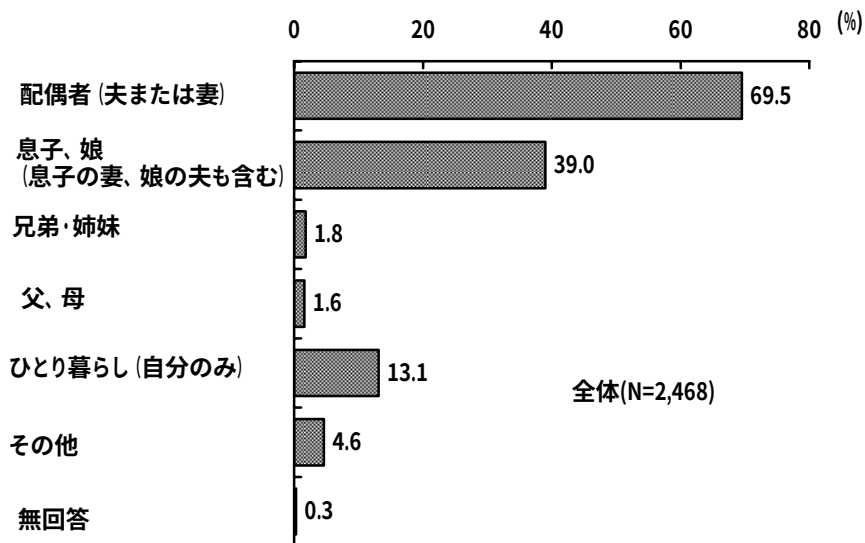
図表1－1－4 年齢（全体）



⑤ 家族構成（F 5）

同居家族は、「配偶者（夫または妻）（69.5%）」が最も多く、「息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む）（39.0%）」、「ひとり暮らし（自分のみ）（13.1%）」が続いている（図表1－1－5）。

図表1－1－5 家族構成（全体：複数回答）



⑥ 同居者の年齢 (F 5-1)

「ひとり暮らし（自分のみ）」以外で同居家族がいる場合の同居者の年齢は、「64歳以下の同居者がいる（40.9%）」と「同居者全員が65歳以上（40.7%）」がほぼ半々である（図表1-1-6）。

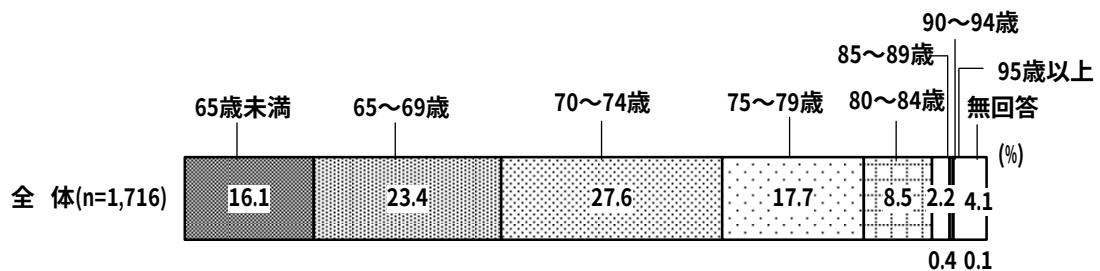
図表1-1-6 同居者の年齢
＜同居者がいると回答した人＞（全体）



⑦ 配偶者の年齢 (F 5-2)

「配偶者（夫または妻）」がいる場合、配偶者の年齢は、「70～74歳（27.6%）」が最も多く、「65～69歳（23.4%）」、「75～79歳（17.7%）」が続いている（図表1-1-7）。

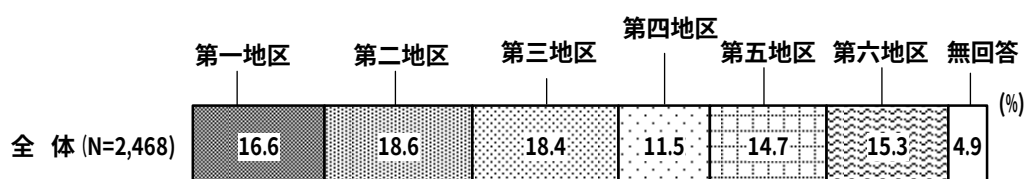
図表1-1-7 配偶者の年齢
＜配偶者がいると回答した人＞（全体）



⑧ 居住地域 (F 6)

居住地域は、「第二地区（18.6%）」、「第三地区（18.4%）」、「第一地区（16.6%）」の順に多くなっている（図表1-1-8）。

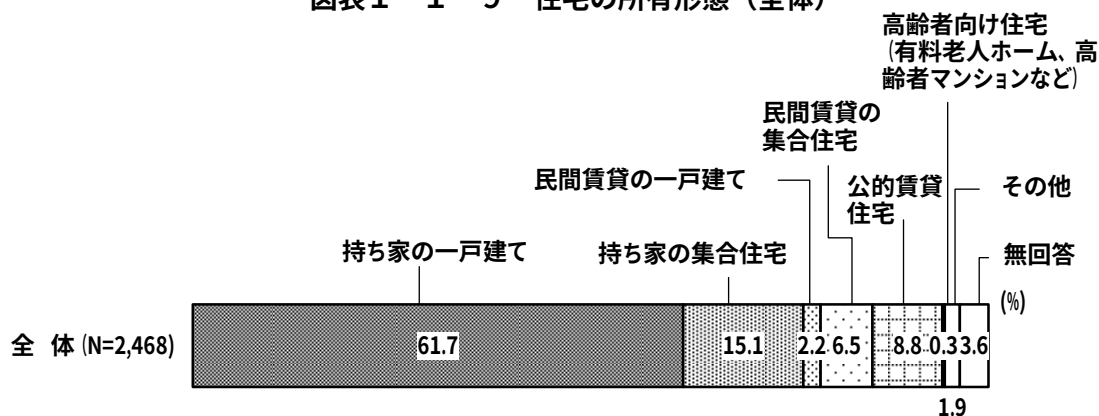
図表1-1-8 居住地域（全体）



⑨ 住宅の所有形態（F 7）

居住形態は、「持ち家の一戸建て（61.7%）」が最も多く、「持ち家の集合住宅（15.1%）」、「公的賃貸住宅（8.8%）」が続いている（図表1－1－9）。

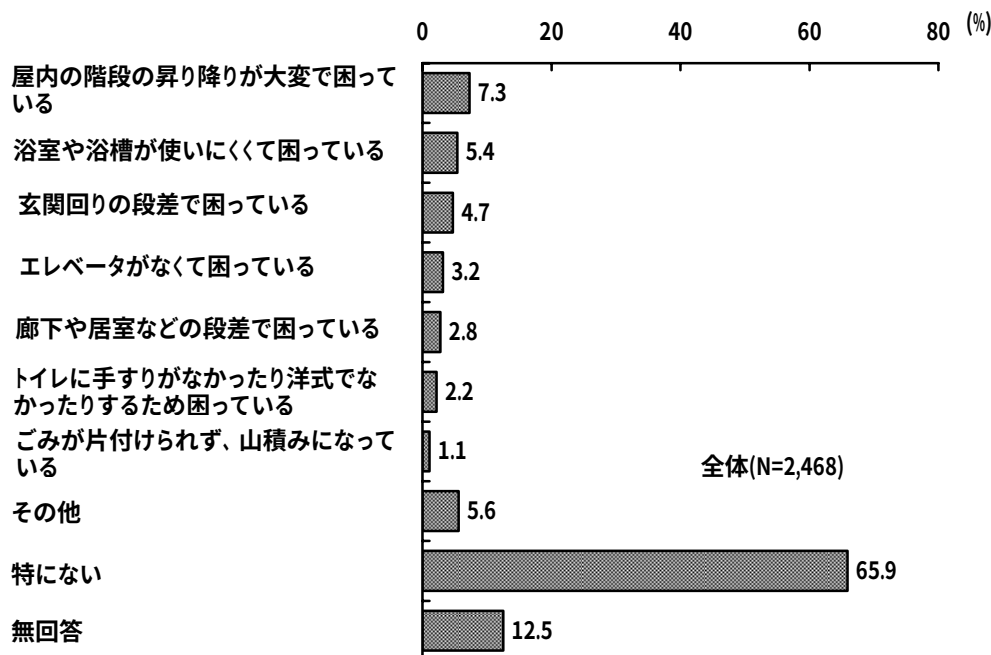
図表1－1－9 住宅の所有形態（全体）



⑩ 住宅の問題点（F 7－1）

住宅の問題点は、「特にない（65.9%）」が最も多い。それ以外をみると割合は少ないが「屋内の階段の昇り降りが大変で困っている（7.3%）」、「浴室や浴槽が使いにくくて困っている（5.4%）」などがあげられている（図表1－1－10）。

図表1－1－10 住宅の問題点（全体：複数回答）



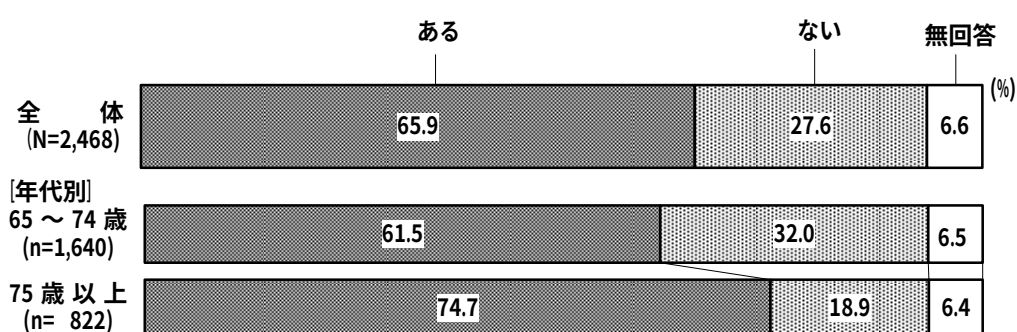
(2) 健康状態と介護予防

① 治療中の病気の有無（問 1）

現在治療中の病気は、「ある（65.9%）」が6割強である。

年代別にみると、65～74歳では61.5%、75歳以上では74.7%が「ある」と回答し、年代があがると受診率が高くなっている（図表1-2-1）。

図表1-2-1 治療中の病気の有無（全体、年代別）

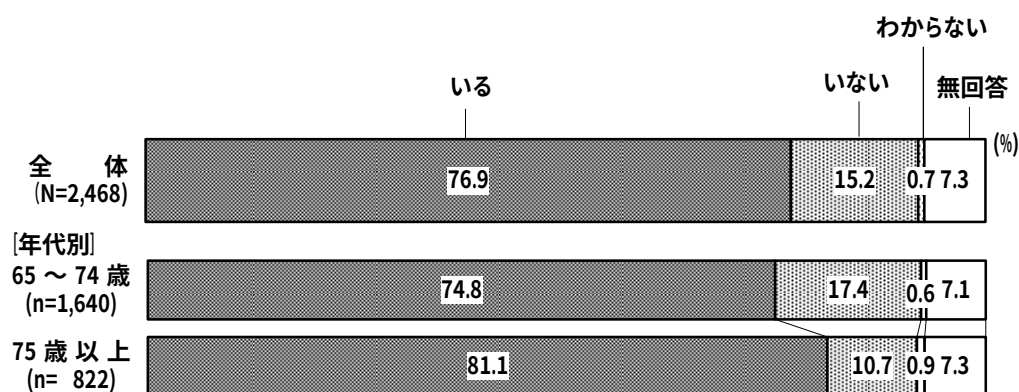


② かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無（問 2）

かかりつけ医は、「いる（76.9%）」が7割強である。

年代別にみると、65～74歳では74.8%、75歳以上では81.1%が「いる」と回答し、年齢があがるとかかりつけ医の「いる」割合が高くなる（図表1-2-2-①）。

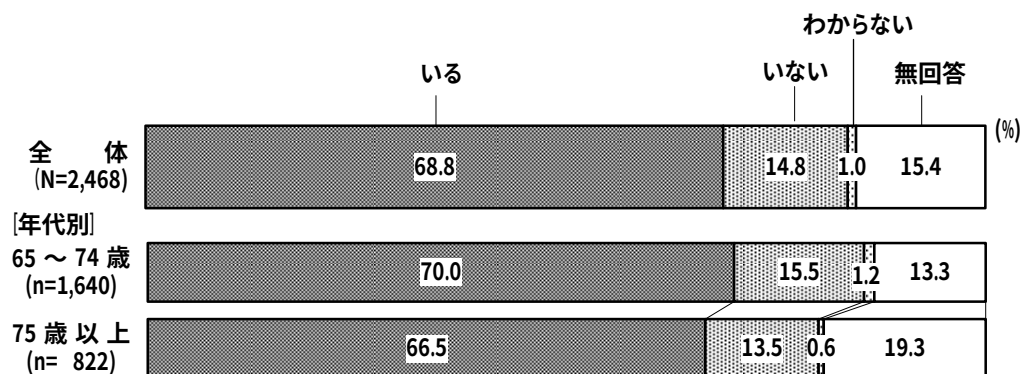
図表1-2-2-① かかりつけ医の有無（全体、年代別）



かかりつけ歯科医は、「いる（68.8%）」が6割強である。

年代別にみると、65～74歳では70.0%、75歳以上では66.5%が「いる」と回答し、年齢があがるとかかりつけ歯科医の「いる」割合が若干低くなる（図表1-2-2-②）。

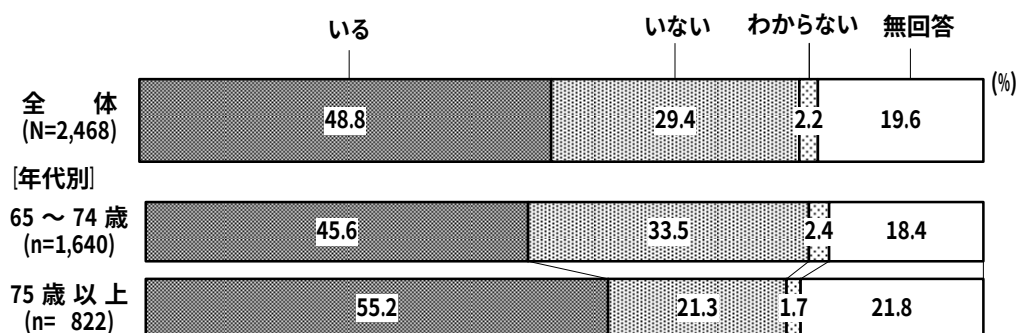
図表1-2-2-② かかりつけ歯科医の有無（全体、年代別）



かかりつけ薬局は、「いる（48.8%）」が5割弱である。

年代別にみると、65～74歳では45.6%、75歳以上では55.2%が「いる」と回答し、年齢があがるとかかりつけ薬局の「いる」割合が高くなる（図表1-2-2-③）。

図表1-2-2-③ かかりつけ薬局の有無（全体、年代別）

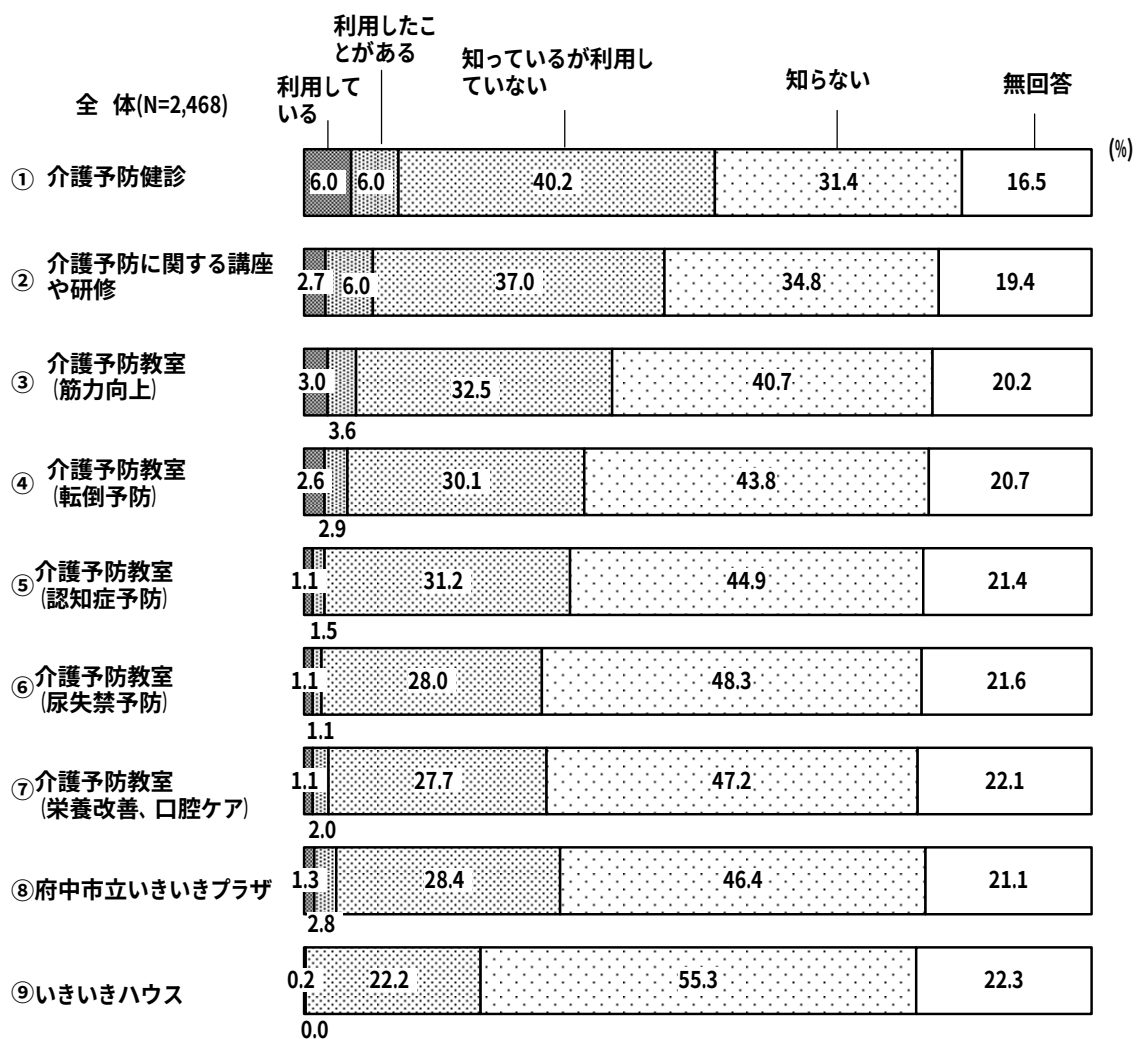


③ 介護予防事業の利用状況と利用意向（問3）

介護予防事業の利用状況は、『介護予防健診（6.0%）』が最も多く、『介護予防教室（筋力向上）（3.0%）』、『介護予防に関する講座や研修（2.7%）』が続いている。

認知状況をみると、認知度が高いサービスは（「利用している」、「利用したことがある」、「知っているが利用していない」の計）、『介護予防健診（52.2%）』、『介護予防に関する講座や研修（45.7%）』、『介護予防教室（筋力向上）（39.1%）』などである（図表1-2-3-①）。

図表1-2-3-① 介護予防事業の利用状況（全体）

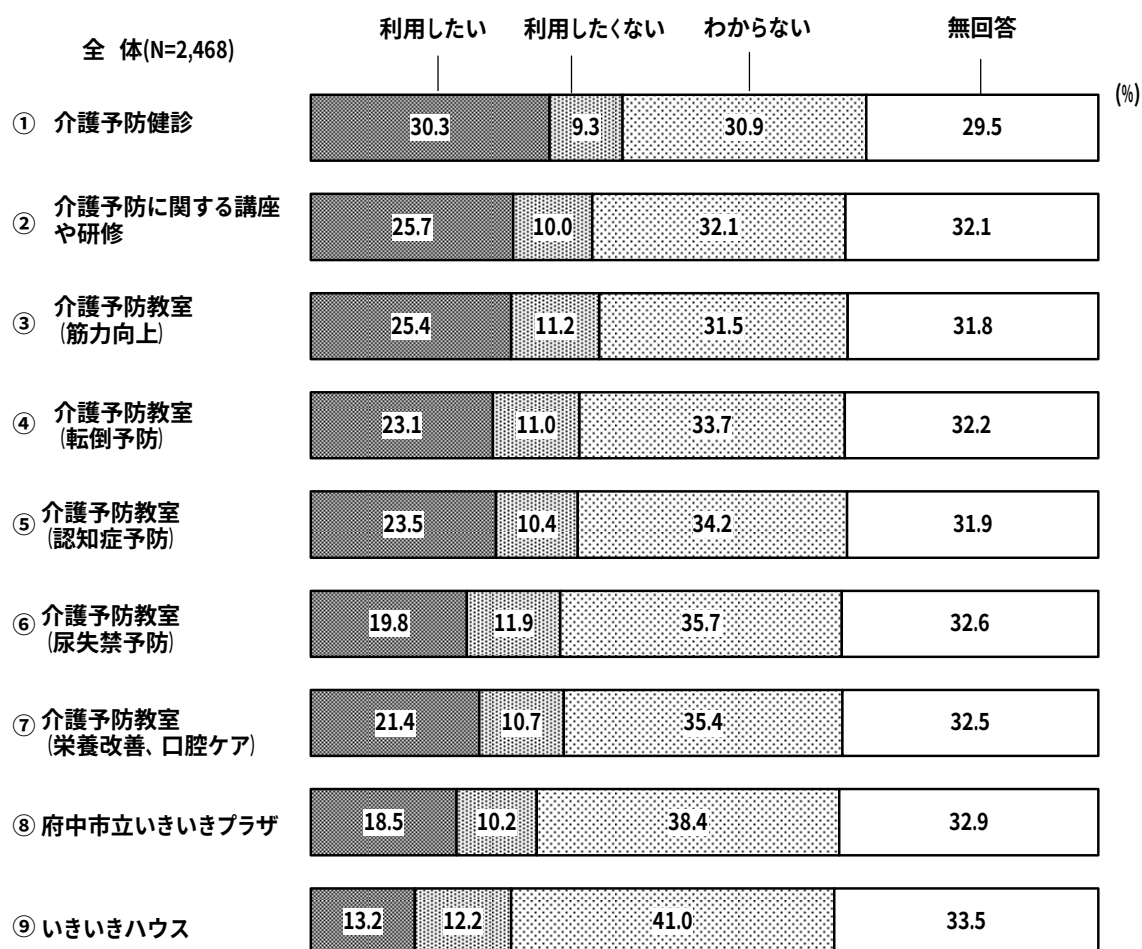


第3章 各調査の結果

利用意向をみると、「利用したいサービス」は、『介護予防健診(30.3%)』が最も多く、『介護予防に関する講座や研修(25.7%)』、『介護予防教室(筋力向上)(25.4%)』が続いている。

利用の多いサービス、認知度が高いサービス、利用意向が高いサービスの上位3項目はいずれも『介護予防健診』、『介護予防に関する講座や研修』、『介護予防教室(筋力向上)』となっている(図表1-2-3-②)。

図表1-2-3-② 介護予防事業の利用意向(全体)

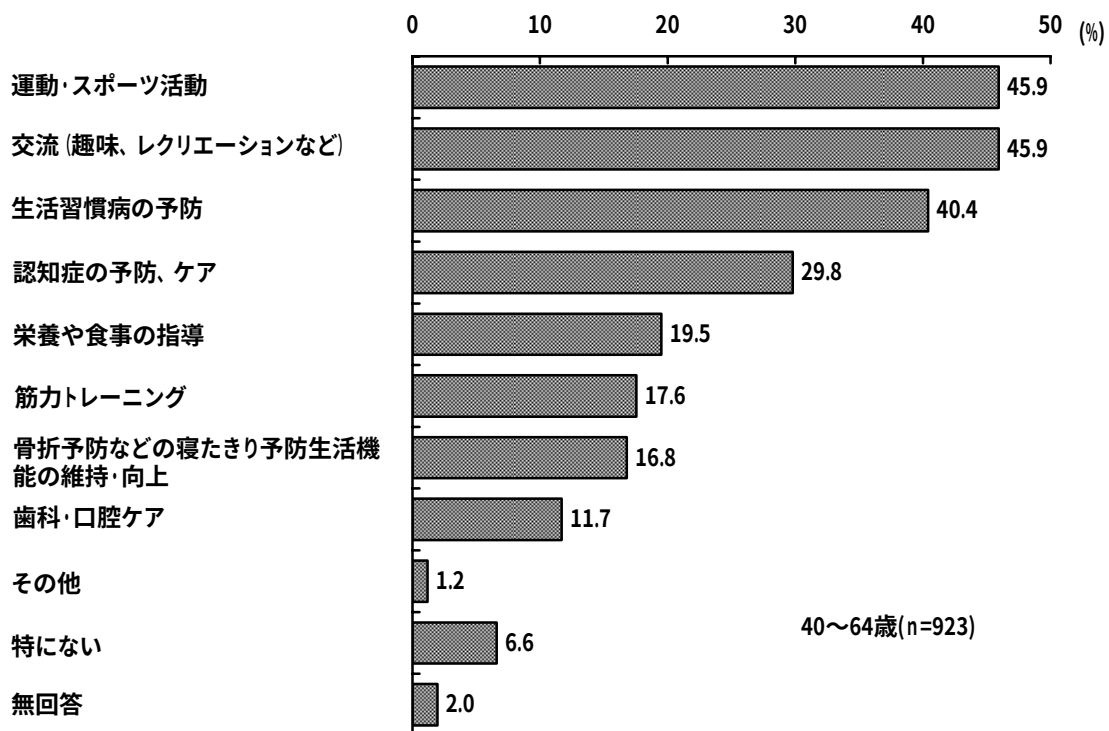


参考 《地域福祉調査の結果》

健康管理（介護予防）事業への参加希望

40～64 歳の方が、参加を希望する健康管理（介護予防）事業は、「運動・スポーツ活動（45.9%）」と「交流（趣味、レクリエーションなど）（45.9%）」が同じ割合で最も多く、「生活習慣病の予防（40.4%）」が続いている（図表 1 - 2 - 3 - ③）。

図表 1 - 2 - 3 - ③ 健康管理（介護予防）事業への参加希望
(40～64 歳：複数回答（3 つまで）)

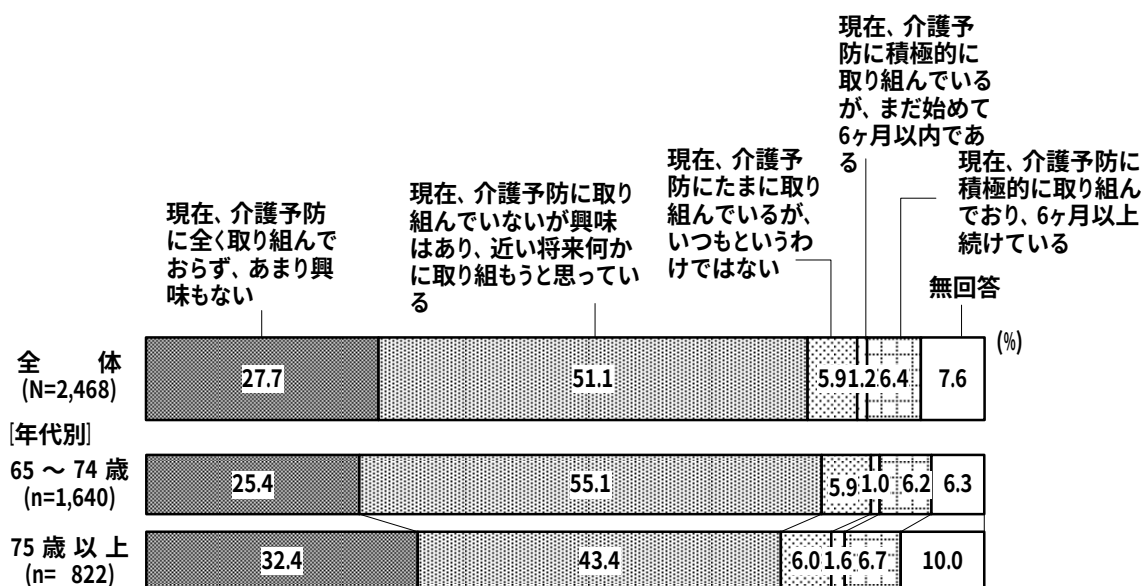


④ 介護予防に対する考え方や実際の行動（問4）

介護予防に対する考え方や実際の行動は、「現在、介護予防に取り組んでいないが興味はあり、近い将来何かに取り組もうと思っている（51.1%）」が最も多い。

年代別にみると、65～74歳では「現在、介護予防に取り組んでいないが興味はあり、近い将来何かに取り組もうと思っている」が5割を超える。しかし75歳以上になるとこの割合は4割台に落ち、逆に「現在、介護予防に全く取り組んでおらず、あまり興味もない」が3割を超える。年代があがると介護予防に対する興味や意欲が薄れる（図表1－2－4）。

図表1－2－4 介護予防に対する考え方や実際の行動（全体、年代別）



⑤ 健康づくりのために実行していること（問5）

健康づくりのために実行していることについて、自由記述形式でたずねた。

大きく、運動、生活、仕事、地域活動・ボランティア活動、趣味の5つに分類した。主な内容は次のとおりであるが、一人でいくつもの活動をあげている人が目立った。

<運動>

- ・ ウォーキングや散歩など「歩くこと」についての回答が特に多い。
- ・ ラジオ体操、ストレッチ、ヨガなどの「体操」についての回答も多い。
- ・ 運動の内容を特定せずに「運動」と回答しているものもある。
- ・ その他、「自転車やサイクリング」、「ジョギング」、「水泳」、「ハイキング」、「ゴルフ」、「テニス」、「卓球」、「ダンス」、「筋トレ」などがあげられている。
- ・ 「スポーツジム」や「老人クラブでの運動、行事」、「府中市の教室」など、施設を回答しているものもある。

<生活>

- ・ 一日三食食べることや栄養バランスなど「食生活」についての回答が多いほか、早寝早起きなどの「規則正しい生活」があげられている。
- ・ 「毎日家事をすること」といった回答もある。
- ・ 体重チェックや定期的にかかりつけ医に受診するなどの「健康管理」についてもあげられている。
- ・ 「禁煙」の回答もある。

<仕事>

- ・ 「現役で働くこと」があげられている。
- ・ 野菜づくりなどの「農作業」といった回答もある。

<地域活動・ボランティア活動>

- ・ 「ボランティア活動」や「近隣の清掃」などがあげられている。

<趣味>

- ・ 「旅行」、「カラオケ」、「絵画」などのほか、ゲームやパズルを使って「脳を鍛えること」、「美術館、音楽会で精神を鍛えること」といったことがあげられている。
- ・ 「カルチャー教室」や「サークル活動」といった施設を回答しているものもある。

(3) 地域生活と日ごろの活動

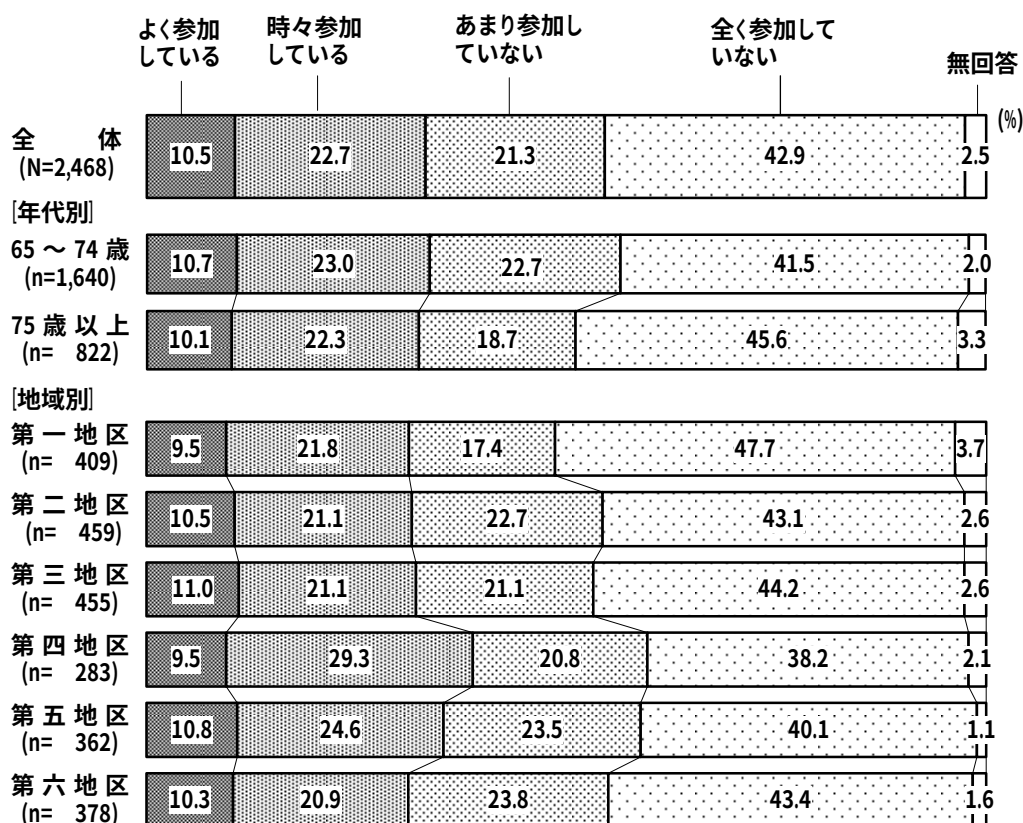
① 地域活動への参加程度（問6）

地域活動やボランティア活動、地域行事への参加は、「よく参加している（10.5%）」と「時々参加している（22.7%）」をあわせ 33.2%が『参加している』。「全く参加していない（42.9%）」と「あまり参加していない（21.3%）」とあわせると 64.2%が『参加していない』。

年代別にみると、65～74 歳では 33.7%、75 歳以上では 32.4%が『参加している』とし、年代による違いはみられない。

地域別にみると、第一地区では「全く参加していない」が 47.7%でやや高い。第四地区では『参加している』が 38.8%でやや高い（図表 1－3－1）。

図表 1－3－1 地域活動への参加程度
（全体、年代別、地域別）



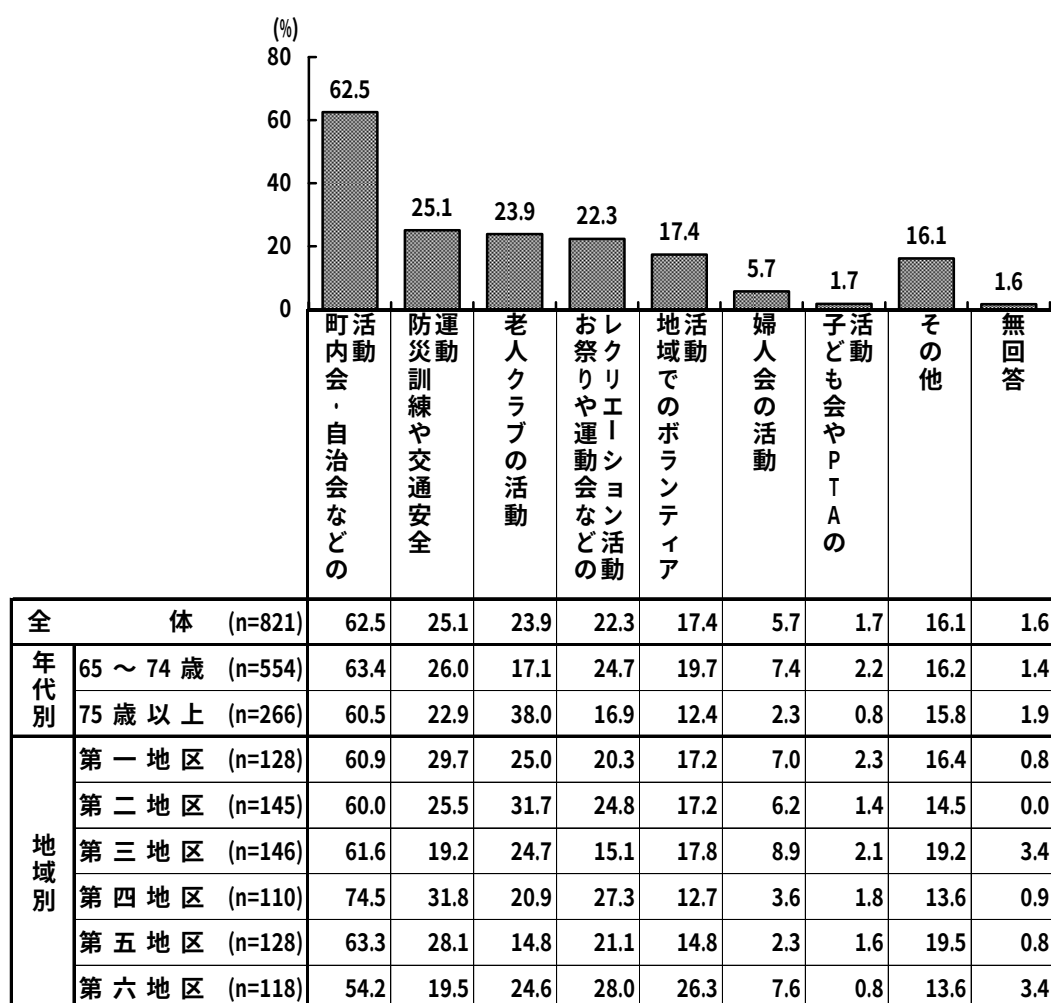
② 参加している地域活動の種類（問6-1）

地域活動やボランティア活動、地域行事に「よく参加している（10.5%）」、「時々参加している（22.7%）」と回答した人に活動の種類をたずねた。活動内容は、「町内会・自治会などの活動（62.5%）」が最も多く、「防災訓練や交通安全運動（25.1%）」、「老人クラブの活動（23.9%）」が続いている。

年代別にみると、65～74歳では、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動（24.7%）」がやや高い。75歳以上では、「老人クラブの活動（38.0%）」が高い。

地域別にみると、第二地区では「老人クラブの活動（31.7%）」がやや高く、第四地区では「町内会・自治会などの活動（74.5%）」や「防災訓練や交通安全運動（31.8%）」が高い。第五地区では「老人クラブの活動（14.8%）」が1割台にとどまる。第六地区では「町内会・自治会などの活動（54.2%）」が低い、「地域でのボランティア活動（26.3%）」がやや高い（図表1-3-2）。

図表1-3-2 参加している地域活動の種類
 <地域活動やボランティア活動、地域行事に参加していると回答した人>
 （全体、年代別、地域別：複数回答）



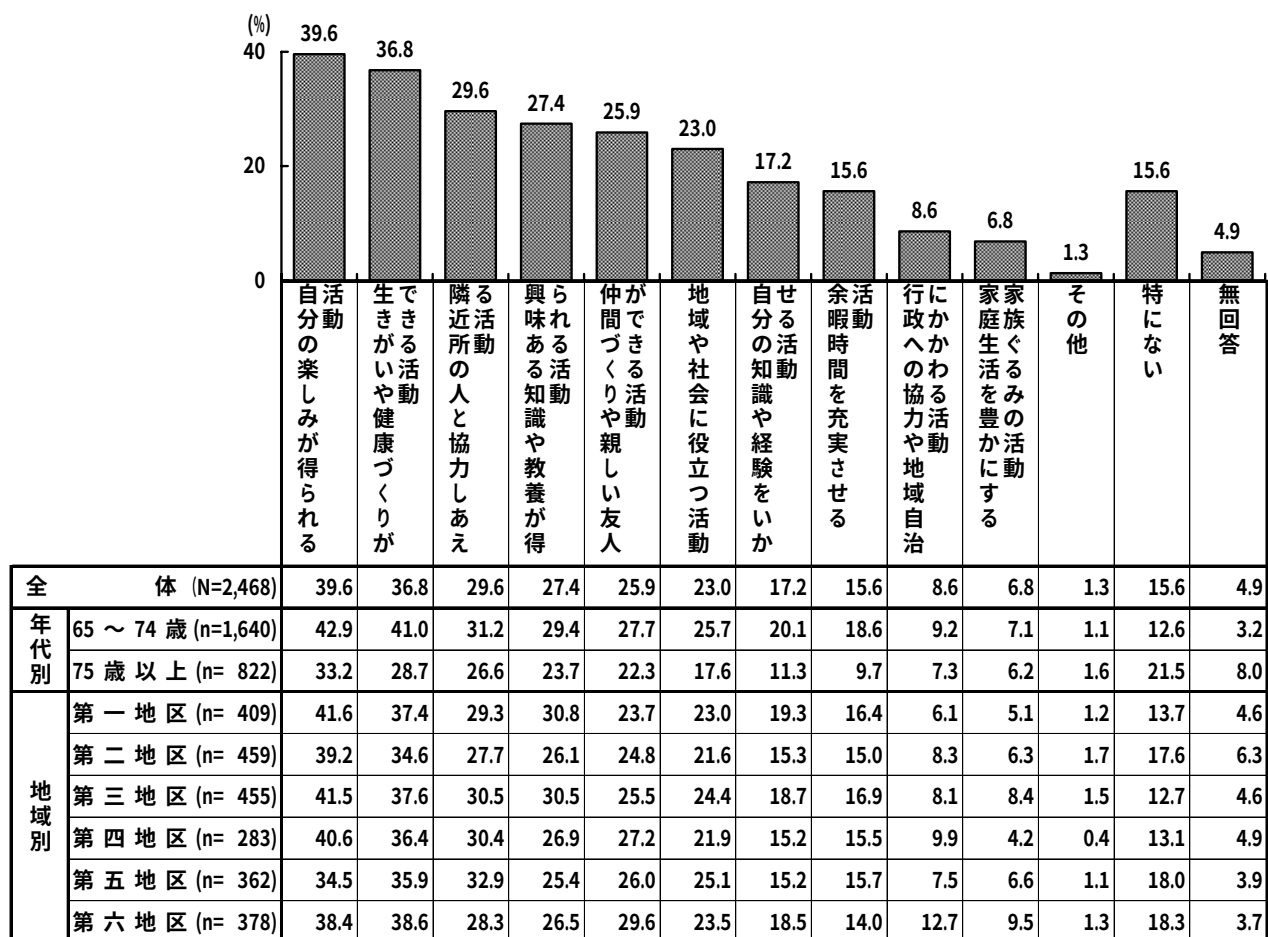
③ 今後参加したい地域活動（問7）

今後参加したい地域活動の種類は、「自分の楽しみが得られる活動(39.6%)」が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動(36.8%)」、「隣近所の人と協力しあえる活動(29.6%)」が続いている。

年代別にみると、65～74歳、75歳以上ともに全体と同様の傾向である。いずれの活動も65～74歳では全体を上回るが、75歳以上では下回り、「特にない(21.5%)」が2割を超えることから、年代があがると今後の参加意欲は低くなる。

地域別にみると、いずれの地域も「自分の楽しみが得られる活動」と「生きがいや健康づくりができる活動」が上位である。第六地域では「行政への協力や地域自治にかかわる活動(12.7%)」が1割を超える(図表1-3-3)。

図表1-3-3 今後参加したい地域活動（全体、年代別、地域別：複数回答）



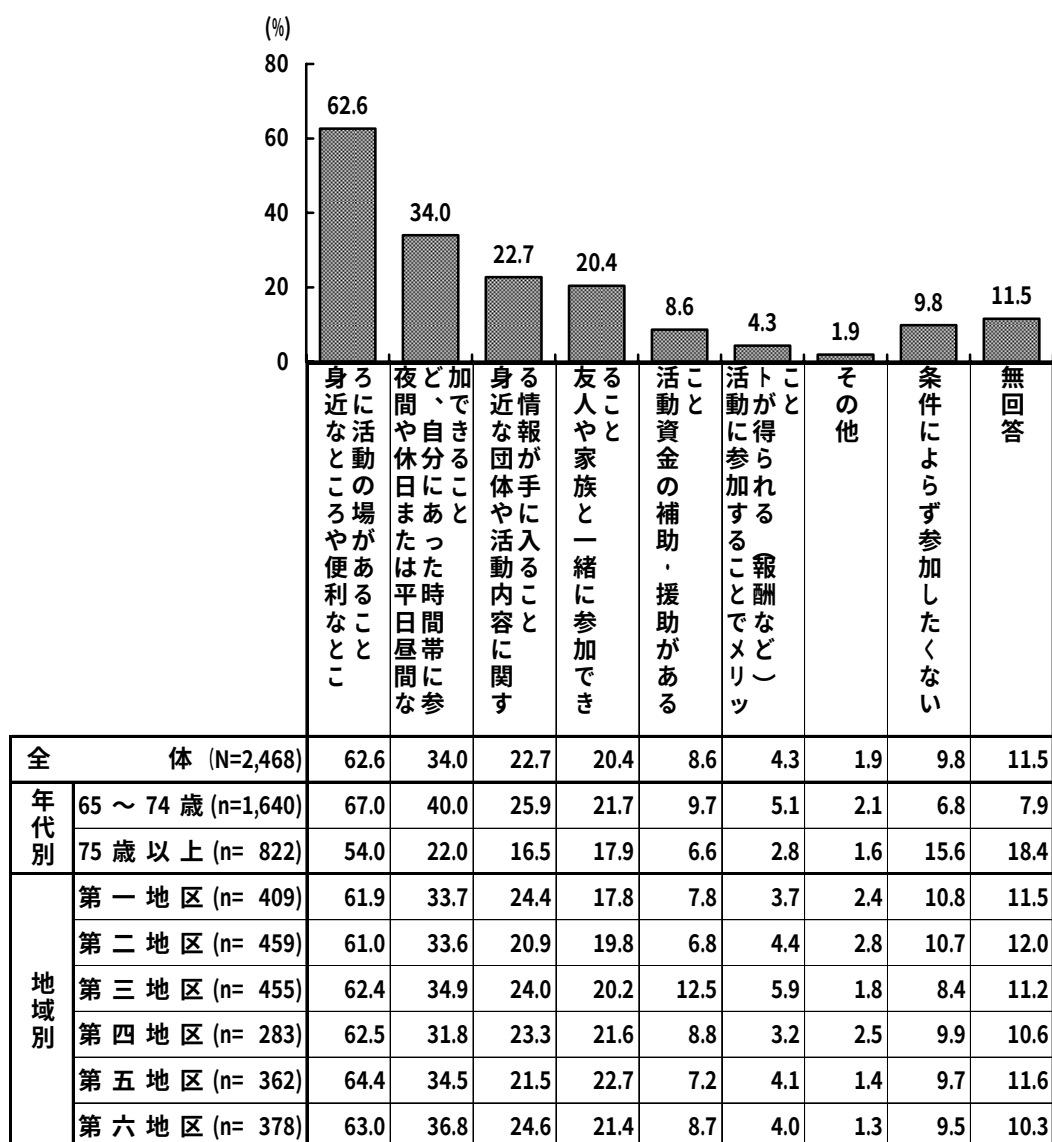
④ 地域の活動を行う上で必要な環境・条件（問8）

地域で活動する場合、必要な環境や条件は、「身近なところや便利なところに活動の場があること（62.6%）」が最も多く、「夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること（34.0%）」、「身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること（22.7%）」が続いている。

年代別にみると、65～74歳では「夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること（40.0%）」が4割で高い。75歳以上では「条件によらず参加したくない（15.6%）」が1割を超える。

地域による大きな違いはみられないが、第三地区では「活動資金の補助・援助があること（12.5%）」が1割を超える（図表1-3-4-①）。

図表1-3-4-① 地域の活動を行う上で必要な環境・条件
（全体、年代別、地域別：複数回答）

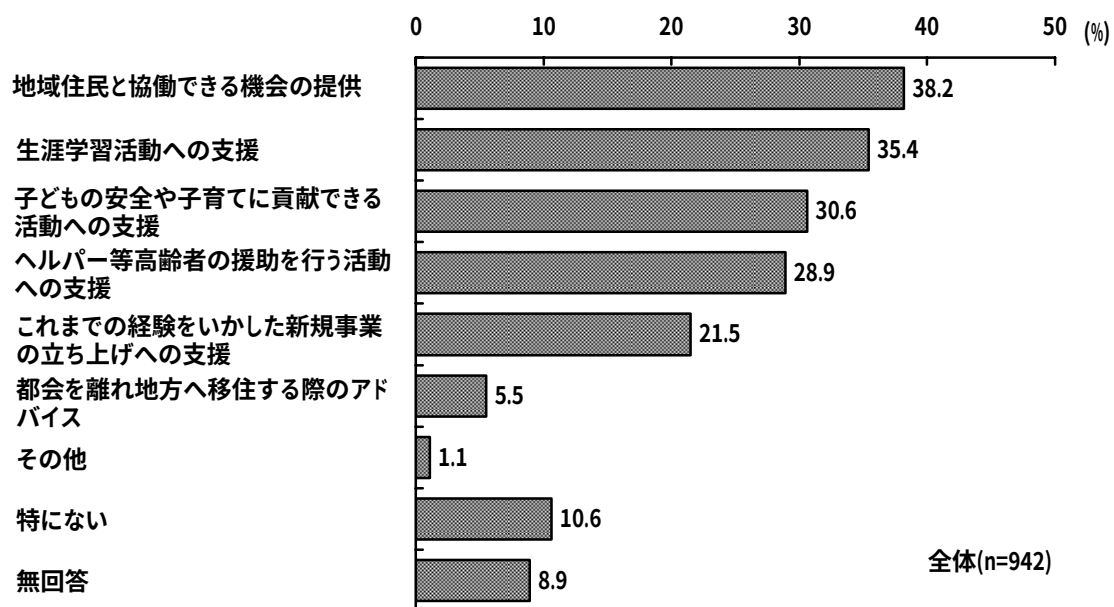


参考 《地域福祉調査の結果》

定年退職後の地域活動支援への要望

40 歳以上の人に、定年退職後の地域活動支援への要望をたずねた。定年退職後の地域活動支援への要望は、「地域住民と協働できる機会の提供（38.2%）」が最も多く、「生涯学習活動への支援（35.4%）」、「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援（30.6%）」が続いている（図表 1－3－4－②）。

図表 1－3－4－② 定年退職後の地域活動支援への要望
＜40 歳以上の人＞（全体：複数回答（3 つまで））

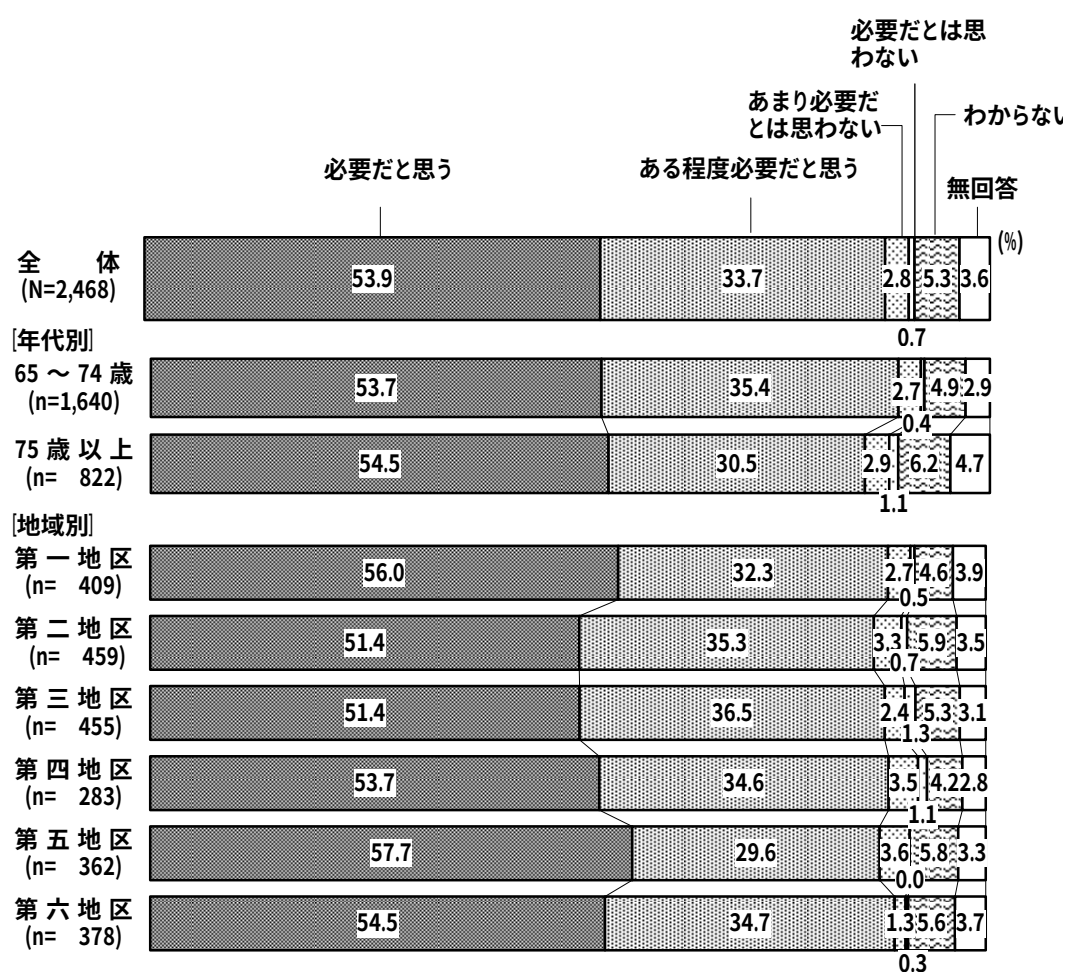


⑤ 地域住民の協力関係の必要性（問 9）

地域住民の協力関係の必要性は、「必要だと思う（53.9%）」が最も多く、続く「ある程度必要だと思う（33.7%）」とあわせて、9割弱が必要だとしている。

年代別にみると、必要だとしている割合は65～74歳は89.1%、75歳以上は85.0%である。
地域による大きな違いはみられない（図表1-3-5）。

図表1-3-5 地域住民の協力関係の必要性（全体、年代別、地域別：複数回答）



⑥ 地域住民の協力関係を築くために必要なこと（問9-1）

住民相互の協力関係について「必要だと思う(53.9%)」と「ある程度必要だと思う(33.7%)」と回答した人にその内容をたずねた。住民相互の協力関係を築くために必要なことは、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること(42.1%)」が最も多く、「町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること(40.8%)」、「地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること(34.8%)」が続いている。

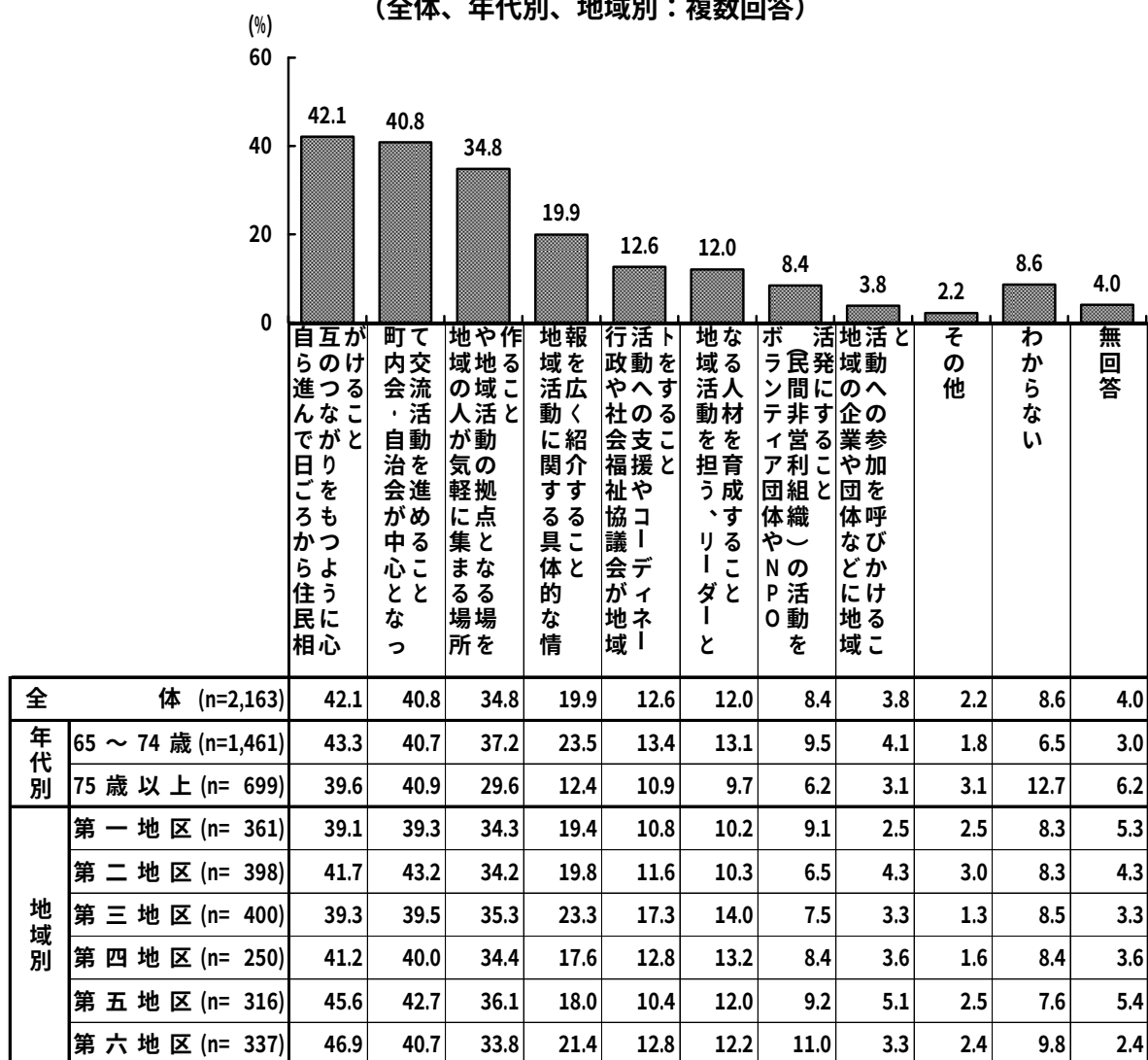
年代別にみると、65～74歳は全体と同様の傾向である。75歳以上は「町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること(40.9%)」が最も多い。

地域別にみると、第一、第二、第三地区では「町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること」が最も多く、第四、第五、第六地区では「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること」が最も多い（図表1-3-6）。

図表1-3-6 地域住民の協力関係を築くために必要なこと

<住民相互の協力関係について必要だと回答した人>

(全体、年代別、地域別：複数回答)

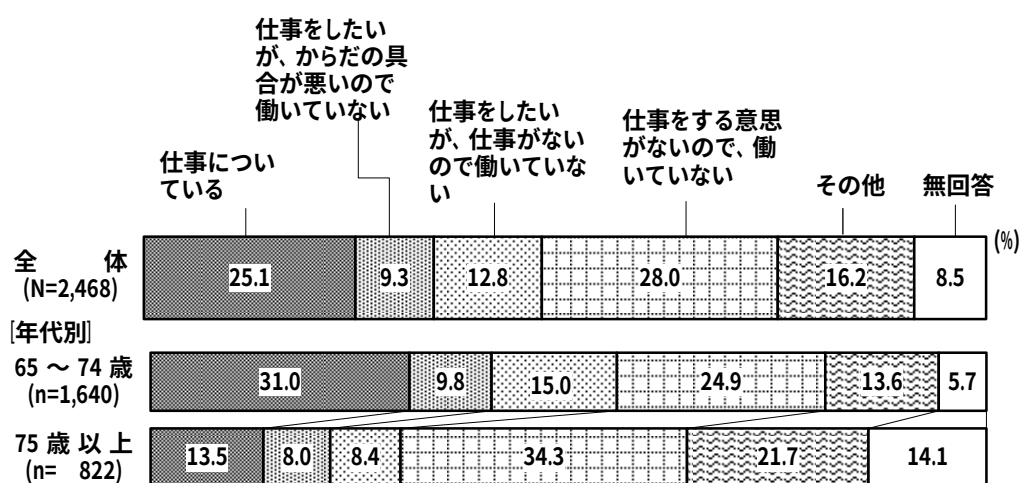


⑦ 就労状況（問 10）

現在、収入のある仕事についているかは、「仕事をする意思がないので、働いていない（28.0%）」が最も多く、「仕事についている（25.1%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳では「仕事についている（31.0%）」が最も多いが、75 歳以上では「仕事をする意思がないので、働いていない（34.3%）」が最も多い（図表 1－3－7）。

図表 1－3－7 就労状況（全体、年代別）



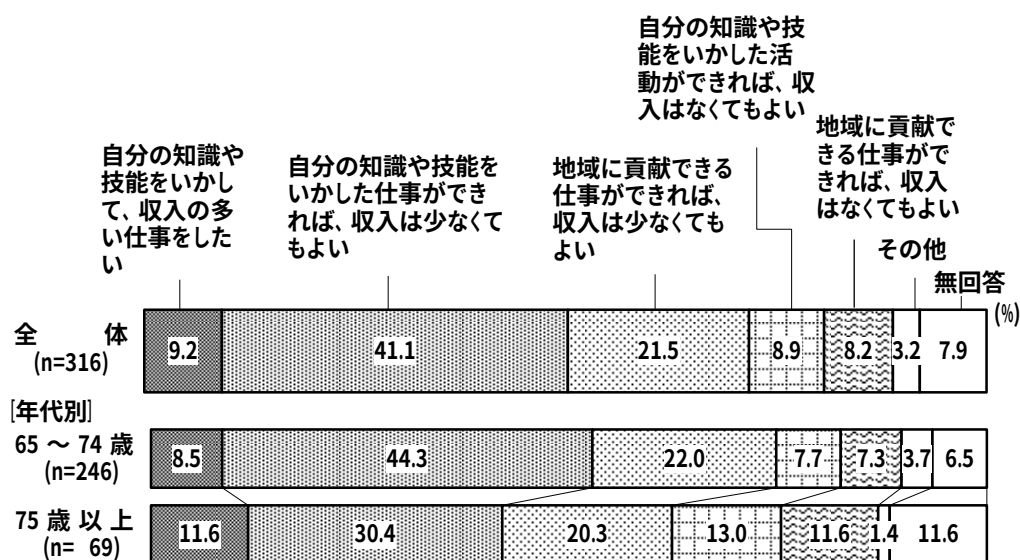
⑧ 望ましい働き方（問 10－1）

現在、収入のある仕事についているかについて「仕事をしたいが、仕事がないので働いていない（12.8%）」と回答した人にどのようなかたちで働きたいと考えているかをたずねた。望ましい働き方は、「自分の知識や技能をいかした仕事できれば、収入は少なくともよい（41.1%）」が最も多く、「地域に貢献できる仕事できれば、収入は少なくともよい（21.5%）」が続いており、両者をあわせて『収入は少なくともよい』が62.6%である。

年代別にみると、65～74歳、75歳以上ともに『収入は少なくともよい』が最も多い。しかし75歳以上では「自分の知識や技能をいかして、収入の多い仕事をしたい（11.6%）」が全体を上回る一方で、「自分の知識や技能をいかした活動ができれば、収入はなくてもよい（13.0%）」と「地域に貢献できる仕事できれば、収入はなくてもよい（11.6%）」の『収入はなくてもよい』が全体を上回る（図表1－3－8）。

図表1－3－8 望ましい働き方

<仕事をしたいが、仕事がないので働いていないと回答した人>（全体、年代別）

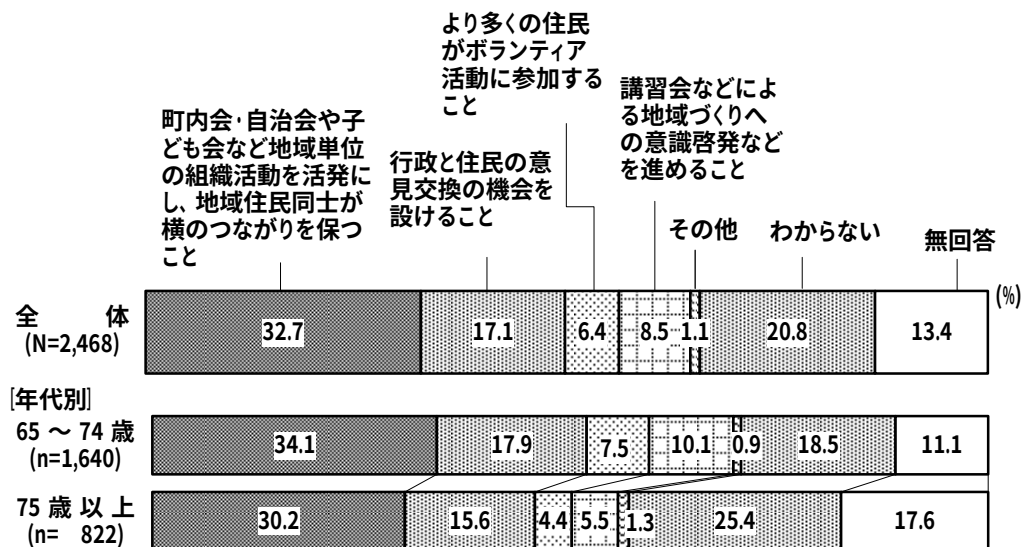


⑨ 地域福祉充実のために必要な住民参加の方法（問 11）

地域福祉が充実するために必要な住民参加の方法は、「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと（32.7%）」が最も多く、「行政と住民の意見交換の機会を設けること（17.1%）」が続いている。「わからない（20.8%）」も2割を超える。

年代別にみると、65～74歳、75歳以上ともに最も多いのは「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと」である。75歳以上では「わからない（25.4%）」が4分の1を占める（図表1-3-9）。

図表1-3-9 地域福祉充実のために必要な住民参加の方法（全体、年代別）



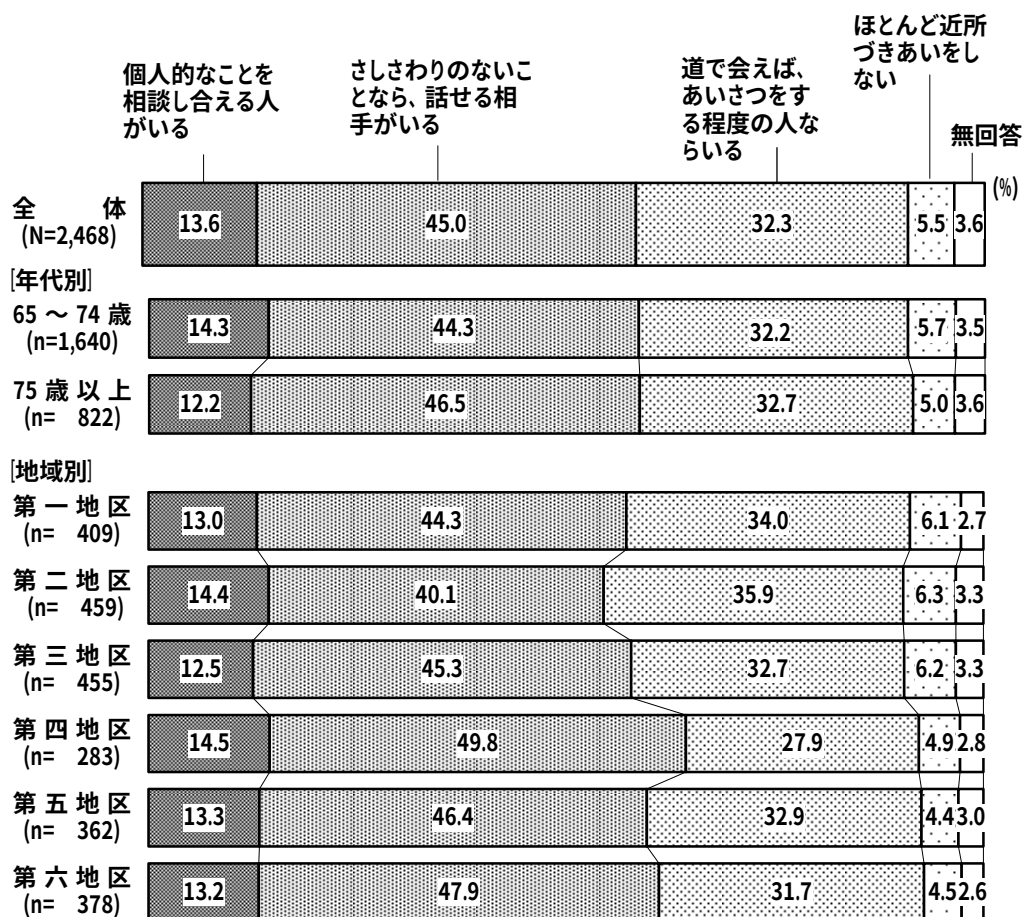
⑩ 近所づきあいの程度（問 12）

隣近所の人とのつきあいの程度は、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる（45.0%）」が最も多く、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる（32.3%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに全体と同様の傾向である。

地域別にみると、第四地区では、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる（49.8%）」の割合が全体に比べてやや高い（図表 1－3－10）。

図表 1－3－10 近所づきあいの程度（全体、年代別、地域別）



⑪ 近所づきあいのない理由（問 12-1）

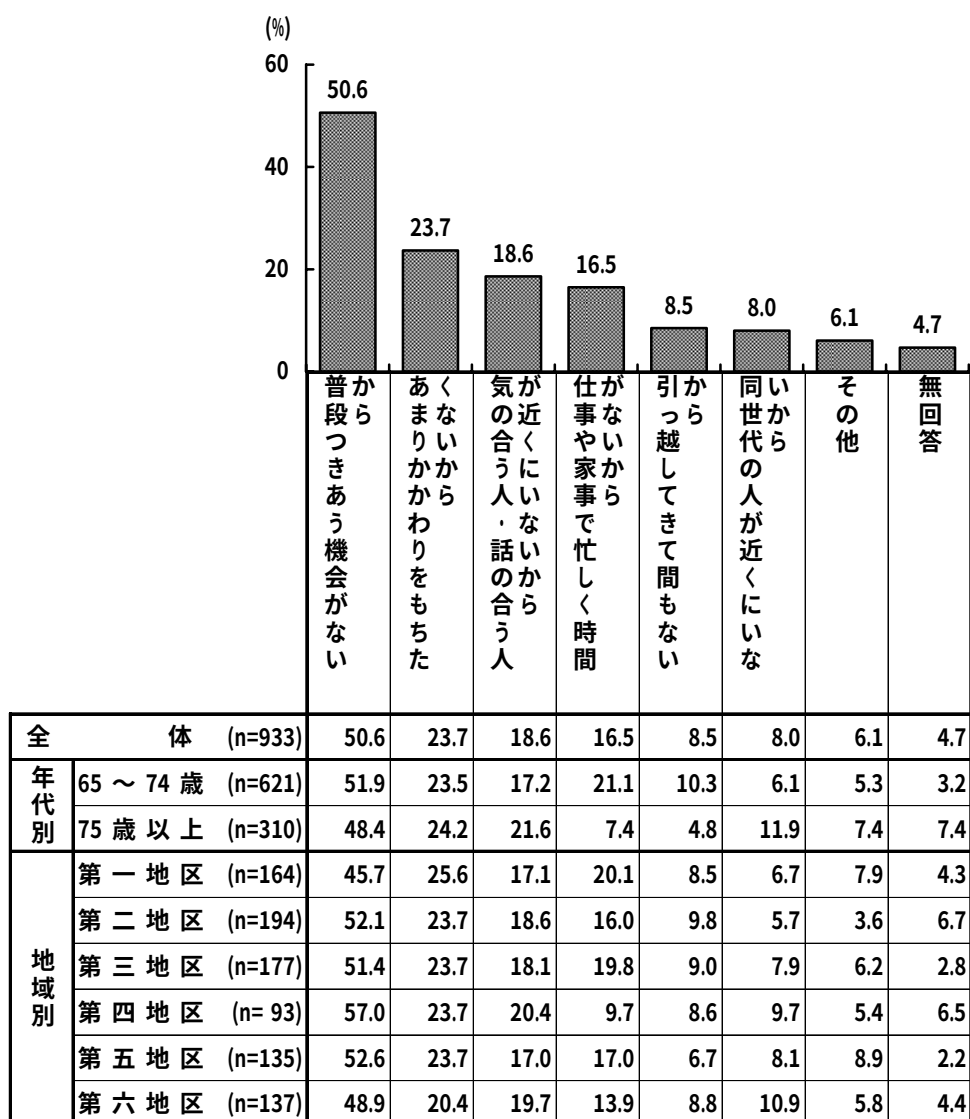
隣近所の人とのつきあいの程度について「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる（32.3%）」と「ほとんど近所づきあいをしない（5.5%）」と回答した人にその主な理由をたずねた。つきあいのない理由は、「普段つきあう機会がないから（50.6%）」が最も多く、「あまりかかわりをもちたくないから（23.7%）」、「気の合う人・話の合う人が近くにいないから（18.6%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳では「仕事や家事で忙しく時間がないから（21.1%）」が2割を超えて3位にあげられている。75 歳以上は全体と同じ傾向である。

地域別にみると、いずれの地域も上位2項目は全体と同様である。第四地区では「仕事や家事で忙しく時間がないから（9.7%）」が低い（図表1-3-11）。

図表1-3-11 近所づきあいのない理由

<近所づきあいがないと回答した人>（全体、年代別、地域別：複数回答）

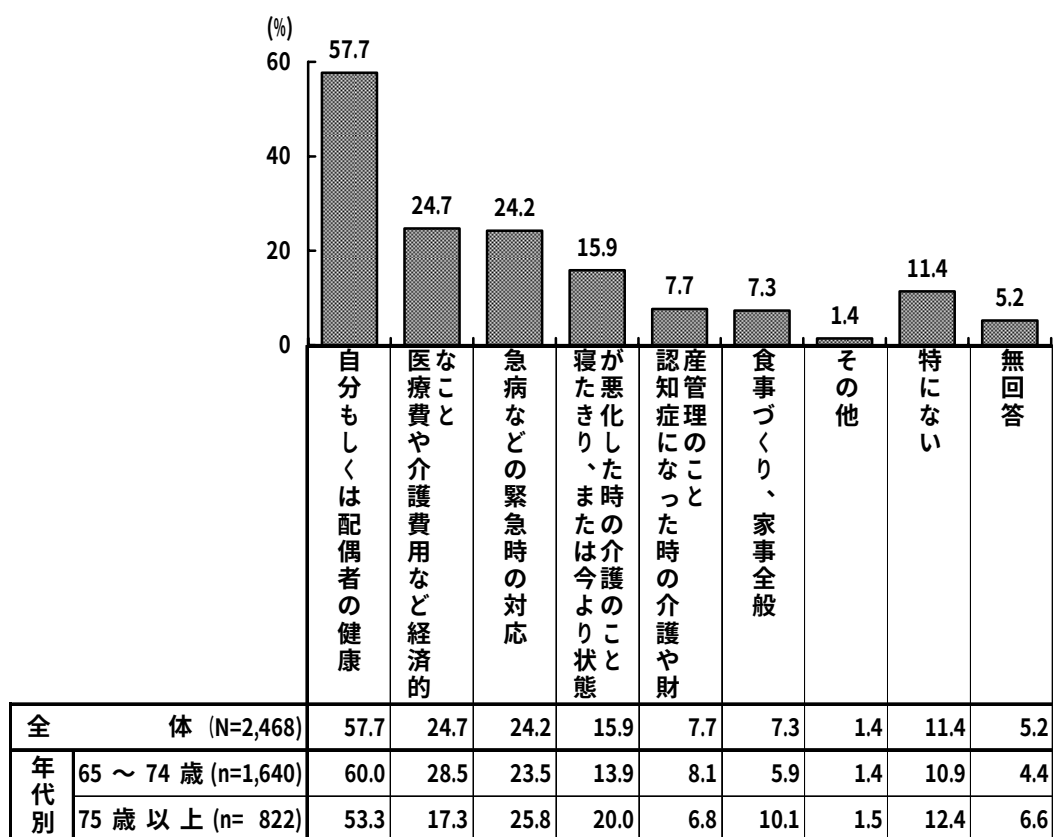


⑫ 自分や家族について不安に感じること（問 13）

自分や家族のことについて現在不安に感じていることは、「自分もしくは配偶者の健康（57.7%）」が最も多く、「医療費や介護費用など経済的なこと（24.7%）」、「急病などの緊急時の対応（24.2%）」が続いている。

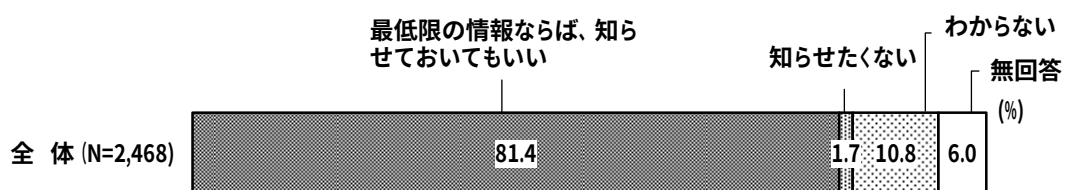
年代別に上位3つをみると、65～74 歳では「自分もしくは配偶者の健康（60.0%）」、「医療費や介護費用など経済的なこと（28.5%）」、「急病などの緊急時の対応（23.5%）」となっている。75 歳以上では「自分もしくは配偶者の健康（53.3%）」、「急病などの緊急時の対応（25.8%）」、「寝たきり、または今より状態が悪化した時の介護のこと（20.0%）」の順となっており、年代があがると緊急時や寝たきりの不安が多くあげられている（図表1－3－12）。

図表1－3－12 自分や家族について不安に感じること（全体、年代別：複数回答）



⑬ 災害時のための個人情報提供への考え方（問 14）

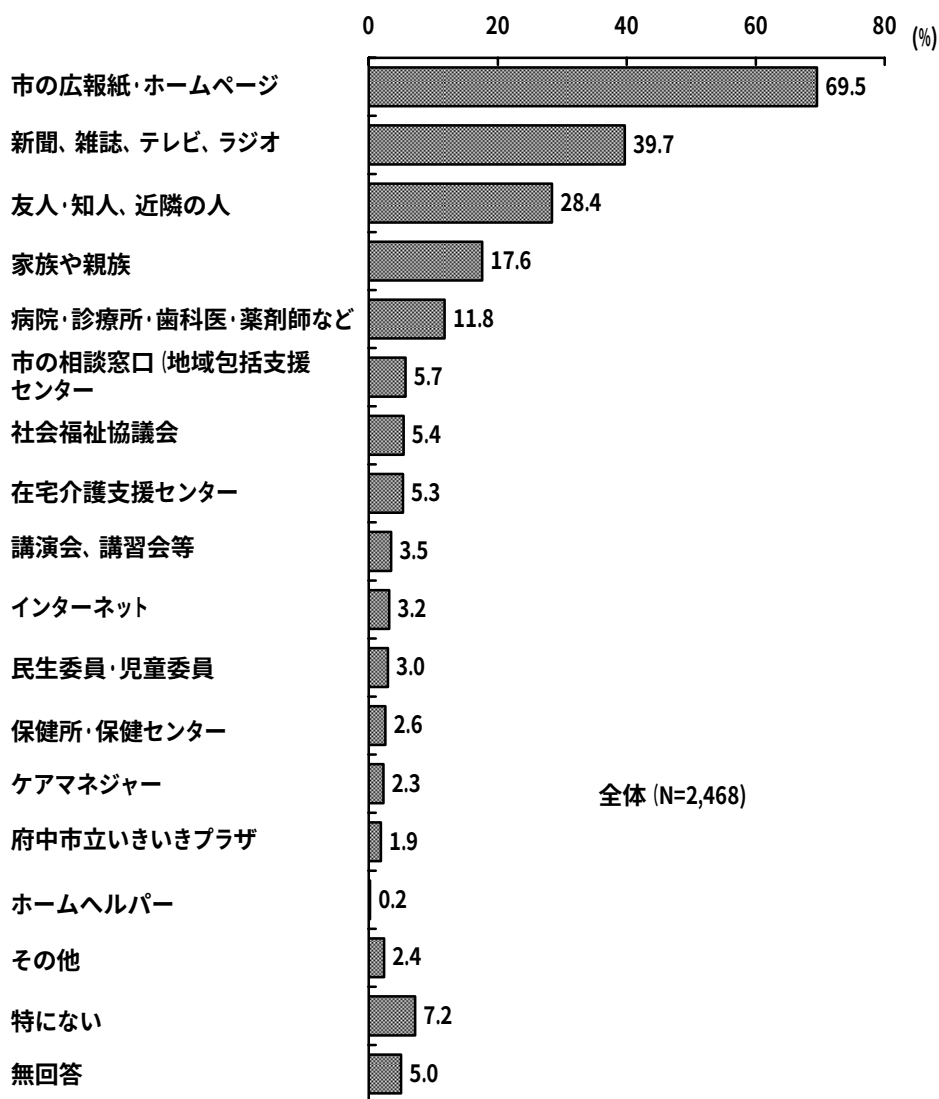
災害時に遭難を助けたり、避難状況を確認するために、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことは、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい（81.4%）」が最も多い（図表 1 - 3 - 13）。

図表 1 - 3 - 13 災害時のための個人情報提供への考え方（全体）

⑭ 健康、介護予防、福祉サービス、地域活動の情報入手方法（問 15）

健康や介護予防、福祉サービス、地域活動に関する情報入手方法は、「市の広報紙・ホームページ（69.5%）」が最も多く、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ（39.7%）」、「友人・知人、近隣の人（28.4%）」が続いている（図表1－3－14）。

図表1－3－14 健康、介護予防、福祉サービス、地域活動の情報入手方法（全体：複数回答）

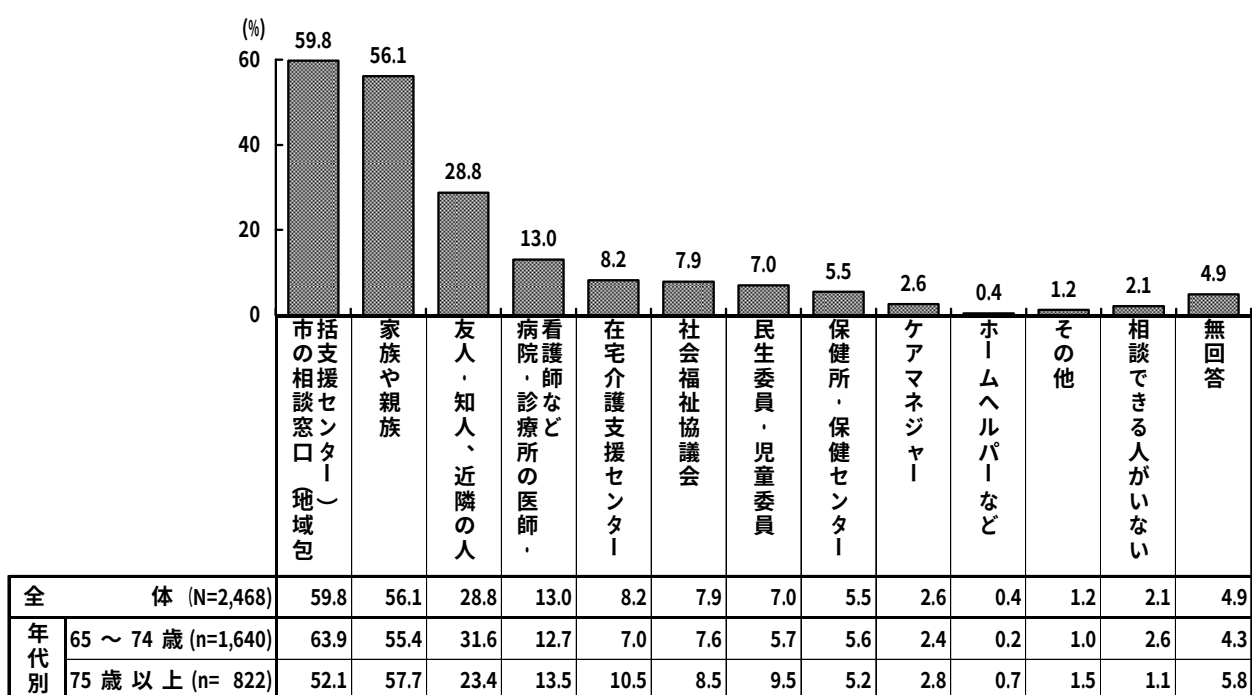


⑮ 暮らしの問題や福祉についての相談先（問 16）

暮らしの問題や福祉について困りごとがあったときの相談先は、「市の相談窓口（地域包括支援センター（59.8%）」が最も多く、「家族や親族（56.1%）」、「友人・知人、近隣の人（28.8%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳では全体順位と同様の傾向だが、75 歳以上では「家族や親族（57.7%）」が最も多くなっている（図表 1－3－15）。

図表 1－3－15 暮らしの問題や福祉についての相談先（全体、年代別：複数回答）



(4) 保健福祉サービス

① 高齢者保健福祉サービスの利用状況と利用意向（問 17）

高齢者保健福祉サービスの利用状況は、『地域デイサービス（3.2%）』が最も多く、『家具転倒防止器具の取付（2.4%）』が続いているが、他はすべて1%未満と利用率は低い。

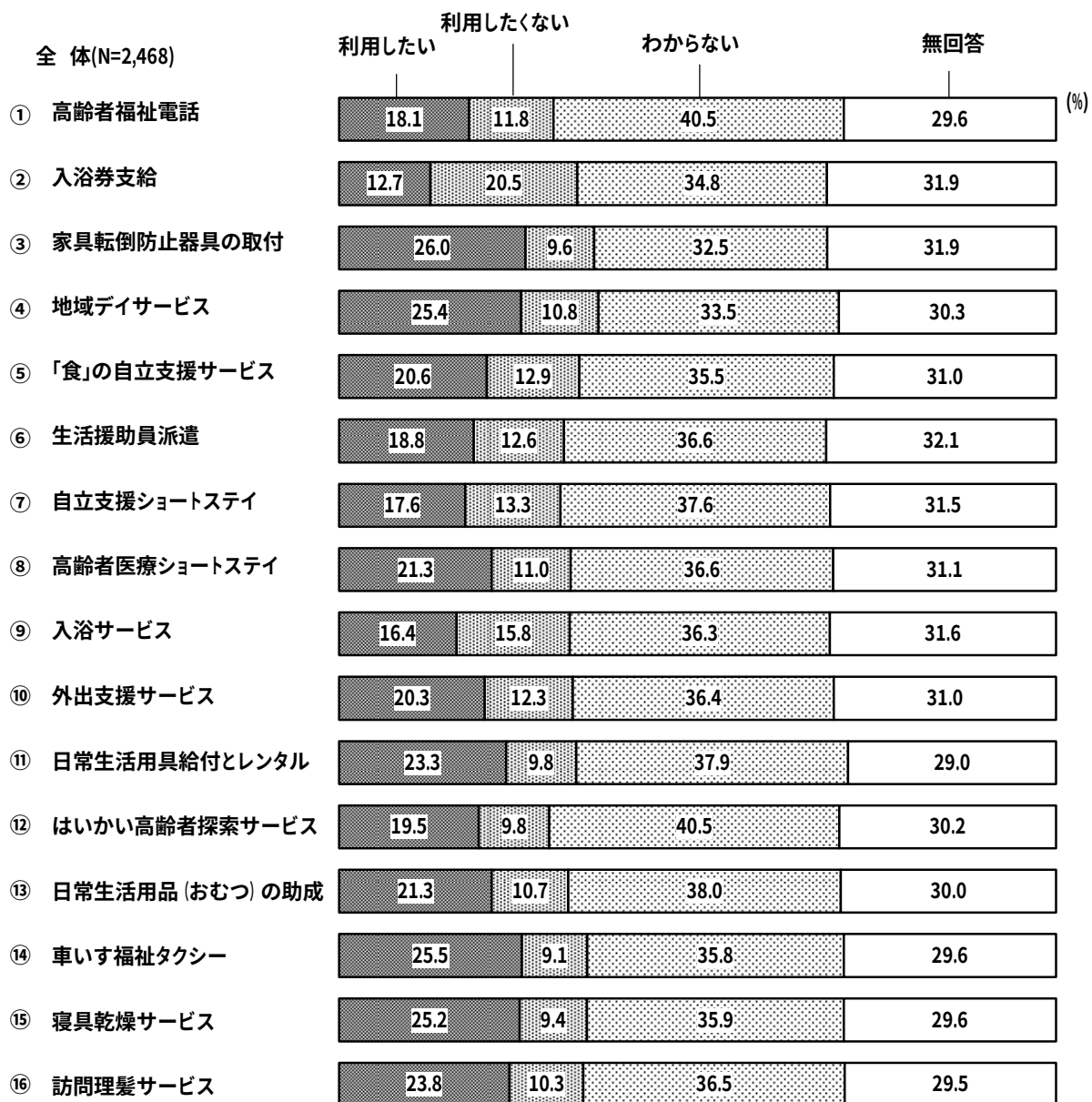
認知状況をみると、認知度が高いサービスは（「利用している」、「利用したことがある」、「知っているが利用していない」の計）、『地域デイサービス（52.7%）』、『入浴サービス（43.7%）』、『外出支援サービス（42.7%）』、『自立支援ショートステイ（40.1%）』などである（図表1-4-1-①）。

図表1-4-1-① 高齢者保健福祉サービスの利用状況（全体）



利用意向をみると、「利用したいサービス」は、『家具転倒防止器具の取付（26.0%）』が最も多く、『車いす福祉タクシー（25.5%）』、『地域デイサービス（25.4%）』、『寝具乾燥サービス（25.2%）』が続いている（図表1-4-1-②）。

図表1-4-1-② 高齢者保健福祉サービスの利用意向（全体）

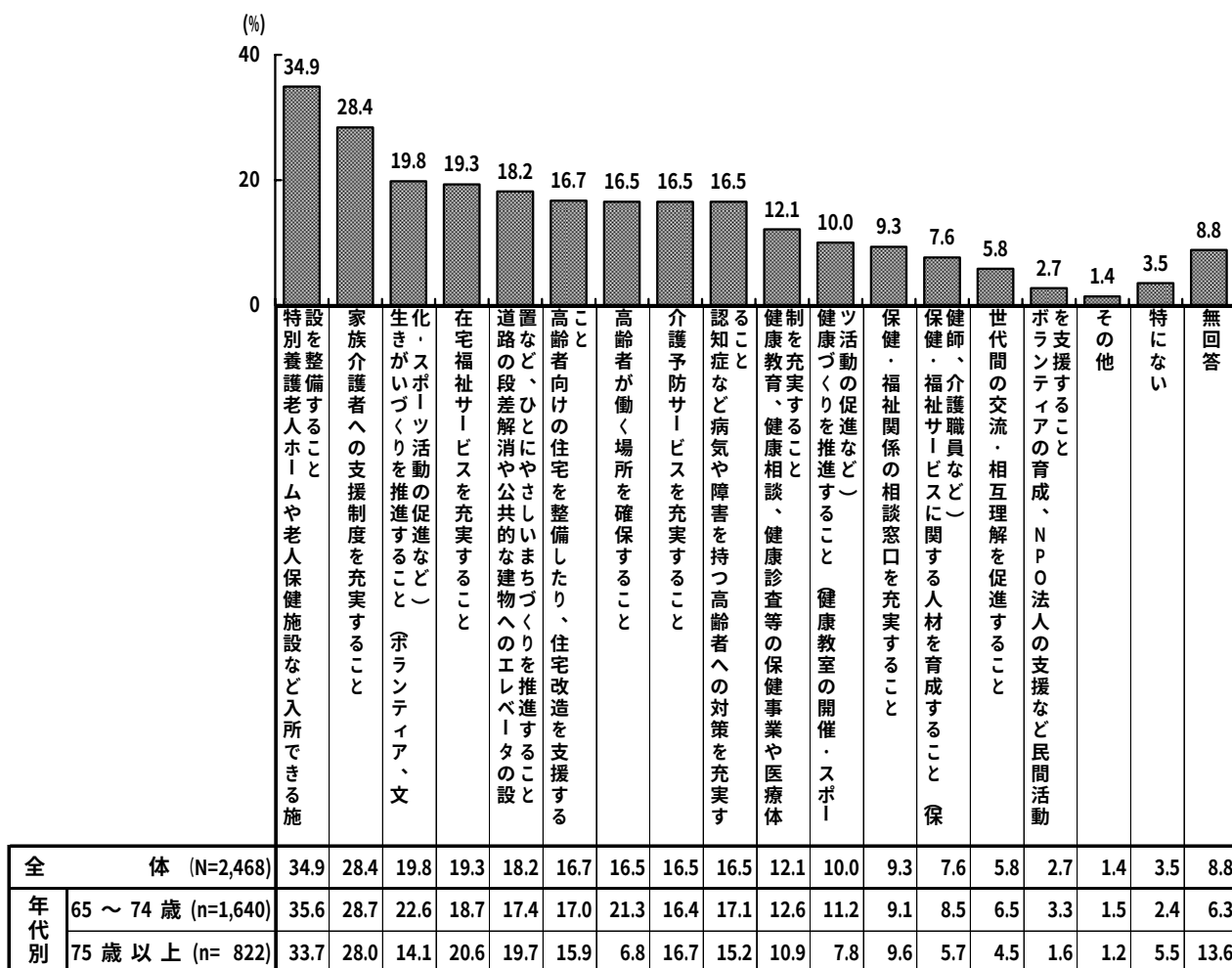


② 市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス（問 18）

今後、市が取り組む保健福祉サービスとして優先して充実すべきことは、「特別養護老人ホームや老人保健施設など入所できる施設を整備すること（34.9%）」が最も多く、「家族介護者への支援制度を充実すること（28.4%）」、「生きがいがづくりを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など）（19.8%）」、「在宅福祉サービスを充実すること（19.3%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに上位 2 項目は「特別養護老人ホームや老人保健施設など入所できる施設を整備すること」、「家族介護者への支援制度を充実すること」となっているが、65～74 歳では 3 位に「生きがいがづくりを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など）」、4 位に「高齢者が働く場所を確保すること」があげられ、75 歳以上では 3 位に「在宅福祉サービスを充実すること」、4 位に「道路の段差解消や公共的な建物へのエレベータの設置など、ひとにやさしいまちづくりを推進すること」があげられている（図表 1－4－2）。

図表 1－4－2 市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス（全体、年代別：複数回答）

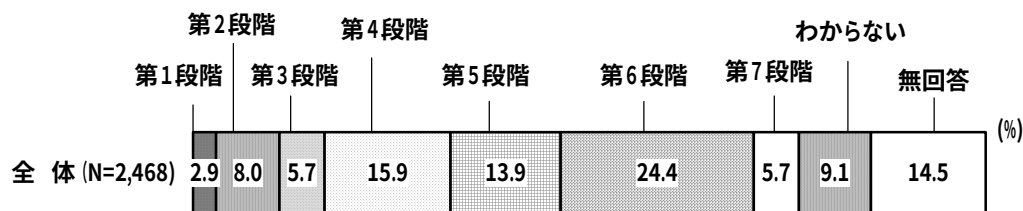


(5) 介護保険サービス

① 保険料段階（問 19）

保険料段階は、「第 6 段階（24.4%）」が最も多く、「第 4 段階（15.9%）」、「第 5 段階（13.9%）」が続いている（図表 1-5-1）。

図表 1-5-1 保険料段階（全体）

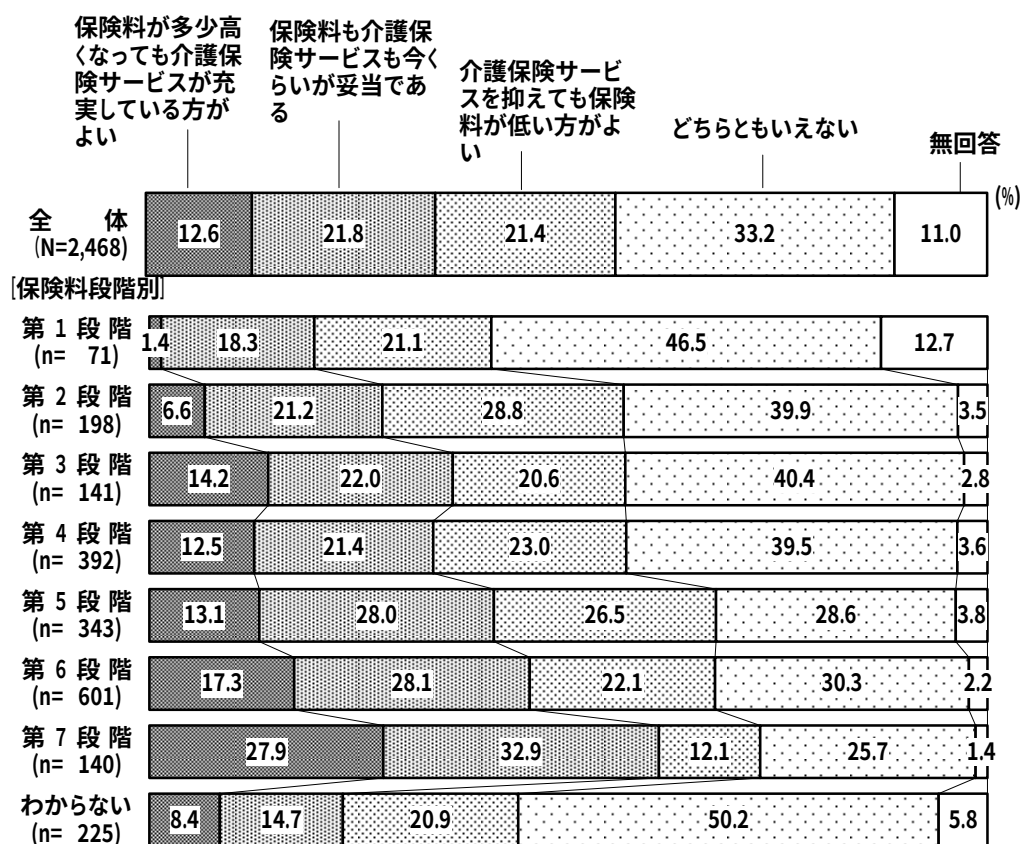


② 介護保険サービスと保険料についての考え方（問 20）

介護保険サービスと保険料についての考え方は、「どちらともいえない（33.2%）」が最も多く、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である（21.8%）」、「介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい（21.4%）」、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい（12.6%）」が続いている。

保険料段階別にみると、保険料段階が上がるほど「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である」など、介護保険サービスと保険料について肯定的な意見が増えている。その一方で第二段階と第五段階では「介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい」が平均よりも高く、それぞれ全体の 4 分の 1 を占める（図表 1-5-2）。

図表1-5-2 介護保険サービスと保険料についての考え方（全体）

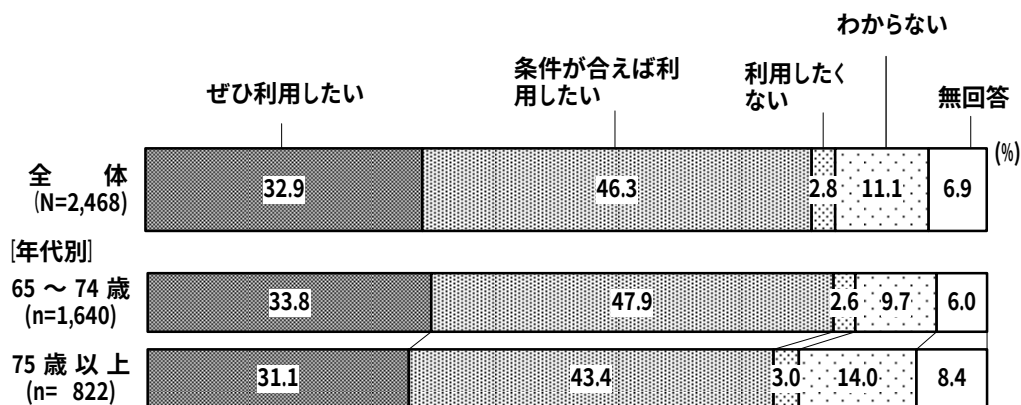


③ 介護保険サービスの利用意向（問 21）

介護保険サービスの利用意向は、「条件が合えば利用したい（46.3%）」、「ぜひ利用したい（32.9%）」の順に多く、これら2つをあわせた79.2%に利用意向がある。

年代別にみると、65～74歳では8割を超える利用意向がある。75歳以上では利用意向（74.5%）がやや低く、「わからない（14.0%）」割合も高くなる（図表1-5-3）。

図表1-5-3 介護保険サービスの利用意向（全体）



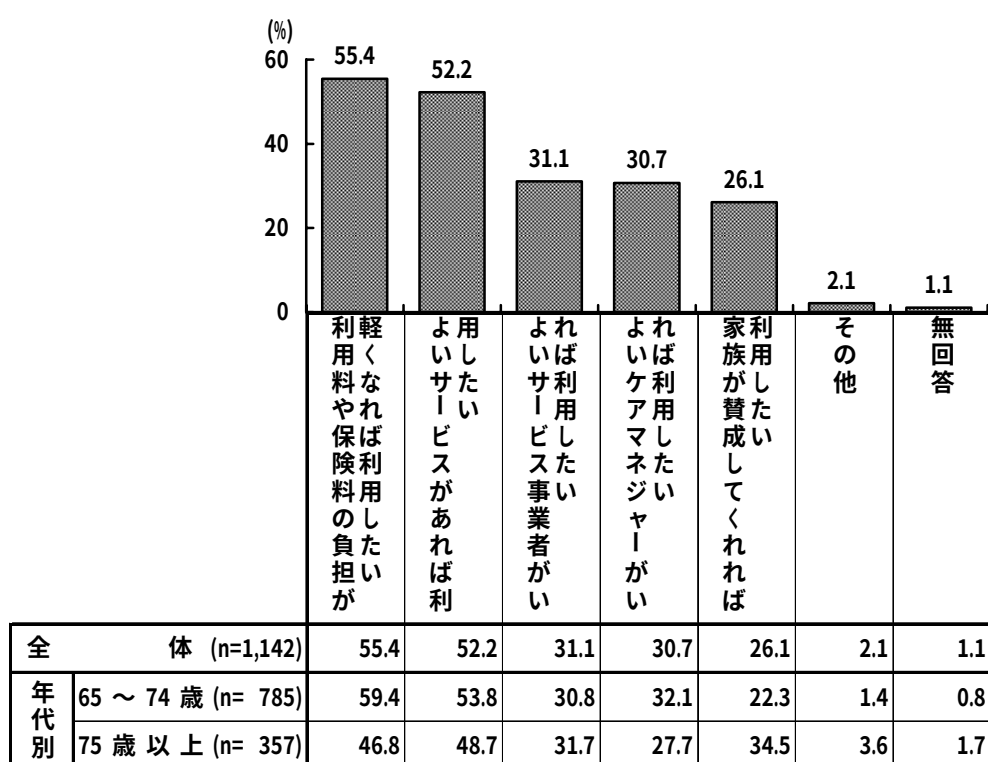
④ 利用したい条件（問 21-1）

介護保険サービスの利用意向について、「条件が合えば利用したい」と回答した人に、具体的な条件をたずねた。具体的な条件は、「利用料や保険料の負担が軽くなれば利用したい（55.4%）」が最も多く、「よいサービスがあれば利用したい（52.2%）」、「よいサービス事業者がいれば利用したい（31.1%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳の上位 2 項目は全体と同じ傾向だが、3 位に「よいケアマネジャーがいれば利用したい（32.1%）」があげられている。75 歳以上では 1 位に「よいサービスがあれば利用したい（48.7%）」、2 位に「利用料や保険料の負担が軽くなれば利用したい（46.8%）」があげられ、いずれも全体平均よりやや低い。また 3 位に「家族が賛成してくれれば利用したい（34.5%）」があげられ、全体平均（26.1%）や 65～74 歳（22.3%）を大きく上回る（図表 1-5-4）。

図表 1-5-4 利用したい条件

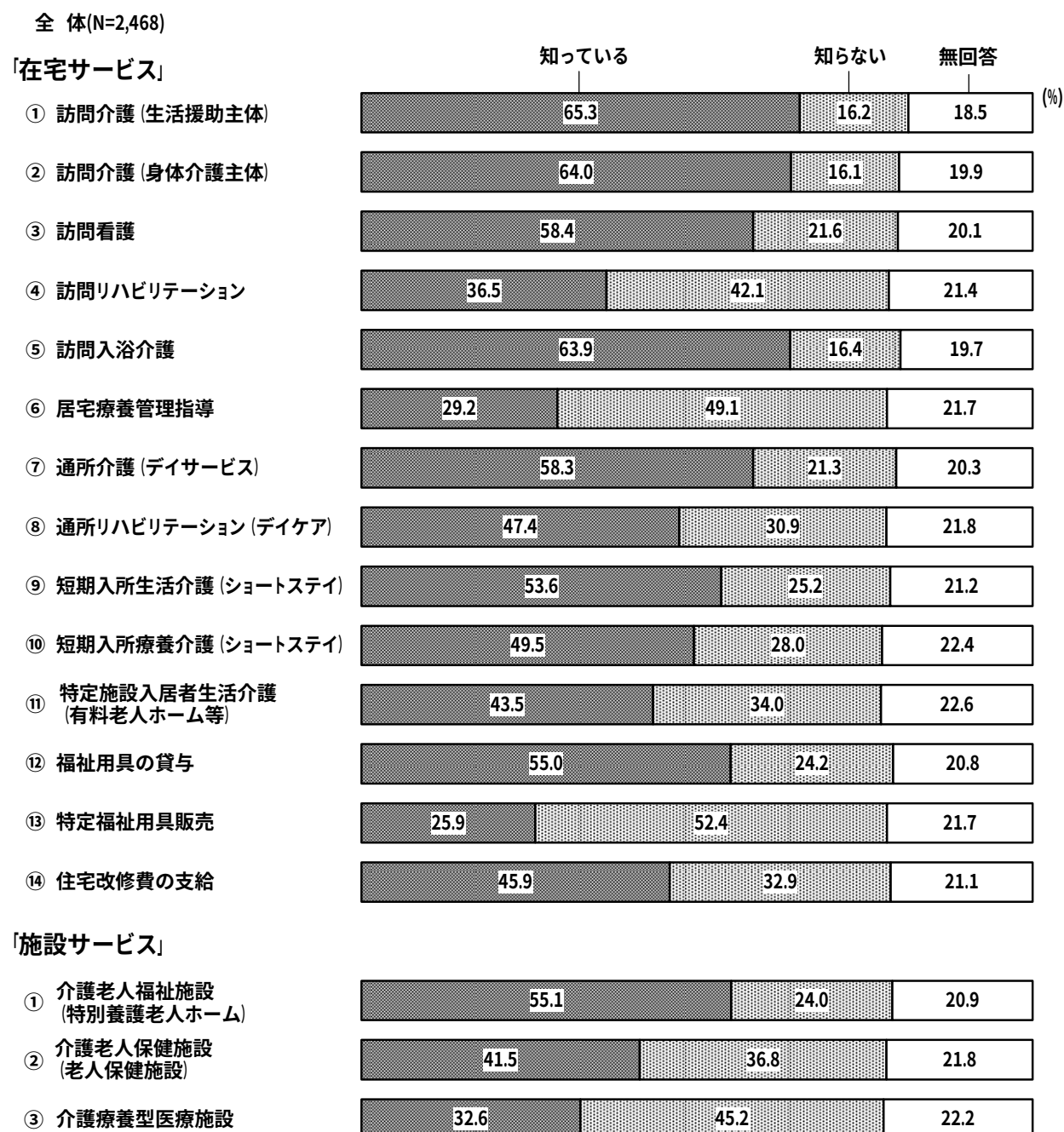
＜介護保険サービスを条件が合えば利用したいと回答した人＞（全体：複数回答）



⑤ 介護保険サービスの認識度と利用意向（問 22）

認識度が高いサービスは、『在宅サービス・訪問介護（生活援助主体）（65.3%）』、『在宅サービス・訪問介護（身体介護主体）（64.0%）』、『在宅サービス・訪問入浴介護（63.9%）』などとなっている。一方、認識度が低いサービスは、『施設サービス：介護療養型医療施設（32.6%）』、『在宅サービス・居宅療養管理指導（29.2%）』、『在宅サービス・特定福祉用具販売（25.9%）』などとなっている（図表1－5－5－①）。

図表1－5－5－① 介護保険サービスの認識度（全体）

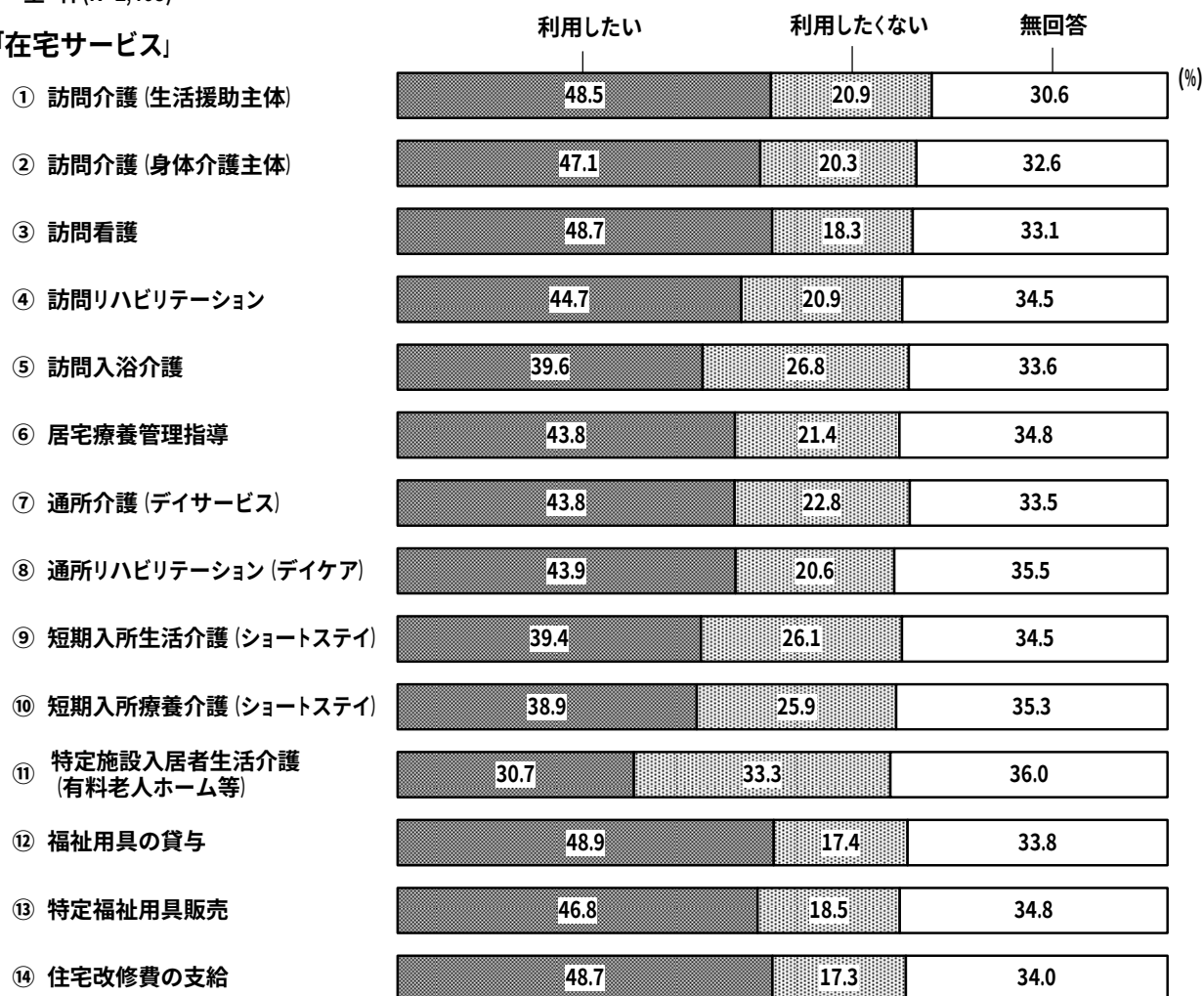


今後の利用意向が高いサービスは、『在宅サービス・福祉用具の貸与（48.9%）』、『在宅サービス・住宅改修費の支給（48.7%）』、『在宅サービス・訪問看護（48.7%）』などとなっている。一方、利用意向が低いサービスは、『在宅サービス・短期入所生活介護（ショートステイ）（39.4%）』、『在宅サービス・短期入所療養介護（ショートステイ）（38.9%）』、『在宅サービス・特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）（30.7%）』などとなっている（図表1-5-5-②）。

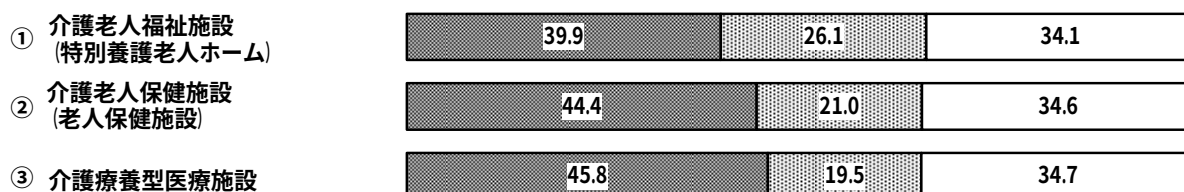
図表1-5-5-② 介護保険サービスの利用意向（全体）

全 体(N=2,468)

「在宅サービス」



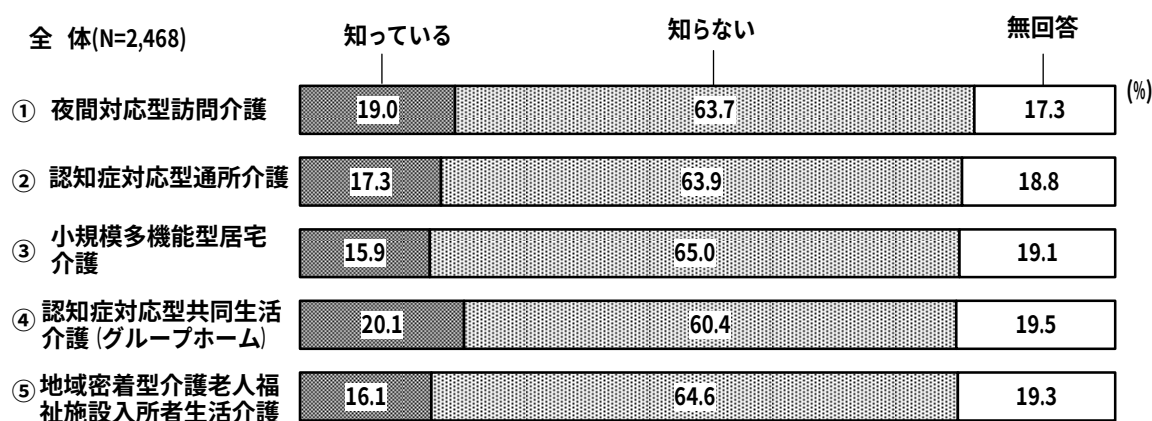
「施設サービス」



⑥ 地域密着型サービスの認識度と利用意向（問 23）

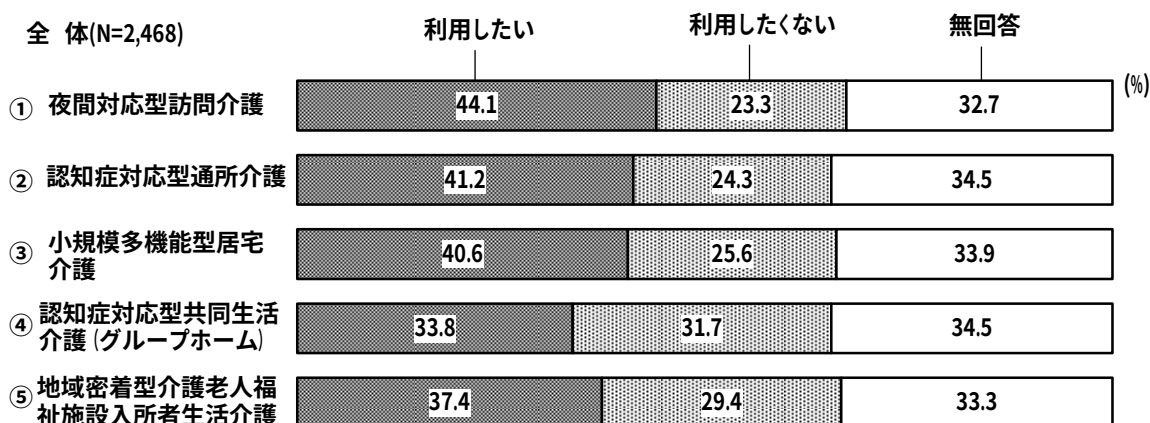
地域密着型サービスの認識度は、『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（20.1%）』が最も多く、『夜間対応型訪問介護（19.0%）』、『認知症対応型通所介護（17.3%）』が続いている（図表1-5-6-①）。

図表1-5-6-① 地域密着型サービスの認識度（全体）



利用意向は、『夜間対応型訪問介護（44.1%）』が最も多く、『認知症対応型通所介護（41.2%）』、『小規模多機能型居宅介護（40.6%）』が続いている（図表1-5-6-②）。

図表1-5-6-② 地域密着型サービスの利用意向（全体）

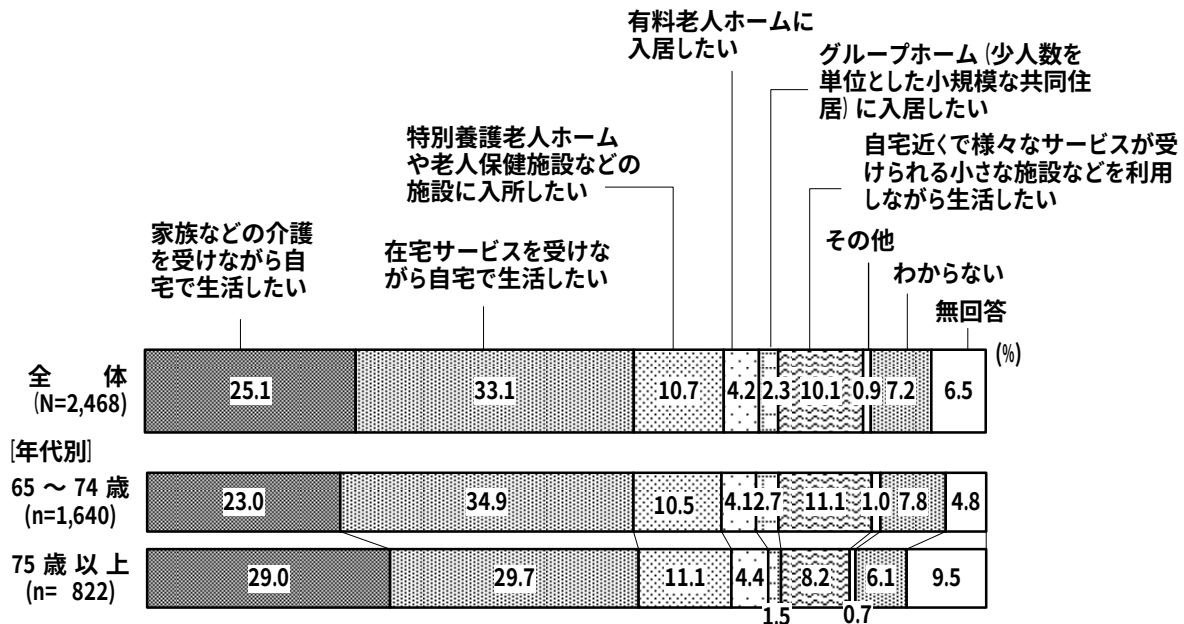


⑦ 介護が必要になったときの暮らし方（問 24）

介護が必要になったときの暮らし方は、「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい（33.1%）」が最も多く、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい（25.1%）」が続く、これら2つをあわせた58.2%が《在宅希望》である。

年代別にみると、65～74 歳、75 歳以上ともに全体と同様の傾向だが、65～74 歳では「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい（34.9%）」が、75 歳以上では「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい（29.0%）」が、それぞれ全体よりもやや高い（図表 1-5-7）。

図表 1-5-7 介護が必要になったときの暮らし方（全体）

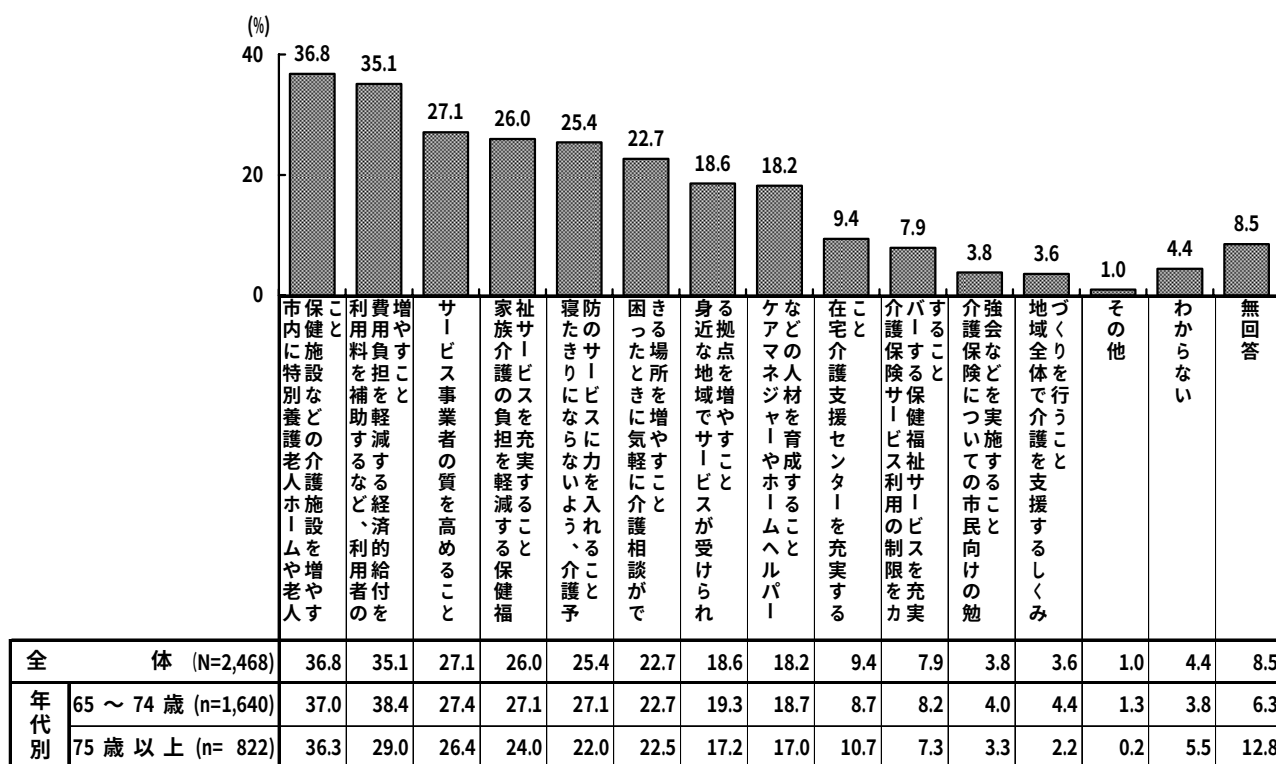


⑧ 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問 25）

介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと（36.8%）」が最も多く、「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（35.1%）」、「サービス事業者の質を高めること（27.1%）」が続いている。

年代別にみると、65～74 歳では「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（38.4%）」が「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと（37.0%）」を上回っている。75 歳以上では全体と同様の傾向だが、「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（29.0%）」が、全体および 65～74 歳とくらべやや低く 3 割を下回る（図表 1－5－8）。

図表 1－5－8 介護保険制度をよりよくするために市が力を入れるべきこと（全体：複数回答）



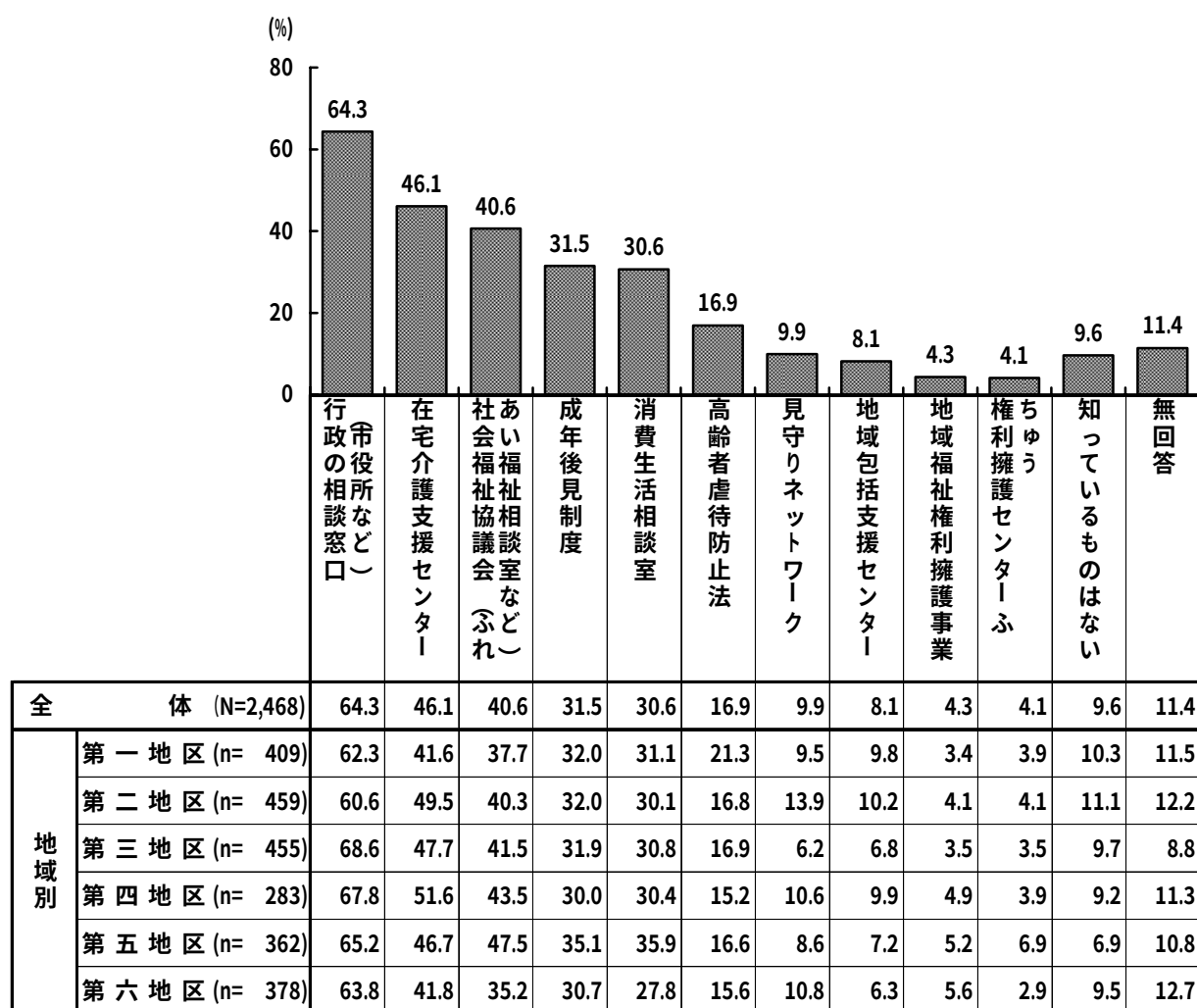
(6) 高齢者の権利擁護

① 権利擁護の制度や相談窓口の周知状況：複数回答（問 26）

権利擁護の制度や相談窓口の周知状況は、「行政の相談窓口（市役所など）（64.3%）」が最も多く、「在宅介護支援センター（46.1%）」、「社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室など）（40.6%）」が続いている。

地域別にみると、第四地区で「成年後見制度（30.0%）」を「消費生活相談室（30.4%）」が上回り、第五地区で「在宅介護支援センター（46.7%）」を「社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室など）（47.5%）」が、「成年後見制度（35.1%）」を「消費生活相談室（35.9%）」がそれぞれ上回った以外は、全体と同じ傾向である。「行政の相談窓口（市役所など）」の周知度はどの地区でも6割を超えたが、「在宅介護支援センター」は第四地区（51.6%）で5割を超えたものの、第一地区（41.6%）と第六地区（41.8%）ではやや低い。「社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室など）」は第五地区（47.5%）でやや高く、第一地区（37.7%）と第六地区（35.2%）で4割を下回る結果となった（図表1-6-1）。

図表1-6-1 権利擁護の制度や相談窓口の周知状況（全体：複数回答）

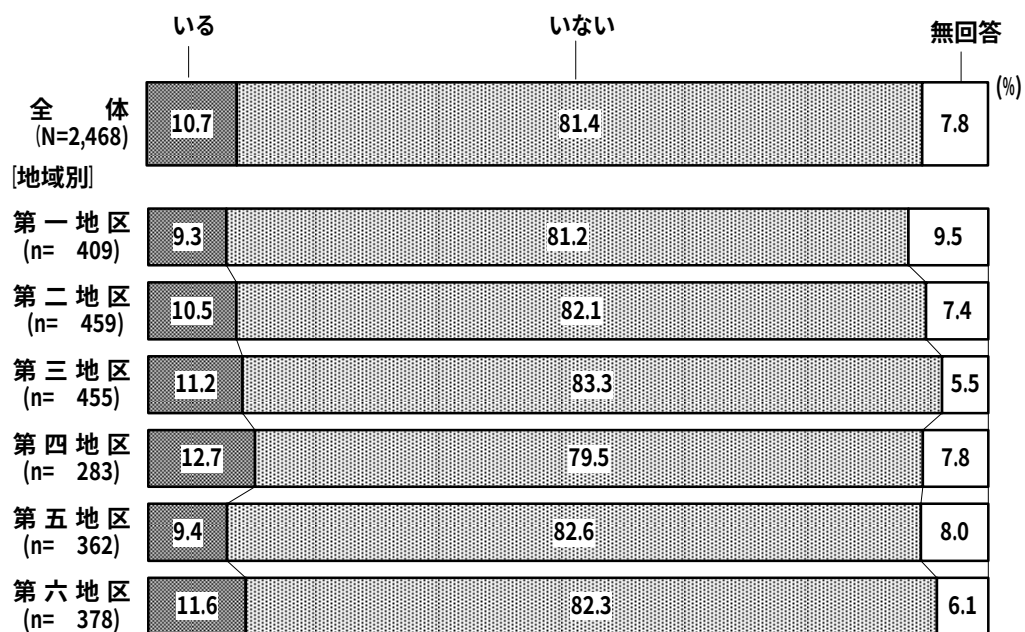


② 周囲で困っている人の有無（問 27）

周囲に困っている人がいるかどうかをたずねたところ、「いる」が 10.7%、「いない」が 81.4%である。

地区別にみると、第四地区で「いない（79.5%）」が8割を下回ったものの、全体と同じ傾向である（図表1－6－2）。

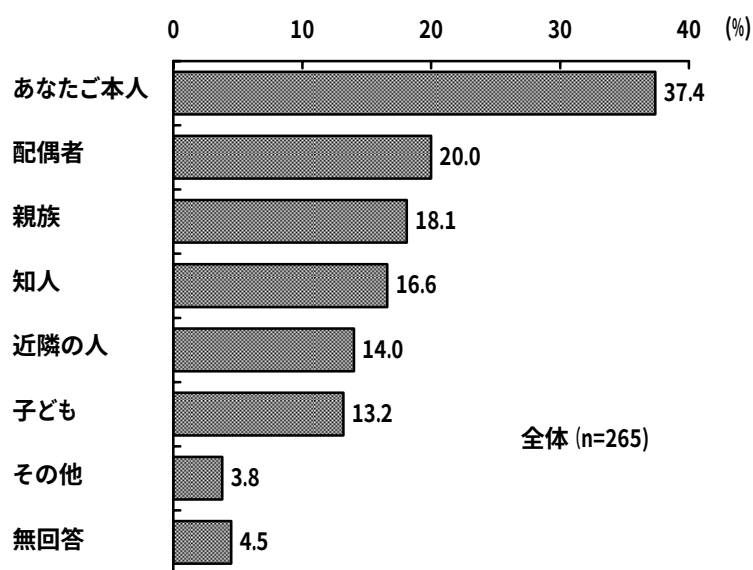
図表1－6－2 周囲で困っている人の有無（全体）



③ 周囲で困っている人（問 27-1）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人に、具体的に困っている人はだれかたずねた。困っている人は、「あなたご本人(37.4%)」が最も多く、「配偶者(20.0%)」、「親族(18.1%)」が続いている（図表 1-6-3）。

図表 1-6-3 周囲で困っている人
＜周囲に困っている人がいると回答した人＞（全体：複数回答）

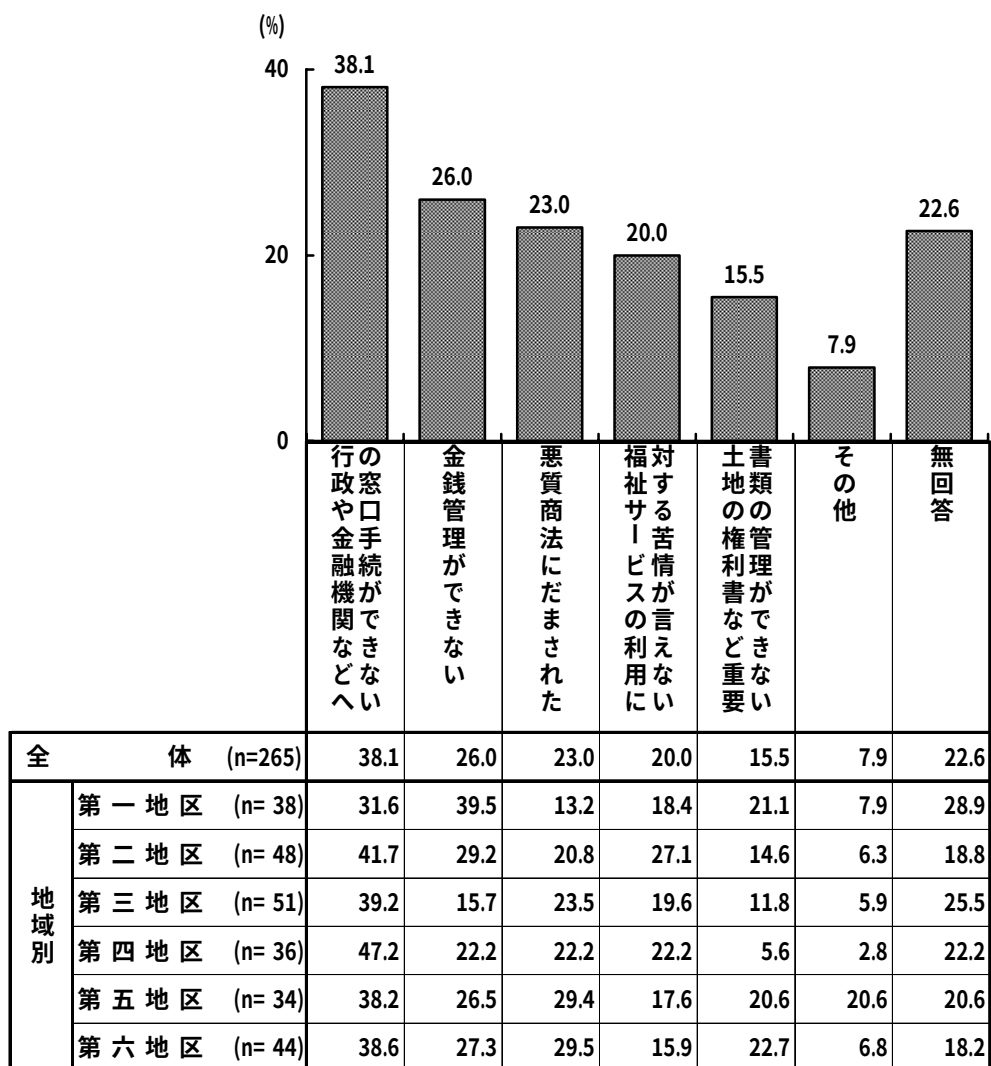


④ 周囲で困っている人の事例（問 27-2）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人に、それがどのような事例であるかたずねた。具体的な事例については、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない（38.1%）」が最も多く、「金銭管理ができない（26.0%）」、「悪質商法にだまされた（23.0%）」が続いている。

地域別にみると、第二・第三・第四・第五・第六地区では「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」が最も多くあげられたが、第一地区では「金銭管理ができない（39.5%）」が1位にあげられ、全体平均も大きく上回っている。また第三・第五・第六地区では「悪質商法にだまされた」が続いてあげられ、第四地区でも「金銭管理ができない」、「福祉サービスの利用に対する苦情がいえな」とならんで2位にあげられている（図表1-6-4）。

図表1-6-4 周囲で困っている人の事例
 <周囲に困っている人がいると回答した人>（全体：複数回答）



(7) 市への要望 (問 28)

保健福祉や介護保険について、市への意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で 735 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

介護保険全般：96 件

- ・ 非課税者の年金からも保険料を取りすぎているか。(男性、70～74 歳)
- ・ 生活でいっぱいなのに、介護保険を払うのは厳しい。収入が多い人と少ない人の介護保険料を考えて欲しい。(男性、65～69 歳)
- ・ 高額な介護保険料を負担させられているが、これらの税金がどのように使われ、どのような効果をあげているか不明。納得できる予算執行状況報告をして欲しい。(男性、75～79 歳)
- ・ 介護保険の強制加入制度と保健料金の収入に対する比率の不均等について、再検討を要望する。(男性、75～79 歳)
- ・ 介護保険料が毎年どんどん上がって、それも本人の承諾もなしに厚生年金から天引きされるのはおかしい。母などの時もそうだったが、90 歳以上で天引きされ、本人は介護を受けずに死んでいったが、何ともおかしい制度だと思う。(女性、70～74 歳)

情報・PR の必要性：85 件

- ・ 介護保険に関する各事業名ごとの連絡先一覧表(電話番号やアドレス)を広報ふちゅうに掲載願いたい。(男性、75～79 歳)
- ・ 介護保険や保健福祉はとても難しいので、一般の人にもっと理解しやすいように説明会など多く開催して周知して欲しい。(男性、70～74 歳)
- ・ 万一何か困ったとき情報が得られる総合窓口があればありがたい。これはあっち、あれはどこそこではなくて。(男性、80～84 歳)
- ・ 後期高齢人口の増加にともない、高齢者のみの世帯などでは、インターネット、パソコン等、現代的情報手段に不得手な人々が多くいる。広報紙や相談窓口の充実で、福祉サービスの周知に力を入れて欲しい。(男性、75～79 歳)
- ・ 広報に保健福祉や介護保険について、平易に要領よく、大きな見出しをつけて情報を伝えて欲しい。特に重要なものは、わかりやすく、目立つように書いて欲しい。(男性、80～84 歳)

サービスへの要望：56 件

- ・ 特養に入れる人数が少なすぎ入るまで何年待ちの状態では役に立たない。(男性、65～69 歳)
- ・ 後期高齢者になると、年 1 回の無料健康診断が申込しないと受けられないと聞いているが、年齢に関係なく自動的に受けられることが望ましい。(女性、65～69 歳)
- ・ 在宅介護の時間が短くて役に立たないという話を良く聞くが、困っていることはまちまち

なので、幅広い援助をお願いしたい。(女性、75～79 歳)

- ・ 介護保険をすぐ使用できるように申し込みだけしておく事はできないのか。緊急の場合申請してから日数がかかると聞いているが、申請してから日数のかからない市もあるそうだが、何故違いがあるのか。(男性、75～79 歳)

介護予防：43 件

- ・ 認知症予防の身体的トレーニングや、介護予防や認知症予防講習会の開催など、介護予防に力を入れて欲しい。(女性、70～74 歳)
- ・ 高齢になってからの心配ではなく、30～40 歳位から予防についての教育、情報の提供等により積極的に推進して欲しい。(男性、65～69 歳)
- ・ 最近近くで介護予防検診が行われるようになり、元気なうちに健診を受けることが必要と思い、60 歳以上の知人何人かに声をかけたが、「まだ元気だから」という声が返ってくる。予防を必要とする世代の多くにとって予防の大切さへの認識が薄いようだ。できれば個人宛に成人健診や歯科検診等のように通知を出してもらえると介護予防にも関心が出ると思う。(女性、70～74 歳)
- ・ 体育館等で募集する体操教室等を見ると、65 歳までというのが目に付く。今頃の 65～70 歳ままだまだ元気。年齢制限ではなく、自分の体力を考えて申し込み、始める前に血圧、体温等健康状態を確認する事を指導し、募集枠を広げてもらいたい。(女性、65～69 歳)

今後勉強したい：43 件

- ・ 多忙な生活ゆえ現状を良く知らないままにすぎている。いろいろ見解をひろげたいと思う。(女性、65～69 歳)
- ・ 市の保健福祉サービスや介護保険サービスなど、調査項目を見て改めて多くを知った。(男性、75～79 歳)

今後のサービス利用意向：35 件

- ・ 子育ての時期から数十年暮らしてきたこの家でできるだけ長く住みたいと願っている。多分色々なサービスを受けさせていただくだろうが、引き受けてくれる市であることを願っている。(女性、65～69 歳)
- ・ 介護が必要になったら、市の介護保険施設に入りたい。(女性、75～79 歳)
- ・ 先日、市の福祉保健部から介護保険制度第一号被保険者になったという知らせとともに、被保険者証が送られてきた。今まであまり意識していなかった「介護保険」が自分のこととして現実的に考える時がきたのだと思った。介護保険制度、介護サービスについてあまりにも知らないことが多すぎると感じるので、様々な公的サービス等注意深く学習・選択しながら利用したいと考えている。(女性、65～69 歳)

地域・つながり：32 件

- ・ 京王バス券は発行されているが、コミュニティバス含め通勤時間帯以外の本数が減らされ、サービスの実をなしていない。(女性、70～74 歳)
- ・ 災害時に自宅で介護しているとき、どのような避難ができるのか不安。道路も車椅子では不便な道が多い。(女性、65～69 歳)
- ・ 6 年前に現在のマンションを購入し、府中市民となったが、周辺住民との交流の場がなく、孤独感が強い。認知症の妻を抱えているが、同じ境遇のものが助け合っていける社会環境、組織づくりをお願いできたらと思う。(男性、70～74 歳)

高齢者のみの世帯への対策：31 件

- ・ 地域や他のシステムと協力して、老人だけの世帯、特にひとり老人の健康や生活を見廻りチェックするシステムづくりが急務。(男性、80～84 歳)
- ・ 高齢者住宅と介護施設は複合型が望ましい。または既存の介護施設に隣接した住宅であれば、一人暮らしや老老介護でも在宅で食事、入浴、訪問介護その他のサービスを受けられ、介護する側と被介護者の双方の利便性が高まる。(女性、70～74 歳)
- ・ 市当局の高齢者に対する基本的な考え方に差別的な考え、例をあげれば独居老人は気の毒な弱者として厚遇されて、食事会、旅行会等で温かい扱いをされていると聞く。本当の天涯孤独ならまだしも、近くに息子等がいて、ひんぱんに孫を連れて出入りしている人、反面子どもも近親者もない、夫婦の高齢者に対する扱いも考えて欲しいと思う。(女性、75～79 歳)
- ・ 高齢(70 歳以上)のアパート住まいの人で身元引受人のいない人などの入居できる公的賃貸住宅または高齢者向け住宅などの増加を望む。(女性、70～74 歳)

施設への要望：31 件

- ・ 日曜・祝祭日に急患受診のできる病医院の開設を切に希望する。(男性、85～89 歳)
- ・ 市内に老人ホーム、施設が足りなくて、申し込みしても 10 年以上待たされる状態が相変わらず続いている。施設を増やす事を優先事業として取組んで欲しい。(女性、65～69 歳)
- ・ 地域によって老人ホーム、介護施設が偏って、沢山ある所とない所が際立っている。もう少し府中市の端のほうにもいろいろな面で気を配って欲しい。(女性、65～69 歳)

行政の姿勢や方針：25 件

- ・ 最近老老介護で共倒れになってしまった家族に直面したので、介護保険の限界や意外とサービスに制限があることに戸惑った。高齢になったときの不安は募るばかりである。まず施設や福祉サービスの充実は是非優先させるべきだと思う。(女性、65～69 歳)
- ・ 法律を流用しても良いから、「良い」と思うものはやって欲しい。全国一律の運用ではなく、府中市独自の運用を試みて欲しい。(男性、65～69 歳)

自助努力が大切：24 件

- ・ 人間の生活は、誰でも年をとり、高齢者になるものだ。若いうちから体力づくりなど生活の安定のために努力すべきだ。(男性、75～79 歳)
- ・ 福祉を強化すればするほど自助努力の精神がなくなり、税金の無駄遣いになる。市や国に頼るのではなく、自分の事は自分で守る考え方の定着も必要だと思う。(男性、65～69 歳)

公平かつ適正に：22 件

- ・ 書類を書けば金が使えろといったような、福祉や介護を食い物にする業者、施設、団体が増えないようにチェックをしっかりともらいたい。(男性、65～69 歳)
- ・ 保健・福祉サービスについては多くの制度・維持のための組織・制度があるが、本当に有効に機能しているのか。特に費用対効果の関係では、評価＝単に制度があるからではなく、本当に必要かどうか考えて欲しい。(男性、70～74 歳)

アンケートについて：21 件

- ・ この調査に疑問を感じた。現在健康な人に介護について設問されても、実際その立場にならないと分からない面が多々あった。(男性、70～74 歳)
- ・ 地域ボランティアや市民活動などで市内と限定している設問があるが、なぜ限定するのか。私の地区の半数は調布市内の住民。市内市外の意識はない。(男性、70～74 歳)

税金や保険料負担のバランス：18 件

- ・ 高齢者に対する税金が年々上昇している状況があり、所得の低い層からの税金を軽減すべきではないか。また税金がどうして取られているか書面での報告では理解に苦しんでいる。年金、税金、市民税、都民税などもっと簡単に判定できる仕組みを希望。(男性、65～69 歳)
- ・ 介護保険、国保、市税など年金生活者にとって高くなりすぎて生活面でゆとりがなくなり、先行き不安。(女性、70～74 歳)

人材の質：13 件

- ・ 親及び一人暮らしの友人（病気）で介護サービスを利用したが、事業所及びケアマネの選べる余地はなく、利用中は気兼ねもあり、ほとんどいわれるままで要望が出しにくかった。例えばオンブズマン制度などで双方の良いすりあわせをはかるとか、行政の窓口介護経験者あるいは研修など体験したものを充てて欲しい。(女性、65～69 歳)

家族支援者への援助：10 件

- ・ 要介護者の家族に緊急事態(病気、冠婚葬祭等)があった時、収容してくれる施設が欲しい。(女性、65～69 歳)

ヘルパー・ケアマネジャー：6件

- ・ 直接介護・看護にあたる職員の働きやすい、長続きする環境をつくって欲しい。例えば働く時間が長く疲れる、人員が足りない、労働に見合った報酬の問題等について考えて欲しい。よい介護・看護を受ける側としては、常に安定した健康と、精神状態を保った職員の方々に見てもらいたいものである。(女性、80～84歳)

高齢者が働ける機会：4件

- ・ 高齢者の働く場所を考えて欲しい。人間働かなくなると病気になるので。(男性、70～74歳)

その他の不安・心配：17件

- ・ 現在最低限生きることによって精一杯で、すぐ目前に迫っている介護を受ける生活までを考える余裕がないのが現状である。妻が倒れたら終わりだ。(男性、65～69歳)

感謝・満足：57件

- ・ 市の対応は以前に比べかなり改善されているように思う。今後も宜しくお願いしたい。(女性、65～69歳)
- ・ 府中市は福祉が充実した街と思い、遠方の親を呼び寄せた。期待に違わず福祉サービスが整っており、良かったとおもう。サービスが後退しないことを願っている。(女性、75～79歳)

現在は元気なので特に要望はない、わからない：45件

- ・ 現在日常生活に支障がないので介護については切実感がない。(男性、75～79歳)

その他の意見：21件

- ・ 敬老の日の催し物の招待を毎年もらうが、一人ではいけないので参加したことがない。是非同伴を許可して欲しい。(女性、75～79歳)
- ・ 現行のボックス使用による家庭ごみ収集は、高齢者にとっては実に便利な制度で、赤字だからやめるというなら、事業委託の内容をはじめ金の流れを徹底的に透明化するほうが先決である。(男性、70～74歳)

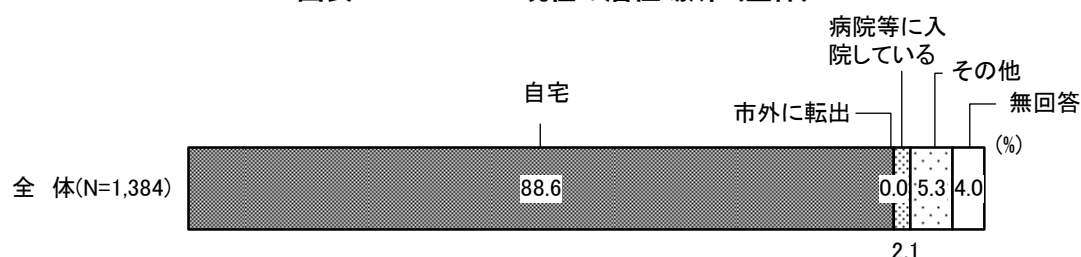
2 介護保険居宅サービス利用者調査

(1) 基本属性

① 現在の居住場所 (F 1)

現在の居住場所は、「自宅 (88.6%)」が最も多く、「病院等に入院している (2.1%)」が続いている (図表 2-1-1)。

図表 2-1-1 現在の居住場所 (全体)

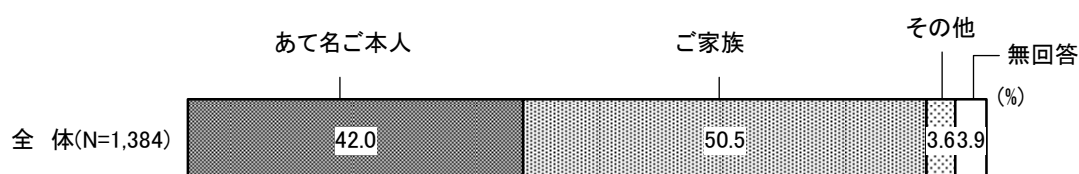


② 記入者 (F 2)

調査票に記入した人は、「ご家族 (50.5%)」が最も多く、「あて名ご本人 (42.0%)」が続いている (図表 2-1-2)。

前回調査と比べると家族回答者が増加している (前回は家族の回答 45.1%)。

図表 2-1-2 記入者 (全体)



③ 性別 (F 3)

回答者の性別は、「女性 (71.5%)」が多く、「男性 (27.7%)」の 2.5 倍以上となっている (図表 2-1-3)。

図表 2-1-3 性別 (全体)

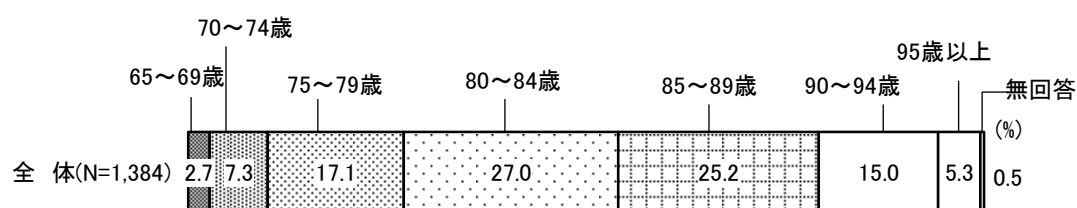


④ 年齢 (F 4)

回答者の年齢は、「80～84 歳 (27.0%)」が最も多く、「85～89 歳 (25.2%)」、「75～79 歳 (17.1%)」が続いている。75 歳以上の後期高齢者が 89.6% を占める (図表 2-1-4)。

前回調査と比べると 75 歳以上の後期高齢者が増加している (前回 は 後期高齢者 74.1%)。

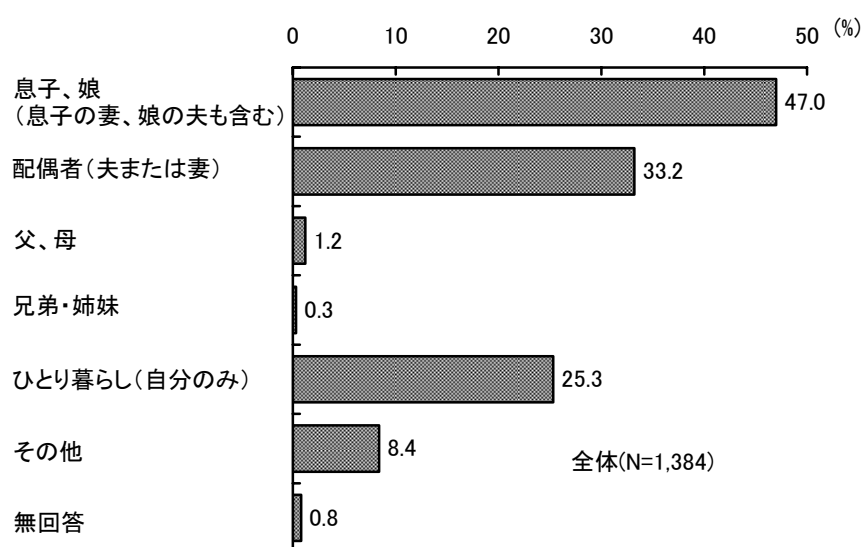
図表 2-1-4 年齢 (全体)



⑤ 同居家族 (F 5)

同居家族は「息子、娘 (息子の妻、娘の夫も含む) (47.0%)」が最も多く、次いで「配偶者 (33.2%)」となっている。「ひとり暮らし (25.3%)」は 2 割を超えている (図表 2-1-5)。

図表 2-1-5 同居家族 (全体：複数回答)



⑥ 同居者の年齢（F 5－1）

「ひとり暮らし（自分のみ）」以外の人に同居者の年齢をたずねた。「64歳以下の同居者がいる（43.1%）」の方が「同居者全員が65歳以上（30.3%）」より約1割多い（図表2－1－6）。

図表2－1－6 同居者の年齢
＜同居者がいると回答した人＞（全体）

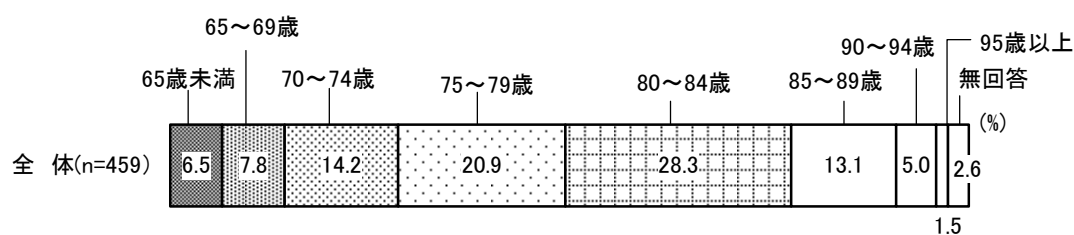


⑦ 配偶者の年齢（F 5－2）

「配偶者（夫または妻）」がいる場合、配偶者の年齢は、「80～84歳（28.3%）」が最も多く、「75～79歳（20.9%）」、「70～74歳（14.2%）」が続いている。75歳以上の後期高齢者が68.8%を占める（図表2－1－7）。

前回調査と比べると配偶者も後期高齢者が増加している（前回配偶者が後期高齢者の回答者55.1%）。

図表2－1－7 同居者の年齢
＜配偶者がいると回答した人＞（全体）



⑧ 居住地域（F 6）

居住地域は「第一地区（19.1%）」が最も多く、「第三地区（17.2%）」、「第二地区（17.1%）」、「第四地区（15.3%）」が続いている（図表2－1－8）。

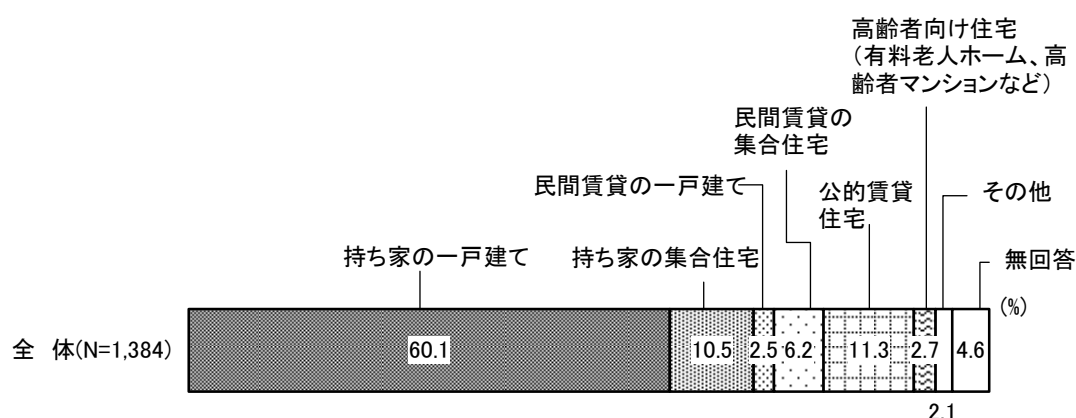
図表2－1－8 居住地域（全体）



⑨ 住宅の所有形態（F 7）

住宅の所有形態は「持ち家の一戸建て（60.1%）」が最も多く、「公的賃貸住宅（11.3%）」、「持ち家の集合住宅（10.5%）」が続いている。「高齢者向け住宅（2.7%）」はごく少ない（図表2-1-9）。

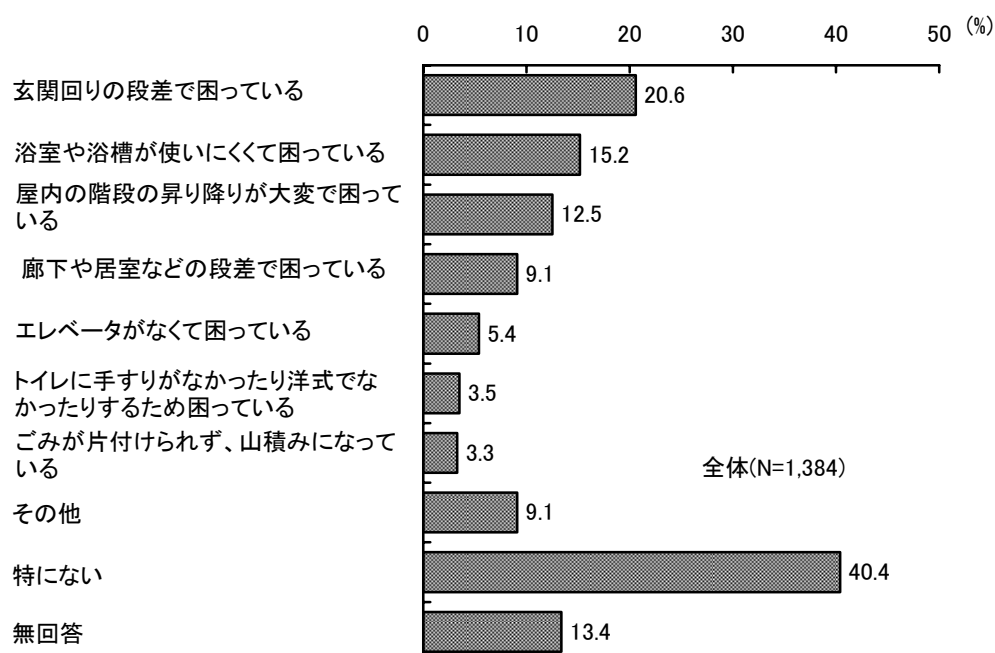
図表2-1-9 住宅の所有形態（全体）



⑩ 住宅の問題点（F 7-1）

住宅の問題点は「特にない（40.4%）」が最も多い。困っていることの内容は「玄関回りの段差で困っている（20.6%）」が最も多く、「浴室や浴槽が使いにくくて困っている（15.2%）」、「屋内の階段の昇り降りが大変で困っている（12.5%）」が続いている（図表2-1-10）。

図表2-1-10 住宅の問題点（全体：複数回答）

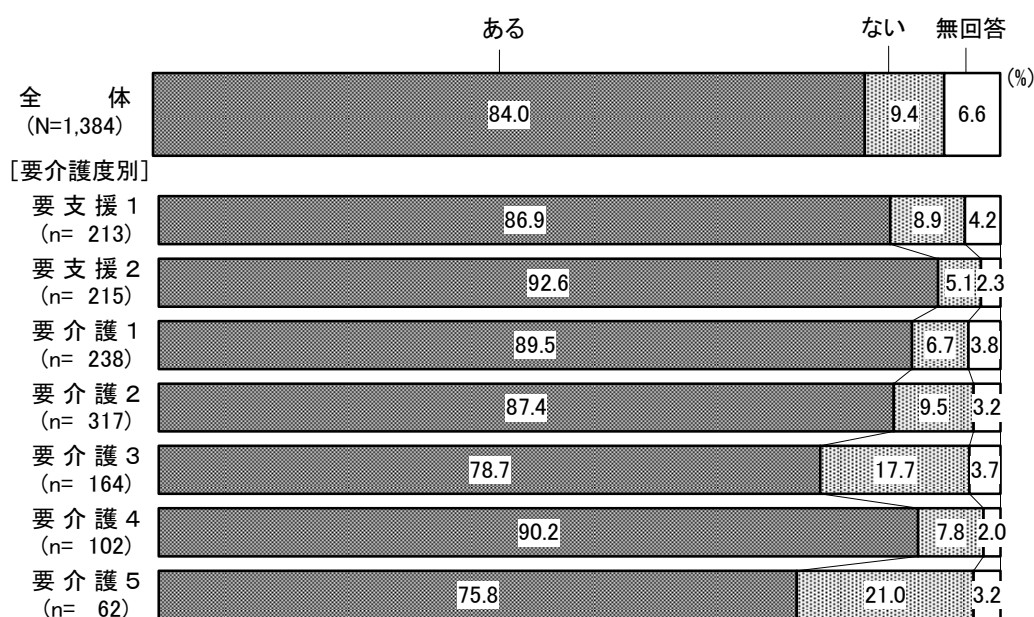


(2) 医療の状況

① 治療中の病気の有無（問1）

現在治療中の病気は、「ある（84.0%）」が多数を占める。要介護度別にみると、「要支援2」と要介護4で「ある」の割合が高い（図表2-2-1）。

図表2-2-1 治療中の病気の有無（全体、要介護度別）

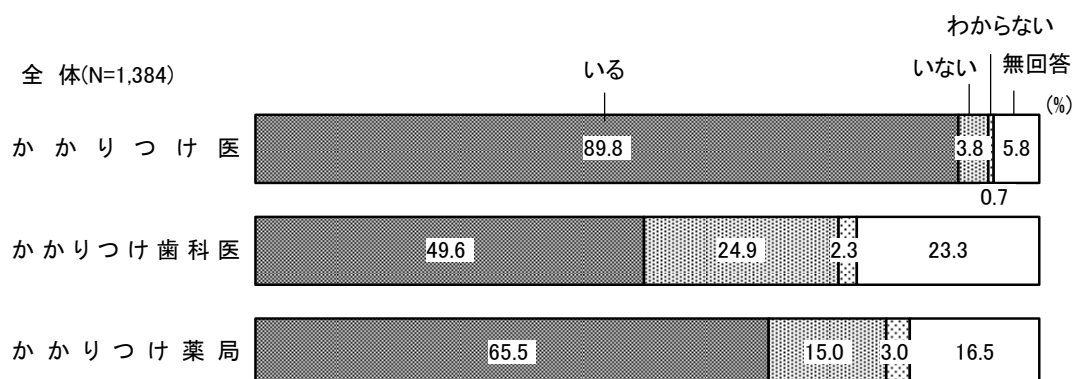


② かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局（問2）

かかりつけ医は、「いる（89.8%）」が約9割、かかりつけ歯科医は、「いる（49.6%）」が約5割、かかりつけ薬局は、「いる（65.5%）」が6割強である（図表2-2-2）。

前回調査と比べるとかかりつけ医（前回 82.1%）、かかりつけ薬局（同 59.7%）は増加しているが、かかりつけ歯科医（同 51.8%）は減少している。

図表2-2-2 かかりつけ医等の有無（全体）



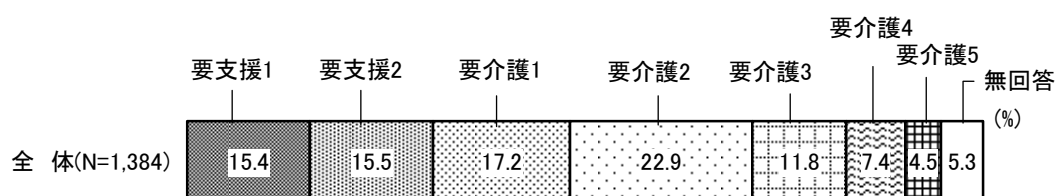
(3) 介護保険

① 要介護度（問3）

回答者の要介護度は、「要介護2（22.9%）」が最も多く、「要介護1（17.2%）」、「要支援2（15.5%）」、「要支援1（15.4%）」が続いている（図表2-3-1-①）。

介護度を3段階に分けてみると、「要支援」が30.9%、「軽度要介護（要介護1～2）」が40.1%、「重度要介護（要介護3～5）」が23.7%となっている（図表2-3-1-②）。

図表2-3-1-① 要介護度（全体）



図表2-3-1-② 要介護度（3段階）（全体）

	合計	要支援 ※1	軽度要介護 ※2	重度要介護 ※3	回答無
実人数	1384	428	555	328	73
比率	100.0%	30.9%	40.1%	23.7%	5.3%

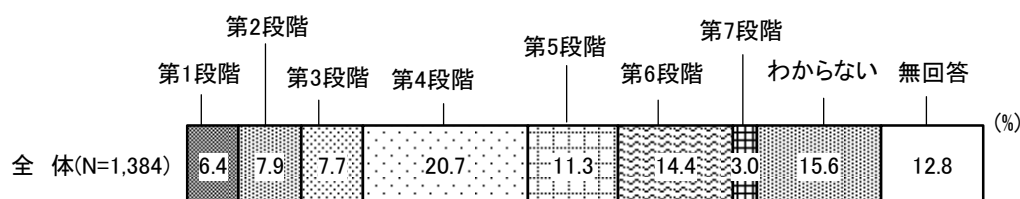
※1: 要支援1、2 ※2: 要介護1、2 ※3: 要介護3、4、5

② 保険料段階（問4）

保険料段階は、「第4段階（20.7%）」が最も多く、「第6段階（14.4%）」、「第5段階（11.3%）」が続いている（図表2-3-2）。

前回調査では、「第3段階（23.0%）」が最も多く、「第1段階（13.1%）」、「第2段階（11.1%）」の順であった。

図表2-3-2 保険料段階（全体）

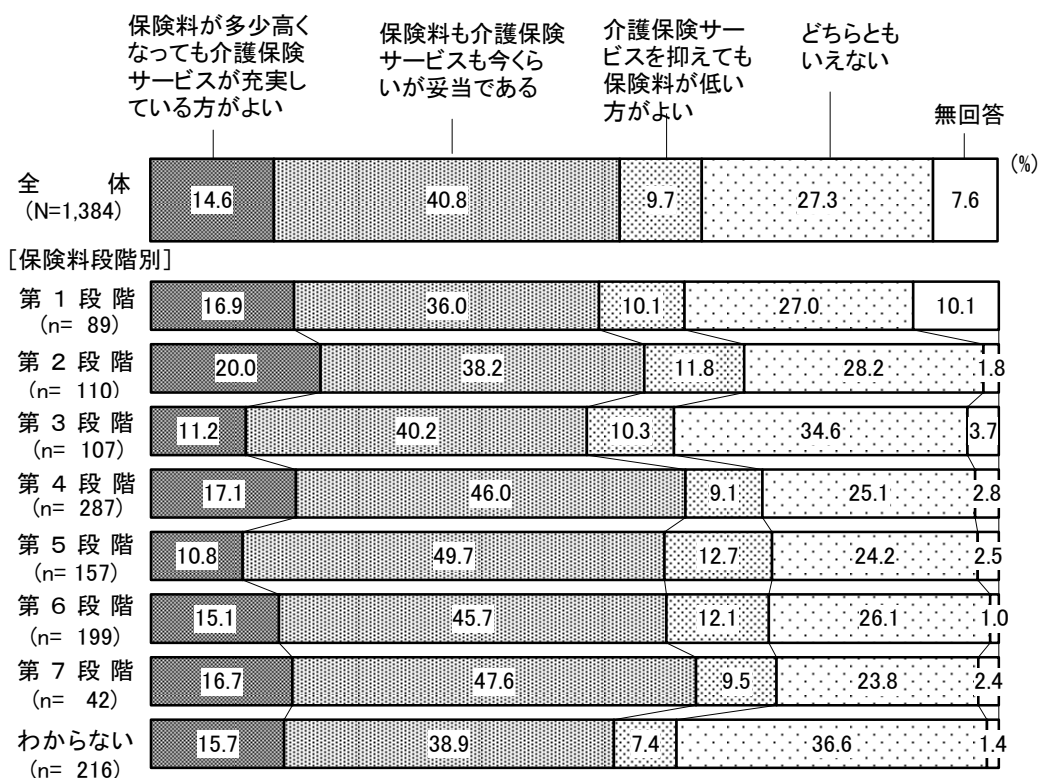


③ 介護保険サービスと保険料についての考え方（問5）

介護保険サービスと保険料についての考え方は、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である（40.8%）」が最も多く、「どちらともいえない（27.3%）」、「保険料が多少高くなってもサービスが充実している方がよい（14.6%）」が続いている。

保険料段階別にみると、第3段階と第5段階では「保険料が多少高くなってもサービスが充実している方がよい」が少ない。（図表2-3-3）。

図表2-3-3 介護保険サービスと保険料についての考え方
（全体、保険料段階別）

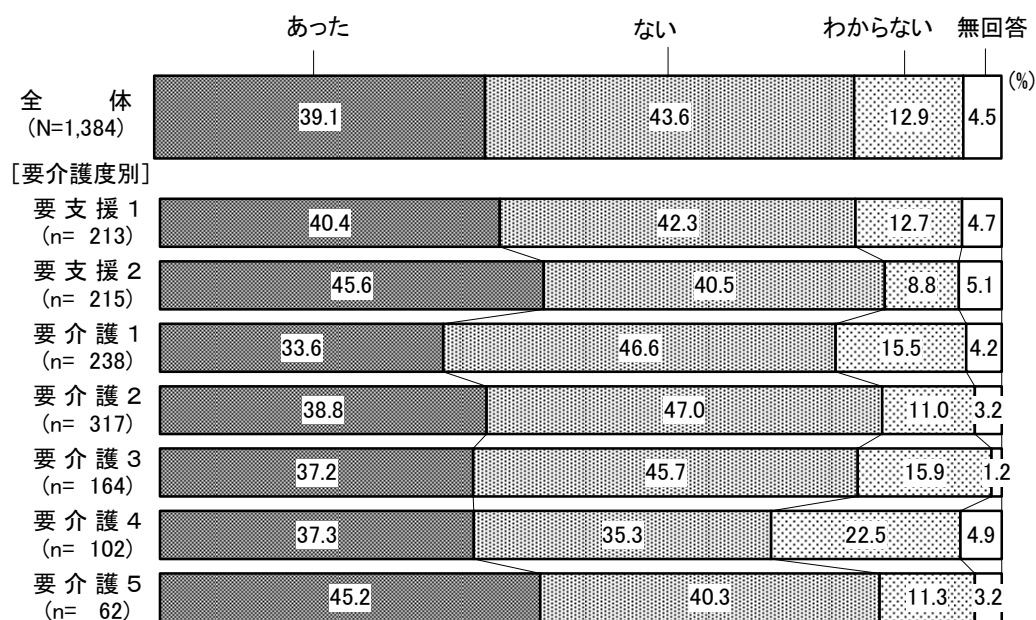


④ 介護保険サービスの利用の変化（問6）

平成 18 年 4 月以降の介護保険サービスの利用の変化をたずねたところ、「あった（39.1%）」という回答が約 4 割であった。

要介護度別にみると、「あった」が全体平均を超えているのは、「要支援 2（45.6%）」、「要支援 1（40.4%）」と「要介護 5（45.2%）」であり、要介護度の軽い方と重い方に変化があったことが示されている（図表 2-3-4）。

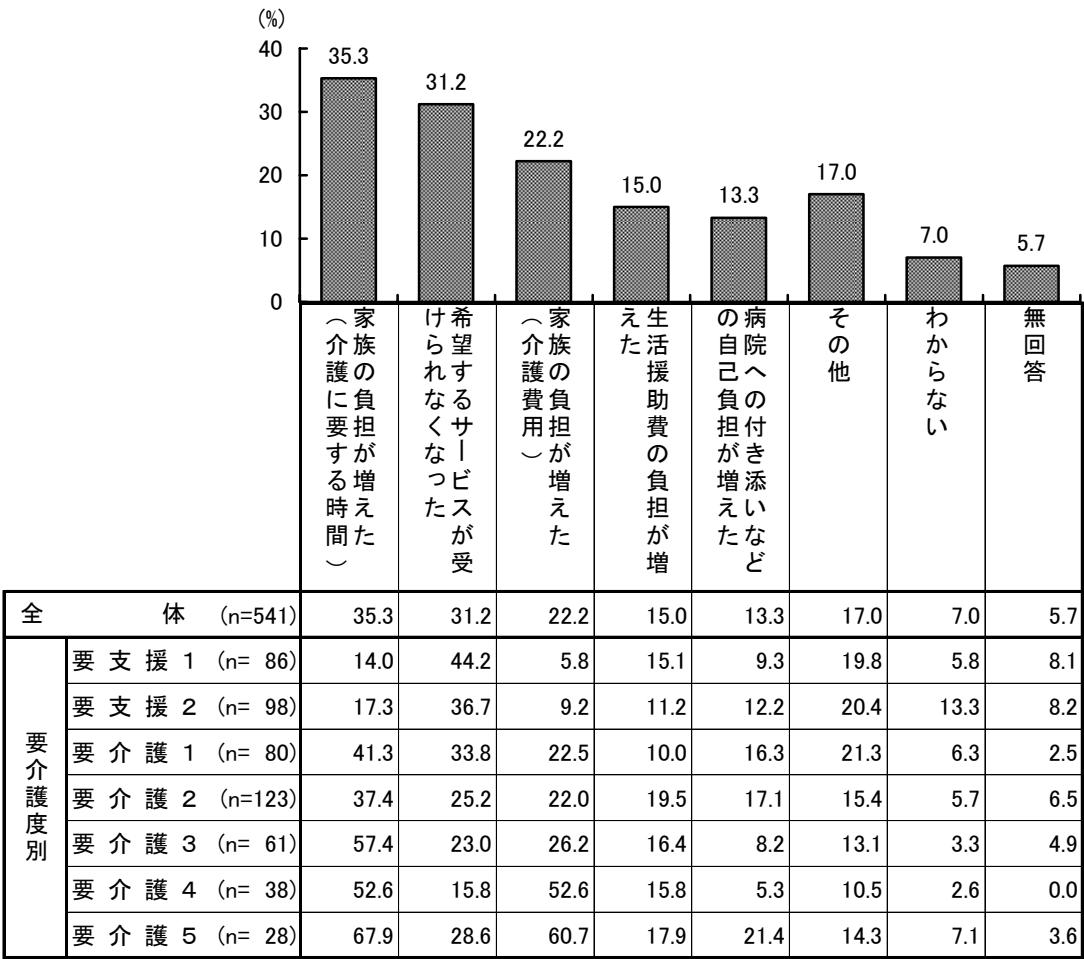
図表 2-3-4 平成 18 年 4 月以降の介護保険サービスの利用の変化
（全体、要介護度別）



⑤ 変化の内容（問6-1）

介護保険サービスの利用の変化が「あった」と回答した人に変化の内容をたずねたところ、「家族の負担が増えた（介護に要する時間）（35.3%）」が最も多く、「希望するサービスが受けられなくなった（31.2%）」、「家族の負担が増えた（介護費用）（22.2%）」が続いている。要介護度別にみると、「家族の負担が増えた」は介護度の重い人に多く、「希望するサービスが受けられなくなった」は介護度の軽い人に多い（図表2-3-5）。

図表2-3-5 利用の変化の内容＜介護保険サービスの利用の変化があった人＞
（全体、要介護度別：複数回答）



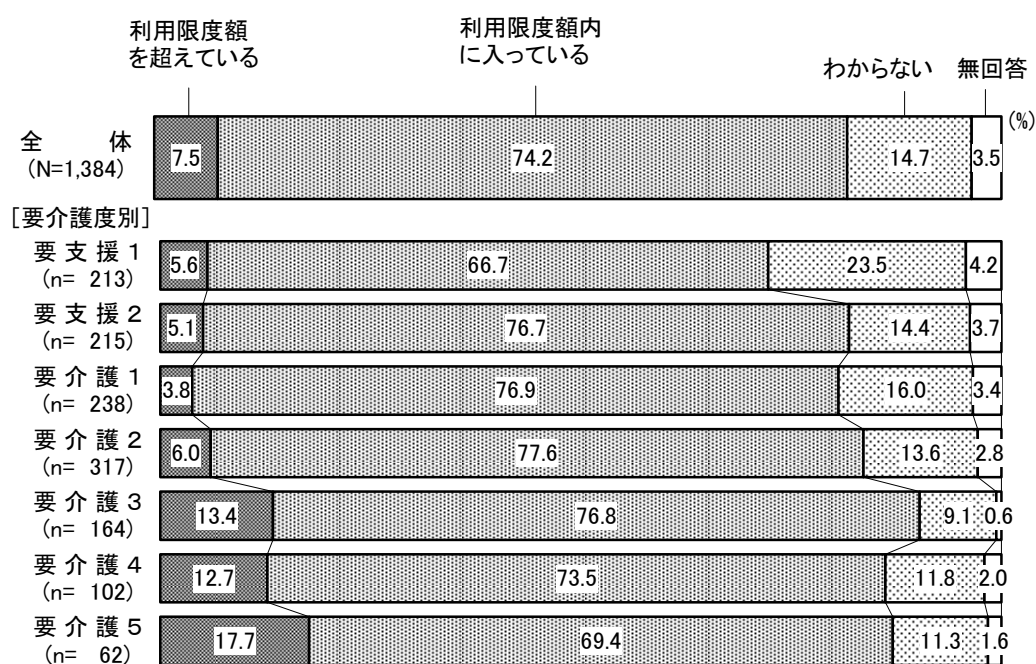
⑥ 介護保険サービスの利用料（問7）

介護保険サービスの利用料は、「利用限度額内に入っている（74.2%）」が7割を超える。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるほど「利用限度額を超えている」の割合が高くなる傾向がある（図表2-3-6）。

前回調査より「利用限度内に入っている」が増加している（前回は65.6%）。

図表2-3-6 介護保険サービスの利用料（全体、要介護度別）



⑦ 介護保険サービスの利用料が限度額を超えている理由（問7-1）

限度額を超えている理由は、「自己負担しても希望するサービスを受けたいから（53.8%）」が最も多く、「サービスの回数が足りないから（24.0%）」、「介護者がいないから（18.3%）」が続いている。

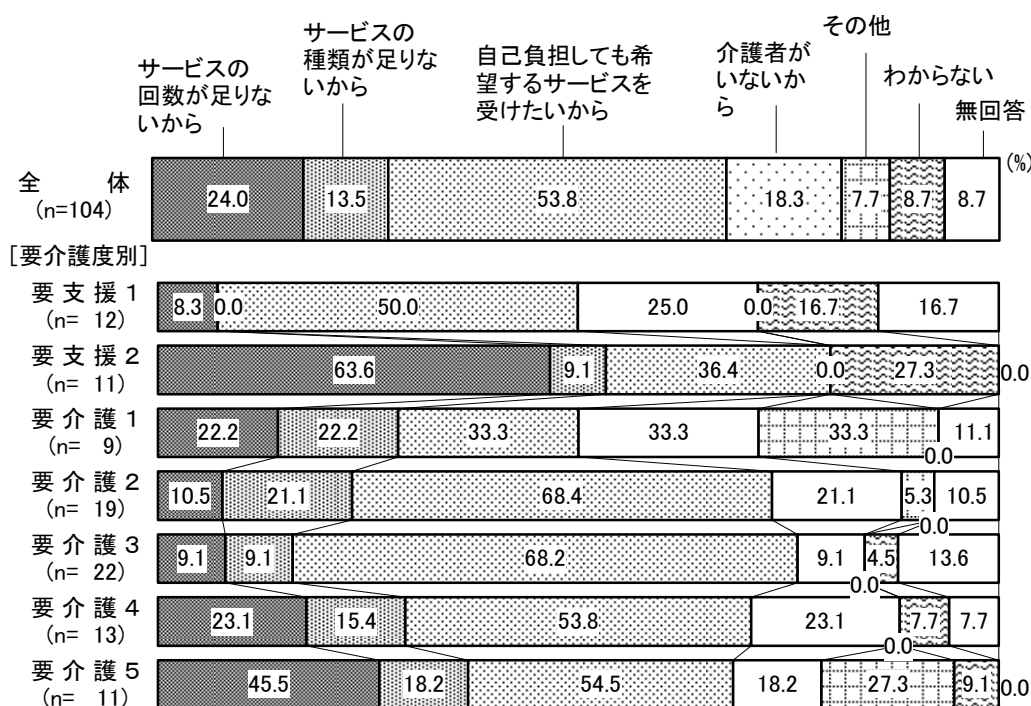
要介護度別にみると、要支援2は「サービスの回数が足りないから」が最も多いが、それ以外では「自己負担しても希望するサービスを受けたいから」が最も多く、特に要介護2、3では約7割近い（図表2-3-7）。

前回調査と比べると「自己負担しても希望するサービスを受けたいから」が2倍近く増加している（前回29.7%）。

図表2-3-7 介護保険サービスの利用料が限度額を超えている理由

<利用限度額を超えていると回答した人>

(全体、要介護度別：複数回答)



⑧ 介護保険サービスの利用料が限度額内の理由（問 7－2）

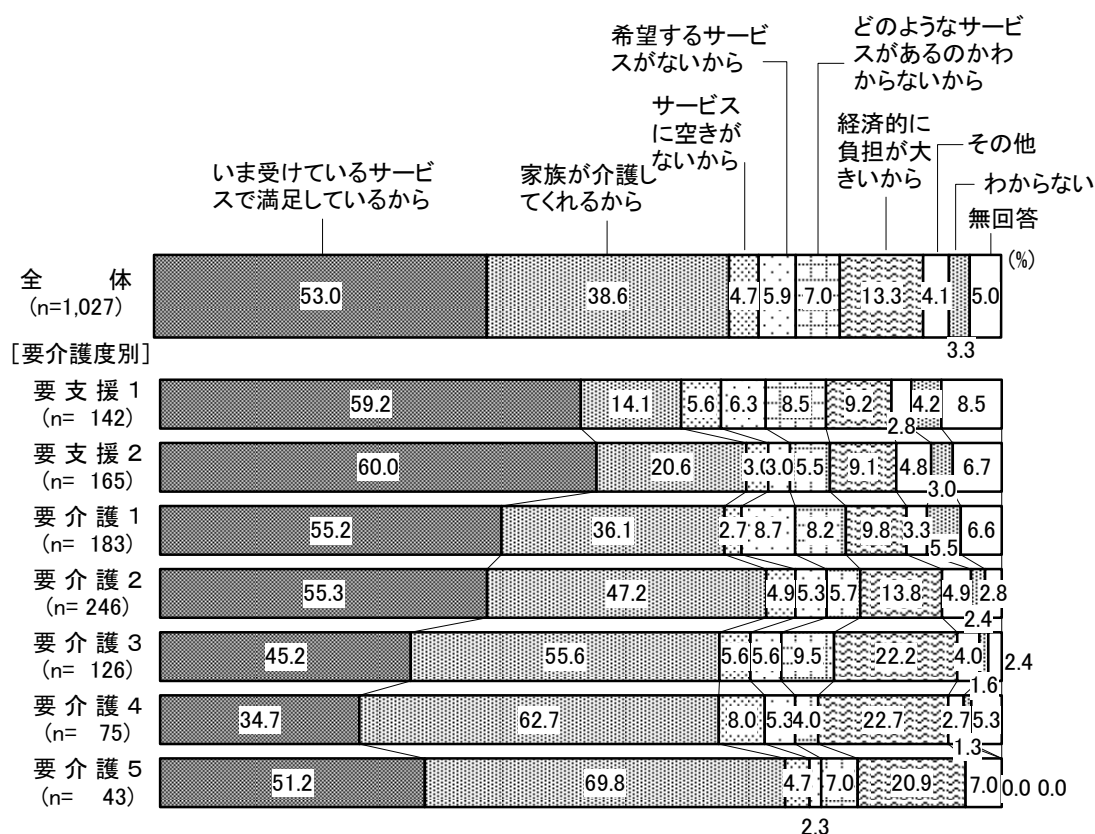
「利用限度額に入っている」と回答した人（7.5%）にその理由をたずねたところ、「いま受けているサービスで満足しているから（53.0%）」が最も多く、「家族が介護してくれるから（38.6%）」、「経済的に負担が大きいから（13.3%）」、「どのようなサービスがあるかわからないから（7.0%）」が続いている。

要介護度別にみると、「家族が介護してくれるから」は要介護度が重いほど割合が高く、「いま受けているサービスで満足しているから」は要介護度が軽いほど割合が高くなる傾向がある。（図表 2－3－8）

図表 2－3－8 介護保険サービスの利用料が限度額内の理由

<利用限度額内と回答した人>

（全体、要介護度別：複数回答）

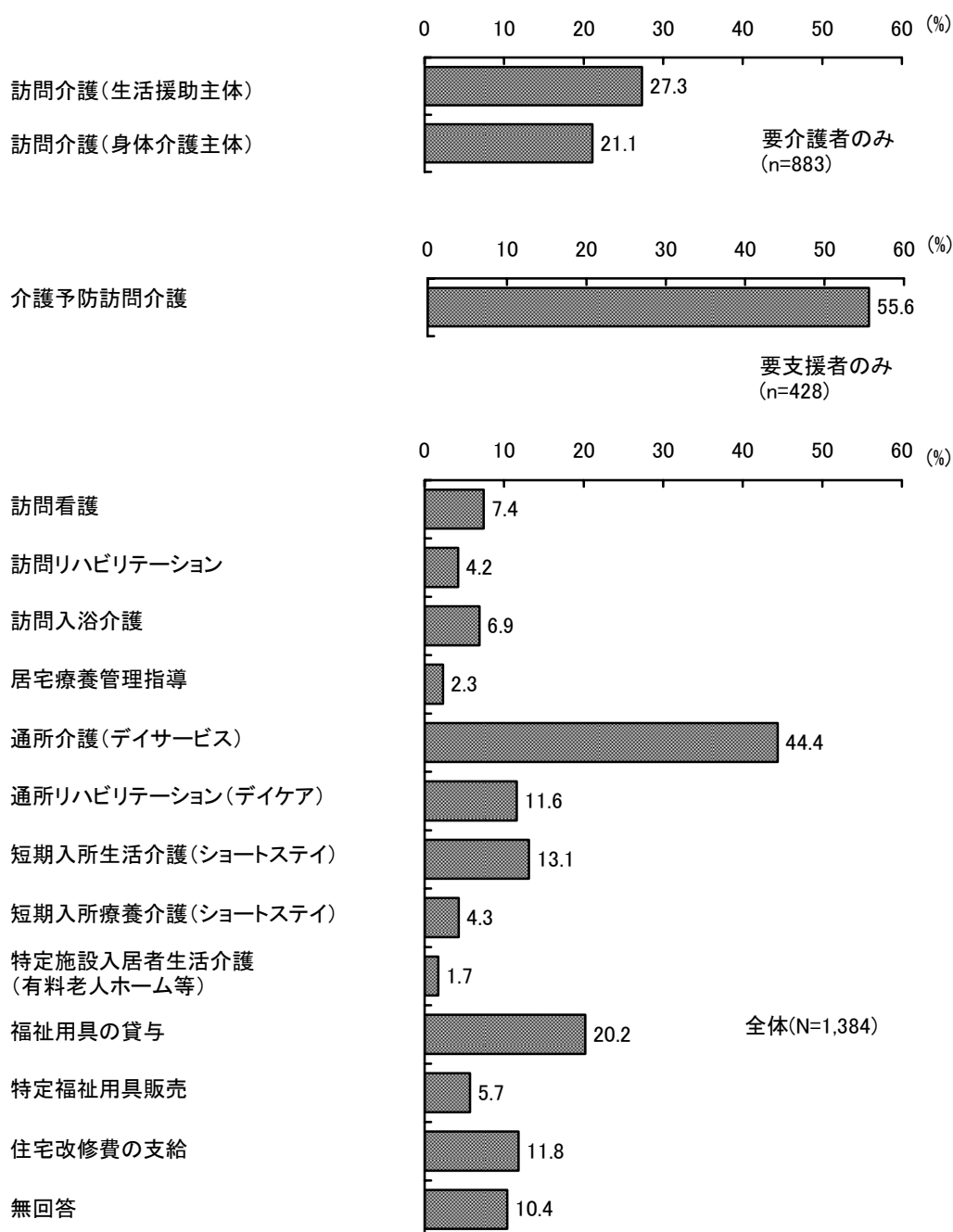


⑨ 居宅サービスの利用状況（問8）

訪問介護の利用は、要支援者対象の「介護予防訪問介護（55.6%）」が5割以上、要介護者対象の「訪問介護（生活援助主体）（27.3%）」が3割弱、「訪問介護（身体介護主体）（21.1%）」が2割強である。

訪問介護以外のサービスでは「通所介護（デイサービス）（44.4%）」が最も多く、「福祉用具の貸与（20.2%）」、「短期入所生活介護（ショートステイ）（13.1%）」、「通所リハビリテーション（デイケア）（11.6%）」が続いている（図表2-3-9-①）。

図表2-3-9-① 居宅サービスの利用状況（全体）



訪問介護の利用状況は、要介護度別にみると、「訪問介護（生活援助主体）」では、介護度が重くなるほど、利用状況は減少している。「訪問介護（身体介護主体）」では、介護度が重くなるにつれて、利用状況は上がっている。「介護予防訪問介護」では、要支援１、要支援２ともに５割台である（図表２－３－９－②）。

図表２－３－９－② 居宅サービスの利用状況（訪問介護）
（全体、要介護度別、地域別）

		(%)				(%)	
		訪問介護 (生活援助主体)	訪問介護 (身体介護主体)			介護予防訪問介護	
全 体 (n=883)		30.5	22.1	全 体 (n=428)		55.6	
要介護度別	要 介 護 １ (n=238)	37.0	13.9	要介護度別	要 支 援 １ (n=213)	55.9	
	要 介 護 ２ (n=317)	31.9	15.8		要 支 援 ２ (n=215)	55.3	
	要 介 護 ３ (n=164)	17.7	22.0	地域別	第 一 地 区 (n= 64)	62.5	
	要 介 護 ４ (n=102)	16.7	35.3		第 二 地 区 (n= 84)	53.6	
	要 介 護 ５ (n= 62)	9.7	50.0		第 三 地 区 (n= 98)	55.1	
地域別	第 一 地 区 (n=197)	27.4	17.3		第 四 地 区 (n= 70)	58.6	
	第 二 地 区 (n=145)	27.6	20.0		第 五 地 区 (n= 51)	49.0	
	第 三 地 区 (n=138)	31.2	24.6		第 六 地 区 (n= 42)	57.1	
	第 四 地 区 (n=140)	26.4	20.7				
	第 五 地 区 (n=112)	27.7	21.4				
	第 六 地 区 (n=132)	24.2	23.5				

※要支援者のみ

※要介護者のみ

第3章 各調査の結果

訪問介護以外のサービスの利用状況は、要介護度別にみると、要介護4までは「通所介護」が最も多くなっている。また、要介護4は「福祉用具の貸与」が5割を超えている。要介護5は「福祉用具の貸与(67.7%)」が最も多く、「訪問入浴介護(46.8%)」、「訪問看護(41.9%)」が続いている（図表2-3-9-③）。

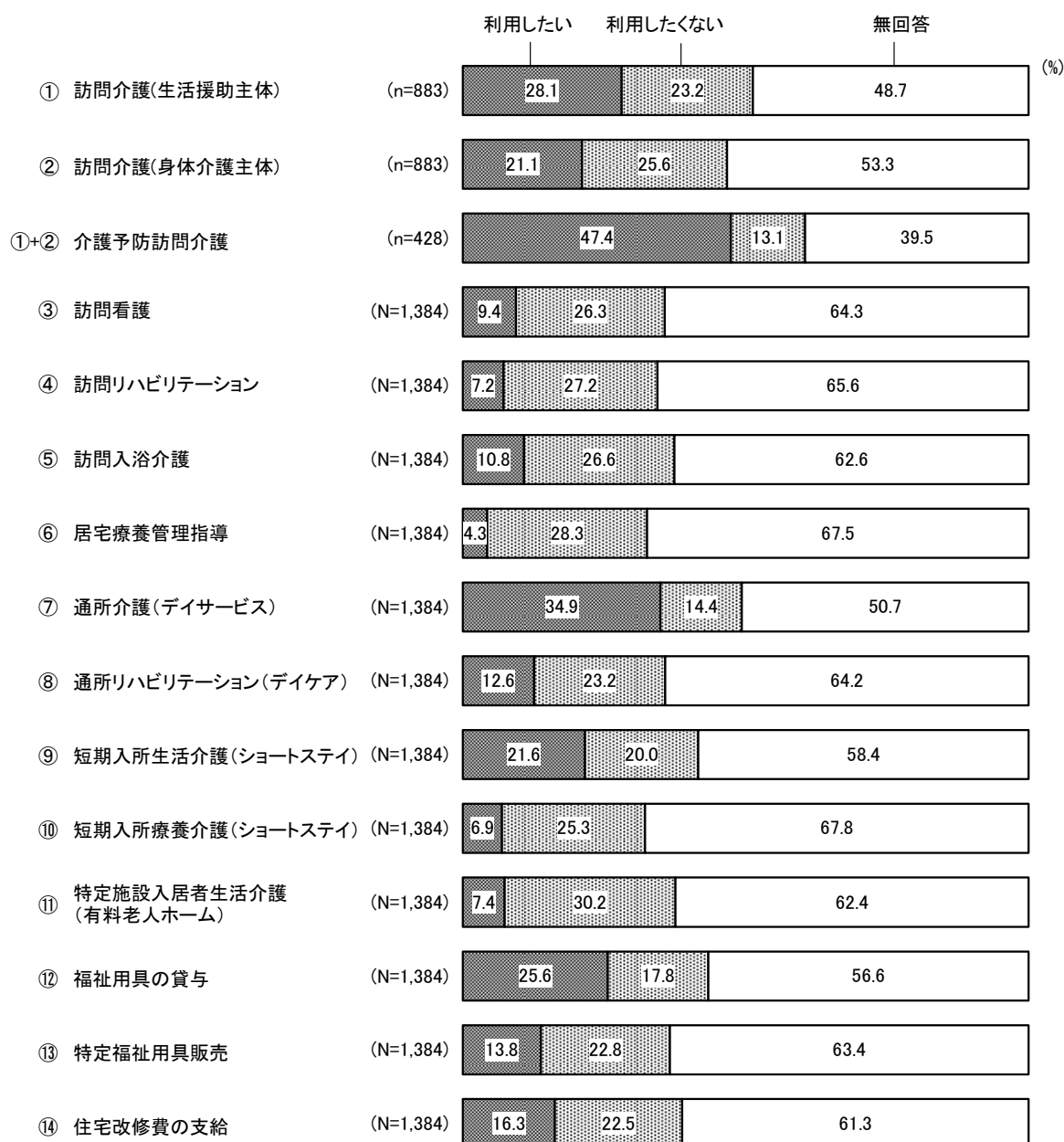
図表2-3-9-③ 居宅サービスの利用状況（訪問介護以外のサービス）
（全体、要介護度別、地域別）

		(%)												
		訪問看護	訪問リハビリテーション	訪問入浴介護	居宅療養管理指導	通所介護（デイサービス）	通所リハビリテーション（デイケア）	短期入所生活介護（ショートステイ）	短期入所療養介護（ショートステイ）	特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）	福祉用具の貸与	特定福祉用具販売	住宅改修費の支給	無回答
全 体 (N=1,384)		7.4	4.2	6.9	2.3	44.4	11.6	13.1	4.3	1.7	20.2	5.7	11.8	10.4
要介護度別	要 支 援 1 (n= 213)	2.3	1.9	1.9	0.0	24.4	7.0	0.5	0.0	1.9	2.8	0.9	7.0	17.4
	要 支 援 2 (n= 215)	4.2	1.9	3.3	1.9	31.2	15.3	3.7	2.3	0.9	6.5	5.6	7.4	13.0
	要 介 護 1 (n= 238)	4.6	2.5	0.8	0.8	45.4	11.8	10.1	1.3	2.1	9.2	2.5	10.1	9.7
	要 介 護 2 (n= 317)	5.4	3.2	5.4	1.3	56.2	12.0	15.1	5.7	0.9	23.7	6.3	11.7	7.9
	要 介 護 3 (n= 164)	6.7	4.9	7.3	2.4	67.1	14.0	28.0	10.4	3.0	34.8	6.7	15.9	4.9
	要 介 護 4 (n= 102)	14.7	10.8	16.7	8.8	56.9	11.8	31.4	8.8	3.9	54.9	14.7	26.5	3.9
	要 介 護 5 (n= 62)	41.9	17.7	46.8	12.9	29.0	9.7	27.4	8.1	1.6	67.7	11.3	12.9	3.2
地域別	第 一 地 区 (n= 265)	10.6	3.8	6.8	3.8	45.3	15.5	14.7	5.7	0.4	25.7	4.5	10.2	7.9
	第 二 地 区 (n= 237)	8.4	2.1	7.6	2.5	44.3	8.9	8.9	3.4	2.1	15.2	3.4	11.4	13.5
	第 三 地 区 (n= 238)	2.9	4.6	6.3	1.3	45.8	8.8	12.2	3.4	1.3	15.5	5.5	13.4	11.3
	第 四 地 区 (n= 212)	5.2	4.2	7.5	1.4	39.2	11.3	9.4	6.6	2.4	21.2	4.2	9.0	10.4
	第 五 地 区 (n= 167)	9.0	4.8	6.0	3.0	45.5	9.0	19.8	2.4	1.8	23.4	8.4	10.8	10.8
	第 六 地 区 (n= 178)	7.9	5.6	6.2	2.2	52.2	18.5	18.5	4.5	2.2	24.2	9.0	16.3	5.6

⑩ 介護保険サービスの利用意向（問9）

利用したい居宅サービスは、「介護予防訪問介護（47.4%）」が最も多く、「通所介護（デイサービス）（34.9%）」、「訪問介護（生活援助主体）（28.1%）」、「短期入所生活介護（ショートステイ）（21.6%）」、「訪問介護（身体介護主体）（21.1%）」が続いている（図表2-3-10-①）。

図表2-3-10-① 居宅サービスの利用意向（全体）



第3章 各調査の結果

訪問介護の利用意向は、要介護度別にみると、要介護1、要介護2は「訪問介護（生活援助主体）」が3割を超えている。要介護5は「訪問介護（身体介護主体）」が4割を超えている。要支援1、要支援2ともに「介護予防訪問介護」が4割台後半である（図表2-3-10-②）。

図表2-3-10-② 居宅サービスの利用意向（訪問介護）
（全体、要介護度別、地域別）

		(%)				(%)	
		訪問介護 (生活援助主体)	訪問介護 (身体介護主体)			介護予防訪問介護	
全 体 (n=883)		28.1	21.1	全 体 (n=428)		47.4	
要介護度別	要介護1 (n=238)	37.8	18.5	要介護度別	要支援1 (n=213)	46.9	
	要介護2 (n=317)	32.2	18.0		要支援2 (n=215)	47.9	
	要介護3 (n=164)	16.5	20.1	地域別	第一地区 (n=64)	53.1	
	要介護4 (n=102)	14.7	25.5		第二地区 (n=84)	44.0	
	要介護5 (n=62)	22.6	41.9		第三地区 (n=98)	49.0	
地域別	第一地区 (n=197)	28.4	16.8		第四地区 (n=70)	41.4	
	第二地区 (n=145)	24.1	22.1		第五地区 (n=51)	49.0	
	第三地区 (n=138)	35.5	23.9		第六地区 (n=42)	52.4	
	第四地区 (n=140)	27.9	24.3				
	第五地区 (n=112)	25.0	15.2				
	第六地区 (n=132)	28.0	25.8				

※要介護者のみ

※要支援者のみ

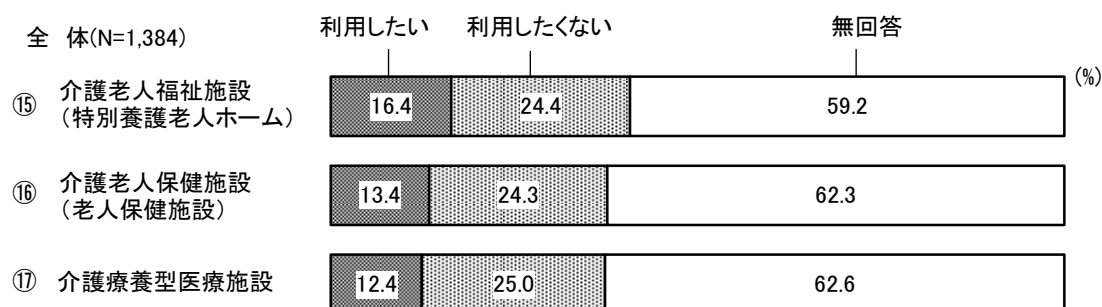
訪問介護以外のサービスの利用意向は、要介護度別にみると、要介護４までは「通所介護」が最も多くなっている。要介護５は「福祉用具の貸与（56.5%）」が最も多く、「訪問入浴介護（51.6%）」、「訪問看護（43.5%）」が続いている（図表２－３－10－③）。

図表２－３－10－③ 居宅サービスの利用意向（訪問介護以外のサービス）
（全体、要介護度別、地域別）

		訪問看護	訪問リハビリテーション	訪問入浴介護	居宅療養管理指導	通所介護（デイサービス）	通所リハビリテーション（デイケア）	短期入所生活介護（ショートステイ）	短期入所療養介護（ショートステイ）	特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）	福祉用具の貸与	特定福祉用具販売	住宅改修費の支給
		(%)											
全 体 (N=1,384)		9.4	7.2	10.8	4.3	34.9	12.6	21.6	6.9	7.4	25.6	13.8	16.3
要介護度別	要支援１ (n= 213)	3.8	1.9	3.8	1.9	21.6	8.5	3.8	1.9	8.0	13.1	8.9	10.3
	要支援２ (n= 215)	6.5	5.1	5.1	3.3	27.9	13.0	8.8	2.8	7.9	18.1	12.6	16.3
	要介護１ (n= 238)	8.8	7.6	6.3	3.4	37.0	13.0	21.8	4.2	9.2	24.4	14.3	15.5
	要介護２ (n= 317)	8.5	7.3	9.8	3.2	42.6	14.2	29.7	9.8	6.9	26.8	13.9	16.7
	要介護３ (n= 164)	10.4	10.4	15.9	6.7	46.3	16.5	39.0	14.0	8.5	32.9	14.0	19.5
	要介護４ (n= 102)	10.8	7.8	19.6	6.9	45.1	14.7	31.4	6.9	2.9	42.2	20.6	19.6
	要介護５ (n= 62)	43.5	25.8	51.6	16.1	32.3	12.9	38.7	19.4	8.1	56.5	29.0	29.0
地域別	第一地区 (n= 265)	10.2	6.8	9.8	6.0	34.3	12.5	23.4	6.4	6.8	25.3	14.7	16.6
	第二地区 (n= 237)	8.4	6.3	11.4	3.4	32.9	10.1	18.1	6.8	7.2	24.5	14.8	15.2
	第三地区 (n= 238)	8.0	7.6	12.6	5.0	38.7	14.7	23.9	6.7	11.3	24.8	12.2	16.0
	第四地区 (n= 212)	9.9	6.6	11.3	3.3	34.4	14.6	19.3	9.9	5.7	27.8	15.1	19.3
	第五地区 (n= 167)	10.2	6.6	8.4	2.4	38.9	8.4	22.2	3.6	6.6	28.1	13.8	15.6
	第六地区 (n= 178)	11.2	11.2	12.4	5.1	39.3	19.1	30.3	9.6	9.0	28.1	14.0	18.0

利用したい施設サービスは、３施設とも１割台だが、中では「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（16.4%）」が最も多い（図表２－３－10－④）。

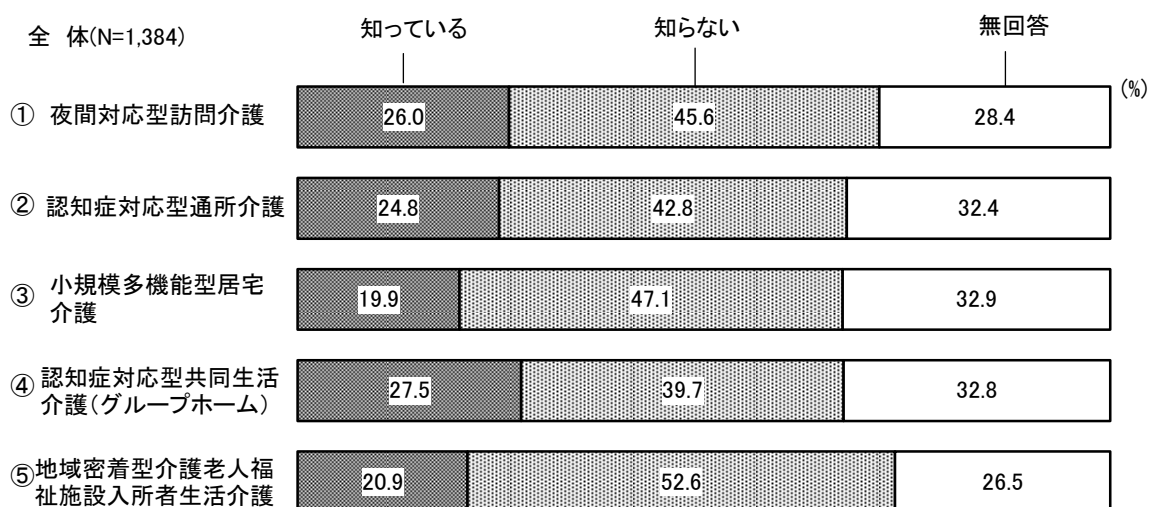
図表２－３－10－④ 施設サービスの利用意向（全体）



⑪ 地域密着型サービスの認識度と利用意向（問 10）

地域密着型サービスについて「知っている」は、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（27.5%）」が最も多く、「夜間対応型訪問介護（26.0%）」、「認知症対応型通所介護（24.8%）」が続いている。いずれのサービスも「知らない」が多く、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」は52.6%と5割以上となっている（図表2－3－11－①）。

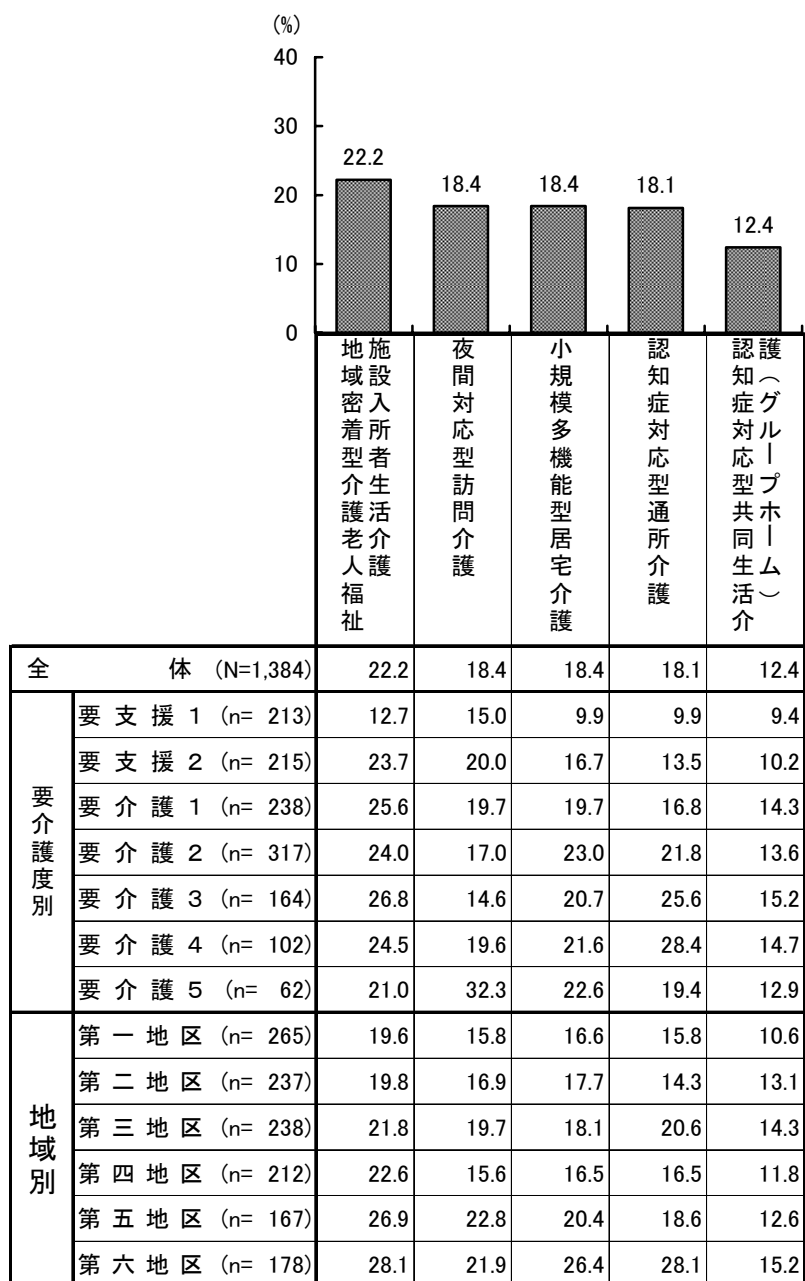
図表2－3－11－① 地域密着型サービスの認識度（全体）



利用意向は、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（22.2%）」が最も多く、「夜間対応型訪問介護」と「小規模多機能型居宅介護」が18.4%で続いている。

要介護度別にみると、「利用したい」は、要支援1と要介護5以外では、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」が他のサービスよりやや多い（図表2－3－11－②）。

図表2－3－11－② 地域密着型サービスの「利用したい」の割合
（全体、要介護度別、地域別）

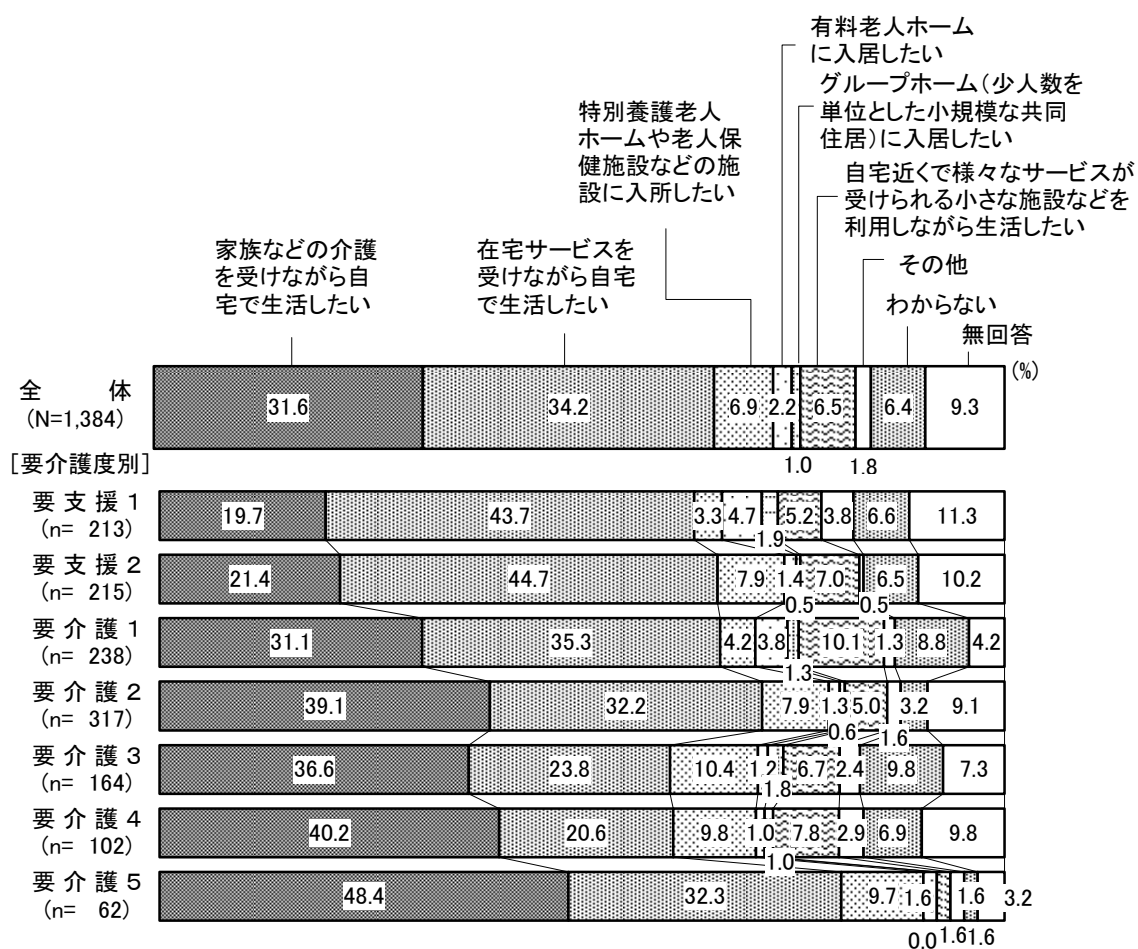


⑫ 今後、生活したい場所（問 11）

今後、生活したい場所は、「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい（34.2%）」、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい（31.6%）」を合わせると6割以上が自宅を希望している。

要介護度別にみると、介護度が重いほど「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい」の割合が多くなっている（図表2-3-12）。

図表2-3-12 今後、生活したい場所
（全体、要介護度別）

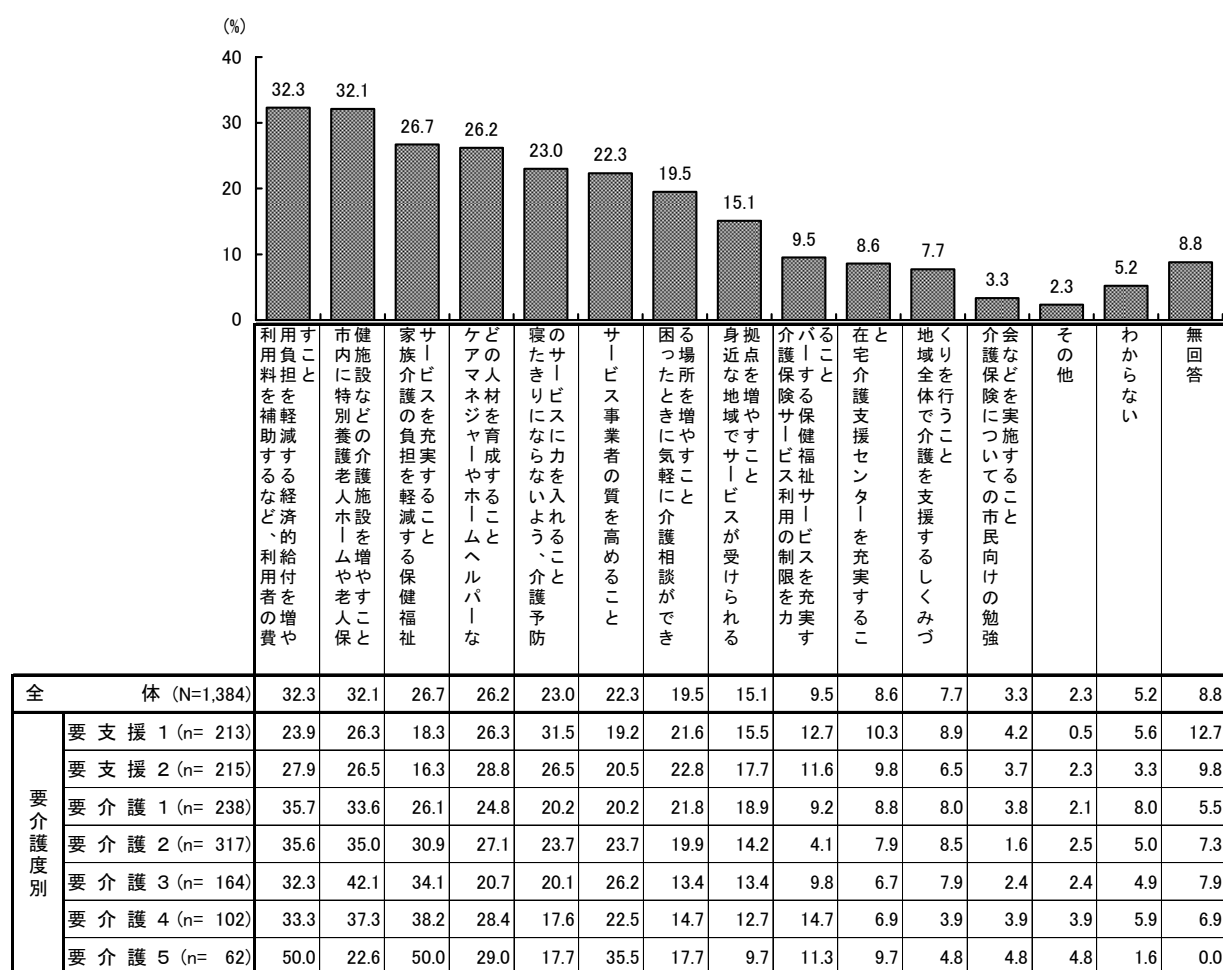


⑬ 介護保険制度を良くするため、市が力を入れるべきこと（問 12）

介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきことは、「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（32.3%）」が最も多く、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（32.1%）」、「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること（26.7%）」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること（26.2%）」、「寝たきりにならないよう介護予防サービスに力を入れること（23.0%）」が続いている。

要介護度別の上位2項目は、要支援1、2では「寝たきりにならないよう介護予防サービスに力を入れること」と「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」、要介護1、2の軽度要介護では「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」と「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」、要介護3以上の重度要介護では「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること」と「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」、となっている（図表2-3-13）。

図表2-3-13 介護保険制度を良くするため、市が力を入れるべきこと
（全体、要介護度別：複数回答）



(4) 利用者本位のサービスのあり方

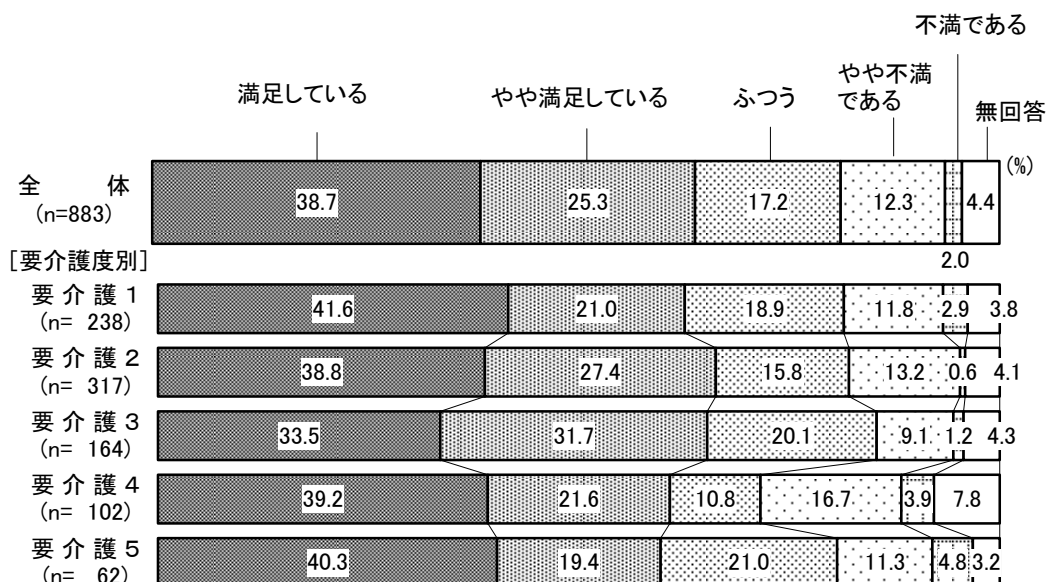
① ケアプランの満足度（問 13）＜要介護者＞

要介護1～5の方のケアプランの満足度については、「満足している（38.7%）」が最も多く、「やや満足している（25.3%）」、「ふつう（17.2%）」が続いている。満足率（「満足している」＋「やや満足している」）は64.0%で、6割を超えている。

要介護度別にみると、要介護度別にあまり大きな違いはないが、要介護1と要介護5で「満足している」がやや多い（図表2－4－1）。

前回調査と比べると「満足している」（前回 40.4%）が微減し、「やや満足している」（前回 18.6%）が増加している。

図表2－4－1 ケアプランの満足度＜要介護者＞（全体、要介護度別）



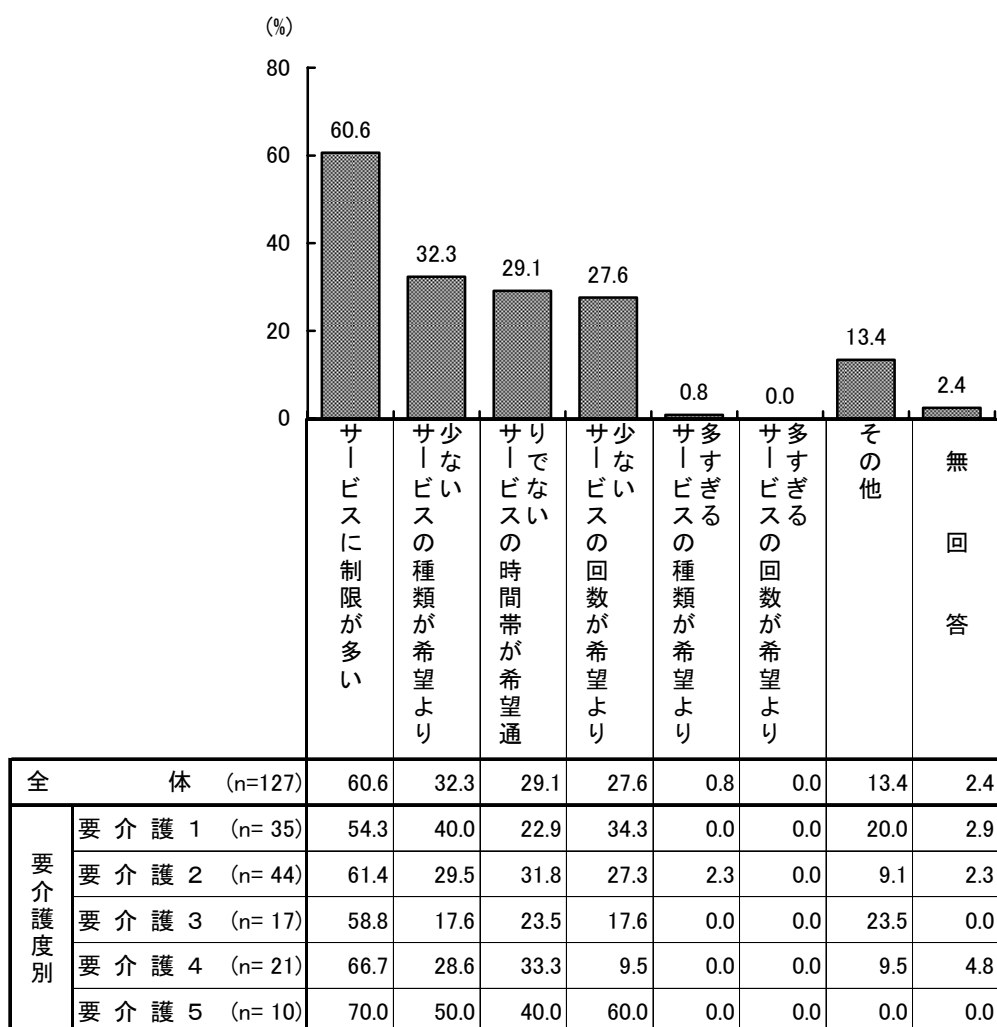
② ケアプランの不满の内容（問 13-1）

ケアプランへの不满の内容については、「サービスに制限が多い（60.6%）」が最も多く、「サービスの種類が希望より少ない（32.3%）」、「サービスの時間帯が希望通りでない（29.1%）」、「サービスの回数が希望より少ない（27.6%）」が続いている。

要介護度別にみると、いずれも「サービスに制限が多い」が最も多いが、要介護4と5では他より多く、7割となっている（図表2-4-2）。

なお、前回調査には、「サービスの制限が多い」という選択肢はなかった。

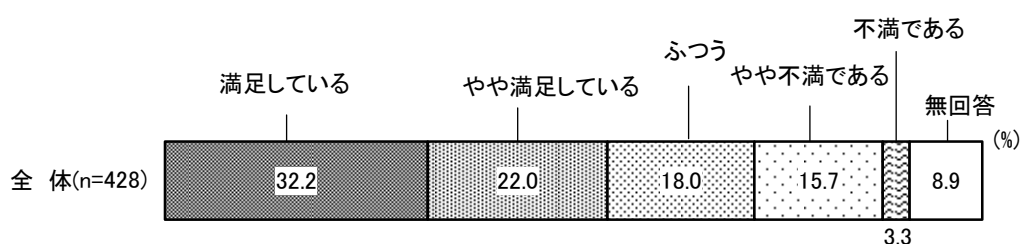
図表2-4-2 ケアプランの不满の内容＜不满と回答した人＞
（全体、要介護度別：複数回答）



③ 介護予防ケアプランの満足度（問 14）＜要支援者＞

要支援1～2の方の介護予防ケアプランの満足度については、「満足している（32.2%）」が最も多く、「やや満足している（22.0%）」、「ふつう（18.0%）」が続いている。満足率（「満足している」＋「やや満足している」）は54.2%で半数強である（図表2－4－3）。

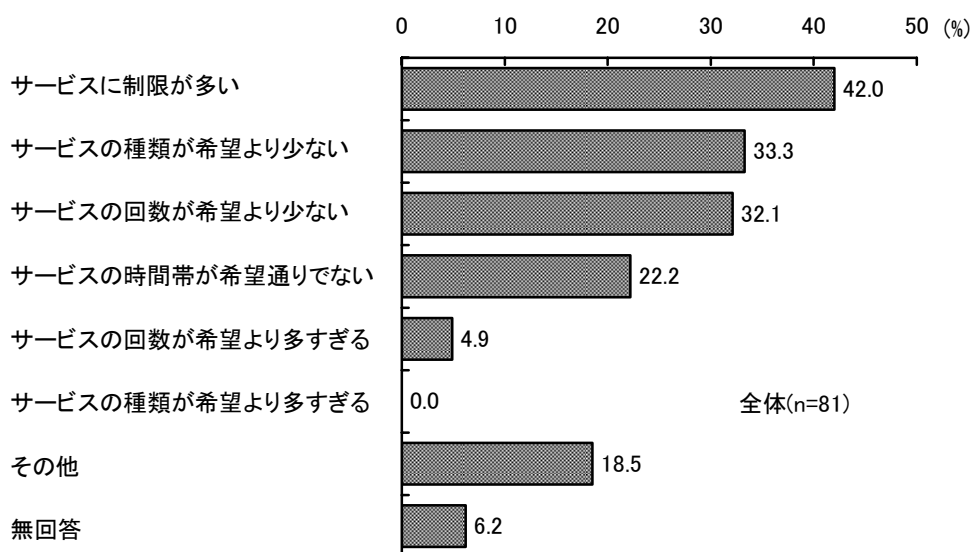
図表2－4－3 介護予防ケアプランの満足度
＜要支援者＞（全体）



④ 介護予防ケアプランの不満の内容（問 14-1）

介護予防ケアプランへの不満の内容については、「サービスに制限が多い（42.0%）」が最も多く、「サービスの種類が希望より少ない（33.3%）」、「サービスの回数が希望より少ない（32.0%）」、「サービスの時間帯が希望通りでない（22.2%）」が続いている（図表2－4－4）。

図表2－4－4 介護予防ケアプランの不満の内容
＜不満と回答した人＞（全体：複数回答）



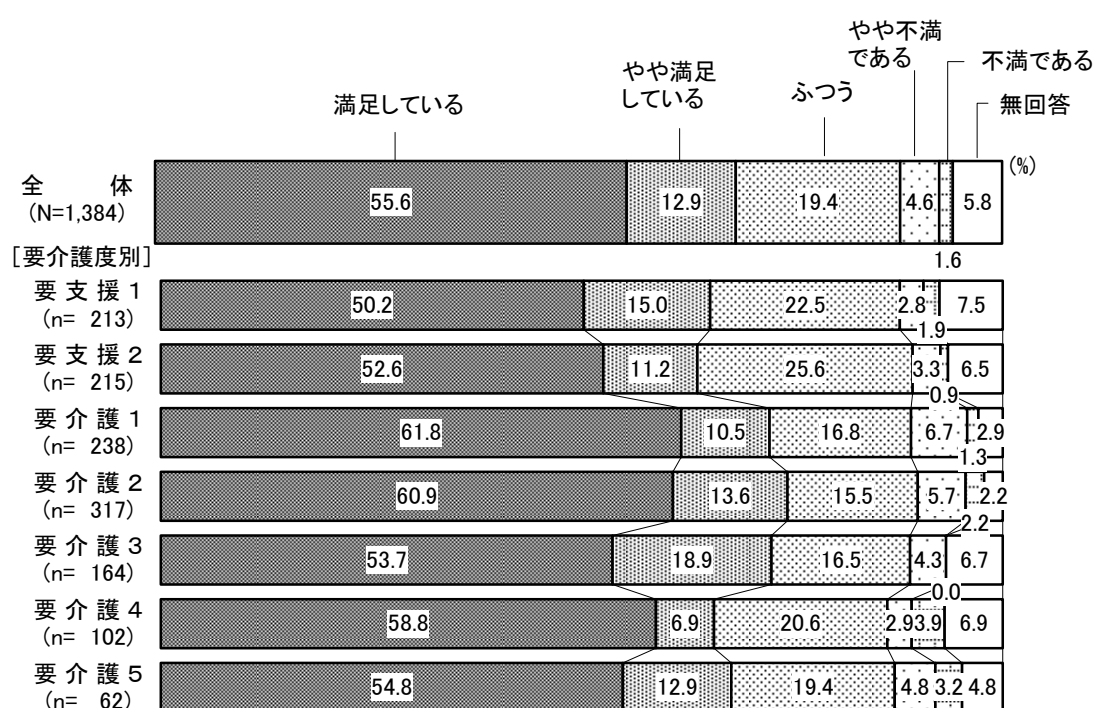
⑤ ケアマネジャーに対する満足度（問 15）

ケアマネジャーに対しては、「満足している（55.6%）」と「やや満足している（12.9%）」を合わせて7割近くが満足している。

要介護度別にみると、「要支援」では満足度がやや低い（図表2-4-5）。

前回調査と比べると、「満足している」が増加している（前は48.3%）。

図表2-4-5 ケアマネジャーに対する満足度（全体、要介護度別）

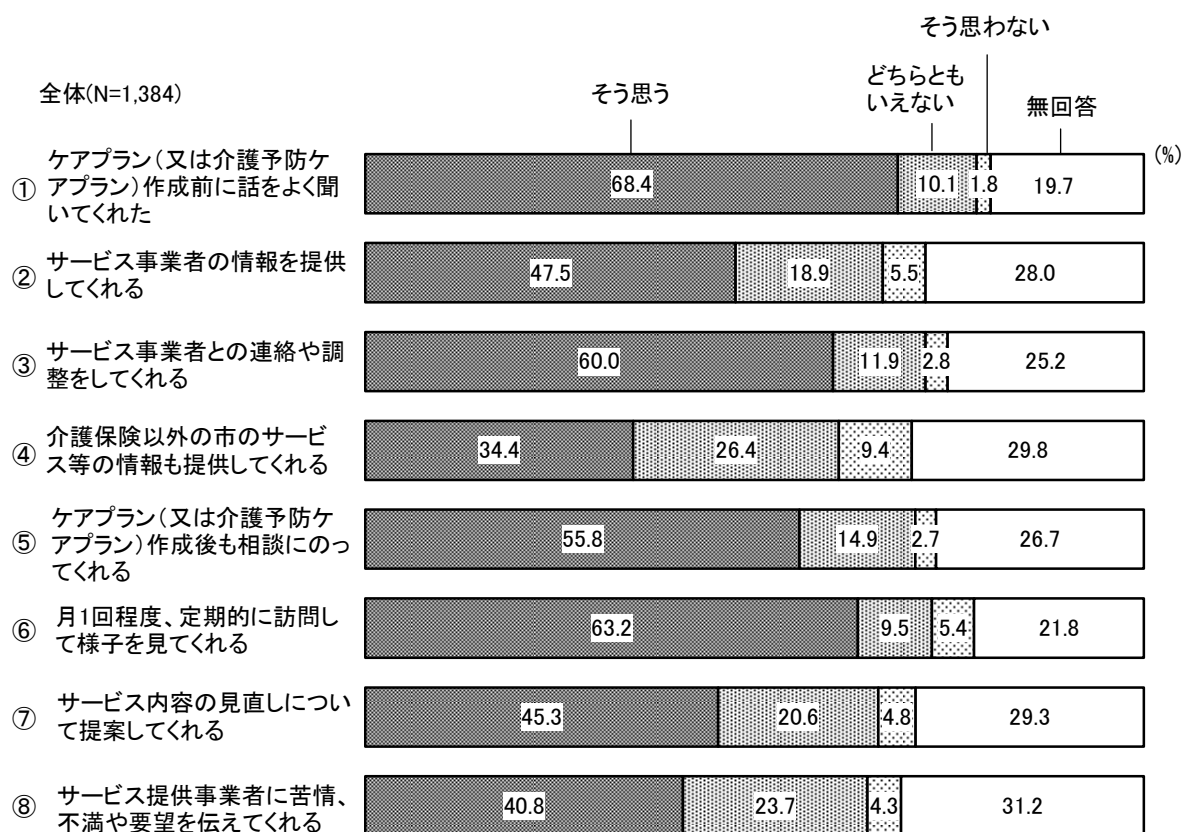


⑥ ケアマネジャーの対応への評価（問 16）

ケアマネジャーの対応への評価で、「そう思う」が5割を超えるのは、「ケアプラン（又は介護予防ケアプラン）作成前に話をよく聞いてくれた（68.4%）」、「月1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる（63.2%）」、「サービス事業者との連絡や調整をしてくれる（60.6%）」、「ケアプラン（又は介護予防ケアプラン）作成後も相談にのってくれる（55.8%）」の4項目である。

「サービス事業者の情報を提供してくれる（47.5%）」、「サービス内容の見直しについて提案してくれる（45.3%）」、「サービス提供事業者に苦情、不満や要望を伝えてくれる（40.8%）」の3項目は「そう思う」が4割台、「介護保険以外の市のサービス等の情報も提供してくれる（34.4%）」は「そう思う」が3割台となっている（図表2-4-6）。

図表2-4-6 ケアマネジャーの対応への評価（全体）

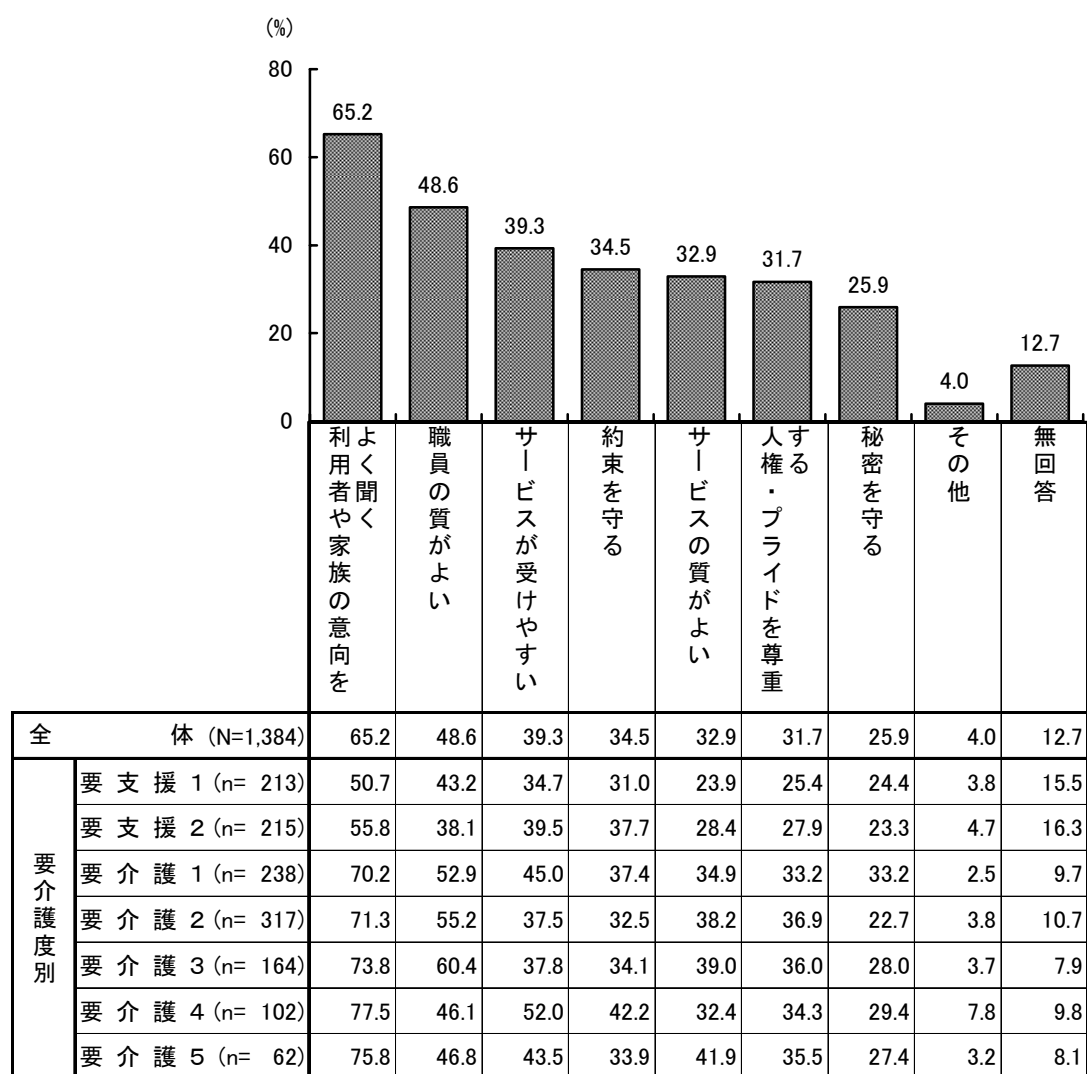


⑦ 介護サービス事業者を評価する点（問 17）

介護サービス事業者を評価する点は、「利用者や家族の意向をよく聞く（65.2%）」が最も多く、「職員の質がよい（48.6%）」、「サービスが受けやすい（39.3%）」、「約束を守る（39.3%）」が続いている。

要介護度別にみると、全体の上位2項目の「利用者や家族の意向をよく聞く」と「職員の質がよい」では、「要支援者」より「要介護者」の方が、評価がやや高い（図表2-4-7）。

図表2-4-7 介護サービス事業者を評価する点（全体、要介護度別：複数回答）

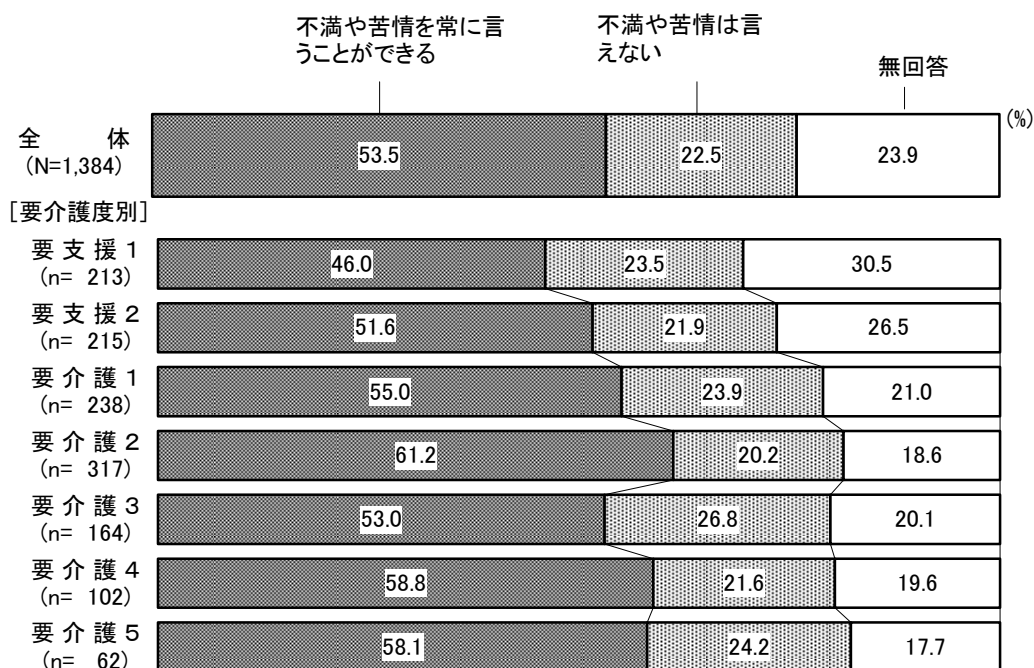


⑧ 介護サービス事業者に不満や苦情を言える環境（問 18）

「不満や苦情を常に言うことができる（53.5%）」が5割を超えているが、「不満や苦情は言えない（22.5%）」は2割強となっている。

要介護度別にみると、要支援では「不満や苦情を常に言うことができる」割合が全体よりやや低い（図表2-4-8）。

図表2-4-8 介護サービス事業に不満や苦情を言うことができる環境の有無
（全体、要介護度別）

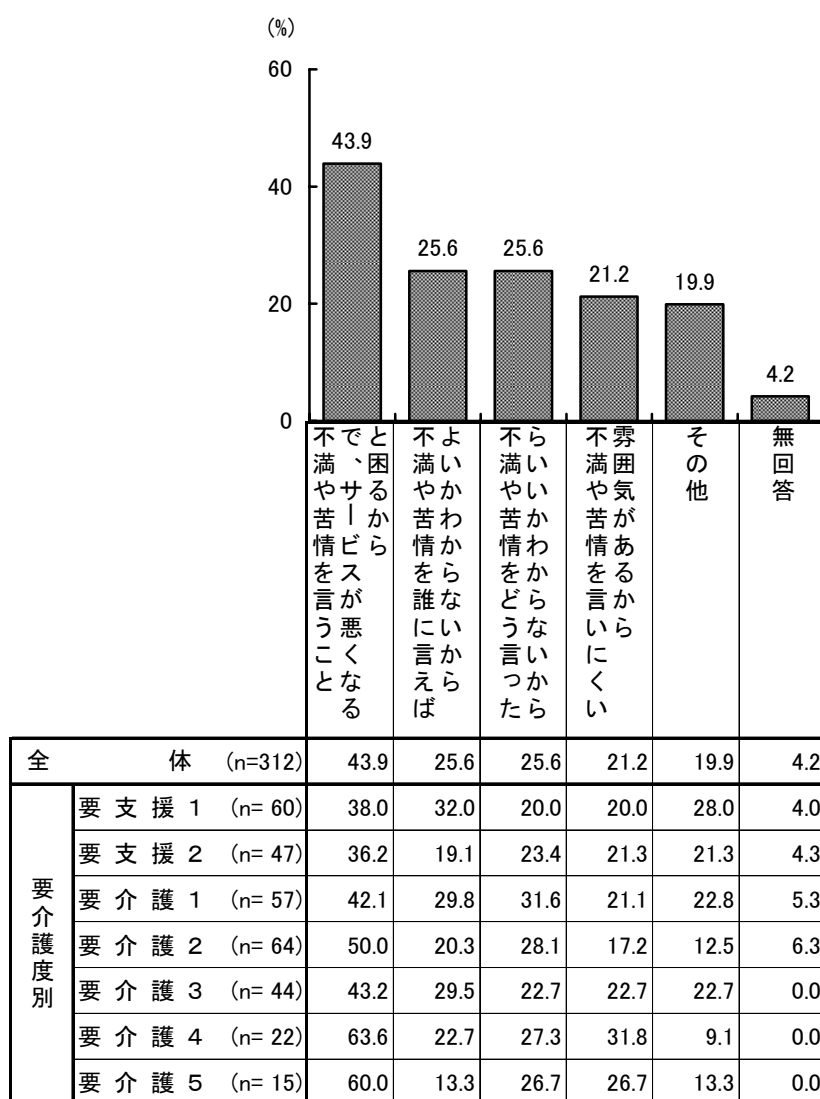


⑨ 不満や苦情を言えない理由（問 18-1）

不満や苦情を言えない理由については、「不満や苦情を言うことで、サービスが悪くなると困るから（43.9%）」が最も多く、「不満や苦情を誰に言えばよいかわからないから」と「不満や苦情をどう言ったらいいかわからないから」が25.6%で続いている。

要介護度別にみると、要介護4と5で「不満や苦情を言うことで、サービスが悪くなると困るから」の割合が特に高く、6割以上である（図表2-4-9）。

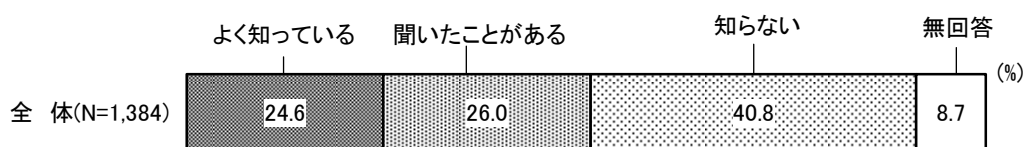
図表2-4-9 不満や苦情を言えない理由＜不満や苦情は言えないと回答した人＞
（全体、要介護度別：複数回答）



⑩ マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の周知状況（問 19）

自分でケアプランや介護予防ケアプランを作成する方法があるのを知っているかどうかをたずねたところ、「知らない（40.8%）」が最も多く、「聞いたことがある（26.0%）」、「よく知っている（24.6%）」が続いている（図表2-4-10）。

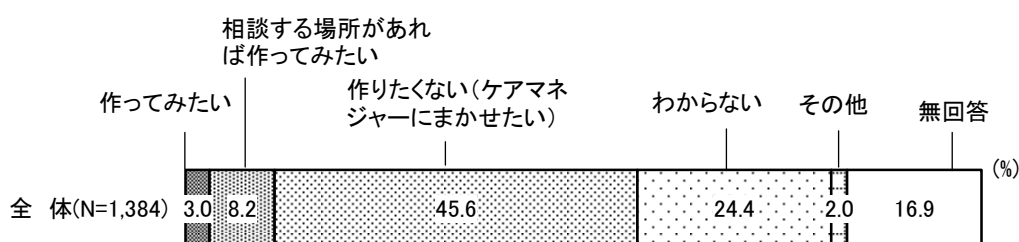
図表2-4-10 マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の周知状況（全体）



⑪ マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の作成意向（問 19-1）

「作りたくない（ケアマネジャーにまかせたい）（45.6%）」が最も多く、次いで「わからない（24.4%）」が続いている。「作ってみたい（3.0%）」、「相談するところがあれば作ってみたい（8.2%）」を合わせると、作ってみたい人が1割程度いることがうかがわれる（図表2-4-11）。

図表2-4-11 マイケアプラン（介護予防マイケアプラン）の作成意向（全体）

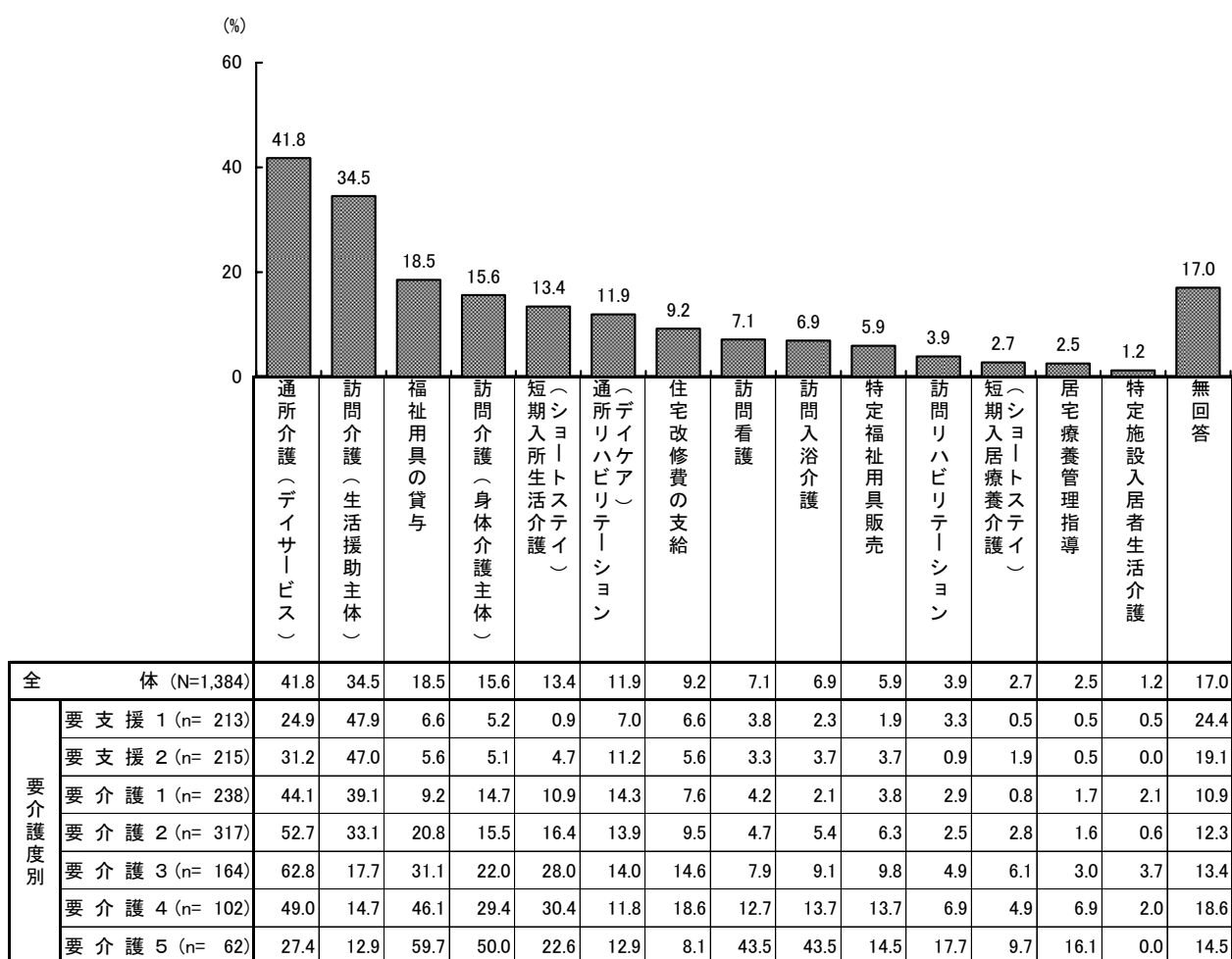


(5) 介護保険サービスの満足度

① 利用している居宅サービス（問 20-A）

利用している居宅サービスは、「通所介護（デイサービス）（41.8%）」が最も多く、「訪問介護（生活援助主体）（34.5%）」、「福祉用具の貸与（18.5%）」、「訪問介護（身体介護主体）（15.6%）」、「短期入所生活介護（ショートステイ）（13.4%）」が続いている（図表2-5-1）。

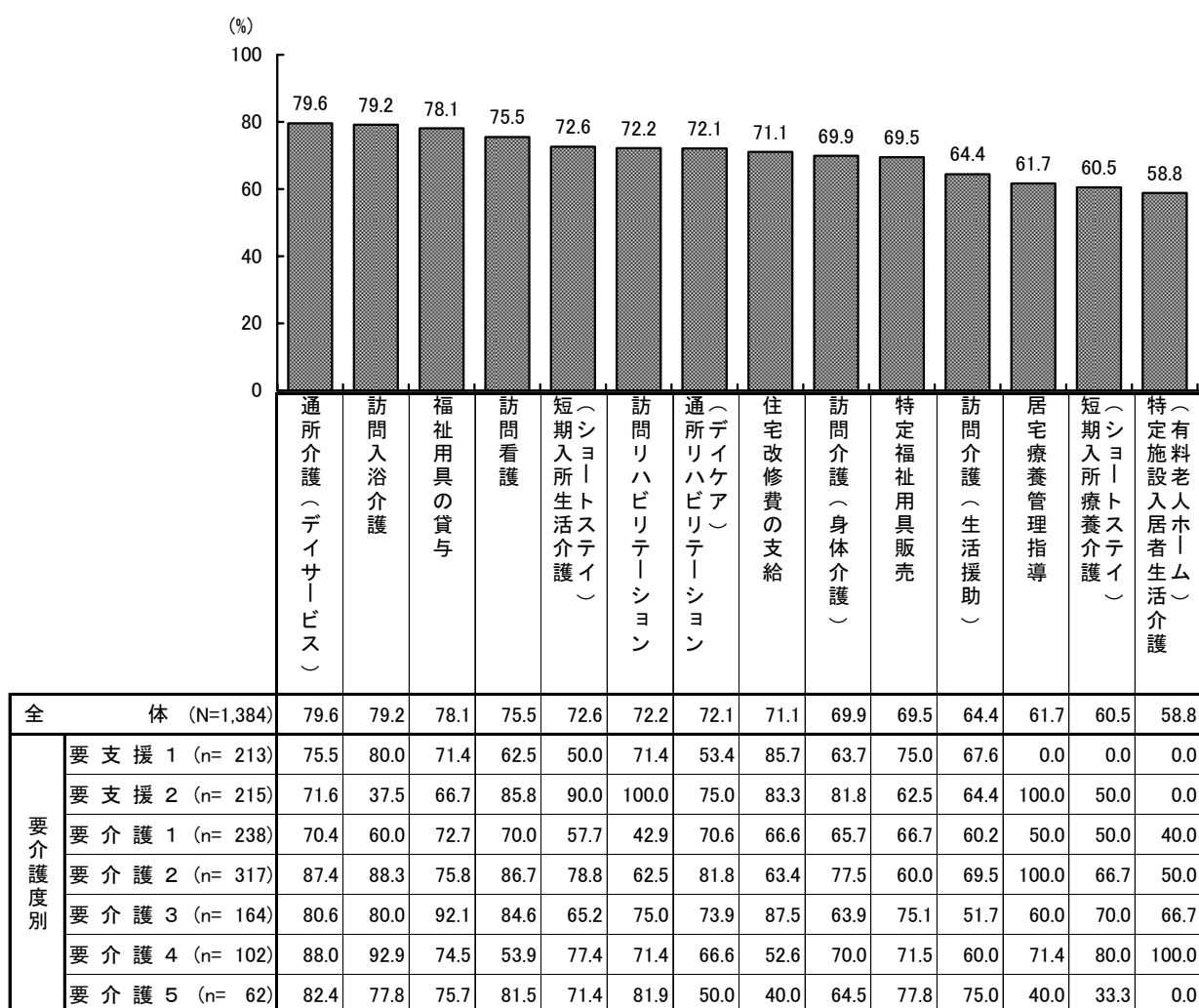
図表2-5-1 利用している居宅サービス（全体、要介護度別）



② 利用している居宅サービスの満足度（問 20－B）

利用している居宅サービスの満足度をたずねたところ、満足度（「満足」、「やや満足」をあわせた割合）は「通所介護（デイサービス）（79.6%）」が最も高く、「訪問入浴介護（79.2%）」、「福祉用具の貸与（78.1%）」が続いている（図表2－5－2）。

図表2－5－2 利用している居宅サービスの満足度（全体）



③ 不満の理由：複数回答（問 20-C）

不満の理由としては、訪問系サービスでは、「回数や時間が足りない」、「技術的に不安を感じる」、「担当者がよく替わる」が上位にあげられている。通所系サービスは、訪問系であげられている不満の他、「利用の日時があわない」があげられている。ショートステイは「利用の日時があわない」が、福祉用具の貸与と住宅改修費の支給では「利用料が高い」が上位にあげられている（図表 2-5-3）。

図表 2-5-3 不満の理由（全体）

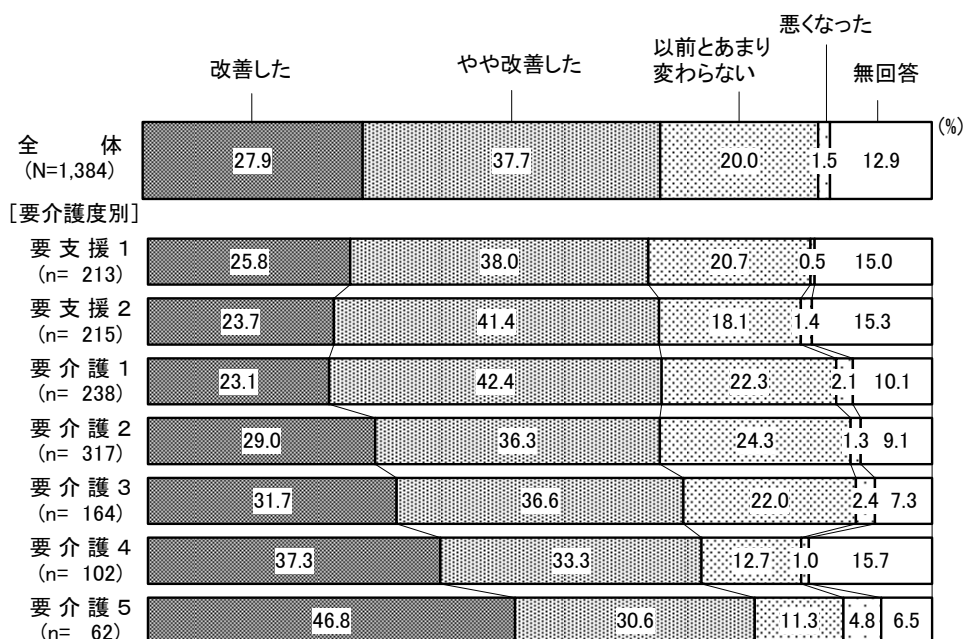
	1位	2位	3位	4位	5位
① 訪問介護（生活援助主体） (n=41)	回数や時間が足りない 53.7	技術的に不安を感じる 12.2	契約内容とサービスが違っている／担当者がよく替わる／担当者とは合わない 7.3		
② 訪問介護（身体介護主体） (n=17)	回数や時間が足りない 29.4	技術的に不安を感じる／担当者がよく替わる 17.6	利用の日時があわない／契約内容とサービスが違っている／緊急時に対応してくれない 11.8		
③ 訪問看護 (n= 5)	利用の日時があわない／技術的に不安を感じる／担当者がよく替わる 20.0			—	—
④ 訪問リハビリテーション (n= 3)	回数や時間が足りない 66.7	利用の日時があわない／不満、要望などを聞いてもらえない 33.3		—	—
⑤ 訪問入浴介護 (n= 5)	担当者がよく替わる 40.0	回数や時間が足りない／利用の日時があわない／利用料が高い 20.0			—
⑥ 居宅療養管理指導 (n= 1)	利用料が高い 100.0	—	—	—	—
⑦ 通所介護（デイサービス） (n=20)	回数や時間が足りない 45.0	利用の日時があわない／契約内容とサービスが違っている／不満、要望などを聞いてもらえない／技術的に不安を感じる 10.0			
⑧ 通所リハビリテーション（デイケア） (n= 8)	回数や時間が足りない／利用の日時があわない／技術的に不安を感じる／不満、要望などを聞いてもらえない／利用料が高い 12.5				
⑨ 短期入所生活介護（ショートステイ） (n=19)	回数や時間が足りない／利用の日時があわない 21.1	緊急時に対応してくれない 15.8	技術的に不安を感じる／担当者とは合わない 10.5		
⑩ 短期入居療養介護（ショートステイ） (n= 2)	利用の日時があわない 50.0	—	—	—	—
⑪ 特定施設入居者生活介護 (n= 2)	担当者がよく替わる／プライバシーへの配慮がない／緊急時に対応してくれない 50.0			—	—
⑫ 福祉用具の貸与 (n= 4)	利用料が高い／緊急時に対応してくれない 25.0	—	—	—	—
⑬ 特定福祉用具販売 (n= 4)	緊急時に対応してくれない 25.0	—	—	—	—
⑭ 住宅改修費の支給 (n= 9)	利用料が高い 22.2	サービス内容についての説明が不十分である 11.1	—	—	—

④ サービス利用後の生活環境や身体状況の変化（問 21）

サービス利用後の生活環境や身体状況の変化は、「改善した（27.9%）」と「やや改善した（37.7%）」を合わせると6割以上が改善している。

要介護度別にみると、「改善した」は介護度が重くなるほど多くなり、「やや改善した」は介護度が軽くなるほど多くなる傾向がみられる（図表2-5-4）。

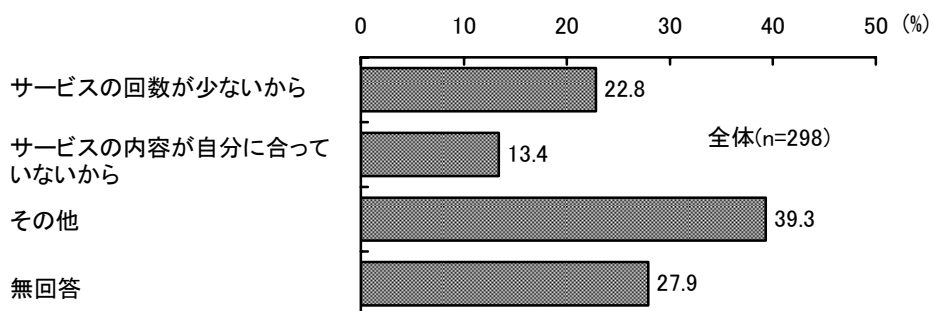
図表2-5-4 サービス利用後の変化（全体、要介護度別）



⑤ 変化がない理由：複数回答（問 21-1）

生活環境や身体状況に変化がない理由は、「サービスの回数が少ないから（22.8%）」が最も多く、「サービスの内容が自分に合っていないから（13.4%）」が続いている（図表2-5-5）。

図表2-5-5 変化がない理由＜変わらない、悪くなったと回答した人＞
（全体：複数回答）



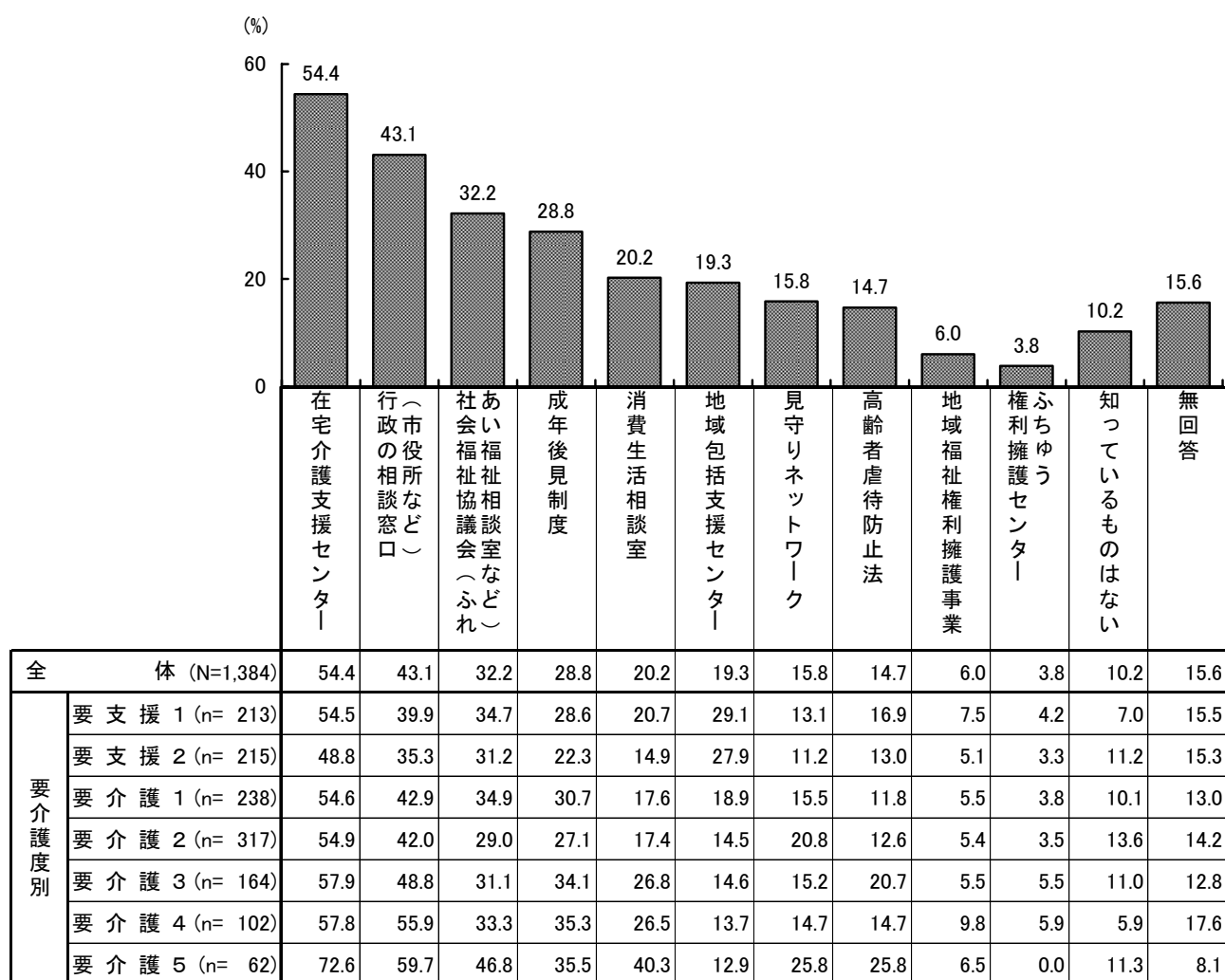
(6) 高齢者の権利擁護

① 権利擁護の制度や相談窓口の周知状況（問 22）

高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口として知っているものは、「在宅介護支援センター（54.4%）」が最も多く、「行政の相談窓口（市役所など）（43.1%）」、「社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室）（32.2%）」、「成年後見制度（28.8%）」、「消費生活相談室（20.2%）」が続いている。「知っているものはない（10.2%）」は約1割である。

要介護度別にみると、周知度の高い在宅介護支援センター、行政の相談窓口、社会福祉協議会、成年後見制度などは、要介護度が重いほど「知っている」割合が増加している（図表2-6-1）。

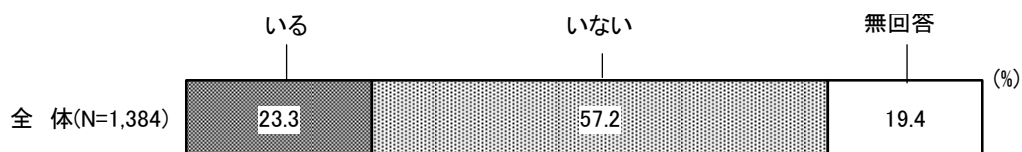
図表2-6-1 高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口の周知
（全体、要介護度別：複数回答）



② 周囲で困っている人の有無（問 23）

周囲で困っている人の有無については、「いる」が23.3%となっている（図表2－6－2）。前回調査と比べると「いる」が増加している（前は19.9%）。

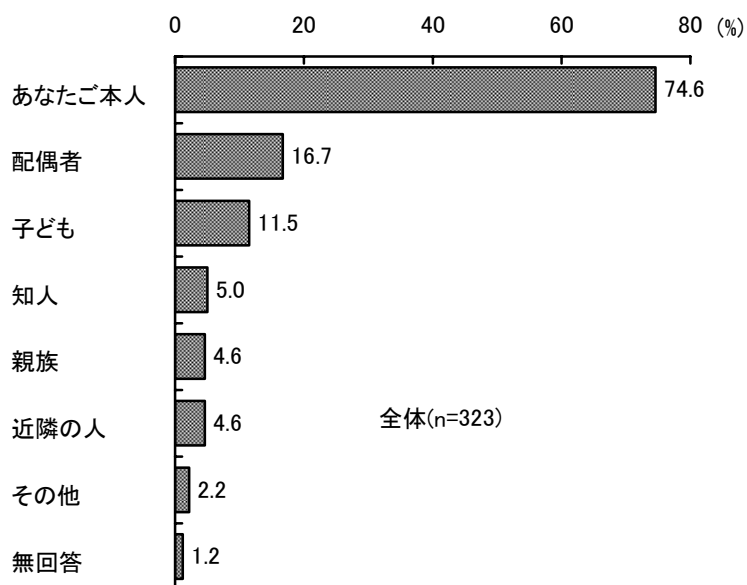
図表2－6－2 周囲で困っている人の有無（全体）



③ 周囲で困っている人（問 23－1）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人に誰かをたずねたところ、「本人（74.6%）」が最も多く、「配偶者（16.7%）」、「子ども（11.5%）」が続いている（図表2－6－3）。前回調査と比べると「本人」が増加している（前は70.0%）。

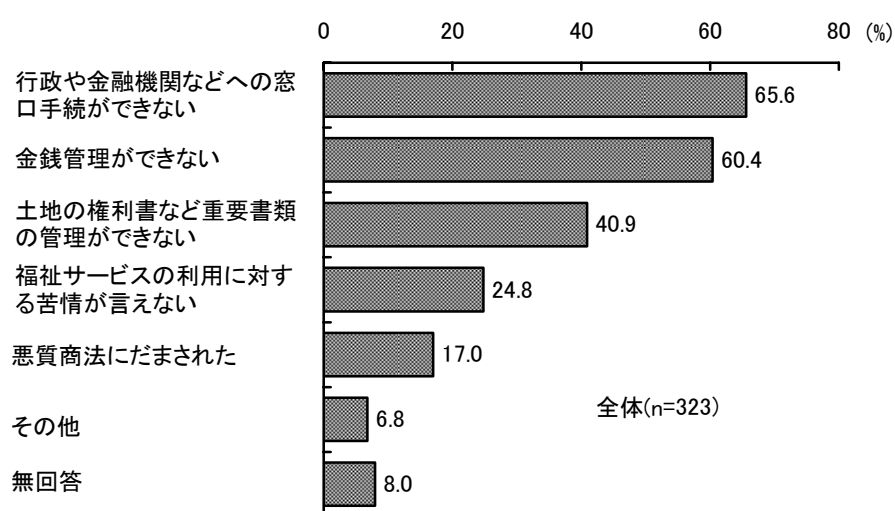
図表2－6－3 周囲で困っている人
＜周囲に困っている人がいると回答した人＞（全体：複数回答）



④ 周囲で困っている人の事例（問 23-2）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人にどのような事例かたずねたところ、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない（65.6%）」が最も多く、「金銭管理ができない（60.4%）」、「土地の権利書など重要書類の管理ができない（40.9%）」、「福祉サービスの利用に対する苦情が言えない（24.8%）」が続いている（図表 2-6-4）。

図表 2-6-4 周囲で困っている人の事例
 <周囲に困っている人がいると回答した人>（全体：複数回答）



⑤ 災害時のための個人情報提供への考え方（問 24）

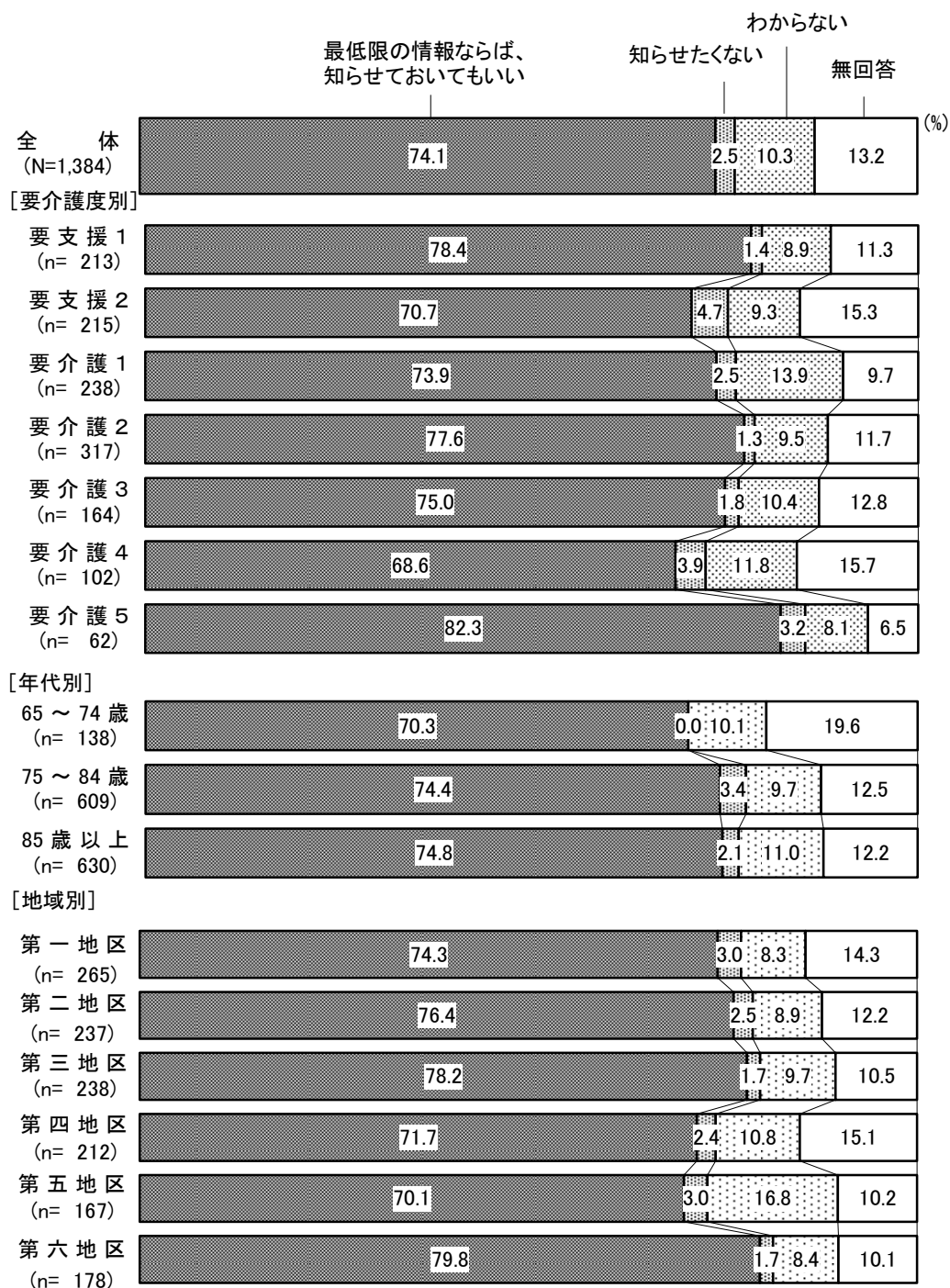
災害時に避難を助けたりするため、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、住所・氏名・連絡先などの個人情報を知らせておくことは「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい（74.1%）」が最も多く 7 割以上である。

要介護度別にみると、要介護 5 では「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい（82.3%）」が 8 割を超えている。

年齢別にみると、高齢の方が「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」の割合が若干高くなる。

地域別では、第四地区と第五地区で「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」の割合が平均より低い（図表 2-6-5）。

図表2-6-5 災害時のための個人情報提供への考え方
(全体、要介護度別、年代別、地域別)

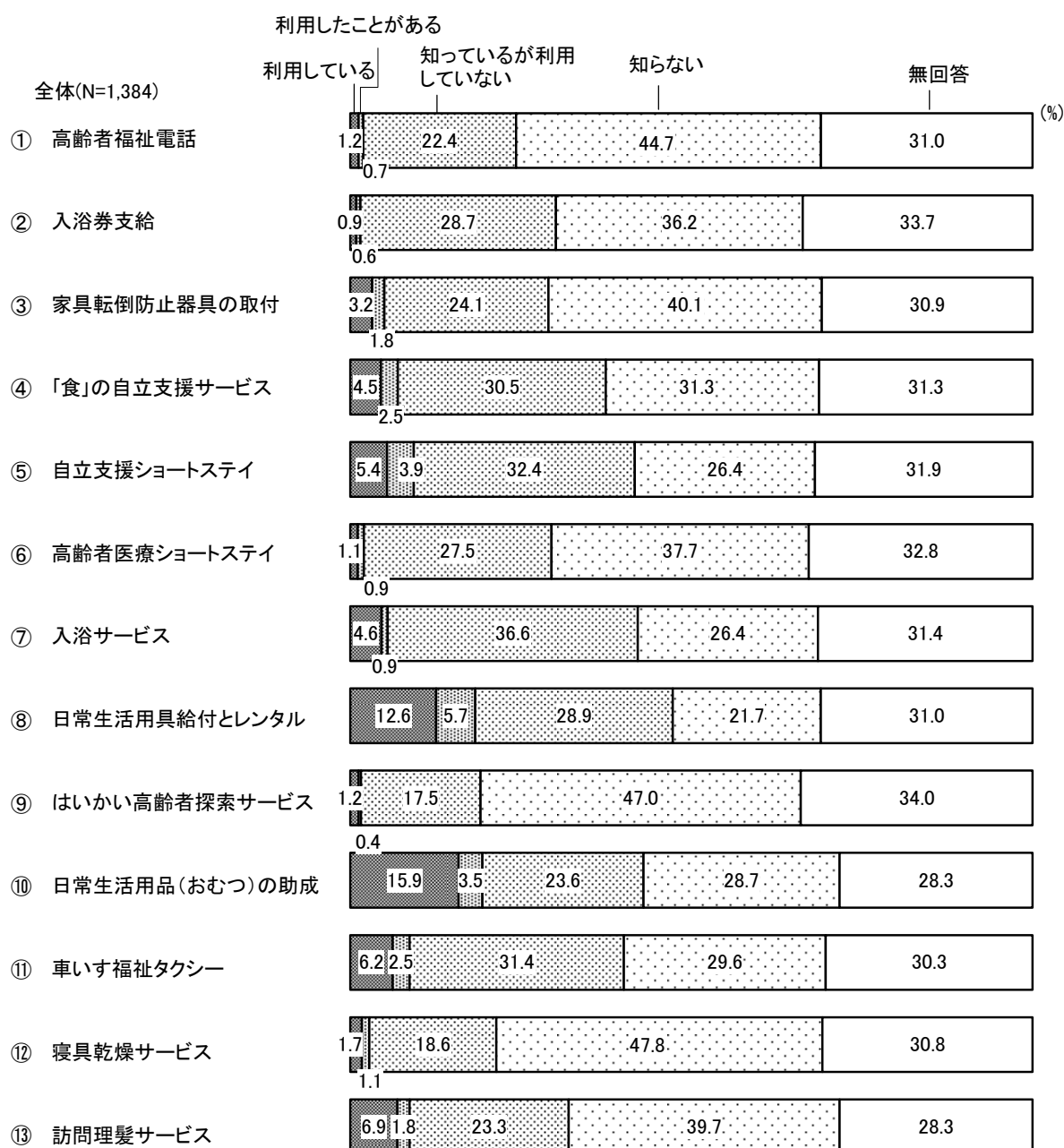


(7) 保健福祉サービス

① 保健福祉サービスの利用状況（問 25①）

保健福祉サービスの利用については、「利用している」は、「日常生活用品（おむつ）の助成（15.9%）」が最も多く、「日常生活用具給付とレンタル（12.6%）」、「訪問理髪サービス（6.9%）」、「車いす福祉タクシー（6.2%）」が続いている（図表2-7-1）。

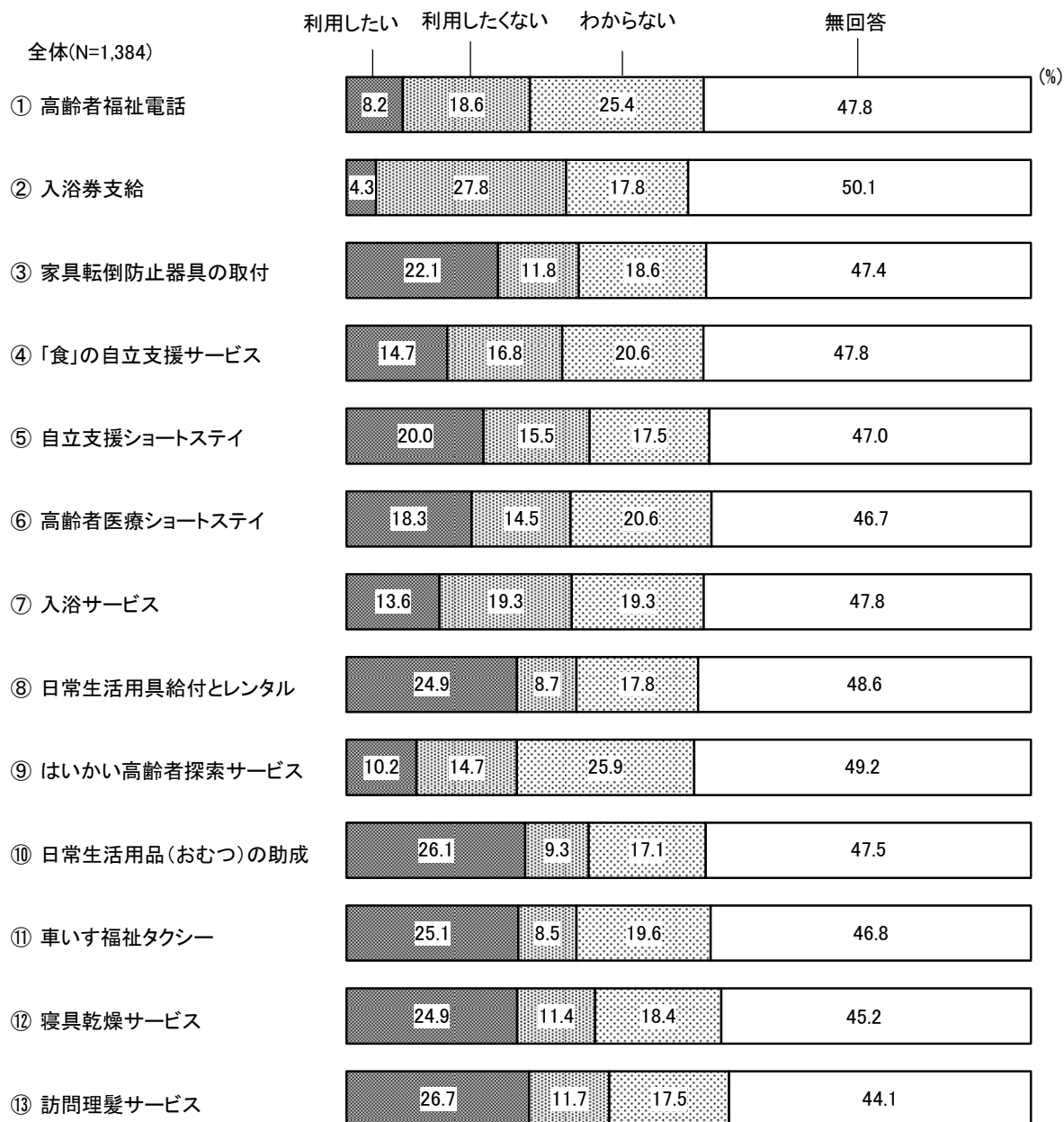
図表2-7-1 保健福祉サービスの利用状況（全体）



② 保健福祉サービスの利用意向（問 25②）

利用意向は、「訪問理髪サービス（26.7%）」が最も多く、「日常生活用品（おむつ）の助成（26.1%）」、「車いす福祉タクシー（25.1%）」が続いている（図表2-7-2）。

図表2-7-2 保健福祉サービスの利用意向（全体）



(8) 市への要望 (問 26)

保健福祉や介護保険について、市への意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で 168 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に家族と書かれている。

在宅サービスについて：32 件

- ・ 昼は介護の者が誰か付き添っているが、夜は帰ってしまうため、要介護者がひとりになってしまうので、その時にケアしてくれる手段を講じてくれればとても安心なのだが。(男性、85～89 歳、要支援 1)【家族】
- ・ 訪問介護は、いつも十分にさせていただく時間がなく残念。何とか 1 回に 2 時間半位やってくれないか。(男性、75～79 歳、要支援 1)
- ・ 生活援助サービスの内容が極めて厳しいので、柔軟にして欲しい。カーテンや椅子カバーの取り外しや洗濯などは、転倒のおそれがあるので、できるように緩めて欲しい。(女性、80～84 歳、要支援 1)
- ・ 利用限度内なら、規定以外のものの貸与も個々の要求に応じて認めて欲しい。お風呂に設置する椅子型シャワーの貸与など、本当に必要なサービスを認めて欲しい。本当にやって欲しいサービスに応用がきかず不便だ。(女性、90 歳以上、要介護 3)【家族】
- ・ 家事援助が本人の生活範囲に限定されるのは非常に不便。トイレ、風呂、台所の共用部分にも使えるようにして欲しい。(女性、70～74 歳、要介護 3)【家族】
- ・ 要支援 1 になって、介護予防サービスを受けていても全容が分からない。プールを利用したいのに稲城市のデイサービスまで通わなければならない。送迎があるものの朝 9 時迎え、午後 4 時送りでは、1 日がつぶれてしまう。府中でプールが使えるデイサービスを希望する。いきいきプラザは要支援 1 の人は使えない。(女性、65～69 歳、要支援 1)【家族】

介護サービスの変化 (平成 18 年 4 月以降) について：6 件

- ・ 4 月以降の介護保険サービスの変更により、自己負担が増した。介護度の見直しを希望する。(女性、85～89 歳、要支援 2)【家族】
- ・ 要介護 1 から要支援 2 に変化した。ヘルパーに頼めないことが多くなり、思いがけないことが頼めなくなった。例えば、雑誌は日用品を売っている店では買えるが、本屋では買えないということが、よく理解できない。他にもいろいろあるが、分かりやすく説明して欲しい。(女性、90～94 歳、要支援 2)
- ・ 今まで軽減してくれていたものが急に止められ、金銭的に大変になってきている。ショートステイを 1 週間お願いしたくても 4～5 日になるし、ヘルパーも今までの半分にしなければならないなど、何のための介護保険かと思う。(女性、90～94 歳、要介護 4)【家族】

要介護認定について：7 件

- ・ 要介護 1 から要支援 2 に認定が変わったが、認定方法が分からない。脳梗塞の後遺症があ

るが、認知症と同じように一見では分かりづらいためか。デイサービスが唯一、外の人との接触の機会で、またリハビリでもあり、楽しみにしていたのに利用が制限された。精神的にうつになり、歩かないので足が弱り始めていて困っている。(女性、80～84 歳、要支援 2)【家族】

- ・ 前年より足の具合が悪く、杖を使用しても時々突然転ぶが、要介護 1 から要支援に認定が変更された。(女性、75～79 歳、要支援 2)
- ・ ひとりで風呂にも入れない、外にも出られない状態で、要介護 2 から、いきなり要支援 2 に変更されたのが不思議でならない。(女性、80～84 歳、要支援 2)【家族】

保険料等について：13 件

- ・ 98 歳。保険料が高すぎる。月 3 万 8 千円の年金で、3 万円を介護サービス料金に払う。月 8 千円でどうやって生活するのか、自宅介護の人には補助金を出して欲しい。(女性、95 歳以上、要介護 4)【家族】
- ・ 介護保険サービスを受けたいが、年金暮らしのため、お金を払ってまでサービスは受けられない。(男性、95 歳以上、要介護 2)
- ・ 昨年突然、市民税を払わされることになった。大変苦しい。(女性、80～84 歳、要介護 1)

移送・送迎サービスについて：13 件

- ・ 車いす福祉タクシーは、医療目的だけでなく使えるようにして欲しい。回数が少なすぎる。(女性、85～89 歳、要介護 3)【家族】
- ・ 介護タクシーを利用しているが、本人だけしか乗ってはいけないといわれている。介護している者が一緒に付き添えるようにして欲しい。(男性、75～79 歳、要介護 2)【家族】
- ・ 車いす福祉タクシー券で利用できる会社が 2 社しかなく、遠すぎて利用できない。タクシー券を 24 枚頂いても、タクシー会社から 30 分以内でないと利用できないので、近くの会社が使えるようにできるとよい。(女性、85～89 歳、要介護 4)【家族】

介護予防について：3 件

- ・ 介護予防教室や介護予防健診などは介護保険サービスを受けている人は除外されているが、少しでもできることがあれば参加して、今より悪くなりたくないと思っているような人はどうすればいいのか。少し融通をきかせていただければ助かるのと思う。費用の点で二重になるのか。広報で答えて欲しい。(女性、75～79 歳、要支援 1)
- ・ いきいきプラザに、週 1 回程度でも、理学療法士を派遣し、その日に限り、要支援 1 クラスの人に自由に器具の利用をさせる、また、必要な器具を設置するなどの予防的・自主的リハビリが可能な体制を設けていただけるとありがたい。大きな財政負担をしなくても、できるサービスはあると思う。例えば生涯学習センターのプールに、リハビリ時間を設けて、水中ウォーキングをするなど、是非、考えていただきたい。(男性、70～74 歳、要支援 1)

介護・福祉・医療についての要望：8件

- ・ひとり暮らしの老人の日常生活について、恒常的に見守るシステムや急な発病へのケアなどを充実して欲しい。(女性、85～89歳、要介護1)【家族】
- ・介護を受けている側になって、1日の実際の生活の流れを体験し、また、現場の人達の意見に耳をかたむけて、何が求められているのか、まず、考え直して欲しい。(女性、85～89歳、要介護3)【家族】
- ・介護保険のいろいろなことが、高齢者にとって煩雑すぎると思う。(女性、80～84歳、要介護1)

施設・住宅に対する要望：8件

- ・特別養護老人ホームに入居したいが、順番待ちで入れない。耐え切れずに8月末に有料老人ホームに入居したが、負担が大きい。(男性、80～84歳、要介護2)【家族】
- ・1部屋広い賃貸住宅で、母の介護をしたいので、家賃補助をして欲しい。(女性、85～89歳、要介護2)【家族】

ヘルパー、ケアマネジャーについて：10件

- ・事業所によってサービスの質が違う。サービスの向上、質の向上をお願いしたい。とても大変な仕事だと思うので、1人でも多く誠意を持って働く人を育てて欲しい。(女性、75～79歳、要介護3)【家族】
- ・サービス事業者、ケアマネジャー、ヘルパーは、全て介護保険が始まった頃のことはすっかり忘れ、利用者本位などありえないことになっていると感じている。料理の全くできないヘルパーを入れてきて、事業者は「惣菜を買ってください」と言う。時間はいつも無断で変わったり、早く帰ったり、プランにある掃除をしてくれなかったり、いろいろある。(女性、75～79歳、要介護3)【家族】
- ・ケアマネジャーが介護保険について詳しい知識を持って、本人、家族に教えてくれるように指導して欲しい。(女性、80～84歳、要介護2)【家族】

情報提供などについて：18件

- ・保健福祉で利用できるシステムが余り知られていない。もっと市民が利用できるようにPRして欲しい。(女性、85～89歳、要支援1)【家族】
- ・年1回くらいでも保健福祉や介護保険の状況を書面で知らせていただければありがたい。(女性、95歳以上、要介護5)【家族】
- ・要支援の更新手続きなど自分でするのか、期間などもよく分からない。ケアマネジャーの仕事内容やかかわり方もよく分からないので、市の福祉の分かりやすい情報があったらよいと思う。(女性、75～79歳、要支援1)
- ・成年後見制度や遺言、相続などの情報、高齢者医療の情報、福祉の情報などが欲しい。(女性、85～89歳、要介護1)
- ・近所に気楽に集まって、おしゃべりしたり、遊んだり出きる所がないか、情報が欲しい。(男

性、65～69 歳、要介護 2)

まちづくりについて：3 件

- ・ 私はバス停で 5 分くらい立っていると腰から足先まで痛くなり、立っているのが辛いので、腰掛がないときは、歩道にスーパーのビニール袋を敷いて座っている。けやき並木には腰掛があるので助かっている。国立のバス停にある真鍮の折りたたみ式の腰掛は場所も取らず良い方法と思う。(女性、85～89 歳、要介護 1)

アンケートについて：4 件

- ・ ひとりでは調査の記入ができない。質問が長すぎ、字が小さすぎる。理解できる文章にして欲しい。(女性、80～84 歳、要支援 2)

行政への要望：13 件

- ・ 困った時に、いろいろな面ですぐ対応できる機関を設置してもらいたい。(女性、75～79 歳、要介護 1)
- ・ 介護保険証、医療受給者証の更新で、旧保険証の返納は、市民健康保険証のように、近くの文化センターに返納できるようにすべきと思う。(男性、75～79 歳、要支援 1)
- ・ 手続きなど、もう少し簡単にしていれば助かる。(女性、80～84 歳、要支援 1)

将来への不安：2 件

- ・ 現在、預金を取り崩して生活しているので、残金が無くなった時、いろいろな保険料などが払えなくなった時、どうするのか不安。(女性、85～89 歳、要介護 2)

満足・感謝：16 件

- ・ 介護に困っている方の報道等を耳にするが、我が家の場合、市の窓口へ出向いて、親切な案内からスタートし、今現在、満足なサービスが受けられているので幸せと思う。(女性、75～79 歳、介護度不明)【家族】

その他：12 件

- ・ 私は 75 歳で足が痛く、85 歳の主人は耳が聞こえなく、足も歩けないので、介護が大変。(女性、75～79 歳、要支援 2)

(9) 介護者の状況・意向

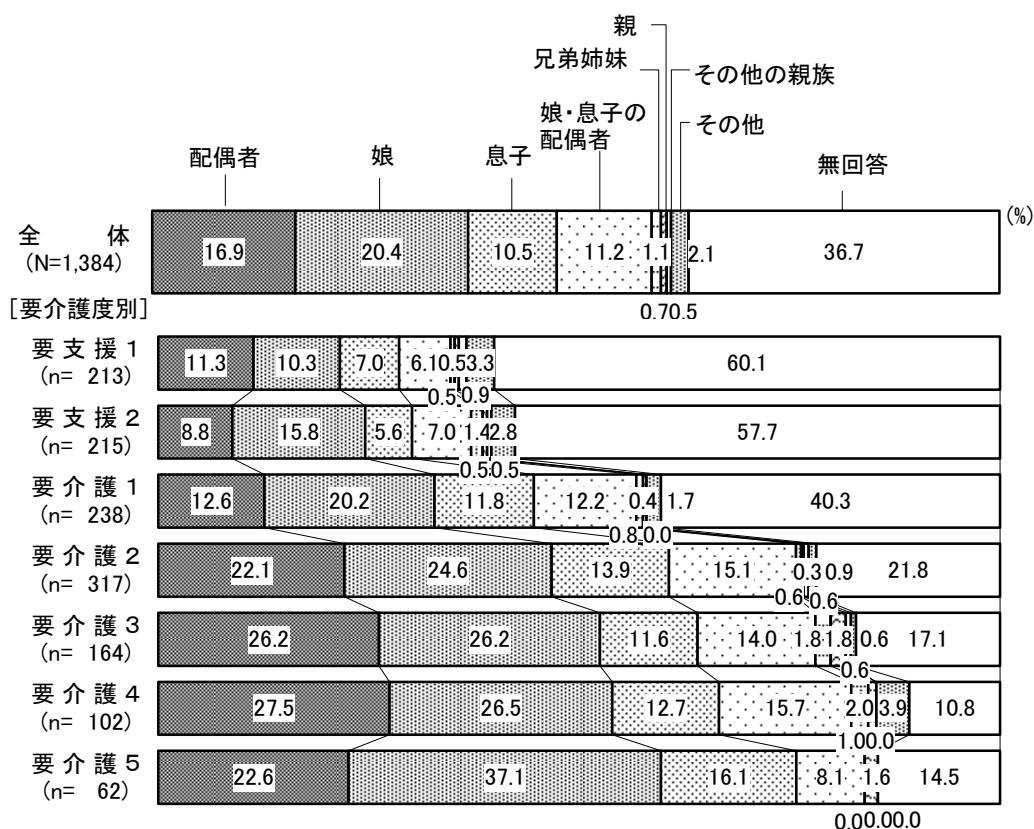
① 主な介護者（問 27）

主な介護者は、「娘（20.4%）」が最も多く、「配偶者（16.9%）」、「娘・息子の配偶者（11.2%）」、「息子（10.5%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにしたがい、娘、息子が多くなっている（図表2-9-1）。

介護者の第1位は前回調査では「配偶者（23.6%）」であったが、今回は「娘（20.4%）」となっている。

図表2-9-1 主な介護者（全体、要介護度別）

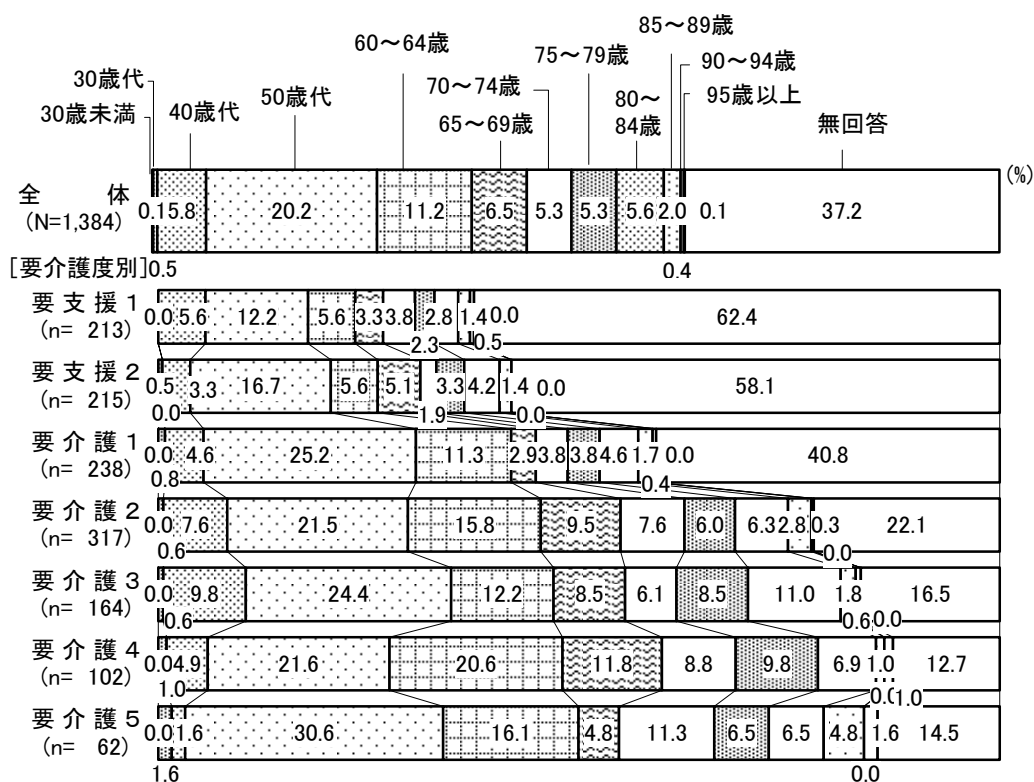


② 主な介護者の年齢（問 28）

主な介護者の年齢は、「50 歳代（20.2%）」が最も多く、「60～64 歳（11.2%）」、「65～69 歳（6.5%）」、「40 歳代（5.8%）」、「80～84 歳（5.6%）」が続いている。75 歳以上の後期高齢者が 13.4%で、1 割以上である。

要介護度別にみると、要介護 5 では「50 歳代」が 3 割と多い。要介護 3 では「80 歳代」が 1 割以上であるなど、重度の要介護者を高齢の家族が介護している状況もうかがわれる（図表 2-9-2）。

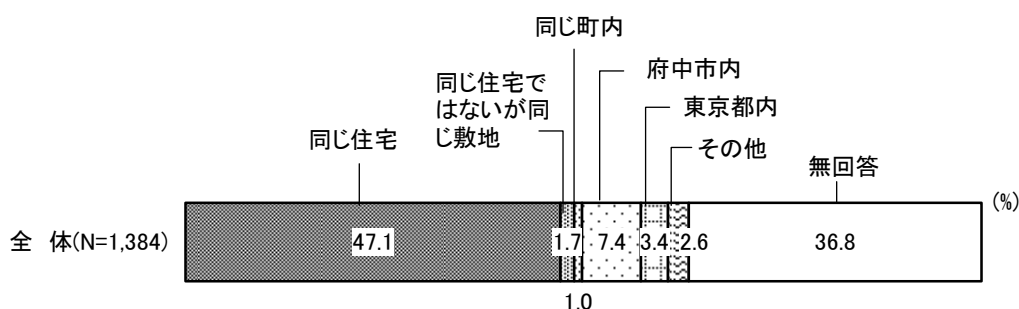
図表 2-9-2 主な介護者の年齢（全体、要介護度別）



③ 主な介護者の居住地（問 29）

主な介護者の居住地は、「同じ住宅（47.1%）」が最も多く、「府中市内（7.4%）」、「東京都内（3.4%）」が続いている。「同じ住宅」、「同じ住宅ではないが同じ敷地」、「同じ町内」を合わせると、同居・隣居・近居が5割である（図表2-9-3）。

図表2-9-3 主な介護者の居住地（全体）

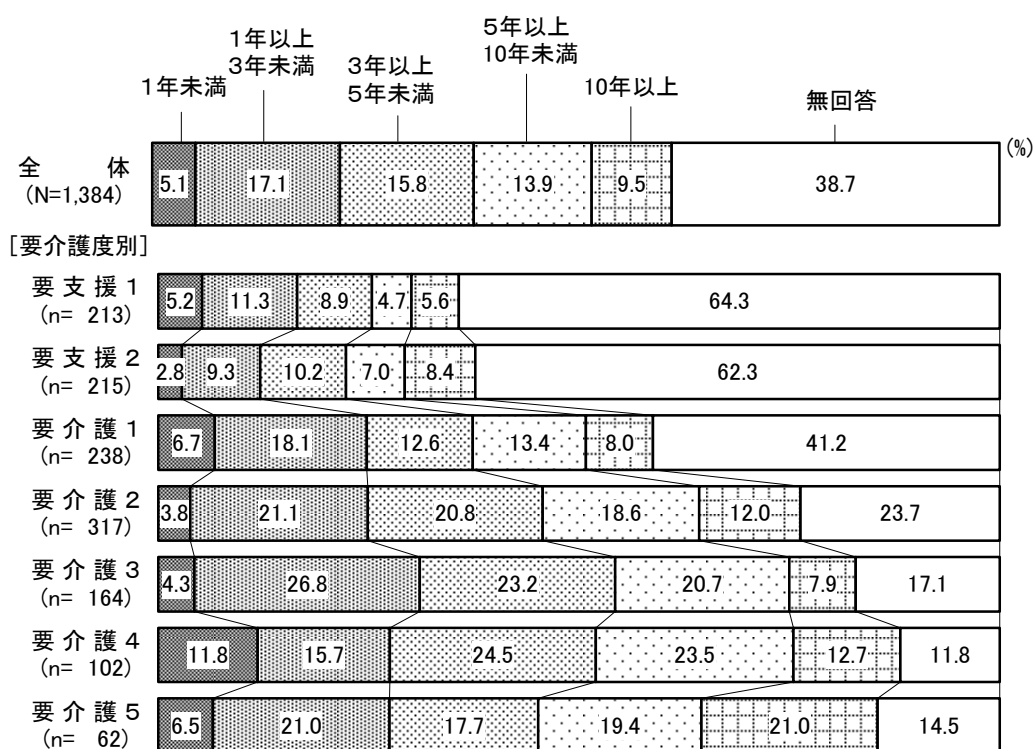


④ 介護している期間（問 30）

介護している期間は、「1年以上3年未満（17.1%）」が最も多く、「3年以上5年未満（15.8%）」、「10年以上（13.9%）」が続いている。5年以上の長期の介護は2割以上である。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにしたがい、介護期間が長くなる傾向があり、要介護5では「10年以上」が2割以上となっている（図表2-9-4）。

図表2-9-4 介護している期間（全体、要介護度別）

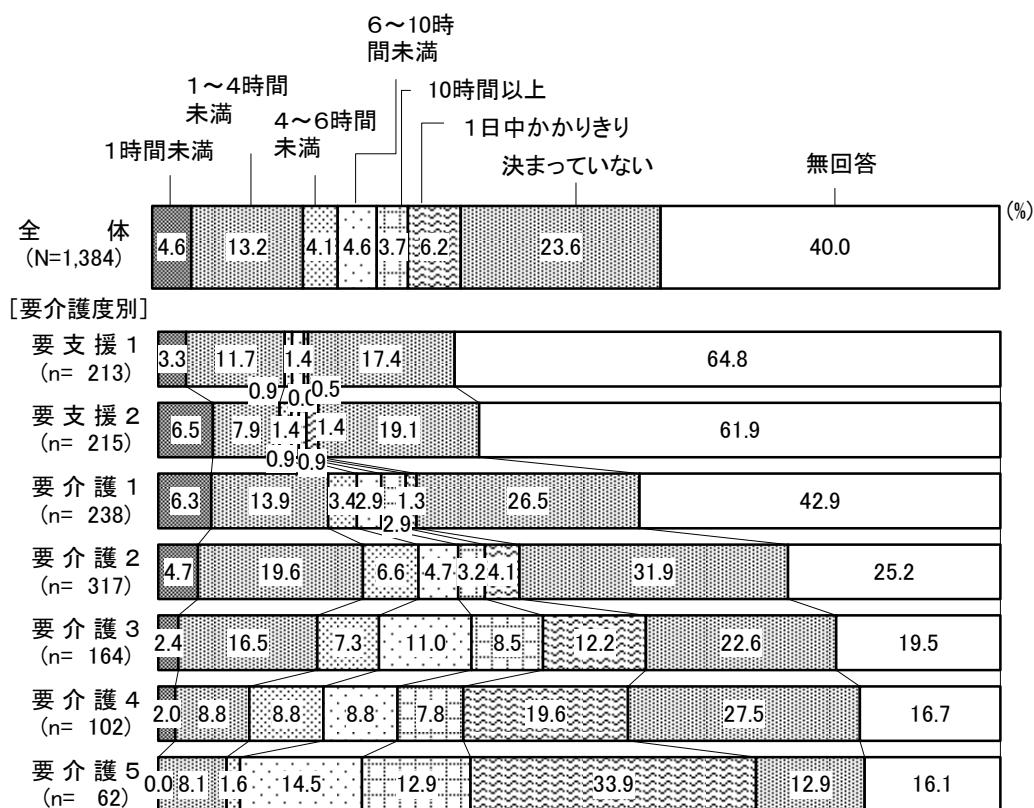


⑤ 1日の介護時間（問 31）

介護に関わっている1日の平均時間は、「決まっていない（23.6%）」が最も多く、「1～4時間未満（13.2%）」が続いている。「10時間以上（3.7%）～1日中かかりきり（6.2%）」の長時間介護は1割である。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるにしたがい、「1日中かかりきり」や「10時間以上」の長時間介護が増加する。介護度5では「1日中かかりきり（33.9%）」が3割以上である（図表2－9－5）。

図表2－9－5 介護時間（全体、要介護度別）

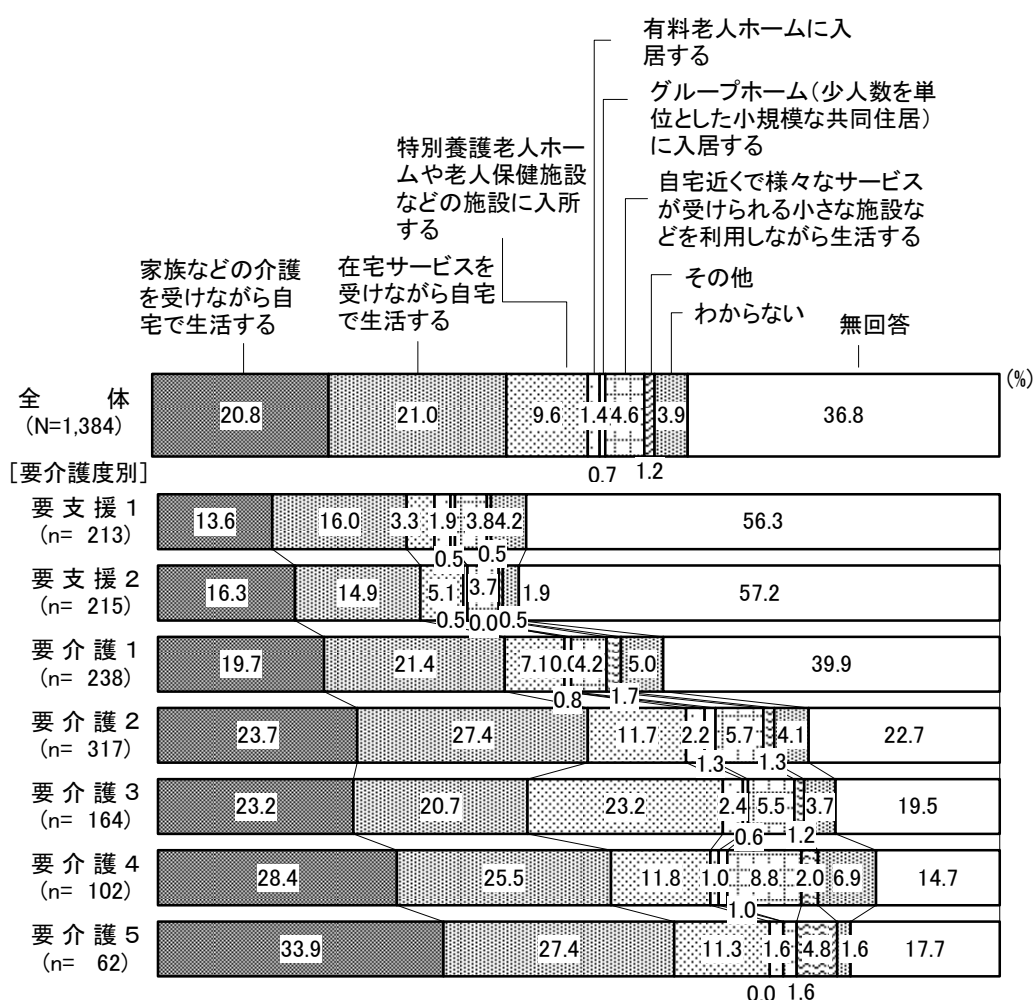


⑥ 介護されている人の今後の生活の場所（問 32）

介護されている人が今後、生活するのに良い場所は、「在宅サービスを受けながら自宅で生活する（21.0%）」、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する（20.8%）」を合わせると自宅希望が4割強である。「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する」～「自宅近くで小さな施設などを利用しながら生活する」の施設希望は16.3%で、2割以下である。

要介護度別にみると、全体の上位2項目の「在宅サービスを受けながら自宅で生活する」と「家族などの介護を受けながら自宅で生活する」は、要介護度が重くなるにしたがって多くなる傾向がみえる。「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する」は要介護3で最も多く、2割以上である（図表2-9-6）。

図表2-9-6 介護されている人の今後の生活の場所（全体、要介護度別）

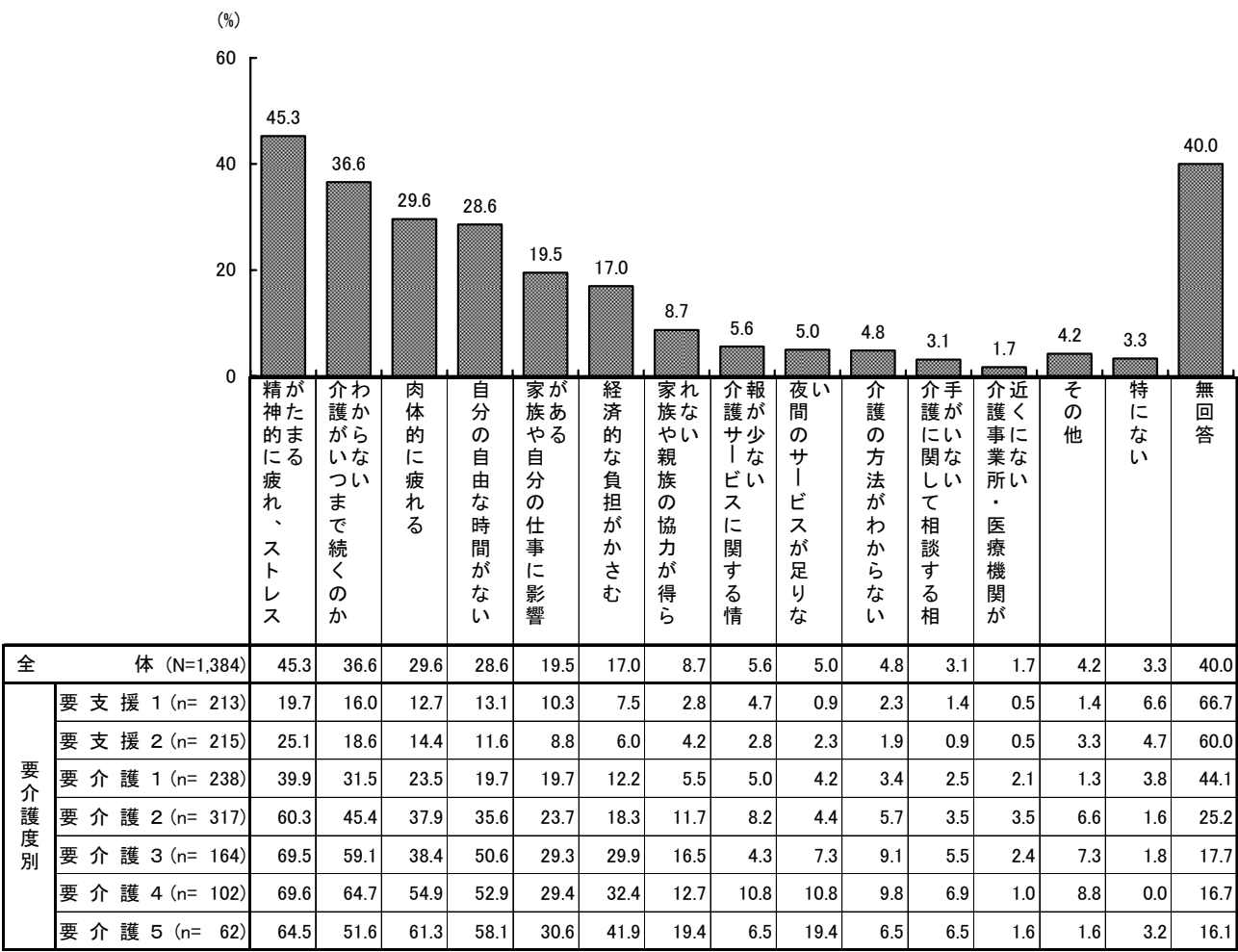


⑦ 介護の問題点（問 33）

介護の問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる（45.3%）」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない（36.6%）」、「肉体的に疲れる（29.6%）」、「自分の自由な時間がない（28.6%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護度が重くなるほど、問題点が多くあげられている（図表2-9-7）。

図表2-9-7 介護の問題点（全体、要介護度別：複数回答）



(10) 介護者の意見・市への要望等（問 34）

介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市への意見・要望・提案について、自由記述形式でたずねたところ、全体で 347 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

在宅サービスについて：40 件

- ・ デイサービスでは、多少の体の不都合があっても受け入れてもらいたい。高齢なのでどこかが悪くなっているのは当然と思う。例えば、体に湿疹ができたとか捻挫をしたときなど、すぐ、休んでくださいといわれるので、悩んでいる。（女性、80～84 歳、要介護 2）
- ・ 85 歳の母の足が硬直しているためストレッチャーが必要で、高齢者福祉タクシーを使うが、予約制で、急な時は使うことができない。民間を使ったこともあるが、その場合は 1 回 8～9 千円かかるので経済的に大変なので、福祉タクシーが急な場合にも使えるようにしていただきたい。（女性、85～89 歳、要介護 5）
- ・ 体の一部の麻痺は全体に影響があるものなので、マッサージを患部に限らず受けられるようにして欲しい。費用の問題が解決できればうれしい。（男性、75～79 歳、要介護 2）

認知症の介護：31 件

- ・ 母がアルツハイマーなのでグループホームへ入れたいが順番待ちなので、いつ入れるか分からないので困っている。（女性、80～84 歳、要介護 1）
- ・ 認知症の症状は 10 人いれば様々と思うが、具体的に、こんな時は、このようにしたらよいのではないか、とのアドバイスをもらえる機会があれば家族としては助かる。ケアマネジャーに相談しても具体的なアドバイスがもらえない。（女性、75～79 歳、要介護 2）
- ・ デイサービス、ショートステイを利用しているが、認知症で目を離せない。また、トイレ介助も必要。ショートステイにあわせて休養、買い物・外出、庭の手入れを行っているが、介護者が風邪や頭痛などのとき、子育てサポートのようにすぐに頼める人や場所があるとありがたい。（女性、90～94 歳、要介護 3）

老々介護：38 件

- ・ 介護している自分の方が年上で隠れ脳梗塞を持っていると医者に言われている。何時だめになるのか分からないので心配。本人は何もできない。（男性、80～84 歳、要介護 3）
- ・ 主人 83 歳、要介護 4 で 1 日車椅子で、介護している妻は間もなく 80 歳になる。介護保険も限度まで使わせていただき、おむつの支給、介護タクシーもありがたく使わせていただきながら、体力も気力も低下してきて、腰を痛めているので、いつまで続けられるか不安な思い。（男性、80～84 歳、要介護 3）
- ・ 81 歳の夫が 79 歳の認知症の妻を介護。夜中に夫が体調を崩した場合どうしたらよいかわからない。119 番してもマンションのドアにはチェーンがかけてあるので入れない。119 番できなければ一層困る。このような時はどうすればよいのか。（女性、75～79 歳、要介護 3）

- ・ 父は97歳、要支援1で、認知症の母の介護、食事の支度をしている。昼間はヘルパーが来てくれ、夜は息子とその妻と娘が交代でみている。父も97歳の高齢なので、せめて要支援2になればデイサービス、生活支援のサービスがもっと受けることができるので、認定要件に年齢を加味していただきたい。また、今後の母の介護の相談などの窓口があれば助かる。(男性、95歳以上、要支援1)

家族介護について：19件

- ・ 介護者の交流会を企画して欲しい。できれば、嫁、娘、兄弟として、それぞれ別々にして欲しい。立場によって随分と事情が違っているようなのだが、近所には余り話したくないこともあり、立場が同じであれば話も合うのではと思っている。介護に追われていて参加できない人も多いと思うが、少人数でも話せる時間があれば気がまぎれると思う。(女性、75～79歳、要介護3)
- ・ 介護体験談などを聞きたい。介護者の情報交換を望む。(女性、90～94歳、不明)
- ・ 介護保険サービスの種類が14もあること、保健福祉サービスが事業名として14もあることを知らなかった。介護は修羅場。若干の認知症があるため、つい暴言を吐いたりして、後で「言わなければよかった」と反省する毎日。介護の勉強をして行こうと思っている。(女性、90～94歳、要支援1)
- ・ 高齢者介護者慰労金が、財政難との理由で、最初にカットされたが、会社も辞め介護している身にはとても大きな収入だった。再考、願いたい。(女性、90～94歳、要介護5)
- ・ 要介護3の親を息子と娘でデイケアとショートステイを使って介護している。介護者が病気になる場合どうなるか、緊急時のステイ先があるか、もう少しデイケア、ショートステイが増やせると良い。ヘルパーも個人によって違うが、家事援助も余り考えないで行っている人もいるのでヘルパーの質の向上を考えて欲しい。介護の情報ももう少しあったらよい。市からの介護関係の手続き書類ももう少しまとめていただきたいと思う。(女性、90～94歳、要介護3)
- ・ いろいろサービスを受け、各所間の連絡もよく取って下さるので感謝している。勧められるサービスや配偶者の希望が、本人の意思に反している場合、説得に苦労している。サービスの具体的イメージが本人に分からない場合や感情的な問題が障害となりスムーズに運ばないことが多いので困っている。(男性、75～79歳、要介護2)

呼び寄せ介護／遠距離介護：6件

- ・ 急に、いなかから府中市の自宅に引き取るようになったため、住宅の狭さなどからくるストレス、家族への負担も大きい。同居人がいると生活援助サービスが受けられないため、介護者への負担が非常に大きい。介護者も更年期障害のため苦しんでいるので、是非、身体介護だけでなく生活援助も受けられるよう改善していただきたい。(女性、80～84歳、要介護1)
- ・ 10か月前から呼び寄せ介護が始まり、一番困ったことが入浴だった。不慣れな環境での入浴は危険なので、デイサービスの入浴に期待していたが、初めて見学に行った施設は立派

だったが、いやな顔をされ、気が重くなった。その後の見学で、大丈夫と言われたところに週3回通所させていただき感謝している。施設は大きさでなく、こじんまりとした温かいところが増えることを望む。(女性、85～89歳、要介護2)

- ・ 夫婦共に勤務しているが実家から遠く、子どもも弱いので、やむを得ず85歳の母と別に暮らしているが、母が今倒れると我が家も成り立たなくなるので、心配している。現在の状態を保てるよう、もう少し介護の量を増やしていただけたらと念じている。(女性、85～89歳、介護度不明)
- ・ 介護している中、遠距離の実家の母親(85歳)が認知症となり、呼び寄せたくても住宅の問題、経済的なことで考慮中。自宅近くに施設があれば入所させて見守ってやれると思っている。(女性、85～89歳、要介護3)

介護保険、介護サービス・要介護認定について：28件

- ・ 以前は、ヘルパーが来て洗濯、掃除、話し相手をしてくれたが、受けられなくなった。デイケアに週2回通所しているが、それ以外の平日は、私が仕事から戻るまで、ひとりなので、とても心配。以前のようにヘルパーさんに来てもらえる制度にしていきたい。(女性、80～84歳、要介護2)
- ・ 介護の認定についての判定結果を具体的に示して欲しい。結果を郵送されても、家族は分かっているが本人が納得しない。文書で理由を書いて同封していただきたい。(女性、80～84歳、要介護1)
- ・ 今まで3回介護認定を受けているが、家族から見てそれほど変化がないのに、要支援→要介護2→要介護1とそのつど違う認定結果をうけた。前回の認定も参考にしたいうえで、なるべく落差のない認定をお願いしたい。(女性、80～84歳、要介護1)
- ・ 介護の申請に手間がかかり期間も短いので1年間くらいみていただきたい。9月まで要介護1だったが今回の認定で要支援になり介護タクシーが利用できないためバス通院となり、以前より体調が思わしくなくベッドにいる時間が多くなった。もう少し介護者の立場に立って考えていただきたい。(女性、70～74歳、要支援1)
- ・ 84歳で、要介護1から要支援2に変更になったことによりデイサービスの回数が半分に減ってしまった。1人で家にいるのは不安であるため、自費で週1回通っているのが自己負担が多くなった。年々、歳をとって弱っているのに介護が軽くなるのは納得できない。(女性、80～84歳、要支援2)

経済的負担（介護保険料、利用料、交通費、家の修理等）：31件

- ・ もう少し安く利用できるとありがたい。保険料も安くして欲しい。別のところに住む娘も介護に協力してくれるので、家族の介護をもっと大事なことで世の中にアピールし、仕事をしている人も週1回は自分の親、配偶者の親に連絡を取り、優しい言葉をかける世の中にして欲しい。(女性、80～84歳、要介護2)
- ・ 最近、大きな病院での治療・通院が必要になった。医療費とタクシー代(1回約5,000円)が経済的に負担になる。控除対象になるのは分かっているが、市の方で割引券などを出し

- てもらえたらありがたい。介護タクシーも本人のみで、家族は乗ることができない。介護者は病院への付き添いは時間もかなり負担となる。(女性、85～89 歳、要介護1)
- ・ 本人の年金が年額 40 万円未満と非常に少ないのに、家族に納税者がいると介護保険料を年金 1 月分以上支払うことになり、医療費やタクシー代で消えてしまい、介護サービスの多くは受けられない。ひとり暮らしと比べると不公平に感じる。家族も現役中なら負担もできるが、年金世代であり、家族と同居していても年金額が非常に少ない高齢者にも目を向けて欲しい。(女性、歳以上、要介護2)
 - ・ 介護を受けるにも全て金がかかるので、生活がギリギリで苦しい中では介護が受けられない。持家も 30～40 年も経てば修理にお金がかかる。少しの蓄えを崩していく生活にも限界がある。(女性、70～74 歳、要介護2)

介護予防・リハビリ：3件

- ・ ある市では、要支援になる予備軍の時点で、訓練、イベントを提案し、結果的に介護にかかる総費用の削減につながっているとのこと。これを学んで欲しい。(女性、75～79 歳、介護度不明)
- ・ 介護予防にピアノ等の楽器を与えて欲しい。音楽は脳の活性化に必要と思う。(女性、80～84 歳、要支援1)

医療・保健について：5件

- ・ 一人で介護しているが必要なサポートは受けられるので、府中市には感謝している。導尿カテーテルを装着しているので、連休や年末年始に詰まったらどうしようと不安になる。かかりつけ医の先生に電話するのも申し訳ないと思いストレスがたまる。連休中も 24 時間待機しているナースステーションがあれば心強い。(女性、85～89 歳、要介護5)

施設・住宅について：20件

- ・ 現在、府中市でも特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設入所待ちが 100～150 人以上もあり、いつ入所できるか分からない状況と聞いている。待っている患者や介護者が待ち疲れ、さらに病人になり、結果的に要介護者を増やすことになりかねない状況となっている。若い時期より納入している介護保険料の有効利用と他市との比較で潤沢な市予算で、市内に特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を建設して欲しい。(女性、90～94 歳、要介護3)
- ・ 精神病と糖尿病（インスリン注射が必要）を合併しているために入所できる施設がなく困っている。(女性、65～69 歳、要介護2)

ヘルパー、ケアマネジャーなどについて：21件

- ・ 良い担当者にめぐり会えたと思っている。介護する人、される人、そのコーディネーターをして下さる三者が、うまく行くと暮らしやすいと思っている。(女性、80～84 歳、要支援2)

- ・ 介護される側の残っている能力を最大限生かす援助に目を向けて欲しい。例えば、洗濯物を一緒にたたむなど。(男性、90～94 歳、要介護 2)
- ・ 自由にヘルパーの派遣先を変えられない。ヘルパーの中には虐待に近いような介護をする人、また、湿疹の薬を塗ってくれない人もいる。掃除が頼めなくなって介護に負担を感じるようになり、介護の相談にのってくれる人もいない。(男性、85～89 歳、要介護 5)
- ・ デイサービスを受けているが、家族が言いたいことがあっても、デイサービスのスタッフに直接言えないのは困る。ケアマネジャーに通さなければならず、急なときは休んでいて伝えられないことや言ったことがきちんとデイサービスの方に伝わっていないこともある。(男性、85～89 歳、要介護 2)

相談窓口・情報提供：13 件

- ・ 家族のいる人は家族に高齢者支援課に相談に行ってもらえるが、ひとり暮らしの人も多い。地域では誰が相談相手になってくださるのか、町名別に担当者の氏名を教えて欲しい。(男性、85～89 歳、要介護 2)
- ・ どんな時間でも、何かがおきた時に電話等で適切なアドバイスをしてくれる場所があると良い。(女性、85～89 歳、要介護 2)
- ・ 息子が市外に暮らしている。このまま弱って家事ができなくなったら訪問介護だけでは無理と思う。どこか施設にお世話にならないかならないと思うと、今のうちに見学して自分にあった所を調べておくことが必要と思う。その面での情報提供をお願いしたい。(女性、45～79 歳、要介護 2)
- ・ いろいろなサービスがあることを、このアンケートで初めて知ることができた。できれば 70 歳、80 歳の高齢者に、「こんなサービスがありますよ」というパンフレットを送ってくれたらよいと思う。本人は知らなくてもよいが、介護する人には必要と思う。(女性、85～89 歳、要介護 3)

災害時対策・まちづくり：3 件

- ・ 災害時はどのようにしたらよいのか、私の町会では一切分からない。(男性、80～84 歳、要介護 4)
- ・ 災害時の要援護者対策は？介護サービス利用者、ひとり暮らし、日中一人の高齢者などは災害が起きた場合は一人での避難は不可能と思う。援護方法を至急マニュアル化し、関係者に周知して欲しい。最終決定される前で、進捗状況でも良いので、市報に載せていただくと、高齢者も周囲の者も少し安心できる。(女性、80～84 歳、要介護 2)

アンケートについて：23 件

- ・ アンケートの封筒の宛名本人が記入となっているが、本人は読解力も衰えているので、質問が難しすぎると思う。(女性、90～94 歳、要介護 2)
- ・ アンケートは、認知症の人など、明日どのような状態になるのか分からないので、「今後・・・」、「これから・・・」ではなく、「・・・の状態になったら、どのようなサービス

を利用したいか」という質問にした方がよい。認知症の介護は本当に大変なので、介護する人にも手を差し伸べるようお願いしたい。(女性、90～94 歳、要介護2)

- ・ 勉強不足で理解していない制度の内容等が多くあった。アンケートを参考にしたいと思う。(男性、90～94 歳、要介護3)

行政への要望：13 件

- ・ 介護に関しての用語がむずかしくて理解しにくい。例えば、訪問介護の生活援助主体と身体介護主体の違い、デイサービスとデイケアの違い、短期入所生活介護と短期入所療養介護の違いなど、聞いたことのない言葉が多いのでよろしくをお願いしたい。(男性、80～84 歳、要介護3)
- ・ 市役所から届くいろいろな書類は、分かりやすく大きな字でお願いしたい。(男性、75～79 歳、要支援1)
- ・ 市役所は事業所の質の改善にもっと力を注ぐべきと思う。利用者より事業者の立場に立った物言が多いと思う。(女性、80～84 歳、要介護2)

将来への不安：7 件

- ・ いつまで自分（介護者）が元気でいられるのか、それが心配している。私が倒れたら母も家族も共倒れになるおそれがある。(女性、85～89 歳、要介護5)
- ・ 現在は家族で介護しているが、この先、介護者の健康状態が変わったり、本人の病状が進んだ時のことを考えると不安。(女性、80～84 歳、要介護3)
- ・ 将来、低所得の老人世帯が増加し、重労働の介護スタッフが不足するのは明白なので、長期的な対策が必要と思う。市に対しては、生活の場に密着した介護と経済的サポートを期待する。(女性、85～89 歳、要介護3)

満足・感謝：22 件

- ・ 現在、デイサービスを利用している。週2日、とても楽しみにしている。職員が常に親切で声をかけてくださり、昼食もバランスよく工夫されていて安心している。サービス以外の日でも送迎車に行きあうと、止まって声をかけて下さるので本当に見守られているようで感謝している。(女性、80～84 歳、要介護1)

その他：24 件

- ・ みどりのほこをなくさないで欲しい。ひとり暮らしの老人にとって、決められた時間・場所に、ゴミを出すことは、特に足が不自由な私にとっては不可能だ。みどりのほこがあるからこそ、ヘルパーさんが来たときにゴミ捨てを頼める。(女性、85～89 歳、要介護1)
- ・ 93 歳とはいえ、母は元気なので今のところ要望はない。これから増えていくとは思いますが、その時はよろしくをお願いしたい。(女性、90～94 歳、要支援2)

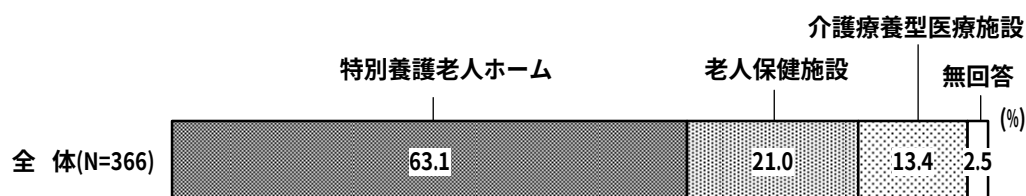
3 介護保険施設サービス利用者調査

(1) 基本属性

① 入所している施設の種類

入所している施設は「特別養護老人ホーム（63.1%）」が最も多く6割を占め、「老人保健施設（21.0%）」、「介護療養型医療施設（13.4%）」が続いている（図表3-1-1）。

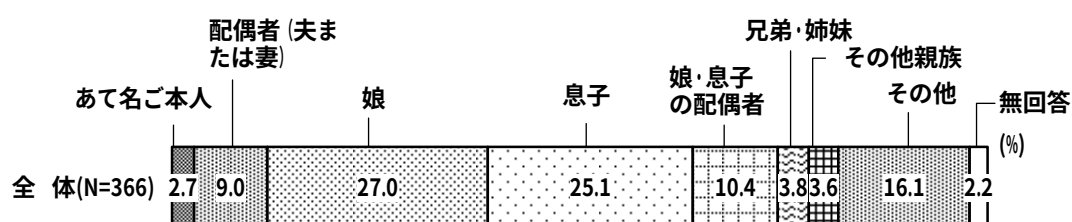
図表3-1-1 入所している施設の種類（全体）



② 記入者（F1）

調査票への記入者は、「娘（27.0%）」が最も多く、「息子（25.1%）」、「娘・息子の配偶者（10.4%）」が続いている（図表3-1-2）。

図表3-1-2 記入者（全体）



③ 性別（F2）

性別は、「男性」が21.3%、「女性」が77.0%となっている（図表3-1-3）。

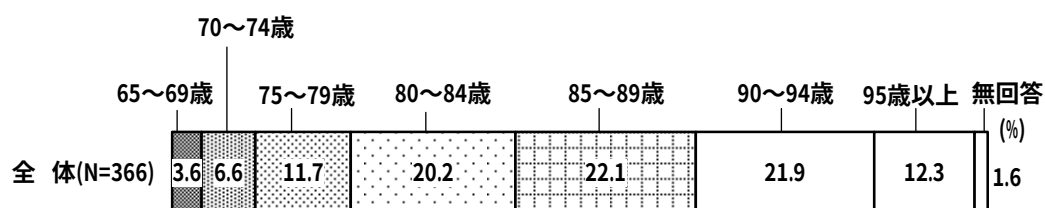
図表3-1-3 性別（全体）



④ 年齢（F 3）

年齢は、「80～84 歳（20.2%）」、「85～89 歳（22.1%）」、「90～94 歳（21.9%）」が2割程度であり、「95 歳以上(12.3%)」もあわせると 80 歳以上が 76.5%になっている（図表 3－1－4）。

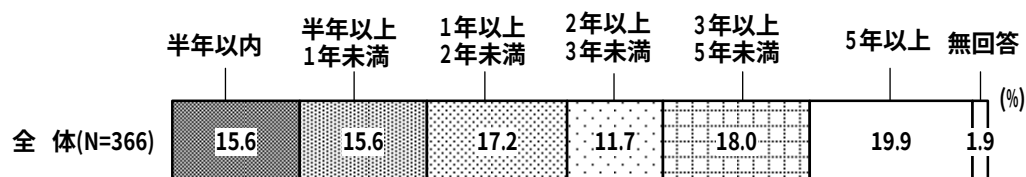
図表 3－1－4 年齢（全体）



⑤ 入所期間（F 4）

入所期間は、「5年以上（19.9%）」が最も多く、「3年以上5年未満（18.0%）」、「1年以上2年未満（17.2%）」が続いている（図表 3－1－5）。

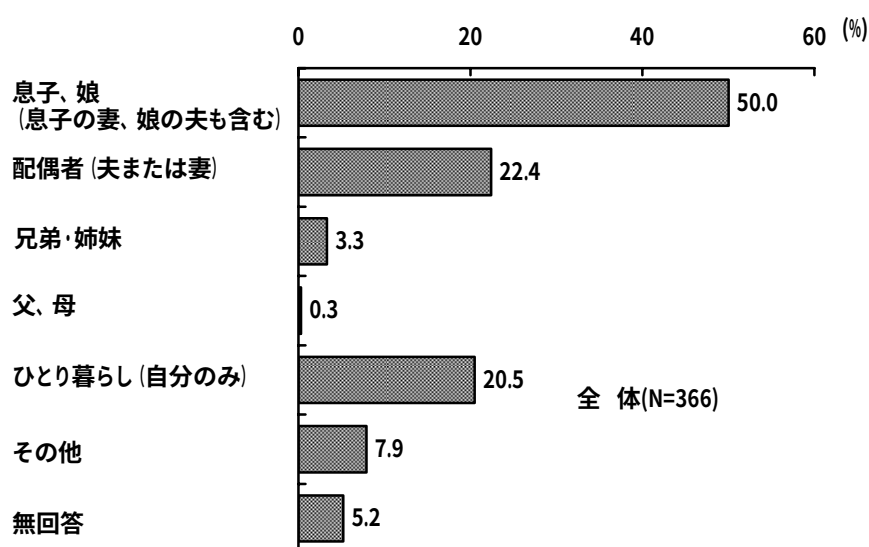
図表 3－1－5 入所期間（全体）



⑥ 入所する前に同居していた人（F 5）

施設に入所する前に同居していた人は、「息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む）（50.0%）」が最も多く、「配偶者（夫または妻）（22.4%）」、「ひとり暮らし（**自分のみ**）（20.5%）」が続いている（図表3-1-6）。

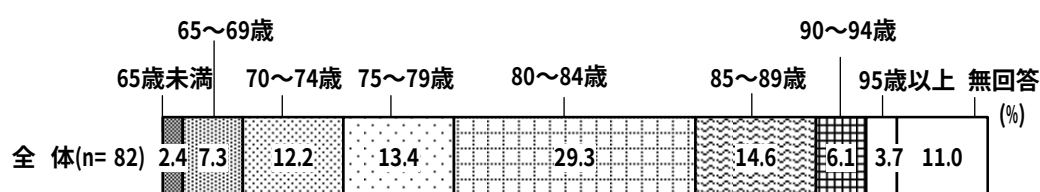
図表3-1-6 入所する前に同居していた人（全体：複数回答）



⑦ 配偶者の年齢（F 5-1）

入居する前に同居していた人で「配偶者」と回答した人に、配偶者の年齢をたずねた。配偶者の年齢は、「80～84 歳（29.3%）」が最も多く、「85～89 歳（14.6%）」、「75～79 歳（13.4%）」が続いている（図表3-1-7）。

図表3-1-7 配偶者の年齢
＜入居前に同居者がいたと回答した人＞（全体）



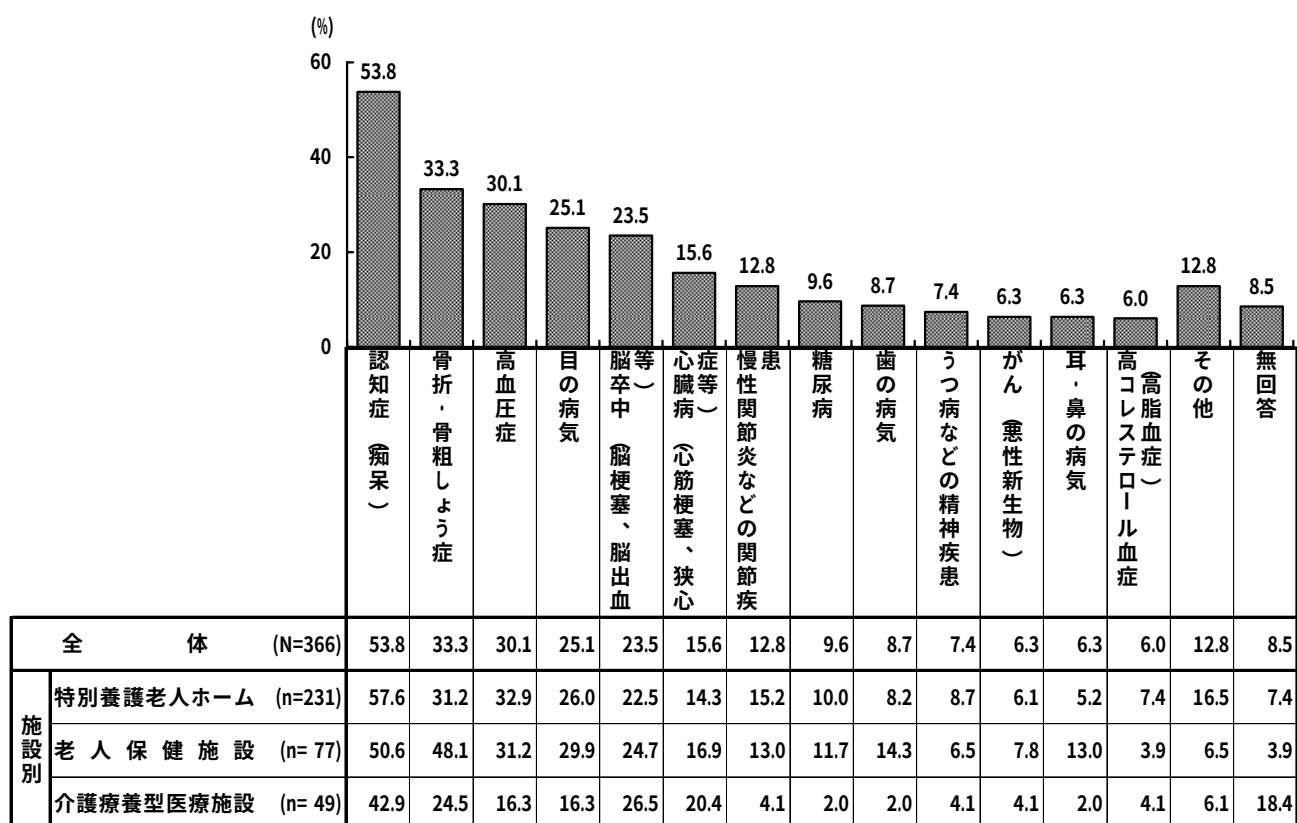
(2) 身体状況

① 病歴 (問1)

かかったこと（または、**かかっている**）のある病気は、「認知症(痴呆) (53.8%)」が最も多く、「骨折・骨粗しょう症 (33.3%)」、「高血圧症 (30.1%)」、「目の病気 (25.1%)」が続いている。

施設別にみると、特別養護老人ホームと老人保健施設は、「認知症 (**痴呆**)」、「骨折・骨粗しょう症」、「高血圧症」が上位3項目となっているが、介護療養型医療施設は「認知症 (**痴呆**)」に次いで「脳卒中 (**脳梗塞、脳出血等**)」が多く、心臓病も他の施設と比べると多くなっている (図表3-2-1)。

図表3-2-1 病歴 (全体、施設別：複数回答)

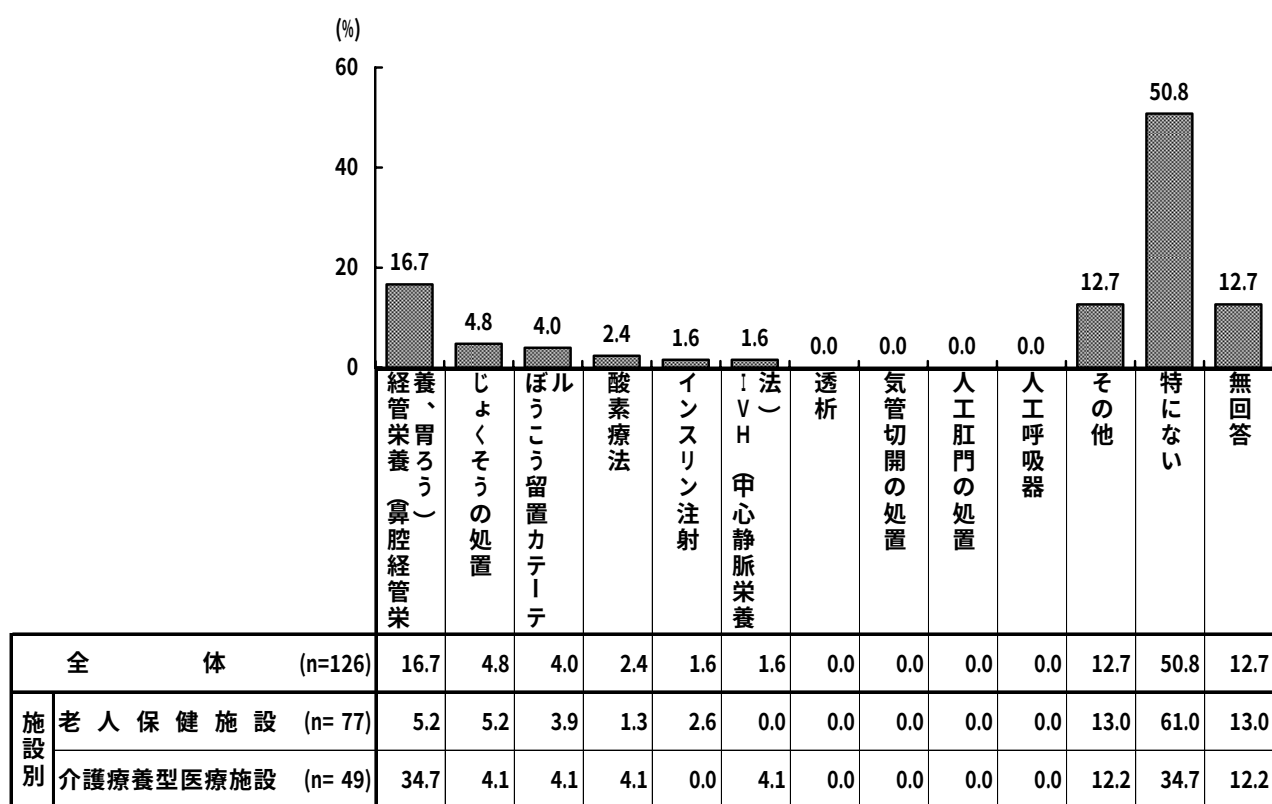


② 現在受けている医療処置等（問2）（特別養護老人ホーム入居者は除く）

老人保健施設・介護療養型医療施設に入所している方に、現在受けている医療処置等をうかがったところ、「特にない（50.8%）」を除くと、「経管栄養（鼻腔経管栄養、胃ろう）（16.7%）」が最も多く、「じょくそうの処置（4.8%）」が続いている。

施設別にみると、経管栄養は介護療養型医療施設では、34.7%と多くなっている（図表3-2-2）。

図表3-2-2 現在受けている医療措置等
（老人保健施設・介護療養型医療施設：複数回答）



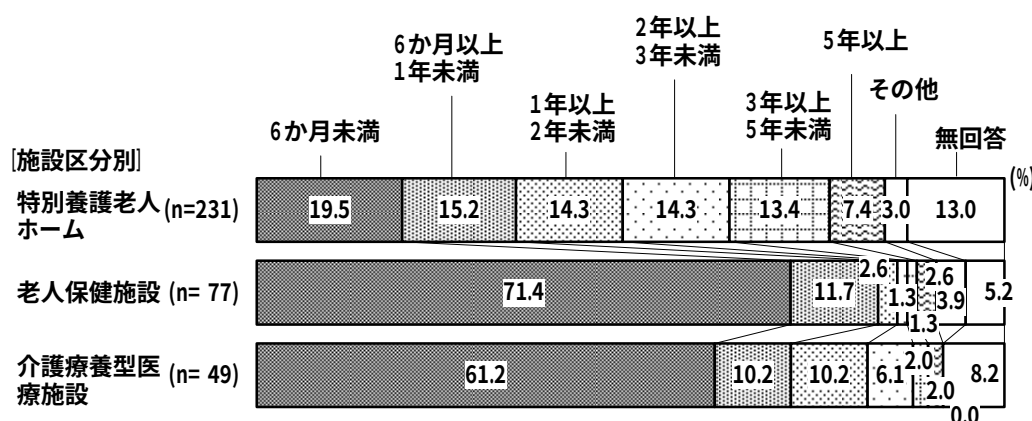
(3) 入所までの期間等

① 入所までの期間（問3）

現在の施設への入所が必要になってから（または希望してから）、入所するまでの期間を施設別にみると、老人保健施設は「6か月未満（71.4%）」が約7割、介護療養型医療施設は「6か月未満（61.2%）」が約6割であるのに対し、特別養護老人ホームは「6か月未満（19.5%）」が2割以下と少なく、2年以上が4割弱となっている（図表3-3-1）。

これは3つの施設の位置づけと性格の違いのためと考えられる（参考図表）。

図表3-3-1 入所までの期間（施設別）



参考図表 介護保険3施設の概要

	概要（サービス視点、利用者等）
介護老人福祉施設	老人福祉法に規定される特別養護老人ホーム。 施設サービス計画に基づいて、入浴、排せつ、食事などの介護、その他日常生活上の世話、機能訓練、健康管理、療養上の世話を行う。 利用者は要介護者のみで、終身入居できるため、空気がなく待機が長い。
介護老人保健施設	在宅復帰を目指す医療機関と家庭との中間施設。 施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理のもとにおける介護・機能訓練、その他必要な医療、日常生活上の世話を行う。 利用者は病状の安定期にあり入院治療の必要はないが、リハビリテーションや看護、介護を必要とする要介護者が多い。
介護療養型医療施設	療養病床を有する病院または診療所。 施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理のもとにおける介護その他の世話、機能訓練その他、必要な医療を行う。 利用者は急性疾患の回復期にある要介護者と慢性疾患を持つ要介護者、認知症疾患の安定期にある要介護者。 現実には医療や看護を必要としない入院者が多くを占める社会的入院の問題が知れ気されており、厚生労働省は、期限を決めて他の介護保険施設や有料老人ホーム、ケアハウスなど居住系施設への転換を促す方針を出している。

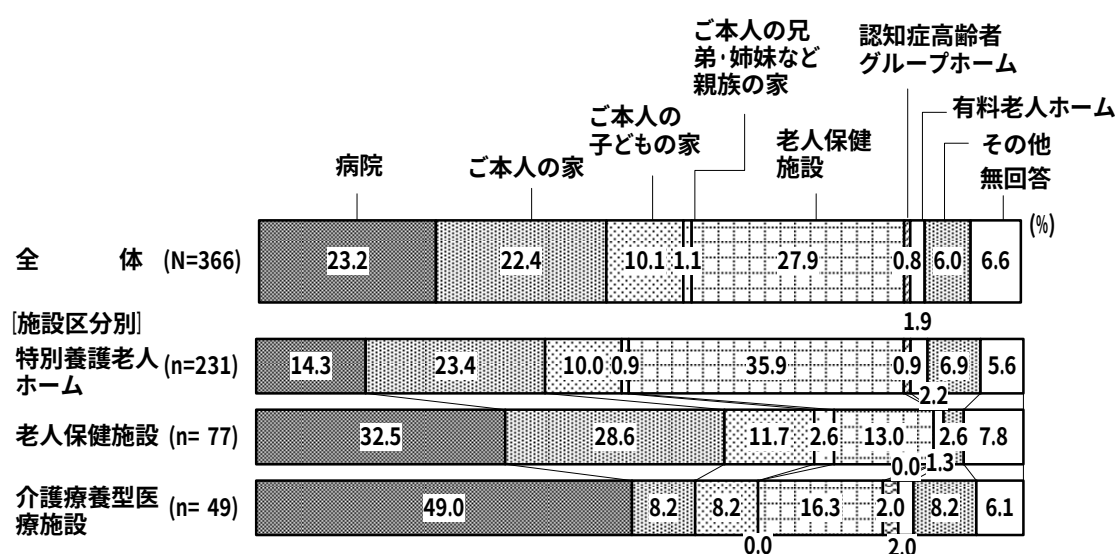
参考：介護支援専門員基本用語辞典

② 入所直前の住まい（または施設）（問4）

現在の施設への入所する直前の住まい（または施設）は、「老人保健施設（27.9%）」が最も多く、「病院（23.2%）」、「ご本人の家（22.4%）」、「ご本人の子どもの家（10.1%）」が続いている。

施設別にみると、特別養護老人ホームは「老人保健施設」が最も多く、「ご本人の家」が続いている。老人保健施設は「病院」、「ご本人の家」となっており、介護療養型医療施設は「病院」が49.0%と多いなど、施設でかなり異なっている（図表3-3-2）。

図表3-3-2 入所直前の住まい（または施設）（全体、施設別）



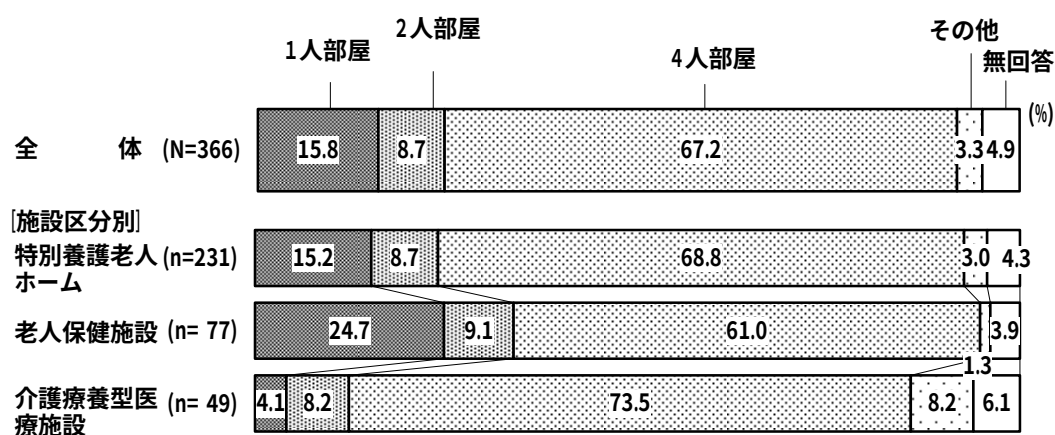
(4) 施設での生活・サービス

① 居室の定員 (問5)

現在の居室の定員は、「4人部屋 (67.2%)」が最も多く、「1人部屋 (15.8%)」、「2人部屋 (8.7%)」が続いている。

施設別にみると、3施設とも「4人部屋」が多い。老人保健施設は他の施設に比べ、「1人部屋」が多く、「4人部屋」が少なくなっている (図表3-4-1)。

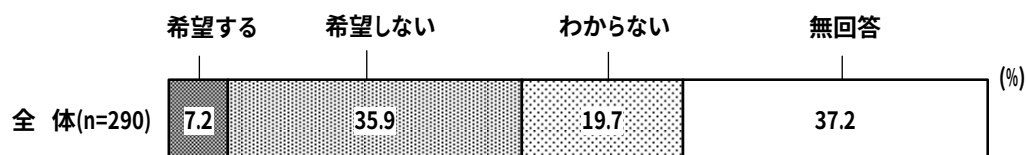
図表3-4-1 居室の定員 (全体、施設別)



② 個室への希望 (問5)

居室定員が2人以上と回答した人に、個室入居の希望をたずねたところ、「希望しない (35.9%)」が最も多く、「わからない (19.7%)」、「希望する (7.2%)」が続いている (図表3-4-2)。

図表3-4-2 個室への希望<現在の部屋が2人部屋と回答した人> (全体)

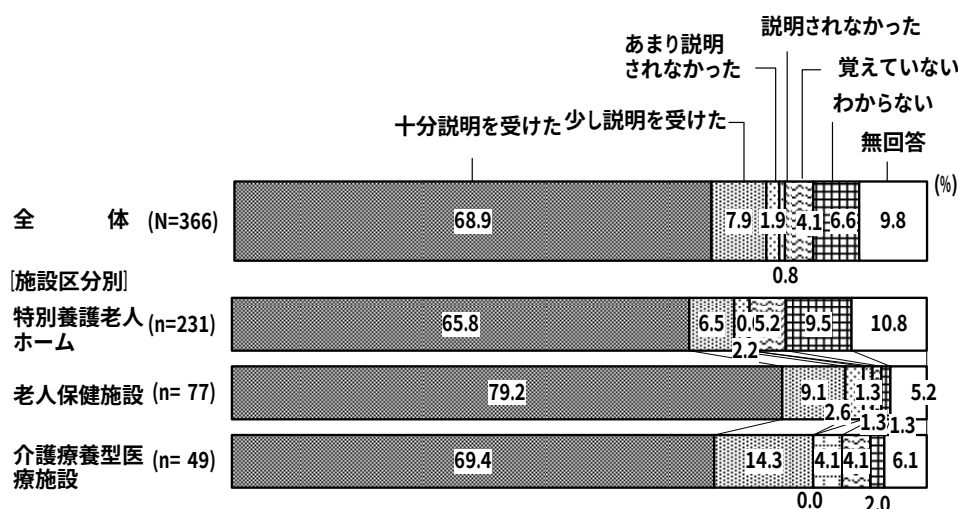


③ 入所時の重要事項の説明に対する評価（問6）

入所時に施設の運営方針や費用などの重要事項について説明を受けたかをたずねたところ、「十分説明を受けた（68.9%）」と「少し説明を受けた（7.9%）」が多く、あわせると8割近い方が《説明を受けた》と回答している。「あまり説明されなかった」と「説明されなかった」は多くはないが、「覚えていない」と「わからない」をあわせると約1割である。

施設別にみると、老人保健施設では《説明を受けた》が9割近くになっている（図表3-4-3）。

図表3-4-3 入所時の重要事項の説明に対する評価（全体、施設別）

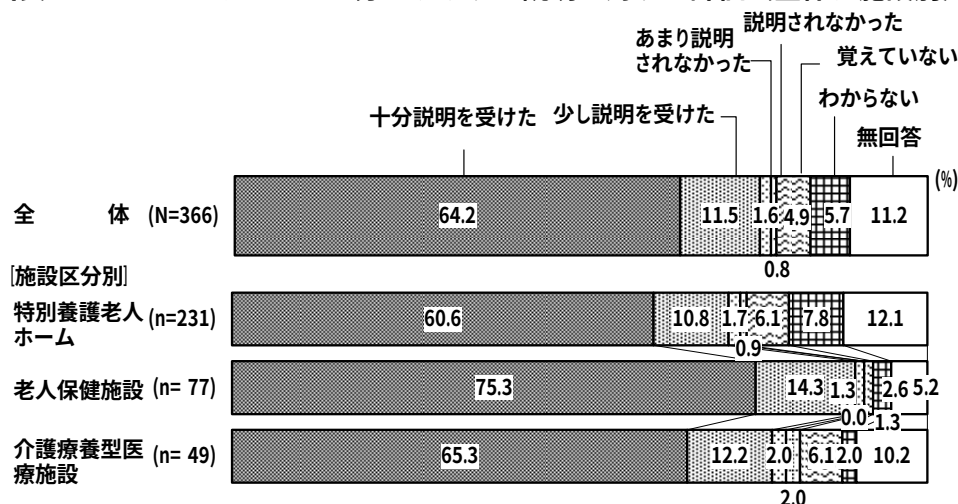


④ サービスの分かりやすい説明に対する評価（問7）

施設で生活するために必要となるサービスについて、詳しい説明を受けたかをたずねたところ、「十分説明を受けた（64.2%）」と「少し説明を受けた（11.5%）」が多く、あわせると8割近い方が《説明を受けた》と回答している。

施設別にみると、重要事項の説明と同様、老人保健施設では《説明を受けた》が約9割を占める（図表3-4-4）。

図表3-4-4 サービスの分かりやすい説明に対する評価（全体、施設別）

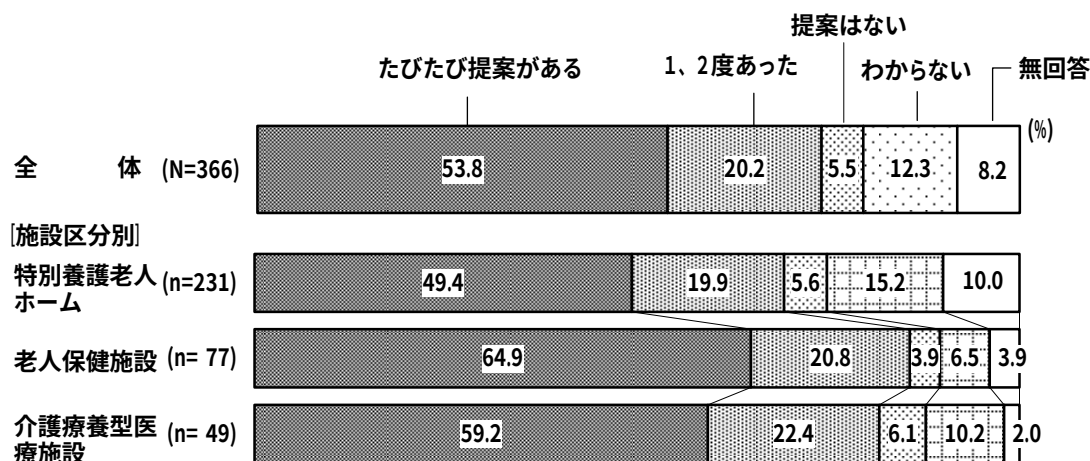


⑤ 体の状況に応じたサービスの提案の有無（問8）

体の状況に応じたサービスの提案があるかどうかたずねたところ、「たびたび提案がある（53.8%）」と「1、2度あった（20.2%）」が多く、あわせると7割強の方が《あった》と回答している。

施設別にみると、「たびたび提案がある」が多いのは老人保健施設で、「1、2度あった」をあわせると、8割以上の方が《あった》と回答している（図表3-4-5）。

図表3-4-5 体の状況に応じたサービスの提案の有無（全体）

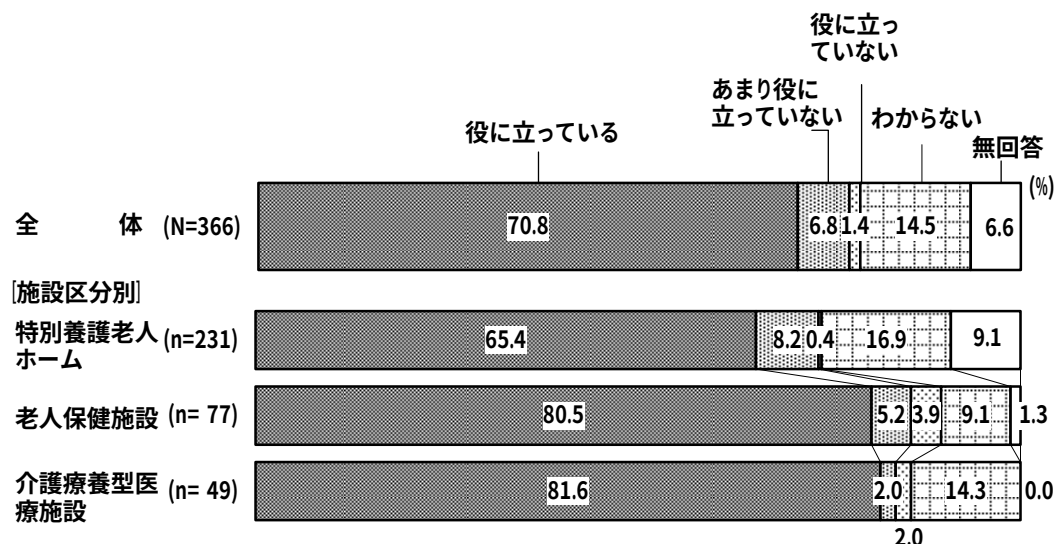


⑥ 施設でのサービスの効果（問9）

施設でのサービスは、本人の体の状況の維持や改善に役立っているかどうかをたずねたところ、「役に立っている（70.8%）」が最も多く、「あまり役に立っていない（6.8%）」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設と介護療養型医療施設では「役にたっている」が8割である（図表3-4-6）。

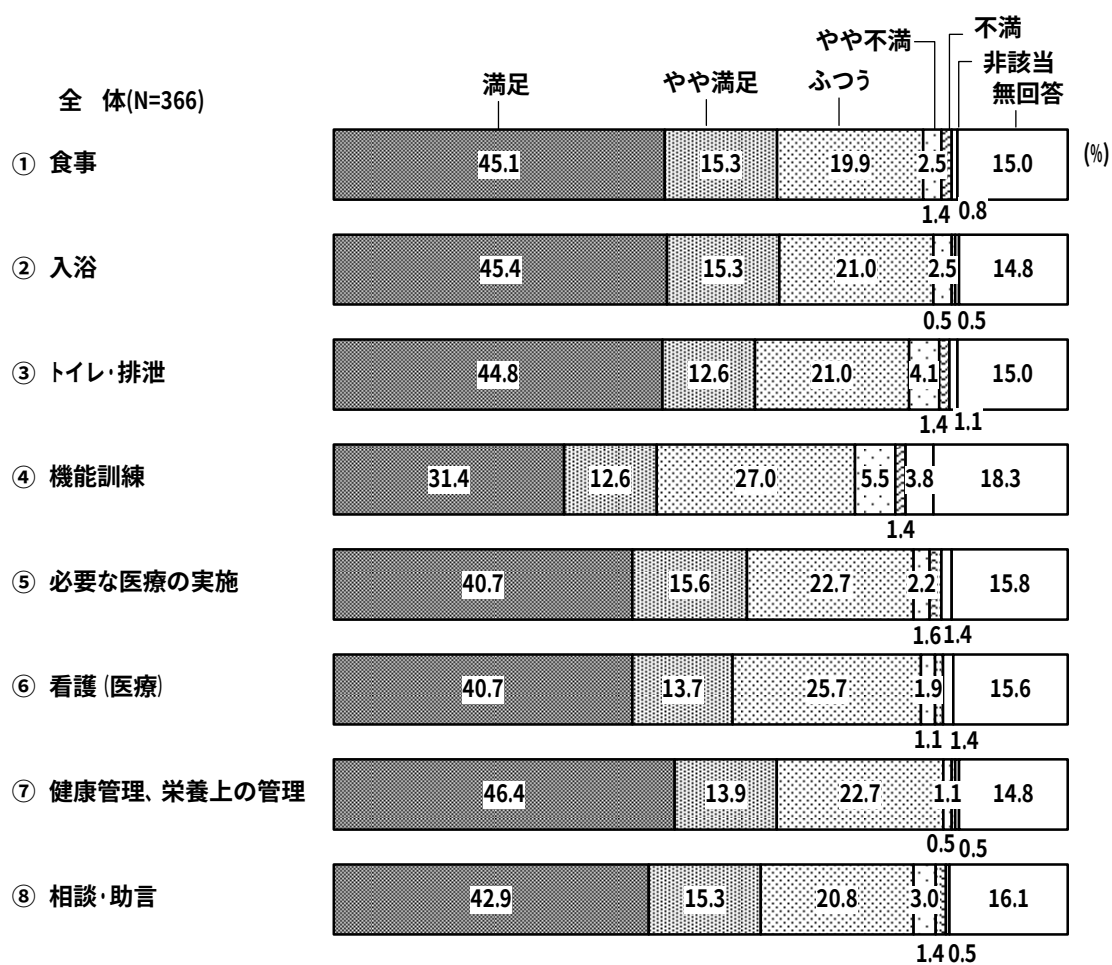
図表3-4-6 施設でのサービスの効果（全体、施設別）



⑦ サービスの満足度（問 10）

施設でのサービスの満足度（「満足」＋「やや満足」）は、「入浴（60.7%）」が最も多く、「食事（60.4%）」、「健康管理・栄養管理（60.3%）」が続いている（図表3-4-7）。

図表3-4-7 サービスの満足度（全体）



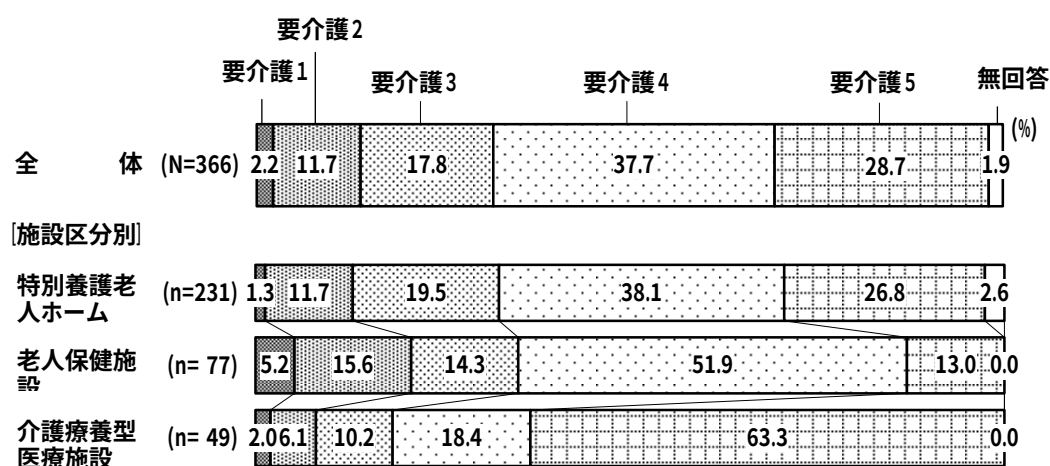
(5) 介護保険

① 要介護度（問 11）

要介護度は、「要介護 4 (37.7%)」が最も多く、「要介護 5 (28.7%)」、「要介護 3 (17.8%)」が続いている。要介護 3～5 の重度の要介護者は 84.2% となっている。

施設別にみると、介護療養型医療施設は要介護 5 が最も多く 6 割を超え、要介護 4 とあわせると 8 割を超える。老人保健施設は要介護 4 が 5 割を超える（図表 3－5－1）。

図表 3－5－1 要介護度（全体、施設別）

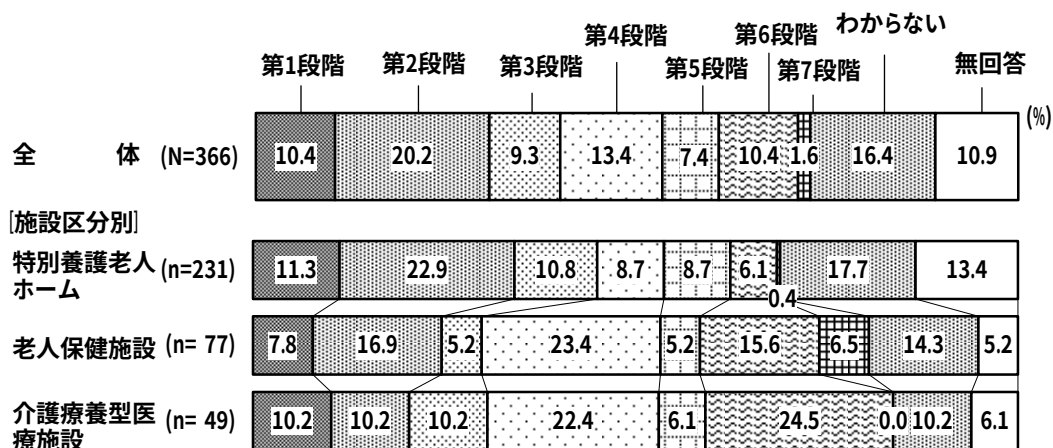


② 保険料段階（問 12）

保険料段階は、「第 2 段階 (20.2%)」が最も多く、「第 4 段階 (13.4%)」が続いている

施設別にみると、特別養護老人ホームは他に比べ「第 2 段階」が多く、介護療養型医療施設は「第 6 段階」が多い（図表 3－5－2）。

図表 3－5－2 保険料段階（全体、施設別）

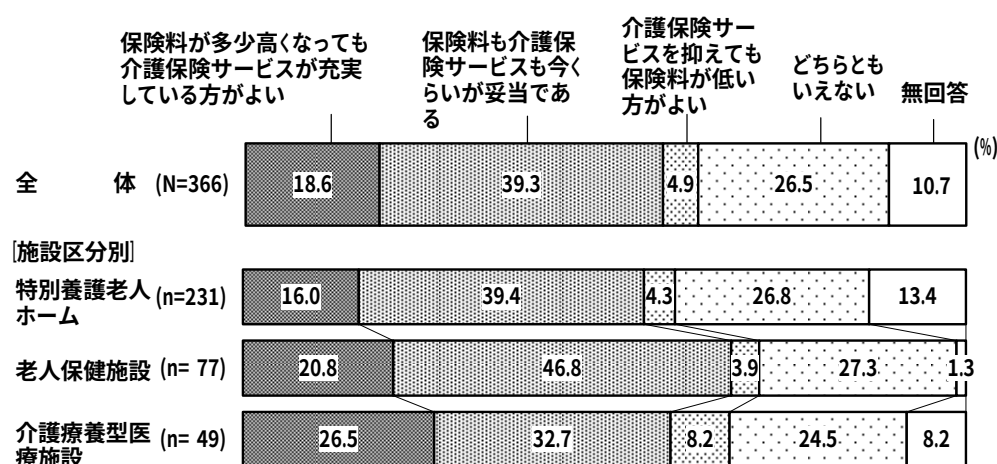


③ 介護保険サービスと保険料についての考え方（問 13）

介護保険サービスと保険料についての考え方についてたずねたところ、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である（39.3%）」が最も多く、「どちらともいえない（26.5%）」、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい（18.6%）」が続いている。

施設別にみると、3施設とも「今くらいが妥当」が最も多い。介護療養型医療施設は他より「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」が若干多くなっている（図表3-5-3）。

図表3-5-3 介護保険サービスと保険料についての考え方（全体、施設別）

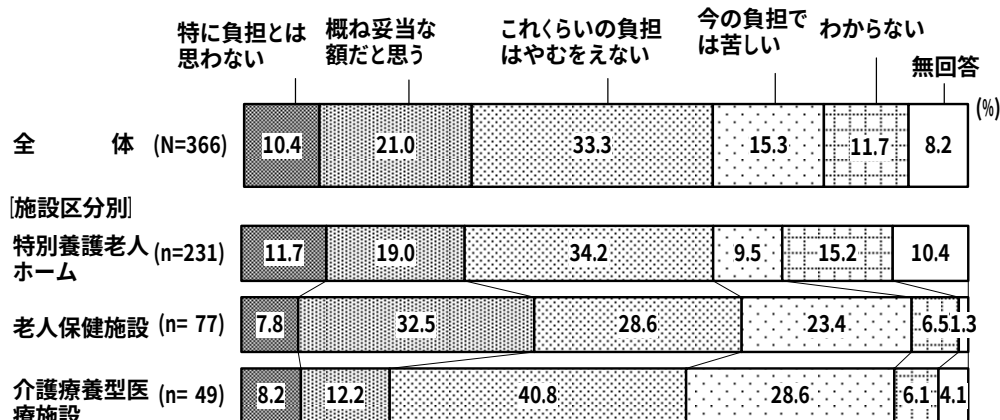


④ 施設利用料の負担感（問 14）

施設利用料の負担感についてたずねたところ、「これくらいの負担はやむをえない（33.3%）」が最も多く、「概ね妥当な額だと思う（21.0%）」、「今の負担では苦しい（15.3%）」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設では「今の負担では苦しい」が2割を超え、介護療養型医療施設では3割近くになっている（図表3-5-4）。

図表3-5-4 施設利用料の負担感（全体、施設別）

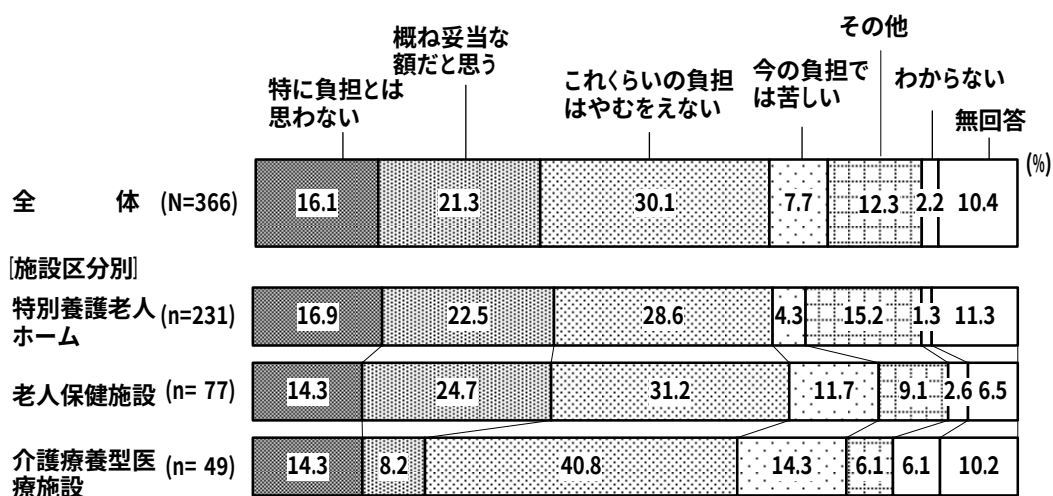


⑤ 日常生活費の負担感（問 15）

利用料以外の日常生活費（消耗品など）の負担についてたずねたところ、「これくらいの負担はやむをえない（30.1%）」が最も多く、「概ね妥当な額だと思う（21.3%）」、「特に負担とは思わない（16.1%）」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設と介護療養型医療施設では「今の負担では苦しい」が1割を超えている（図表3-5-5）。

図表3-5-5 日常生活費（消耗品など）の負担感（全体、施設別）

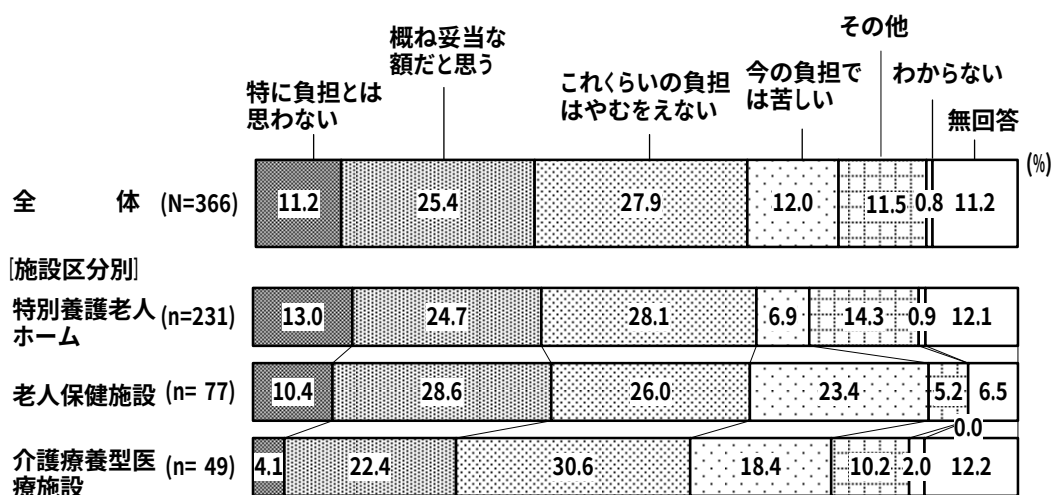


⑥ 居住費と食費の負担感（問 16）

居住費と食費の負担感についてたずねたところ、「これくらいの負担はやむをえない（27.9%）」が最も多く、「概ね妥当な額だと思う（25.4%）」、「今の負担では苦しい（12.0%）」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設と介護療養型医療施設では「今の負担では苦しい」が約2割である（図表3-5-6）。

図表3-5-6 居住費と食費の負担感（全体、施設別）

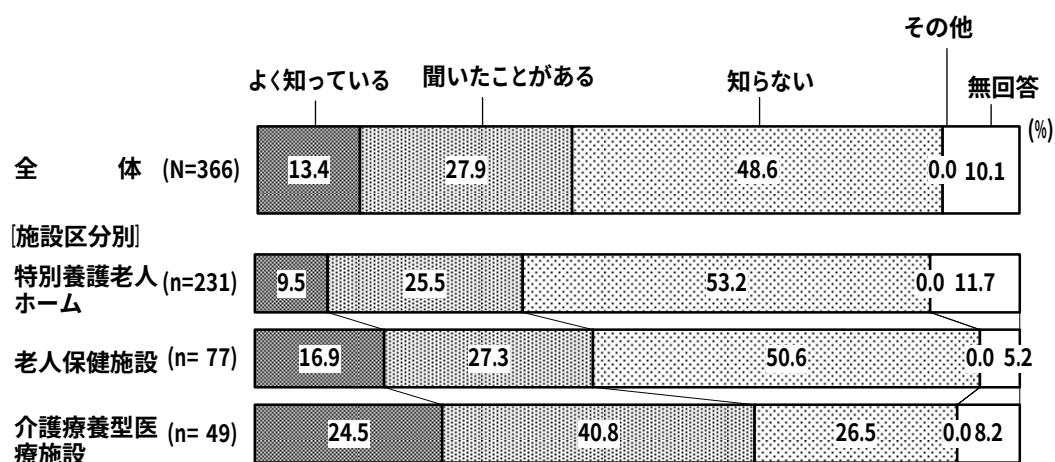


⑦ 介護療養型医療施設廃止の周知状況（問 17）

平成 23 年度末に介護療養型医療施設を廃止するという厚生労働省の方針についてたずねたところ、「知らない（48.6%）」が最も多く、「聞いたことがある（27.9%）」、「よく知っている（13.4%）」が続いている。

施設別にみると、介護療養型医療施設での周知状況は他よりは高いが、「知らない」の回答が 26.5%であり、4 人に 1 人は周知されていないと状況となっている（図表 3-5-7）。

図表 3-5-7 介護療養型医療施設廃止の周知状況（全体、施設別）

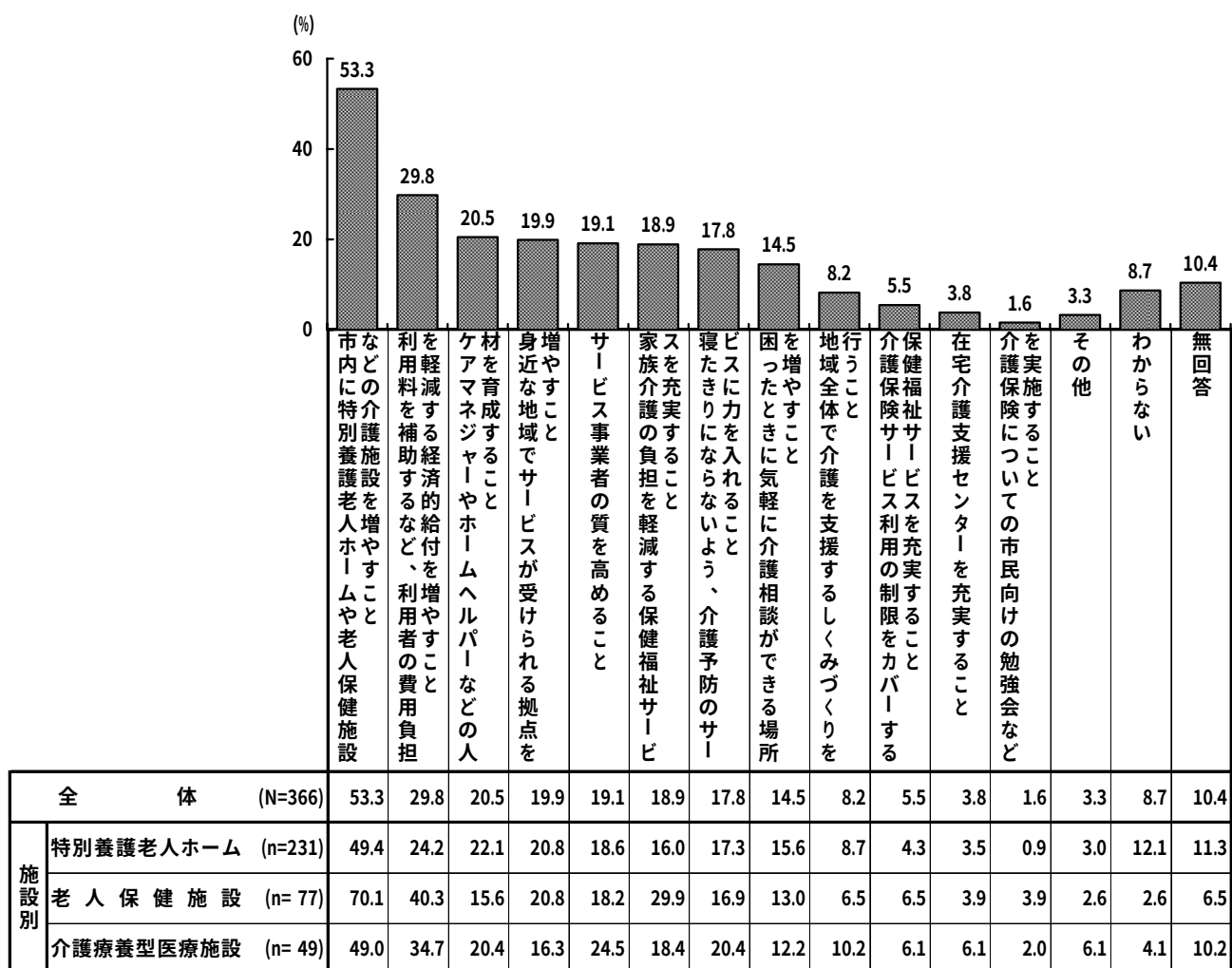


⑧ 介護保険制度をよりよくするため市が力を入れるべきこと（問18）

介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきことは、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（53.3%）」が最も多く、「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（29.8%）」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること（20.5%）」、「身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと（19.9%）」が続いている。

施設別にみると、3施設とも上位2つは、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」と「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」が上位2つであるが、3番目は施設で異なり、特別養護老人ホームは「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」、老人保健施設は「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービス充実すること」、介護療養型医療施設では「サービス事業者の質を高めること」となっている（図表3-5-8）。

図表3-5-8 介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきこと
（全体、施設別：複数回答（3つまで○））



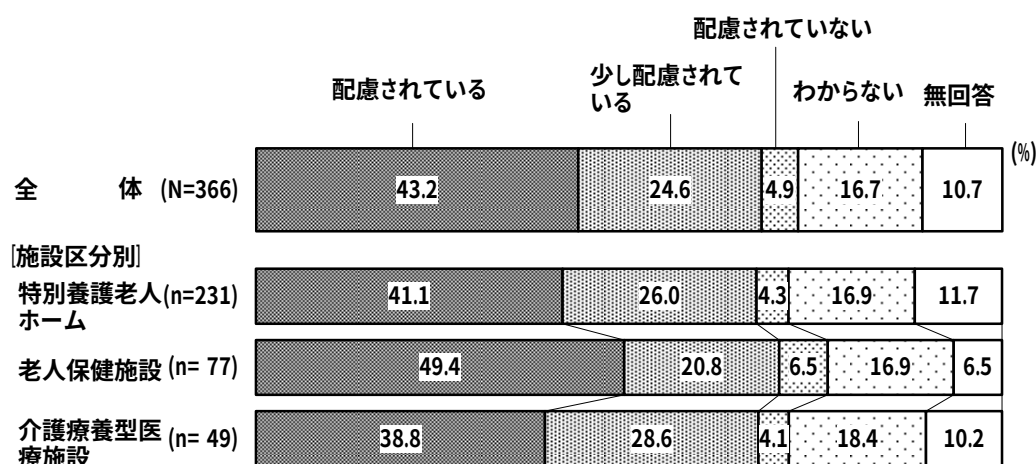
(6) 高齢者の権利擁護

① 施設でのプライバシーの配慮の有無 (問 19)

施設でのプライバシーの配慮は、「配慮されている (43.2%)」が最も多く、「少し配慮されている (24.6%)」、「わからない (16.7%)」が続いている。「配慮されている」と「少し配慮されている」をあわせると全体の約7割を占める。

施設別にみると、3施設とも「配慮されている」と「少し配慮されている」をあわせた割合は全体の7割近くになるが、老人保健施設では他より「配慮されている」が多くなっている (図表3-6-1)。

図表3-6-1 施設でのプライバシーの配慮の有無 (全体、施設別)

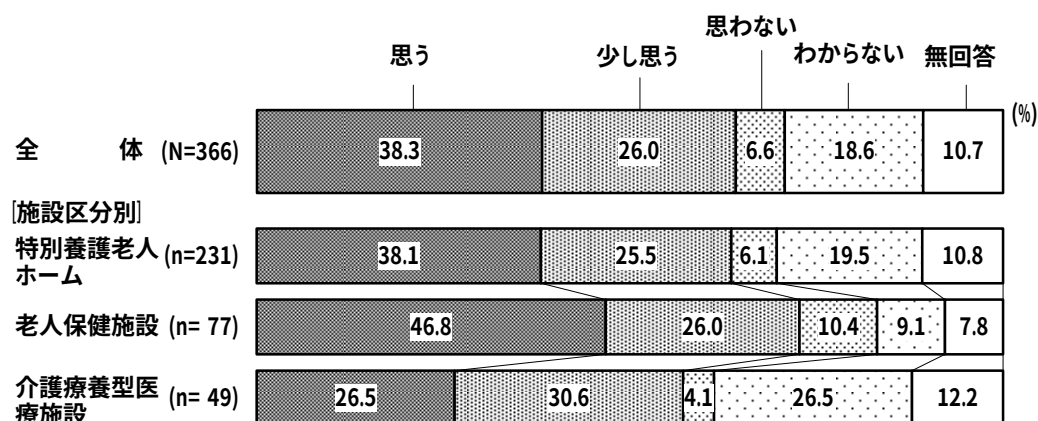


② 施設での本人の意向や希望の尊重の有無 (問 20)

施設での本人の気持ちや希望が尊重されているかについては、「思う (38.3%)」が最も多く、「少し思う (26.0%)」と合わせると64.3%となる。

施設別にみると、尊重されていると思う度合い (「思う」と「少し思う」を合わせた割合) は老人保健施設が他よりも高く、逆に介護療養型医療施設では最も低くなっている (図表3-6-2)。

図表3-6-2 施設での本人の意向や希望の尊重の有無 (全体、施設別)

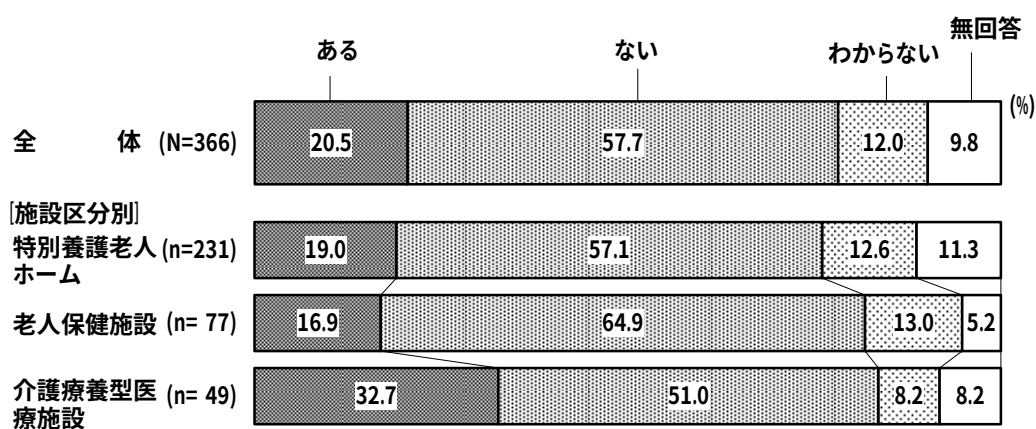


③ 施設でのからだの動作制限の有無（問 21）

施設でのからだの動作制限の有無は、「ない（57.7%）」が6割弱、「ある（20.5%）」が約2割となっており、「ない」と回答した人の割合は「ある」と回答した人の割合の3倍近くである。

施設別にみると、介護療養型医療施設では「ある」と回答した人の割合が他より高くなっている（図表3-6-3）。

図表3-6-3 施設でのからだの動作制限の有無（全体、施設別）

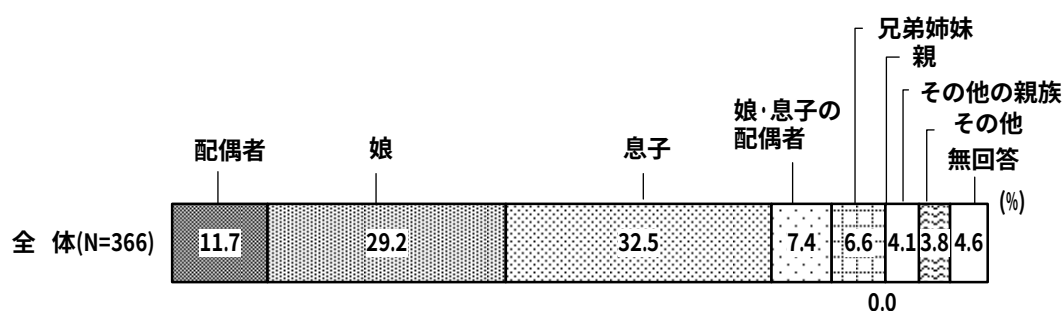


(7) 介護者の状況・意向

① 主たる連絡先（問 22）

主たる連絡先は、「息子（32.5%）」が最も多く、「娘（29.2%）」、「配偶者（11.7%）」が続いている（図表 3-7-1）。

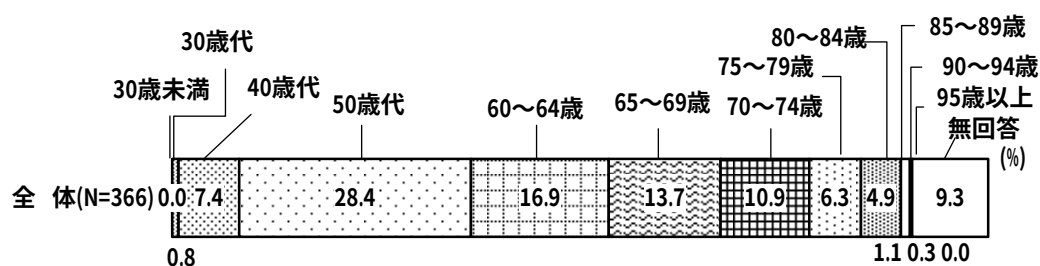
図表 3-7-1 主たる連絡先（全体）



② 主たる連絡先の人の年齢（問 23）

主たる連絡先の人の年齢は、「50 歳代（28.4%）」が最も多く、「60～64 歳（16.9%）」、「65～69 歳（13.7%）」が続いている（図表 3-7-2）。

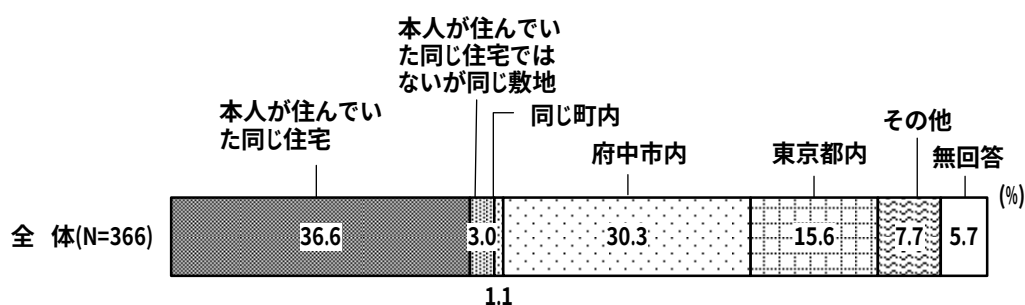
図表 3-7-2 主たる連絡先の人の年齢（全体）



③ 主たる連絡先の人の居住地（問 24）

主たる連絡先の人の居住地は、「本人が住んでいた同じ住宅（36.6%）」が最も多く、「府中市内（30.3%）」、「東京都内（15.6%）」が続いている（図表3-7-3）。

図表3-7-3 主たる連絡先の人の居住地（全体）

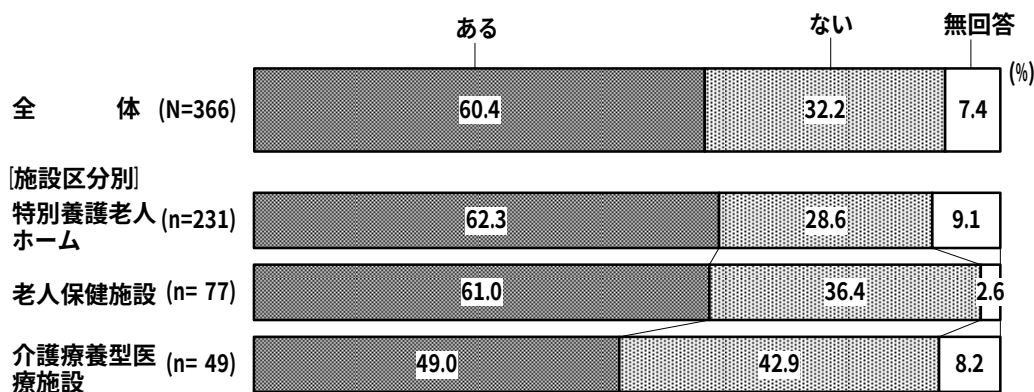


④ 認知症と診断されたことの有無（問 25）

認知症と診断されたことの有無は、「ある（60.4%）」が約6割、「ない（32.2%）」が約3割となっており、「ある」と回答した人の割合は、「ない」と回答した人の割合の2倍近くである。

施設別にみると、介護療養型医療施設では「ある」と回答した人の割合が他よりも低い（図表3-7-4）。

図表3-7-4 認知症と診断されたことの有無（全体）

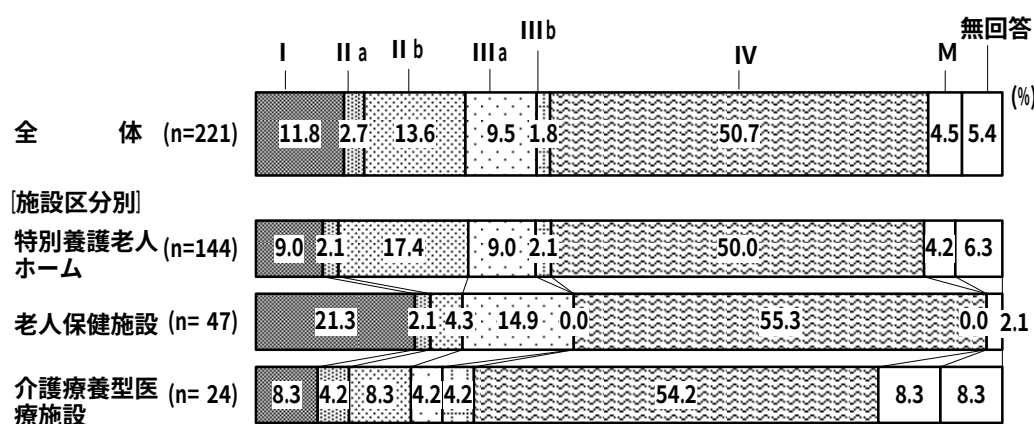


⑤ 認知症の症状について（問 25-1）

認知症と診断されたことが「ある」と回答した人に対して、その症状についてたずねた。症状は、「IV（50.7%）」が5割を超え最も多く、「II b（13.6%）」、「I（11.8%）」が続いている。

施設別にみると、特別養護老人ホームでは「II b」が他よりも多く、老人保健施設では「I」が他よりも多くなっている（図表3-7-5）。

図表3-7-5 症状について（全体）
＜認知症と診断されたことがあると回答した人＞（全体）



※認知症の症状について

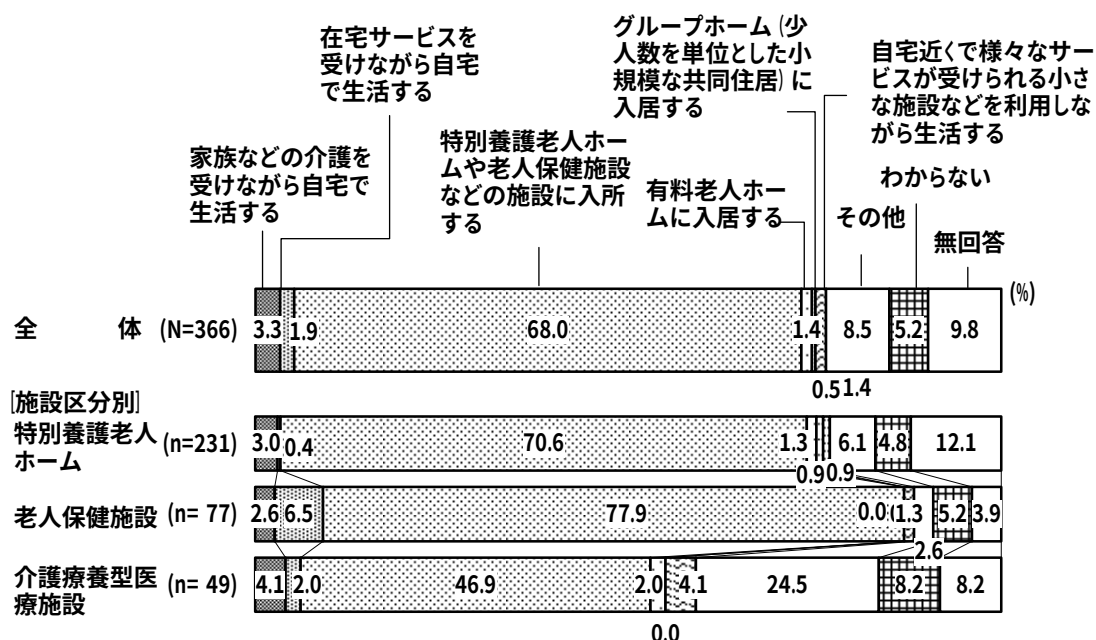
状態			日常生活自立度
物忘れをすることもあるが、日常生活は施設内及び社会的にほぼ自立している			I
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	（施設外）たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つなどの状態がみられる		II a
	（施設内）服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との応対など一人で留守番ができないなどの状態がみられる		II b
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護が必要とされる	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない・時間がかかる	日中を中心として	III a
		夜間を中心として	III b
	やたらに物を口に入れる、徘徊、失禁、大声、火の不始末、不潔な行為、性的行動などの症状が見られる	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	IV
		著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする（妄想、興奮、自傷、他害等の精神症状に起因する問題行動が継続する状態など）	M

⑥ 介護されている人の今後の生活の場所（問 26）

今後本人が生活するのによい場所は、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する（68.0%）」が約7割を占め、最も多くなっている。それ以外の項目はすべて1割未満となっているが、そのなかで多いのは、「わからない（5.2%）」、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する（3.3%）」などである。

施設別にみると、介護療養型医療施設では「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する」が他よりも少なく、特別養護老人ホーム、老人保健施設が7割を超えるのに対し、介護療養型医療施設では5割に満たない（図表3-7-6）。

図表3-7-6 今後本人が生活するのによい場所（全体）

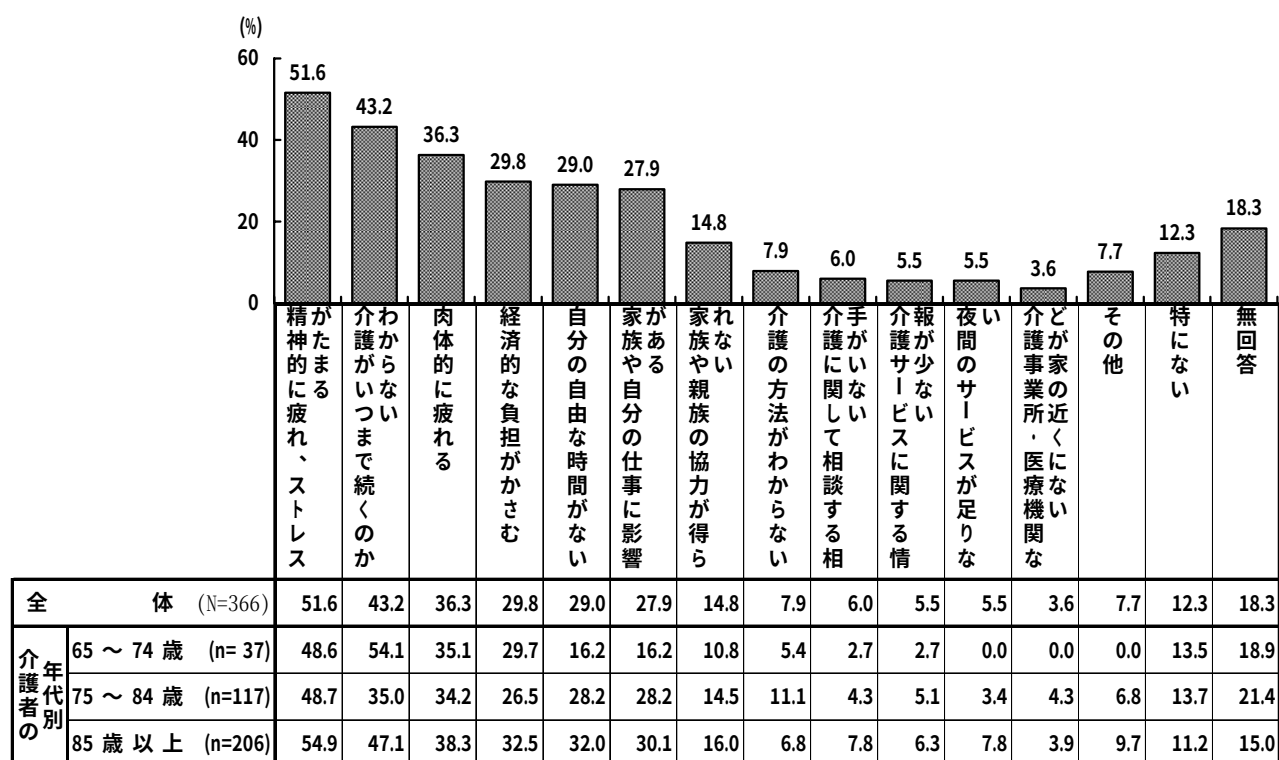


⑦ 介護の問題点（問 27）

介護していくうえでの問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる（51.6%）」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない（43.2%）」、「肉体的に疲れる（36.3%）」が続いている。

年代別にみると、85歳以上は「精神的に疲れ、ストレスがたまる」が他より多く、65～74歳は「介護がいつまで続くのかわからない」が他より多い。また「肉体的に疲れる」は各年代であまり差がない（図表3-7-7）。

図表3-7-7 介護していくうえでの問題点（全体：複数回答）



(8) 介護者の意見・市への要望等（問 28）

介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市への意見・要望・提案について、自由記述形式でたずねたところ、全体で 122 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に本人との関係が書かれている。

施設不足・施設不足による遠距離施設への入所について：23 件

- ・ 特別養護老人ホームを希望していますが空きがなく、しかたなく老人保健施設を利用して、耳が聞こえない理由で個室になってしまい、経済的に底をつきつつある。遠いところへはやりたくない。もっと市内に老人保健施設、特別養護老人ホームを作って欲しい。（老人保健施設、女性、95 歳以上）【娘】
- ・ 老人保健施設も 3 か月で移動の声がかかるが、なかなか次の施設のベッドが空かず頭を痛めている。市内はベッドがいっぱいで入れず、今は市外の老人保健施設に入所中である。特別養護老人ホームも数件申請しているが、何年も先だと言われた。施設の移動も精神的に疲れてきた。（老人保健施設、女性、75～79 歳）【娘・息子の配偶者】
- ・ グループホームといわれる施設を町内に 1 ヶ所以上開設して欲しい。（特別養護老人ホーム、女性、70～74 歳）【娘】
- ・ 特別養護老人ホームに入所できるまで老人保健施設を転々としていた時の本人及び介護者の精神状態はかなり不安定だったと思う。もう少し積極的に施設を増やしてもらいたい。（特別養護老人ホーム、女性、75～79 歳）【娘】
- ・ 現在遠距離の特別養護老人ホームに入所中だが、なかなか面会に行ってもあけられなくて、とても淋しい思いをさせていることがつらい。市内にもっと特別養護老人ホームがあればと思う。（特別養護老人ホーム、女性、95 歳以上）【娘・息子の配偶者】
- ・ 遠距離のため通うのが大変である。間を見て自分の病院通いもあるので、気持ちのゆとりを持たない。子供に SOS を出している。（介護療養型医療施設、男性、75～79 歳）【配偶者（夫または妻）】

介護保険に対しての不満・要望：17 件

- ・ 全国的にも府中市でも、現在のように高齢化社会になることは明確になっていたはずである。今の日本を支えてきた高齢者から様々な形で負担を増していく方針、実行はおかしいと思う。一番びっくりしたのは居住費食費の 10 割負担である。（老人保健施設、女性、90～94 歳）【娘】
- ・ 介護療養型医療施設の廃止方針については全く知らなかったが、核家族化の進む中一人暮らしや老々介護という実態に逆行するもので受け入れられない。自助努力で置かれた立場を改善できるのは限られた年齢までであり、当該施設に代替するものがニーズに応えられる程充実が為されれば問題ないが、何の手当てもないまま放置されるのでは、本人もさることながら家族にとっても大変な負担である。（特別養護老人ホーム、女性、85～89 歳）【息子】

- ・ 何か病名のつく病気がなければ施設に入れず、お金がない人は有料のところにも入れず、子供との同居もかなわない、そんな老人があふれている。行き場のない老人の施設やケアハウス、特別養護老人ホームも要介護度4、5と要介護度1～3の2種類にわけると、要介護度の軽い老人への対策を切に望む。(老人保健施設、男性、90～94歳)【娘】
- ・ 事業者の採算が取れる市立の有料老人ホーム(住居、介護施設複合型)にし、持てる者から可能最低限の資金を募り、“おんぶにだっこ”の福祉の限界を変えてゆかなければと常々考えている。(特別養護老人ホーム、女性、95歳以上)【娘】

感謝・満足：17件

- ・ 現在の施設では若者が良く動いてくれ、メンバーの入れ替わりも少なく、病状に対してアドバイスが早く、安心して眠ることができる。とても感謝している。(老人保健施設、女性、85～89歳)【娘】
- ・ 近所の施設なのでとても良いと思っている。急病のときでも早い対応ができ、普段でもちよくちよく顔を見ることができる。要介護度5だが、本人にとっては穏やかに生活ができている。(特別養護老人ホーム、女性、80～84歳)【娘・息子の配偶者】
- ・ 毎年夏の時期のみ数か月に渡って入所のサービスを受けている。自宅では温度差が激しく、施設にいと心配なく過ごせ、体への負担を感じなくなり、有難く思う。普段はかなり元気なので、今のやる気を失わない為に、音楽を楽しんだり、手芸・習字などのプログラムを今後も充実させていただいたりして、仲間との談話も楽しめていけたらいいと思う。(老人保健施設、女性、80～84歳)

人員不足への不満、人材育成・待遇改善の要望：11件

- ・ 介護に携わっている人の待遇をよくして欲しい。そして人員を増やし、ベテランを大事にし、話し相手になってくれる人の必要性を重視すべきである。(特別養護老人ホーム、女性、75～79歳)【娘】
- ・ ヘルパーさんの賃金が安いと思う。賃金がある程度高ければヘルパーさんの数ももっと多くなると思う。ヘルパーさんの数が少ないと思う。(特別養護老人ホーム、女性、90～94歳)【娘・息子の配偶者】
- ・ 老人保健施設から特別養護老人ホームに移ったばかりだが、老人保健施設の様な明るい雰囲気はなく、入所者が要介護度4～5の方々なので、お互い意思の疎通もなく、毎日ぼんやり過ごしているように見える。デイサービスに通っている人たちと同じようにもう少し趣味を生かしてあげられればいいと感じた。そのためには、ヘルパーさんの人数がもっと必要である。(特別養護老人ホーム、女性、85～89歳)【その他親族】

次の施設への入所の不安・スムーズな入所の希望：11件

- ・ 府中市民であれば府中市にある介護老人福祉施設に申し込んだら遅くとも3か月～6か月以内には入所できるように整備してもらいたい。(介護療養型医療施設、女性、95歳以上)【息子】

- ・ 現在入所2施設目になる。1施設目の入所期間は1年と3か月だった。現在のところは1年と5か月になる。いつ出るようにと言われるかビクビクしている。特別養護老人ホームを申し込んでいるが、いつ頃入れるのか、忘れられているのではないのかと不安な毎日である。時々声掛けをして下さるようお願いしたいと思っている。(老人保健施設、女性、85～89歳)【娘】
- ・ 今のところは老人保健施設にしばらく預かってもらう状況で良いのだが、これからが心配である。状態がもっと悪くなると預かってもらえないのではと不安である。スムーズに施設を利用できるようにして欲しい。(老人保健施設、女性、80～84歳)【娘】
- ・ 核家族化が進み、誰の協力も得られない介護者の援助、施設の提供がすみやかに、気軽に受けられる事を望む。(特別養護老人ホーム、男性、80～84歳)【娘】
- ・ 数多くの特別養護老人ホームを申し込むも、2年近くにもなるが入所できず、ホームからも何の連絡もない。いつまで待つのか不安である。(老人保健施設、女性、85～89歳)【息子】

介護の苦勞、実態：9件

- ・ 本人のためには、家庭で世話をしてあげるのが一番だと思うし、自分自身にとっても悔いが残らないと思う。しかし、幼稚園生や小学生の親にとって、子育てと介護の両立は不可能で、同居は難しいように思う。(介護療養型医療施設、女性、95歳以上)【その他親族】
- ・ 本人の年金だけでは施設での生活が成り立たない。かといって、自宅での生活ではお互いに無理である。なんとも情けないことである。(特別養護老人ホーム、女性、80～84歳)【娘】
- ・ 本人に承諾なしで特別養護老人ホームに入所させ、義母に申し訳ない気持ちがあるのと、どうしているか気がかりである。そんな理由で面会もできず、遠くから様子を見させていただいている。家族としては、時々好物を届けながら、苑での様子を聞いてあげたいのだが、現実は無理である。いまさら家に帰りたと言われても、認知症の母の自宅での介護はしんどい。できれば会合や催し物があるときには、家族の代わりに出席して母の様子や言い分を聞いてきて下さる方がいればお願いしたいと思っている。(特別養護老人ホーム、女性、90～94歳)【娘・息子の配偶者】

施設でのサービス内容、介護態度等への不満・要望：8件

- ・ 以前、府中市内の老人保健施設でお世話になっていたが、その施設の職員の中に態度の悪い人が何人かいた。どなる、大きい声でしかりつける、またつねるなど。入所している方々の顔つきには表情がなく、萎縮して感じられた。そこには老人に対する思いやり、尊敬、気遣い、やさしさなどは感じられなかった。職員に対する教育、指導、トレーニング等を考えていただきたいと感じた。(介護療養型医療施設、女性、85～89歳)【娘】
- ・ 市内の老人施設に短期入所で何ヵ所かお世話になったが、あまりに人権を無視している施設があり、怒りさえ覚えた。施設側が楽なように、管理しやすいようなシステムになっており、入居者の快適さはまったく感じられなかった。市はアポなしに、一斉に施設を訪問して、特に認知症の人達が施設内でどんな生活をしているのかを生で見て欲しいと思う。

(特別養護老人ホーム、女性、90～94 歳)【娘】

- ・ 「世話していただく」に甘えすぎの気がする。個人差はあるが、自分でできることは参加する機会を多く与えて欲しい。人の力になることを好む人が多い。(特別養護老人ホーム、女性、95 歳以上)【息子】

相談窓口の充実・質の向上、情報提供の要望：7 件

- ・ 介護を受けることになった時、最初の相談者により家族の心の負担が変わることを知っていて欲しい。最初の窓口で対応をする職員にはスペシャリストを置いていただきたい。(老人保健施設、男性、70～74 歳)【娘】
- ・ ケアマネジャーの方が地域担当でいるのだが、介護認定の時の調査時にしかお目にかかれていない。もっと多く交流ができるようになったらと思っている。老人施設の情報を聞いてもわからない状態だった。老人全員が入所できない現状に対して、ある程度アドバイスができるくらいの知識と情報を持っていて欲しいと思う。(特別養護老人ホーム、女性、85～89 歳)【娘】
- ・ 安心して介護ができる総合の相談窓口や専門部門を作っていただきたい。(老人保健施設、男性、75～79 歳)【配偶者(夫または妻)】
- ・ 在宅介護を行っている家族に、例えば食事のメニュー、レシピ等の栄養学的見地及び病気予防の観点からの摂取制限等の具体的な提案があると、食事を作る側も食べる側もメリットが多いのではないか。(特別養護老人ホーム、女性、95 歳以上)【その他親族】

受け入れ体制、受け入れ条件(難病など)への不満：6 件

- ・ 胃ろうのため、特別養護老人ホームへの入所は不可能と言われている。胃ろうでも入所できるようにして欲しい。(老人保健施設、女性、80～84 歳)【配偶者(夫または妻)】
- ・ 高齢の夫婦がふたり一緒に施設には入れないか。(特別養護老人ホーム、男性、95 歳以上)【その他親族】
- ・ 近くの施設にお願いしたとき、問題行動などがあって短期で帰された時には涙が出た。「施設側の都合で入所者が選ばれる」と感じている。(介護療養型医療施設、女性、85～89 歳)【娘・息子の配偶者】

入院してしまったときに退所を余儀なくされることへの不安・不満：5 件

- ・ 3か月以上入院すると老人ホームを出されてしまう。一番の不安である。(特別養護老人ホーム、男性、70～74 歳)【配偶者(夫または妻)】
- ・ 現在入所している特別養護老人ホームで、今後本人が急な病気で病院に入院した場合、1か月以上だとホームに戻ってこられなくなり、療養型の病院に転院しなければならないと聞いた。戻ってこられないのはとても不満である。(特別養護老人ホーム、女性、80～84 歳)【娘】

入所期間への不満：4件

- ・ 老人保健施設には入所期間があるようだが、年をとると同じ所の方が落ち着いて生活できると思うので、長く入所できるようにして欲しい。特別養護老人ホームに申し込みをしても、なかなか入所できないので。(老人保健施設、女性、85～89 歳)【娘】

将来への不安・思い：2件

- ・ 自分も将来認知症になるかもしれない。軽度の認知症は仕方がないと思う。回りの人がやさしく見守ってやったらよい。でもひどくなったらやはり病気なので、施設に入所させてもらいたい。もう一回目の自分の人生は終わったのだから、残りの人生は子供たちに面倒をかけないでホームで終わりたい。(特別養護老人ホーム、女性、85～89 歳)【娘・息子の配偶者】

その他：2件

- ・ これからも頑張っていたきたい。(特別養護老人ホーム、男性、65～69 歳)【息子】

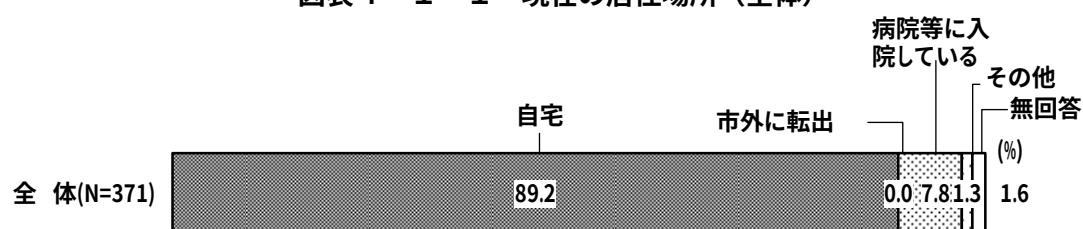
4 介護保険サービス未利用者調査

(1) 基本属性

① 現在の居住場所 (F 1)

現在の居住場所は、「自宅 (89.2%)」が最も多く、「病院等に入院している (7.8%)」が続いている (図表 4-1-1)。

図表 4-1-1 現在の居住場所 (全体)

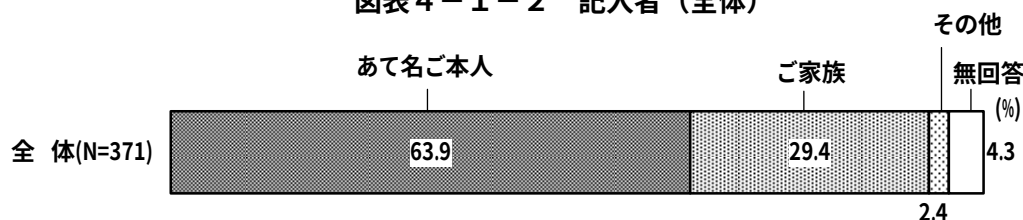


② 記入者 (F 2)

調査票に記入した人は、「あて名ご本人 (63.9%)」が最も多く、「ご家族 (29.4%)」が続いている (図表 4-1-2)。

前回調査と比べると本人回答が増加している (前回は本人の回答 57.0%)。

図表 4-1-2 記入者 (全体)



③ 性別 (F 3)

回答者の性別は、「女性 (67.4%)」が多く、「男性 (32.1%)」の2倍以上となっている (図表 4-1-3)。

前回調査と比べると女性が増加している (前回は女性 57.8%)。

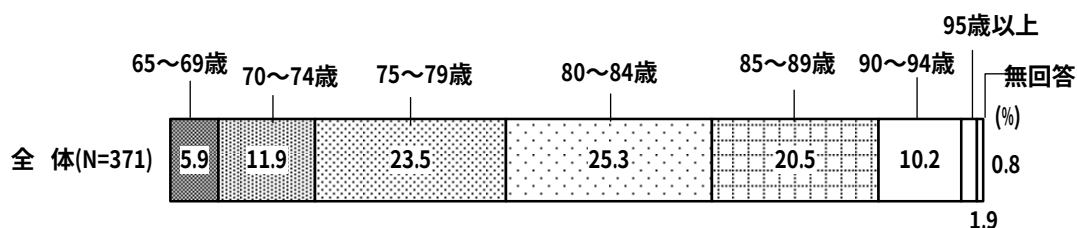
図表 4-1-3 性別 (全体)



④ 年齢（F 4）

回答者の年齢は、「80～84 歳（25.3%）」が最も多く、「75～79 歳（23.5%）」、「85～89 歳（20.5%）」が続いている。75 歳以上の後期高齢者が 81.4%を占めている（図表 4－1－4）。
前回調査と比べると後期高齢者が増加している（前回は後期高齢者 56.2%）。

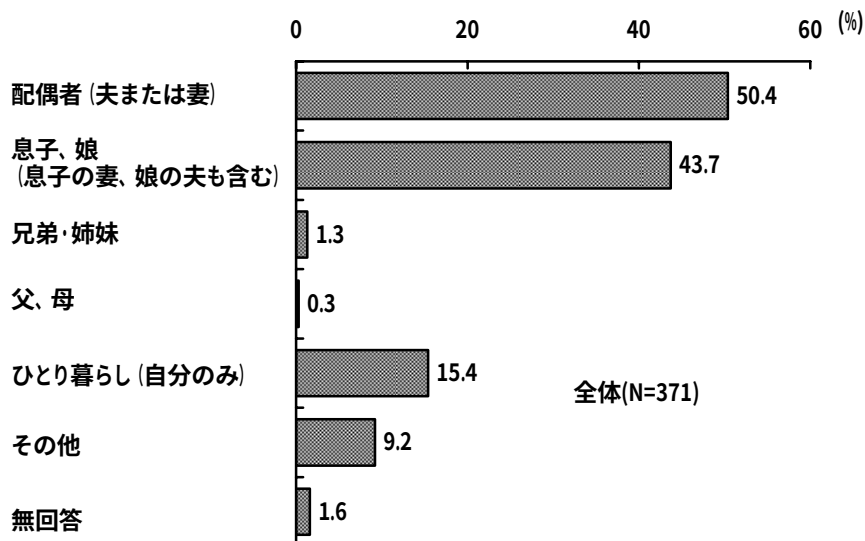
図表 4－1－4 年齢（全体）



⑤ 同居家族（F 5）

同居家族は「配偶者（50.4%）」が最も多く、「息子、娘（43.7%）」が続いている。「ひとり暮らし（15.4%）」は2割以下となっている（図表 4－1－5）。

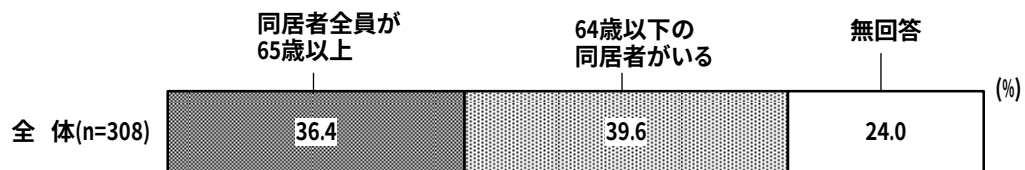
図表 4－1－5 同居家族（全体：複数回答）



⑥ 同居者の年齢（F 5-1）

「ひとり暮らし（自分のみ）」以外の人に同居者の年齢をたずねた。「64歳以下の同居者がいる（39.6%）」と「同居者全員が65歳以上（36.4%）」がほぼ同じ割合となっている（図表4-1-6）。

図表4-1-6 同居者の年齢
＜同居者がいると回答した人＞（全体）

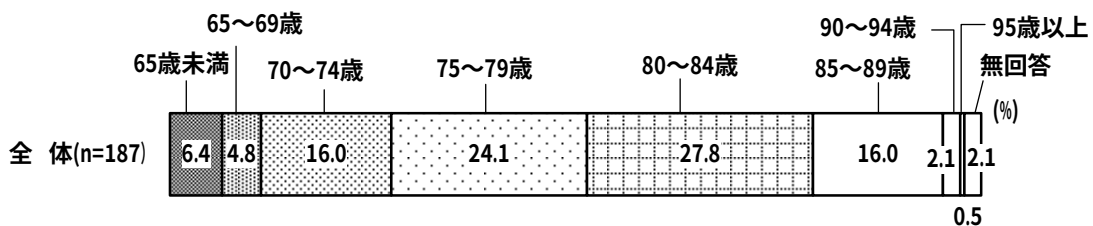


⑦ 配偶者の年齢（F 5-2）

「配偶者（夫または妻）」がいる場合、配偶者の年齢は「80～84歳（27.8%）」が最も多く、「75～79歳（24.1%）」、「70～74歳（16.0%）」と「85～89歳（16.0%）」が続いている。75歳以上の後期高齢者が7割（70.5%）を占める（図表4-1-7）。

前回調査と比べると配偶者も後期高齢者が増加している（前回の後期高齢者56.2%）。

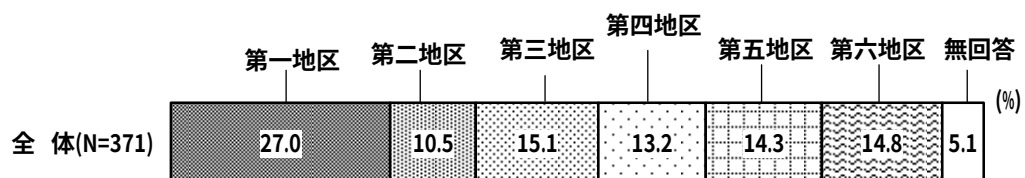
図表4-1-7 配偶者の年齢
＜配偶者がいると回答した人＞（全体）



⑧ 居住地域（F 6）

居住地域は「第一地区（27.0%）」が最も多く、「第三地区（15.1%）」、「第六地区（14.8%）」、「第五地区（14.3%）」が続いている（図表4-1-8）。

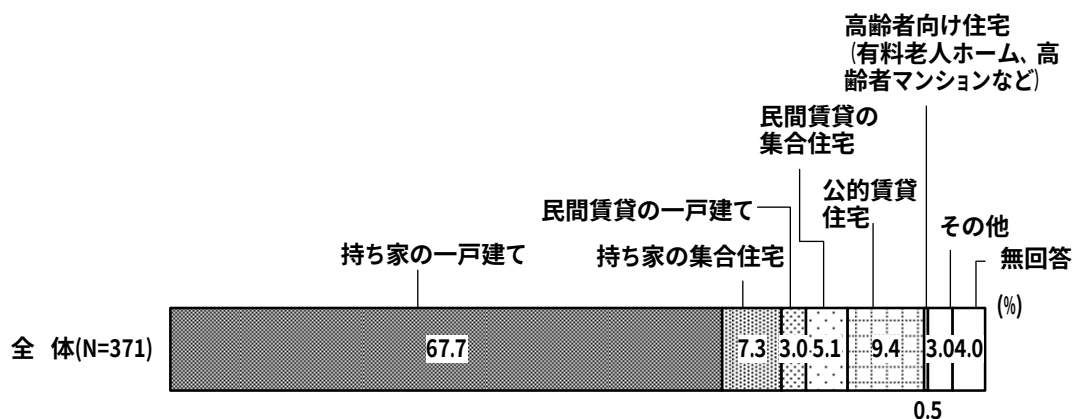
図表4-1-8 居住地域（全体）



⑨ 住宅の所有形態（F 7）

住宅の所有形態は「持ち家の一戸建て（67.7%）」が最も多く、「公的賃貸住宅（9.4%）」、「持ち家の集合住宅（7.3%）」が続いている。「高齢者向け住宅（0.5%）」は少ない（図表4－1－9）。

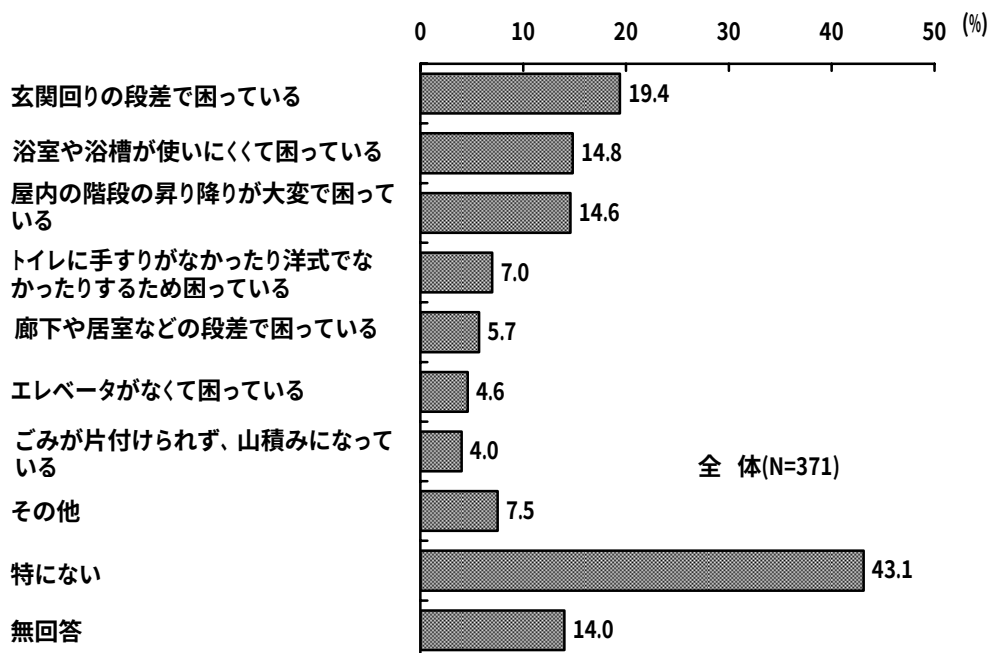
図表4－1－9 住宅の所有形態（全体）



⑩ 住宅の問題点（F 7－1）

住宅の問題点は「特にない（43.1%）」が最も多い。困っていることの内容は、「玄関回りの段差で困っている（19.4%）」が最も多く、「浴室や浴槽が使いにくくて困っている（14.8%）」、「屋内の階段の昇り降りが大変で困っている（14.6%）」が続いている（図表4－1－10）。

図表4－1－10 住宅の問題点（全体：複数回答）

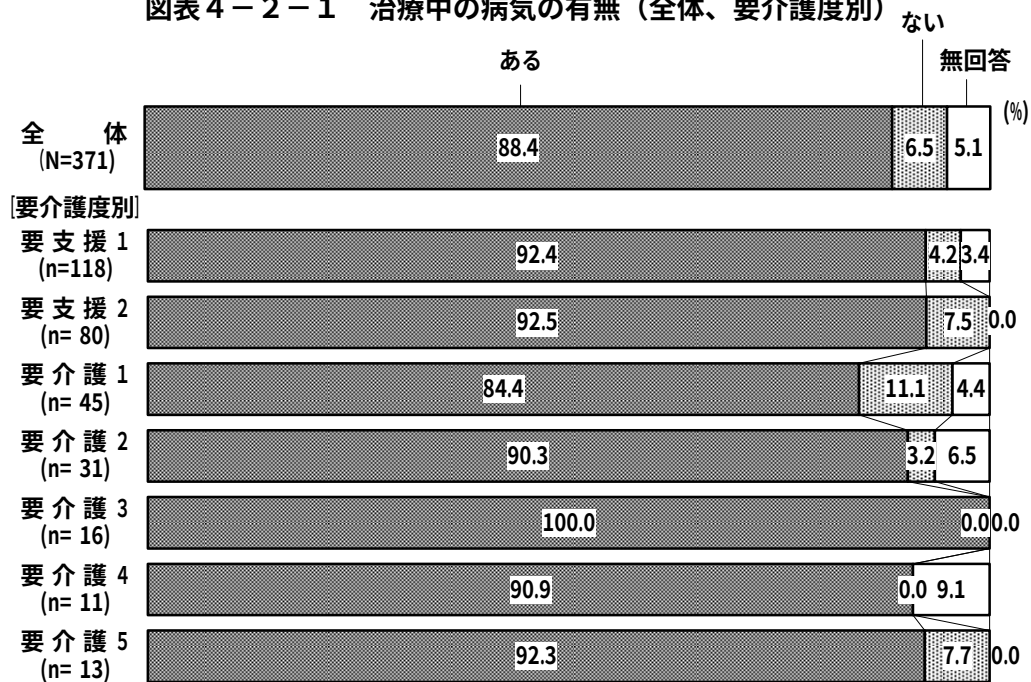


(2) 医療の状況

① 治療中の病気の有無（問1）

現在治療中の病気は、「ある（88.4%）」が9割弱を占める。要介護度別にみると、「ある」の割合は要介護1を除いて、9割以上である（図表4-2-1）。

図表4-2-1 治療中の病気の有無（全体、要介護度別）

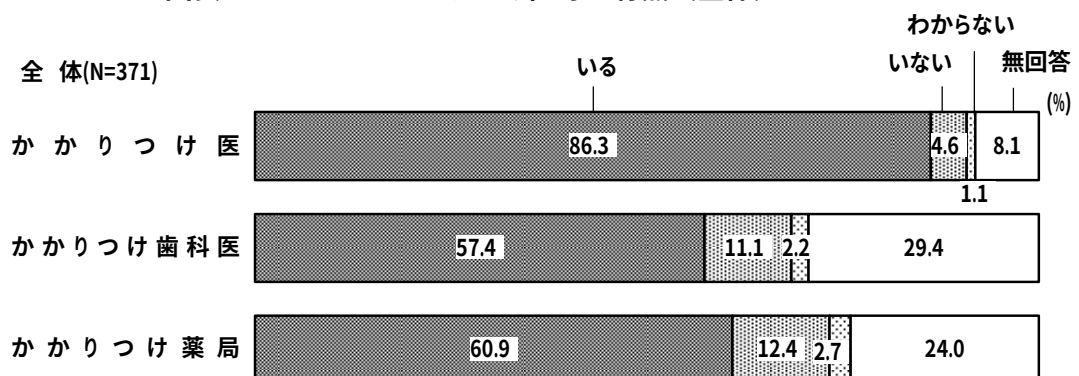


② かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局（問2）

かかりつけ医は、「いる（86.3%）」が約9割、かかりつけ歯科医は、「いる（57.4%）」が6割弱、かかりつけ薬局は、「いる（60.9%）」が6割強である（図表4-2-2）。

前回調査と比べると、「いる」は、かかりつけ医（前回 74.9%）、かかりつけ歯科医（前回 51.7%）かかりつけ薬局（前回 56.5%）、いずれも増加している。

図表4-2-2 かかりつけ医等の有無（全体）



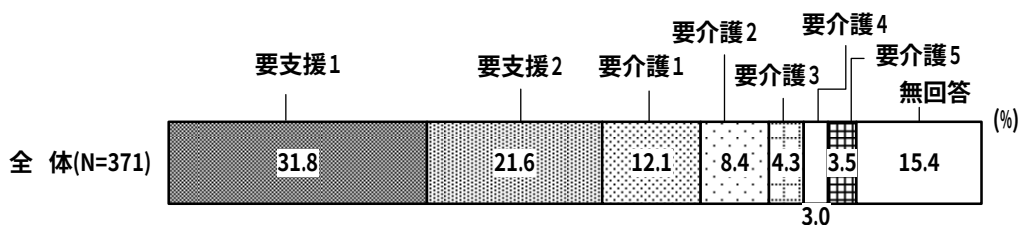
(3) 介護保険サービスの利用

① 要介護度（問3）

要介護度は、「要支援1（31.8%）」が最も多く、「要支援2（21.6%）」、「要介護1（12.1%）」が続いている（図表4-3-1-①）。

要介護度を3段階に分けてみると、「要支援（要支援1、2）」が53.4%、「軽度要介護（要介護1、2）」が20.5%、「重度要介護（要介護3～5）」が10.8%で、比較的軽度な要支援・要介護者が7割以上である（図表4-3-1-②）。

図表4-3-1-① 要介護度（全体）



図表4-3-1-② 要介護度（3段階）（全体）

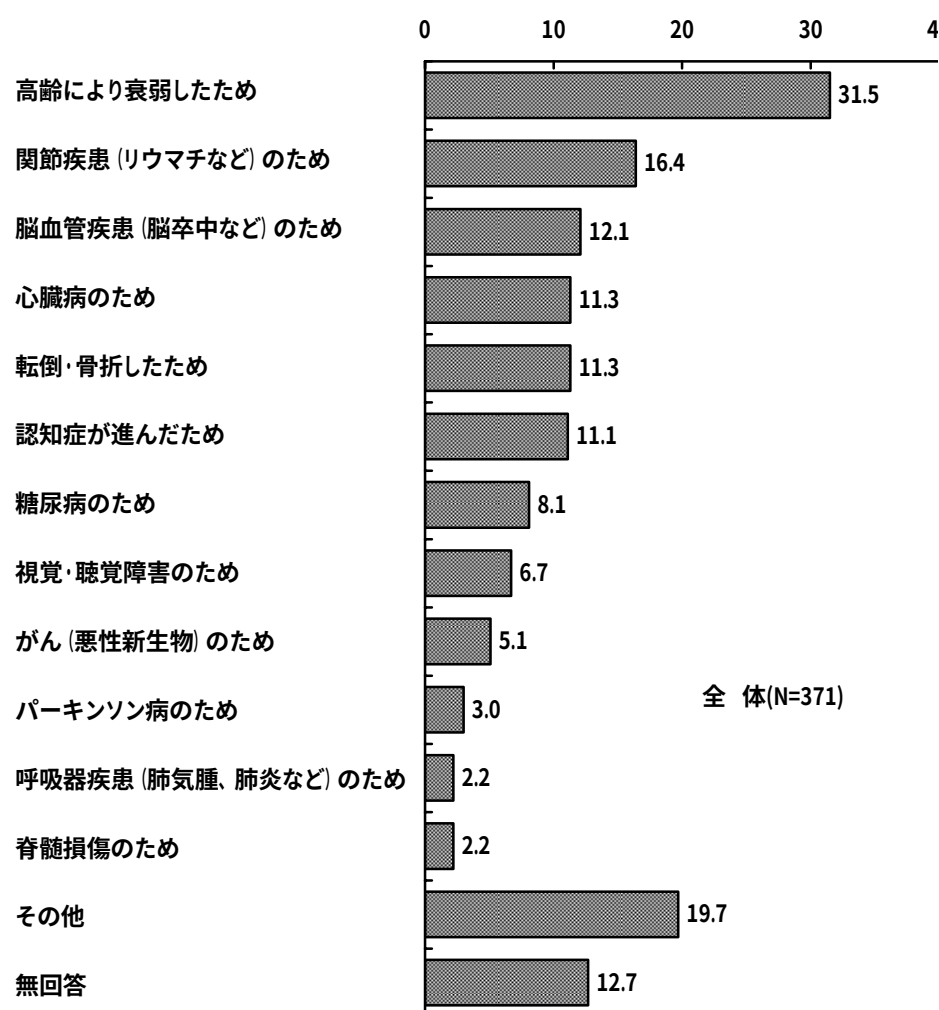
	合計	要支援 ※1	軽度要介護 ※2	重度要介護 ※3	無回答
実人数	371	198	76	40	57
比率	100.0%	53.4%	20.5%	10.8%	15.4%

※1：要支援1、2 ※2：要介護1、2 ※3：要介護3、4、5

② 要支援・要介護になった理由（問4）

要支援・要介護になった原因は、「高齢により衰弱したため（31.5%）」が最も多く、「関節疾患（リウマチなど）のため（16.4%）」、「脳血管疾患（脳卒中など）のため（12.1%）」が続いている（図表4-3-2）。

図表4-3-2 要支援・要介護になった原因（全体：複数回答）



③ 要介護認定の申請の理由（問5）

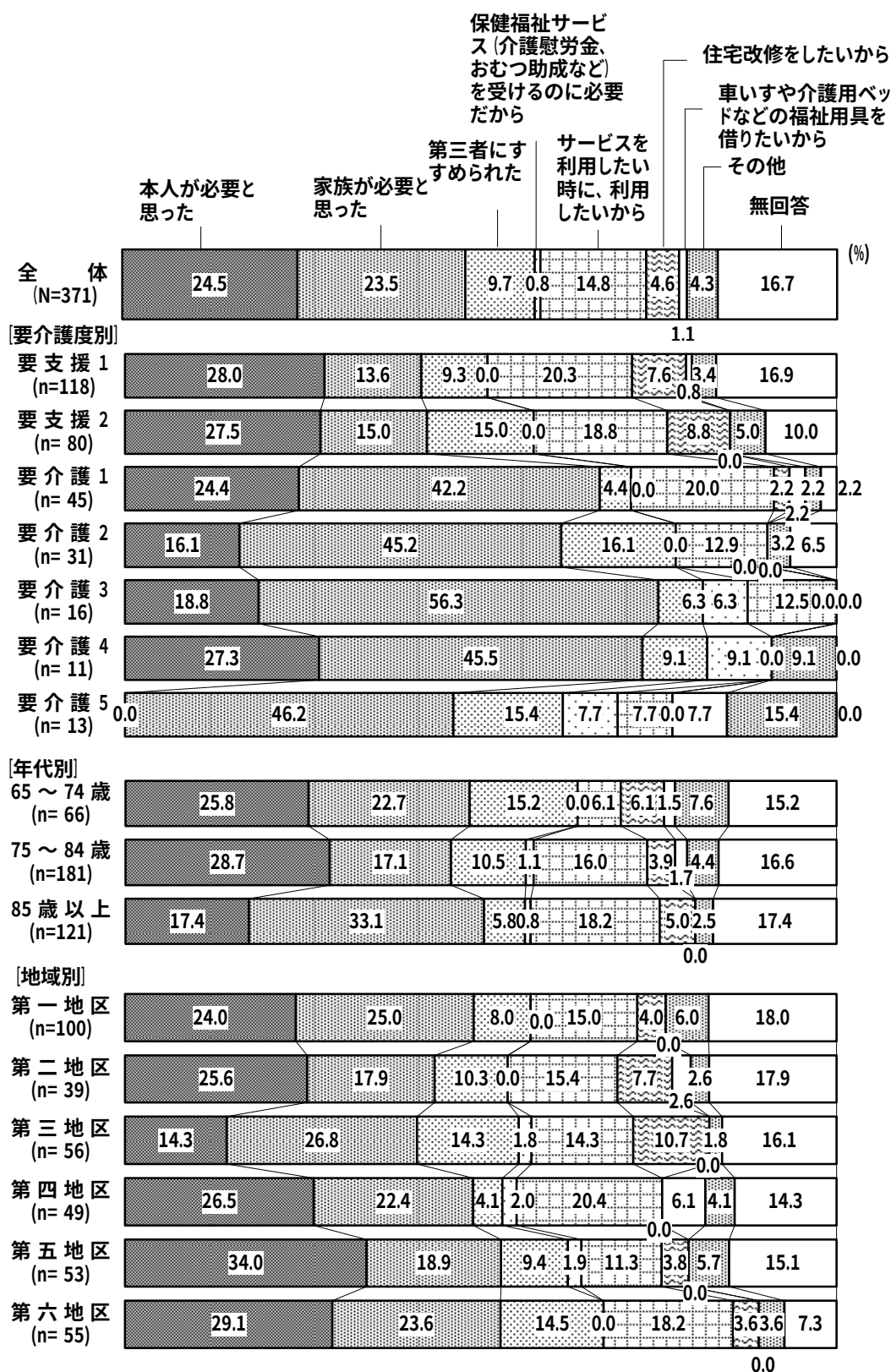
「要介護認定」の申請をしようと思った理由（きっかけ）は、「本人が必要と思った（24.5%）」が最も多く、「家族が必要と思った（23.5%）」、「サービスを利用したい時に利用したいから（14.8%）」が続いている。

要介護度別にみると、「本人が必要と思った」と「サービスを利用したい時に利用したいから」は、要支援1、2や要介護1で比較的多く、「家族が必要と思った」は、要介護3以上で多くなっている。

第3章 各調査の結果

年齢別にみると、「85歳以上」では「本人が必要と思った」が比較的少なく、「家族が必要と思った」が比較的多くなっている（図表4-3-3）

図表4-3-3 要介護認定の申請の理由
（全体、要介護度別、年代別、地域別）



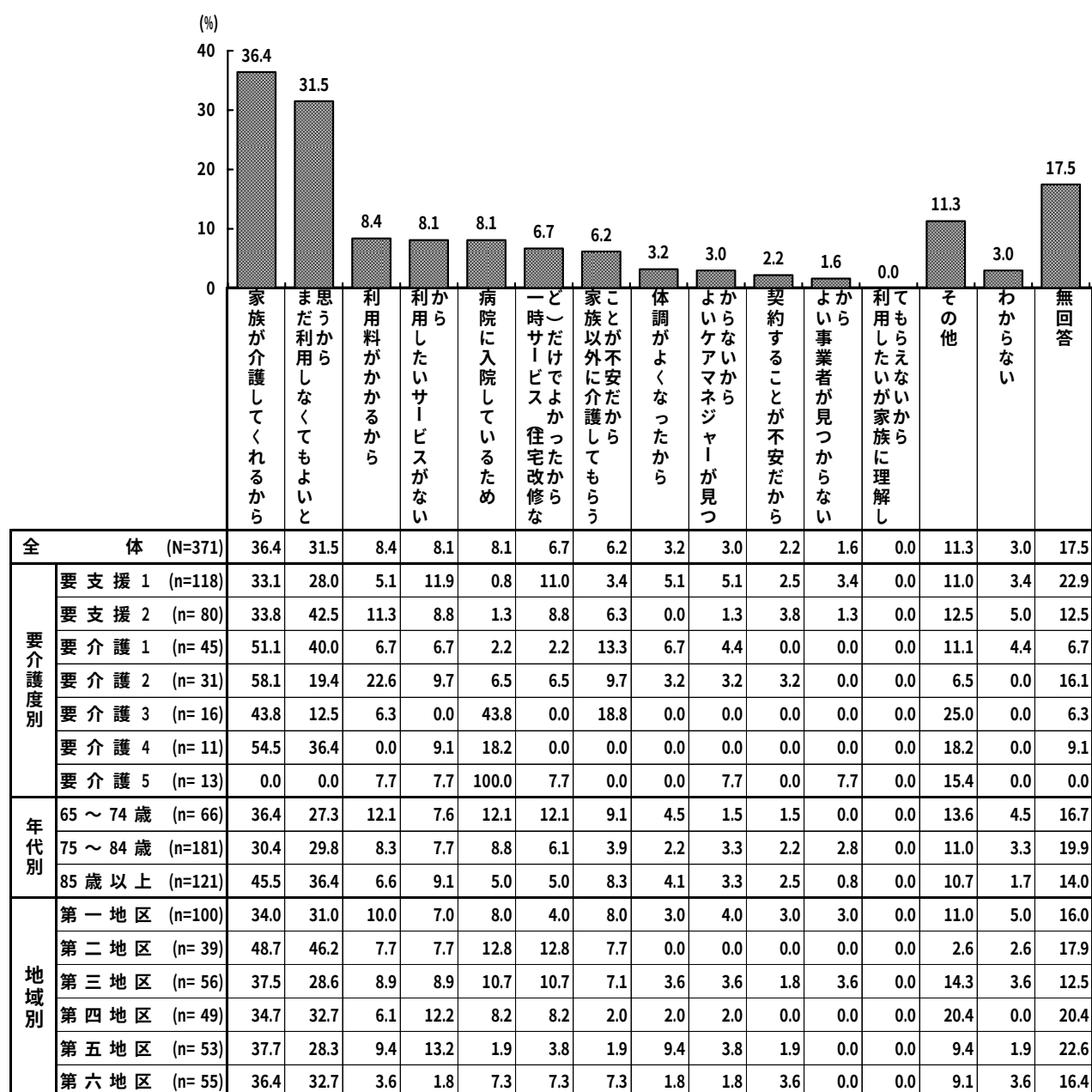
④ 介護保険サービスを利用しない理由（問6）

「要介護認定」を受けながら介護保険サービスを利用しない理由は、「家族が介護してくれるから（36.4%）」と「まだ利用しなくてもよいと思うから（31.5%）」が多くなっている。

要介護度別にみると、「家族が介護してくれるから」は要介護1以上で多く、「まだ利用しなくてもよいと思うから」は、要支援2や要介護1で比較的多い。要介護5では全ての人が「病院に入院しているため」と回答している。

年齢別にみると、「85歳以上」では「家族が介護してくれるから」と「まだ利用しなくてもよいと思うから」が他の年齢に比べると多くなっている（図表4-3-4）。

図表4-3-4 介護保険サービスを利用しない理由
（全体、要介護度別、地域別：複数回答）



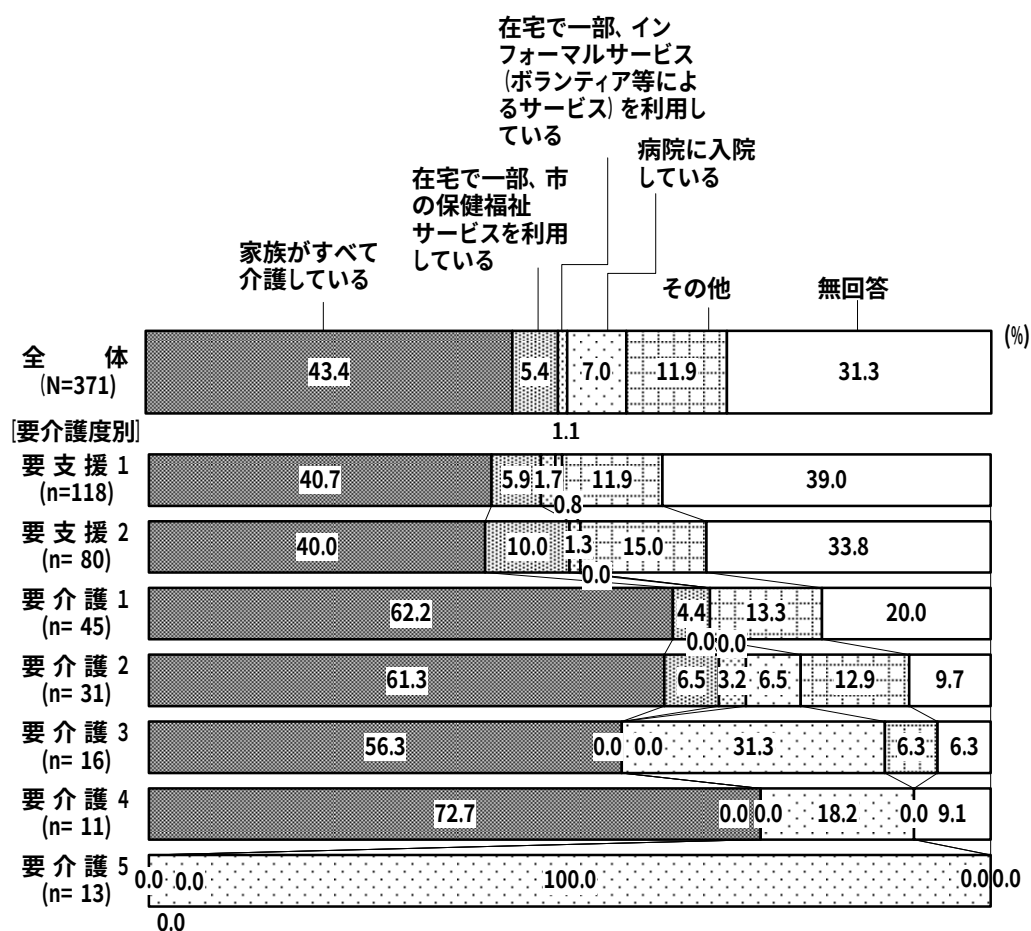
⑤ 現在、介護を受けている方法（問7）

現在、介護を受けている方法は、「家族が全て介護している（43.4%）」が最も多く、4割以上である。

要介護度別にみると、「家族が全て介護している」は要介護4では7割以上、要介護1と2では、6割以上である。要介護5は全ての人が「病院に入院している」と回答している（図表4-3-5）。

前回調査と比べると、「家族がすべて介護している」が増加している（前回 34.3%）。

図表4-3-5 現在、介護を受けている方法（全体、要介護度別）

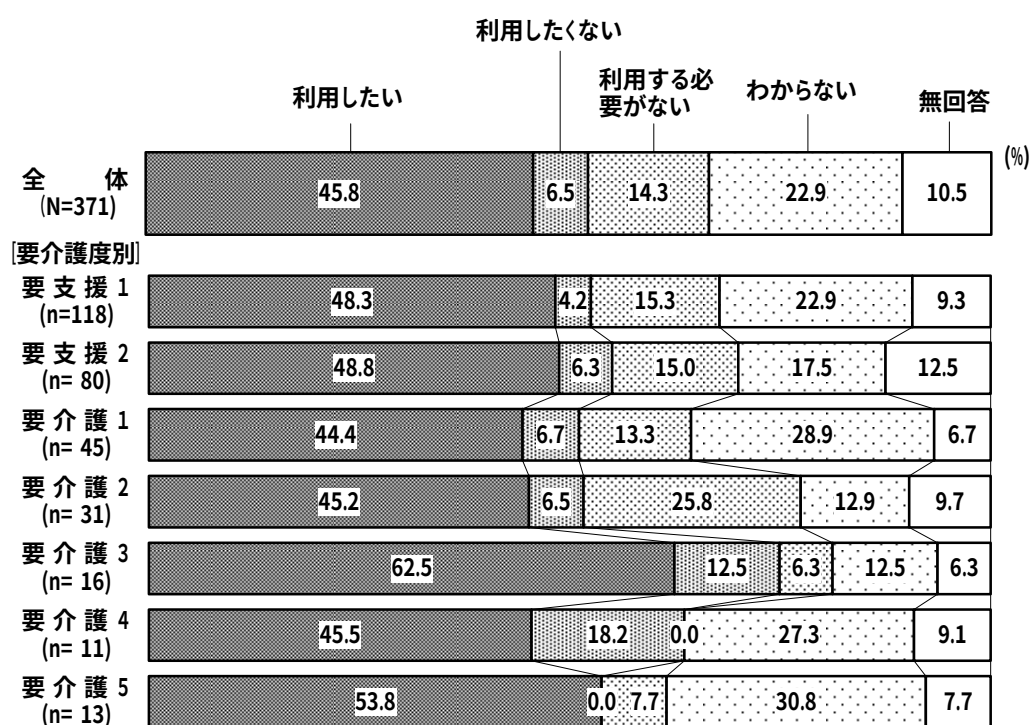


⑥ 介護保険サービスの利用意向（問8）

介護保険サービスの利用意向は、「利用したい（45.8%）」が4割以上である。「利用したくない（6.5%）」と「利用する必要がない（14.3%）」をあわせると、利用意向のない人は約2割である。

要介護度別にみると、要介護3では6割以上、要介護5では5割以上が「利用したい」と回答している（図表4-3-6）。

図表4-3-6 介護保険サービスの利用意向（全体、要介護度別）

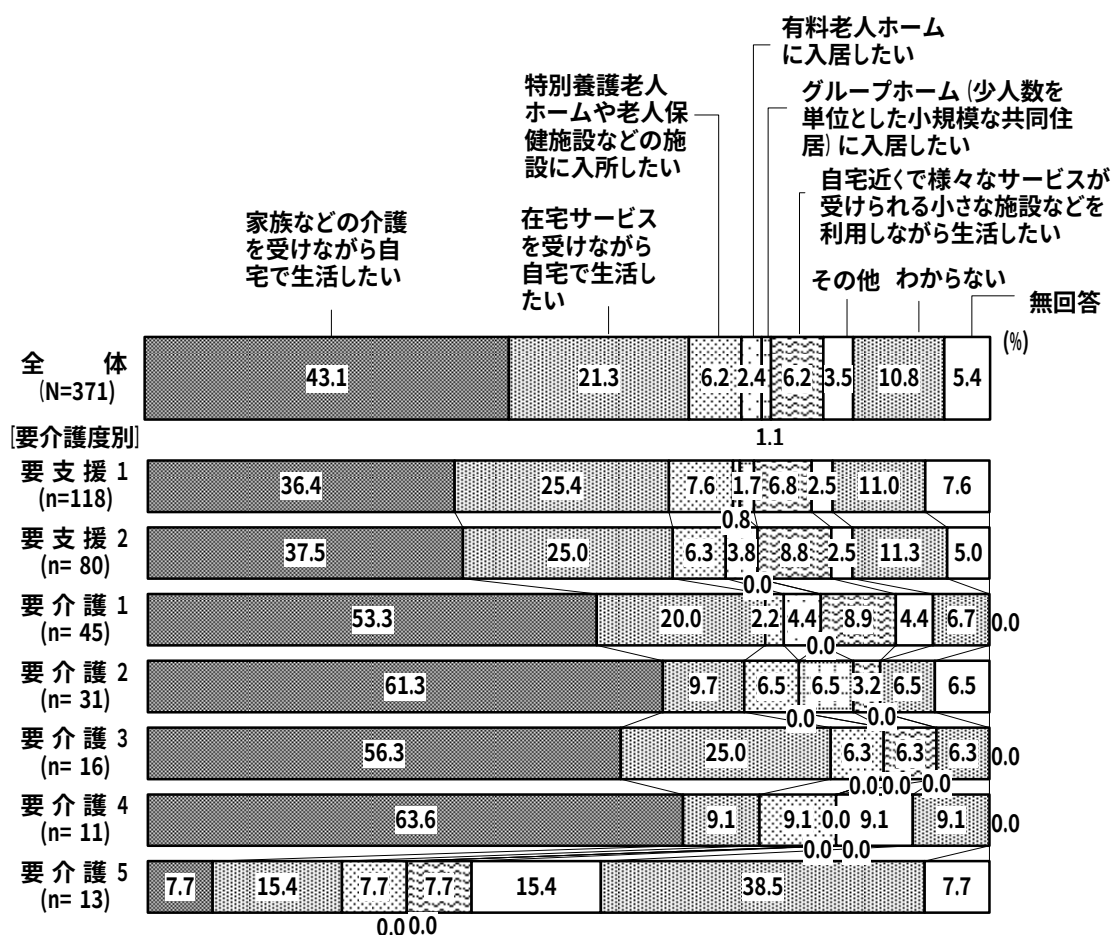


⑦ 今後、生活したい場所（問9）

今後、生活したい場所は、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい(43.1%)」、「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい(21.3%)」をあわせると6割以上が自宅での生活を望んでいる。

要介護度別にみると、要支援1～要介護4までは自宅での生活を望む割合が多いが、要介護5になると「わからない」が38.5%となり、自宅での生活（「家族などの介護を受けながら(7.7%)」と「在宅サービスを受けながら(15.4%)」）を超えている（図表4-3-7）。

図表4-3-7 今後、生活したい場所（全体、要介護度別）



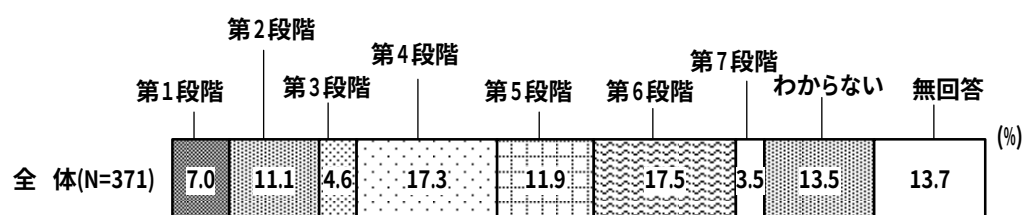
(4) 介護保険

① 保険料段階 (問 10)

保険料段階は、「第6段階 (17.5%)」が最も多く、「第4段階 (17.3%)」、「わからない (13.5%)」、「第5段階 (11.9%)」が続いている (図表4-4-1)。

前回調査では、「第3段階 (16.6%)」が最も多く、「第4段階 (12.7%)」、「第5段階 (11.6%)」が続いていた。

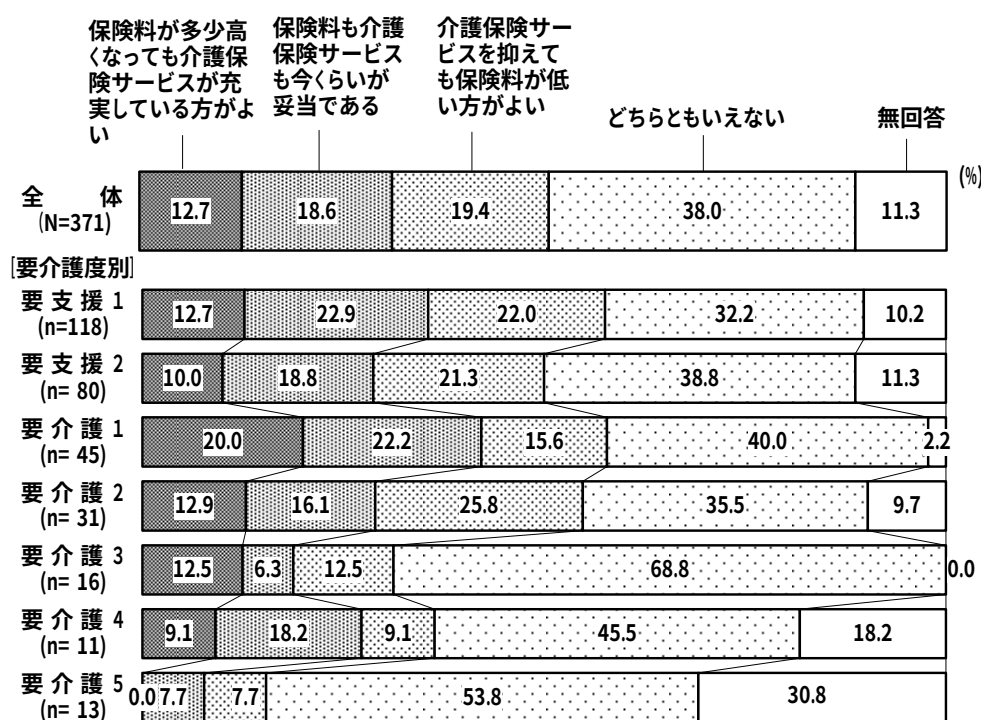
図表4-4-1 保険料段階 (全体)



② 介護保険サービスと保険料についての考え方 (問 11)

介護保険サービスと保険料についての考え方は、「どちらともいえない (38.0%)」が最も多く、「介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい (19.4%)」、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である (18.6%)」が続いている (図表4-4-2)。

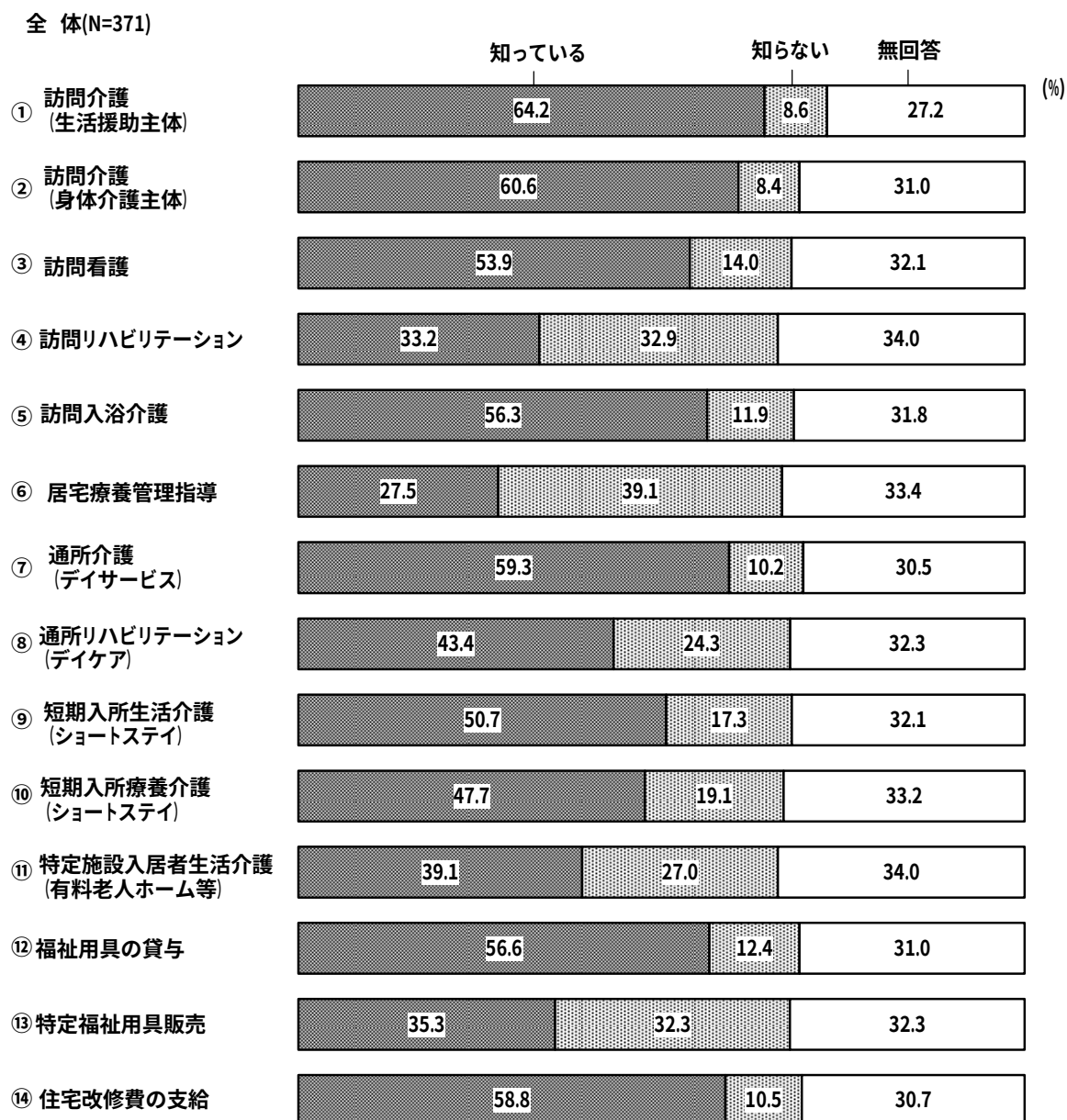
図表4-4-2 介護保険サービスと保険料についての考え方 (全体、要介護度別)



③ 居宅サービスの認識度と利用意向（問 12）

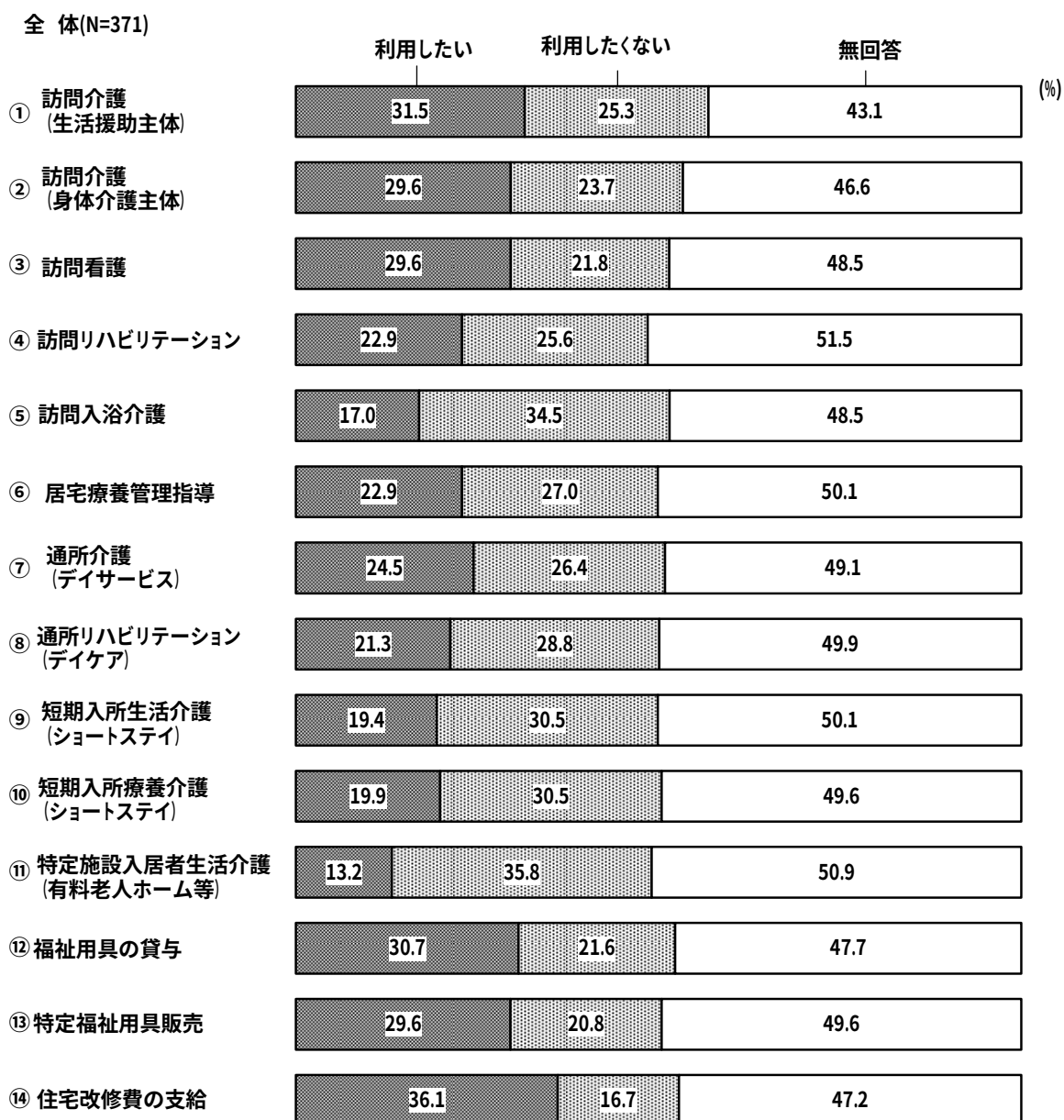
居宅サービスについて「知っている」は、「訪問介護（生活援助主体）（64.2%）」が最も多く、「訪問介護（身体介護主体）（60.6%）」、「住宅改修費の支給（58.8%）」、「福祉用具の貸与（56.6%）」が続いている（図表4-4-3-①）。

図表4-4-3-① 居宅サービスの認識度（全体）



利用意向は、「住宅改修費の支給（36.1%）」が最も多く、「訪問介護（生活援助主体）（31.5%）」、「福祉用具の貸与（30.7%）」が続いている（図表４－４－３－②）。

図表４－４－３－② 居宅サービスの利用意向（全体）

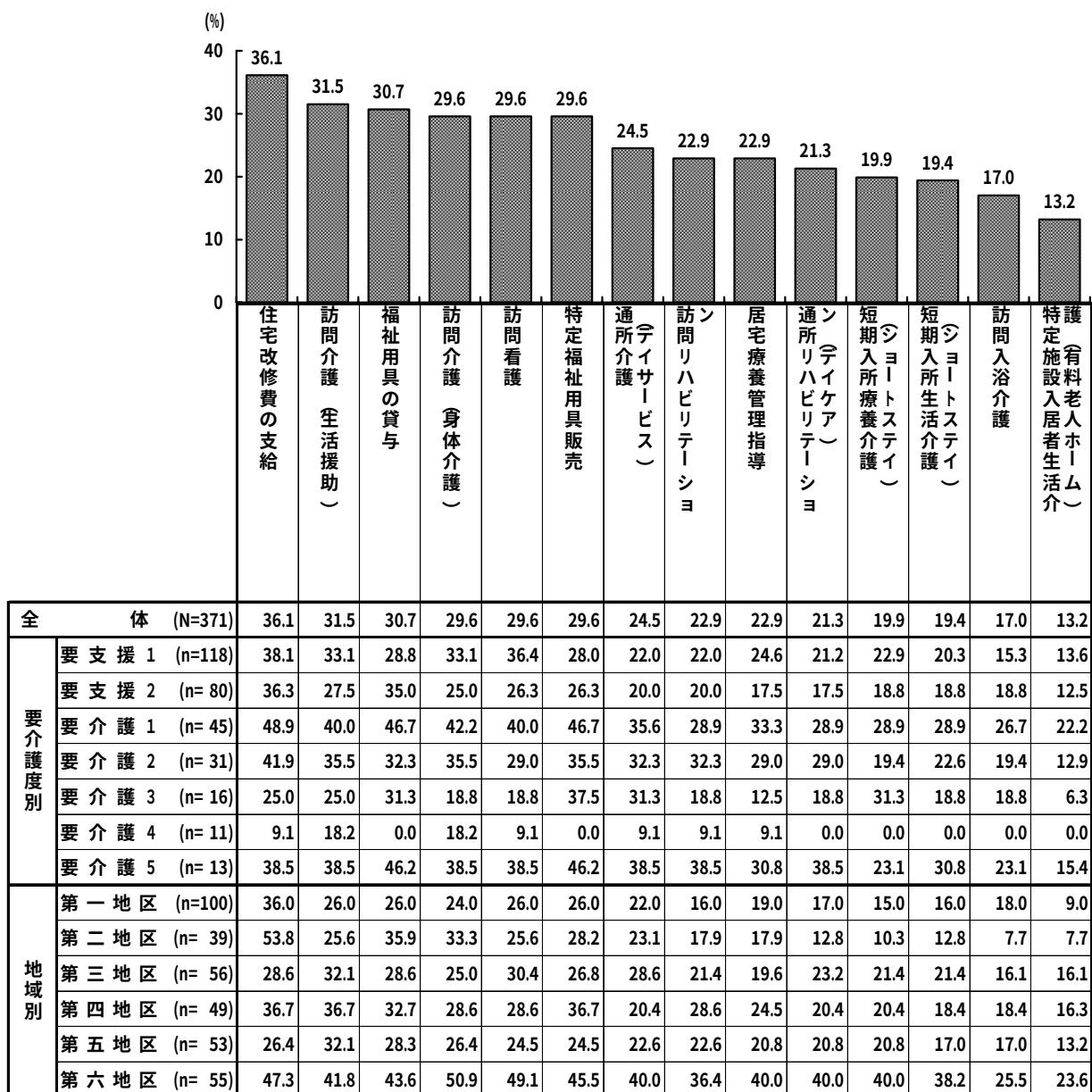


第3章 各調査の結果

要介護度別にみると、要介護1では「住宅改修費の支給」が約5割のほか、5項目が4割を超え、サービスの利用意向が高くなっている。

地域別では、第六地区では「訪問介護（身体介護）」が約5割のほか、9項目が4割を超え、サービスの利用意向が高くなっている（図表4-4-3-③）。

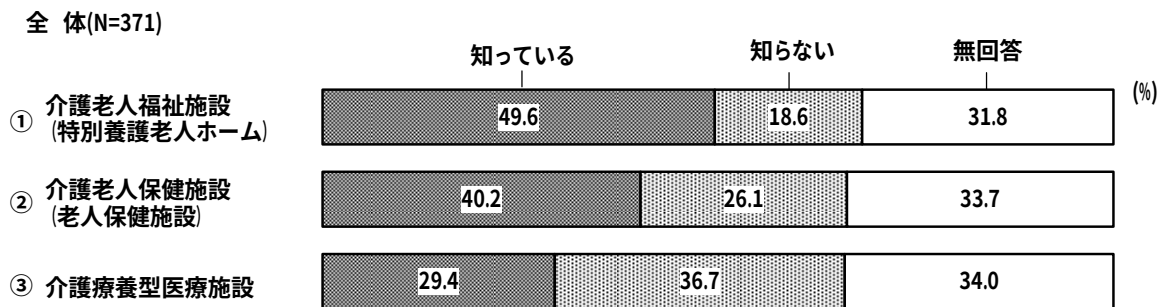
図表4-4-3-③ 居宅サービスの利用意向（全体、要介護度別、地域別）



④ 施設サービスの認識度と利用意向（問 12）

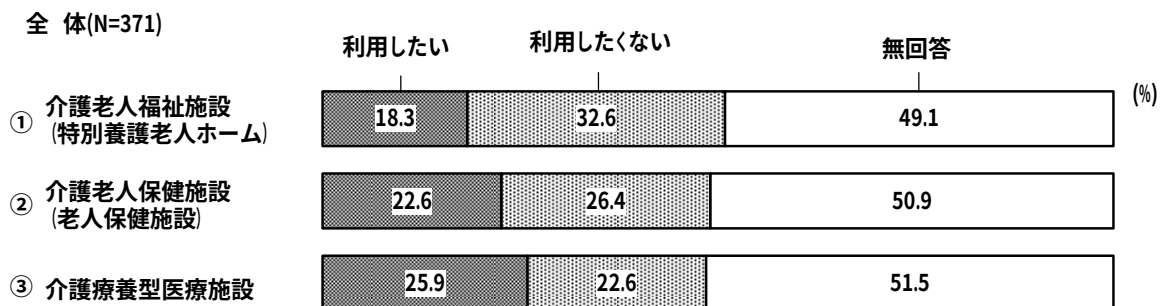
施設サービスについて「知っている」は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（49.6%）」が最も多く、「介護老人保健施設（老人保健施設）（40.2%）」、「介護療養型医療施設（29.4%）」の順になっている。介護療養型医療施設は「知らない」が「知っている」を上回っている（図表4-4-4-①）。

図表4-4-4-① 施設サービスの認識度（全体）



利用意向は、「介護療養型医療施設（25.9%）」が最も多く、「介護老人保健施設（老人保健施設）（22.6%）」、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（18.3%）」の順になっている。特別養護老人ホームと老人保健施設は「利用したくない」が「利用したい」を上回っている（図表4-4-4-②）。

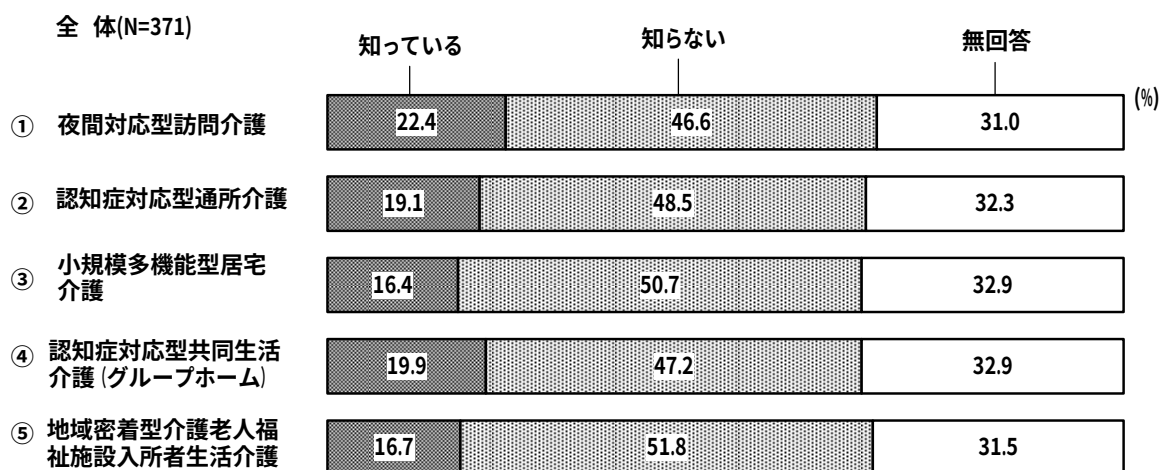
図表4-4-4-② 施設サービスの利用意向（全体）



⑤ 地域密着型サービスの認識度と利用意向（問 13）

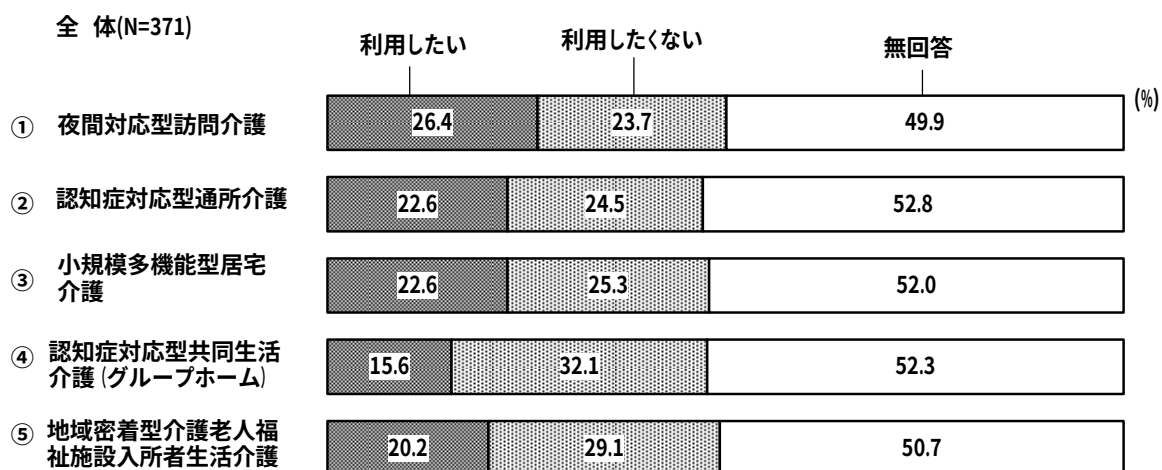
地域密着型サービスについて「知っている」は、「夜間対応型訪問介護（22.4%）」が最も多く、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（19.9%）」、「認知症対応型通所介護（19.1%）」が続いている（図表4-4-5-①）。

図表4-4-5-① 地域密着型サービスの認識度（全体）



利用意向は、「夜間対応型訪問介護（26.4%）」が最も多く、「認知症対応型通所介護」と「小規模多機能型居宅介護」がそれぞれ 22.6%で続いている（図表4-4-5-②）。

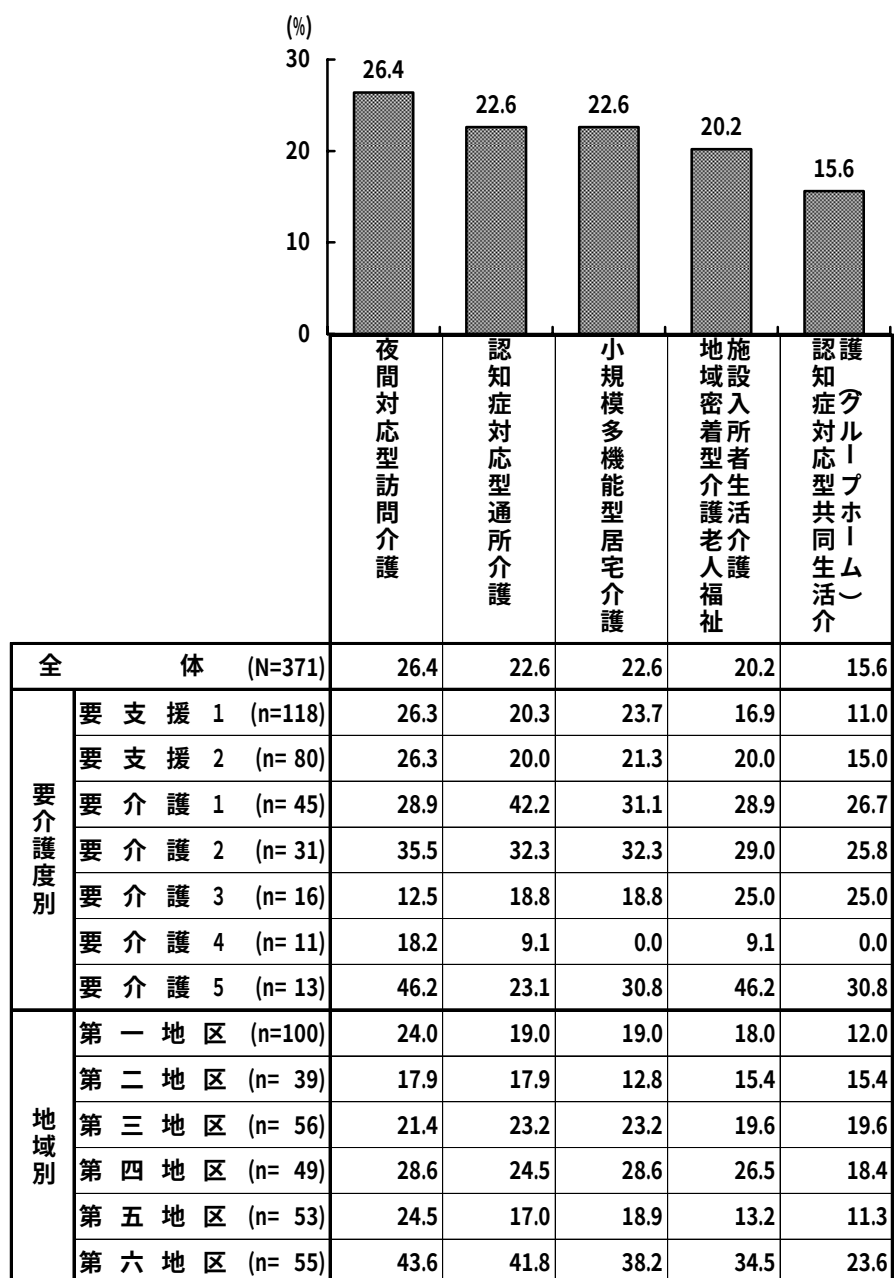
図表4-4-5-② 地域密着型サービスの利用意向（全体）



要介護度別にみると、要介護5では「夜間対応型訪問介護」と「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」の利用意向が高く、5割近くとなっている。要介護1では「認知症対応型通所介護」の利用希望が4割と高くなっている。

地域別では、第六地区では「夜間対応型訪問介護」が4割を超えるほか、2項目が約4割で、サービスの利用意向が高くなっている（図表4-4-5-③）。

図表4-4-5-③ 地域密着型サービスの利用意向（全体、要介護度別、地域別）

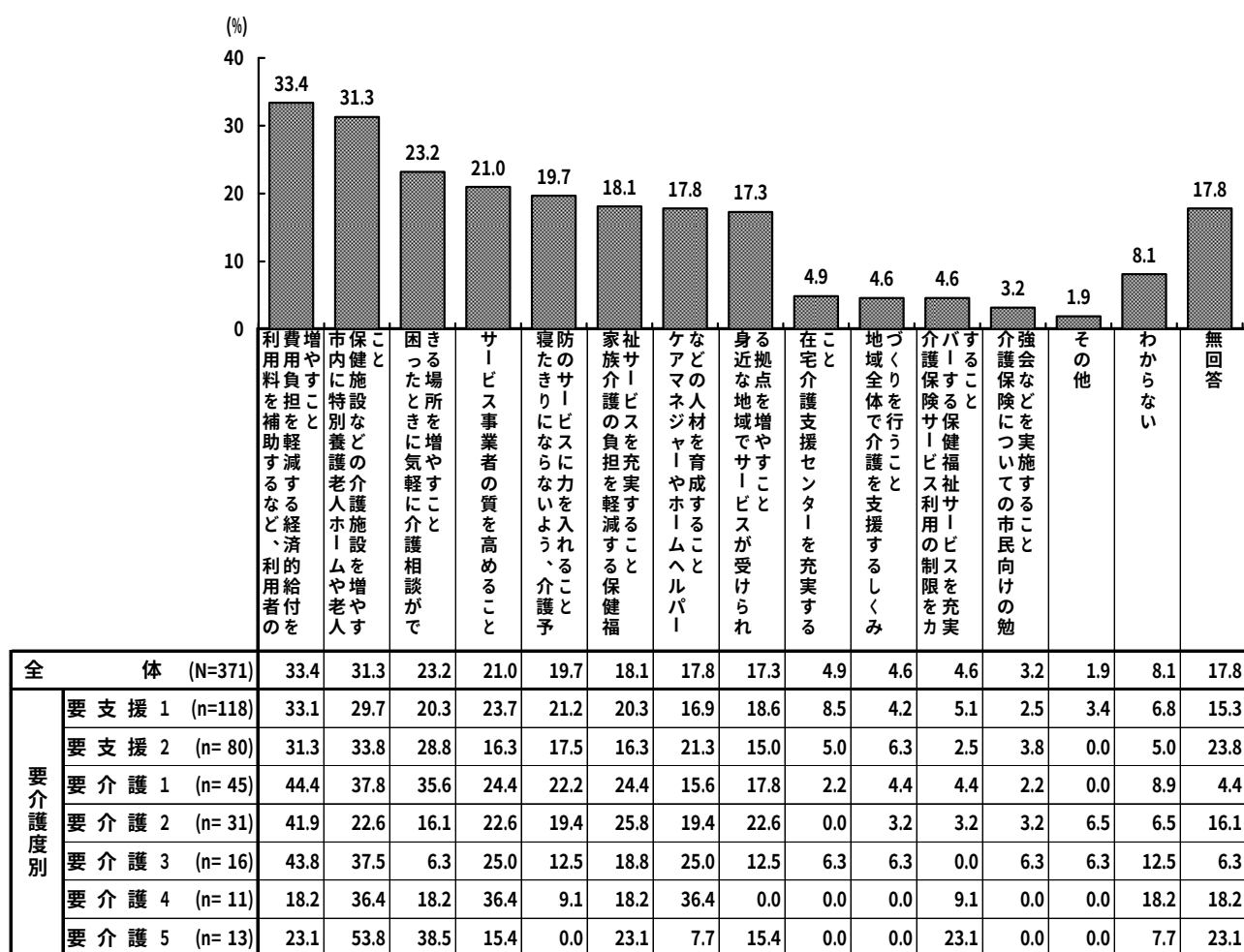


⑥ 介護保険制度をよくするため市が力を入れるべきこと（問14）

介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきことは、「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（33.4%）」が最も多く、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（31.3%）」、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと（23.2%）」が続いている。

要介護度別に上位項目をみると、要介護5では「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（53.8%）」が5割を超え、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと（38.5%）」が続いている。要介護4では「サービス事業者の質を高めること」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」が4割近い。要介護1～3では「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」が最も多く4割を超えている（図表4-4-6）。

図表4-4-6 介護保険制度をよくするため市が力を入れるべきこと
（全体、要介護度別:複数回答）

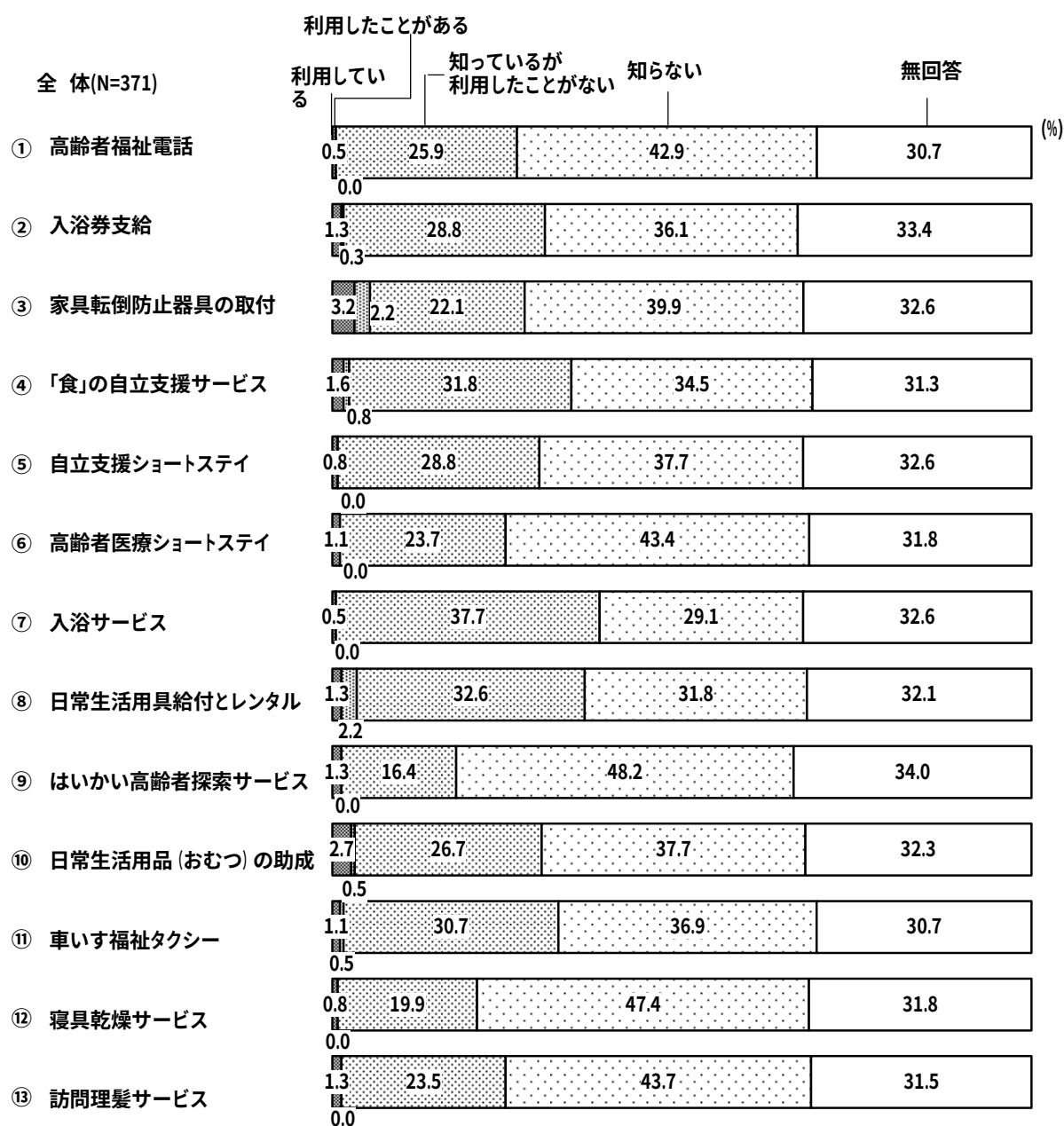


(5) 保健福祉サービス

① 保健福祉サービスの利用状況と利用意向（問 15）

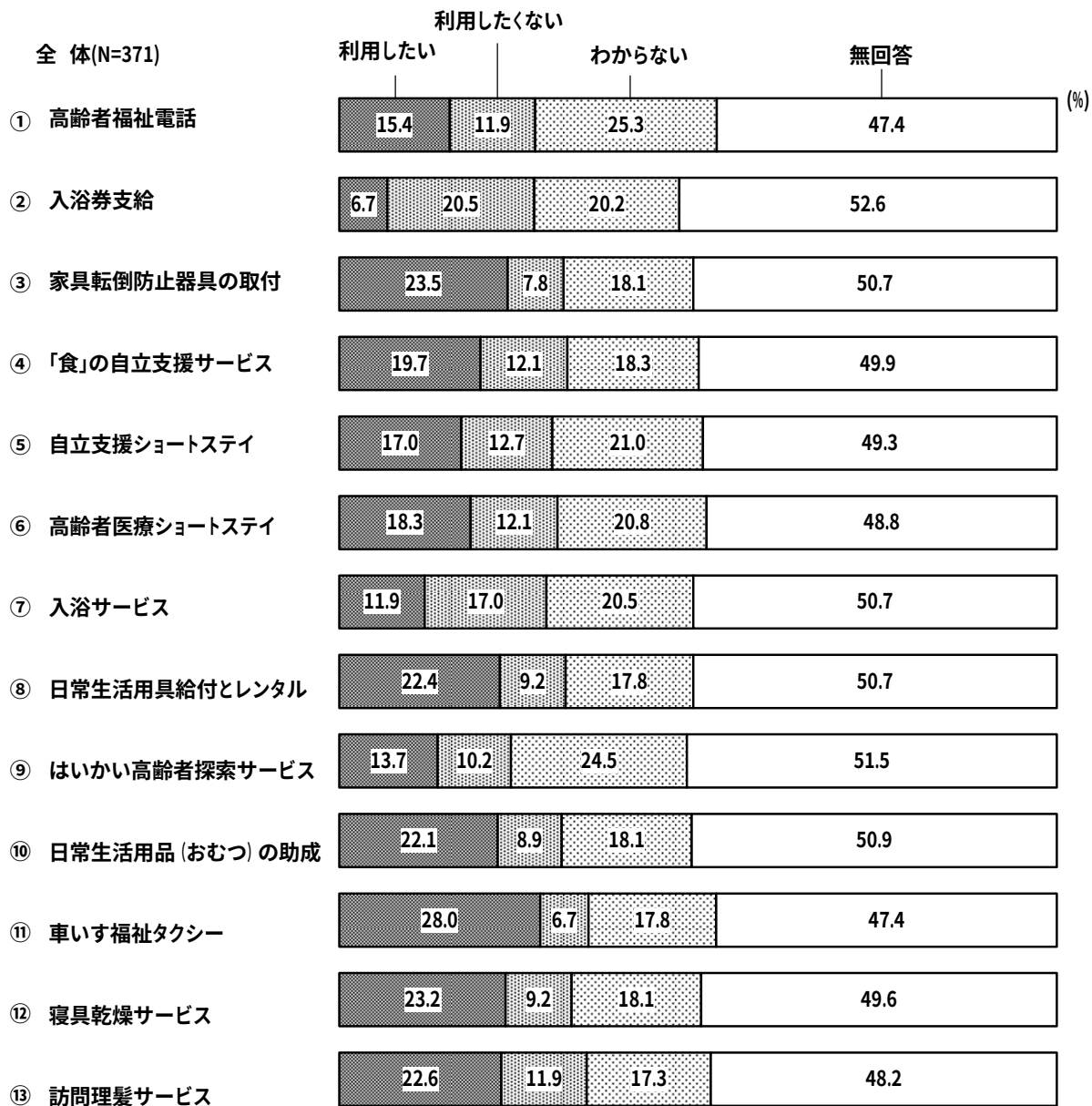
保健福祉サービスの利用状況は全体に多くないが、中では「家具転倒防止器具の取り付け（3.2%）」が最も多く、「日常生活用品（おむつ）の助成（2.7%）」、「食の自立支援サービス（1.6%）」が続いている（図表 4-5-1-①）。

図表 4-5-1-① 保健福祉サービスの利用状況（全体）



利用意向は、「車いす福祉タクシー（28.0%）」が最も多く、「家具転倒防止器具の取り付け（23.5%）」、「寝具乾燥サービス（23.2%）」が続いている（図表4-5-1-②）。

図表4-5-1-② 保健福祉サービスの利用意向（全体）

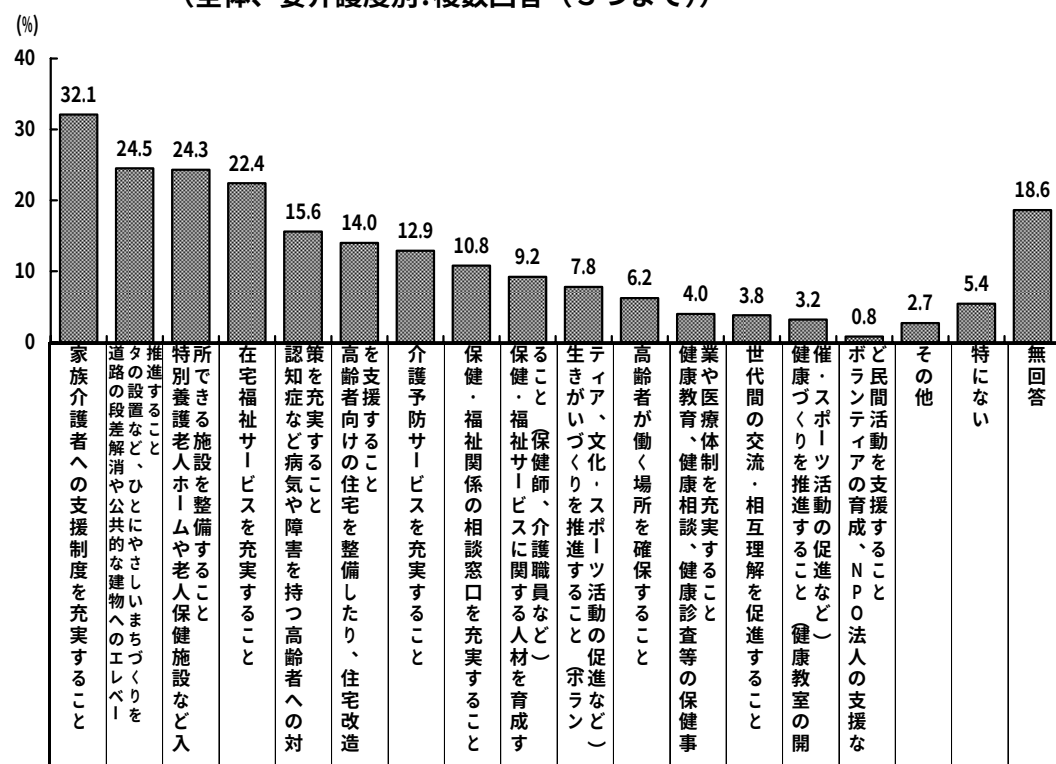


② 市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス：(問 16)

市が優先的に取り組むべき保健福祉サービスは、「家族介護者への支援制度を充実すること（32.1%）」が最も多く、「道路の段差解消等ひとにやさしいまちづくりを推進すること（24.5%）」、「特別養護老人ホームなど入所できる施設を整備すること（24.3%）」、「在宅福祉サービスを充実すること（22.4%）」が続いている。

要介護度別に上位項目をみると、要介護5では「特別養護老人ホームなど入所できる施設を整備すること（53.8%）」が5割を超え、「認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること（46.2%）」が続いている。要介護1～4では「家族介護者への支援制度を充実すること」が3～4割で上位にある。要支援1～2では「在宅福祉サービスを充実すること」、「介護予防サービスを充実すること」、「高齢者向け住宅を整備したり、住宅改造を支援すること」が上位にあげられている（図表4-5-2）。

図表4-5-2 市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス
(全体、要介護度別:複数回答(3つまで))



全 体 (N=371)		32.1	24.5	24.3	22.4	15.6	14.0	12.9	10.8	9.2	7.8	6.2	4.0	3.8	3.2	0.8	2.7	5.4	18.6
要介護度別	要支援1 (n=118)	28.0	26.3	20.3	33.1	10.2	16.1	16.1	15.3	11.9	10.2	8.5	7.6	4.2	4.2	0.8	2.5	5.9	10.2
	要支援2 (n=80)	32.5	31.3	28.8	21.3	7.5	20.0	17.5	6.3	3.8	5.0	6.3	0.0	2.5	0.0	2.5	2.5	2.5	22.5
	要介護1 (n=45)	40.0	33.3	33.3	17.8	20.0	13.3	13.3	11.1	6.7	4.4	6.7	4.4	4.4	2.2	0.0	2.2	2.2	13.3
	要介護2 (n=31)	32.3	25.8	25.8	19.4	38.7	22.6	12.9	6.5	12.9	3.2	0.0	0.0	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	22.6
	要介護3 (n=16)	31.3	12.5	25.0	12.5	25.0	12.5	0.0	18.8	12.5	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	12.5	18.8
	要介護4 (n=11)	36.4	9.1	27.3	18.2	36.4	0.0	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	18.2
	要介護5 (n=13)	23.1	7.7	53.8	15.4	46.2	0.0	7.7	15.4	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	15.4	0.0	15.4

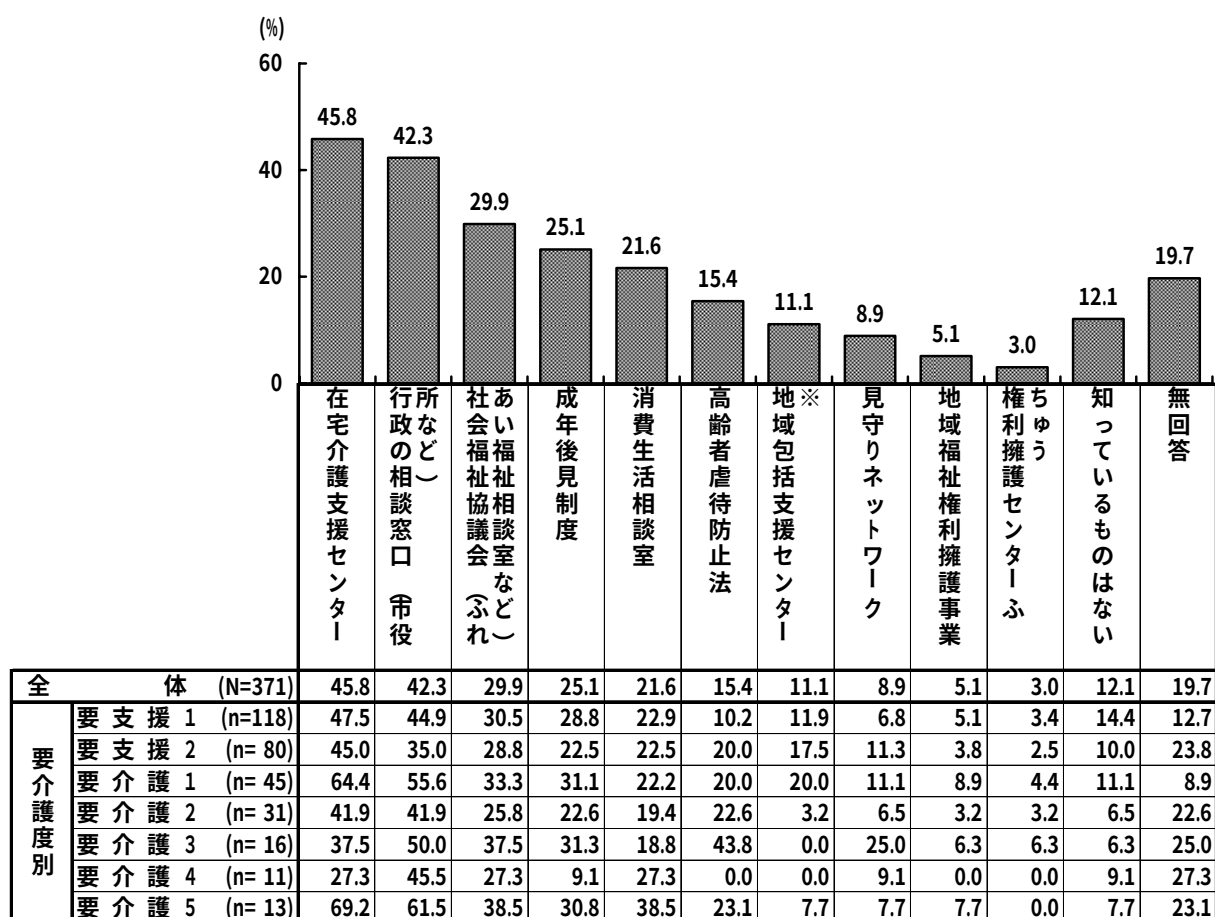
(6) 高齢者の権利擁護

① 権利擁護の制度や相談窓口の周知状況（問 17）

高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口として知っているものは、「在宅介護支援センター（45.8%）」が最も多く、「行政の相談窓口（市役所など）（42.3%）」、「社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室）（29.9%）」、「成年後見制度（25.1%）」、「消費生活相談室（21.6%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護度5では、在宅介護支援センターは7割、行政の窓口は6割と高い。要介護3と4では、行政の窓口の周知度が最も高く約5割である（図表4-6-1）。

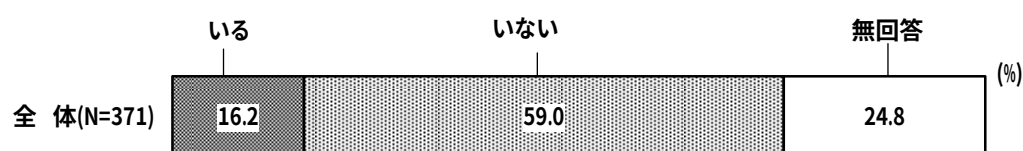
図表4-6-1 権利擁護の制度や相談窓口の周知状況（全体、要介護度別：複数回答）



② 周囲で困っている人の有無（問 18）

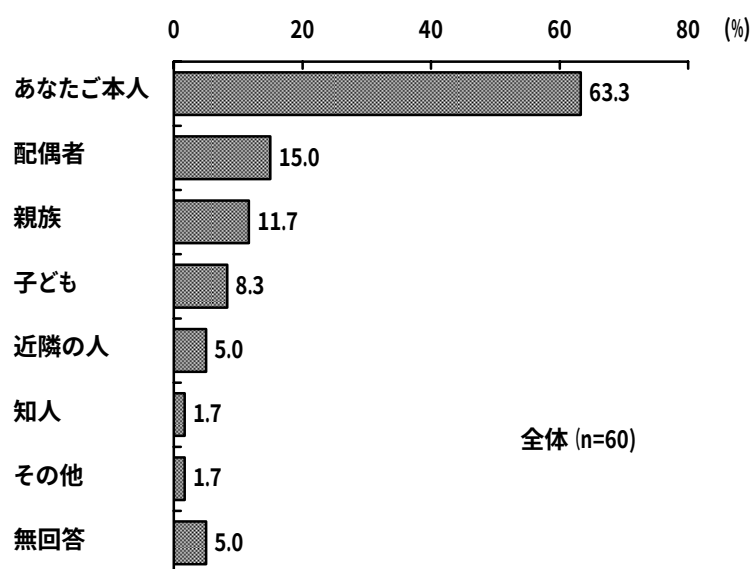
周囲で困っている人は、「いない」が 59.0%、「いる」が 16.2%となっている（図表 4-6-2）。

図表 4-6-2 周囲で困っている人の有無（全体）



③ 周囲で困っている人（問 18-1）

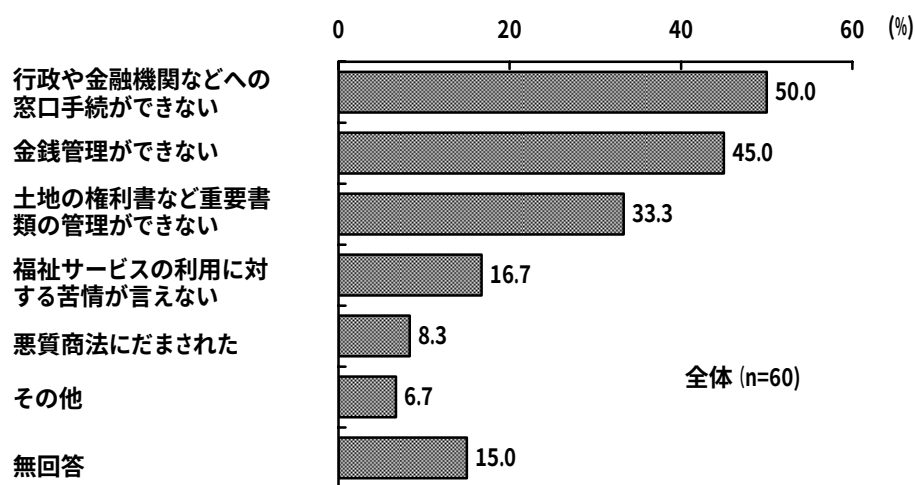
周囲で困っている人が「いる」と回答した人に誰かたずねたところ、「本人（63.3%）」が最も多く、「配偶者（15.0%）」、「親族（11.7%）」、「子ども（8.3%）」が続いている（図表 4-6-3）。

図表 4-6-3 周囲で困っている人
＜周囲に困っている人がいると回答した人＞（全体：複数回答）

④ 周囲で困っている人の事例（問 18－2）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人にどのような事例かたずねたところ、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない（50.0%）」が最も多く、「金銭管理ができない（45.0%）」、「土地の権利書など重要書類の管理ができない（33.3%）」が続いている（図表 4－6－4）。

図表 4－6－4 周囲で困っている人の事例
 ＜周囲に困っている人がいると回答した人＞（全体：複数回答）



⑤ 災害時のための個人情報提供への考え方（問 19）

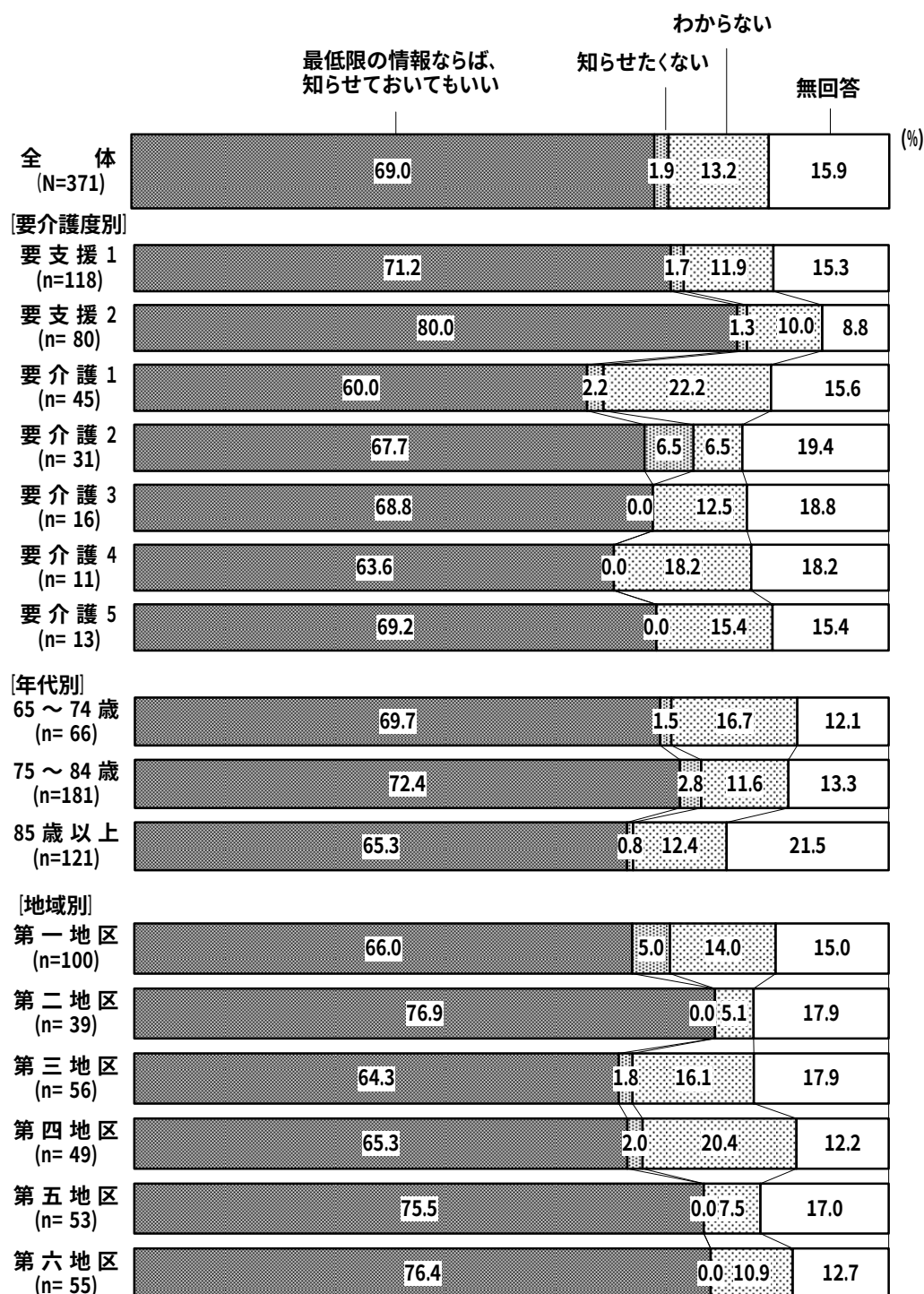
災害時に避難を助けたりするため、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、住所・氏名・連絡先などの個人情報を知らせておくことは「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい（69.0%）」が最も多く7割である。

要介護度別にみると、要支援1～2では、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が7～8割と高くなっている。

年齢別にみると、「75～84歳」では、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が7割以上と高くなっている。

地域別にみると、第二、第五、第六の3地区で、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が平均より高くなっている（図表 4－6－5）。

図表 4 - 6 - 5 災害時のための個人情報提供への考え方
(全体、要介護度別、年齢別、地域別)



(7) 市への要望（問 20）

保健福祉や介護保険について、市への意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で 60 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に家族と書かれている。

在宅サービス、保健福祉サービスについて：8 件

- ・ 在宅サービスで、掃除、食事等を依頼した場合、掃除は要介護者の部屋のみ、食事も要介護者の食事のみと聞いているが、事実なのか。（女性、90～94 歳、要支援 1）【家族】
- ・ 短期入所で近くの施設に妻を入所させようとしたところ断られ、指定された所は遠い所。入所先の選択の自由がないのはおかしい。（男性、75～79 歳、要支援 1）【家族】
- ・ 各センターに入浴場、広間に健康器具等を揃えていただき、とても助かっているが、入浴の日が少しずつ減らされて、入浴日がわずかになってしまうことをとても危惧している。歳を重ねると遠くへ行くことがかなわなくなり、入浴で体を温めることが相乗効果で老化防止に一番の薬なので、入浴日を減らさないで欲しい。（女性、75～79 歳、要支援 1）
- ・ 現在、入院中の配偶者が長期に渡ると本人の願望で数日の帰宅が許されたり、また、死が近くなるとできるだけ自宅で過ごしたいと願うが、現在の制度は在宅介護を中心に構成されており、入院中の者と介護者には制度上何一つ援助がないのが現状。制度の改善を願う。（女性、75～79 歳、要介護 4）【家族】

要介護認定について：2 件

- ・ 腰が痛くなって半年、家の中を這っているのに要支援 2 で現在に至っている。施設は要介護 1 以上でないと受け入れてくれない。他市の状況など、いろいろ調べたところ、今の状況では要介護 1～3 で認定されるといわれているが、どうなのか。（女性、90～94 歳、要支援 2）【家族】

保険料等について：11 件

- ・ 介護保険料を安くしていただきたい。利用している人とぎりぎりまで利用しない人の差を考えて欲しい。（女性、90～94 歳、要支援 2）
- ・ 専業主婦で国民年金もわずかししか貰っていないのに、第 4 段階で、年金の 10% も保険料を納めている。保険料を下げていただきたい。（女性、75～79 歳、要支援 2）
- ・ 介護保険サービスも月々の支払いとなると多くなるので、思うように利用できないでいる。（男性、65～69 歳、要介護 1）

介護・福祉・医療についての要望：2 件

- ・ 病気のと看、医師に往診してもらえるようにして欲しい。市としてそのような制度は作れないのか。（男性、80～84 歳、要支援 2）

施設・住宅に対する要望：6件

- ・ 特別養護老人ホームを希望しているが、胃ろうになったため入所を受理してくれるところを探すのが大変となっている。在宅介護支援センターで相談しても解決しないので途方にくれている。特別養護老人ホーム、老人保健施設など早く入所できる施設を多く整備して欲しい。(女性、65～69 歳、要介護 5)【家族】
- ・ 高齢者向けの住宅・施設を整備し、必要に応じ、なるべく早い時期に入所できるよう充実して欲しい。(女性、80～84 歳、要支援 2)

ヘルパー、ケアマネジャー、事業所について：4件

- ・ いくつかあるが、一つだけ要望する。訪問介護の方々の研修の充実と待遇の改善を望む。(男性、75～79 歳、要介護 1)
- ・ デイサービスの中には、何の資格もない人を雇って、その人に食事や入浴の介助をさせるところもあるときいた。民間のデイサービス施設への定期的なチェックをよろしくお願いしたい。(女性、75～79 歳、介護度不明)

情報提供、相談などについて：4件

- ・ 高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口があることはうかがっているが、それぞれの情報を分かりやすく、知らせていただければと思う。(女性、85～89 歳、要支援 2)【家族】
- ・ 高齢者が窓口に行った時は親切に教えて欲しい。様々な申請書が、非常に日数がかかって大変となっている。(女性、75～79 歳、要介護 1)

まちづくりについて：2件

- ・ 足が悪く階段が辛く、荷物を持っていると手すりにもつかまることができず、苦勞している。買い物用の車も階段では持ち運べず困っている。歩道橋の階段をスロープにするなど配慮していただけるとありがたいと思う。(女性、70～74 歳、要支援 1)

行政への要望：9件

- ・ 介護保険被保険者証が要支援 1 となっているが、これはどういう時に利用してよいか分からないので、教えて欲しい。(女性、70～84 歳、要支援 1)
- ・ 福祉に関する手続きが複雑で、高齢者にとっては大変なことだ。(男性、65～69 歳、介護度不明)
- ・ 高齢者は頭の回転が遅いので、小さいことでも、ゆっくりと笑顔で対応して欲しい。(男性、70～74 歳、要支援 1)

将来への不安：4件

- ・ 現在、主人の年金生活で生活難ではないが、主人も 84 歳で、現在はどうか元気になっているが、将来的には不安があり、万一に備えて考えている。保健福祉はできるだけ安く、生活ができるようにして欲しいと思う。(女性、75～79 歳、介護度不明)

満足・感謝：3件

- ・ 福祉については、他の市より手厚い制度があり、ありがたいと思っている。(女性、75～79歳、要支援2)

その他：5件

- ・ できるだけ人様や子どもたちに世話にならないよう心がけたいと思い、今のところは、できるだけ頭を働かせている。(女性、90～94歳、介護度不明)

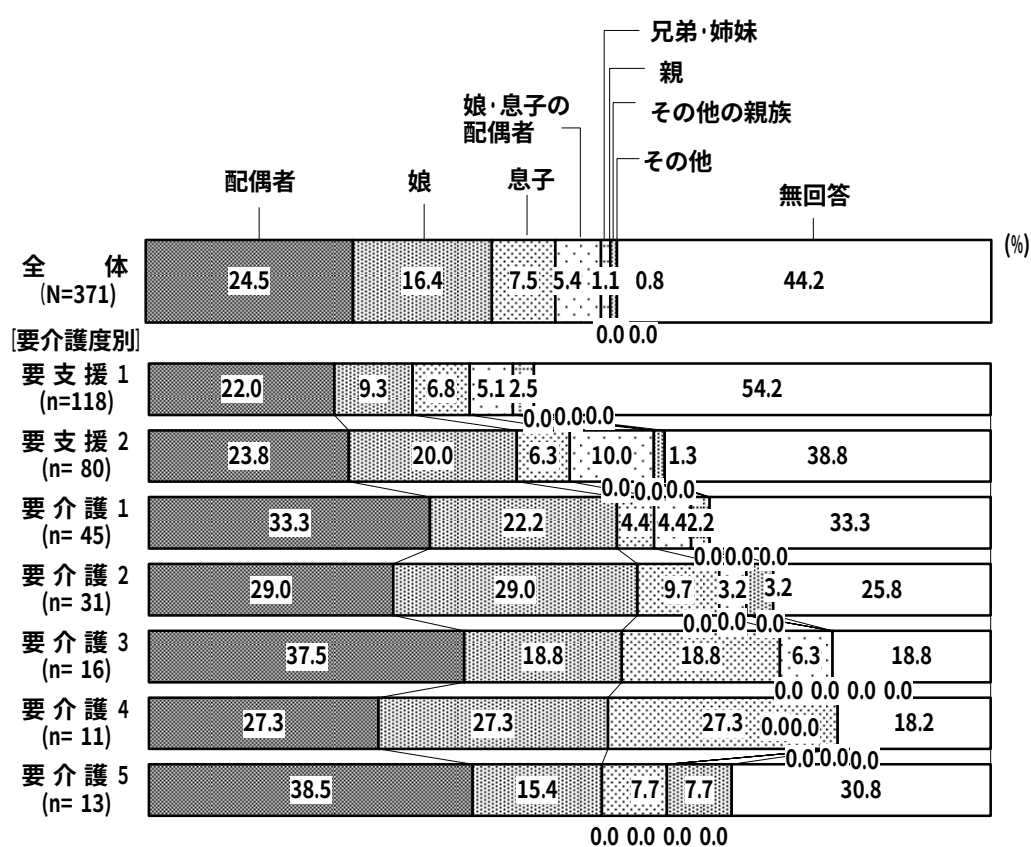
(8) 介護者の状況・意向

① 主な介護者（問 21）

主な介護者は、「配偶者（24.5%）」が最も多く、「娘（16.4%）」、「息子（7.5%）」、「娘・息子の配偶者（5.4%）」が続いている。

要介護度別にみると、いずれも主な介護者は「配偶者」、次いで「娘」が多いが、要介護3、4では「息子」も多くなっている（図表4-8-1）。

図表4-8-1 主な介護者（全体、要介護度別）



② 主な介護者の年齢（問 22）

主な介護者の年齢は、「50 歳代（15.1%）」が最も多く、「60～64 歳（8.4%）」、「70～74 歳」と「75～79 歳」が 7.5%、「80～84 歳（6.7%）」が続いている。75 歳以上の後期高齢者が 15.5% を占める。

要介護度別にみると、要支援 1～要介護 2 は全体と同様、「50 歳代」が最も多い。

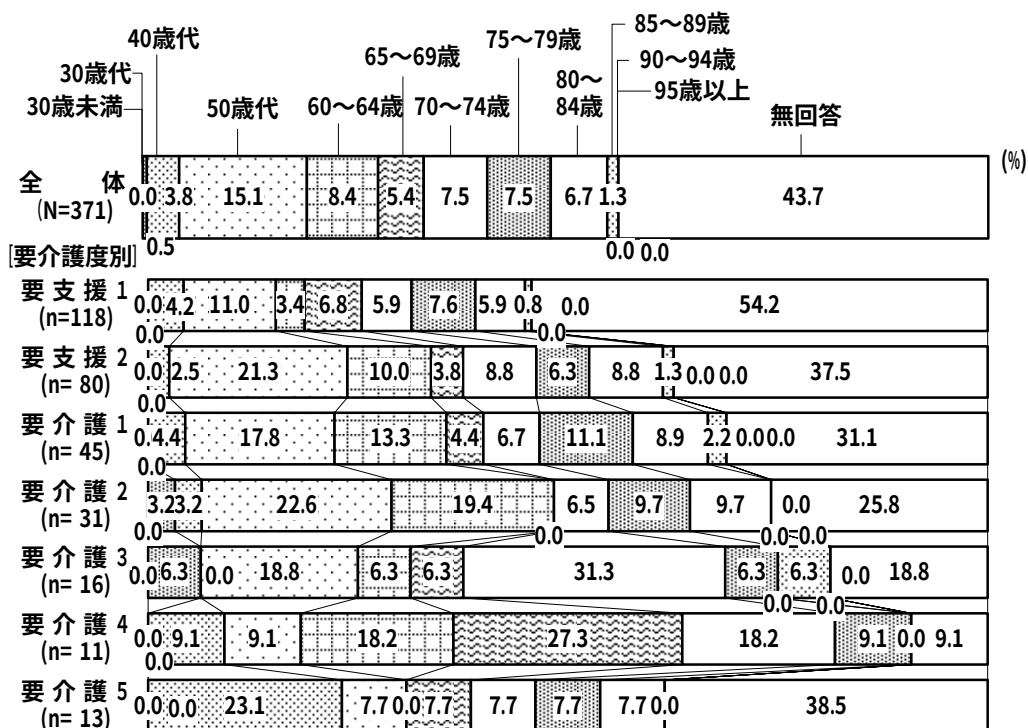
要介護 3 では「70～74 歳（31.3%）」が最も多く「50 歳代（18.8%）」が続いている。

要介護 4 では「65～69 歳（27.3%）」が最も多く「60～64 歳」と「70～74 歳」が 18.2% で続いている。

要介護 5 では「40 歳代（23.1%）」が最も多い。

サービス未利用者の介護は、配偶者、娘、息子など多くの年代が関わっていることがうかがわれる（図表 4－8－2）。

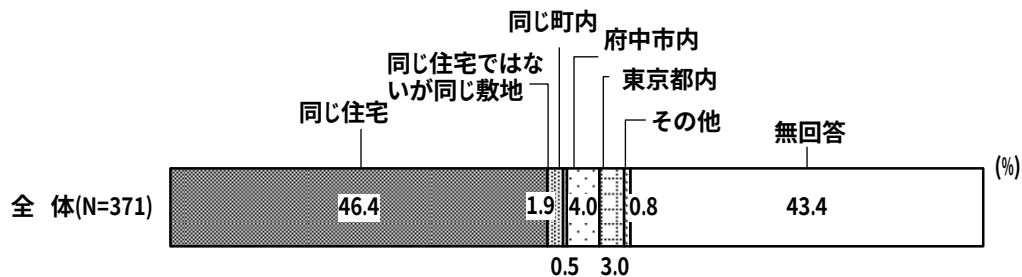
図表 4－8－2 主な介護者の年齢（全体、要介護度別）



③ 主な介護者の居住地（問 23）

主な介護者の居住地は、「同じ住宅（46.4%）」が最も多く、「府中市内（4.0%）」、「東京都内（3.0%）」が続いている。「同じ住宅」、「同じ住宅ではないが同じ敷地」、「同じ町内」を合わせると、同居・隣居・近居が48.8%で5割弱である（図表4-8-3）。

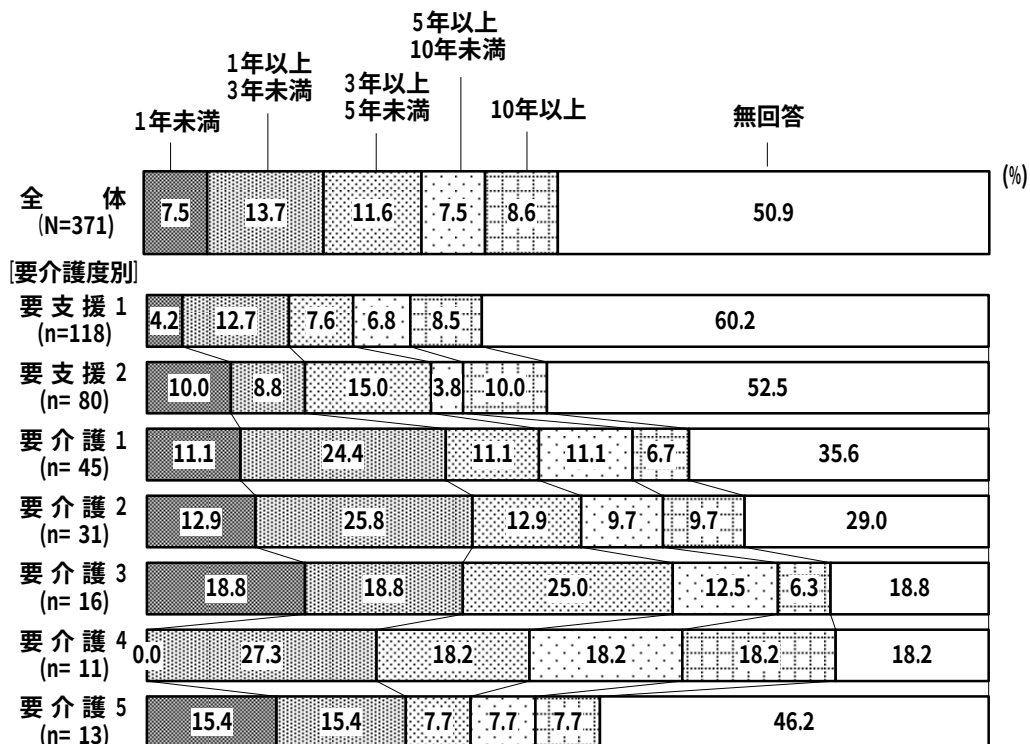
図表4-8-3 主な介護者の居住地（全体）



④ 介護している期間（問 24）

介護している期間は、「1年以上3年未満（13.7%）」が最も多く、「3年以上5年未満（11.6%）」が続いている。5年以上の介護は16.1%である（図表4-8-4）。

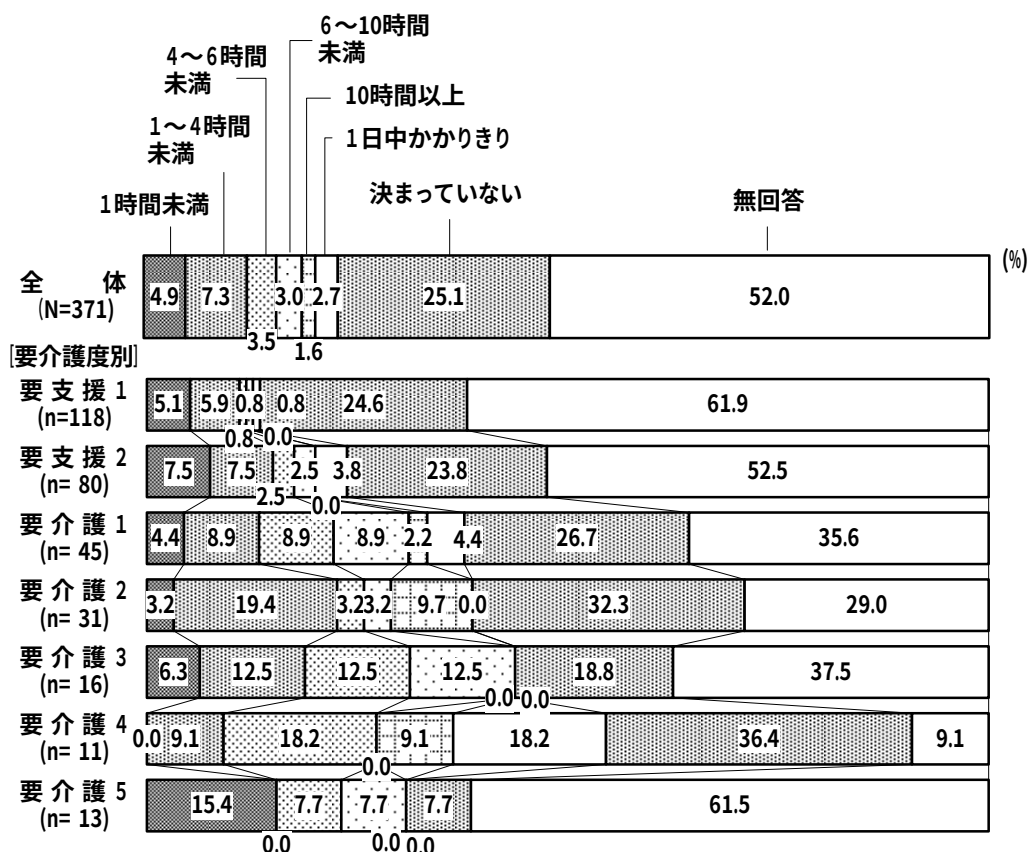
図表4-8-4 介護している期間（全体、要介護度別）



⑤ 1日の介護時間（問 25）

介護に関わっている1日の平均時間は、「決まっていない（25.1%）」が最も多く、「1～4時間未満（7.3%）」が続いている（図表4－8－5）。

図表4－8－5 1日の介護時間（全体、要介護度別）



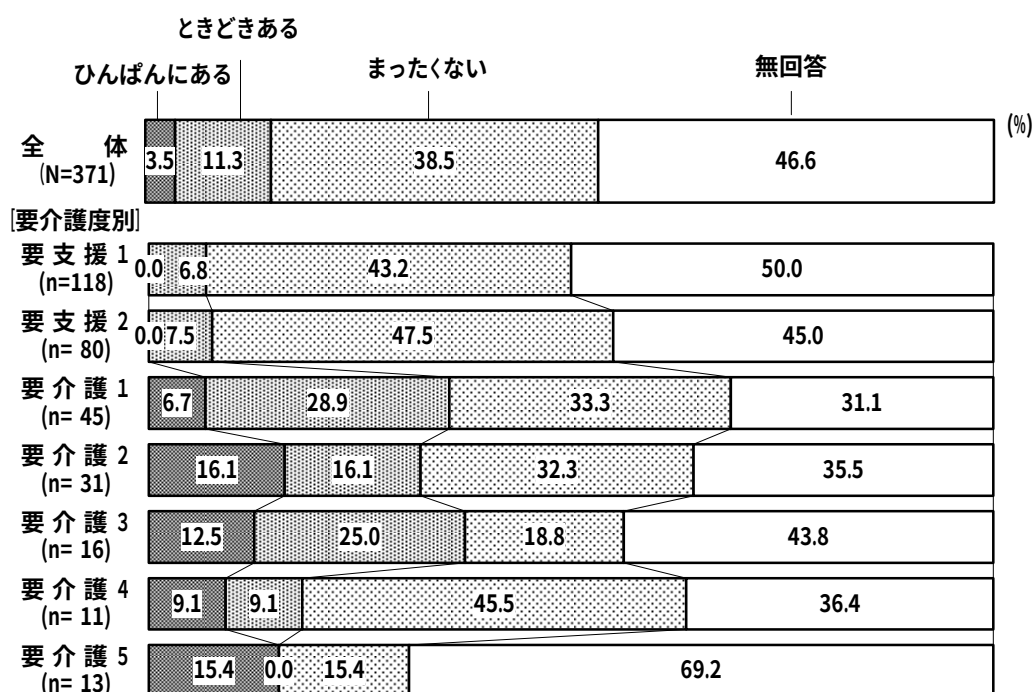
⑥ 認知症の症状（問 26）

「慣れた道や場所がわからなくなること」は、「ときどきある（11.3%）」、「ひんぱんにある（3.5%）」をあわせた何らかの症状がある人は14.8%である。要介護度別にみると、何らかの症状のある人は要介護1～3で多く、3割強である（図表4－8－6－①）。

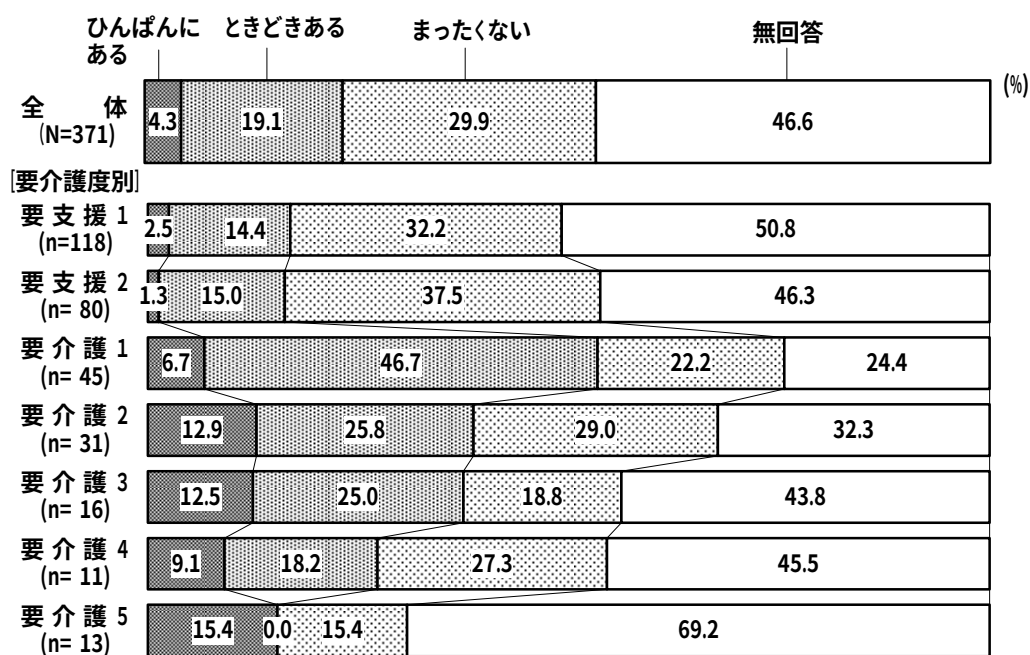
「薬を飲む時間や飲む量を間違えること」は、「ときどきある（19.1%）」、「ひんぱんにある（4.3%）」をあわせた何らかの症状がある人は23.4%である。要介護度別にみると、何らかの症状のある人は要介護1～3で多く、3～5割である（図表4－8－6－②）。

「火の始末や火元の管理ができなくなること」、「ときどきある（15.4%）」、「ひんぱんにある（1.6%）」をあわせた何らかの症状がある人は17.0%である。要介護度別にみると、何らかの症状のある人は要介護1～3で多く、3～4割である（図表4－8－6－③）。

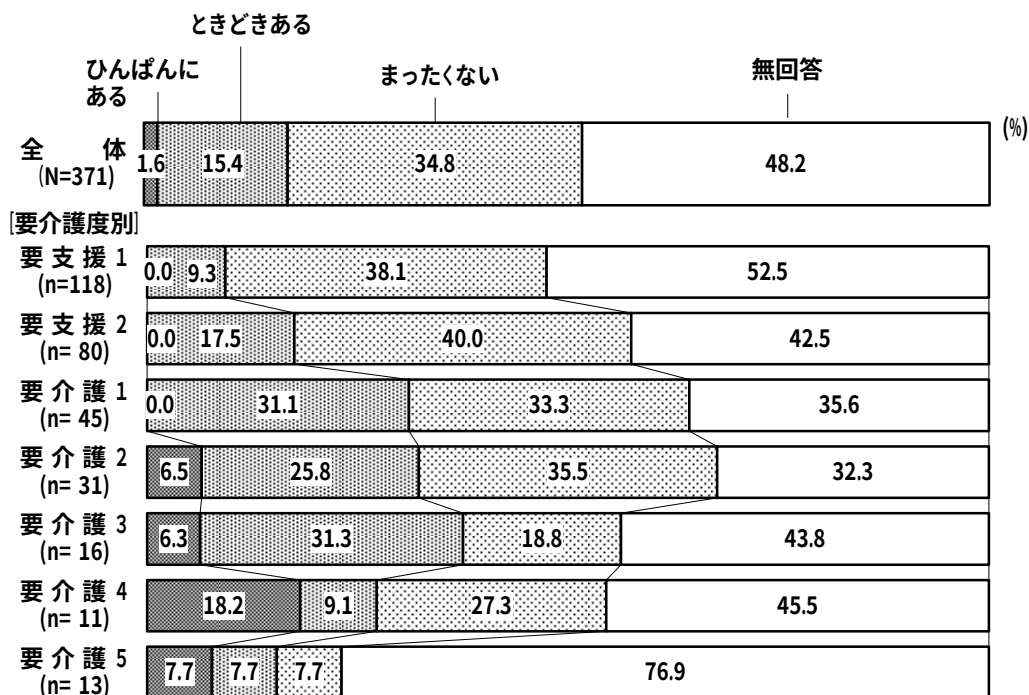
図表 4 - 8 - 6 - ① 慣れた道や場所が分からなくなること（全体、要介護度別）



図表 4 - 8 - 6 - ② 薬を飲む時間や飲む量を間違えること（全体、要介護度別）



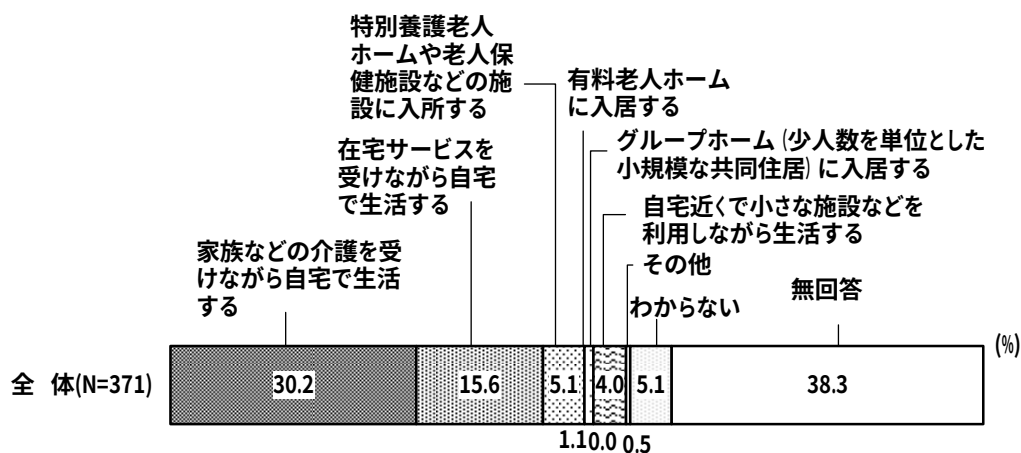
図表4-8-6-③ 火の始末や火元の管理ができなくなること（全体、要介護度別）



⑦ 介護されている人の今後の生活の場所（問27）

介護されている人が今後、生活するのに良い場所は、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する（30.2%）」、「在宅サービスを受けながら自宅で生活する（15.6%）」をあわせると、「自宅がよいと考える」介護者は45.8%で半数に近い（図表4-8-7）。

図表4-8-7 介護されている人の今後の生活の場所（全体）

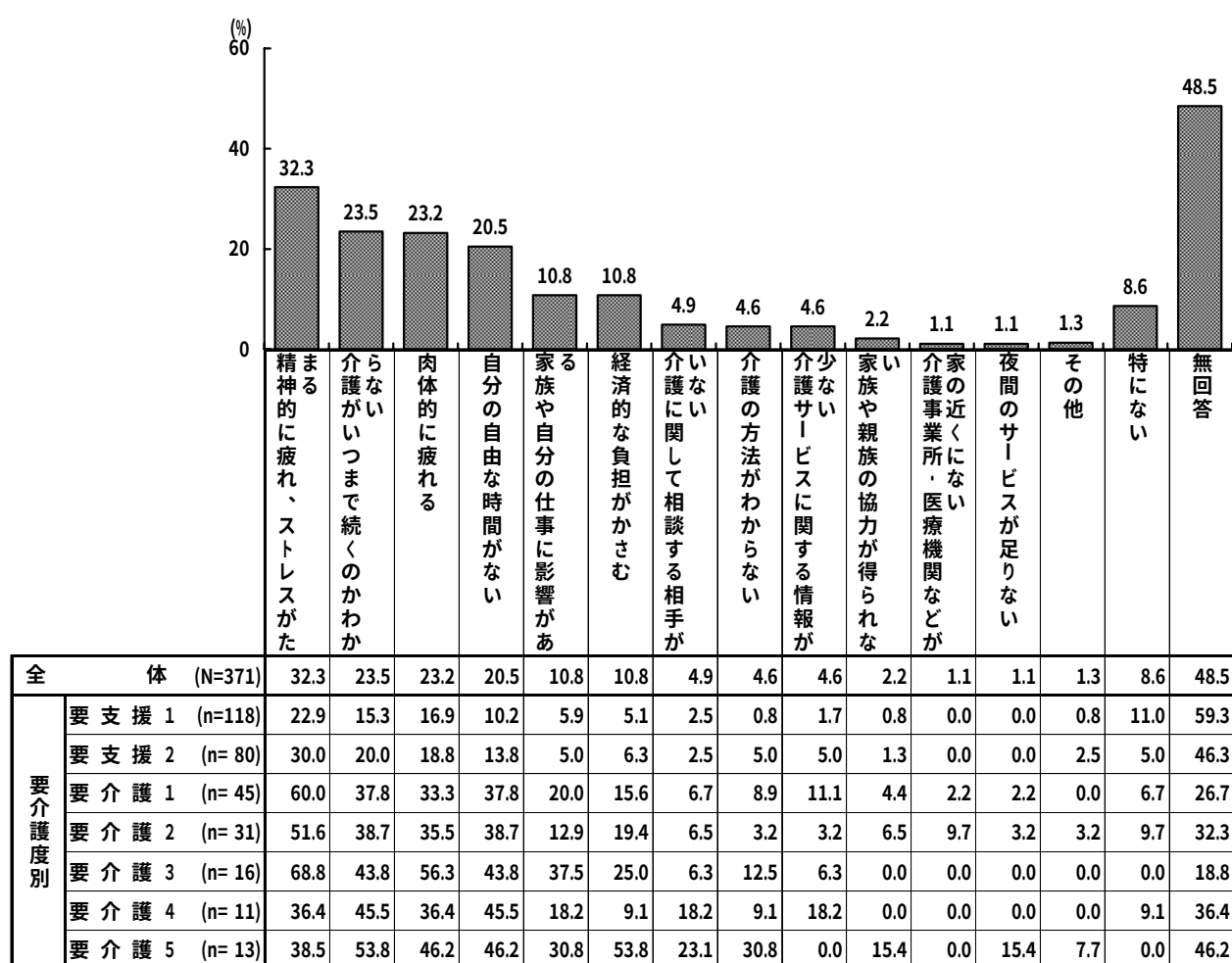


⑧ 介護の問題点（問 28）

介護の問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる（32.3%）」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない（23.5%）」、「肉体的に疲れる（23.2%）」、「自分の自由な時間が少ない（20.5%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護3では「精神的に疲れ、ストレスがたまる」という回答が多く7割近い。全体的に重度の方から問題点が多くあげられている（図表4-8-8）。

図表4-8-8 介護の問題点（全体、要介護度別：複数回答）



(9) 介護者の意見・市への要望等（問 29）

介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市への意見・要望・提案について、自由記述形式でたずねたところ、全体で 51 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

家族の介護について：16 件

- ・ なかなか介護を利用しながらない高齢者が多いと聞く。症状の重い人達と一緒にされるのがいやだというのも原因の一つと思う。介護度の軽い人達向けのデイサービス、例えば、送迎、昼食つきの施設外での楽しみ（講演会・観劇会・落語・お花見など）、芸術の森や公園の散歩など、充実した施設があるので、機会があれば家族同伴でなくても利用できたら良いと思う。本人も自立した気分が味わえる。多少の負担があっても厭わないと思う。（女性、80～84 歳、要支援 2）
- ・ 97 歳になる父親を娘夫婦で在宅介護している。かかりつけの医療機関が近くにあり親身になってくれるので介護ができる。介護保険料は高齢になっても払い続けているが、サービスを受けていないので、せめて、おむつ代の一部でも支給されたらと思っている。（男性、95 歳以上、要支援 2）
- ・ 主人 85 歳、本人 81 歳、いつ終わりになるかと心配している。私がどうやら頭がぼけていないので何とか生活しているが、歩くのが大変なので全てタクシーを利用しているが、銀行などへ行くとき困っている。（女性、80～84 歳、要支援 2）
- ・ 娘が近くに住んでいるので、このまま、在宅サービスも利用しながら、父と母を自宅で見たいと思っている。ただ将来的には経済的負担もでてくるし、身近に相談できる人や場所も欲しい。特に父はプライドも高く、病院やデイサービス等の利用をいやがる。介護サービスを受けていない高齢者を対象にした巡回（訪問）健診を是非お願いしたい。早く予防や治療ができれば、本人ももっと豊かな老後を過ごせると思う。（女性、85～89 歳、要支援 2）

認知症への対応について：4 件

- ・ 人格が変わり、感情が抑制できなくなる初期の認知症になったときは周囲も混乱する。本人は何を言っても聞かないので、病院に連れて行くこともできない。デイサービスやショートステイを利用したくても申請することさえ困難。このような状況が長く続くと家族はノイローゼになってしまう。早期に発見するためにも、強制的にでも脳神経外科で検査して医学的診断がもらえる制度を是非確立していただきたいと切に願っている。サービスを利用したくてもあきらめている家族も多いと思う。（女性、85～89 歳、要介護 2）
- ・ 認知症なので医者から要介護認定を進められ手続きをしたが、症状が軽いのと常に家族がいることが多かったため、サービスの利用を躊躇していた。家族が外出することが増え、一人でいることが多くなってきているので、今後はサービスを利用したいと思い、ケアマネジャーに相談しているところだ。今回のアンケートの提出が遅くなったのも、本人宛の

書類を家族に見せる前に、本人がどこかにしまいこんで分からなくなり、先日再度送られてきた回答願いを家族が見つけて、あちこち探して書くことができた。(女性、80～84 歳、要支援 1)

- ・ 父が徘徊し、府中市以外の警察署に保護された時、110 番通報していても府中署には連絡がなく、直接自宅に連絡があった。保護された時点で府中署に連絡があれば、少しでも早く迎えに行くことができるので、府中市民であることが分かる身分証明書（住所、氏名、連絡先など必要最小限の情報を掲載）を発行してもらえたらよいと思う。(男性、65～69 歳、要介護 3)

介護保険について：6 件

- ・ 介護者の希望する援助は多様でそれぞれ内容が違おうと思うが、介護保険では項目が細かく定められており、機械的と思う。また、時間もサービスの価格が定められており、あまりに経済的なことが優先されているように感じている。もっと受ける側の心の満足を与えてもらえるような制度を作っていただければと思う。(女性、75～79 歳、要介護 4)
- ・ 82 歳と 86 歳で病気がちな老人を抱えていても要支援 1、2 くらいでは何の救いもないのが現状なので、がっかりしている。(男性、85～89 歳、要介護 1)

経済的負担について：9 件

- ・ これ以上の介護が必要になったとき、経済的にどこまで続くかと心配になる。(男性、75～79 歳、要支援 2)
- ・ 医療費・薬代がとても大変。税金もあるし、介護サービスを頼んでも月々の支払いが大変だ。(男性、65～69 歳、要介護 1)

施設に対する要望：1 件

- ・ 脳内出血で入院した主人が要介護 5 と認定され、病院から在宅介護は難しい、療養型医療施設に入院するのなら、病院のほうでも紹介すると宣告された。いろいろな人に聞くと施設には何年も待たないと入れないようだが、市役所の方でも施設を紹介してくれるのか、何課に行けばよいのか、教えていただきたいと思う。(男性、80～84 歳、要介護 5)

ケアマネジャー、人材について：3 件

- ・ 市で、介護に対して理解ある人材を育てて欲しい。(女性、70～74 歳、要介護 3)
- ・ 本当に親身になって相談してくれる相手、医師がいないことを身にしみて感じ、落ち込んでいた時、ケアマネジャー、看護師の方にあたたかい助言を頂いたことで救われた。そのような相談所がたくさんできて、助けてもらえることを希望する。(男性、80～84 歳、要介護 1)

相談などについて：4 件

- ・ 高齢者 2 人だけの生活で、近隣に近親者がいないので、急病時、特に夜間など、本当に不

安にかられる。是非相談したいが、アドバイスをいただきたい。(女性、80～84 歳、要支援 2)

- ・ 病人を抱えると、医療・介護・法律など問題が次から次へ出てくる。もちろん経済的問題も深刻。総合的相談窓口はどこにあるのか、教えていただきたい。(女性、65～69 歳、要介護 5)

アンケートについて：3件

- ・ 現在は介護というより手伝うという状況が続いている。今回のアンケートでは、高齢者と共に生活している者の情報を得るには、アンケートをする側とアンケートされる側との間にギャップがあり、回答に苦慮することが多くあった。年とともに段階的に手助けが必要となることが出てくるのは当たり前のこととして、周りの人が、家族以外の人をまきこめ地域サポート体制としての介護保険であって欲しい。(女性、80～84 歳、要支援 1)

府中市に対して：8件

- ・ たくさんの質問のアンケートでなくても、本人や家族に年に 1 度でも「おたずねの手紙」などをいただけたら、家族は市で見守って頂いているという安心が感じられると思う。でも府中市は介護の施設でもとても恵まれているとサービスの手続きをして分かっている。(女性、85～89 歳、要介護 1)
- ・ 府中市の介護サービス等には、いつも感謝している。(女性、85～89 歳、要支援 1)

その他：8件

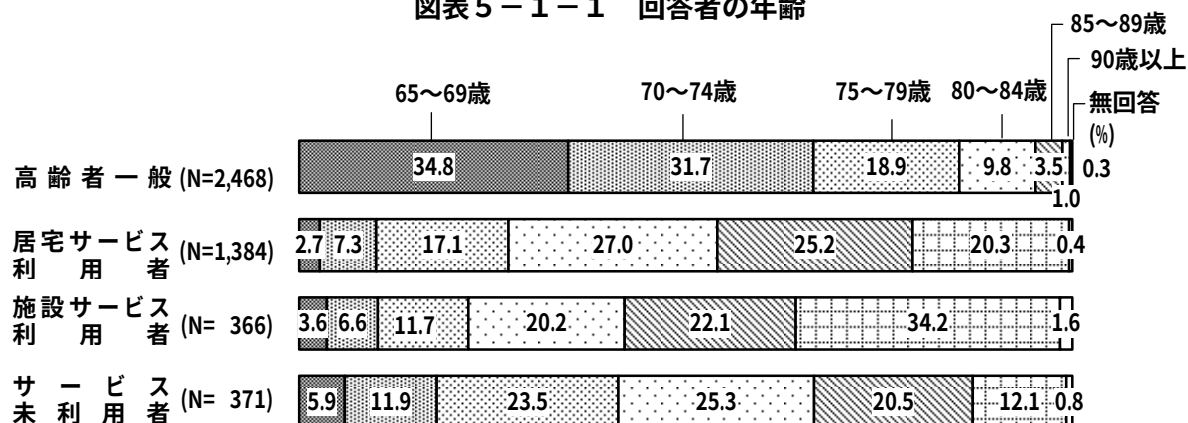
5 高齢者調査共通設問の比較

(1) 基本属性

① 回答者の年齢

高齢者一般は、「前期高齢者（65～74 歳）（66.5%）」が多く 7 割弱である。居宅サービス利用者は、「80 歳代（52.2%）」が半数を超え、「90 歳以上（20.3%）」も 2 割を超える。施設サービス利用者は、「90 歳以上（34.2%）」が 3 割を超えている。サービス未利用者はサービス利用者より、前期高齢者の割合が高いが、「90 歳以上（12.1%）」も 1 割を超える（図表 5-1-1）。

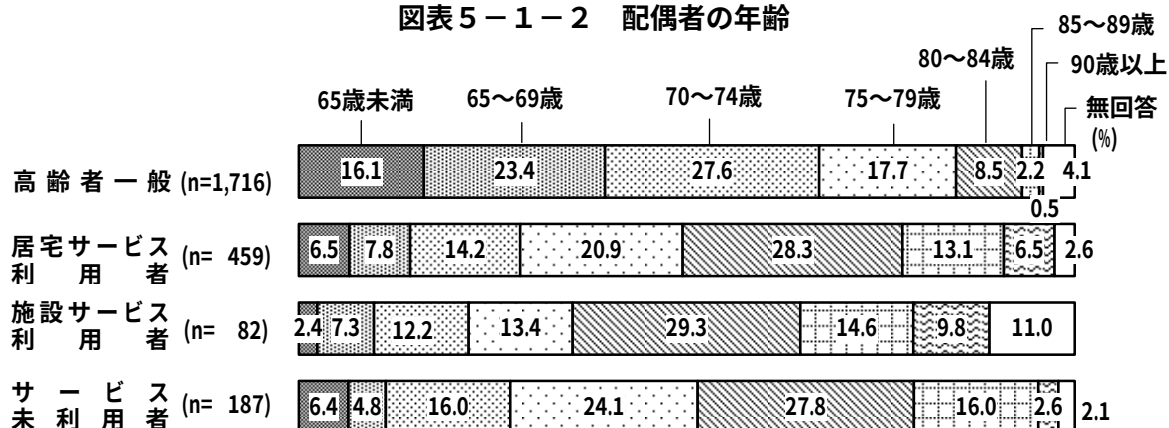
図表 5-1-1 回答者の年齢



② 配偶者の年齢

高齢者一般は、「前期高齢者（51.0%）」5 割、65 歳未満 16.1%で、他より若い人が多い。居宅サービス利用者は、後期高齢者が多いが、中でも「80～84 歳（28.3%）」が多い。施設サービス利用者は、居宅サービス利用者より後期高齢者の割合が高く、「90 歳以上（9.8%）」も 1 割近い。サービス未利用者は居宅サービス利用者と同様の年齢構成だが、70 歳代（39.1%）がやや多い（図表 5-1-2）。

図表 5-1-2 配偶者の年齢



③ 要介護度

居宅サービス利用者は、「軽度要介護（要介護1、2）（40.1%）」が最も多く、次に多い「要支援（要支援1、2）（30.9%）」とあわせると7割となる。

施設サービス利用者は、「重度要介護（要介護3～5）（84.2%）」が8割以上を占める。

サービス未利用者は、「要支援（53.4%）」が最も多く、次に多い「軽度要介護（21.2%）」とあわせると7割以上となる（図表5-1-3）。

図表5-1-3 要介護度

（上段：実数、下段：%）

	件数	要支援		軽度要介護		重度要介護			無回答
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
居宅サービス利用者 問3	1,384 100.0	213 15.4	215 15.5	238 17.2	317 22.9	164 11.8	102 7.4	62 4.5	73 5.3
施設サービス利用者 問14	366 100.0	- -	- -	8 2.2	43 11.7	65 17.8	138 37.7	105 28.7	7 1.9
サービス未利用者 問3	371 100.0	118 31.8	80 21.6	45 12.1	31 8.4	16 4.3	11 3.0	13 3.5	57 15.4

④ 保険料段階

高齢者一般とサービス未利用者は「第6段階」が最も多い。

居宅サービス利用者は「第4段階」、施設サービス利用者は、「第2段階」が最も多い（図表5-1-4）。

図表5-1-4 保険料段階

（上段：実数、下段：%）

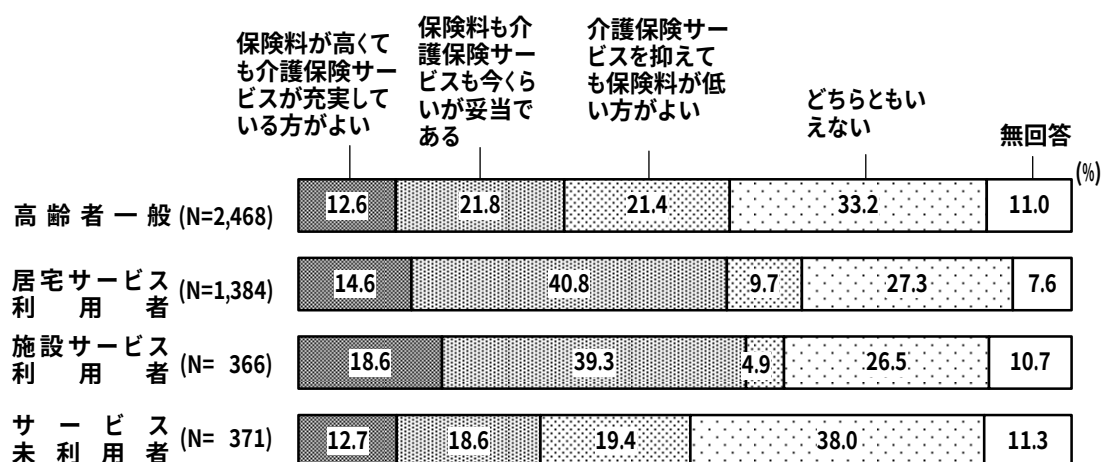
	件数	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階	第7段階	わからない	無回答
高齢者一般 問19	2,468 100.0	71 2.9	198 8.0	141 5.7	392 15.9	343 13.9	601 24.4	140 5.7	225 9.1	357 14.5
居宅サービス利用者 問4	1,384 100.0	89 6.4	110 7.9	107 7.7	287 20.7	157 11.3	199 14.4	42 3.0	216 15.6	177 12.8
施設サービス利用者 問12	366 100.0	38 10.4	74 20.2	34 9.3	49 13.4	27 7.4	38 10.4	6 1.6	60 16.4	40 10.9
サービス未利用者 問4	371 100.0	26 7.0	41 11.1	17 4.6	64 17.3	44 11.9	65 17.5	13 3.5	50 13.5	51 13.7

(2) 介護保険について

① 今後の介護保険サービスと保険料についての考え方

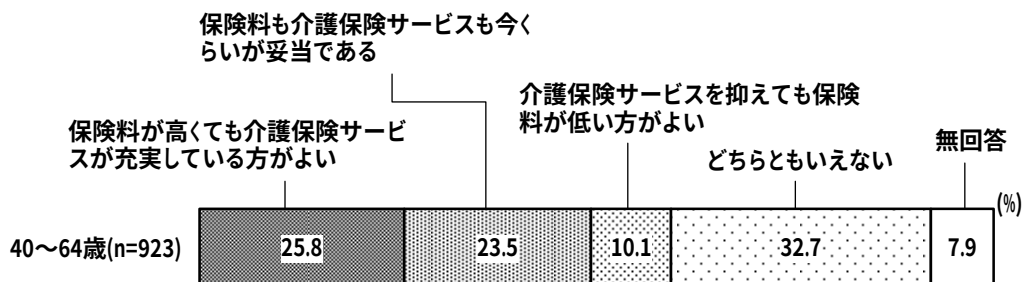
サービス利用者は、居宅・施設とも、「保険料もサービスも今くらいが妥当」が最も多いが、高齢者一般とサービス未利用者は「どちらともいえない」が最も多くなっている（図表5-2-1）。

図表5-2-1 今後の介護保険サービスと保険料についての考え方



参考 《地域福祉調査の結果》

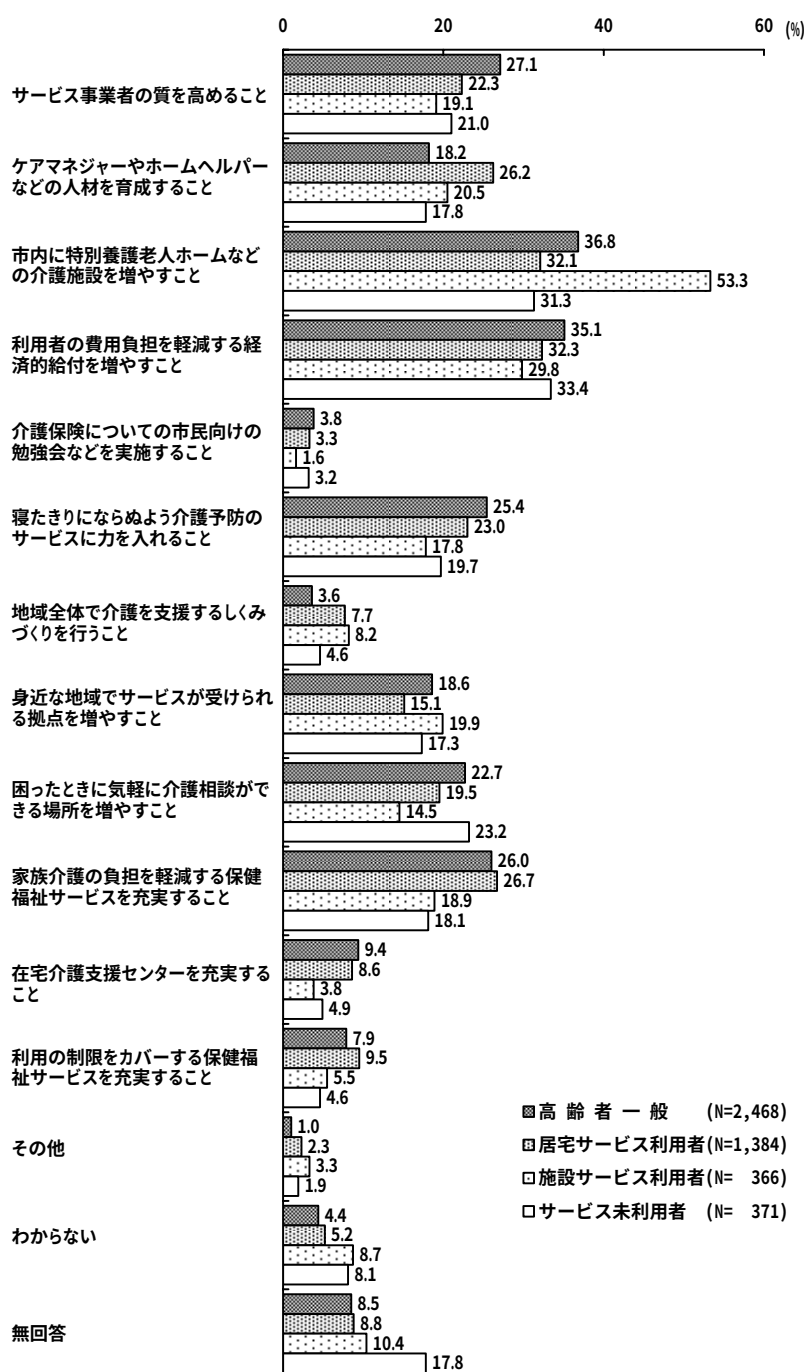
介護保険の第2号被保険者である40～64歳の介護保険サービスと費用負担についての考え方は、「どちらともいえない（32.7%）」が最も多く、「保険料が多少高くても介護保険サービスが充実している方がよい（25.8%）」、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である（23.5%）」が続いており、高齢者の意向と若干異なっている。



② 介護保険制度をよりよくするため、市が力をいれるべきこと

「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やす」と「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やす」がいずれも上位2項目である。施設利用者は「施設を増やす」が最も多いが、サービス未利用者は「利用者の費用負担の軽減」が最も多い。3番目はそれぞれ異なり、高齢者一般は「サービス事業者の質を高める」、居宅サービス利用者は「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実する」、施設利用者は、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」、サービス未利用者は「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やす」となっている（図表5-2-2）。

図表5-2-2 介護保険制度をよりよくするため、市が力をいれるべきこと

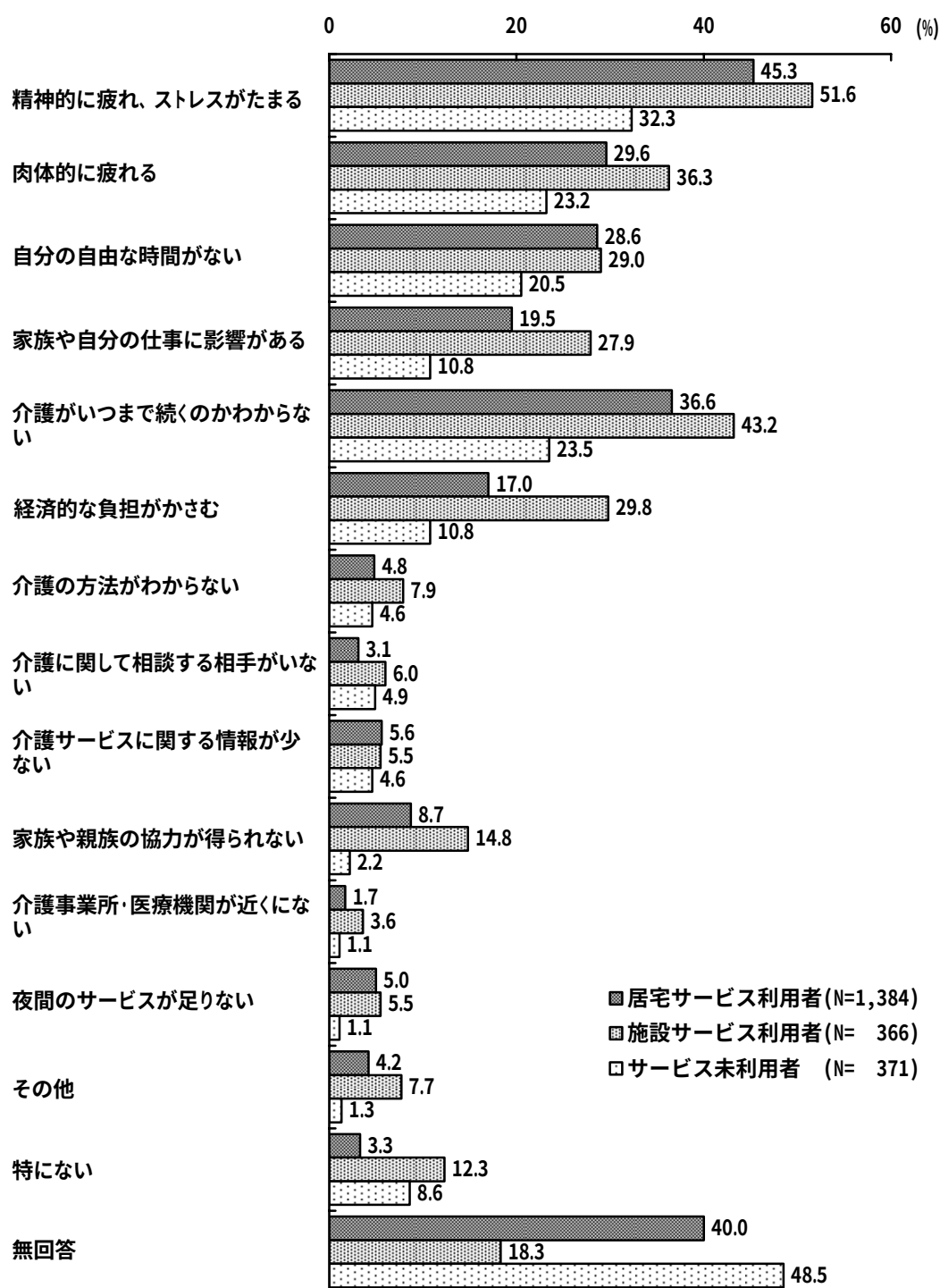


(3) 介護の問題・権利擁護

① 介護の問題点（介護者）

いずれも「精神的に疲れ、ストレスがたまる」、「介護がいつまで続くのかわからない」、「肉体的に疲れる」が上位3項目となっている（図表5-3-1）。

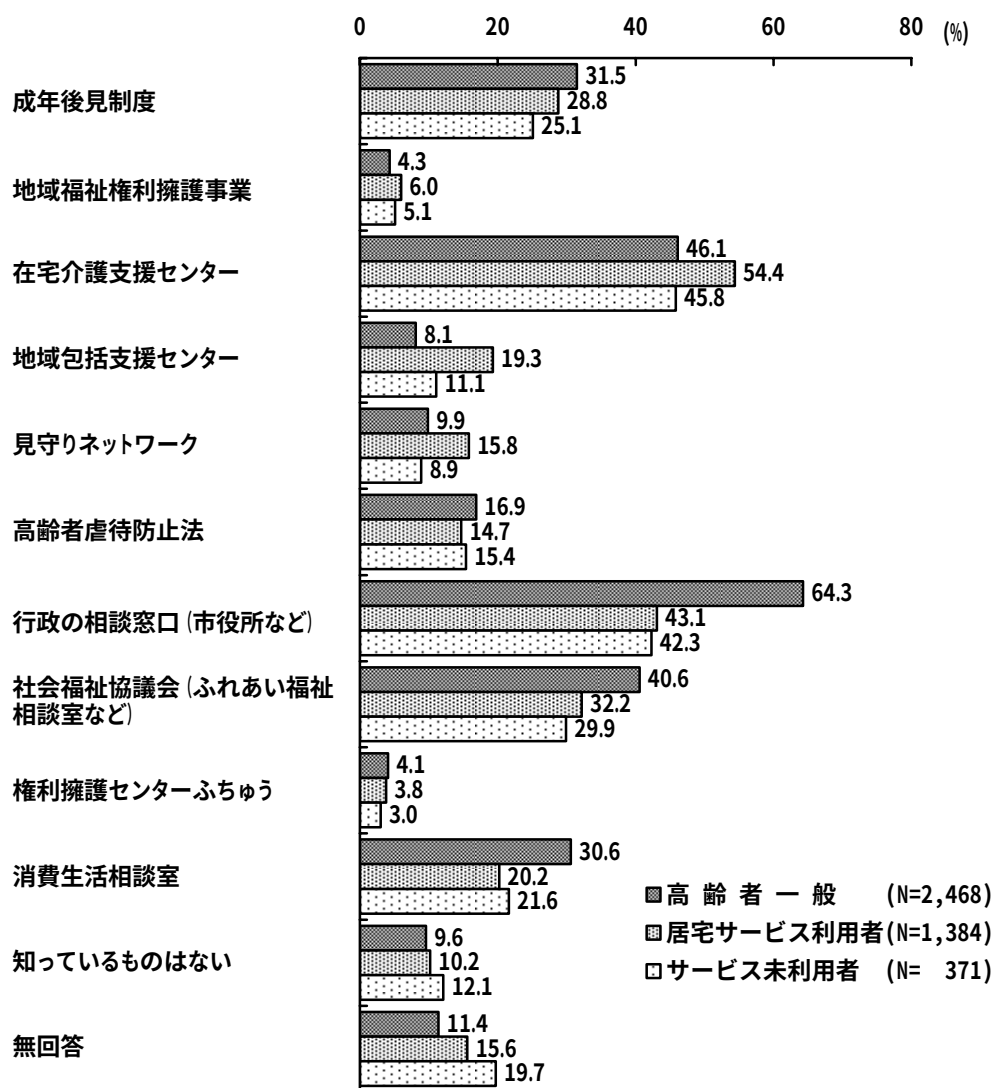
図表5-3-1 介護の問題点（介護者）



② 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の周知状況

高齢者一般では「行政の相談窓口」、サービス利用者では「在宅介護支援センター」の周知度が高い。サービス未利用者は、「在宅介護支援センター」の周知度が「行政の相談窓口」より若干高くなっている（図表5－3－2）。

図表5－3－2 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の周知状況



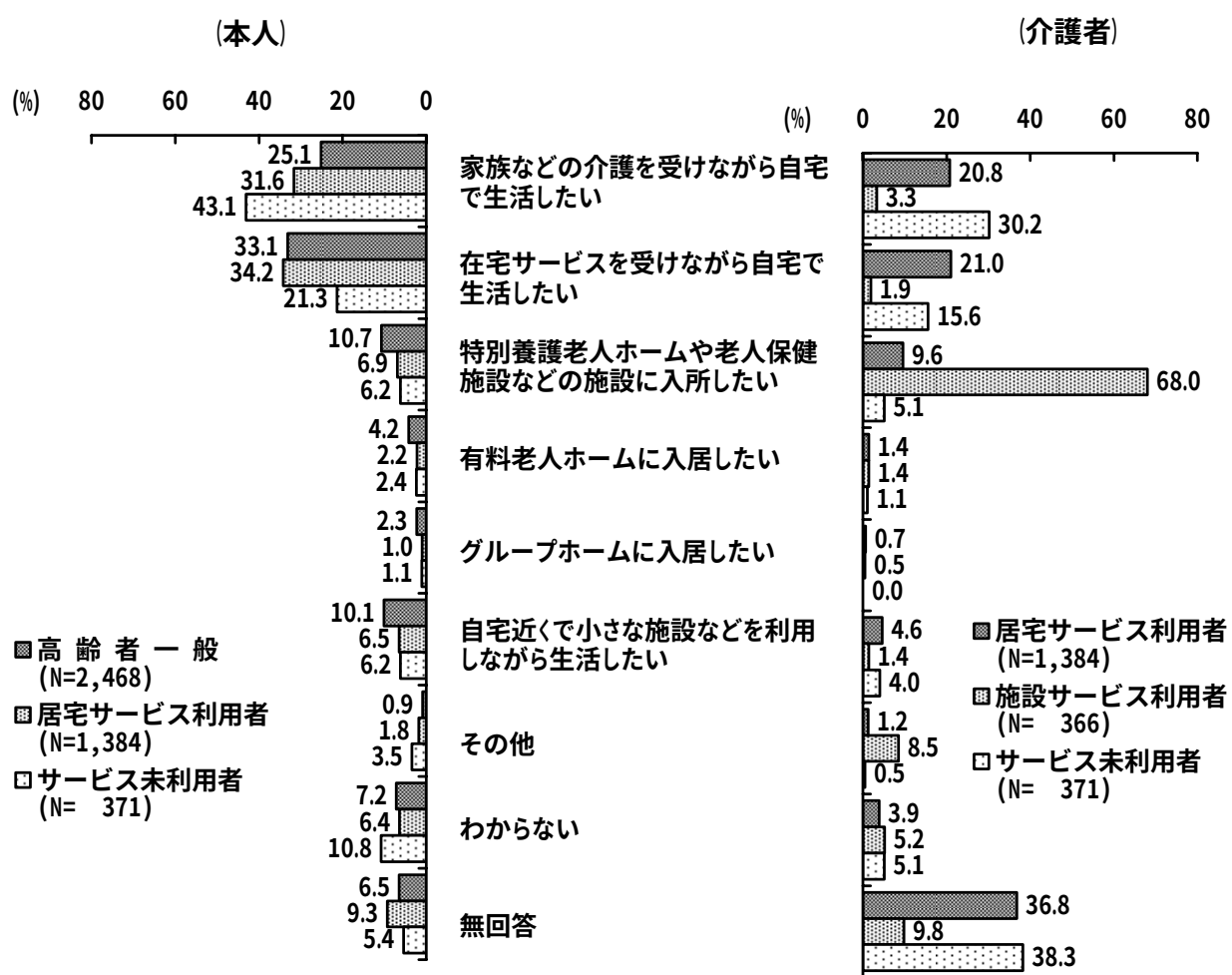
(4) 今後の生活場所・災害時のための個人情報提供の考え方

① 今後の生活場所（本人・介護者）

今後の生活場所（高齢者一般は介護が必要になった時の生活場所）をたずねたところ、施設サービス利用者の介護者以外は、在宅希望（「①家族などの介護を受けながら自宅で生活」と「②在宅サービスを受けながら自宅で生活」）が多く、あわせると5割から6割以上となっている。なお、居宅サービス利用者、サービス未利用者とも介護者よりも本人の方が在宅希望の割合が高い。

高齢者一般は、自宅以外での生活（「③特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」～「⑥自宅近くで小さな施設を利用しながら生活したい」の合計）の希望が3割近い（図表5-4-1）。

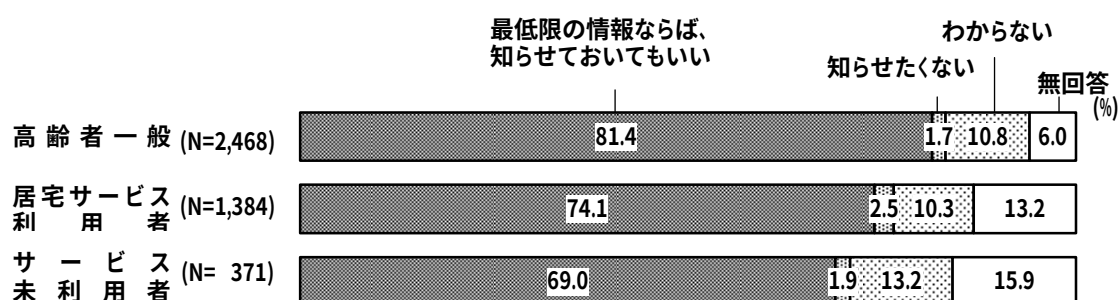
図表5-4-1 今後の生活場所（本人・介護者）



② 災害時のための個人情報提供への考え方

災害時に、避難を支援したり、避難状況を確認するために、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会に、氏名と連絡先などを事前に知らせておくことについての考え方をたずねたところ、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」と回答した人は、高齢者一般では81.4%、居宅サービス利用者では74.1%、サービス未利用者では69.0%であり、多数を占めている（図表5－4－2）。

図表5－4－2 災害時のための個人情報提供への考え方



Ⅱ 事業者調査

1 居宅介護支援事業者調査

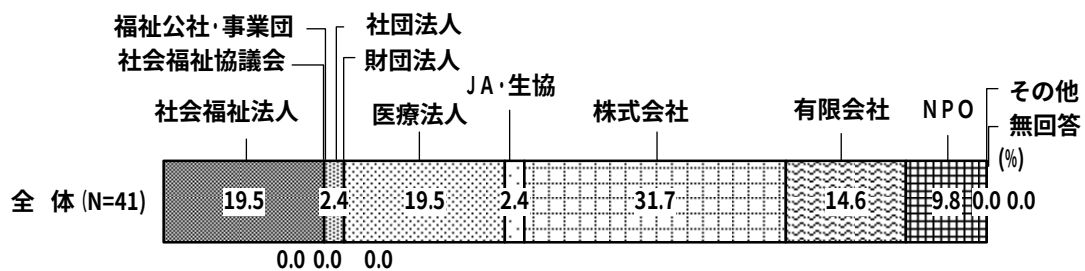
(1) 事業所の活動状況

① 組織の形態（問2－①）

組織形態は、「株式会社（31.7%）」が最も多く、「社会福祉法人（19.5%）」、「医療法人（19.5%）」、「有限会社（14.6%）」が続いている（図表6－1－1）。

順位は、前回調査と同様な傾向であるが、「株式会社」は1.7ポイント、「社会福祉法人」は2.0ポイント、「医療法人」は2.0ポイント、「有限会社」は0.3ポイント上回っている。

図表6－1－1 組織の形態（全体）

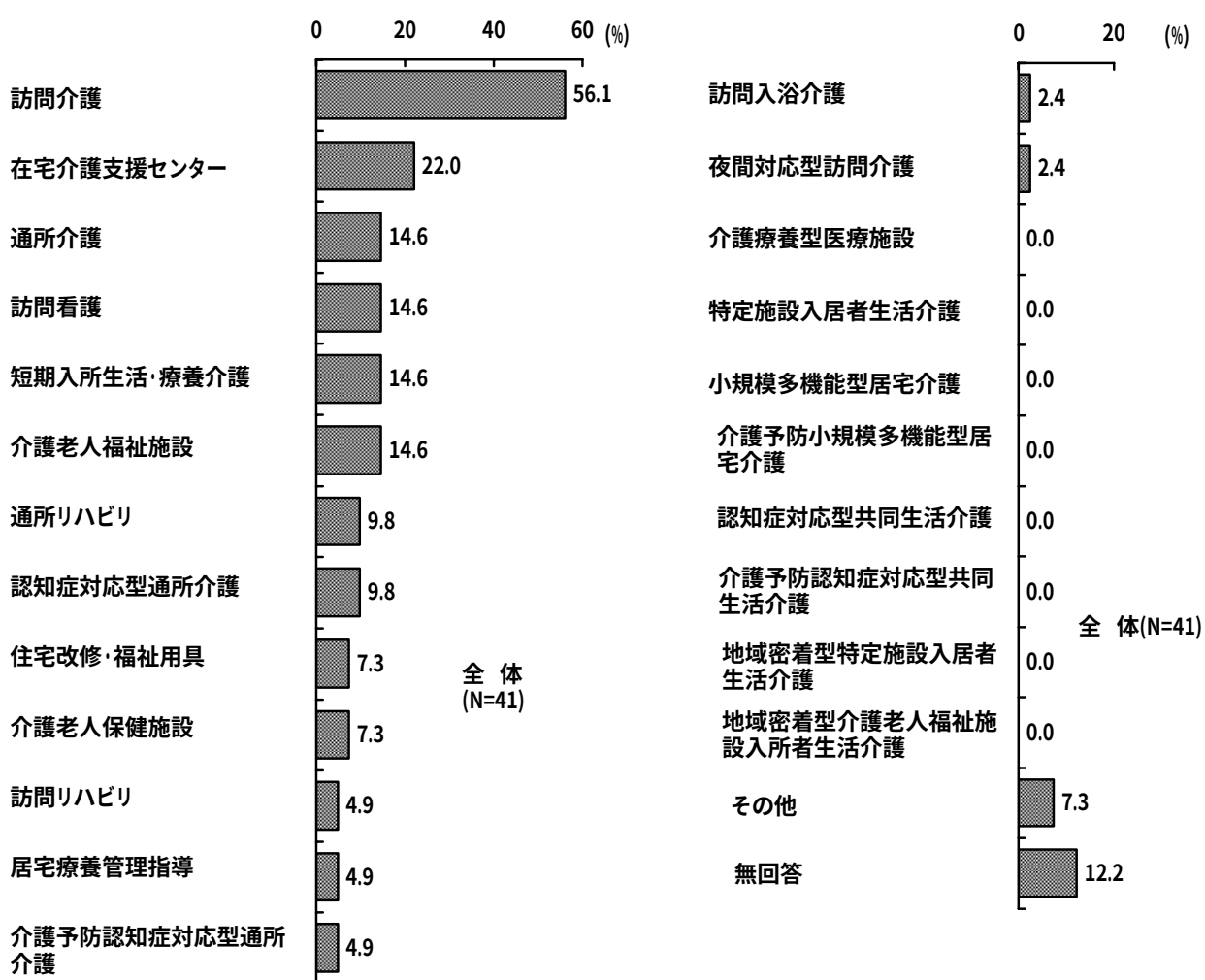


② 併設する事業所の種類（問2-②）

併設する事業所の種類は、「訪問介護（56.1%）」が最も多く、「在宅介護支援センター（22.0%）」、「通所介護（14.6%）」、「訪問看護（14.6%）」、「短期入所生活・療養介護（14.6%）」、「介護老人福祉施設（14.6%）」が続いている（図表6-1-2）。

前回調査では、「訪問介護（60.10%）」が最も多く、次に「短期入所生活・療養介護（22.5%）」、「在宅介護支援センター（20.0%）」、「訪問看護（20.0%）」であった。

図表6-1-2 併設する事業所の種類（全体：複数回答）



③ 職員・スタッフの人数（非常勤は常勤換算）（問２－③） （ ）は前回数値

職員・スタッフの人数は、介護支援専門員の常勤は平均 2.21 人（2.4 人）、非常勤は平均 0.51 人（1.4 人）である。そのうち専従は常勤が平均 1.39 人、非常勤が平均 0.25 人で、兼任は常勤が平均 1.02 人、非常勤が平均 0.33 人である。

事務管理者は、常勤が平均 0.52 人（1.1 人）で、非常勤が平均 0.06 人（1.3 人）である（図表 6－1－3）。

前回と比べて、職員・スタッフの人数は少なくなっている。

図表 6－1－3 職員・スタッフの人数（全体）

	常 勤	非常勤
介護支援専門員 (N=41)	平均 2.21人	平均 0.51人
うち 専 従	平均 1.39人	平均 0.25人
兼 務	平均 1.02人	平均 0.33人
事務管理者	平均 0.52人	平均 0.06人

④ 職員の資格の所持者（問２－④）

職員の資格の所持者は、常勤全体では「介護福祉士（平均 1.90 人）」が最も多く、「ホームヘルパー２級（平均 0.55 人）」、「社会福祉士（平均 0.45 人）」が続いている。非常勤全体では「ホームヘルパー２級（平均 1.50 人）」が最も多く、「介護福祉士（平均 0.69 人）」、「保健師・看護師（平均 0.15 人）」が続いている。医師、管理栄養士・栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の資格保持者はいない（図表 6－1－4）。

前回調査では、「介護福祉士（平均 2.1 人）」、「社会福祉士（平均 1.5 人）」、「保健師・看護師（平均 1.4 人）」が上位 3 位であった。

図表 6－1－4 職員の資格の所持者（全体）

	常 勤	非常勤
社会福祉士 (N=41)	平均 0.45人	平均 0.11人
介護福祉士	平均 1.90人	平均 0.69人
医 師	平均 0.00人	平均 0.00人
保健師・看護師	平均 0.25人	平均 0.15人
管理栄養士・栄養士	平均 0.00人	平均 0.00人
薬 剤 師	平均 0.08人	平均 0.03人
理 学 療 法 士	平均 0.00人	平均 0.00人
作 業 療 法 士	平均 0.00人	平均 0.00人
言 語 聴 覚 士	平均 0.00人	平均 0.00人
歯 科 衛 生 士	平均 0.08人	平均 0.00人
あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師	平均 0.10人	平均 0.00人
ホ ー ム ヘ ル パ ー		
１ 級	平均 0.13人	平均 0.00人
２ 級	平均 0.55人	平均 1.50人
３ 級	平均 0.00人	平均 0.03人

(2) 事業の状況

① ケアプランの給付管理件数（平成19年3月現在）（問3）

府中市の要支援・要介護認定者に対しケアプランの給付管理件数は、「総件数」は平均 67.51 件で、内訳を見ると「要介護2（平均 18.17 件）」が最も多く、「要介護1（平均 15.85 件）」、「要介護3（平均 11.68 件）」が続いている（図表6-2-1）。

前回調査では、「総件数」は平均 94.9 件で、「要介護1（平均 33.3 件）」が最も多い。

図表6-2-1 ケアプランの給付管理件数（全体）

給付管理総件数 (N=41)	総件数	平均	67.51件	要 支 援 1	平均	2.29件
				要 支 援 2	平均	3.17件
				要 介 護 1	平均	15.85件
				要 介 護 2	平均	18.17件
				要 介 護 3	平均	11.68件
				要 介 護 4	平均	7.51件
				要 介 護 5	平均	5.15件
				申請中・暫定プラン	平均	3.68件

② 市内で活動しているケアマネジャーの人数（問4）

市内で活動しているケアマネジャーの人数は、平均 3.02 人である。その内主任は 0.05 人である。

前回調査では、市内で活動しているケアマネジャーの人数は、平均 2.6 人である。

③ ケアマネジャーの在籍年数・離職状況（問4-1）

ケアマネジャーの在籍年数は、平均 3.66 年(n=39)である。

昨年一年間のケアマネジャーの離職者は、平均 0.78 人(N=41)、離職率は平均 18.0%(n=39)である。内訳を見ると、退職者は平均 0.84 人(n=19)で退職率は平均 24.8%(n=11)である。転職者は平均 0.79 人(n=14)、転職率は平均 12.8% (n=10) である。

退職した理由(7件)は、「大学院へ進学」、「定年退職」、「業界から離れるため」、「家庭との両立困難」、「趣味活動を主に」等である。

転職した理由(3件)は、「私用の為（施設CMへ転職）」、「訪問看護へ異動」、「転居」である。

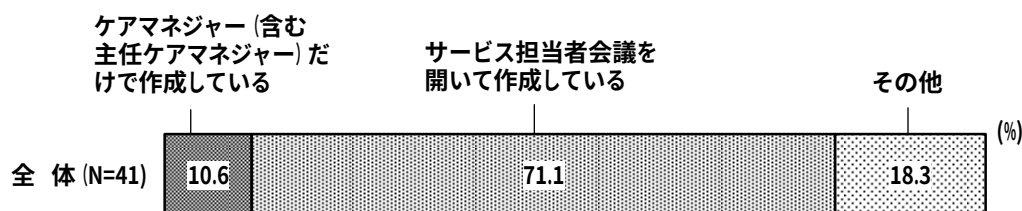
④ ケアプランの作成の仕方（問５）

ケアプランの作成の仕方は、「サービス担当者会議を開いて作成している（71.1%）」が最も多く、次は「ケアマネジャー（含む主任ケアマネジャー）だけで作成している（10.6%）」である（図表６－２－４）。

「その他（15件）」として、「家族と本人にアセスメントして作成（3件）」、「更新でプラン変更がないケースはサービス照会を行っている」、「５表を総括して作成」、「本人・家族の意向を確認し、また病状把握（主治医に確認）し作成」があげられている。

前回調査では、「ケアマネジャーだけで作成している（53.1%）」、「サービス担当者会議を開いて作成している（23.6%）」の順であり、今回は逆転している。

図表６－２－４ ケアプランの作成の仕方（全体）

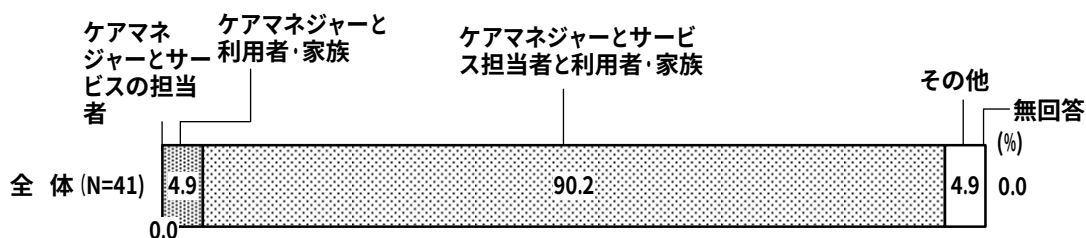


⑤ ケアプランの作成にかかわる者（問６）

ケアプラン作成にかかわる者は、「ケアマネジャーとサービス担当者と利用者・家族（90.2%）」が最も多く、次が「ケアマネジャーと利用者・家族（4.9%）」である（図表６－２－５）。

前回調査では、「ケアマネジャーとサービス担当者と利用者・家族（72.5%）」、「ケアマネジャーと利用者・家族（25.0%）」と、今回はサービス担当者の同席が 17.7 ポイント上回っている。

図表６－２－５ ケアプランの作成にかかわる者（全体）



⑥ 居宅サービス事業を兼務している事業所における、作成したケアプランを自社のサービスで実施したケースの割合（居宅サービス事業を兼務している事業者のみ回答）（問7）

作成したケアプランを自社のサービスで実施したケースの割合は、平均は27.7%である。前回調査では、平均が28.9%であり、今回は1.2ポイント下回っている。

（3）サービスの質の向上に向けた取組み

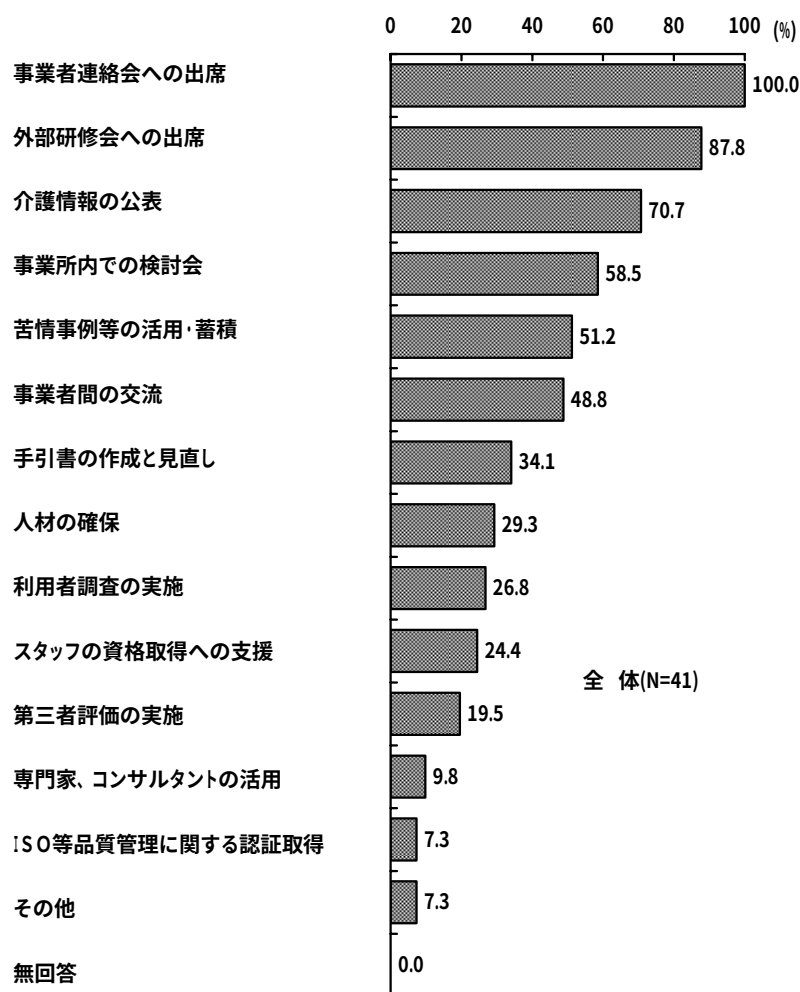
① 質の向上に対する取組み（問8）

質の向上に対する取組みの内容は、「事業者連絡会への出席（100.0%）」が最も多く、「外部研修会への出席（87.8%）」、「介護情報の公表（70.7%）」が続いている（図表6-3-1）。

「その他」として、「法人の内部研修」、「プライバシーマークの取得」がある。

前回調査では、「事業者連絡会への出席（97.5%）」、「外部研修会への出席（87.5%）」、「事業所内での検討（75.0%）」が上位3位である。

図表6-3-1 質の向上に対する取組み（全体：複数回答）



② 第三者評価の実施予定（問9）

質の向上に対する取組みについて「第三者評価の実施」と回答しなかった事業所に、第三者評価の実施予定をたずねた。「実施の予定はない」が81.8%であり、「実施の予定はある」が12.1%となっている（図表6-3-2）。

前回調査と比べて、「実施の予定はある」が21.2ポイント下回っている。

図表6-3-2 第三者評価の実施予定（全体）



③ 第三者評価を実施しない理由（問9-1）

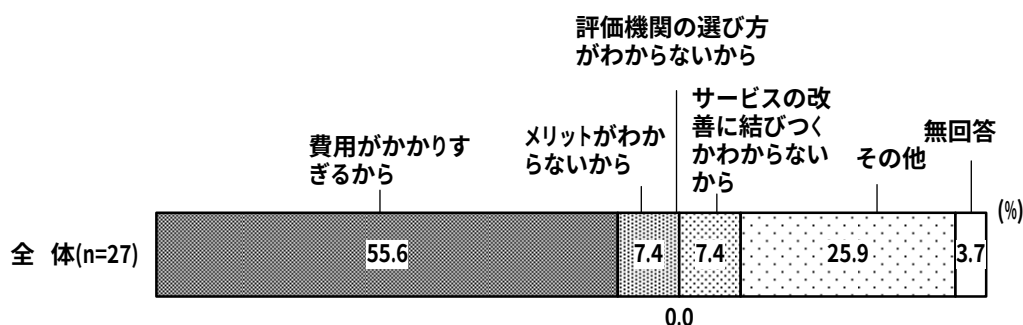
第三者評価の実施の予定はないと回答した事業所に、その理由をたずねた。「費用がかかりすぎるから（55.6%）」が最も多く、「メリットがわからないから（7.4%）」、「サービスの改善に結びつくかわからないから（7.4%）」が続いている（図表6-3-3）。

その他（8件）として、「スーパーバイザーを設け、社内監査・研修が充実しているから」、「社内に評価担当がいる為」、「ISOやPマーク等取得しているため」、「情報開示を行っている（3件）」、「民事再生中の為」、「会社の方針」、「時間が無い」があげられている。

前回調査では、「費用がかかりすぎるから（28.6%）」が最も多く、「メリットがわからないから（19.0%）」であり、「費用がかかりすぎるから」が27.0ポイント上回っている。

図表6-3-3 第三者評価を実施しない理由（全体）

＜第三者評価の実施の予定はないと回答した事業所＞

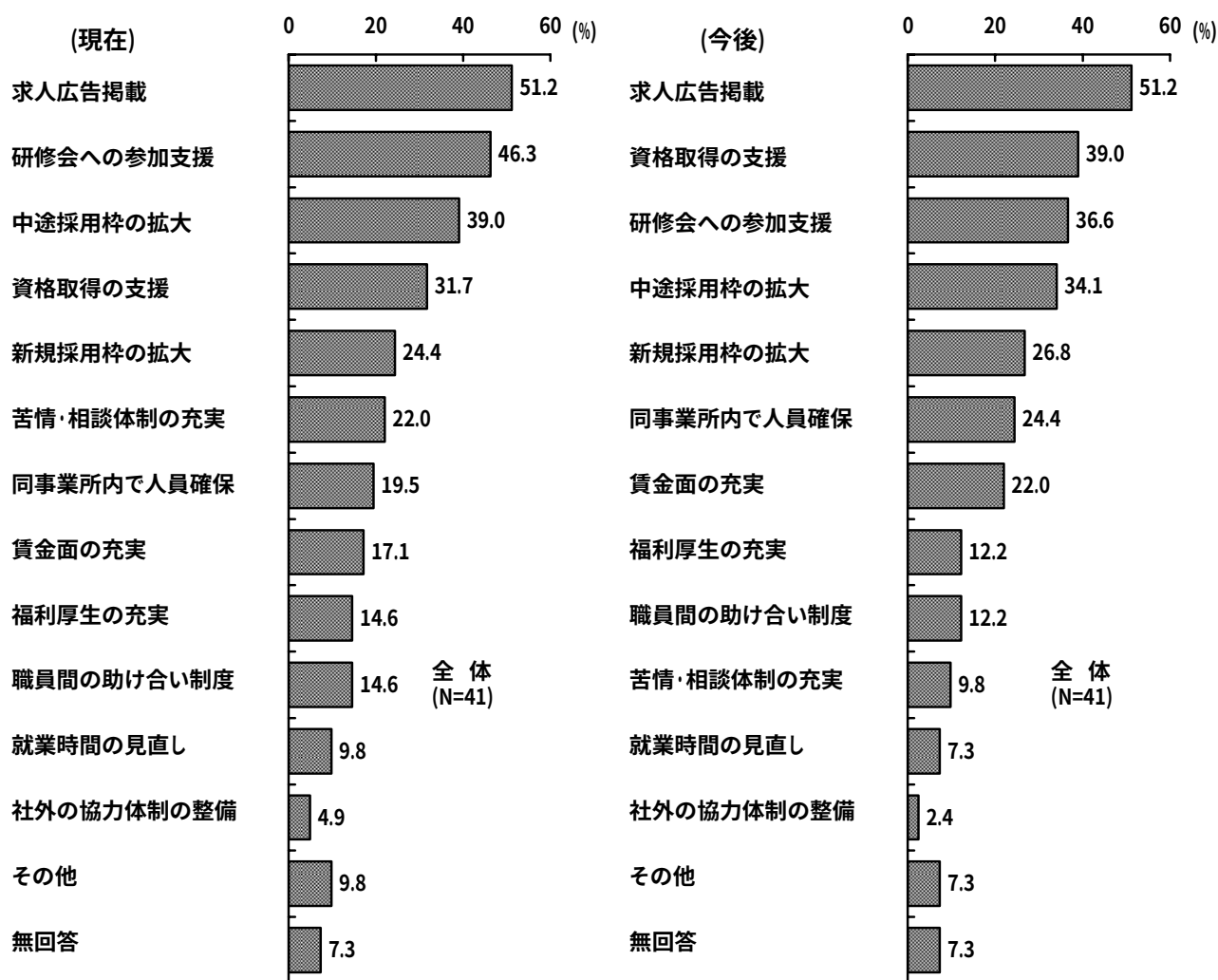


④ 人材確保の取組み（問 10）

人材確保の取組みは、現在では、「求人広告掲載（51.2%）」が最も多く、「研修会への参加支援（46.3%）」、「中途採用枠の拡大（39.0%）」、「資格取得の支援（31.7%）」が続いている。

今後の取組みでは、「求人広告掲載（51.2%）」が最も多く、2位が「資格取得の支援（39.0%）」、3位が「研修会への参加支援（36.6%）」であり、「中途採用枠の拡大（34.1%）」は4位である（図表6－3－4）。

図表6－3－4 人材確保の取組み（全体：複数回答）



ア 現在の取組みの具体的な内容

現在の取組みの「職員間の助け合い制度」には3件の具体的な記述があった。「事例検討」、「ミーティングを頻繁に行う」、「チーム運営システム」があげられている。

また、「その他」には5件の具体的な記述があった。「定年退職者及び予定者等に対するケアマネ就業への呼びかけ」、「ホームページ、ハローワークで求人」、「管理職・指導職の育成、能力向上」、「ケース会議で困難を1人でかかえない様にする」があげられている。

イ 今後の取組みの具体的な内容

今後の取組みの「職員間の助け合い制度」には「CM連絡会」という１件の具体的な記述があった。

また、「その他」には３件の具体的な記述があった。「ホームページ、ハローワークで求人」、「福祉業界団体（東社協）への求人ネットワーク参加」、「管理職・指導職の育成、能力向上」があげられている。

⑤ 研修について（問 11）

ア 事業所内の講習会・研修の実施

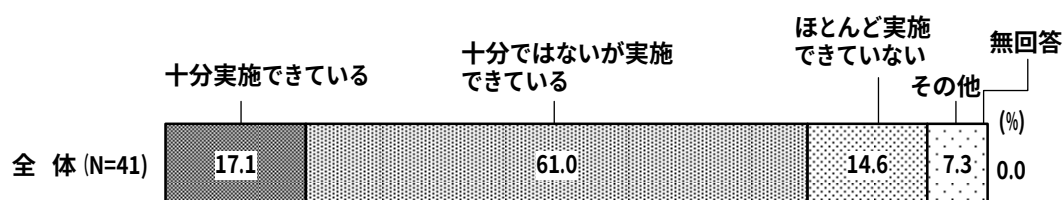
事業所内の講習会・研修の実施は、「十分ではないが実施できている（61.0%）」が最も多く、「十分実施できている（17.1%）」、「ほとんど実施できていない（14.6%）」が続いている（図表 6－3－5－①）。

「ほとんど実施できていない」理由として、「ケアマネ 1 名のため」、「２人しかいないため外部研修が主」、「業務上多忙な為」、「企画が不足」、「訪問看護のカンファレンスの時（１回／月）に福祉用具の講習会等実施」と、人材不足と多忙があげられている。

「その他」の理由として、「連絡会への出席」、「業務上多忙で人員が確保できない」、「ケアマネ 1 人の事業所」があげられている。

前回調査では、「十分ではないが実施できている（75.0%）」、「十分実施できている（10.0%）」と「できている」のが 85.0%であり、6.9 ポイント下回っている。

図表 6－3－5－① 事業所内の講習会・研修の実施（全体）



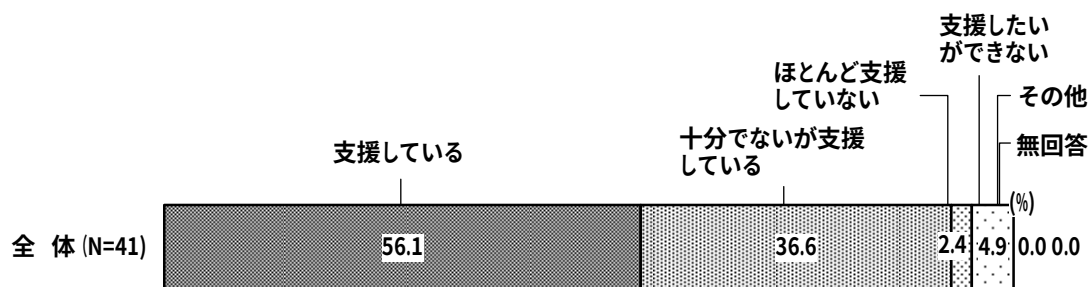
イ 外部の研修や事例検討、勉強会への参加支援

外部の研修や事例検討、勉強会への参加支援は、「支援している（56.1%）」が最も多く、「十分でないが支援している（36.6%）」、「支援したいができない（4.9%）」が続いている（図表 6－3－5－②）。

「支援したいができない」理由として、「ケアマネが 1 人なので連絡会への出席が主」と人材不足をあげられている。

前回調査と比べて、わずかに下回っているが、参加支援は同様な傾向を示している。

図表6-3-5-② 外部の研修や事例検討、勉強会への参加支援（全体）



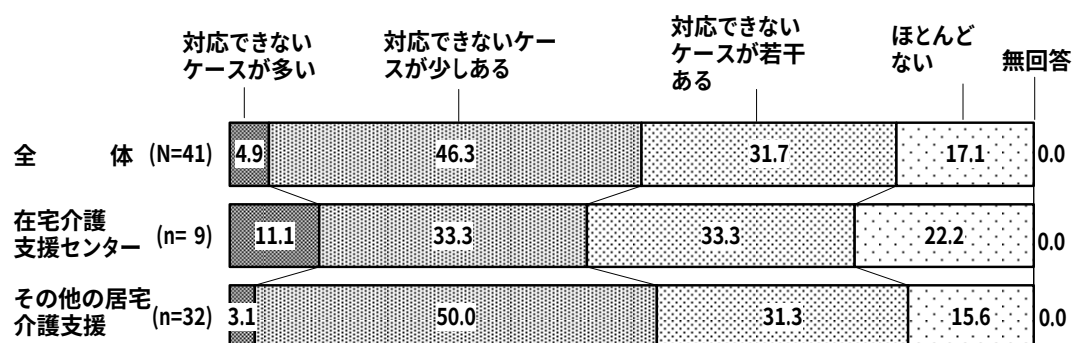
（4）ケアマネジメント

① 困難だったケアプラン作成の状況（問12）

事業所だけでは作成が困難だったケアプランは、「対応できないケースが少しある（50人のうち2～4人程度）（46.3%）」が最も多く、「対応できないケースが若干ある（50人のうち1人程度）（31.7%）」が続いている。前回調査と比べて「対応できないケースが少しある（25.0%）」と21.3ポイント上回っている。

事業所の種類別でみると、在宅介護支援センターの場合は、「対応できないケースが少しある（33.3%）」、「対応できないケースが若干ある（33.3%）」が同率で多く、「対応できないケースが多い（11.1%）」がその他の居宅介護支援施設の4倍近くある（図表6-4-1）。

図表6-4-1 困難だったケアプラン作成の状況
（全体、事業所の種類別）



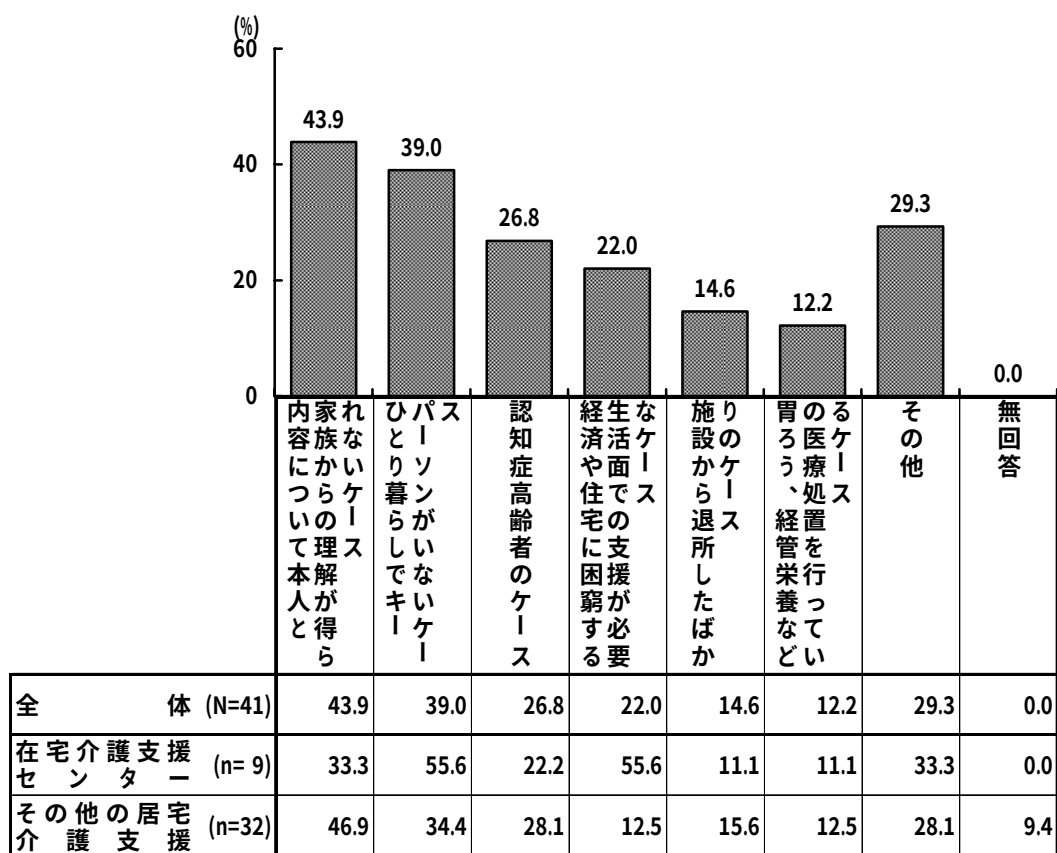
② ケアプランの中で困難だったケース（問 13）

困難だったケアプランの内容は、「内容について本人と家族からの理解が得られないケース（43.9%）」が最も多く、「ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース（39.0%）」、「認知症高齢者のケース（26.8%）」、「経済や住宅に困窮する生活面での支援が必要なケース（22.0%）」が続いている。

前回調査と比べて、同じような傾向を示している。

事業所の種類別でみると、在宅介護支援センターでは「ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース（55.6%）」、「経済や住宅に困窮する生活面での支援が必要なケース（55.6%）」が最も多く、その他の居宅介護支援施設では「内容について本人と家族からの理解が得られない（46.9%）」が最も多くなっている（図表6－4－2）。

図表6－4－2 ケアプランの中で困難だったケース
（全体、事業所の種類別：複数回答）



困難だったケアプランの内容について、「その他」のケースとして、12件の回答があった。主な回答を次に掲載する。

ア 感染症・疾病等：3件

- ・ 感染症をお持ちの方
- ・ キーパーソンが精神疾患、難病の方で本人・家族の病識がうすいケース
- ・ 精神疾患のある家族にサービス事業所が危険性を感じ撤退を余儀なくされたケース

イ 家族の理解を得られにくい：3件

- ・ ご家族に精神疾患があるケース。ご家族の意見調整困難。
- ・ コンプライアンスを保つため、ケース会議等により保険者判断を必要とする場合、又、結論等に利用者・家族からの理解が得難いケース
- ・ キーパーソンが弱い。精神疾患の利用者のケース

ウ 医療行為等：1件

- ・ A L Sのヘルパー吸引対応について

エ 家族関係が悪い：2件

- ・ 夫の虐待があったケース
- ・ 家族関係が悪いケース

オ 制度の周知：2件

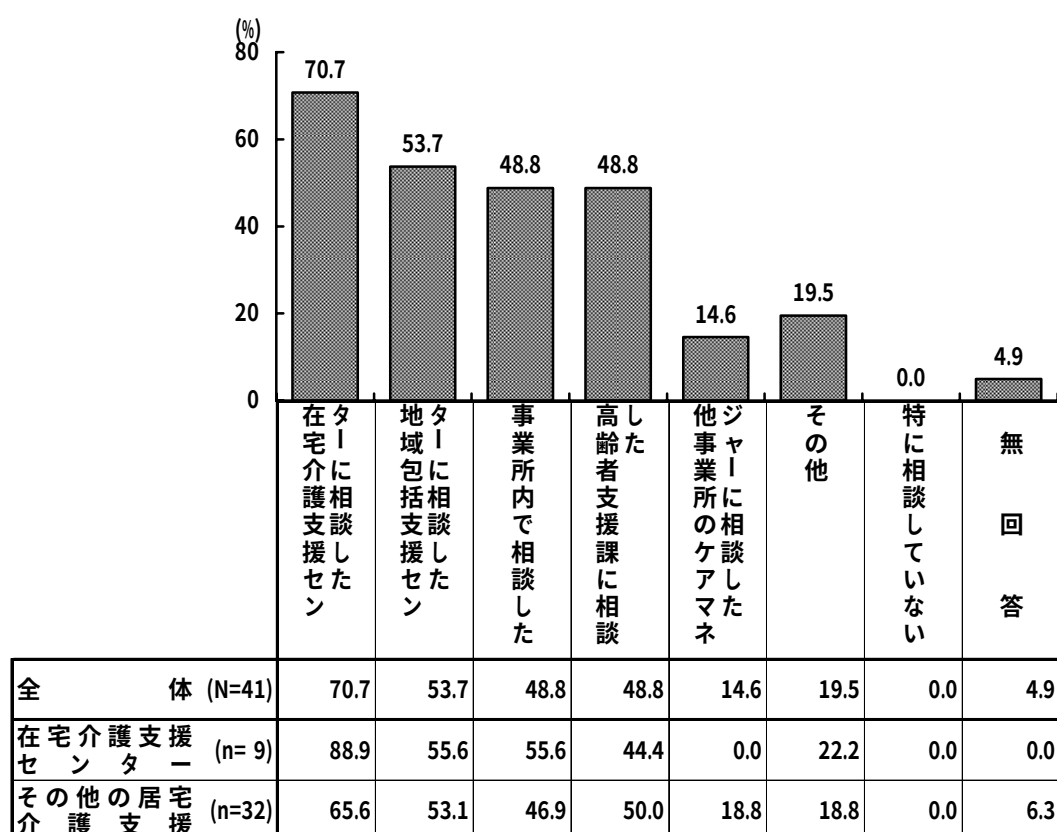
- ・ 介護サービスの利用を希望しておらず促す事から始めなくてはならない。在宅介護支援センターからの依頼ケース
- ・ 外国人のケース

③ 困難だったケースの相談先：複数回答（問 14）

困難だったケースの相談先は、「在宅介護支援センターに相談した（70.7%）」が最も多く、「地域包括支援センターに相談した（53.7%）」、「事業所内に相談した（48.8%）」、「高齢者支援課に相談した（48.8%）」が続いている。前回調査でも、「在宅介護支援センターに相談した（65.0%）」が最も多かった。

事業所の種類別でみると、在宅介護支援センターでは「在宅介護支援センター（88.9%）」が最も多く、「地域包括支援センター（55.6%）」、「事業所内で相談（55.6%）」が続いている。その他の居宅介護支援施設では、「在宅介護支援センター（65.6%）」が最も多く、「地域包括支援センター（53.1%）」、「高齢者支援課に相談した（50.0%）」が続いている（図表 6－4－3）。

図表 6－4－3 困難だったケースの相談先
（全体、在宅介護支援センター・その他の居宅介護支援：複数回答）



④ 最も困難だったケース（問 15）

最も困難だったケースをたずねたところ、27 件の回答があった。主な回答を次に掲載する。

ア 規定外のサービスの強要：5 件

- ・ 利用者が独居にて、訪問介護のヘルパーにサービス時間外に「さびしいから」とボランティアを強要する。注意してできない事を説明するが、うつ病が悪化。精神不安定になり、食事・水分を取らなくなり脱水症状に陥ったケース
- ・ 話好きで一度訪問すれば、少なくとも 2 時間は軟禁されるケース
- ・ 休日にもかかわらず、自宅の電話番号を調べて電話してくるケース
- ・ 年末年始の夜間にケアマネ宅へ電話があり、明日退院して欲しいと病院から言われるケース
- ・ デイサービス等の見学に車を出すように指示されるケース

イ 医療行為等：2 件

- ・ 結核治療で確実な服薬が必要なため、保健所の方と投薬管理したケース
- ・ ヘルパーについて、昔は何回、何時間でも利用できたために 1 回 1.5 時間はなぜ？と納得されないケース
- ・ 受診が必要な悪化状態なのに、拒んだり、家族が救急車に乗るのを拒否するケース

ウ 認知症・疾病等：5 件

- ・ 独居の認知症高齢者で、養子の息子が亡くなりその妻とは不仲。訪問販売の被害に何度もあう。通所や訪問介護を利用開始したが、通所のお迎えや訪問介護の時間がわからず外出し、キャンセルが続いた。金銭や服薬管理や郵便物の確認ができない。役所関係の予約を忘れる。食事について摂れているか解らないケース
- ・ 認知症の本人が入院するまで自サービス事業所の管理者が入るしかなかったケース
- ・ 一人暮らしでキーパーソン不在。認知症も出て、毎回制度の説明をしても覚えられない。支援費を併用しており、市への提出書類が多く、管理が自分でできず書類を紛失してしまう。結局、月に 2 回以上訪問が必要になり、市の窓口にも頻繁に足を運ばなければならない。ヘルパーに盗みの疑いをかけ、交代を要求するケース
- ・ 透析が必要である認知症高齢者の支援ケース。認知症高齢者のため通院による透析が困難。自宅で腹膜透析を受けるため関係機関との調整を重ねた。その後、必要なサービスが開始されるよう関係機関との調整を重ねたケース
- ・ とじこもり 30 年以上の精神系の疾患を持った利用者が独居になってしまったケース（子ども親もいない。地域福祉権利擁護事業ともスムーズに契約ができない）

エ 金銭トラブル：１件

- ・ 生保の方で、キーパーソンとなるご家族による金銭トラブル。その後、その方の援助が期待できなくなったので、キーパーソンがいなくなったケース

オ 家族との調整：７件

- ・ 認知症高齢者、自立度がⅢα。キーパーソンが他県で家庭を構えており、同居の夫がレスパイトケアを必要としていて、利用者の意向と家族の要望が異なっており、プラン上保険者判断が必要としたケース。家族（夫）はデイサービスの利用（利用者に）を希望していたが、本人は明確な主張がないがデイサービスには強い抵抗を持っていた。
- ・ 利用者の希望があり担当者会議でも推薦されたことが家族に受入れられず実行に至らない。
- ・ 家族が仕事をする為、デイサービスの利用を希望。利用者は認知症が有り、机にかじりつき、家から出る事を拒否。プランを立てるに至らず。在宅介護支援センターからの依頼の為、在宅介護支援センターに戻したケース（家族は何がなんでもデイサービス希望。納得させるのも仕事ではないかと言うが、引きずり出し無理やりはできない事を何度も言った。）
- ・ 本人の娘の理解力がない。ケアマネや他サービス事業者への要望が強く、スムーズに事が運ばないと回りの責任にするケース。支援センターから細かく説明し、一応落ち着いている。
- ・ 利用者と同居家族の仲が悪く、ケンカをする度、呼ばれるケースには苦勞する。
- ・ 家族が、本人に必要なサービスは食事作りだけと強く主張する。その他の必要なサービス（介護）を受入れず、生活全般が好転しない。サービスの方も生活援助はすすんでやらない。

カ 利用者の無理解：２件

- ・ 病状が重く、娘さん帰宅後、受診を勧めたが、職場から帰宅するまでの１時間で状態が悪化したら責任をとれるのかと責められた為、ケアマネサイドで受診介助をしたことがある。（状態は救急車を呼ぶまでには及ばず家族対応で十分なレベルであった）
- ・ 生活習慣の中で嗜好レベルが高く、対応できずヘルパーがなかなか定着しないケース。サービスが受けられないのは、ケアマネの努力が足りないからだとお叱りを受ける。

(5) 今後の事業運営

① 昨年度の採算（問 16）

昨年度の採算は、「赤字（61.0%）」が最も多く、「損益なし（22.0%）」が続いている（図表6-5-1）。

「その他(7件)」として、「本部で合算をしているためよくわからない」、「訪問介護と居宅介護支援事業の会計割合を9:1としている」、「居宅介護支援事業だけでは判断できない」、「委託事業(2件)」等があげられている。

前回は「赤字」が50.0%で、今回は11.0ポイント上回った。

図表6-5-1 昨年度の採算（全体）

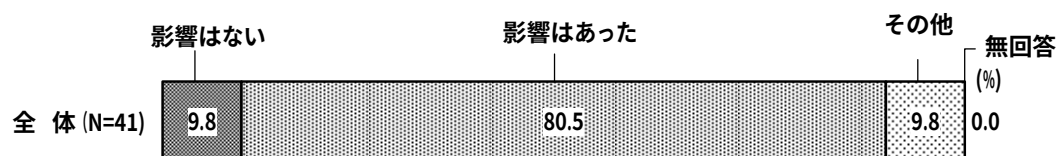


② 介護報酬変更後の運営への影響（問 17）

介護報酬変更後の運営への影響は、「影響はあった」が80.5%、「影響はない」が9.8%となっている（図表6-5-2）。

「その他(4件)」として、「昨年度実績なし」、「9月設立」、「委託」、「プラン数が少ないので判断できない」があげられている。

図表6-5-2 介護報酬変更後の運営への影響（全体）

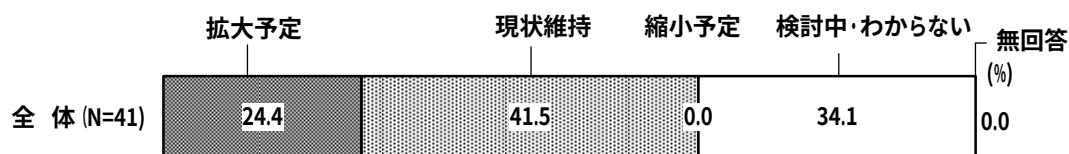


③ 今後３年間の事業規模（問 18）

今後３年間の事業規模は、「現状維持（41.5%）」が最も多く、「検討中・わからない（34.1%）」、「拡大予定（24.4%）」が続いている（図表６－５－３）。

前回調査では「現状維持（32.5%）」、「検討中・わからない（32.5%）」、「拡大予定（22.5%）」であり、拡大予定は 1.9 ポイント、「現状維持」が 9.0 ポイント下回っている。

図表 6－５－３ 今後３年間の事業規模（全体）



④ 介護予防プラン作成事業への参入意向（問 19）

介護予防プラン作成事業への参入意向は、「ある（41.5%）」が最も多く、「ない（22.0%）」、「検討中（14.6%）」が続いている（図表６－５－４）。

「その他（7件）」として、「現在参入している（4件）」、「予防給付制度開始前よりの継続ケースのみ、予防プラン作成している。負担が大きいため新規は受入れていない」、「委託、市の方針に準じて」があげられている。

図表 6－５－４ 介護予防プラン作成事業への参入意向（全体）



⑤ 参入意向のない事業者の参入しない理由（問 19－1）

参入意向のない事業者の参入しない理由をたずねたところ、15 件の回答があった。主な回答を次に掲載する。

ア 介護報酬について

- ・ 介護予防プランは作業量に比べて報酬が低い(6 件)。
- ・ 厚生労働省が適正な単価を考えていない。ケアマネジャーに正しい要求と正しい報酬を！

イ 介護予防の目的

- ・ 介護予防プランは本来の目的から包括支援センターが作成するのが適正(3 件)
- ・ ケアマネ研修会の際、講師の大学教授の「厚生労働省の本音は民間の居宅介護支援事業所には、ゲートキーパー（門番）の役割が果たせていないので、介護予防プランの作成はして欲しくないのである」という話から、受けないことが正しいと判断したため。

ウ 事業所実情について

- ・ 既存の利用者で手一杯である(2 件)。件数が多いため予防を受けることが厳しい。
- ・ 同居家族の方で相談にのる。
- ・ 現状では対応できない。

⑥ 参入意向のない事業者の参入する場合の条件（問 19－2）

参入意向のない事業者が参入する場合の条件をたずねたところ、12 件の回答があった。主な回答を次に掲載する。

ア 報酬について：7 件

- ・ 報酬が上がる事
- ・ 報酬が上がってプランが受けられれば、予防プランをしっかりと勉強し直さなければならないと思う

イ 書類について：2 件

- ・ 書類等時間を費やすことがとても多いと聞く。書類面の簡略化

ウ 制度について：2 件

- ・ 介護保険の対象外になるとの予測があり、制度そのものに疑問がある。介護給付と同様な扱いが必要
- ・ 利用者が、介護予防の考え方、自立支援の考え方について理解が深まり、利用者の協力が得られるほどに、介護保険制度というものが熟成してきた場合

エ その他：3件

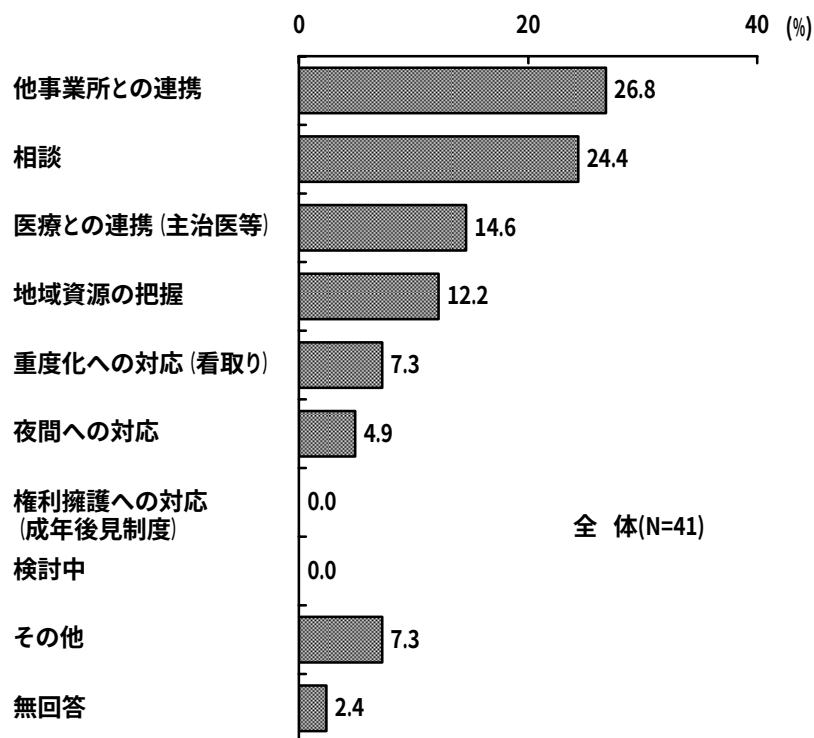
- ・ 利用者及び情報が少ないように思う
- ・ 予防プランは本来の目的から包括支援センターが作成するのが適正と考える
- ・ ケアマネジャー専門会社ができる状況になったら。事務職専門会社を作ったら考えていく

⑦ 事業所として力を入れていること、入れたいこと（問20）

事業所として力を入れていること、入れたいことは、「他事業所との連携（26.8%）」が最も多く、「相談（24.4%）」、「医療との連携（主治医等）（14.6%）」が続いている（図表6-5-7）。

「その他」として、「居宅介護支援事業所が地域の中で融合して、活動できる事。そのために一年一回のイベントや、ボランティア活動（ちぎり絵、絵手紙出張教室）をしていること」、「社福の事業所という特徴から、一人暮らし高齢世帯等への対応を支援センターと連携して充実させていくこと」、「多問題なケースを受け入れること」があげられている。

図表6-5-7 事業所として力を入れていること、入れたいこと（全体）



(6) 市への要望

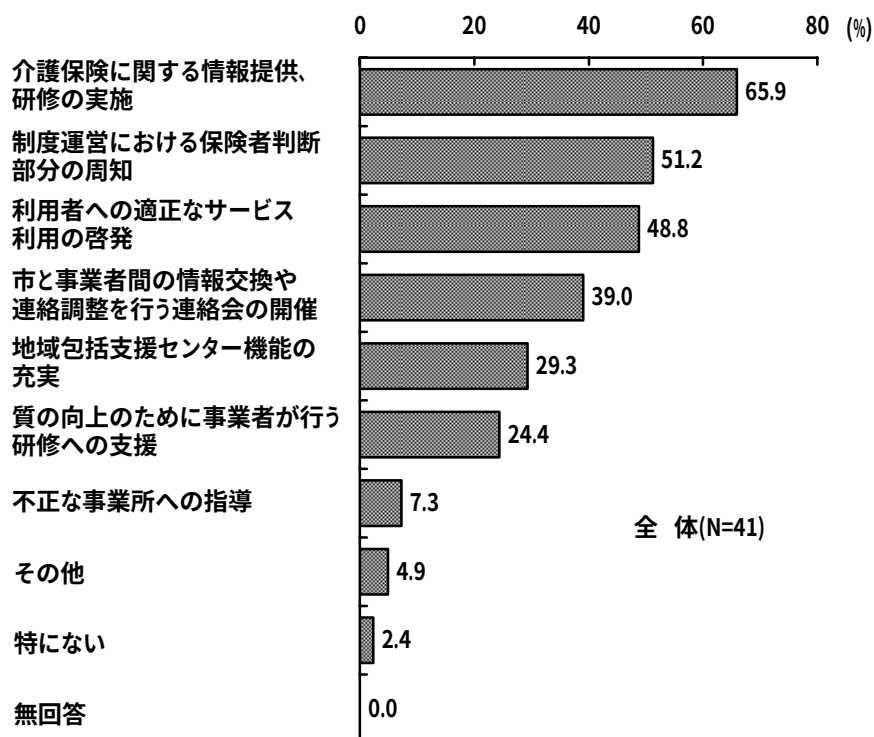
① 市に対して事業者として望むこと（問 21）

市に対して事業者として望むことは、「介護保険に関する情報提供、研修の実施（65.9%）」が最も多く、「制度運営における保険者判断部分の周知（51.2%）」、「利用者への適切なサービス利用の啓発（48.8%）」、「市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催（39.0%）」が続いている（図表6-6-1）。

「その他」として、「介護保険外の市の独自サービスの充実」、「だめと否定するなら、要求される理由を分析して、具体的な解決策をケアマネジャーと考えて欲しい。特に介護保険料を支払っている意識の高い人は、要求に対して否定されると反発も強い。ショートステイを利用したくとも無い時に何故？とよく聞かれる」、「監査対策等の目的でサービス提供責任者の研修。居宅スーパーバイザーの各事業所訪問」があげられている。

前回調査の上位3位は「介護保険に関する情報提供(87.5%)」、「質の向上のための研修(72.5%)」、「市と事業者間の情報提供等（65.0%）」であった。

図表6-6-1 市に対して事業者として望むこと（全体：複数回答（3つまで））



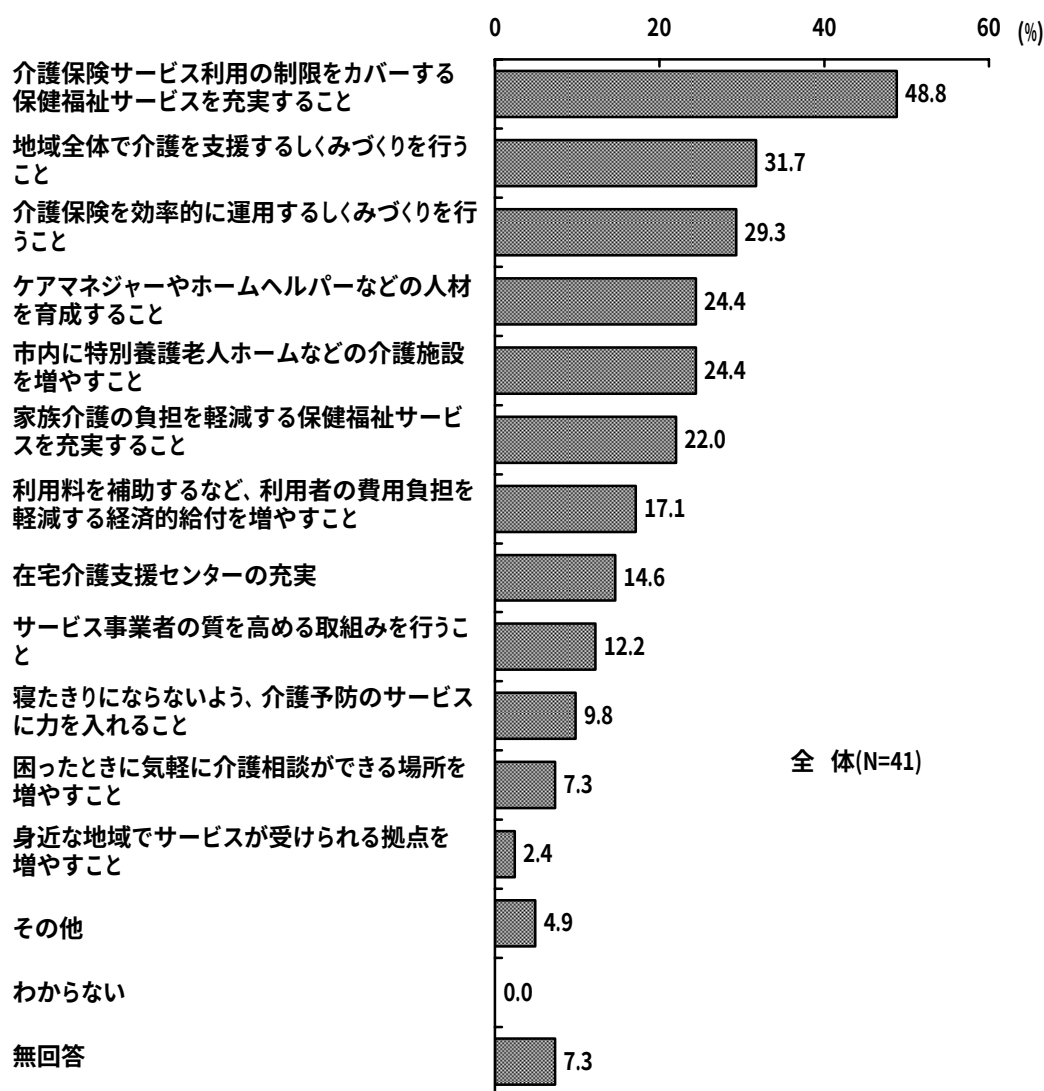
② 介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問 22）

介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること（48.8%）」が最も多く、「地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと（31.7%）」、「介護保険を効率的に運営するしくみづくりを行うこと（29.3%）」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること（24.4%）」、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（24.4%）」が続いている（図表 6－6－2）。

「その他」として、「独居、高齢者のみ世帯への制度の説明や、横だしサービス（保健福祉サービス）の利用支援」、「契約での利用に適さない方々を支える仕組み」があげられている。

前回調査の上位３位は、「地域全体で介護を支援するしくみづくり（52.5%）」、「身近な地域でサービスが受けられる拠点（35.0%）」、「気軽に介護相談ができる場所の増加（35.0%）」であり、第一位は変わらない。

図表 6－6－2 介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと
（全体：複数回答（３つまで））



③ 介護保険に関する要望（問 23）

介護保険に関する要望について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で 13 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

ア 事業者支援：2 件

- ・ 今後とも中身の濃い市と事業者間の連絡会を継続していただきたい。
- ・ いつも府中市には親切に対応していただけるのでありがたい。今後もよろしくお願いしたい。

イ 制度の再検討：3 件

- ・ 特養へ入所される方は重度化されている。措置入所の頃の入所者はバラエティーにとんでいた。（今は）施設に活気がない。介護保険制度前の状況には戻れないのだろうか。
- ・ 介護が必要にも関わらず利用できない方が居るのではないか。地域見守りネットワーク等の力によって、地域の実態を把握し救って欲しい。介護保険が一部の人のものではなく、本当に困って利用したい時、利用できるものであって欲しい。
- ・ 重度の方は手厚い介護が受けられる様な制度になって欲しい（介護者を含む）。軽度者の生活援助の見直しをして欲しい。

ウ ケアマネジャー業務：3 件

- ・ 平成 18 年 4 月の改正以降、ケアマネ業務が一層煩雑となり利用者よりパソコンと向きあうことが多いのではないかと危惧している。保険者には、ケアマネが離職しないですむような支援体制づくりを期待する。
- ・ 給付量抑制のための利用制限がこのまま進めば、適正なケアマネジメントが机上のものとなり、ケアマネジャーの存在する意味がなくなるのではないか。ケアマネジャーが、都の指導内容を最優先にする仕事の現状は、人を支える仕事としては尋常ではない。
- ・ ケアマネジャーの業務が多すぎ、現場に目が向かない。コンプライアンスは多忙だが、福祉であることも大事なことである。監査ばかりに気をとられ、利用者主体の介護保険の主旨が忘れられている。

エ 市の独自サービスについて：1 件

- ・ 訪問介護報酬算定基準については、平成 12 年 3 月 17 日通知「訪問介護におけるサービス行為ごとの区分等について（老健第十号）」に立ち戻り判断していくことが重要。この主旨に従えば、その人の自立のために本当に必要不可分のことであれば、介護サービスに繋げる事は可能と考えるし、数々の研修を通して、支援が必要な人を支援に繋げるために、ケアプランに落とし込んでお世話して行く事は、ケアマネの手腕であると教えられてきている。今、府中市では、サービスを振り分けて新たな制度作りに取りかかっているようだが、この事は、介護保険制度そのものを変質化し、ケアマネの専門性を無視し、サービス

の画一的総量規制をかけるものと判断できるが、いかがだろうか。

オ 人材確保：２件

- ・ 介護報酬の低さから人材不足、サービスの質の低下を起こしていると思われるので、この業界で働く人たちの生活を考え、報酬を設定していただけたらと思う。保険料を目的税(?)として徴収する方法や、他の財源からもってくるなど工夫していただきたい。
- ・ 介護の必要があり、要求して、その必要とするサービスが受けられない時、誰が責任を持つのか？ 特に多いのは医療保険と介護保険の移行時期である。医療が終わり、在宅へ介護保険（利用）で帰ってください（となる）。在宅は無理となり施設へ申し込むと、まず受入れてくれるところはない。利用者はお金を払い介護保険に加入してその制度サービスを利用しようとしても「いまいっぱいです」と断られ、利用者はサービスを受けられないのが実態である。もう一度原点に帰り、構築し直して欲しい。

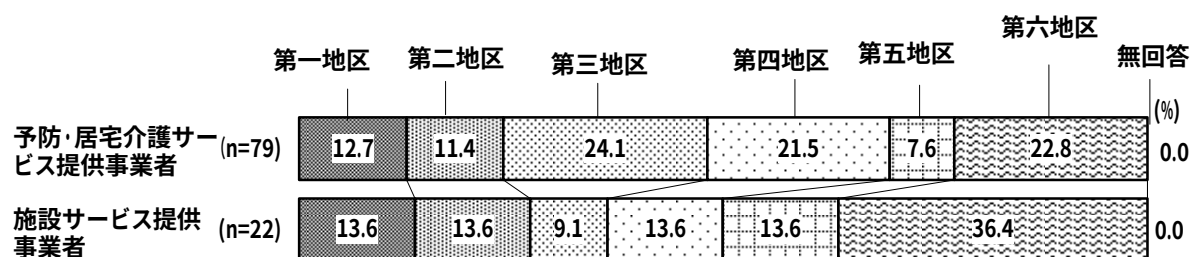
2 予防・居宅介護サービス提供事業者及び施設サービス提供事業者調査

(1) 事業所の活動状況

① 事業所の所在地（問1）

事業所の種類別にみると、予防・居宅介護サービス提供事業者では「第三地区（24.1%）」が最も多く、「第六地区（22.8%）」、「第四地区（21.5%）」が続いている。施設サービス提供事業者では、「第六地区（36.4%）」が最も多く、「第一地区・第二地区・第四地区・第五地区（13.6%）」、「第三地区（9.1%）」が続いている。なお、全体と予防・居宅介護サービス提供事業者の回答状況は同じである（図表7-1-1）。

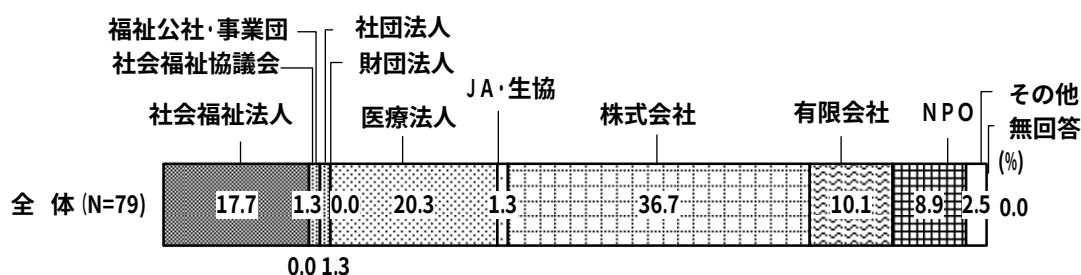
図表7-1-1 事業所の所在地（事業所の種類別）



② 組織の形態（問2-①）

組織の形態は、「株式会社（36.7%）」が最も多く、「医療法人（20.3%）」、「社会福祉法人（17.7%）」が続いている（図表7-1-2）。

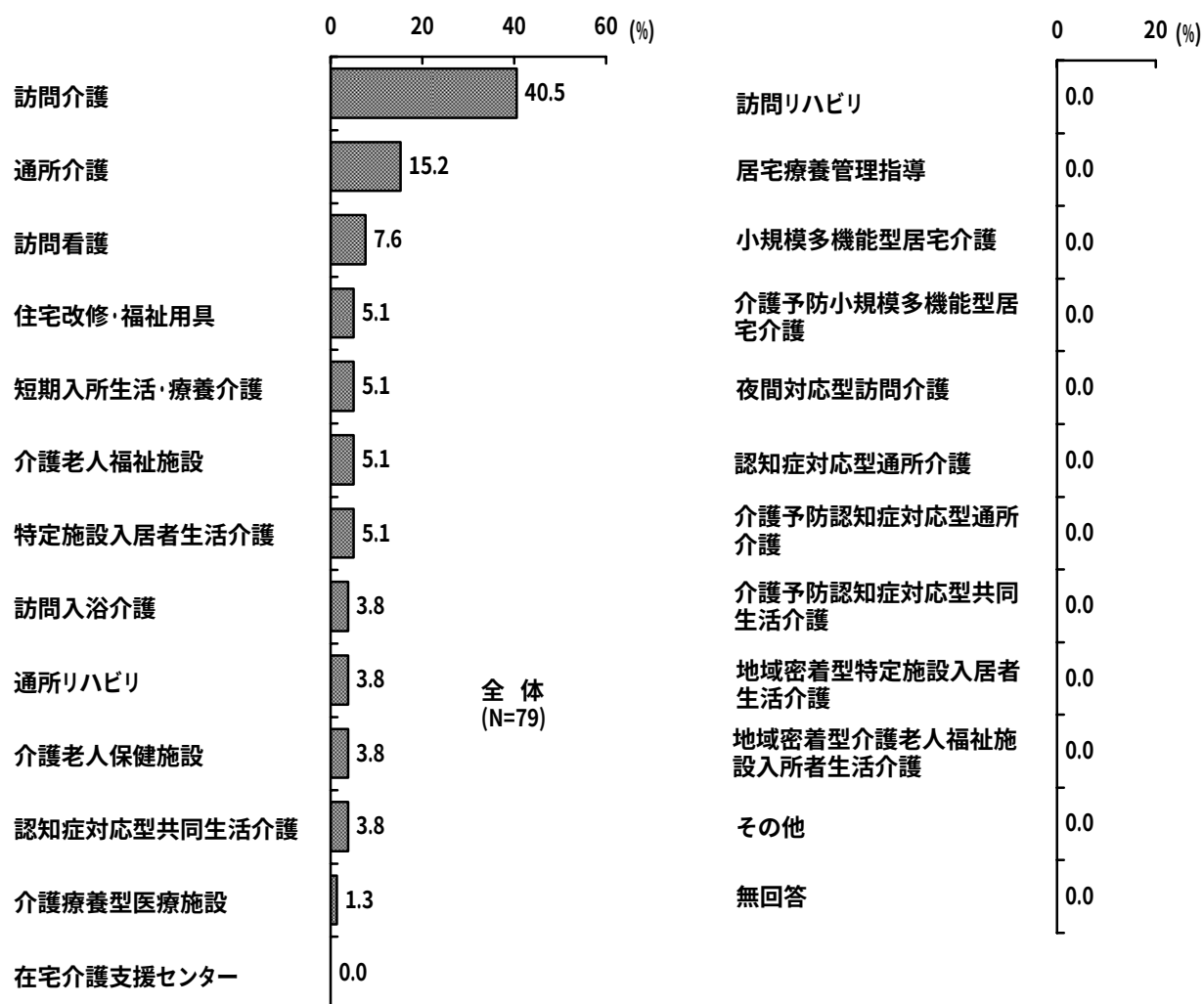
図表7-1-2 組織の形態（全体）



③ 事業所の種類（問２－②）

事業所の種類は、「訪問介護（40.5%）」が最も多く、「通所介護（15.2%）」が続いている（図表７－１－３）。

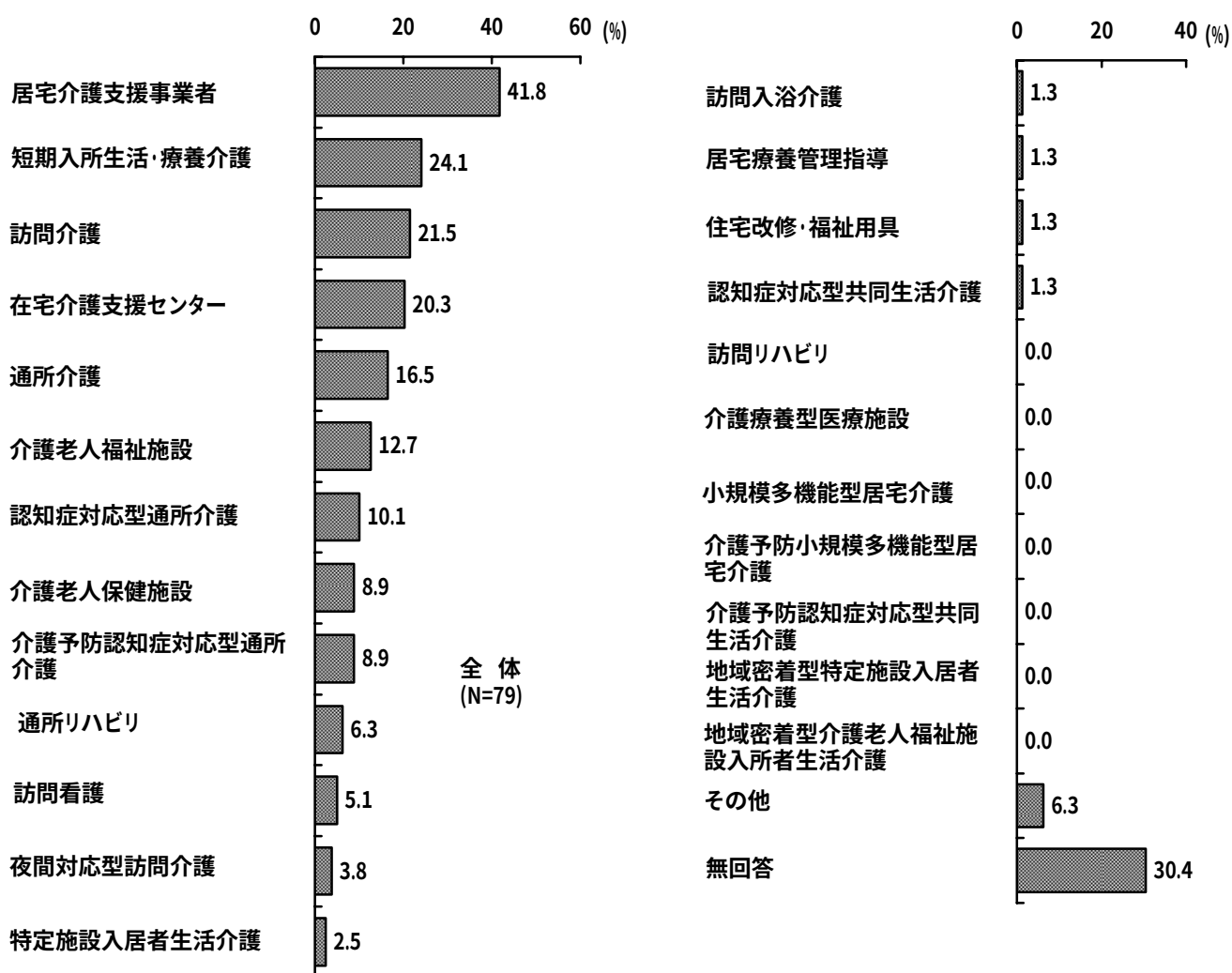
図表 7－1－3 事業所の種類（全体）



④ 併設する事業所の種類（問2-③）

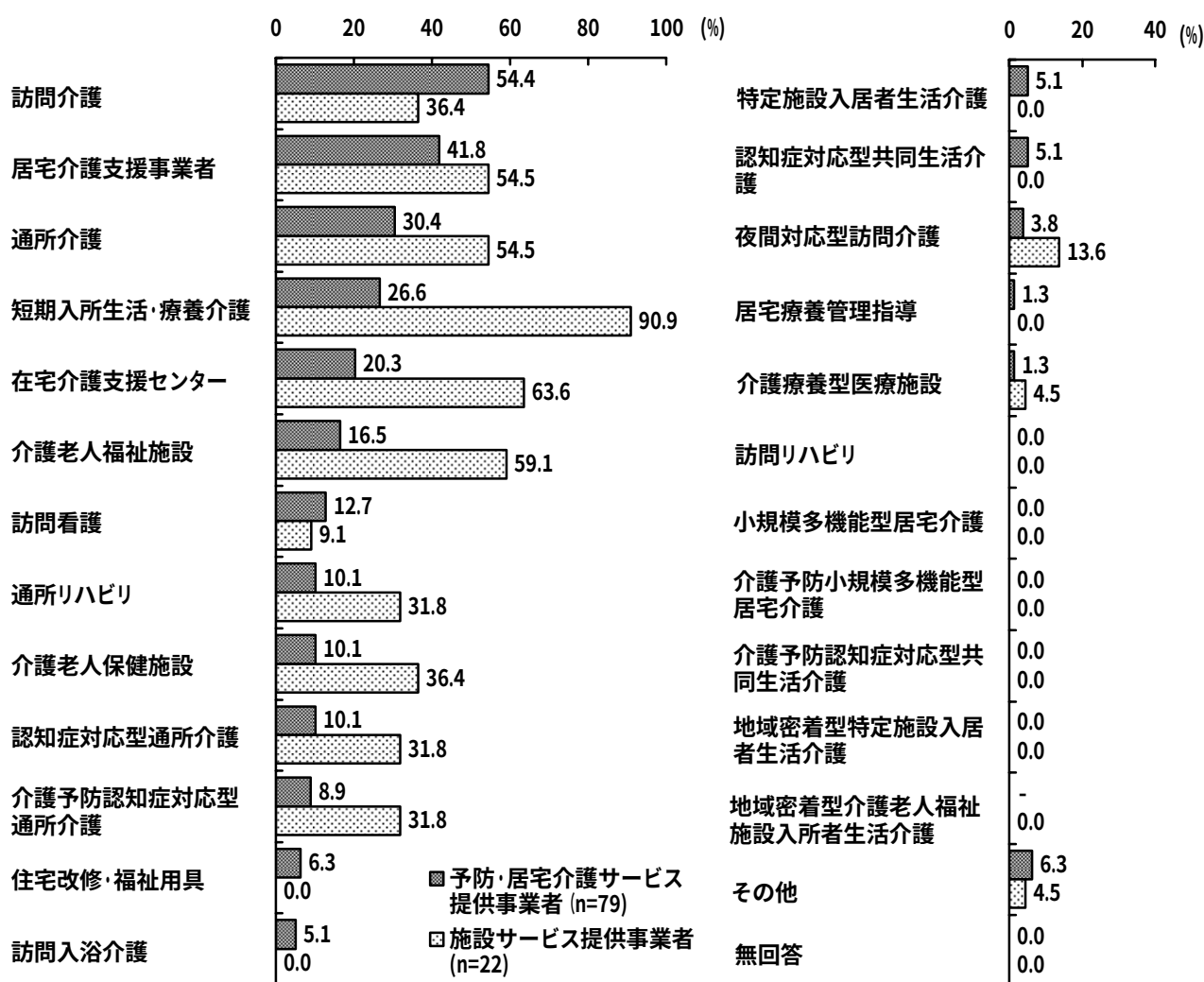
併設する事業所の種類は、「居宅介護支援事業者（41.8%）」が最も多く、「短期入所生活・療養介護（24.1%）」、「訪問介護（21.5%）」、「在宅介護支援センター（20.3%）」が続いている（図表7-1-4-①）。

図表7-1-4-① 併設する事業所の種類（複数回答）



『事業所の種類』と『併設する事業所の種類』の計を事業所の種類別にみると、上位３位は、予防・居宅介護サービス提供事業者では、「訪問介護(54.4)％」、「居宅介護支援事業者(41.8)％」、「通所介護(30.4)％」、施設サービス提供事業者では、「短期入所生活・療養介護(90.9)％」、「在宅介護支援センター(63.6)％」、「介護老人福祉施設(59.1)％」である(図表７－１－４－②)。

図表７－１－４－② 「事業所の種類」と「併設する事業所の種類」の計
(事業所の種類別)



⑤ 職員・スタッフの人数（問2-④）

職員・スタッフの人数は、介護支援専門員が常勤では「平均 1.24 人」、非常勤は、「平均 0.65 人」である。その内訳をみると、専従では、常勤が平均 0.55 人、非常勤が平均 0.24 人で、兼務は常勤が平均 0.62 人、非常勤が平均 0.38 人である。事務管理者は、常勤が平均 0.78 人、非常勤は平均 0.06 人である（図表 7-1-5）。

図表 7-1-5 職員・スタッフの人数（全体）

	常 勤	非常勤
介護支援専門員 (n=65)	平均 1.24人	平均 0.65人
うち 専 従	平均 0.55人	平均 0.24人
兼 務	平均 0.62人	平均 0.38人
事務管理者 (n=65)	平均 0.79人	平均 0.06人

⑥ 職員の資格の所持者（問2-⑤）

職員の資格の所持者は、常勤全体では「介護福祉士（平均 4.06 人）」が最も多く、「ホームヘルパー 2 級（平均 3.88 人）」、「保健師・看護師（平均 1.01 人）」が続いている。非常勤全体では「ホームヘルパー 2 級（平均 7.93 人）」が最も多く、「介護福祉士（平均 1.69 人）」、「保健師・看護師（平均 1.19 人）」が続いている（図表 7-1-6）。

図表 7-1-6 職員の資格の所持者（全体）

	常 勤	非常勤
介護福祉士 (n=78)	平均 4.06人	平均 1.69人
ホームヘルパー		
1 級	平均 0.63人	平均 0.27人
2 級	平均 3.88人	平均 7.93人
3 級	平均 0.00人	平均 0.12人
社会福祉士	平均 0.32人	平均 0.03人
医 師	平均 0.10人	平均 0.35人
保健師・看護師	平均 1.01人	平均 1.19人
管理栄養士・栄養士	平均 0.38人	平均 0.01人
薬 剤 師	平均 0.01人	平均 0.08人
理学療法士	平均 0.13人	平均 0.15人
作業療法士	平均 0.21人	平均 0.08人
言語聴覚士	平均 0.08人	平均 0.04人
歯科衛生士	平均 0.01人	平均 0.03人
あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師	平均 0.09人	平均 0.01人

(2) 今後の事業運営

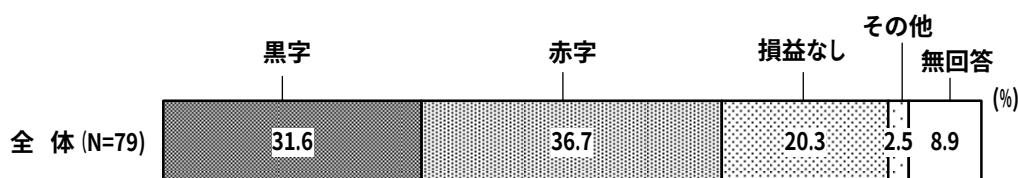
① 昨年度の採算（問3）

昨年度の採算は、「赤字（36.7%）」が最も多く、「黒字（31.6%）」、「損益なし（20.3%）」が続いている（図表7-2-1-①）。

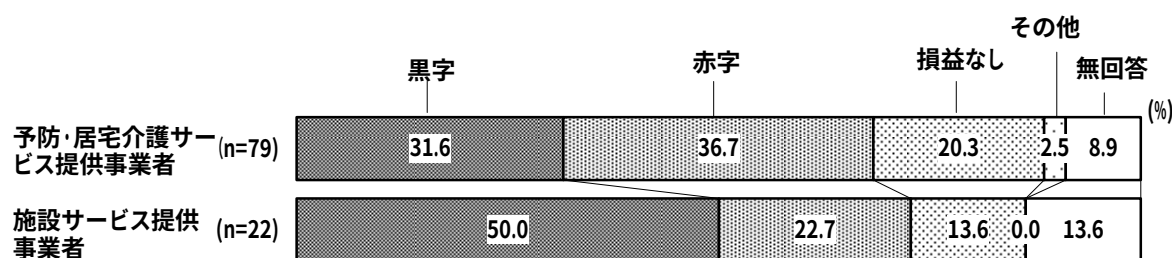
事業所の種類別にみると、予防・居宅介護サービス提供事業者は、「赤字」が「黒字」を5.1ポイント上回り、施設サービス提供事業者では「黒字」が「赤字」を27.3ポイント上回っている（図表7-2-1-②）。

「その他（2件）」として「今年度開設の為実績なし」があげられている。

図表7-2-1-① 昨年度の採算（全体）



図表7-2-1-② 昨年度の採算（事業所の種類別）



② 介護報酬変更後の影響（問4）

介護報酬変更後の運営への影響は、「影響はあった」が69.6%、「影響はない」が21.5%となっている（図表7-2-2-①）。

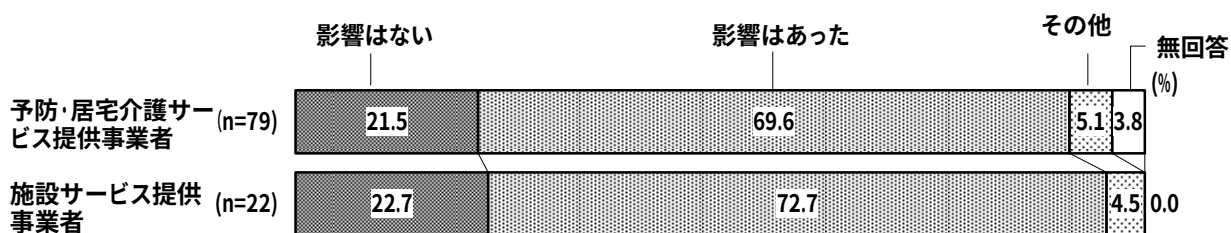
事業所の種類別にみても、同様な傾向を示している（図表7-2-2-②）。

「その他（3件）」として「昨年度実績なし」、「比較対象外」があげられている。

図表7-2-2-① 介護報酬変更後の運営への影響（全体）



図表 7-2-2-② 介護報酬変更後の運営への影響（事業所の種類別）



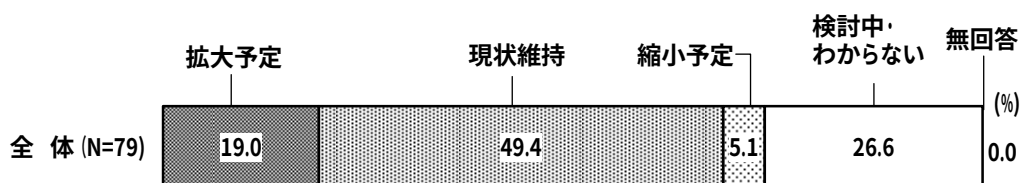
③ 今後3年間の事業規模（問5）

今後3年間の事業規模は、「現状維持（49.4%）」が最も多く、「検討中・わからない（26.6%）」、「拡大予定（19.0%）」が続いている（図表7-2-3-①）。

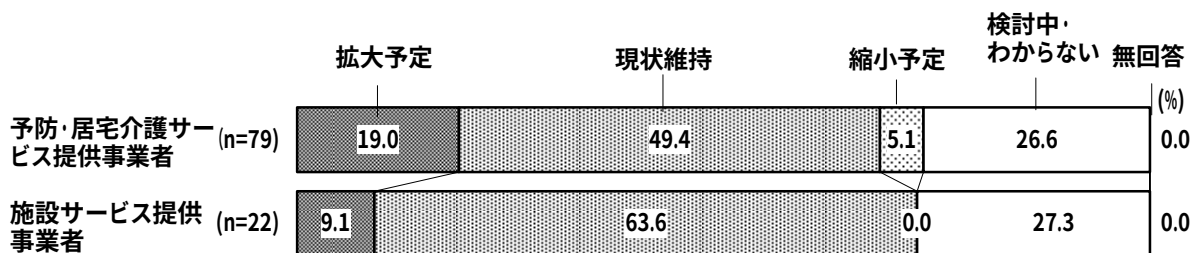
事業所の種類別にみると、予防・居宅介護サービス提供事業者は、「拡大予定」が19.0%あるものの、「縮小予定」も5.1%となっている。施設サービス提供事業者では「現状維持」が63.6%あり、「拡大予定」は9.1%となっている（図表7-2-3-②）。

「縮小予定（3件）」の理由として、「店舗削減又は占有面積縮小」、「事務方をアルバイトで雇用」、「看護師不足により事業所の継続が困難」があげられている。

図表 7-2-3-① 今後の3年間の事業規模（全体）



図表 7-2-3-② 今後の3年間の事業規模（事業所の種類別）



④ 職員の在職年数（問5（1）①）

職員の在職年数は、「看護師（平均 2.28 年）」、「ヘルパー（平均 2.60 年）」、「介護福祉士（平均 3.42 年）」、「社会福祉士（平均 4.04 年）」である。社会福祉士は定着率が高く、看護師は低いと言える（図表 7-2-4-①）。

事業所の種類別にみると、＜看護師＞は、予防・居宅介護サービス提供事業者は、「2～3 年未満（19.0%）」が最も多く、「1～2 年未満（11.4%）」が続いている。施設サービス提供事業者では、「2～3 年未満（40.9%）」が最も多く、「3～4 年未満（18.2%）」が続いている。

＜ヘルパー＞は、予防・居宅介護サービス提供事業者は、「2～3 年未満（20.3%）」が最も多く、「3～4 年未満（19.0%）」が続いている。施設サービス提供事業者では、「3～4 年未満（31.8%）」が最も多く、「1～2 年未満（27.3%）」が続いている。

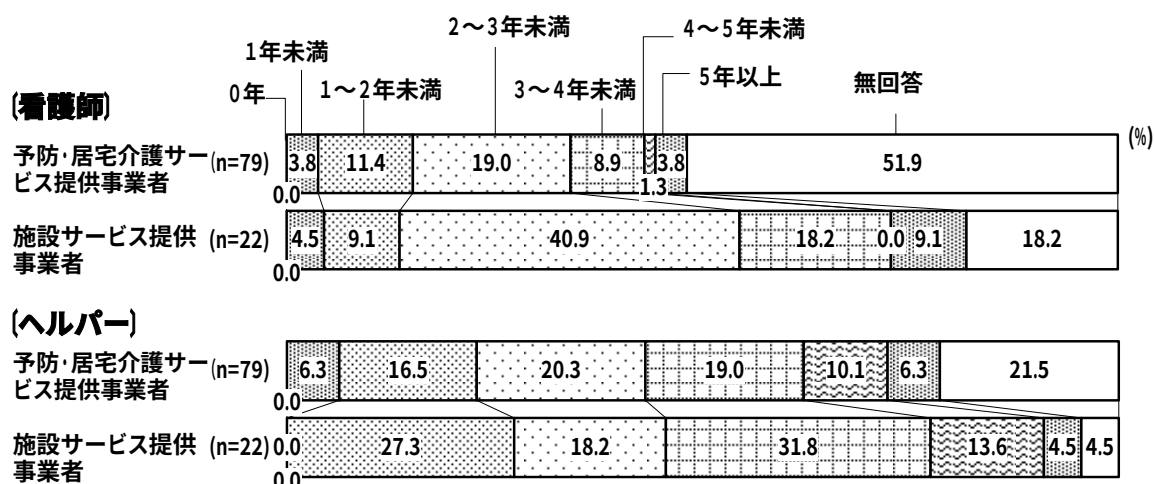
＜介護福祉士＞は、予防・居宅介護サービス提供事業者は、「1～2 年未満（19.0%）」が最も多く、「5 年以上（17.7%）」が続いている。施設サービス提供事業者では、「4～5 年未満・5 年以上（27.3%）」が最も多く、「1～2 年未満（22.7%）」が続いている。

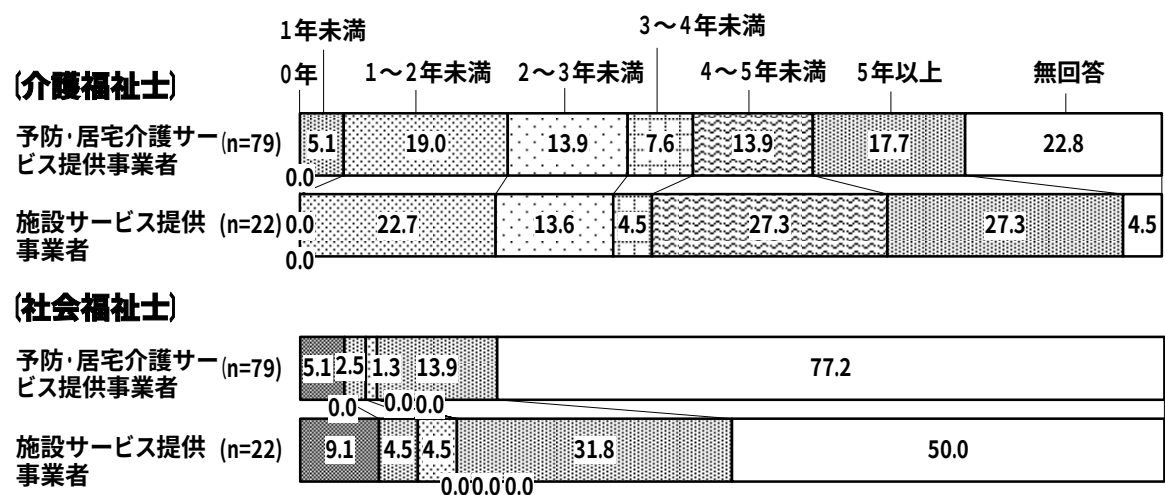
＜社会福祉士＞は、予防・居宅介護サービス提供事業者は、「5 年以上（13.9%）」が最も多く、施設サービス提供事業者でも、「5 年以上（31.8%）」が最も多い（図表 7-2-4-②）。

図表 7-2-4-① 職員の在籍年数（全体）

看護師	(n=38)	平均	2.28
ヘルパー	(n=62)	平均	2.60
介護福祉士	(n=61)	平均	3.42
社会福祉士	(n=18)	平均	4.04

図表 7-2-4-② 職員の在籍年数（事業所の種類別）





⑤ 職員の離職状況（問5（1）②）

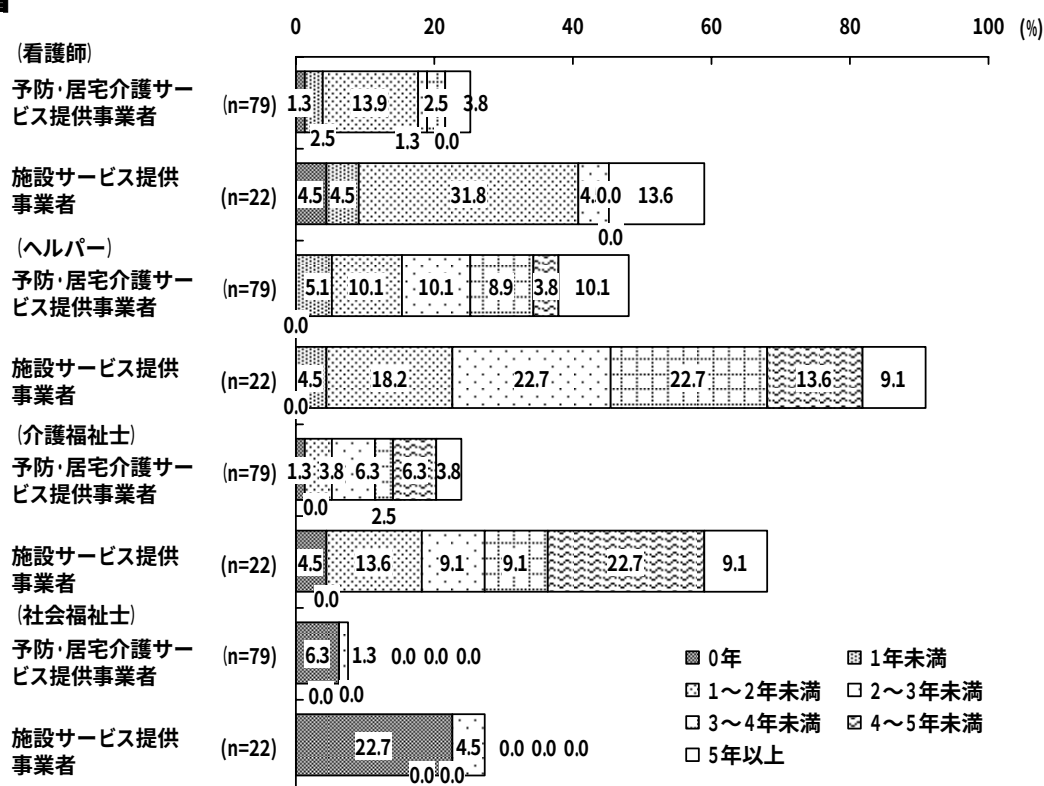
昨年一年間の職員の離職者数及び離職率は、全離職者数は8.69人（平均24.4%）である。離職年数を見ると、退職者では、看護師平均2.28年、ヘルパー平均3.15年、介護福祉士平均3.32年、社会福祉士平均0.33年である。転職者では、看護師平均2.73年、ヘルパー平均2.76年、介護福祉士平均3.27年、社会福祉士平均0.37年である（図表7-2-5-①）。

図表7-2-5-① 職員の離職状況（全体）

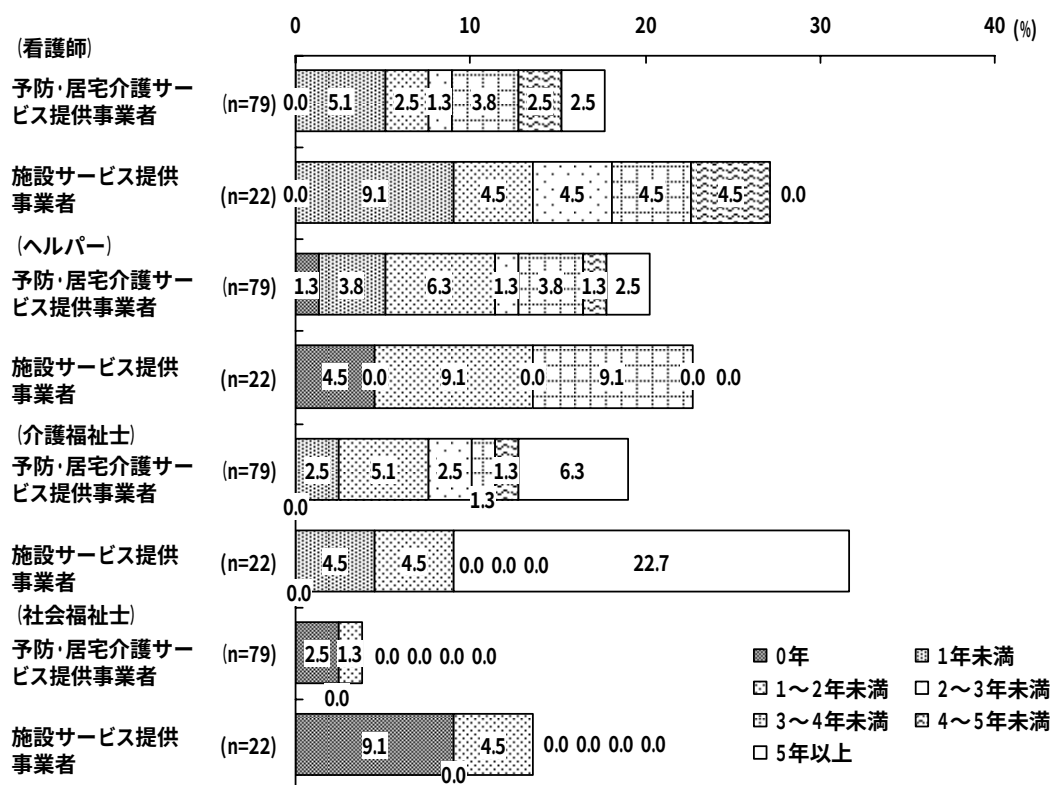
昨年一年間の離職者数・離職率の平均：8.69人（24.4%）			
退職者	看護師	(n=20)	平均 2.28人
	ヘルパー	(n=38)	平均 3.15人
	介護福祉士	(n=19)	平均 3.32人
	社会福祉士	(n= 6)	平均 0.33人
転職者	看護師	(n=14)	平均 2.73人
	ヘルパー	(n=16)	平均 2.76人
	介護福祉士	(n=15)	平均 3.27人
	社会福祉士	(n= 3)	平均 0.37人

図表7-2-5-② 職員の離職状況（事業所の種類別）

■退職者



■転職者



⑥ 離職の理由（問5（1）③）

離職の理由は、「人間関係(5.35人)」が最も多く、「給与・賃金(4.81人)」、「働きがい(3.14人)」、「転出・結婚等(2.35人)」が続いている。

「その他(39件)」の理由として、「家庭の事情(9件)」が最も多く、「身体的精神的理由による体調不良、病気や病気療養(9件)」、「子どもの病気や家族の介護のため(5件)」、「妊娠や出産、育児や子育て(5件)」、「他の職場や他拠点に異動、転居等(4件)」、「在宅支援不適合、通勤の長短、NP0での働き方が合わないなど、職場が合わない(3件)」、「年を得て家でゆっくりしたい、定年に達したから等年齢による(3件)」、「介護支援専門員へ転職や進学等(3件)」等があげられている(図表7-2-6)。

図表7-2-6 離職の理由（全体）

働 き が い	(n=14)	3.14人
給 与 ・ 賃 金	(n=26)	4.81人
人 間 関 係	(n=17)	5.35人
転 出 ・ 結 婚 等	(n=20)	2.35人
そ の 他	(n= 9)	1.89人

⑦ 補充対策（問5（2））

職員の補充対策を自由記述形式でたずねたところ、全体で49件の回答があった。主な補充対策と複数の組み合わせ、その他の補充対策は、次のとおりである。

ア．主な補充対策

- ・ ハローワークを利用（19件）
- ・ 新聞折込・求人誌による求人広告等紙媒体活用（18件）
- ・ 職員や知人からの紹介、口コミ（10件）
- ・ ホームページ・インターネット等電子媒体活用（7件）

イ．複数の補充対策の組み合わせ

- ・ 求人広告、ハローワーク、新聞折込他、新卒者、専門学校等への求人（3件）
- ・ ハローワーク、技術専門学校・新卒者（3件）
- ・ 新聞折込、情報誌や施設機関紙、人材センターやハローワーク、内部間・施設間異動、派遣等（2件）
- ・ 前述の人材センターの代わりに「ナースプラザ」や「ナースバンク」の利用もある。

ウ．その他の補充対策

- ・ 府中市訪問介護員養成研修２級課程終了者に募集をかけている（２件）
- ・ 院内募集広告・院内教育に力をいれている。実習生に声をかける（２件）
- ・ 自社にて講習したヘルパー２級取得者にアプローチ

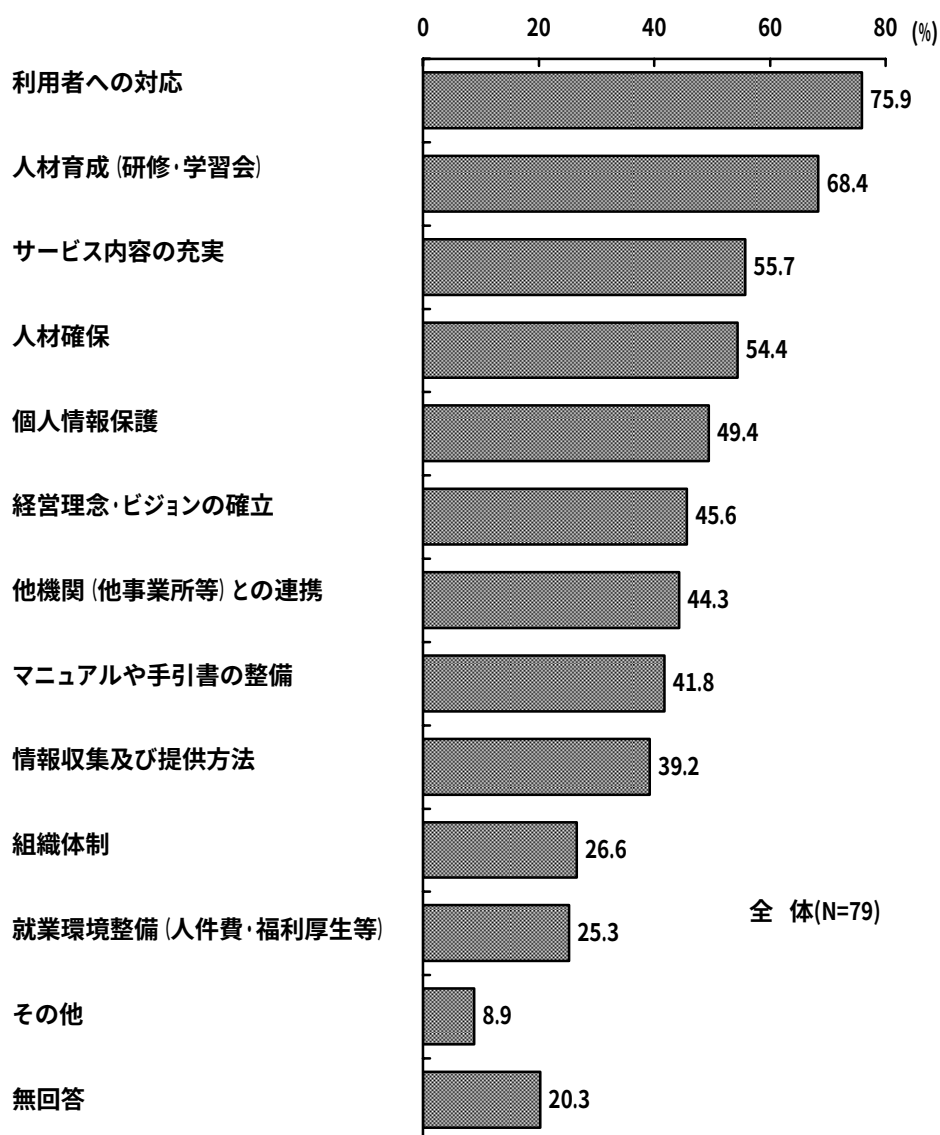
エ．補充対策に向けた事業所の人材確保の姿勢

- ・ 現場リーダーの育成、働きやすい職場環境の整備、教育制度の充実をした上で、求人広告等で募集活動し、離職率の低下に努めたい
- ・ 定期的に公募しているが、申込者なし（採用条件が厳しいことも要因）

⑧ サービスを提供する上で利用者から信頼を得るために必要なこと（予防・居宅介護サービス提供事業者）（問6）

予防・居宅介護サービス提供事業者に、法を順守し、サービスを提供する上で利用者から信頼を得るために必要なことをたずねた。「利用者への対応（75.9%）」が最も多く、「人材育成（研修・学習会）（68.4%）」、「サービス内容の充実（55.7%）」、「人材確保（54.4%）」、「個人情報保護（49.4%）」が続いている（図表7-2-8）。

図表7-2-8 サービスを提供する上で利用者から信頼を得るために必要なこと
（全体：複数回答（3つまで））
＜予防・居宅介護サービス提供事業者＞



「その他(13 件)」として、「市から利用者へ見やすい分かりやすいマニュアル等の配布」、「法令順守の徹底。医療控除、高額介護費、住所地特例等の質問に的確かつ迅速に回答できる組織であること」、「基本的な考えは、人づくり（利用者様、職員も含めて）、『心からの介護』を大切にしている。経営の為に『介護はサービス』という気持ちでやっている」、「『わくわく』『ゆったり』『楽しい』一日が送れるよう、人材研修、サービス内容、利用者への対応の実践」、「笑顔でのサービス提供、コミュニケーション術が必要」、「窓口の第一声が、以後の対応を全て左右する。入居者との会話は、いつでも第一義的に対応する」、「ビジョンなら末端職員一人ひとりへの浸透、マニュアルなら改善等々、全てにおいて底上げ・充実が必要」、「サービスの提供は人材育成にあり、人件費、福利厚生確保と発展なくしてはありえない。2 年に 1 回でも報酬の改善がなくては展望がみい出せない」、「介護保険制度以外のサービスも利用した総合的援助」等々、利用者対応の姿勢や、経営理念の浸透、職場環境の充実など職員に関する意見、市の広報・周知・啓発方法への要望が見られる。

⑨ 居宅サービスを受けている利用者からサービスへの意見や要望等（問 7）

居宅サービスを受けている利用者から出されたサービスに関する要望や意見等について自由記述形式でたずねたところ、全体で 23 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

ア 事業所が提供するサービスの拡充：7 件

- ・ 祝日の訪問
- ・ グループホーム居住者から、「外出の機会が少ない。毎日散歩や買い物には出ているが、好きな時間とはなかなかいけない（職員が必ず付き添うので、時間が限られる）。また、旅行等出かける機会がない。」という話があった。府中市は、旅行代の一部負担があるらしいが、詳しく知らないので、実現できていない。
- ・ 短期入所療養開始日の時間（施設受入時間）の融通性。（早朝、夜など）
- ・ 通所リハビリへの認知症重度の方の受入れ。
- ・ 介護度に応じたレクリエーション（お散歩、体操等）。お散歩、外出の回数を増やして欲しい（外出に見守り、介護が必要な方）
- ・ 利用ヘルパーの長期固定化（功罪あり）。
- ・ 訪問開始時間を守って欲しい。固定したヘルパーに来て欲しい（ローテーションで行っているためむずかしい）。日曜日に援助が欲しい（現在日曜日は 1 名勤務の為）

イ 制度内容の周知：1 件

- ・ 事業所の説明が不足している。制度がわかりづらい。保険料を払っているのにあれもこれもだめと言われる事ばかり等。

ウ 制度に対する不満：10 件

- ・ 今のサービスで満足しているが、介護保険のサービス利用が厳しくなっている話を聞く度

に、この先、利用できるのか不満になる。（もっと高齢、疾病の悪化した場合）改正するなら、もっと利用者の立場から考えて欲しい。

- ・ 生活援助の時間が、「1.5 時間では足りない」とよく耳にする。
- ・ 24 時間何らかの見守り・吸引等で利用者から家族が離れることができないケースの場合、家族の病院の受診、買い物など日常必要な時間を訪問看護や介護のサービスを受けている時にこなしているが、それぞれのサービスとサービスの間をあけなければいけないという決まりの中で、こなしていくのは非常に困難である。
- ・ 介護保険料の見直し、もしくは市による補助。予防・居宅介護サービスの場合受け皿になる所がいちいち変わっては困る。
- ・ 介護保険サービスは規制が多く使いづらいといった意見を多く聞く。
- ・ 特に要支援になった利用者からは従前との違いによる不便等、クレームが多い。
- ・ 介護保険制度が改正されたことでできないことが多くなった。
- ・ 通院介助実施時の制約が多い。同居家族がいる場合の生活援助の制約が多い。
- ・ 利用サービスの制限に対する不満（制度理解の拒否）。
- ・ 人材不足で、利用者の要望に充分こたえられません。24 時間、365 日の対応が求められるが、介護保険前は、土、日、加算もあり、正月加算もあった。介護保険にもそれを求める。

エ 認定に対する不満：1 件

- ・ 何故、自分は要支援なのか（要介護でない理由）。自分の希望するサービスとは合わない。リハビリ・訓練は苦痛である。

オ 利用者の過剰要望：1 件

- ・ プランに入っていないことをお願いされる事が多い。

カ その他：2 件

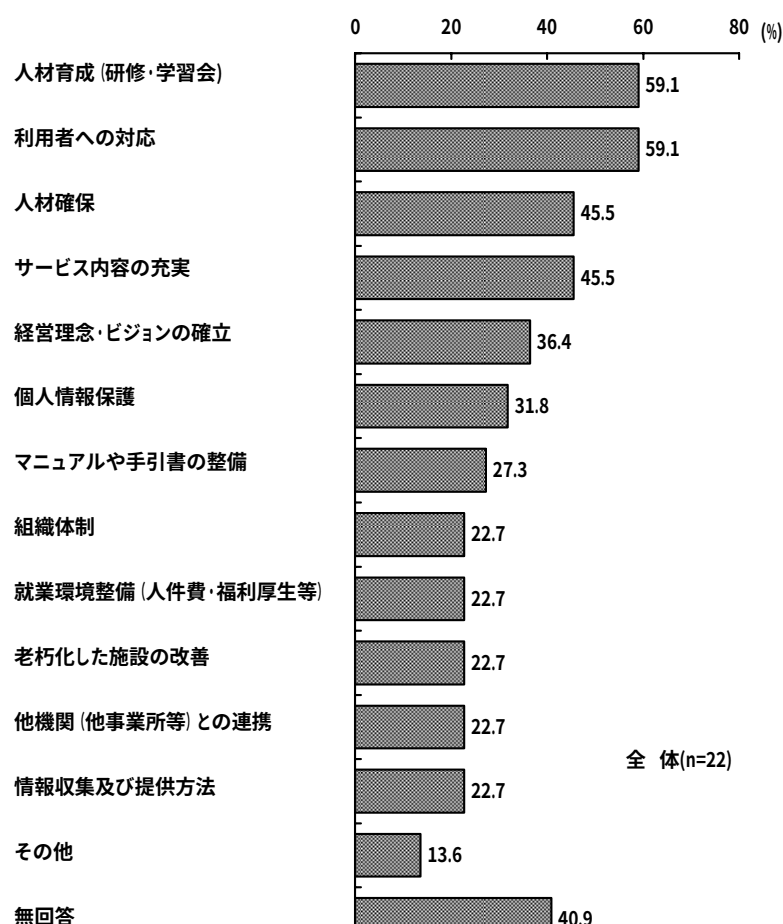
- ・ 「この年になって友だちができ、楽しい生活が送れるようになった」、「一人でポツンというより、ずっと楽しい」等々、言われている。
- ・ 年に一度のアンケートを実施しているが、制度上のご意見は聞かれるが、サービスに関しては特に問題となる指摘はない。

⑩ サービスを提供する上で利用者から信頼を得るために必要なこと（施設サービス提供事業者）（問8）

施設サービス提供事業者に、法を順守し、サービスを提供する上で利用者から信頼を得るために必要なことをたずねた。「人材育成（研修・学習会）（59.1%）」、「利用者への対応（59.1%）」が最も多く、「人材確保（45.5%）」、「サービス内容の充実（45.5%）」、「経営理念・ビジョンの確立（36.4%）」、「個人情報保護（31.8%）」が続いている（図表7-2-10）。

「その他（5件）」として、「基本的な考えとしては、人づくり（利用者様、職員も含めて）、『心からの介護』を大切にしている。経営の為に『介護はサービス』という気持ちでやっている」、「『制度あってサービス（人材）なし』が実現的となってきている。仕事内容、量、質に見合う給与体系が作れる保険制度への改善が強く望まれる」、「職員の給料をアップしたいが、現在の経営状態ではほとんど不可能」、「利用者本位のサービスの提供。できる事とできない事があるが、利用者・家族の意向に近い利用者中心のサービス。内容の充実。サービス提供側の対応や方向性の統一。個々の利用者の目的を職員が理解し、利用者と共に確立していく事」、「ビジョンなら末端職員一人ひとりへの浸透であったり、マニュアルなら改善等々、全てにおいて底上げ・充実が必要」などがあげられている。

図表7-2-10 サービスを提供する上で利用者から信頼を得るために必要なこと
（全体：複数回答（3つまで））
＜施設サービス提供事業者＞



全 体(n=22)

⑪ 施設サービスを受けている利用者からサービスへの意見や要望等（問9）

施設サービスを受けている利用者から出されたサービスに関する要望や意見等について自由記述形式でたずねたところ、全体で6件の回答があった。

- ・ 「ラーメンを食べにいきたい」、「お寿司が食べたい」と言われ、対応をさせていただいた。
- ・ 開設1年余りで家族会を2回開催したが、具体的には何も出なかった。バスハイクやバス旅行など家族参加型の行事が多いので、都度、個人的な事には対応している。
- ・ リハビリをもっと提供して欲しい。利用期間の延長（長くいたい）。
- ・ 職員が忙しそう。リハビリテーションの充実、ターミナルケア。
- ・ リハビリの実施（歩行訓練など）。
- ・ 「中長期で利用できるサービス」、「施設の老朽化に対する改善要望」、「ウォシュレットトイレ」等に対する希望あり。

⑫ 介護予防事業への参入意向（介護予防事業をしていない事業所）（問10）

介護予防事業をしていない事業所に、介護予防事業の15事業について、それぞれ参入意向、参入意向なしの理由、参入するための条件をたずねた。

4事業所から回答があり、参入意向あった事業は『介護予防通所介護』のみで1事業所である。また、「検討中」は、『介護予防通所介護』、『介護予防通所リハビリテーション』、『介護予防訪問看護』、『介護予防居宅療養管理指導』でそれぞれ1事業所である。

参入意向なしの理由を全体的にみると、「採算があわない」が最も多く、「人材不足」が続いている。

⑬ 地域密着型事業への参入意向（問11-1）

地域密着型事業の9事業について、それぞれ参入意向、参入意向なしの理由、参入するための条件をたずねた。

参入意向があった事業は『夜間対応型訪問介護』が1事業所、『認知症対応型共同生活介護』が2事業所である。

参入するための条件を全体的にみると、「財政面の公的な支援」が最も多く、「場の提供」が続いている。

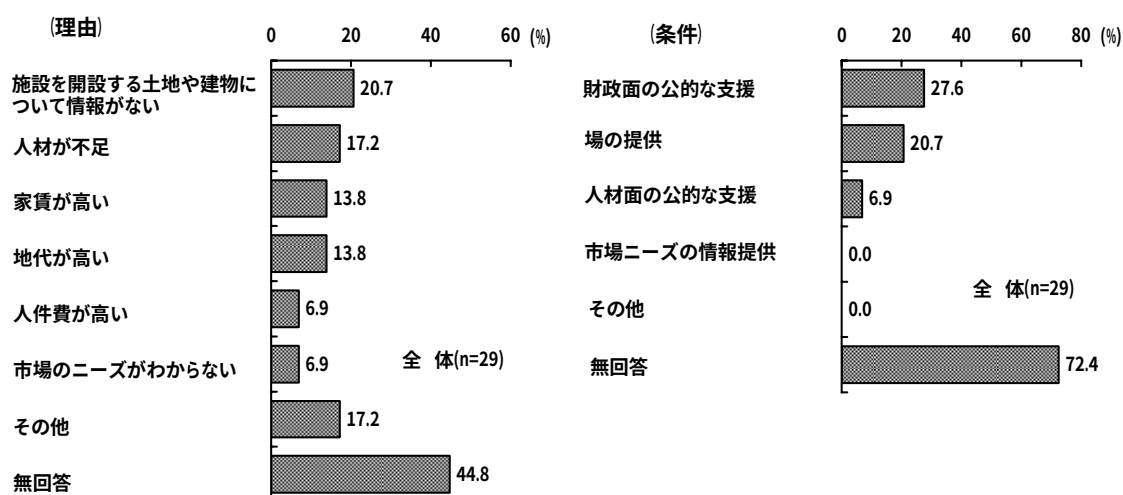
参入意向なしの理由を全体的にみると、「人材の不足」が最も多くなっている。

地域密着型事業への参入意向を事業ごとにみると、次のとおりである。

ア 小規模多機能型居宅介護

参入意向は、「有」が0.0%、「無」が30.4%、「検討中」が6.3%である。参入意向なしの理由は、「施設を開設する土地や建物について情報が無い（20.7%）」が最も多く、「人材が不足（17.2%）」、「家賃が高い（13.8%）」、「地代が高い（13.8%）」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援（27.6%）」が最も多く、「場の提供（20.7%）」が続いている（図表7-2-13-①）。

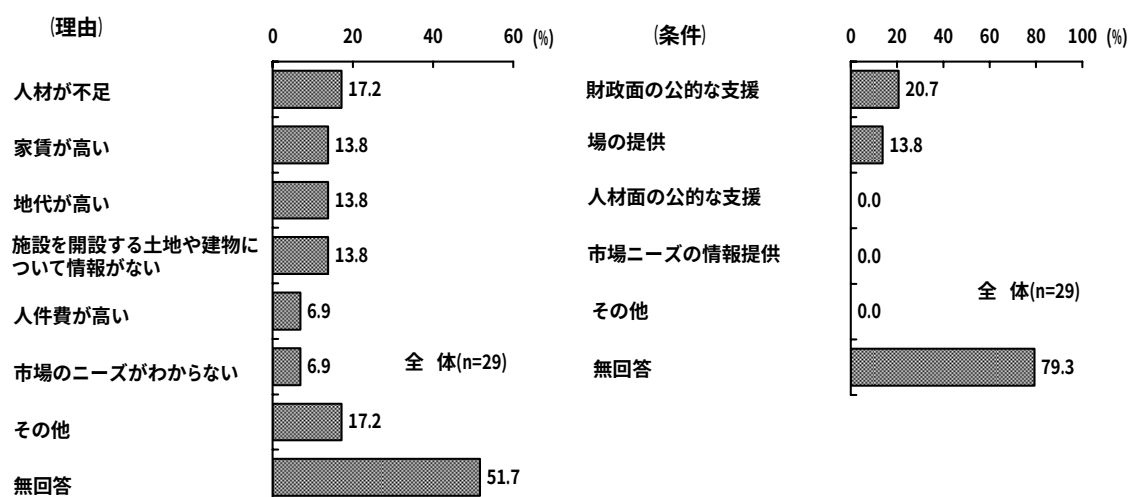
図表7-2-13-① 小規模多機能型居宅介護への参入意向（全体：複数回答）



イ 介護予防小規模多機能型居宅介護

参入意向は、「有」が0.0%、「無」が30.4%、「検討中」が6.3%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足（17.2%）」が最も多く、「家賃が高い（13.8%）」、「地代が高い（13.8%）」、「施設を開設する土地や建物について情報が無い（13.8%）」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援（20.7%）」が最も多く、「場の提供（13.8%）」が続いている（図表7-2-13-②）。

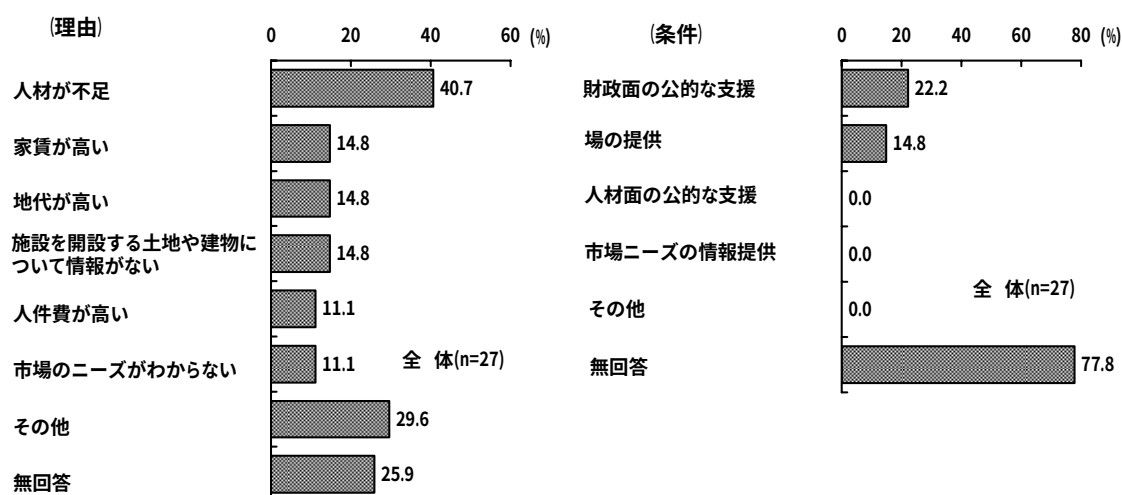
図表7-2-13-② 介護予防小規模多機能型居宅介護への参入意向（全体：複数回答）



ウ 夜間対応型訪問介護

参入意向は、「有」が1.3%、「無」が34.2%、「検討中」が0.0%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足(40.7%)」が最も多く、「家賃が高い(14.8%)」、「地代が高い(14.8%)」、「施設を開設する土地や建物について情報がない(14.8%)」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援(22.2%)」が最も多く、「場の提供(14.8%)」が続いている(図表7-2-13-③)。

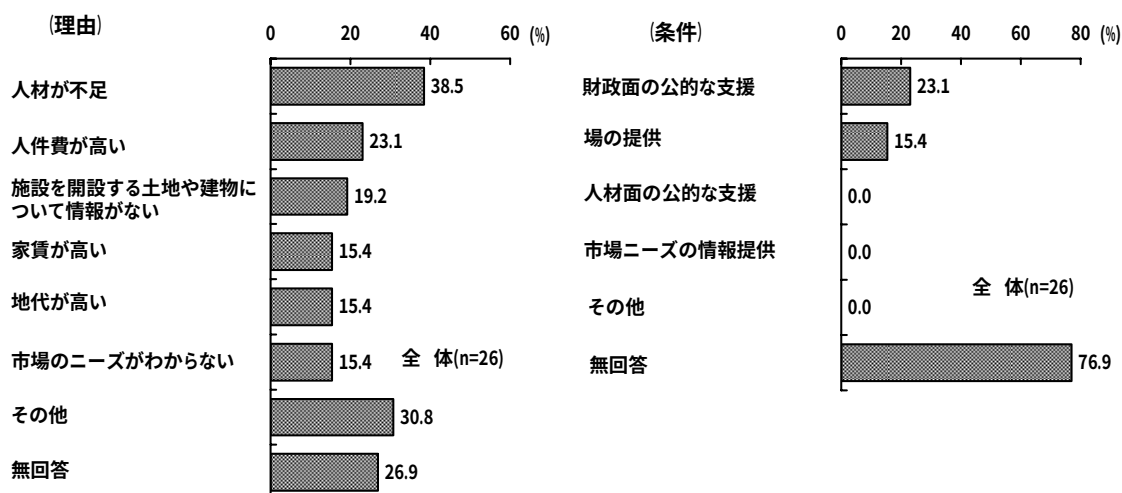
図表7-2-13-③ 夜間対応型訪問介護への参入意向(全体：複数回答)



エ 認知症対応型通所介護

参入意向は、「有」が0.0%、「無」が29.1%、「検討中」が3.8%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足(38.5%)」が最も多く、「人件費が高い(23.1%)」、「施設を開設する土地や建物について情報がない(19.2%)」、「家賃が高い(15.4%)」、「地代が高い(15.4%)」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援(23.1%)」が最も多く、「場の提供(15.4%)」が続いている(図表7-2-13-④)。

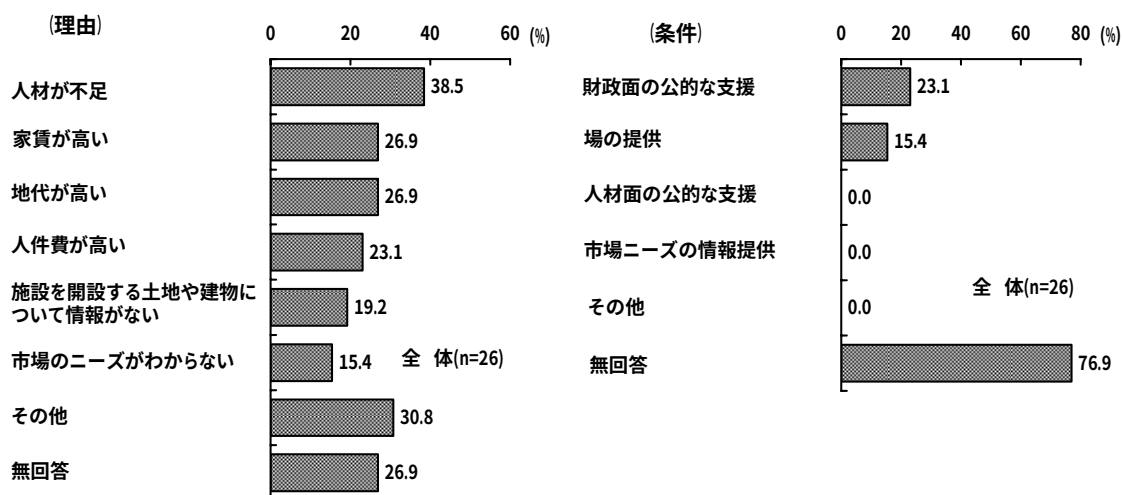
図表7-2-13-④ 認知症対応型通所介護への参入意向(全体：複数回答)



オ 介護予防認知症対応型通所介護

参入意向は、「有」が0.0%、「無」が29.1%、「検討中」が3.8%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足(38.5%)」が最も多く、「家賃が高い(26.9%)」、「地代が高い(26.9%)」、「人件費が高い(23.1%)」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援(23.1%)」が最も多く、「場の提供(15.4%)」が続いている(図表7-2-13-⑤)。

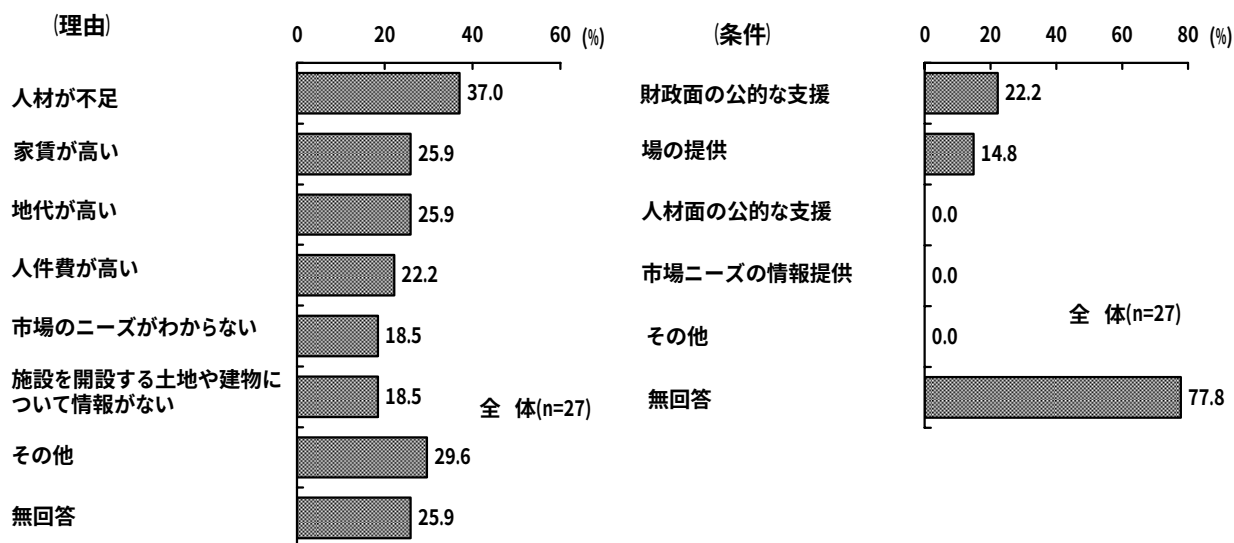
図表7-2-13-⑤ 介護予防認知症対応型通所介護(全体：複数回答)



カ 認知症対応型共同生活介護

参入意向は、「有」が2.5%、「無」が34.2%、「検討中」が0.0%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足(37.0%)」が最も多く、「家賃が高い(25.9%)」、「地代が高い(25.9%)」、「人件費が高い(22.2%)」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援(22.2%)」が最も多く、「場の提供(14.8%)」が続いている(図表7-2-13-⑥)。

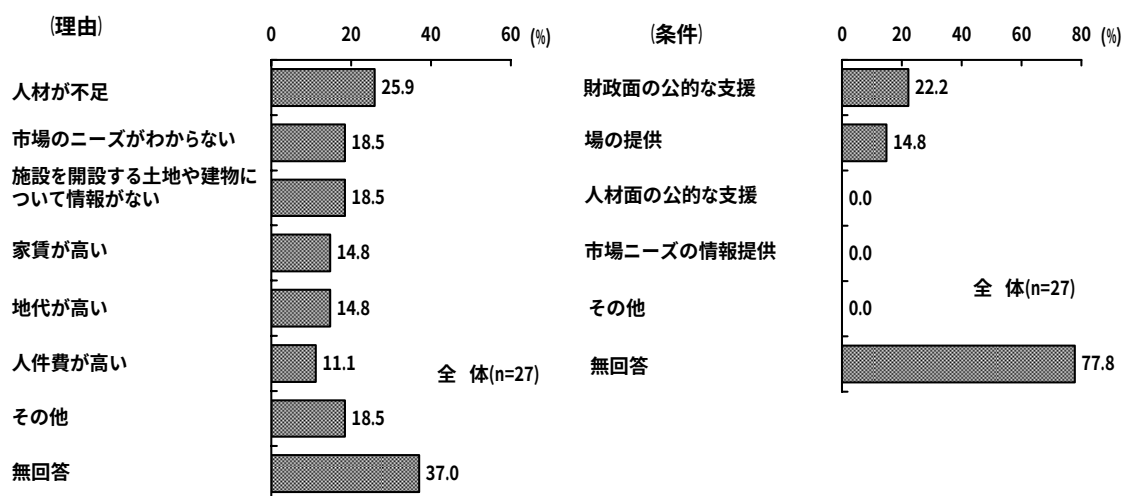
図表7-2-13-⑥ 認知症対応型共同生活介護(全体：複数回答)



キ 介護予防認知症対応型共同生活介護

参入意向は、「有」が1.3%、「無」が34.2%、「検討中」が0.0%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足（25.9%）」が最も多く、「市場のニーズがわからない（18.5%）」、「施設を開設する土地や建物について情報がない（18.5%）」、「家賃が高い（14.8%）」、「地代が高い（14.8%）」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援（22.2%）」が最も多く、「場の提供（14.8%）」が続いている（図表7-2-13-⑦）。

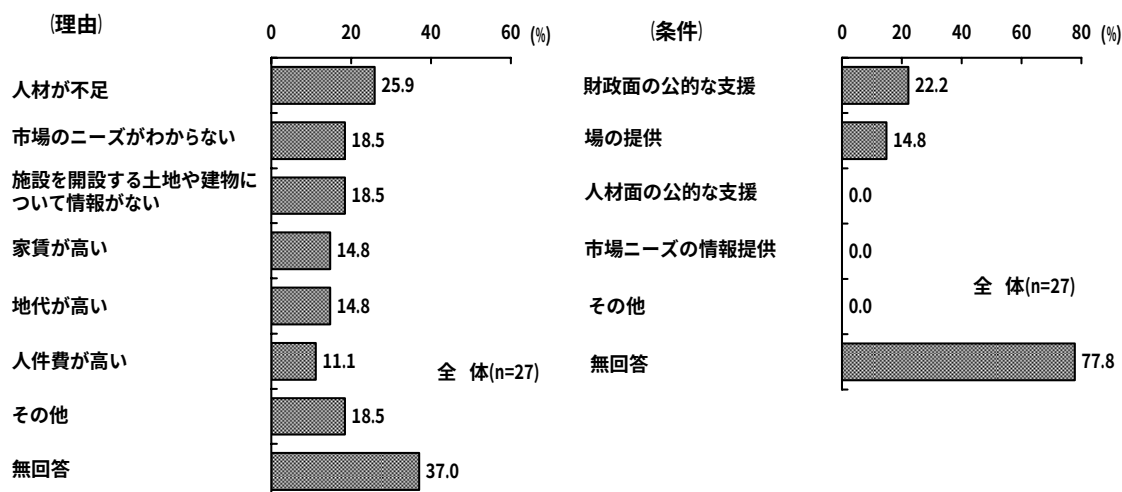
図表7-2-13-⑦ 介護予防認知症対応型共同生活介護（全体：複数回答）



ク 地域密着型特定施設入居者生活介護

参入意向は、「有」が0.0%、「無」が34.2%、「検討中」が0.0%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足（25.9%）」が最も多く、「市場のニーズがわからない（18.5%）」、「施設を開設する土地や建物について情報がない（18.5%）」、「家賃が高い（14.8%）」、「地代が高い（14.8%）」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援（22.2%）」が最も多く、「場の提供（14.8%）」が続いている（図表7-2-13-⑧）。

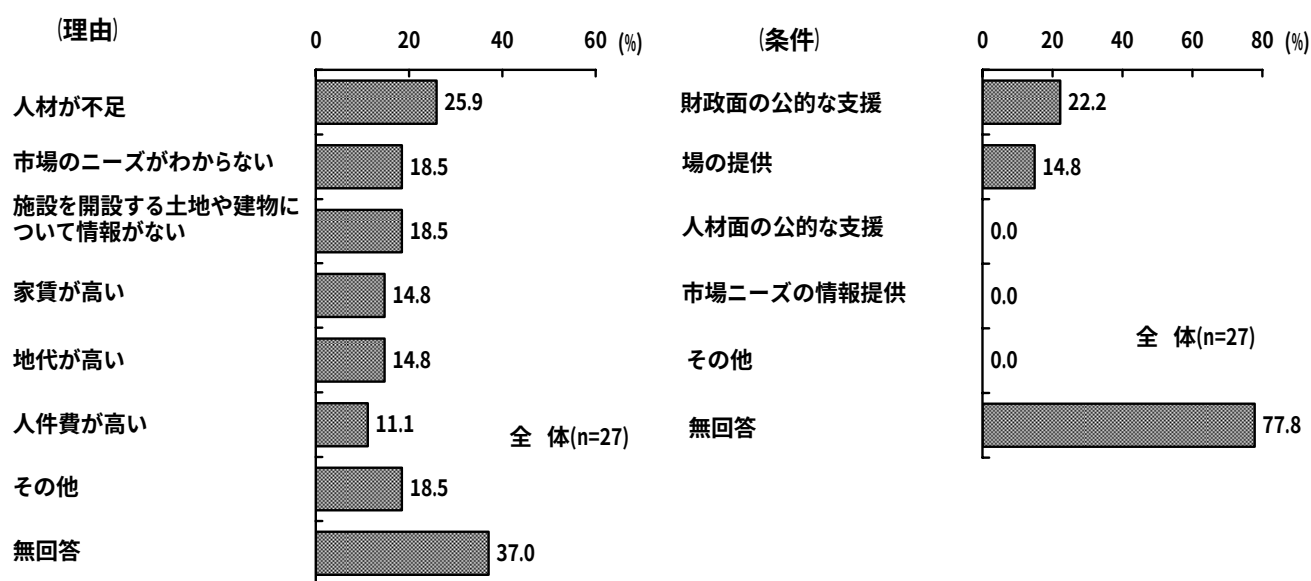
図表7-2-13-⑧ 地域密着型特定施設入居者共同生活介護（全体：複数回答）



ケ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

参入意向は、「有」が0.0%、「無」が32.9%、「検討中」が1.3%である。参入意向なしの理由は、「人材が不足（25.9%）」が最も多く、「市場のニーズがわからない（18.5%）」、「施設を開設する土地や建物について情報がない（18.5%）」、「家賃が高い（14.8%）」、「地代が高い（14.8%）」が続いている。参入するための条件は、「財政面の公的な支援（22.2%）」が最も多く、「場の提供（14.8%）」が続いている（図表7－2－13－⑨）。

図表7－2－13－⑨ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（全体：複数回答）



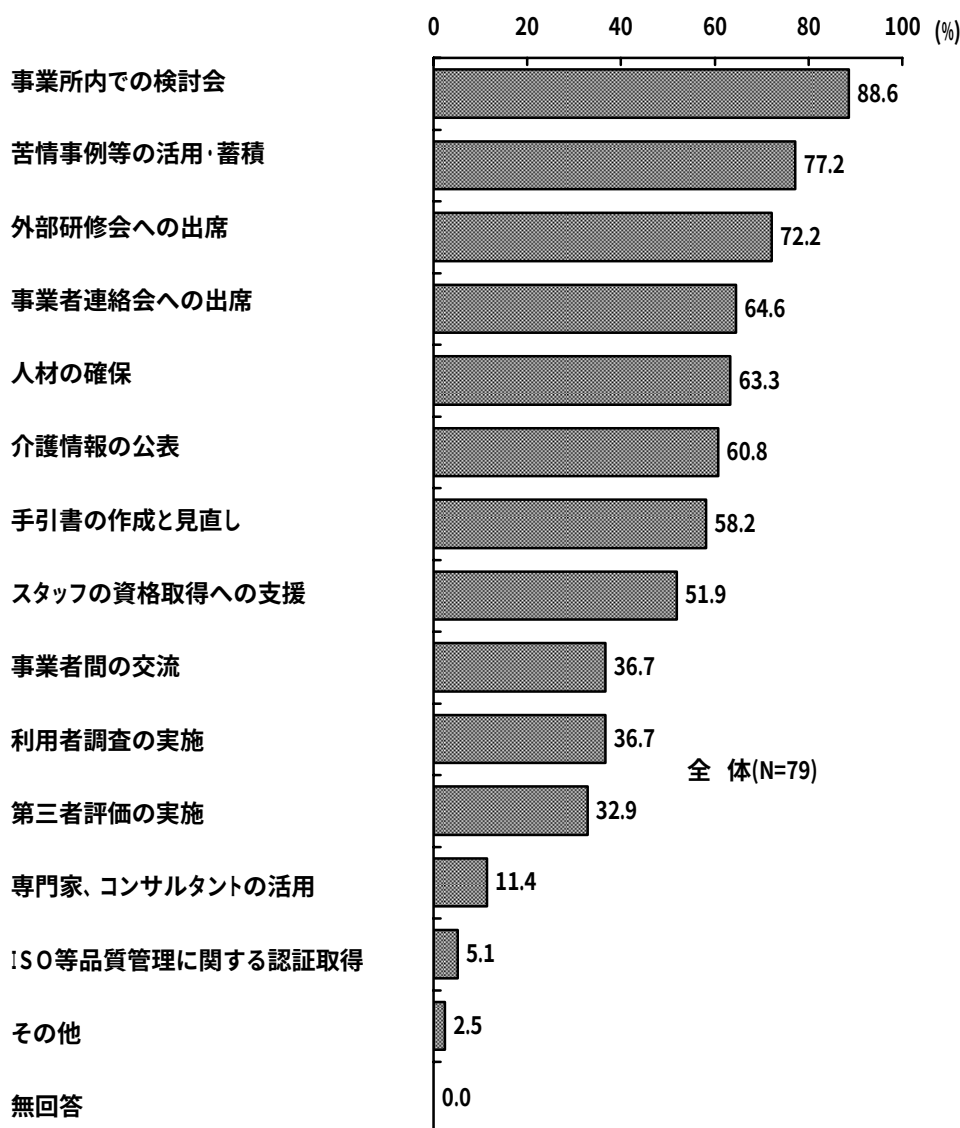
(3) サービスの質の向上に向けた取組み

① 質の向上に対する取組みの内容（問 12）

質の向上に対する取組みの内容は、「事業者内での検討会（88.6%）」が最も多く、「苦情事例等の活用・蓄積（77.2%）」、「外部研修会への出席（72.2%）」、「事業者連絡会への出席（64.6%）」、「人材の確保（63.3%）」、「介護情報の公表（60.8%）」、「手引書の作成と見直し（58.2%）」が続いている（図表7－3－1）。

「その他(3件)」として、「法人職員によるサービス自己評価」、「更新受審料が高いため、ISOを返上した(2件)」があげられている。

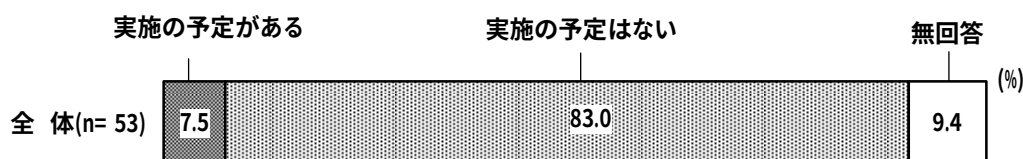
図表7－3－1 質の向上に対する取組みの内容（全体：複数回答）



② 第三者評価の実施予定（問 13）

問 12 で「第三者評価の実施」と回答しなかった事業所に第三者評価の実施予定をたずねた。「実施の予定はない」が 83.0%であり、「実施の予定がある」が 7.5%となっている（図表 7－3－2）。

図表 7－3－2 第三者評価の実施予定（全体）

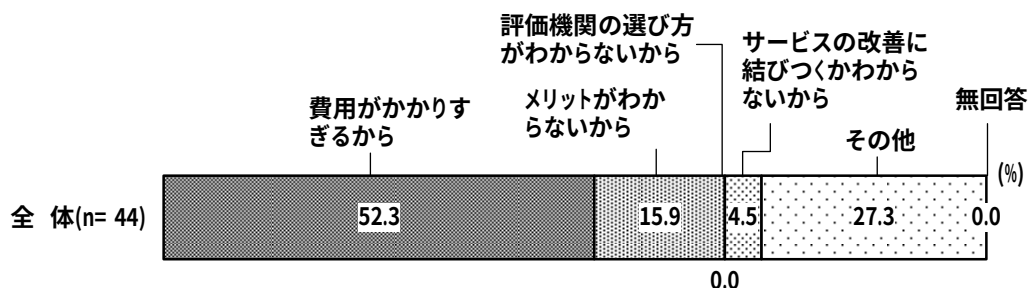


③ 第三者評価を実施しない理由（問 13－1）

問 13 で「実施の予定はない」と回答した事業所に、その理由をたずねた。「費用がかかりすぎるから（52.3%）」が最も多く、「メリットがわからない（15.9%）」、「サービスの改善に結びつくかわからない（4.5%）」が続いている（図表 7－3－3）。

「その他(15 件)」として、「情報公開をおこなっている(6 件)」、「第三者評価を受ける準備が容易ではない、準備ができていない(2 件)」、「情報公開制度で既に費用も労力も費やしているので、これ以上取組みは考えにくい。余裕がない(2 件)」、「第三者は利用者であり利用者やご家族から評価して決めるものである」、「介護サービス情報公表の調査項目を充実＝サービス改善への取組みで他の調査を受ける余裕がない(時間的)」、「まだ、事業所としての歴史が浅く、事業内容も構築途上であると認識している為」、「サービス評価は必要と考えているが、評価の実施に向けて、取り組む余裕がないため」等があげられている。

図表 7－3－3 第三者評価を実施しない理由（全体）
＜第三者評価の実施の予定はないと回答した事業所＞



④ 人材確保の取組み（問 14）

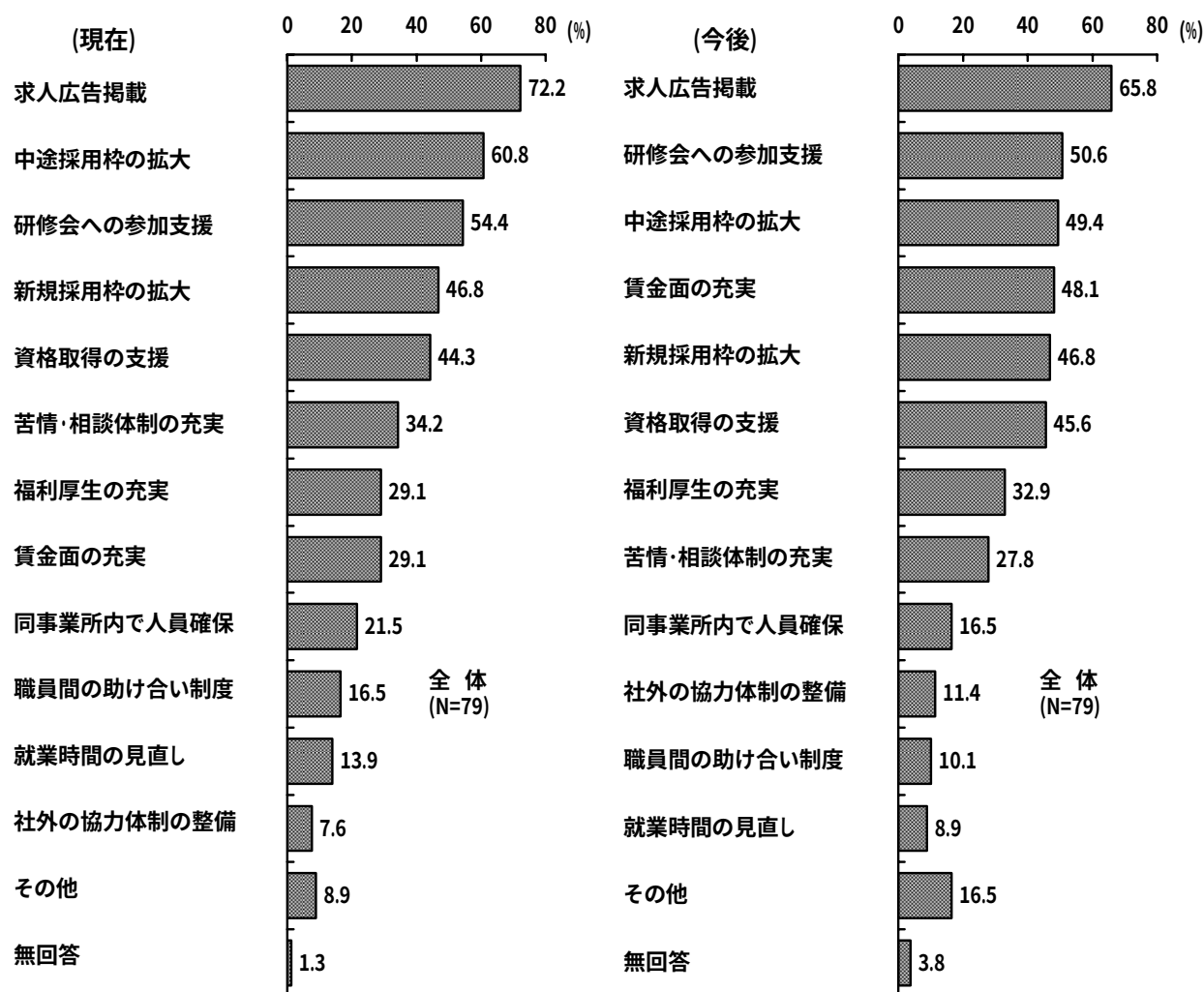
人材確保の取組みは、現在では、「求人広告掲載（72.2%）」が最も多く、「中途採用枠の拡大（60.8%）」、「研修会への参加支援（54.4%）」、「新規採用枠の拡大（46.8%）」、「資格取得の支援（44.3%）」が続いている。

今後の取組みでは、「求人広告掲載（65.8%）」が最も多く、「研修会への参加支援（50.6%）」、「中途採用枠の拡大（49.4%）」、「資金面の充実（48.1%）」、「新規採用枠の拡大（46.8%）」が続いている（図表7-3-4-①）。

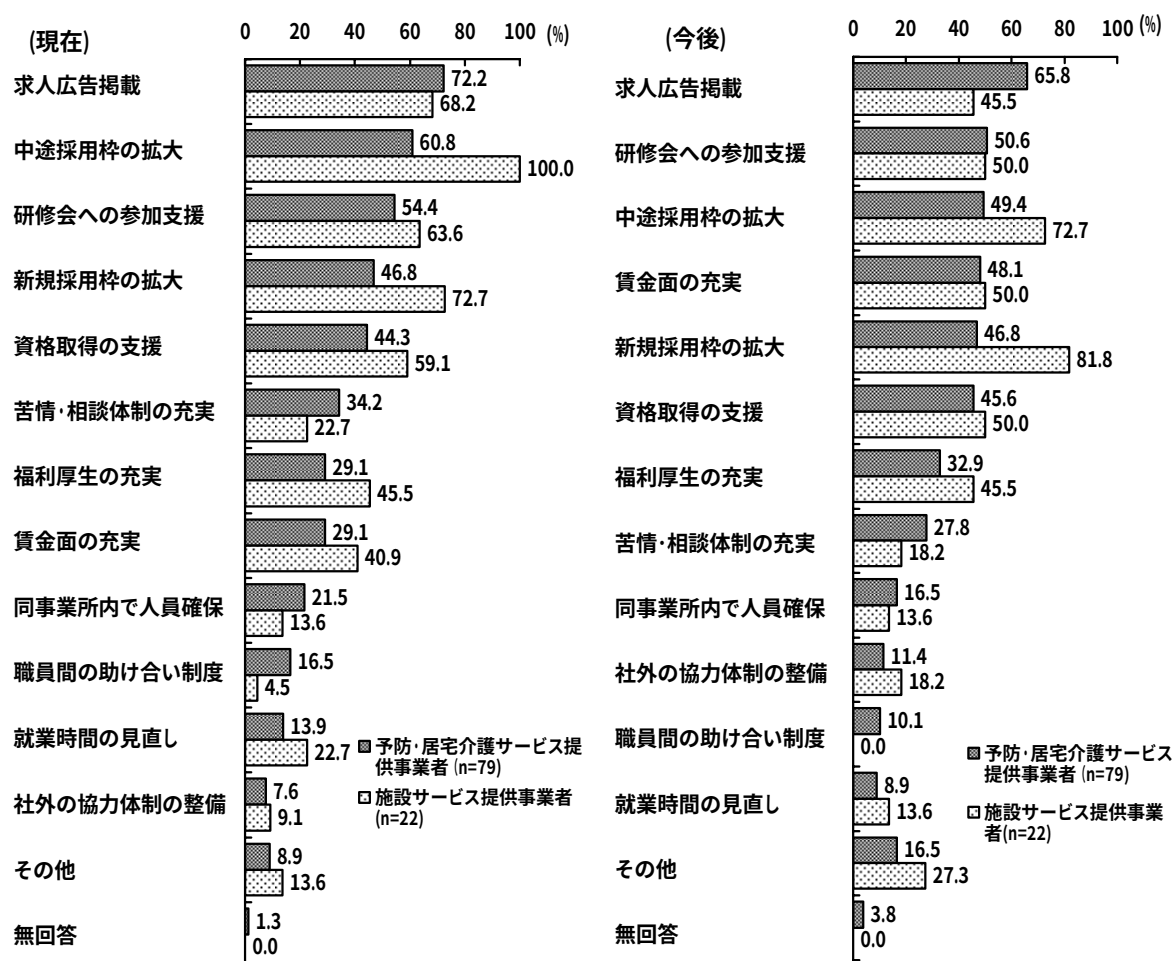
事業者別でみると、現在では、予防・居宅介護事業者の上位3位の取組みは、「求人広告掲載」、「中途採用枠の拡大」、「研修会への参加支援」となっている。施設サービス提供事業者の上位3位の取組みは、「中途採用枠の拡大」、「新規採用枠の拡大」、「求人広告掲載」となっている。

今後は、予防・居宅介護事業者では、「求人広告掲載」、「中途採用枠の拡大」、「研修会への参加支援」が上位3位となっている。施設サービス提供事業者は、「新規採用枠の拡大」、「中途採用枠の拡大」が上位2位の取組みとなっている（図表7-3-4-②）。

図表7-3-4-① 人材確保の取組み（全体：複数回答）



図表 7-3-4-② 人材確保の取組み（事業所の種類別：複数回答）



ア 現在の取組みの具体的な内容

現在の取組みの「職員間の助け合い制度」には5件の具体的な記述があった。「話す場をつくり心を開いて話し合う」、「和を大切にするため、食事会等を行っている」、「有給を取りやすくする」、「一週間に一回、情報交換会」、「在支の非常勤看護師を充足するまで応援してもらっている」があげられている。

また、「その他」には6件の具体的な記述があった。「ヘル2受講者へのアプローチ」、「職員間での勤務の調整」、「メンバー紹介の呼びかけ、説明会実施」、「ホームページで求人」、「管理職、指導職の育成、能力向上」等があげられている。

イ 今後の取組みの具体的な内容

今後の取組みの「職員間の助け合い制度」には「相談者の配置」という1件の具体的な記述があった。

また、「その他」には10件の具体的な記述があった。「福祉業界団体（東社協）への求人ネットワーク参加（3件）」、「全国老人保健施設協会主催の人材確保制度に挙手、参加」、「常勤職員の増員、非常勤職員の常勤採用」、「ヘル2受講者へのアプローチ」、「管理職、指導職の育成、能力向上」、「基本給の充実、年末夏季手当の充実、退職金制度の新設」、「休みを取りやすくする」等があげられている。

⑤ 研修について（問 15）

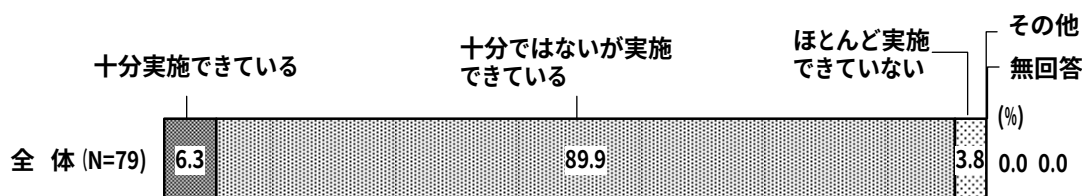
ア 事業所内での講習会・研修の実施

事業所内の講習会・研修の実施は、「十分ではないが実施できている（89.9%）」が約9割である（図表7-3-5-①）。

「ほとんど実施できていない」理由として、「業務だけでもやるべき事がまだ山積みとなっている。また告知しても人が集まらず。職員の意識が低い」、「個々の勤務時間に制限があり研修時間と合わない。又人数が少なく研修に行かせられない」があげられている。

「その他」として、「スタッフの数がぎりぎり、日々の時間がどうにかこなせている。上手く空きがあっても時間の都合で参加できない場合が多い。（遠い場所、夕方までの研修、個々の都合）」があげられている。

図表7-3-5-① 研修について（全体）
＜事業所内の講習会・研修の実施＞



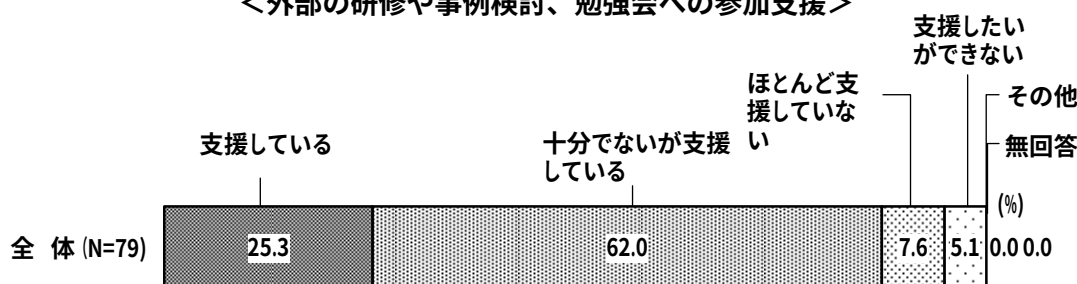
イ 外部の研修や事例検討、勉強会への参加支援

外部の研修や事例検討、勉強会への参加支援では、「十分でないが支援している（62.0%）」が最も多く、「支援している（25.3%）」、「ほとんど支援していない（7.6%）」が続いている（図表7-3-5-②）。

「ほとんど支援していない（7件）」理由として、「時間的に余裕がない。仕事中には無理」、「研修、勉強会がある事を通知するのみ。また職員が積極的に参加しようとししない」、「外部研修の費用が出せない」、「人材不足（外部研修に出すと現場が人員不足となる）（3件）」があげられている。

「支援したいができない」理由として、「参加しても、参加だけで修了証もないなら行かなくても同じ」、「日常勤務が優先となりスケジュールの調整が厳しい為」、「休日、業務と重なったり、研修のタイミングが合わない」があげられている。

図表7-3-5-② 研修について（全体：複数回答）
＜外部の研修や事例検討、勉強会への参加支援＞



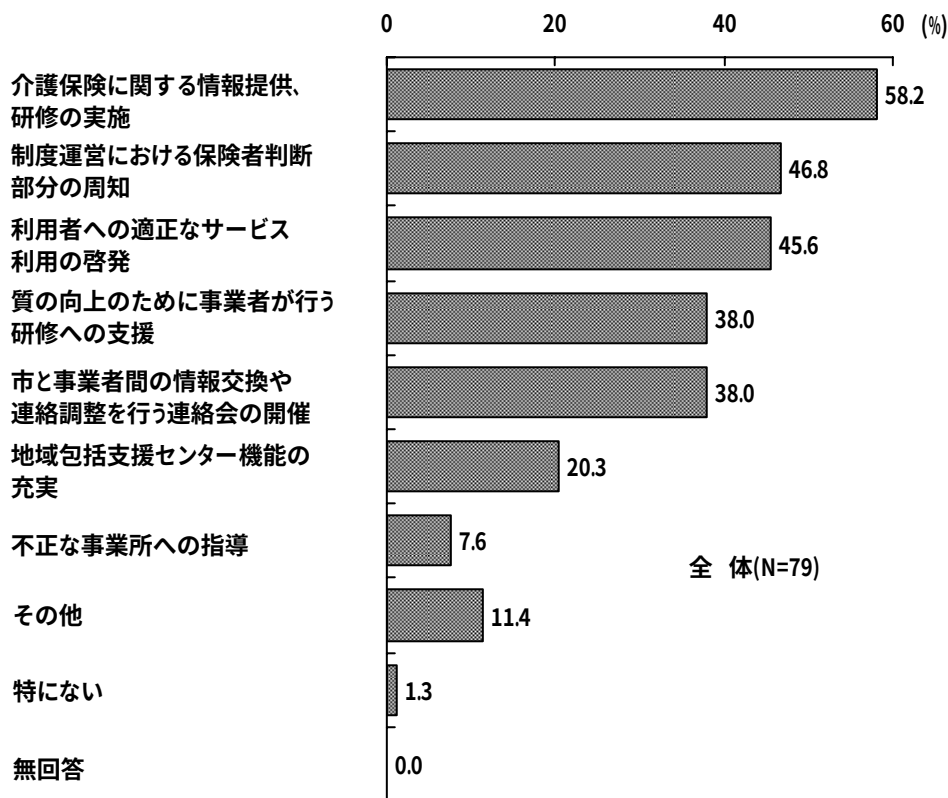
（４）市への要望

① 市に対して事業者として望むこと（問 16）

市に対して事業者として望むことは、「介護保険に関する情報提供、研修の実施（58.2%）」が最も多く、「制度運営における保険者判断部分の周知（46.8%）」、「利用者への適切なサービス利用の啓発（45.6%）」、「質の向上のために事業者が行う研修への支援（38.0%）」、「市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催（38.0%）」が続いている（図表 7－4－1）。

「その他」として、「現状、もしくは現状以上の施設に対する援助（3件）」、「①施設のニーズを聞き、的確迅速に対応する組織を作っていただきたい。②ショートベッド 20 床のうち 10 床の特養ベッドへの移行。③透明性のある補助金の支援」、「特養よりショートスティ利用者のサービスは、より『手間・介護時間』を要するため、ショートスティ 1 ベッドに付き、補助金支援体制を構築していただきたい」、「各業者が連携がとれるための体制作り、例えば訪問看護ステーション同志、ヘルパー同志など」、「被保険者（利用者等）の公平なニーズの把握」、「自治体としての制度改革の提言（2 件）」があげられている。

図表 7－4－1 市に対して事業者として望むこと（全体：複数回答（3 つまで））

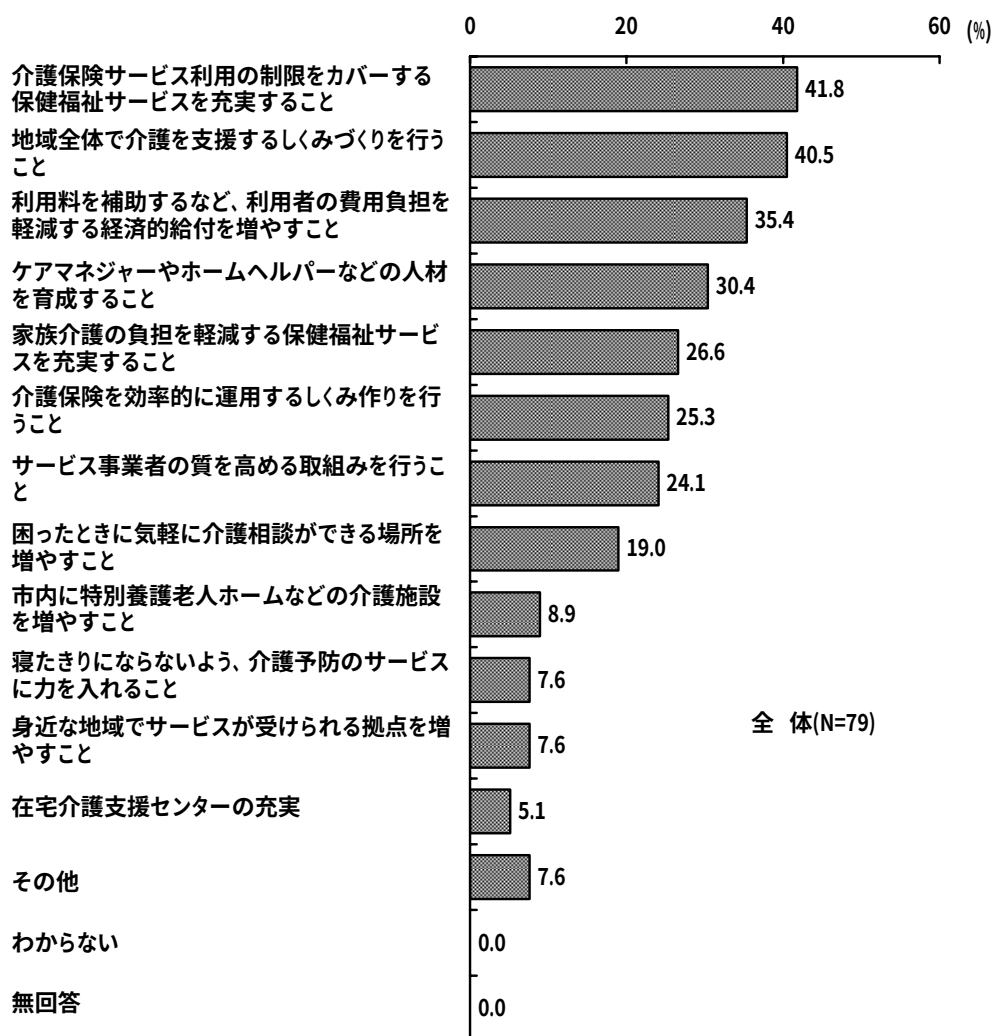


② 介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと（問 17）

介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきことは、「介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること（41.8%）」が最も多く、「地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと（40.5%）」、「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（35.4%）」が続いている（図表7-4-2）。

「その他(6件)」として、「ケアマネの能力差をフォローする研修の実施（強制出席で）」、「地域差をなくすこと。保険者によって保険料や保険外サービス等で不公平な面が多すぎる」、「相手の心の痛みがわかる市政づくりを今以上にお願いしたい」、「重度介護者の経済的給付を増やすこと」、「日・祭日など市を含めた看護師・保健師による24時間サービス体制づくり。必要なサービスを拒否してしまう精神をかかえた家族への支援が必要」、「人材の確保」等があげられている。

図表7-4-2 介護保険制度全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと
（全体：複数回答（3つまで））



③ 介護保険に関する要望（問 18）

介護保険に関する要望について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で 26 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

ア 介護報酬の改訂

- ・ 自分らしい生活を送る為には画一的なプラン作成では不可能な仕事ではないだろうか。プラン作成の報酬単位を増やし、個別に利用者の生活をサポートするプラン作成ができる様にして欲しい。
- ・ 介護報酬自体見直す必要がある。従事者の量・質が確保できなくなっている。
- ・ 通所における送迎の役割を適正に評価して欲しい。
- ・ 訪問介護事業所として介護予防サービスに関わるケースが多くなって来たが「採算」がとれる制度であって欲しい（零細事業所の存続困難）。

イ 利用者家族に理解して欲しい

- ・ 訪問介護サービスにおいて、利用者は良いが家族がいる場合、口を出しすぎ、文句を言いすぎ、だれにサービスを提供しているか分からない状態の家族もいる。

ウ 事業所支援

- ・ 経営に少し運営費の補助金があり、又ネットワークで同業者のつながりがあり、仕事が一ヶ所集中していることのないような仕事のあり方だと良い。存続できるシステムに介護保険制度が進んでいけたらと考える。若い人々の力が必要である。
- ・ 介護に従事する人の待遇改善も必要と考える。その面での補助、支援。
- ・ 人件費率が 75%以上となっており、介護報酬改定に際し地域加算制度や、規模別の報酬体系などを検討していただきたい。

エ 人材確保

- ・ 介護業界の人材確保が必須：安定のある収入確保（若い介護職の定着）、介護福祉士（国家資格）に相当する身分保障。

オ 制度サービスの拡充

- ・ ニーズ等に対応する改善が必要。散歩不可、通院内（先）HP 内での介助等ご家族が理解、納得できる形にして欲しい。事業所だけでは対応できない事について早急な対策が必要。

カ 事業所指導の標準化

- ・ 訪問介護費の算定について、厚労省が具体的に定義しておらず、区市町村の判断となっている部分（たとえば同居家族の問題の考え方等）が、各区市町村間で微妙に違いがある。そのため、ヘルパー間でとまどいや混乱が起こることがある。「考え方」において、都道府

県単位で同一の見解を示して頂けたら、現場も働きやすくなる。

キ 制度改革

- ・ 介護関連事業従事者の待遇・勤務状況の改善。
- ・ 職員が意欲を失わずに、十分な勤務環境のもとで質の高い介護の仕事を続けるためには、賃金を含めた勤務状況の改善が不可欠である。早急に介護保険の財源の見直しを含めた制度改革を望んでいる。在宅の場合には居宅のケアマネジャーが本人と家族の状況を把握して適切なサポートができるように、ケアマネジャー業務の制度の制約を改善してケアマネジャーの質を向上させるよう要望する。
- ・ 国は現時点で、従来型老健から医療強化型老健への移行は認めないとのことだが、療養型病床から行き場を失う治療が必要な要介護者に対して、府中市独自の考えがあるのだろうか？ 近隣の市区よりなだれ込みが予測されるので、市民に対して何らかの措置を検討していただきたい。
- ・ 介護保険制度が改訂される度に利用者、事業者を利用しづらくなってきている。これから先、ますます悪くなると予想され、高齢者の介護は介護保険ではなく、国の制度として国、自治体の責任で行うか、介護保険で作られた制度を活用して国、自治体から財政支援を行う必要がある。安上がりに高齢者介護を行うことはできない。
- ・ 介護者として行うべき介護が介護保険上制約されることが多い。利用者の実情に合わせて介護ができるようヘルパーの裁量をひろげるべきことが多い。
- ・ 現在の介護保険制度は当初の「介護の社会化」という本来の目的からどんどん離れていっている。地域で、在宅でという暮らし方は良い事だが、同居の家族への負担がますます重くなっている。保険料など、個人個人が負担し、個人個人が自分らしい暮らし方のためのサービスを受けるという介護保険の本来の目的をとり戻すようなあり様になってもらいたい。
- ・ 「家族介護」を社会的に支援する制度としてスタートした介護保険制度：現状では介護殺人・高齢者の虐待等は、やはり家族介護加重負担が背景にあると思う。「介護保険制度」も視野に入れた地域社会全体で地域の人々（老若男女を問わない）が共生できる様な福祉社会のしくみが必要ではないか。
- ・ 制度と現場、現実が違いすぎる。制度に現場が合わせていくのは難しすぎる。現場に合った制度にして欲しい。
- ・ 利用者の希望する介護サービスが受けられず「自費」で援助を受ける利用者が増えているのは……自立支援と言えるのか。

ク 福祉サービスの充実

- ・ 制度を継続させるための“たてまえ”を重視するあまりお年寄りの生活の実情にそぐわないおかしいルールは次々に運用されている。介護保険と市のサービスのスムーズな連携が望まれる。

ケ 事業者間の連携

- ・ 訪看ステーションが府中市内に多数あることは知っていたが、情報交換ができるような機会があると助かる。

コ 認定

- ・ 介護認定に対する不信感。認定調査員によって差がある。もっと科学的な認定方法やきっちりとしたマニュアル作りが必要だと思う。

ソ その他

- ・ 府中市介護保険課には大変お世話になっており感謝している。特に担当者には訪問介護に対して強い見方となって下さり誠に有り難いしだいである。これからも宜しくお願いしたい。
- ・ 毎日ただただ事故等なく楽しく帰宅され「また来るね！」という望みだけでこれといった要望はない。

資料編 調査票及び集計結果

府中市福祉計画（高齢者一般）調査

調査についてのお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、平成 20 年度に策定を予定しております「府中市福祉計画」の基礎資料として、福祉全般の調査を実施します。

この調査は、平成 19 年 9 月 30 日現在、府中市にお住まいの 65 歳以上の市民の皆様の中から、3,000 名を無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成 19 年 10 月 府中市

記入についてのお願い

1. **封筒のあて名ご本人**について、ご記入をお願いいたします。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。回答はできる限り、あて名ご本人が記入してください。
なお、あて名ご本人おひとりでの回答がむずかしい場合は、ご家族や周りの方がお手伝いいただくか、あて名ご本人の意見を聞いたうえで代わりに記入してください。
2. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
3. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
☐の場合は回答内容等を記入してください。
4. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
5. 「その他」に○印をつけられた方は、〔 〕内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

10 月 24 日(水)までにご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

問合せ先

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護支援係 担当：新藤、中野

TEL 042-335-4470

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護保険係 担当：田添、村越

TEL 042-335-4021

調査票のご記入に先立ちまして、おたずねします

F 1 あなた（あて名ご本人）は現在どちらにいますか。（1つに○）

(N=2,468)

- | | | | | | |
|----------|-------|----------------|------|-----|------|
| 1. 自宅 | 96.1% | 3. 病院等に入院している | 0.7% | 無回答 | 1.5% |
| 2. 市外に転出 | 0.0% | 4. その他〔具体的に： 〕 | 1.8% | | |

→ 「2. 市外に転出」をお選びになった場合は、ここまでのご記入で結構です。
ご返送ください。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

F 2 この調査票はどなたがご記入されますか。（1つに○）

(N=2,468)

- | | | | | | | | |
|-----------|-------|--------|------|----------------|------|-----|------|
| 1. あて名ご本人 | 92.6% | 2. ご家族 | 4.8% | 3. その他〔具体的に： 〕 | 0.3% | 無回答 | 2.3% |
|-----------|-------|--------|------|----------------|------|-----|------|

あなた（あて名ご本人）のことをおたずねします

F 3 あなたの性別は次のうちどれですか。（1つに○）

(N=2,468)

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|
| 1. 男性 | 44.5% | 2. 女性 | 55.0% | 無回答 | 0.5% |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|

F 4 あなたの年齢は次のうちどれですか。（1つに○）

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(N=2,468)

- | | | | | | | | |
|------------|-------|------------|-------|------------|------|-----------|------|
| 1. 65～69 歳 | 34.8% | 3. 75～79 歳 | 18.9% | 5. 85～89 歳 | 3.5% | 7. 95 歳以上 | 0.1% |
| 2. 70～74 歳 | 31.7% | 4. 80～84 歳 | 9.8% | 6. 90～94 歳 | 0.9% | 無回答 | 0.2% |

F 5 あなたと同居*している方はどなたですか。（いくつでも○）

＊2世帯住宅は同居としてお答えください。

＊配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=2,468)

- | | | | |
|----------------------|-------|----------------|------|
| 1. ひとり暮らし（自分のみ） | 13.1% | 4. 父、母 | 1.6% |
| 2. 配偶者（夫または妻） | 69.5% | 5. 兄弟・姉妹 | 1.8% |
| 3. 息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む） | 39.0% | 6. その他〔具体的に： 〕 | 4.6% |
| | | 無回答 | 0.3% |

F 5-1 F 5で「2. 配偶者」～「6. その他」と答えた方におたずねします。

あなたと同居している方は次のどちらですか。（1つに○）

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(n=2,136)

- | | | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|-----|-------|
| 1. 同居者全員が 65 歳以上 | 40.7% | 2. 64 歳以下の同居者がいる | 40.9% | 無回答 | 18.4% |
|------------------|-------|------------------|-------|-----|-------|

F 5-2 F 5で「2. 配偶者」と答えた方におたずねします。

あなたの配偶者の年齢は次のうちどれですか。(1つに○)

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(n=1,716)

1. 65 歳未満	16.1%	5. 80～84 歳	8.5%	無回答	4.1%
2. 65～69 歳	23.4%	6. 85～89 歳	2.2%		
3. 70～74 歳	27.6%	7. 90～94 歳	0.4%		
4. 75～79 歳	17.7%	8. 95 歳以上	0.1%		

F 6 あなたはどちらにお住まいですか。 内に記入してください。

	町		丁目
----------------------	---	----------------------	----

(N=2,468)

第一地区	16.6%	第三地区	18.4%	第五地区	14.7%	無回答	4.9%
第二地区	18.6%	第四地区	11.5%	第六地区	15.3%		

第一地区：多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台（1～3丁目）、若松町、浅間町、緑町
 第二地区：白糸台（4～6丁目）、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政
 第三地区：天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町
 第四地区：宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町
 第五地区：日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町（1～2丁目）、本宿町（3～4丁目）、西府町（3～4丁目）、東芝町
 第六地区：美好町（3丁目）、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町（1～2丁目）、西府町（1～2、5丁目）

F 7 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

(N=2,468)

1. 持ち家の一戸建て	61.7%	5. 公的賃貸住宅	8.8%
2. 持ち家の集合住宅	15.1%	6. 高齢者向け住宅	0.3%
3. 民間賃貸の一戸建て	2.2%	(有料老人ホーム、高齢者マンションなど)	
4. 民間賃貸の集合住宅	6.5%	7. その他[具体的に：]	1.9%
		無回答	3.6%

F 7-1 現在のお住まいで困っていることはありますか。(いくつでも○)

(N=2,468)

1. 玄関回りの段差で困っている	4.7%
2. 廊下や居室などの段差で困っている	2.8%
3. 屋内の階段の昇り降りが大変で困っている	7.3%
4. 浴室や浴槽が使いにくくて困っている	5.4%
5. トイレに手すりがなかったり洋式でなかったりするため困っている	2.2%
6. エレベーターがなくて困っている	3.2%
7. ごみが片付けられず、山積みになっている	1.1%
8. その他〔具体的に：]	5.6%
9. 特にない	65.9%
無回答	12.5%

医療の状況と介護予防についておたずねします

問1 現在の医療機関の受診状況についておたずねします。あなたは、現在治療中の病気はありますか。(1つに○)

(N=2,468)

1. ある 65.9% 2. ない 27.6% 無回答 6.6%

問2 あなたには、「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」はいますか。(それぞれ1つに○)

(N=2,468)	いる	いない	わからない	無回答
①かかりつけ医	76.9%	15.2%	0.7%	7.3%
②かかりつけ歯科医	68.8%	14.8%	1.0%	15.4%
③かかりつけ薬局	48.8%	29.4%	2.2%	19.6%

＊ ここでいう「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」とは、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病気のことを日ごろから、気軽に相談できるような身近な開業医、歯科医、薬局をさします。

問3 府中市では、みなさまが介護状態にならないため、さまざまな介護予防事業を行っています。以下のようなサービスの利用状況、今後の利用意向についておたずねします。(サービスごとに、「利用状況」、「利用意向」に1つずつ○)

(N=2,468)	利用状況					利用意向			
	利用している	利用したことがある	知っているが利用していない	知らない	無回答	利用したい	利用したくない	わからない	無回答
①介護予防健診	6.0%	6.0%	40.2%	31.4%	16.5%	30.3%	9.3%	30.9%	29.5%
②介護予防に関する講座や研修	2.7%	6.0%	37.0%	34.8%	19.4%	25.7%	10.0%	32.1%	32.1%
③介護予防教室(筋力向上)	3.0%	3.6%	32.5%	40.7%	20.2%	25.4%	11.2%	31.5%	31.8%
④介護予防教室(転倒予防)	2.6%	2.9%	30.1%	43.8%	20.7%	23.1%	11.0%	33.7%	32.2%
⑤介護予防教室(認知症予防)	1.1%	1.5%	31.2%	44.9%	21.4%	23.5%	10.4%	34.2%	31.9%
⑥介護予防教室(尿失禁予防)	1.1%	1.1%	28.0%	48.3%	21.6%	19.8%	11.9%	35.7%	32.6%
⑦介護予防教室(栄養改善、口腔ケア)	1.1%	2.0%	27.7%	47.2%	22.1%	21.4%	10.7%	35.4%	32.5%
⑧府中市立いきいきプラザ *1	1.3%	2.8%	28.4%	46.4%	21.1%	18.5%	10.2%	38.4%	32.9%
⑨いきいきハウス *2	0.2%	0.0%	22.2%	55.3%	22.3%	13.2%	12.2%	41.0%	33.5%

＊1 「府中市立いきいきプラザ」は分梅町にある府中市立の介護予防推進センターで、上記のような介護予防推進事業を行っています。

＊2 「いきいきハウス」は「府中市立いきいきプラザ」にあって、ひとり暮らしの高齢者などが生活リズムを整えるため、7日を限度に滞在することができる施設です。

問4 あなたの介護予防に対する考え方や実際の行動は次のうちどれですか。

(1 つに○)

(N=2,468)

- | | |
|--|-------|
| 1. 現在、介護予防に全く取り組んでおらず、あまり興味もない | 27.7% |
| 2. 現在、介護予防に取り組んでいないが興味はあり、近い将来何かに取り組もうと思っている | 51.1% |
| 3. 現在、介護予防にたまに取り組んでいるが、いつもというわけではない | 5.9% |
| 4. 現在、介護予防に積極的に取り組んでいるが、まだ始めて 6 ヶ月以内である | 1.2% |
| 5. 現在、介護予防に積極的に取り組んでおり、6 ヶ月以上続けている | 6.4% |
| 無回答 | 7.6% |

問5 あなたが健康づくりのために実行していることがありましたら、自由にお書きください。

地域生活と日ごろの活動についておたずねします

問6 あなたは、地域活動やボランティア活動、お住まいの地域の行事にどの程度参加していますか。(1 つに○)

(N=2,468)

- | | | | |
|-------------|-------|---------------|-------|
| 1. よく参加している | 10.5% | 3. あまり参加していない | 21.3% |
| 2. 時々参加している | 22.7% | 4. 全く参加していない | 42.9% |
| | | 無回答 | 2.5% |

問 6-1 問6で「1.よく参加している」または「2. 時々参加している」と答え
た方におたずねします。どのような活動や行事に参加していますか。
(いくつでも○)

(n=821)

- | | | | |
|-----------------|-------|-------------------------|-------|
| 1. 町内会・自治会などの活動 | 62.5% | 5. 地域でのボランティア活動 | 17.4% |
| 2. 子ども会やPTAの活動 | 1.7% | 6. 防災訓練や交通安全運動 | 25.1% |
| 3. 老人クラブの活動 | 23.9% | 7. お祭りや運動会などのレクリエーション活動 | 22.3% |
| 4. 婦人会の活動 | 5.7% | 8. その他〔具体的に： 〕 | 16.1% |
| | | 無回答 | 1.6% |

問7 あなたが今後、お住まいの地域で活動する場合、どのような活動に参加したいと思いますか。(いくつでも○)

(N=2,468)

- | | | | |
|----------------------|-------|------------------------|-------|
| 1. 自分の楽しみが得られる活動 | 39.6% | 7. 隣近所の人と協力しあえる活動 | 29.6% |
| 2. 興味ある知識や教養が得られる活動 | 27.4% | 8. 家庭生活を豊かにする家族ぐるみの活動 | 6.8% |
| 3. 自分の知識や経験をいかせる活動 | 17.2% | 9. 地域や社会に役立つ活動 | 23.0% |
| 4. 生きがいや健康づくりができる活動 | 36.8% | 10. 行政への協力や地域自治にかかわる活動 | 8.6% |
| 5. 余暇時間を充実させる活動 | 15.6% | 11. その他〔具体的に： 〕 | 1.3% |
| 6. 仲間づくりや親しい友人ができる活動 | 25.9% | 12. 特にない | 15.6% |
| | | 無回答 | 4.9% |

問8 あなたは、お住まいの地域で活動する場合、どのような環境や条件が必要だと思いますか。(3 つまで○)

(N=2,468)

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 1. 身近なところや便利なところに活動の場があること | 62.6% |
| 2. 夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること | 34.0% |
| 3. 友人や家族と一緒に参加できること | 20.4% |
| 4. 身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること | 22.7% |
| 5. 活動資金の補助・援助があること | 8.6% |
| 6. 活動に参加することでメリットが得られる(報酬など) こと | 4.3% |
| 7. その他〔具体的に： 〕 | 1.9% |
| 8. 条件によらず参加したくない | 9.8% |
| 無回答 | 11.5% |

問9 あなたは、地域で安心して生活していくために、住民相互の協力関係が必要だと思いますか。(1 つに○)

(N=2,468)

- | | | | |
|-----------------|-------|--------------|------|
| 1. 必要だと思う | 53.9% | 4. 必要だとは思わない | 0.7% |
| 2. ある程度必要だと思う | 33.7% | 5. わからない | 5.3% |
| 3. あまり必要だとは思わない | 2.8% | 無回答 | 3.6% |

問 9-1 問9で「1.必要だと思う」または「2.ある程度必要だと思う」と答えた方におたずねします。住民の協力関係を築くためにはどのようなことが必要だと思いますか。(3 つまで○)

(n=2,163)

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 1. 自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること | 42.1% |
| 2. 町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること | 40.8% |
| 3. ボランティア団体やNPO(民間非営利組織)の活動を活発にすること | 8.4% |
| 4. 地域の人々が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること | 34.8% |
| 5. 地域の企業や団体などに地域活動への参加を呼びかけること | 3.8% |
| 6. 地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること | 19.9% |
| 7. 地域活動を担う、リーダーとなる人材を育成すること | 12.0% |
| 8. 行政や社会福祉協議会が地域活動への支援やコーディネートをする事 | 12.6% |
| 9. その他〔具体的に： 〕 | 2.2% |
| 10. わからない | 8.6% |
| 無回答 | 4.0% |

問10 あなたは現在、収入のある仕事についていますか。(1 つに○)

(N=2,468)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 仕事についている | 25.1% |
| 2. 仕事をしたいが、からだの具合が悪いので働いていない | 9.3% |
| 3. 仕事をしたいが、仕事がないので働いていない | 12.8% |
| 4. 仕事をする意思がないので、働いていない | 28.0% |
| 5. その他〔具体的に： 〕 | 16.2% |
| 無回答 | 8.5% |

問 10-1 問 10 で「3.仕事をしたいが、仕事がないので働いていない」と答えた方におたずねします。あなたはどのようなかたちで働きたいと考えていますか。(1 つに○)

(n=316)

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 自分の知識や技能をいかして、収入の多い仕事をしたい | 9.2% |
| 2. 自分の知識や技能をいかした仕事できれば、収入は少なくともよい | 41.1% |
| 3. 地域に貢献できる仕事できれば、収入は少なくともよい | 21.5% |
| 4. 自分の知識や技能をいかした活動できれば、収入は少なくともよい | 8.9% |
| 5. 地域に貢献できる仕事できれば、収入は少なくともよい | 8.2% |
| 6. その他〔具体的に： 〕 | 3.2% |
| 無回答 | 7.9% |

問11 地域の福祉が充実するためには行政サービスだけでなく、住民の参加が必要だという考えがあります。あなたは住民参加の方法としてどのようなことが必要だと思いますか。(1 つに○)

(N=2,468)

- | | |
|--|-------|
| 1. 町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと | 32.7% |
| 2. 行政と住民の意見交換の機会を設けること | 17.1% |
| 3. より多くの住民がボランティア活動に参加すること | 6.4% |
| 4. 講習会などによる地域づくりへの意識啓発などを進めること | 8.5% |
| 5. その他〔具体的に： 〕 | 1.1% |
| 6. わからない | 20.8% |
| 無回答 | 13.4% |

問12 あなたは、隣近所の人と、どの程度おつきあいしていますか。(1 つに○)

(N=2,468)

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. 個人的なことを相談し合える人がいる | 13.6% |
| 2. さしさわりのないことなら、話せる相手がいる | 45.0% |
| 3. 道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる | 32.3% |
| 4. ほとんど近所づきあいをしない | 5.5% |
| 無回答 | 3.6% |

問 12-1 問 12 で「3. 道で会えば、あいさつぐらいはする」、または「4. ほとんど近所づきあいをしない」と答えた方におたずねします。その主な理由を次の中からお答えください。(2 つまで○)

(n=933)

- | | | | |
|---------------------|-------|-------------------------|-------|
| 1. 仕事や家事で忙しく時間がないから | 16.5% | 5. 気の合う人・話の合う人が近くにいないから | 18.6% |
| 2. 引っ越してきて間もないから | 8.5% | 6. あまりかわりをもちたくないから | 23.7% |
| 3. 普段つきあう機会がないから | 50.6% | 7. その他〔具体的に： 〕 | 6.1% |
| 4. 同世代の人が近くにいないから | 8.0% | | 4.7% |

問13 あなたは自分や家族のことについて、現在どのようなことを不安に感じていますか。(2つまで○)

(N=2,468)

1. 自分もしくは配偶者の健康	57.7%
2. 食事づくり、家事全般	7.3%
3. 急病などの緊急時の対応	24.2%
4. 寝たきり、または今より状態が悪化した時の介護のこと	15.9%
5. 認知症になった時の介護や財産管理のこと	7.7%
6. 医療費や介護費用など経済的なこと	24.7%
7. その他〔具体的に： 〕	1.4%
8. 特にない	11.4%
無回答	5.2%

問14 あなたは、災害時に避難を助けたり、避難状況を確認するために、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、あなたの住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて、どう思いますか。(1つに○)

(N=2,468)

1. 最低限の情報ならば、知らせておいてもいい	81.4%
2. 知らせたくない	1.7%
3. わからない	10.8%
無回答	6.0%

問15 あなたは、健康や介護予防、福祉サービス、地域の活動などに関する情報をどこから(誰から)入手していますか。(いくつでも○)

(N=2,468)

1. 市の広報紙・ホームページ	69.5%	10. 民生委員・児童委員	3.0%
2. 市の相談窓口(地域包括支援センター*)	5.7%	11. 家族や親族	17.6%
3. 保健所・保健センター	2.6%	12. 友人・知人、近隣の人	28.4%
4. 社会福祉協議会	5.4%	13. 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ	39.7%
5. 在宅介護支援センター	5.3%	14. 講演会、講習会等	3.5%
6. 府中市立いきいきプラザ	1.9%	15. インターネット	3.2%
7. 病院・診療所・歯科医・薬剤師など	11.8%	16. その他〔具体的に： 〕	2.4%
8. ホームヘルパー	0.2%	17. 特にない	7.2%
9. ケアマネジャー	2.3%	無回答	5.0%

＊ 地域包括支援センターは、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーが中心となって、介護予防事業のマネジメント、総合的な相談・支援、虐待防止などの権利擁護などを行います。

問16 あなたは、暮らしの問題や福祉について、困りごとがあったとき、どこに（誰に）相談しますか。（いくつでも○）

(N=2,468)

1. 市の相談窓口（地域包括支援センター）	59.8%	7. ケアマネジャー	2.6%
2. 保健所・保健センター	5.5%	8. 民生委員・児童委員	7.0%
3. 社会福祉協議会	7.9%	9. 家族や親族	56.1%
4. 在宅介護支援センター	8.2%	10. 友人・知人、近隣の人	28.8%
5. 病院・診療所の医師・看護師など	13.0%	11. その他〔具体的に：〕	1.2%
6. ホームヘルパーなど	0.4%	12. 相談できる人がいない	2.1%
		無回答	4.9%

保健福祉サービスについておたずねします

問17 市では介護保険以外にも様々な保健福祉サービスを行っています。以下のようなサービスの利用状況、今後の利用意向についておたずねします。

（各サービスごとに「利用状況」「利用意向」に1つずつ○）

(N=2,468)

事業名		利 用 状 況					利 用 意 向			
		利用している	利用したことがある	知っているが利用していない	知らない	無回答	利用したい	利用したくない	わからない	無回答
①高齢者福祉電話	ひとり暮らし等の人の安否確認、孤独感解消のため電話を貸与する	0.6%	0.2%	27.5%	53.8%	17.9%	18.1%	11.8%	40.5%	29.6%
②入浴券支給	ひとり暮らし等の人で自宅に風呂設備のない方に無料入浴券を配布する	0.6%	0.2%	34.6%	44.1%	20.5%	12.7%	20.5%	34.8%	31.9%
③家具転倒防止器具の取付	ひとり暮らし等の人々が家庭内で所有する家具に家具転倒防止器具を取り付ける	2.4%	1.5%	30.2%	46.1%	19.7%	26.0%	9.6%	32.5%	31.9%
④地域デイサービス	健康体操、健康・栄養講座、趣味・生きがい講座、健康相談等を身近な施設で行う	3.2%	2.1%	47.4%	28.6%	18.7%	25.4%	10.8%	33.5%	30.3%
⑤「食」の自立支援サービス	ひとり暮らし等の人に、調理した食事を自宅に届けて安否確認をし、食生活改善の講習会・指導等を行う	0.3%	0.2%	39.3%	40.1%	20.1%	20.6%	12.9%	35.5%	31.0%
⑥生活援助員派遣	ひとり暮らし等の人に、家事援助を中心とした生活援助員を派遣する	0.4%	0.1%	36.4%	42.3%	20.7%	18.8%	12.6%	36.6%	32.1%
⑦自立支援ショートステイ	月 7 日を上限に養護老人ホームに滞在し健康管理や食事提供などを行う	0.2%	0.0%	39.9%	39.4%	20.5%	17.6%	13.3%	37.6%	31.5%
⑧高齢者医療ショートステイ	月 7 日を上限に市内の医療機関に入院し療養管理・健康管理を行う	0.1%	0.2%	34.4%	44.9%	20.3%	21.3%	11.0%	36.6%	31.1%
⑨入浴サービス	在宅サービスセンターで月 3 回の入浴が受けられる	0.1%	0.1%	43.5%	36.2%	20.0%	16.4%	15.8%	36.3%	31.6%
⑩外出支援サービス	通院や福祉施設への通所、地域デイサービス参加のための送迎を支援する	0.2%	0.2%	42.3%	37.4%	20.0%	20.3%	12.3%	36.4%	31.0%

事業名		利 用 状 況					利 用 意 向			
		利用している	利用したことがある	知っているが利用していない	知らない	無回答	利用したい	利用したくない	わからない	無回答
⑪ 日常生活用具 給付とレンタル	一時的に身体機能が低下している方に用具などを貸与または給付する	0.3%	1.0%	35.8%	44.7%	18.2%	23.3%	9.8%	37.9%	29.0%
⑫ はいかい高齢者探索サービス	はいかい探索システムを用い、行方不明時に早期に居場所を発見し、事故を防止する	0.1%	0.0%	19.8%	59.8%	20.3%	19.5%	9.8%	40.5%	30.2%
⑬ 日常生活用品（おむつ）の助成	おむつが必要な方が布または紙おむつのどちらかを自宅で受け取れる	0.4%	0.3%	28.4%	50.7%	20.2%	21.3%	10.7%	38.0%	30.0%
⑭ 車いす福祉タクシー	リフト付タクシーによる通院を年間24回を限度に利用できる	0.3%	0.2%	34.8%	44.9%	19.8%	25.5%	9.1%	35.8%	29.6%
⑮ 寝具乾燥サービス	月1回、寝具を自宅まで受け取りに行き、その日のうちに乾燥して返す	0.2%	0.2%	22.9%	56.2%	20.6%	25.2%	9.4%	35.9%	29.6%
⑯ 訪問理髪サービス	自宅に月1回理容師が訪問して理髪が受けられる	0.4%	0.3%	27.4%	52.0%	20.0%	23.8%	10.3%	36.5%	29.5%

＊ サービスの利用に関しては、利用条件のあるものもあります。

問18 今後、市が取り組む保健福祉サービスとして、次のうちどれを優先して充実すべきだとお考えですか。（3つまで○）

(N=2,468)

- | | |
|--|-------|
| 1. 生きがいづくりを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など） | 19.8% |
| 2. 高齢者が働く場所を確保すること | 16.5% |
| 3. 世代間の交流・相互理解を促進すること | 5.8% |
| 4. 介護予防サービスを充実すること | 16.5% |
| 5. 在宅福祉サービスを充実すること | 19.3% |
| 6. 高齢者向けの住宅を整備したり、住宅改造を支援すること | 16.7% |
| 7. 特別養護老人ホームや老人保健施設など入所できる施設を整備すること | 34.9% |
| 8. 認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること | 16.5% |
| 9. 家族介護者への支援制度を充実すること | 28.4% |
| 10. 健康教育、健康相談、健康診査等の保健事業や医療体制を充実すること | 12.1% |
| 11. 健康づくりを推進すること（健康教室の開催・スポーツ活動の促進など） | 10.0% |
| 12. 保健・福祉関係の相談窓口を充実すること | 9.3% |
| 13. 保健・福祉サービスに関する人材を育成すること（保健師、介護職員など） | 7.6% |
| 14. ボランティアの育成、NPO法人の支援など民間活動を支援すること | 2.7% |
| 15. 道路の段差解消や公共的な建物へのエレベータの設置など、ひとにやさしいまちづくりを推進すること | 18.2% |
| 16. その他〔具体的に： 〕 | 1.4% |
| 17. 特にない | 3.5% |
| 無回答 | 8.8% |

問22 介護保険サービスでは以下のようなサービスを行っています。
これらのサービスの認識度、今後の利用意向についておたずねします。
(各サービスごとに「認識度」「利用意向」に1つつ〇)

(N=2,468)

事業名			認 識 度			利 用 意 向		
			知って いる	知らな い	無回答	利用 したい	利用し たくない	無回答
在宅サービス	①訪問介護 (生活援助主体)	家事など身の周りの援助	65.3%	16.2%	18.5%	48.5%	20.9%	30.6%
	②訪問介護 (身体介護主体)	介護など身の周りの援助	64.0%	16.1%	19.9%	47.1%	20.3%	32.6%
	③訪問看護	看護師等による家庭を訪問する看護	58.4%	21.6%	20.1%	48.7%	18.3%	33.1%
	④訪問リハビリテーション	理学療法士・作業療法士などが家庭を訪問して行う機能訓練	36.5%	42.1%	21.4%	44.7%	20.9%	34.5%
	⑤訪問入浴介護	入浴車により家庭を訪問する入浴介護	63.9%	16.4%	19.7%	39.6%	26.8%	33.6%
	⑥居宅療養管理指導	医師や看護師、歯科医師、管理栄養士等が訪問して行う療養上の管理指導	29.2%	49.1%	21.7%	43.8%	21.4%	34.8%
	⑦通所介護 (デイサービス)	デイサービスセンターなどでの入浴、レクリエーション、機能訓練	58.3%	21.3%	20.3%	43.8%	22.8%	33.5%
	⑧通所リハビリテーション (デイケア)	老人保健施設等での医療の管理下におけるリハビリテーション	47.4%	30.9%	21.8%	43.9%	20.6%	35.5%
	⑨短期入所生活介護 (ショートステイ)	特別養護老人ホーム等への短期間入所	53.6%	25.2%	21.2%	39.4%	26.1%	34.5%
	⑩短期入所療養介護 (ショートステイ)	老人保健施設等への短期間入所	49.5%	28.0%	22.4%	38.9%	25.9%	35.3%
	⑪特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム等)	有料老人ホーム、ケアハウス入所者への介護や日常生活上の世話	43.5%	34.0%	22.6%	30.7%	33.3%	36.0%
	⑫福祉用具の貸与	車いす等の貸出し	55.0%	24.2%	20.8%	48.9%	17.4%	33.8%
	⑬特定福祉用具販売	排泄等に使用される用具を購入した場合 10 万円を限度に購入費を支給	25.9%	52.4%	21.7%	46.8%	18.5%	34.8%
	⑭住宅改修費の支給	手すりやスロープなど、住宅の小規模な改修費の支給	45.9%	32.9%	21.1%	48.7%	17.3%	34.0%
施設サービス	①介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	常時介護を必要とする 65 歳以上の高齢者が入所する施設	55.1%	24.0%	20.9%	39.9%	26.1%	34.1%
	②介護老人保健施設 (老人保健施設)	看護・介護・療養等の専門的なサービスや日常的なサービスを提供し、機能回復を目指す施設	41.5%	36.8%	21.8%	44.4%	21.0%	34.6%
	③介護療養型医療施設	医療や看護が可能な介護の体制を充実させた医療施設	32.6%	45.2%	22.2%	45.8%	19.5%	34.7%

問23 次のような地域密着型サービスを知っていますか。また、利用したいと思えますか。(各サービスごとに「認識度」と「利用意向」に1つずつ○)

(N=2,468)

事業名		認 識 度			利 用 意 向		
		知っている	知らない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答
①夜間対応型訪問介護	定期巡回と利用者からの通報により随時対応する訪問介護を組み合わせる24時間サービスを提供する	19.0%	63.7%	17.3%	44.1%	23.3%	32.7%
②認知症対応型通所介護	認知症の居宅要介護者を対象とした通所介護サービスを提供する	17.3%	63.9%	18.8%	41.2%	24.3%	34.5%
③小規模多機能型居宅介護	「通い」を中心として、要介護者の状態から、随時「訪問」や「泊り」を組み合わせるサービスを提供する	15.9%	65.0%	19.1%	40.6%	25.6%	33.9%
④認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	地域のなかで中程度の認知症高齢者が少数の家庭的な環境の中で暮らす介護を提供する	20.1%	60.4%	19.5%	33.8%	31.7%	34.5%
⑤地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	入居定員29人以下の小規模な特別養護老人ホーム	16.1%	64.6%	19.3%	37.4%	29.4%	33.3%

＊ 地域密着型サービスは、高齢者が住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、身近な生活圏域(府中市の生活圏域は6つ)ごとにサービスの拠点をづくり、市町村ごとに行われるサービスです。

問24 あなたは、介護が必要になったとき、どこで生活したいと考えていますか。

(1つに○)

(N=2,468)

- | | |
|--|-------|
| 1. 家族などの介護を受けながら自宅で生活したい | 25.1% |
| 2. 在宅サービスを受けながら自宅で生活したい | 33.1% |
| 3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい | 10.7% |
| 4. 有料老人ホームに入居したい | 4.2% |
| 5. グループホーム(少人数を単位とした小規模な共同住居)に入居したい | 2.3% |
| 6. 自宅近くで様々なサービスが受けられる小さな施設などを利用しながら生活したい | 10.1% |
| 7. その他〔具体的に： 〕 | 0.9% |
| 8. わからない | 7.2% |
| 無回答 | 6.5% |

問25 「介護保険制度」全体をよりよくするため、市が力を入れるべきことは次のうちどれですか。(3つまで○)

(N=2,468)

1. サービス事業者の質を高めること	27.1%
2. ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること	18.2%
3. 市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと	36.8%
4. 利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと	35.1%
5. 介護保険についての市民向けの勉強会などを実施すること	3.8%
6. 寝たきりにならないよう、介護予防のサービスに力を入れること	25.4%
7. 地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと	3.6%
8. 身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと	18.6%
9. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	22.7%
10. 家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること	26.0%
11. 在宅介護支援センターを充実すること	9.4%
12. 介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること	7.9%
13. その他〔具体的に： 〕	1.0%
14. わからない	4.4%
無回答	8.5%

高齢者の権利擁護などについておたずねします

問26 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口として以下のようなものがありますが、あなたの知っているものはありますか。(いくつでも○)

(N=2,468)

1. 成年後見制度	31.5%	7. 行政の相談窓口(市役所など)	64.3%
2. 地域福祉権利擁護事業	4.3%	8. 社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)	40.6%
3. 在宅介護支援センター	46.1%	9. 権利擁護センターふちゅう	4.1%
4. 地域包括支援センター	8.1%	10. 消費生活相談室	30.6%
5. 見守りネットワーク	9.9%	11. 知っているものはない	9.6%
6. 高齢者虐待防止法	16.9%	無回答	11.4%

問27 あなたのまわり(あなたご本人も含む)に、下の枠内のようなことでお困りと思われる方はいますか。(1つに○)

(N=2,468)

1. いる	10.7%	2. いない	81.4%	無回答	7.8%
-------	-------	--------	-------	-----	------

・金銭管理ができない	・福祉サービスの利用に対する苦情が言えない
・悪質商法にだまされた	・土地の権利書など重要書類の管理ができない
・行政や金融機関などへの窓口手続きができない	

問 27-1 問 27 で「1. いる」と答えた方におたずねします。

それはどなたですか。(いくつでも○)

(n=265)

1. あなたご本人	37.4%	5. 知人	16.6%
2. 配偶者	20.0%	6. 近隣の人	14.0%
3. 子ども	13.2%	7. その他〔具体的に：	3.8%
4. 親族	18.1%	無回答	4.5%

問 27-2 問 27 で「1. いる」と答えた方におたずねします。

それはどのような事例ですか。(いくつでも○)

(n=265)

1. 金銭管理ができない	26.0%
2. 悪質商法にだまされた	23.0%
3. 行政や金融機関などへの窓口手続きができない	38.1%
4. 福祉サービスの利用に対する苦情が言えない	20.0%
5. 土地の権利書など重要書類の管理ができない	15.5%
6. その他〔具体的に：	7.9%
無回答	22.6%

最後に、市への要望についておたずねします

問28 保健福祉や介護保険について、府中市へのご意見・ご要望や知りたい情報がありましたら、ご自由にお書きください。

———ご協力ありがとうございました———

府中市福祉計画（介護保険居宅サービス利用者）調査

調査についてのお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、平成 20 年度に策定を予定しております「府中市福祉計画」の基礎資料として、福祉全般の調査を実施します。

この調査は、平成 19 年 9 月 30 日現在、65 歳以上で介護保険の居宅サービスを受けている方の中から、1,800 名を無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成 19 年 10 月 府中市

記入についてのお願い

6. 封筒のあて名ご本人について、ご記入をお願いいたします。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。回答はできる限り、あて名ご本人が記入してください。なお、あて名ご本人おひとりでの回答がむずかしい場合は、ご家族や周りの方がお手伝いいただくか、あて名ご本人の意見を聞いたうえで代わりに記入してください。
7. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
8. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
の場合は回答内容等を記入してください。
9. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
10. 「その他」に○印をつけられた方は、〔 〕内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

10 月 24 日(水)までにご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

問い合わせ先

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護支援係 担当：新藤、中野

TEL 042-335-4470

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護保険係 担当：田添、村越

TEL 042-335-4021

調査票のご記入に先立ちまして、おたずねします。

F 1 あなた（あて名ご本人）は現在どちらにいますか。（1つに○）

(N=1,384)

- | | | | | | |
|----------|-------|----------------|------|-----|------|
| 1. 自宅 | 88.6% | 3. 病院等に入院している | 2.1% | 無回答 | 4.0% |
| 2. 市外に転出 | 0.0% | 4. その他〔具体的に： 〕 | 5.3% | | |

→ 「2. 市外に転出」をお選びになった場合は、ここまでのご記入で結構です。
ご返送ください。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

F 2 この調査票はどなたがご記入されますか。（1つに○）

(N=1,384)

- | | | | | | | | |
|-----------|-------|--------|-------|----------------|------|-----|------|
| 1. あて名ご本人 | 42.0% | 2. ご家族 | 50.5% | 3. その他〔具体的に： 〕 | 3.6% | 無回答 | 3.9% |
|-----------|-------|--------|-------|----------------|------|-----|------|

あなた（あて名ご本人）のことをおたずねします

F 3 あなたの性別は次のうちどれですか。（1つに○）

(N=1,384)

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|
| 1. 男性 | 27.7% | 2. 女性 | 71.5% | 無回答 | 0.8% |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|

F 4 あなたの年齢は次のうちどれですか。（1つに○）

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(N=1,384)

- | | | | | | | | |
|------------|------|------------|-------|------------|-------|-----------|------|
| 1. 65～69 歳 | 2.7% | 3. 75～79 歳 | 17.1% | 5. 85～89 歳 | 25.2% | 7. 95 歳以上 | 5.3% |
| 2. 70～74 歳 | 7.3% | 4. 80～84 歳 | 27.0% | 6. 90～94 歳 | 15.0% | 無回答 | 0.5% |

F 5 あなたと同居*している方はどなたですか。（いくつでも○）

＊2世帯住宅は同居としてお答えください。

＊配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=1,384)

- | | | | |
|----------------------|-------|----------------|------|
| 1. ひとり暮らし（自分のみ） | 25.3% | 4. 父、母 | 0.3% |
| 2. 配偶者（夫または妻） | 33.2% | 5. 兄弟・姉妹 | 1.2% |
| 3. 息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む） | 47.0% | 6. その他〔具体的に： 〕 | 8.4% |
| | | 無回答 | 0.8% |

F 5-1 F 5で「2. 配偶者」～「6. その他」と答えた方におたずねします。

あなたと同居している方は次のどちらですか。（1つに○）

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(n=1,003)

- | | | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|-----|-------|
| 1. 同居者全員が 65 歳以上 | 30.3% | 2. 64 歳以下の同居者がいる | 43.1% | 無回答 | 26.6% |
|------------------|-------|------------------|-------|-----|-------|

F 5-2 F 5 で「2. 配偶者」と答えた方におたずねします。

あなたの配偶者の年齢は次のうちどれですか。(1つに○)

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(n=459)

1. 65 歳未満	6.5%	5. 80～84 歳	28.3%	無回答	2.6%
2. 65～69 歳	7.8%	6. 85～89 歳	13.1%		
3. 70～74 歳	14.2%	7. 90～94 歳	5.0%		
4. 75～79 歳	20.9%	8. 95 歳以上	1.5%		

F 6 あなたはどちらにお住まいですか。 内に記入してください。

	町		丁目
----------------------	---	----------------------	----

(N=1,384)

第一地区	19.1%	第三地区	17.2%	第五地区	12.1%	無回答	6.3%
第二地区	17.1%	第四地区	15.3%	第六地区	12.9%		

第一地区：多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台（1～3丁目）、若松町、浅間町、緑町
 第二地区：白糸台（4～6丁目）、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政
 第三地区：天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町
 第四地区：宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町
 第五地区：日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町（1～2丁目）、本宿町（3～4丁目）、西府町（3～4丁目）、東芝町
 第六地区：美好町（3丁目）、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町（1～2丁目）、西府町（1～2、5丁目）

F 7 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

(N=1,384)

1. 持ち家の一戸建て	60.1%	5. 公的賃貸住宅	11.3%
2. 持ち家の集合住宅	10.5%	6. 高齢者向け住宅	2.7%
3. 民間賃貸の一戸建て	2.5%	(有料老人ホーム、高齢者マンションなど)	
4. 民間賃貸の集合住宅	6.2%	7. その他[具体的に：]	2.1%
		無回答	4.6%

F 7-1 現在のお住まいで困っていることはありますか。(いくつでも○)

(N=1,384)

1. 玄関回りの段差で困っている	20.6%
2. 廊下や居室などの段差で困っている	9.1%
3. 屋内の階段の昇り降りが大変で困っている	12.5%
4. 浴室や浴槽が使いにくくて困っている	15.2%
5. トイレに手すりがなかったり洋式でなかったりするため困っている	3.5%
6. エレベーターがなくて困っている	5.4%
7. ごみが片付けられず、山積みになっている	3.3%
8. その他〔具体的に：]	9.1%
9. 特にない	40.4%
無回答	13.4%

医療の状況と介護予防についておたずねします

問1 現在の医療機関の受診状況についておたずねします。あなたは、現在治療中の病気はありますか。(1つに○)

(N=1,384)

1. ある 84.0% 2. ない 9.4% 無回答 6.6%

問2 あなたには、「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」はいますか。(それぞれ1つに○)

(N=1,384)

	いる	いない	わからない	無回答
①かかりつけ医	89.8%	3.8%	0.7%	5.8%
②かかりつけ歯科医	49.6%	24.9%	2.3%	23.3%
③かかりつけ薬局	65.5%	15.0%	3.0%	16.5%

＊ ここでいう「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」とは、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病気のことを日ごろから、気軽に相談できるような身近な開業医、歯科医、薬局をさします。

介護保険についておたずねします

問3 あなたの要介護度は次のうちどれですか。(1つに○)

＊平成19年9月30日現在の要介護度でお答えください。更新申請中などの理由で、結果が出ていない方は、わかっている要介護度でお答えください。

(N=1,384)

1. 要支援 1 15.4% 4. 要介護 2 22.9% 7. 要介護 5 4.5%
 2. 要支援 2 15.5% 5. 要介護 3 11.8% 無回答 5.3%
 3. 要介護 1 17.2% 6. 要介護 4 7.4%

問4 あなたの保険料段階は次のうちどれですか。(1つに○)

(N=1,384)

1. 第1段階（生活保護受給者及び市民税世帯非課税者で老齢福祉年金受給者等） 6.4%
 2. 第2段階（市民税世帯非課税者で、課税年金収入金額と合計所得金額の合計が80万円以下の者等） 7.9%
 3. 第3段階（市民税世帯非課税者で、第2段階に該当しない者等） 7.7%
 4. 第4段階（市民税本人非課税者等） 20.7%
 5. 第5段階（市民税本人課税者等（合計所得金額200万円未満）） 11.3%
 6. 第6段階（市民税本人課税者等（合計所得金額200万円以上500万円未満）） 14.4%
 7. 第7段階（市民税本人課税者（合計所得金額500万円以上）） 3.0%
 8. わからない 15.6%
 無回答 12.8%

問5 今後の介護保険サービスと保険料について、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

(N=1,384)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1. 保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい | 14.6% |
| 2. 保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である | 40.8% |
| 3. 介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい | 9.7% |
| 4. どちらともいえない | 27.3% |
| 無回答 | 7.6% |

問6 平成18年4月以降、介護サービスの利用に変化がありましたか。(1つに○)

(N=1,384)

- | | | | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|----------|-------|-----|------|
| 1. あった | 39.1% | 2. ない | 43.6% | 3. わからない | 12.9% | 無回答 | 4.5% |
|--------|-------|-------|-------|----------|-------|-----|------|

問 6-1 問6で「1. あった」と答えた方におたずねします。どのような変化がありましたか。(いくつでも○)

(n=541)

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 生活援助費の負担が増えた | 15.0% |
| 2. 病院への付き添いなどの自己負担が増えた | 13.3% |
| 3. 家族の負担が増えた(介護に要する時間) | 35.3% |
| 4. 家族の負担が増えた(介護費用) | 22.2% |
| 5. 希望するサービスが受けられなくなった | 31.2% |
| 6. その他〔具体的に： | 〕 17.0% |
| 7. わからない | 7.0% |
| 無回答 | 5.7% |

問7 介護保険サービスの最近1ヶ月の利用料は、利用限度額を超えていますか。利用限度額内に入っていますか。(1つに○)

(N=1,384)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 利用限度額を超えている | 7.5% |
| 2. 利用限度額内に入っている | 74.2% |
| 3. わからない | 14.7% |
| 無回答 | 3.5% |

問 7-1 問7で「1. 利用限度額を超えている」と答えた方におたずねします。
その理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

(n=104)

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1. サービスの回数が足りないから | 24.0% |
| 2. サービスの種類が足りないから | 13.5% |
| 3. 自己負担しても希望するサービスを受けたいから | 53.8% |
| 4. 介護者がいないから | 18.3% |
| 5. その他〔具体的に： 〕 | 7.7% |
| 6. わからない | 8.7% |
| 無回答 | 8.7% |

問 7-2 問7で「2. 利用限度額内に入っている」と答えた方におたずねします。
その理由は次のうちどれですか。(いくつでも○)

(n=1,027)

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1. いま受けているサービスで満足しているから | 53.0% |
| 2. 家族が介護してくれるから | 38.6% |
| 3. サービスに空きがないから | 4.7% |
| 4. 希望するサービスがないから〔希望するサービスを具体的に： 〕 | 5.9% |
| 5. どのようなサービスがあるのかわからないから | 7.0% |
| 6. 経済的に負担が大きいため | 13.3% |
| 7. その他〔具体的に： 〕 | 4.1% |
| 8. わからない | 3.3% |
| 無回答 | 5.0% |

問8 あなたは次のうちどの在宅サービスを利用していますか（説明をお読みください）。利用しているサービスすべてに○をつけてください。利用している方はその時間や回数もお答えください（要支援1、2の方はそれぞれ介護予防サービスと読み替えてお答えください）。

	1. 利用しているものに○	2. 利用回数など (1に○をつけた方のみ)	サ ー ビ ス 内 容 (説 明)
①訪問介護（生活援助主体） ※要介護者のみ	(n=883) 27.3%	(n=241) 平均 16.1 時間/月	家事など身の周りを援助します
②訪問介護（身体介護主体） ※要介護者のみ	(n=883) 21.1%	(n=186) 平均 13.7 時間/月	介護など身の周りを援助します
①+②介護予防訪問介護 ※要支援者のみ	(n=428) 55.6%	(n=238) 平均 18.4 時間/月	

※①訪問介護（生活援助主体）、②訪問介護（身体介護主体）は、問3で要介護1～5と回答した人を対象としている。

①+②介護予防訪問介護は問3で要支援1、2と回答した人を対象としている。③～は全体を対象としている。

	1. 利用しているものに○ (N=1,384)	2. 利用回数など(1 に○をつけた方のみ)	サ ー ビ ス 内 容 (説 明)
③訪問看護	7.4%	(n=102) 平均 5.3 時間/月	主治医の指示で看護師等が薬の管理・栄養指導など療養上のお世話をします
④訪問リハビリテーション	4.2%	(n=58) 平均 4.2 回 /月	理学療法士・作業療法士などが家庭を訪問し機能訓練を行います
⑤訪問入浴介護	6.9%	(n=95) 平均 4.8 回 /月	入浴車により家庭を訪問し、入浴介護を行います
⑥居宅療養管理指導	2.3%	(n=32) 平均 2.5 回 /月	医師や歯科医師、管理栄養士等が訪問し、療養上の管理指導を行います
⑦通所介護(デイサービス)	44.4%	(n=615) 平均 8.3 回 /月	デイサービスセンター等で入浴、レクリエーションなどや機能訓練を行います
⑧通所リハビリテーション (デイケア)	11.6%	(n=160) 平均 7.4 回 /月	老人保健施設等で医療の管理下においてリハビリテーションを行い、在宅での機能回復を目指します
⑨短期入所生活介護 (ショートステイ)	13.1%	(n=181) 平均 1 回 5.4 日 平均 14.2 回 /年	特別養護老人ホーム等に短期間入所し、日常生活上のお世話をします
⑩短期入所療養介護 (ショートステイ)	4.3%	(n=59) 平均 1 回 6.3 日 平均 13.9 回 /年	老人保健施設等に短期間入所し、日常生活のお世話をします
⑪特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム等)	1.7%		有料老人ホーム、ケアハウス入所者に介護や日常生活上のお世話をします
⑫福祉用具の貸与	20.2%		車いす等の貸し出しを行います
⑬特定福祉用具販売	5.7%		排泄等に使われる用具を購入した場合10万円を限度に購入費を支給します
⑭住宅改修費の支給	11.8%		手すりやスロープなど、住宅の小規模な改修費を支給します
無回答	10.4%		

問9 これからどのような介護保険サービスを利用したいですか。それぞれ、「1」(利用したい)か「2」(利用しない)に回答してください。(1つつ○)

		利用 したい	利用したい方 その頻度・回数を記入	利用 しない	無回答
在宅 サ ー ビ ス	①訪問介護(生活援助主体) (n=883) ※要介護者のみ	28.1%	1か月あたり 平均 15.9 時間くらい	23.2%	48.7%
	②訪問介護(身体介護主体) (n=883) ※要介護者のみ	21.1%	1か月あたり 平均 14.8 時間くらい	25.6%	53.3%
	①+②介護予防訪問介護 (n=428) ※要支援者のみ	47.4%	1か月あたり 平均 18.4 時間くらい	13.1%	39.5%

※①訪問介護(生活援助主体)、②訪問介護(身体介護主体)は、問3で要介護1～5と回答した人を対象としている。

①+②介護予防訪問介護は問3で要支援1、2と回答した人を対象としている。③～は全体を対象としている。

(N=1,384)

		利用 したい	利用したい方			利用 しない	無回答
			その頻度・回数を記入				
在宅サービス	③訪問看護	9.4%	1 か月あたり	平均	7.0 時間くらい	26.3%	64.3%
	④訪問リハビリテーション	7.2%	1 か月あたり	平均	4.9 回 くらい	27.2%	65.6%
	⑤訪問入浴介護	10.8%	1 か月あたり	平均	5.4 回 くらい	26.6%	62.6%
	⑥居宅療養管理指導	4.3%	1 か月あたり	平均	2.5 回 くらい	28.3%	67.5%
	⑦通所介護（デイサービス）	34.9%	1 か月あたり	平均	8.9 回 くらい	14.4%	50.7%
	⑧通所リハビリテーション（デイケア）	12.6%	1 か月あたり	平均	7.5 回 くらい	23.2%	64.2%
	⑨短期入所生活介護（ショートステイ）	21.6%	1 年間に	平均	15.5 回 くらい	20.0%	58.4%
	⑩短期入所療養介護（ショートステイ）	6.9%	1 年間に	平均	10.8 回 くらい	25.3%	67.8%
	⑪特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）	7.4%				30.2%	62.4%
	⑫福祉用具の貸与	25.6%				17.8%	56.6%
	⑬特定福祉用具販売	13.8%				22.8%	63.4%
	⑭住宅改修費の支給	16.3%				22.5%	61.3%
施設サービス	⑮介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	16.4%				24.4%	59.2%
	⑯介護老人保健施設（老人保健施設）	13.4%				24.3%	62.3%
	⑰介護療養型医療施設	12.4%				25.0%	62.6%

問10 次のような地域密着型サービスを知っていますか。また、利用したいと思いませんか。（各サービスごとに「認識度」と「利用意向」に1つずつ○）

(N=1,384)

事業名		認 識 度			利 用 意 向		
		知って いる	知らな い	無回答	利用 したい	利用 しない	無回答
①夜間対応型 訪問介護	定期巡回と利用者からの通報により随時対応する訪問介護を組み合わせ、24 時間サービスを提供する	26.0%	45.6%	28.4%	18.4%	37.5%	44.1%
②認知症対応型 通所介護	認知症の居宅要介護者を対象とした通所介護サービスを提供する	24.8%	42.8%	32.4%	18.1%	35.3%	46.6%
③小規模多機能型 居宅介護	「通い」を中心として、要介護者の状態から、随時「訪問」や「泊り」を組み合わせ、サービスを提供する	19.9%	47.1%	32.9%	18.4%	35.3%	46.2%
④認知症対応型 共同生活介護 （グループホーム）	地域のなかで中程度の認知症高齢者が少数の家庭的な環境の中で暮らす介護を提供する	27.5%	39.7%	32.8%	12.4%	40.4%	47.2%
⑤地域密着型 介護老人福祉施設 入所者生活介護	入居定員 29 人以下の小規模な特別養護老人ホーム	20.9%	52.6%	26.5%	22.2%	37.8%	40.0%

＊ 地域密着型サービスは、高齢者が住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、身近な生活圏域（府中市の生活圏域は6つ）ごとにサービスの拠点をつくり、市町村ごとに行われるサービスです。

問11 あなたは、今後、どこで生活したいと考えていますか。(1つに○)

(N=1,384)

1. 家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	31.6%
2. 在宅サービスを受けながら自宅で生活したい	34.2%
3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	6.9%
4. 有料老人ホームに入居したい	2.2%
5. グループホーム(少人数を単位とした小規模な共同住居)に入居したい	1.0%
6. 自宅近くで様々なサービスが受けられる小さな施設などを利用しながら生活したい	6.5%
7. その他〔具体的に： 〕	1.8%
8. わからない	6.4%
無回答	9.3%

問12 「介護保険制度」全体をよりよくするため、市が力を入れるべきことは次のうちどれですか。(3つまで○)

(N=1,384)

1. サービス事業者の質を高めること	22.3%
2. ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること	26.2%
3. 市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと	32.1%
4. 利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと	32.3%
5. 介護保険についての市民向けの勉強会などを実施すること	3.3%
6. 寝たきりにならないよう、介護予防のサービスに力を入れること	23.0%
7. 地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと	7.7%
8. 身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと	15.1%
9. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	19.5%
10. 家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること	26.7%
11. 在宅介護支援センターを充実すること	8.6%
12. 介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること	9.5%
13. その他〔具体的に： 〕	2.3%
14. わからない	5.2%
無回答	8.8%

利用者本位のサービスのあり方についておたずねします

問13 要介護1～5の方にはうかがいます。あなたは、現在のケアプランに満足していますか。(1つに○)

(n=883)

1. 満足している	38.7%	4. やや不満である	12.3%
2. やや満足している	25.3%	5. 不満である	2.0%
3. ふつう	17.2%	無回答	4.4%

問13-1 問13で「4. やや不満である」または「5. 不満である」と答えた方におたずねします。ご不満の内容はどのようなものですか。(いくつでも○)

(n=127)

1. サービスの種類が希望より少ない	32.3%	5. サービスの時間帯が希望通りでない	29.1%
2. サービスの種類が希望より多すぎる	0.8%	6. サービスに制限が多い	60.6%
3. サービスの回数が希望より少ない	27.6%	7. その他〔具体的に：〕	13.4%
4. サービスの回数が希望より多すぎる	0.0%	無回答	2.4%

問14 要支援1～2の方にはうかがいます。あなたは、現在の介護予防ケアプランに満足していますか。(1つに○)

(n=428)

1. 満足している	32.2%	4. やや不満である	15.7%
2. やや満足している	22.0%	5. 不満である	3.3%
3. ふつう	18.0%	無回答	8.9%

問14-1 問14で「4. やや不満である」または「5. 不満である」と答えた方におたずねします。ご不満の内容はどのようなものですか。(いくつでも○)

(n=81)

1. サービスの種類が希望より少ない	33.3%	5. サービスの時間帯が希望通りでない	22.2%
2. サービスの種類が希望より多すぎる	0.0%	6. サービスに制限が多い	42.0%
3. サービスの回数が希望より少ない	32.1%	7. その他〔具体的に：〕	18.5%
4. サービスの回数が希望より多すぎる	4.9%	無回答	6.2%

問15 あなたは、ケアマネジャーに満足していますか。(1つに○)

(N=1,384)

1. 満足している	55.6%	4. やや不満である	4.6%
2. やや満足している	12.9%	5. 不満である	1.6%
3. ふつう	19.4%	無回答	5.8%

問16 あなたは、ケアマネジャーについて、どのように感じていますか。

(①～⑧の各質問について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください)

(N=1,384)

	そう 思う	どちら ともい えない	そう思 わない	無回答
①ケアプラン（又は介護予防ケアプラン）作成前に話をよく聞いてくれた	68.4%	10.1%	1.8%	19.7%
②サービス事業者の情報を提供してくれる	47.5%	18.9%	5.5%	28.0%
③サービス事業者との連絡や調整をしてくれる	60.0%	11.9%	2.8%	25.2%
④介護保険以外の市のサービス等の情報も提供してくれる	34.4%	26.4%	9.4%	29.8%
⑤ケアプラン（又は介護予防ケアプラン）作成後も相談にのってくれる	55.8%	14.9%	2.7%	26.7%
⑥月1回程度、定期的に訪問して様子を見てくれる	63.2%	9.5%	5.4%	21.8%
⑦サービス内容の見直しについて提案してくれる	45.3%	20.6%	4.8%	29.3%
⑧サービス提供事業者に苦情、不満や要望を伝えてくれる	40.8%	23.7%	4.3%	31.2%

問17 あなたが介護サービス事業者を評価する点はどんなことですか。

(いくつでも○)

(N=1,384)

1. 利用者や家族の意向をよく聞く	65.2%	6. サービスが受けやすい	39.3%
2. 約束を守る	34.5%	7. サービスの質がよい	32.9%
3. 秘密を守る	25.9%	8. その他	4.0%
4. 人権・プライドを尊重する	31.7%	〔具体的に： 〕	
5. 職員の質がよい	48.6%	無回答	12.7%

問18 介護サービス事業者の提供するサービスに不満がある場合に、不満や苦情を事業者に訴えることができますか。(1つに○)

(N=1,384)

1. 不満や苦情を常に言うことができる	53.5%
2. 不満や苦情は言えない	22.5%
無回答	23.9%

問18-1 問18で「2. 不満や苦情は言えない」と答えた方におたずねします。

不満や苦情を言えない理由はなんですか。(いくつでも○)

(n=312)

1. 不満や苦情を言いにくい雰囲気があるから	21.2%
2. 不満や苦情を誰に言えばよいかわからないから	25.6%
3. 不満や苦情をどう言ったらいいかわからないから	25.6%
4. 不満や苦情を言うことで、サービスが悪くなると困るから	43.9%
5. その他〔具体的に： 〕	19.9%
無回答	4.2%

問19 ケアプラン（又は介護予防ケアプラン）の作成は「ケアマネジャーに依頼する方法」と「自分で作成する方法（マイケアプラン）」があることを知っています。

(1つに○)

(N=1,384)

1. よく知っている	24.6%	2. 聞いたことがある	26.0%	3. 知らない	40.8%	無回答	8.7%
------------	-------	-------------	-------	---------	-------	-----	------

問 19-1 (自分で自分のケアプラン又は介護予防ケアプランを作る) マイケアプランを作りたいと思いますか。(1つに○)

(N=1,384)

- | | | | |
|--------------------------|-------|---------------|-------|
| 1. 作ってみたい | 3.0% | 4. わからない | 24.4% |
| 2. 相談する場所があれば作ってみたい | 8.2% | 5. その他[具体的に:] | 2.0% |
| 3. 作りたくない(ケアマネジャーにまかせたい) | 45.6% | 無回答 | 16.9% |

介護保険サービスの満足度についておたずねします

問20 介護保険サービスの満足度についておたずねします。(※要支援 1、2 の方は、それぞれ介護予防サービスと読みかえてお答えください。)

A. 利用している(利用する予定がある)サービスに○をつけてください。

B. 利用しているサービス(Aで○をつけたサービス)には満足していますか。
(あてはまる番号に1つずつ○)

C. 不満なサービスは、その理由を下の欄からいくつでも選んで記入してください。

(N=1,384)

※それぞれのサービスの内容は、5ページの問8の説明を参考にしてください。

	A 利用しているサービス	B 利用中のサービスの満足度 利用している方はいずれかに○						C 「やや不満」「不満」である理由を下の欄から番号で選んで記入してください。
		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	
記入例) ①訪問介護	○	1	2	3	④			例) 1、5
①訪問介護(生活援助主体)	34.5%	(n=478) 39.7%	24.7%	23.0%	7.7%	0.8%	4.0%	(n=41) 1. 回数や時間が足りない 53.7% 2. 利用の日時が合わない 2.4% 3. 技術的に不安を感じる 12.2% 4. 契約内容とサービスが違っている 7.3% 5. サービス内容についての説明が不十分である 4.9% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 4.9% 7. 担当者がよく替わる 7.3% 8. 担当者と合わない 7.3% 9. 利用料が高い 2.4% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 2.4% 12. その他(具体的に:) 9.8% 無回答 24.4%
②訪問介護(身体介護主体)	15.6%	(n=216) 44.0%	25.9%	19.4%	6.0%	1.9%	2.8%	(n=17) 1. 回数や時間が足りない 29.4% 2. 利用の日時が合わない 11.8% 3. 技術的に不安を感じる 17.6% 4. 契約内容とサービスが違っている 11.8% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 5.9% 7. 担当者がよく替わる 17.6% 8. 担当者と合わない 5.9% 9. 利用料が高い 5.9% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 11.8% 12. その他(具体的に:) 17.6% 無回答 23.5%
③訪問看護	7.1%	(n=98) 60.2%	15.3%	17.3%	5.1%	0.0%	2.0%	(n=5) 1. 回数や時間が足りない 0.0% 2. 利用の日時が合わない 20.0% 3. 技術的に不安を感じる 20.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 20.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 0.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他(具体的に:) 60.0% 無回答 0.0%

※それぞれのサービスの内容は、5ページの問8の説明を参考にしてください。	A	B 利用中のサービスの満足度						C
	利用しているサービス	利用している方はいずれかに○						「やや不満」「不満」である理由を下の欄から番号で選んで記入してください。
		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	
記入例) ①訪問介護	○	1	2	3	④			例) 1、5
④訪問リハビリテーション	3.9%	(n=54) 57.4%	14.8%	16.7%	1.9%	3.7%	5.6%	(n=3) 1. 回数や時間が足りない 66.7% 2. 利用の日時が合わない 33.3% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 33.3% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 0.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他（具体的に： ） 0.0% 無回答 0.0%
⑤訪問入浴介護	6.9%	(n=96) 60.4%	18.8%	11.5%	2.1%	3.1%	4.2%	(n=5) 1. 回数や時間が足りない 20.0% 2. 利用の日時が合わない 20.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 40.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 20.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他（具体的に： ） 0.0% 無回答 20.0%
⑥居宅療養管理指導	2.5%	(n=34) 58.8%	2.9%	32.4%	2.9%	0.0%	2.9%	(n=1) 1. 回数や時間が足りない 0.0% 2. 利用の日時が合わない 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 100.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他（具体的に： ） 100.0% 無回答 0.0%
⑦通所介護（デイサービス）	41.8%	(n=579) 59.2%	20.4%	14.2%	3.3%	0.2%	2.8%	(n=20) 1. 回数や時間が足りない 45.0% 2. 利用の日時が合わない 10.0% 3. 技術的に不安を感じる 10.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 10.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 10.0% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 5.0% 9. 利用料が高い 5.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他（具体的に： ） 15.0% 無回答 10.0%
⑧通所リハビリテーション（デイケア）	11.9%	(n=165) 49.7%	22.4%	18.2%	4.2%	0.6%	4.8%	(n=8) 1. 回数や時間が足りない 12.5% 2. 利用の日時が合わない 12.5% 3. 技術的に不安を感じる 12.5% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 12.5% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 12.5% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他（具体的に： ） 37.5% 無回答 12.5%

※それぞれのサービスの内容は、5ページの問8の説明を参考にしてください。	A	B 利用中のサービスの満足度						C
	利用しているサービス	利用している方はいずれかに○						「やや不満」「不満」である理由を下の欄から番号を選んで記入してください。
		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	
記入例) ①訪問介護	○	1	2	3	④			例) 1、5
⑨短期入所生活介護 (ショートステイ)	13.4%	(n=186) 48.9%	23.7%	14.0%	9.7%	0.5%	3.2%	(n=19) 1. 回数や時間が足りない 21.1% 2. 利用の日時が合わない 21.1% 3. 技術的に不安を感じる 10.5% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 5.3% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 10.5% 9. 利用料が高い 5.3% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 15.8% 12. その他 (具体的に:) 26.3% 無回答 15.8%
⑩短期入居療養介護 (ショートステイ)	2.7%	(n=38) 42.1%	18.4%	31.6%	2.6%	2.6%	2.6%	(n=2) 1. 回数や時間が足りない 0.0% 2. 利用の日時が合わない 50.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 0.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他 (具体的に:) 0.0% 無回答 50.0%
⑪特定施設入居者生活介護	1.2%	(n=17) 29.4%	29.4%	29.4%	5.9%	5.9%	0.0%	(n=2) 1. 回数や時間が足りない 0.0% 2. 利用の日時が合わない 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 50.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 0.0% 10. プライバシーへの配慮がない 50.0% 11. 緊急時に対応してくれない 50.0% 12. その他 (具体的に:) 0.0% 無回答 0.0%
⑫福祉用具の貸与	18.5%	(n=256) 65.2%	12.9%	14.8%	0.8%	0.8%	5.5%	(n=4) 1. 回数や時間が足りない 0.0% 2. 利用の日時が合わない 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 25.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 25.0% 12. その他 (具体的に:) 25.0% 無回答 25.0%
⑬特定福祉用具販売	5.9%	(n=82) 56.1%	13.4%	19.5%	3.7%	1.2%	6.1%	(n=4) 1. 回数や時間が足りない 0.0% 2. 利用の日時が合わない 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 0.0% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者と合わない 0.0% 9. 利用料が高い 0.0% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 25.0% 12. その他 (具体的に:) 50.0% 無回答 25.0%

※それぞれのサービスの内容は、5ページの問8の説明を参考にしてください。	A	B 利用中のサービスの満足度						C
	利用しているサービス	利用している方はいずれかに○						「やや不満」「不満」である理由を下の欄から番号で選んで記入してください。
		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	無回答	
記入例) ①訪問介護	○	1	2	3	④			例) 1、5
⑭住宅改修費の支給	9.2%	(n=128) 50.0%	21.1%	15.6%	3.9%	3.1%	6.3%	(n=9) 1. 回数や時間が足りない 0.0% 2. 利用の日時があわない 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 契約内容とサービスが違っている 0.0% 5. サービス内容についての説明が不十分である 11.1% 6. 不満、要望などを聞いてもらえない 0.0% 7. 担当者がよく替わる 0.0% 8. 担当者合わない 0.0% 9. 利用料が高い 22.2% 10. プライバシーへの配慮がない 0.0% 11. 緊急時に対応してくれない 0.0% 12. その他〔具体的に: 〕 22.2% 無回答 44.4%
無回答	17.0%							

《「やや不満」「不満」である理由》

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 回数や時間が足りない | 7. 担当者がよく替わる |
| 2. 利用の日時があわない | 8. 担当者合わない |
| 3. 技術的に不安を感じる | 9. 利用料が高い |
| 4. 契約内容とサービスが違っている | 10. プライバシーへの配慮がない |
| 5. サービス内容についての説明が不十分である | 11. 緊急時に対応してくれない |
| 6. 不満、要望などを聞いてもらえない | 12. その他〔具体的に: 〕 |

問21 介護保険サービスを利用するようになってから、あなたの生活環境や身体状況はどのようになりましたか。(1つに○)

(N=1,384)

- | | | | | | |
|-----------|-------|----------------|-------|-----|-------|
| 1. 改善した | 27.9% | 3. 以前とあまり変わらない | 20.0% | 無回答 | 12.9% |
| 2. やや改善した | 37.7% | 4. 悪くなった | 1.5% | | |

問21-1 問21で「3. 以前とあまり変わらない」または「4. 悪くなった」と答えた方におたずねします。生活環境や身体状況が変わらない、悪くなった理由はなんですか。(いくつでも○)

(n=298)

- | | |
|------------------------|-------|
| 1. サービスの回数が少ないから | 22.8% |
| 2. サービスの内容が自分に合っていないから | 13.4% |
| 3. その他〔具体的に: 〕 | 39.3% |
| 無回答 | 27.9% |

高齢者の権利擁護などについておたずねします

問22 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口として以下のようなものがありますが、あなたの知っているものはありますか。(いくつでも○)

(N=1,384)

1. 成年後見制度	28.8%
2. 地域福祉権利擁護事業	6.0%
3. 在宅介護支援センター	54.4%
4. 地域包括支援センター※	19.3%
5. 見守りネットワーク	15.8%
6. 高齢者虐待防止法	14.7%
7. 行政の相談窓口(市役所など)	43.1%
8. 社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)	32.2%
9. 権利擁護センターふちゅう	3.8%
10. 消費生活相談室	20.2%
11. 知っているものはない	10.2%
無回答	15.6%

※地域包括支援センターは、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー中心となって、介護予防事業のマネジメント、総合的な相談・支援、虐待防止などの権利擁護などを行います。

問23 あなたのまわり(あなたご本人も含む)に、下の枠内のようなことでお困りと思われる方はいますか。(1つに○)

(N=1,384)

1. いる 23.3% 2. いない 57.2% 無回答 19.4%

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ・金銭管理ができない | ・福祉サービスの利用に対する苦情が言えない |
| ・悪質商法にだまされた | ・土地の権利書など重要書類の管理ができない |
| ・行政や金融機関などへの窓口手続きができない | |

問23-1 問23で「1. いる」と答えた方におたずねします。

それはどなたですか。(いくつでも○)

(n=323)

1. あなたご本人	74.6%	5. 知人	5.0%
2. 配偶者	16.7%	6. 近隣の人	4.6%
3. 子ども	11.5%	7. その他〔具体的に： 〕	2.2%
4. 親族	4.6%	無回答	1.2%

問 23-2 問 23 で「1. いる」と答えた方におたずねします。

それはどのような事例ですか。(いくつでも○)

(n=323)

1. 金銭管理ができない	60.4%
2. 悪質商法にだまされた	17.0%
3. 行政や金融機関などへの窓口手続きができない	65.6%
4. 福祉サービスの利用に対する苦情が言えない	24.8%
5. 土地の権利書など重要書類の管理ができない	40.9%
6. その他〔具体的に：	6.8%
無回答	8.0%

問24 あなたは、災害時に避難を助けたり、避難状況を確認するために、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、あなたの住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて、どう思いますか。(1 つに○)

(N=1,384)

1. 最低限の情報ならば、知らせておいてもいい	74.1%
2. 知らせたくない	2.5%
3. わからない	10.3%
無回答	13.2%

保健福祉サービスについておたずねします

問25 市では介護保険以外にも様々な保健福祉サービスを行っています。以下のようなサービスの利用状況、今後の利用意向についておたずねします。

(サービスごとに「利用状況」「利用意向」に1つつ○)

(N=1,384)

事業名		利 用 状 況					利 用 意 向			
		利用している	利用したことがある	知っているが利用していない	知らない	無回答	利用したい	利用したくない	わからない	無回答
①高齢者福祉電話	ひとり暮らし等の人の安否確認、孤独感解消のため電話を貸与する	1.2%	0.7%	22.4%	44.7%	31.0%	8.2%	18.6%	25.4%	47.8%
②入浴券支給	ひとり暮らし等の人で自宅に風呂設備のない方に無料入浴券を配布する	0.9%	0.6%	28.7%	36.2%	33.7%	4.3%	27.8%	17.8%	50.1%
③家具転倒防止器具の取付	ひとり暮らし等の人が家庭内で所有する家具に家具転倒防止器具を取り付ける	3.2%	1.8%	24.1%	40.1%	30.9%	22.1%	11.8%	18.6%	47.4%
④「食」の自立支援サービス	ひとり暮らし等の人に、調理した食事を自宅に届けて安否確認をし、食生活改善の講習会・指導等を行う	4.5%	2.5%	30.5%	31.3%	31.3%	14.7%	16.8%	20.6%	47.8%
⑤自立支援ショートステイ	月 7 日を上限に養護老人ホームに滞在し健康管理や食事提供などを行う	5.4%	3.9%	32.4%	26.4%	31.9%	20.0%	15.5%	17.5%	47.0%
⑥高齢者医療ショートステイ	月 7 日を上限に市内の医療機関に入院し療養管理・健康管理を行う	1.1%	0.9%	27.5%	37.7%	32.8%	18.3%	14.5%	20.6%	46.7%
⑦入浴サービス	在宅サービスセンターで月 3 回の入浴が受けられる	4.6%	0.9%	36.6%	26.4%	31.4%	13.6%	19.3%	19.3%	47.8%
⑧日常生活用具給付とレンタル	一時的に身体機能が低下している方に用具などを貸与または給付する	12.6%	5.7%	28.9%	21.7%	31.0%	24.9%	8.7%	17.8%	48.6%
⑨はいかい高齢者探索サービス	はいかい探索システムを用い、行方不明時に早期に居場所を発見し、事故を防止する	1.2%	0.4%	17.5%	47.0%	34.0%	10.2%	14.7%	25.9%	49.2%
⑩日常生活用品（おむつ）の助成	おむつが必要な方が布または紙おむつのどちらかを自宅で受け取る	15.9%	3.5%	23.6%	28.7%	28.3%	26.1%	9.3%	17.1%	47.5%
⑪車いす福祉タクシー	リフト付タクシーによる通院を年間 24 回を限度に利用できる	6.2%	2.5%	31.4%	29.6%	30.3%	25.1%	8.5%	19.6%	46.8%
⑫寝具乾燥サービス	月 1 回、寝具を自宅まで受け取りに行き、その日のうちに乾燥して返す	1.7%	1.1%	18.6%	47.8%	30.8%	24.9%	11.4%	18.4%	45.2%
⑬訪問理髪サービス	自宅に月 1 回理容師が訪問して理髪が受けられる	6.9%	1.8%	23.3%	39.7%	28.3%	26.7%	11.7%	17.5%	44.1%

＊サービスの利用に関しては、利用条件のあるものもあります。

市への要望についておたずねします

問26 保健福祉や介護保険について、府中市へのご意見・ご要望や知りたい情報がありましたら、ご自由にお書きください。

【ここからは、主に介護している方が記入してください。主な介護者がいない方は、ここから先の設問に回答する必要はありません。ご返送ください。】

主な介護者の状況やご意向についておたずねします

問27 あて名のご本人を主に介護しているのは、どなたですか。（1つに○）

(N=1,384)

1. 配偶者	16.9%	4. 娘・息子の配偶者	11.2%	7. その他の親族	0.5%
2. 娘	20.4%	5. 兄弟姉妹	1.1%	8. その他[具体的に:]	2.1%
3. 息子	10.5%	6. 親	0.7%	無回答	36.7%

問28 あて名のご本人を主に介護している方の年齢はおいくつですか。（1つに○）

(N=1,384)

1. 30歳未満	0.1%	4. 50歳代	20.2%	7. 70～74歳	5.3%	10. 85～89歳	2.0%
2. 30歳代	0.5%	5. 60～64歳	11.2%	8. 75～79歳	5.3%	11. 90～94歳	0.4%
3. 40歳代	5.8%	6. 65～69歳	6.5%	9. 80～84歳	5.6%	12. 95歳以上	0.1%
無回答							37.2%

問29 あて名のご本人を主に介護している方はどこに住んでいますか。（1つに○）

(N=1,384)

1. 同じ住宅	47.1%	4. 府中市内	7.4%
2. 同じ住宅ではないが同じ敷地	1.7%	5. 東京都内	3.4%
3. 同じ町内	1.0%	6. その他〔具体的に:]	2.6%
無回答			36.8%

問30 あて名のご本人を介護している期間はどのくらいですか。（1つに○）

(N=1,384)

1. 1年未満	5.1%	3. 3年以上5年未満	15.8%	5. 10年以上	9.5%
2. 1年以上3年未満	17.1%	4. 5年以上10年未満	13.9%	無回答	38.7%

問31 あて名のご本人の介護に1日に平均してどのくらいかかわっていますか。

(1つに○)

(N=1,384)

1. 1時間未満	4.6%	4. 6～10 時間未満	4.6%	7. 決まっていない	23.6%
2. 1～4時間未満	13.2%	5. 10 時間以上	3.7%	無回答	40.0%
3. 4～6時間未満	4.1%	6. 1日中かかりきり	6.2%		

問32 あなたは、今後、あて名のご本人がどこで生活するのが良いと考えていますか。

(1つに○)

(N=1,384)

1. 家族などの介護を受けながら自宅で生活する	20.8%
2. 在宅サービスを受けながら自宅で生活する	21.0%
3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する	9.6%
4. 有料老人ホームに入居する	1.4%
5. グループホーム（少人数を単位とした小規模な共同住居）に入居する	0.7%
6. 自宅近くで様々なサービスが受けられる小さな施設などを利用しながら生活する	4.6%
7. その他〔具体的に： 〕	1.2%
8. わからない	3.9%
無回答	36.8%

問33 介護をしていくうえで、どのようなことに問題がありますか。(いくつでも○)

(N=1,384)

1. 精神的に疲れ、ストレスがたまる	45.3%
2. 肉体的に疲れる	29.6%
3. 自分の自由な時間がない	28.6%
4. 家族や自分の仕事に影響がある	19.5%
5. 介護がいつまで続くのかわからない	36.6%
6. 経済的な負担がかさむ	17.0%
7. 介護の方法がわからない	4.8%
8. 介護に関して相談する相手がいない	3.1%
9. 介護サービスに関する情報が少ない	5.6%
10. 家族や親族の協力が得られない	8.7%
11. 介護事業所・医療機関が近くにない	1.7%
12. 夜間のサービスが足りない	5.0%
13. その他〔具体的に： 〕	4.2%
14. 特にない	3.3%
無回答	40.0%

問34 介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市へのご意見・ご要望・ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

———ご協力ありがとうございました———

府中市福祉計画（介護保険施設サービス利用者）調査

調査についてのお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、平成 20 年度に策定を予定しております「府中市福祉計画」の基礎資料として、福祉全般の調査を実施します。

この調査は、平成 19 年 9 月 30 日現在、65 歳以上で介護保険の施設サービスを受けている方の中から、500 名を選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成 19 年 10 月 府中市

記入についてのお願い

11. 封筒のあて名ご本人について、ご記入をお願いいたします。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。回答はできる限り、あて名ご本人が記入してください。
なお、あて名ご本人おひとりでの回答がむずかしい場合は、ご家族や周りの方がお手伝いいただくか、あて名ご本人の意見を聞いたうえで代わりに記入してください。
12. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
13. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
☐の場合は回答内容等を記入してください。
14. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
15. 「その他」に○印をつけられた方は、〔 〕内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

10 月 24 日(水)までにご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

問合せ先

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護支援係 担当：新藤、中野

TEL 042-335-4470

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護保険係 担当：田添、村越

TEL 042-335-4021

調査票のご記入に先立ちまして、おたずねします

◆入所されている施設の種類について、あてはまる番号に○をつけてください。

(N=366)

1. 特別養護老人ホーム	63.1%	3. 介護療養型医療施設	13.4%
2. 老人保健施設	21.0%	無回答	2.5%

◆あて名ご本人やご家族が何らかの事情により回答できない場合は、その理由にあてはまる番号に○をつけて、ご返送ください。

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 退所（居）・退院 | 3. 家族の意向 |
| 2. ご本人の意向 | 4. その他〔具体的に： 〕 |

あて名ご本人のことをおたずねします

※ あて名ご本人がおひとりで回答が難しい場合は、ご本人の立場に立って、ご家族が記入してください。

F 1 この調査票はどなたがご記入されますか。（1つに○）

(N=366)

1. あて名ご本人	2.7%	5. 娘・息子の配偶者	10.4%
2. 配偶者（夫または妻）	9.0%	6. 兄弟・姉妹	3.8%
3. 娘	27.0%	7. その他親族	3.6%
4. 息子	25.1%	8. その他〔具体的に： 〕	16.1%
		無回答	2.2%

F 2 性別は次のうちどれですか。（1つに○）

(N=366)

1. 男性	21.3%	2. 女性	77.0%	無回答	1.6%
-------	-------	-------	-------	-----	------

F 3 年齢は次のうちどれですか。（1つに○）

*平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(N=366)

1. 65～69 歳	3.6%	4. 80～84 歳	20.2%	7. 95 歳以上	12.3%
2. 70～74 歳	6.6%	5. 85～89 歳	22.1%	無回答	1.6%
3. 75～79 歳	11.7%	6. 90～94 歳	21.9%		

F 4 施設に入所されてどのくらいですか。（1つに○）

(N=366)

1. 半年以内	15.6%	4. 2 年以上 3 年未満	11.7%	無回答	1.9%
2. 半年以上 1 年未満	15.6%	5. 3 年以上 5 年未満	18.0%		
3. 1 年以上 2 年未満	17.2%	6. 5 年以上	19.9%		

F 5 入所する前に同居*していた方はどなたですか。（いくつでも○）

＊ 2世帯住宅は同居としてお答えください。

＊ 配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=366)

1. ひとり暮らし（ご本人のみ）	20.5%	4. 父、母	0.3%
2. 配偶者（夫または妻）	22.4%	5. 兄弟・姉妹	3.3%
3. 息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む）	50.0%	6. その他〔具体的に： 〕	7.9%
		無回答	5.2%

F 5-1 F 5で「2. 配偶者」と答えた方におたずねします。

配偶者の年齢は次のうちどれですか。（1つに○）

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(n=82)

1. 65 歳未満	2.4%	5. 80～84 歳	29.3%	無回答	11.0%
2. 65～69 歳	7.3%	6. 85～89 歳	14.6%		
3. 70～74 歳	12.2%	7. 90～94 歳	6.1%		
4. 75～79 歳	13.4%	8. 95 歳以上	3.7%		

身体状況についておたずねします

問1 次にあげる病気にかかったこと、またはかかっているものがありますか。

（いくつでも○）

(N=366)

1. 高血圧症	30.1%	8. がん（悪性新生物）	6.3%
2. 高コレステロール血症（高脂血症）	6.0%	9. 目の病気	25.1%
3. 脳卒中（脳梗塞、脳出血等）	23.5%	10. 耳・鼻の病気	6.3%
4. 心臓病（心筋梗塞、狭心症等）	15.6%	11. 歯の病気	8.7%
5. 糖尿病	9.6%	12. 認知症（痴呆）	53.8%
6. 骨折・骨粗しょう症	33.3%	13. うつ病などの精神疾患	7.4%
7. 慢性関節炎などの関節疾患	12.8%	14. その他〔具体的に： 〕	12.8%
		無回答	8.5%

問2 老人保健施設と介護療養型医療施設に入所している方におたずねします。

現在受けている医療処置等は次のうちどれにあたりますか。（いくつでも○）

(n=126)

1. 経管栄養（鼻腔経管栄養、胃ろう）	16.7%	7. I V H（中心静脈栄養法）	1.6%
2. ぼうこう留置カテーテル	4.0%	8. 人工肛門の処置	0.0%
3. 酸素療法	2.4%	9. じょくそうの処置	4.8%
4. 透析	0.0%	10. 人工呼吸器	0.0%
5. インスリン注射	1.6%	11. その他〔具体的に： 〕	12.7%
6. 気管切開の処置	0.0%	12. 特にない	50.8%
		無回答	12.7%

現在の施設に入所されるまでのことについておたずねします

問3 あて名ご本人が、現在の施設への入所が必要になってから（または希望してから）、現在の施設に入所されるまでの期間はどれくらいでしたか。（1つに○）

(N=366)

1. 6ヶ月未満	36.1%	5. 3年以上5年未満	9.3%
2. 6ヶ月以上1年未満	13.9%	6. 5年以上	5.7%
3. 1年以上2年未満	10.9%	7. その他〔具体的に： 〕	2.7%
4. 2年以上3年未満	10.1%	無回答	11.2%

問4 現在の施設に入所される直前の住まい・施設はどこでしたか（1つに○）

(N=366)

1. 病院	23.2%	5. 老人保健施設	27.9%
2. ご本人の家	22.4%	6. 認知症高齢者グループホーム	0.8%
3. ご本人の子どもの家	10.1%	7. 有料老人ホーム	1.9%
4. ご本人の兄弟・姉妹など親族の家	1.1%	8. その他〔具体的に： 〕	6.0%
		無回答	6.6%

施設での生活やサービスについておたずねします

問5 現在のお部屋は何人部屋ですか。（1つに○）

(N=366)

1. 1人部屋	15.8%	3. 4人部屋	67.2%	無回答	4.9%
2. 2人部屋	8.7%	4. その他〔 人部屋〕	3.3%		

問5-1 問5で「2. 2人部屋」～「4. その他」と答えた方におたずねします。
1人部屋を希望されますか。（1つに○）

(n=290)

1. 希望する	7.2%	2. 希望しない	35.9%	3. わからない	19.7%	無回答	37.2%
---------	------	----------	-------	----------	-------	-----	-------

問6 入所されるときに施設の運営方針や費用などの重要事項について、説明が行われましたか。（1つに○）

(N=366)

1. 十分説明を受けた	68.9%	4. 説明されなかった	0.8%
2. 少し説明を受けた	7.9%	5. 覚えていない	4.1%
3. あまり説明されなかった	1.9%	6. わからない	6.6%
		無回答	9.8%

問7 生活するために必要になるサービスなどについて、詳しく説明が行われましたか。（1つに○）

(N=366)

1. 十分説明を受けた	64.2%	4. 説明されなかった	0.8%
2. 少し説明を受けた	11.5%	5. 覚えていない	4.9%
3. あまり説明されなかった	1.6%	6. わからない	5.7%
		無回答	11.2%

- 問8 施設から、ご本人の体の状況に応じたサービスの提案がありますか。
(1つに○)
(N=366)
1. たびたび提案がある 53.8% 3. 提案はない 5.5% 無回答 8.2%
2. 1、2度あった 20.2% 4. わからない 12.3%
- 問9 施設でのサービスは、ご本人の体の状況の維持や改善に役に立っていると思いますか。(1つに○)
(N=366)
1. 役に立っている 70.8% 3. 役に立っていない 1.4% 無回答 6.6%
2. あまり役に立っていない 6.8% 4. わからない 14.5%
- 問10 サービスの満足度についておたずねします。
- A. 利用しているサービスには満足していますか。(あてはまる番号に1つ○)
B. 不満の理由を下の欄から選んで、いくつでも番号で記入してください。
C. 入所している施設が本来提供していないサービスについては、非該当に○を付けてください。

(N=366)		A (満足度：ひとつだけ○)					B (不満の理由)	C	無回答
		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	下の欄から番号を選んで記入 (いくつでも)	非該当	
①食事		45.1%	15.3%	19.9%	2.5%	1.4%	(n=14) 1. 利用できる回数や時間が足りない 0.0% 2. 質がよいくない 35.7% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 設備などが古い 0.0% 5. 職員の対応がよいくない 0.0% 6. 契約の内容とサービスが違っている 0.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 0.0% 8. 施設からの説明が不十分である 0.0% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 28.6% 10. その他(具体的に) 21.4% 無回答 28.6%	0.8%	15.0%
②入浴		45.4%	15.3%	21.0%	2.5%	0.5%	(n=11) 1. 利用できる回数や時間が足りない 45.6% 2. 質がよいくない 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 9.1% 4. 設備などが古い 0.0% 5. 職員の対応がよいくない 0.0% 6. 契約の内容とサービスが違っている 0.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 9.1% 8. 施設からの説明が不十分である 9.1% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 0.0% 10. その他(具体的に) 9.1% 無回答 18.2%	0.5%	14.8%
③トイレ・排泄		44.8%	12.6%	21.0%	4.1%	1.4%	(n=20) 1. 利用できる回数や時間が足りない 20.0% 2. 質がよいくない 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 10.0% 4. 設備などが古い 10.0% 5. 職員の対応がよいくない 25.0% 6. 契約の内容とサービスが違っている 5.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 10.0% 8. 施設からの説明が不十分である 5.0% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 10.0% 10. その他(具体的に) 30.0% 無回答 10.0%	1.1%	15.0%

(N=366)		A (満足度：ひとつだけ○)					B (不満の理由)	C 非該当	無回答
		満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	下の欄から番号を選んで記入 (いくつでも)		
④機能訓練		31.4%	12.6%	27.0%	5.5%	1.4%	(n=25) 1. 利用できる回数や時間が足りない 44.0% 2. 質がよい 12.0% 3. 技術的に不安を感じる 8.0% 4. 設備などが古い 4.0% 5. 職員の対応がよい 8.0% 6. 契約の内容とサービスが違っている 8.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 8.0% 8. 施設からの説明が不十分である 12.0% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 20.0% 10. その他〔具体的に〕 12.0% 無回答 16.0%	3.8%	18.3%
⑤必要な医療の実施		40.7%	15.6%	22.7%	2.2%	1.6%	(n=14) 1. 利用できる回数や時間が足りない 14.3% 2. 質がよい 14.3% 3. 技術的に不安を感じる 14.3% 4. 設備などが古い 7.1% 5. 職員の対応がよい 14.3% 6. 契約の内容とサービスが違っている 0.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 0.0% 8. 施設からの説明が不十分である 7.1% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 7.1% 10. その他〔具体的に〕 7.1% 無回答 42.9%	1.4%	15.8%
⑥看護（医療）		40.7%	13.7%	25.7%	1.9%	1.1%	(n=11) 1. 利用できる回数や時間が足りない 18.2% 2. 質がよい 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 設備などが古い 0.0% 5. 職員の対応がよい 18.2% 6. 契約の内容とサービスが違っている 0.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 0.0% 8. 施設からの説明が不十分である 0.0% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 9.1% 10. その他〔具体的に〕 9.1% 無回答 54.5%	1.4%	15.6%
⑦健康管理、栄養上の管理		46.4%	13.9%	22.7%	1.1%	0.5%	(n= 6) 1. 利用できる回数や時間が足りない 0.0% 2. 質がよい 16.7% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 設備などが古い 0.0% 5. 職員の対応がよい 0.0% 6. 契約の内容とサービスが違っている 0.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 0.0% 8. 施設からの説明が不十分である 16.7% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 0.0% 10. その他〔具体的に〕 0.0% 無回答 66.7%	0.5%	14.8%
⑧相談・助言		42.9%	15.3%	20.8%	3.0%	1.4%	(n=16) 1. 利用できる回数や時間が足りない 18.8% 2. 質がよい 0.0% 3. 技術的に不安を感じる 0.0% 4. 設備などが古い 0.0% 5. 職員の対応がよい 25.0% 6. 契約の内容とサービスが違っている 0.0% 7. 身体的苦痛を伴うことがある 0.0% 8. 施設からの説明が不十分である 25.0% 9. 個人的な希望が受け入れられない (個人を尊重してもらえない) 25.0% 10. その他〔具体的に〕 12.5% 無回答 25.0%	0.5%	16.1%

《「やや不満」「不満」である理由》

- | | |
|---------------------|--------------------------------------|
| 1. 利用できる回数や時間が足りない | 7. 身体的苦痛を伴うことがある |
| 2. 質がよい | 8. 施設からの説明が不十分である |
| 3. 技術的に不安を感じる | 9. 個人的な希望が受け入れられない
(個人を尊重してもらえない) |
| 4. 設備などが古い | 10. その他〔具体的に〕 |
| 5. 職員の対応がよい | |
| 6. 契約の内容とサービスが違っている | |

介護保険についておたずねします

問11 あて名ご本人の要介護度は次のうちどれですか。(1つに○)

＊平成19年9月30日現在の要介護度でお答えください。更新申請中などの理由で、結果が出ていない方は、わかっている介護度でお答えください。

(N=366)

1. 要介護1	2.2%	4. 要介護4	37.7%
2. 要介護2	11.7%	5. 要介護5	28.7%
3. 要介護3	17.8%	無回答	1.9%

問12 保険料段階は次のうちどれですか。(1つに○)

(N=366)

1. 第1段階（生活保護受給者及び市民税世帯非課税者で老齢福祉年金受給者等）	10.4%
2. 第2段階（市民税世帯非課税者で、課税年金収入金額と合計所得金額の合計が80万円以下の者等）	20.2%
3. 第3段階（市民税世帯非課税者で、第2段階に該当しない者等）	9.3%
4. 第4段階（市民税本人非課税者等）	13.4%
5. 第5段階（市民税本人課税者等（合計所得金額200万円未満））	7.4%
6. 第6段階（市民税本人課税者等（合計所得金額200万円以上500万円未満））	10.4%
7. 第7段階（市民税本人課税者（合計所得金額500万円以上））	1.6%
8. わからない	16.4%
無回答	10.9%

問13 今後の介護保険サービスと保険料について、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

(N=366)

1. 保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい	18.6%
2. 保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である	39.3%
3. 介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい	4.9%
4. どちらともいえない	26.5%
無回答	10.7%

問14 施設利用料月額（限度額）に応じて利用料を負担されていますが、どのようにお考えですか。(1つに○)

(N=366)

1. 特に負担とは思わない	10.4%	4. 今の負担では苦しい	15.3%
2. 概ね妥当な額だと思う	21.0%	5. わからない	11.7%
3. これくらいの負担はやむをえない	33.3%	無回答	8.2%

問15 利用料以外の日常生活費（消耗品など）の負担については、どのようにお考えですか。（1つに○）

(N=366)

1. 特に負担とは思わない	16.1%	4. 今の負担では苦しい	7.7%
2. 概ね妥当な額だと思う	21.3%	5. わからない	12.3%
3. これくらいの負担はやむをえない	30.1%	6. その他〔具体的に： 〕	2.2%
		無回答	10.4%

問16 居住費と食費の負担については、どのようにお考えですか。（1つに○）

(N=366)

1. 特に負担とは思わない	11.2%	4. 今の負担では苦しい	12.0%
2. 概ね妥当な額だと思う	25.4%	5. わからない	11.5%
3. これくらいの負担はやむをえない	27.9%	6. その他〔具体的に： 〕	0.8%
		無回答	11.2%

問17 厚生労働省は「平成 23 年度末に、介護療養型医療施設を廃止する」という方針を出しましたが、知っていますか。（1つに○）

(N=366)

1. よく知っている	13.4%	3. 知らない	48.6%
2. 聞いたことがある	27.9%	4. その他〔具体的に： 〕	0.0%
		無回答	10.1%

問18 「介護保険制度」全体をよりよくするため、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。（3つまで○）

(N=366)

1. サービス事業者の質を高めること	19.1%
2. ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること	20.5%
3. 市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと	53.3%
4. 利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと	29.8%
5. 介護保険についての市民向けの勉強会などを実施すること	1.6%
6. 寝たきりにならないよう、介護予防のサービスに力を入れること	17.8%
7. 地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと	8.2%
8. 身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと	19.9%
9. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	14.5%
10. 家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること	18.9%
11. 在宅介護支援センターを充実すること	3.8%
12. 介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること	5.5%
13. その他〔具体的に： 〕	3.3%
14. わからない	8.7%
無回答	10.4%

高齢者の権利擁護についておたずねします

問19 施設ではプライバシーへの配慮がなされていると思いますか。(1つに○)

(N=366)

1. 配慮されている	43.2%	3. 配慮されていない	4.9%
2. 少し配慮されている	24.6%	4. わからない	16.7%
		無回答	10.7%

問20 施設ではご本人の気持や希望が尊重されていると思いますか。(1つに○)

(N=366)

1. 思う	38.3%	3. 思わない	6.6%	無回答	10.7%
2. 少し思う	26.0%	4. わからない	18.6%		

問21 施設では、ベッドに柵をつける、車いすにベルトで固定するなど、ご本人のからだの動作の制限をすることがありますか。(1つに○)

(N=366)

1. ある	20.5%	2. ない	57.7%	3. わからない	12.0%	無回答	9.8%
-------	-------	-------	-------	----------	-------	-----	------

家族の状況や意向についておたずねします

問22 主たる連絡先は、どなたですか。(1つに○)

(N=366)

1. 配偶者	11.7%	4. 娘・息子の配偶者	7.4%	7. その他の親族	4.1%
2. 娘	29.2%	5. 兄弟・姉妹	6.6%	8. その他〔具体的に: 〕	3.8%
3. 息子	32.5%	6. 親	0.0%	無回答	4.6%

問23 主たる連絡先の方の年齢はおいくつですか。(1つに○)

(N=366)

1. 30歳未満	0.0%	4. 50歳代	28.4%	7. 70～74歳	10.9%	10. 85～89歳	1.1%
2. 30歳代	0.8%	5. 60～64歳	16.9%	8. 75～79歳	6.3%	11. 90～94歳	0.3%
3. 40歳代	7.4%	6. 65～69歳	13.7%	9. 80～84歳	4.9%	12. 95歳以上	0.0%
						無回答	9.3%

問24 主たる連絡先の方はどこに住んでいますか。(1つに○)

(N=366)

1. 本人が住んでいた同じ住宅	36.6%
2. 本人が住んでいた同じ住宅ではないが同じ敷地	3.0%
3. 同じ町内	1.1%
4. 府中市内	30.3%
5. 東京都内	15.6%
6. その他(具体的に: 〕	7.7%
無回答	5.7%

問25 ご本人は医師により「認知症」と診断されたことがありますか。(1つに○)

(N=366)

1. ある 60.4% 2. ない 32.2% 無回答 7.4%

問 25-1 問 25 で「1. ある」と答えた方におたずねします。日常生活を通じて次のような症状がありますか。(1つに○)

(n=221)

状 態			ここから 選んでください
物忘れをすることもあるが、日常生活は施設内及び社会的にほぼ自立している			11.8%
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	・（施設外）たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つなどの状態がみられる		2.7%
	・（施設内）服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との応対など一人で留守番ができないなどの状態がみられる		13.6%
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護が必要とされる	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない・時間がかかるやたらに物を口に入れる、徘徊、失禁、大声、火の不始末、不潔な行為、性的行動などの症状が見られる	・ 日中を中心として	9.5%
		・ 夜間を中心として	1.8%
		・ 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	50.7%
	・ 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする（妄想、興奮、自傷、他害等の精神症状に起因する問題行動が継続する状態など）		4.5%
無 回 答			5.4%

問26 あなたは、今後、あて名のご本人がどこで生活するのが良いと考えていますか。(1つに○)

(N=366)

1. 家族などの介護を受けながら自宅で生活する 3.3%
2. 在宅サービスを受けながら自宅で生活する 1.9%
3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する 68.0%
4. 有料老人ホームに入居する 1.4%
5. グループホーム(少人数を単位とした小規模な共同住居)に入居する 0.5%
6. 自宅近くで様々なサービスが受けられる小さな施設などを利用しながら生活する 1.4%
7. その他〔具体的に： 〕 8.5%
8. わからない 5.2%
無回答 9.8%

問27 介護をしていくうえで、どのようなことに問題がありますか。(いくつでも○)

(N=366)

1. 精神的に疲れ、ストレスがたまる	51.6%	8. 介護に関して相談する相手がいない	6.0%
2. 肉体的に疲れる	36.3%	9. 介護サービスに関する情報が少ない	5.5%
3. 自分の自由な時間がない	29.0%	10. 家族や親族の協力が得られない	14.8%
4. 家族や自分の仕事に影響がある	27.9%	11. 介護事業所・医療機関などが家の近くにない	3.6%
5. 介護がいつまで続くのかわからない	43.2%	12. 夜間のサービスが足りない	5.5%
6. 経済的な負担がかさむ	29.8%	13. その他〔具体的に：〕	7.7%
7. 介護の方法がわからない	7.9%	14. 特になし	12.3%
		無回答	18.3%

問28 介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、府中市へのご意見・ご要望・ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

———ご協力ありがとうございました———

府中市福祉計画（介護保険サービス未利用者）調査

調査についてのお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、平成 20 年度に策定を予定しております「府中市福祉計画」の基礎資料として、福祉全般の調査を実施します。

この調査は、介護保険の要支援・要介護認定を受けられた方のうち、平成 19 年 9 月 30 日現在、介護保険サービスを未利用の方の中から、500 名を無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成 19 年 10 月 府中市

記入についてのお願い

16. 封筒のあて名ご本人について、ご記入をお願いいたします。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。回答はできる限り、あて名ご本人が記入してください。
なお、あて名ご本人おひとりでの回答がむずかしい場合は、ご家族や周りの方がお手伝いいただくか、あて名ご本人の意見を聞いたうえで代わりに記入してください。
17. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
18. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
の場合は回答内容等を記入してください。
19. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
20. 「その他」に○印をつけられた方は、〔 〕内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

10 月 24 日(水)までにご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

問合せ先

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護支援係 担当：新藤、中野

TEL 042-335-4470

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護保険係 担当：田添、村越

TEL 042-335-4021

調査票のご記入に先立ちまして、おたずねします

F 1 あなた（あて名ご本人）は現在どちらにいますか。（1つに○）

(N=371)

- | | | | | | |
|----------|-------|----------------|------|-----|------|
| 1. 自宅 | 89.2% | 3. 病院等に入院している | 7.8% | 無回答 | 1.6% |
| 2. 市外に転出 | 0.0% | 4. その他〔具体的に： 〕 | 1.3% | | |

→ 「2. 市外に転出」をお選びになった場合は、ここまでのご記入で結構です。
ご返送ください。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

F 2 この調査票はどなたがご記入されますか。（1つに○）

(N=371)

- | | | | | | | | |
|-----------|-------|--------|-------|----------------|------|-----|------|
| 1. あて名ご本人 | 63.9% | 2. ご家族 | 29.4% | 3. その他〔具体的に： 〕 | 2.4% | 無回答 | 4.3% |
|-----------|-------|--------|-------|----------------|------|-----|------|

あなた（あて名ご本人）のことをおたずねします

F 3 あなたの性別は次のうちどれですか。（1つに○）

(N=371)

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|
| 1. 男性 | 32.1% | 2. 女性 | 67.4% | 無回答 | 0.5% |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|

F 4 あなたの年齢は次のうちどれですか。（1つに○）

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(N=371)

- | | | | | | | | |
|------------|-------|------------|-------|------------|-------|-----------|------|
| 1. 65～69 歳 | 5.9% | 3. 75～79 歳 | 23.5% | 5. 85～89 歳 | 20.5% | 7. 95 歳以上 | 1.9% |
| 2. 70～74 歳 | 11.9% | 4. 80～84 歳 | 25.3% | 6. 90～94 歳 | 10.2% | 無回答 | 0.8% |

F 5 あなたと同居*している方はどなたですか。（いくつでも○）

＊2世帯住宅は同居としてお答えください。

＊配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=371)

- | | | | |
|----------------------|-------|----------------|------|
| 1. ひとり暮らし（自分のみ） | 15.4% | 4. 父、母 | 0.3% |
| 2. 配偶者（夫または妻） | 50.4% | 5. 兄弟・姉妹 | 1.3% |
| 3. 息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む） | 43.7% | 6. その他〔具体的に： 〕 | 9.2% |
| | | 無回答 | 1.6% |

F 5-1 F 5で「2. 配偶者」～「6. その他」と答えた方におたずねします。

あなたと同居している方は次のどちらですか。（1つに○）

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(n=308)

- | | | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|-----|-------|
| 1. 同居者全員が 65 歳以上 | 36.4% | 2. 64 歳以下の同居者がいる | 39.6% | 無回答 | 24.0% |
|------------------|-------|------------------|-------|-----|-------|

F 5-2 F 5 で「2. 配偶者」と答えた方におたずねします。

あなたの配偶者の年齢は次のうちどれですか。(1つに○)

＊平成 19 年 9 月 30 日現在の年齢でお答えください。

(n=187)

1. 65 歳未満	6.4%	5. 80～84 歳	27.8%	無回答	2.1%
2. 65～69 歳	4.8%	6. 85～89 歳	16.0%		
3. 70～74 歳	16.0%	7. 90～94 歳	2.1%		
4. 75～79 歳	24.1%	8. 95 歳以上	0.5%		

F 6 あなたはどちらにお住まいですか。 内に記入してください。

	町		丁目
----------------------	---	----------------------	----

(N=371)

第一地区	27.0%	第三地区	15.1%	第五地区	14.3%	無回答	5.1%
第二地区	10.5%	第四地区	13.2%	第六地区	14.8%		

第一地区：多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台（1～3丁目）、若松町、浅間町、緑町
 第二地区：白糸台（4～6丁目）、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政
 第三地区：天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町
 第四地区：宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町
 第五地区：日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町（1～2丁目）、本宿町（3～4丁目）、西府町（3～4丁目）、東芝町
 第六地区：美好町（3丁目）、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町（1～2丁目）、西府町（1～2、5丁目）

F 7 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

(N=371)

1. 持ち家の一戸建て	67.7%	5. 公的賃貸住宅	9.4%
2. 持ち家の集合住宅	7.3%	6. 高齢者向け住宅	0.5%
3. 民間賃貸の一戸建て	3.0%	(有料老人ホーム、高齢者マンションなど)	
4. 民間賃貸の集合住宅	5.1%	7. その他[具体的に：]	3.0%
		無回答	4.0%

F 7-1 現在のお住まいで困っていることはありますか。(いくつでも○)

(N=371)

1. 玄関回りの段差で困っている	19.4%
2. 廊下や居室などの段差で困っている	5.7%
3. 屋内の階段の昇り降りが大変で困っている	14.6%
4. 浴室や浴槽が使いにくくて困っている	14.8%
5. トイレに手すりがなかったり洋式でなかったりするため困っている	7.0%
6. エレベーターがなくて困っている	4.6%
7. ごみが片付けられず、山積みになっている	4.0%
8. その他〔具体的に：]	7.5%
9. 特にない	43.1%
無回答	14.0%

医療の状況と介護予防についておたずねします

問1 現在の医療機関の受診状況についておたずねします。あなたは、現在治療中の病気はありますか。(1つに○)

(N=371)

1. ある 88.4% 2. ない 6.5% 無回答 5.1%

問2 あなたには、「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」はいますか。(それぞれ1つに○)

(N=371)

	いる	いない	わからない	無回答
①かかりつけ医	86.3%	4.6%	1.1%	8.1%
②かかりつけ歯科医	57.4%	11.1%	2.2%	29.4%
③かかりつけ薬局	60.9%	12.4%	2.7%	24.0%

＊ ここでいう「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」とは、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病気のことを日ごろから、気軽に相談できるような身近な開業医、歯科医、薬局をさします。

介護保険サービスの利用についておたずねします

問3 あなたの要介護度は次のうちどれですか。(1つに○)

＊平成19年9月30日現在の要介護度でお答えください。更新申請中などの理由で、結果が出ていない方は、わかっている介護度でお答えください。

(N=371)

1. 要支援 1 31.8% 4. 要介護 2 8.4% 7. 要介護 5 3.5%
 2. 要支援 2 21.6% 5. 要介護 3 4.3% 無回答 15.4%
 3. 要介護 1 12.1% 6. 要介護 4 3.0%

問4 あなたが要支援・要介護になった原因をお答えください。(すべてに○)

(N=371)

1. 高齢により衰弱したため	31.5%	8. 糖尿病のため	8.1%
2. 脳血管疾患（脳卒中など）のため	12.1%	9. 視覚・聴覚障害のため	6.7%
3. 心臓病のため	11.3%	10. 転倒・骨折したため	11.3%
4. がん（悪性新生物）のため	5.1%	11. 脊髄損傷のため	2.2%
5. 呼吸器疾患（肺気腫、肺炎など）のため	2.2%	12. パーキンソン病のため	3.0%
6. 関節疾患（リウマチなど）のため	16.4%	13. その他〔具体的に： 〕	19.7%
7. 認知症が進んだため	11.1%	無回答	12.7%

問5 「要介護認定」の申請をしようと思った理由（きっかけ）は何ですか。

（1つに○）

（N=371）

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 1. 本人が必要と思った | 24.5% |
| 2. 家族が必要と思った | 23.5% |
| 3. 第三者にすすめられた〔具体的に： | 〕 9.7% |
| 4. 保健福祉サービス（介護慰労金、おむつ助成など）を受けるのに必要だから | 0.8% |
| 5. サービスを利用したい時に、利用したいから | 14.8% |
| 6. 住宅改修をしたいから | 4.6% |
| 7. 車いすや介護用ベッドなどの福祉用具を借りたいから | 1.1% |
| 8. その他〔具体的に： | 〕 4.3% |
| 無回答 | 16.7% |

問6 あなたは、「要介護認定」を受けながら、介護保険サービスを利用しない理由は何ですか。（いくつでも○）

（N=371）

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 家族が介護してくれるから | 36.4% |
| 2. 家族以外に介護してもらうことが不安だから | 6.2% |
| 3. 契約することが不安だから | 2.2% |
| 4. 利用したいサービスがないから | 8.1% |
| 5. 利用料がかかるから | 8.4% |
| 6. よいケアマネジャーが見つからないから | 3.0% |
| 7. よい事業者が見つからないから | 1.6% |
| 8. 利用したいが家族に理解してもらえないから | 0.0% |
| 9. 一時サービス（住宅改修など）だけでよかったから | 6.7% |
| 10. まだ利用しなくてもよいと思うから | 31.5% |
| 11. 病院に入院しているため | 8.1% |
| 12. 体調がよくなったから | 3.2% |
| 13. その他〔具体的に： | 〕 11.3% |
| 14. わからない | 3.0% |
| 無回答 | 17.5% |

問7 あなたは、現在どのような方法で介護を受けていますか。（1つに○）

（N=371）

- | | |
|---|---------|
| 1. 家族がすべて介護している | 43.4% |
| 2. 在宅で一部、市の保健福祉サービスを利用している | 5.4% |
| 3. 在宅で一部、インフォーマルサービス（ボランティア等によるサービス）を利用している | 1.1% |
| 4. 病院に入院している | 7.0% |
| 5. その他〔具体的に： | 〕 11.9% |
| 無回答 | 31.3% |

問 7-1 問 7 で「2. 在宅で一部、市の保健福祉サービスを利用」又は「3.インフォーマルサービスを利用」と答えた方におたずねします。

どのようなサービスを利用していますか。具体的に書いてください。

--

問8 あなたは介護保険サービスを利用したいと思っていますか。(1つに○)

(N=371)

1. 利用したい	45.8%	3. 利用する必要がない	14.3%
2. 利用したくない	6.5%	4. わからない	22.9%
		無回答	10.5%

問9 あなたは、今後、どこで生活したいと考えていますか。(1つに○)

(N=371)

1. 家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	43.1%
2. 在宅サービスを受けながら自宅で生活したい	21.3%
3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	6.2%
4. 有料老人ホームに入居したい	2.4%
5. グループホーム（少人数を単位とした小規模な共同住居）に入居したい	1.1%
6. 自宅近くで様々なサービスが受けられる小さな施設などを利用しながら生活したい	6.2%
7. その他〔具体的に：〕	3.5%
8. わからない	10.8%
無回答	5.4%

介護保険についておたずねします

問10 あなたの保険料段階は次のうちどれですか。(1つに○)

(N=371)

1. 第1段階（生活保護受給者及び市民税世帯非課税者で老齢福祉年金受給者等）	7.0%
2. 第2段階（市民税世帯非課税者で、課税年金収入金額と合計所得金額の合計が80万円以下の者等）	11.1%
3. 第3段階（市民税世帯非課税者で、第2段階に該当しない者等）	4.6%
4. 第4段階（市民税本人非課税者等）	17.3%
5. 第5段階（市民税本人課税者等（合計所得金額200万円未満））	11.9%
6. 第6段階（市民税本人課税者等（合計所得金額200万円以上500万円未満））	17.5%
7. 第7段階（市民税本人課税者（合計所得金額500万円以上））	3.5%
8. わからない	13.5%
無回答	13.7%

問11 今後の介護保険サービスと保険料について、あなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(1つに○)

(N=371)

1. 保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい	12.7%
2. 保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である	18.6%
3. 介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい	19.4%
4. どちらともいえない	38.0%
無回答	11.3%

問12 介護保険サービスでは以下のようなサービスを行っています。
これらのサービスの認識度、今後の利用意向についておたずねします。
(各サービスごとに「認識度」「利用意向」に1つつ〇)

(N=371)

事業名			認 識 度			利 用 意 向		
			知って いる	知ら ない	無回答	利用 したい	利用し たくない	無回答
在宅 サ ー ビ ス	① 訪問介護 (生活援助主体)	家事など身の周りの援助	64.2%	8.6%	27.2%	31.5%	25.3%	43.1%
	② 訪問介護 (身体介護主体)	介護など身の周りの援助	60.6%	8.4%	31.0%	29.6%	23.7%	46.6%
	③訪問看護	看護師等による家庭を訪 問する看護	53.9%	14.0%	32.1%	29.6%	21.8%	48.5%
	④訪問リハビリテーシ ョン	理学療法士・作業療法士な どが家庭を訪問して行う 機能訓練	33.2%	32.9%	34.0%	22.9%	25.6%	51.5%
	⑤訪問入浴介護	入浴車により家庭を訪 問する入浴介護	56.3%	11.9%	31.8%	17.0%	34.5%	48.5%
	⑥居宅療養管理指導	医師や看護師、歯科医師、 管理栄養士等が訪問して 行う療養上の管理指導	27.5%	39.1%	33.4%	22.9%	27.0%	50.1%
	⑦通所介護 (デイサービス)	デイサービスセンターな どでの入浴、レクリエーシ ョン、機能訓練	59.3%	10.2%	30.5%	24.5%	26.4%	49.1%
	⑧通所リハビリテー ション (デイケア)	老人保健施設等での医療 の管理下におけるリハビ リテーション	43.4%	24.3%	32.3%	21.3%	28.8%	49.9%
	⑨短期入所生活介護 (ショートステイ)	特別養護老人ホーム等へ の短期間入所	50.7%	17.3%	32.1%	19.4%	30.5%	50.1%
	⑩短期入所療養介護 (ショートステイ)	老人保健施設等への短期 間入所	47.7%	19.1%	33.2%	19.9%	30.5%	49.6%
	⑪特定施設入居者生活 介護 (有料老人ホーム等)	有料老人ホーム、ケアハウ ス入所者への介護や日常 生活上の世話	39.1%	27.0%	34.0%	13.2%	35.8%	50.9%
	⑫福祉用具の貸与	車いす等の貸出し	56.6%	12.4%	31.0%	30.7%	21.6%	47.7%
	⑬特定福祉用具販売	排泄等に使われる用具を 購入した場合 10 万円を 限度に購入費を支給	35.3%	32.3%	32.3%	29.6%	20.8%	49.6%
	⑭住宅改修費の支給	手すりやスロープなど、住 宅の小規模な改修費の支 給	58.8%	10.5%	30.7%	36.1%	16.7%	47.2%
施設 サ ー ビ ス	①介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	常時介護を必要とする 65 歳以上の高齢者が入所す る施設	49.6%	18.6%	31.8%	18.3%	32.6%	49.1%
	②介護老人保健施設 (老人保健施設)	看護・介護・療養等の専門 的なサービスや日常的な サービスを提供し、機能回 復を目指す施設	40.2%	26.1%	33.7%	22.6%	26.4%	50.9%
	③介護療養型医療施設	医療や看護が可能な介護 の体制を充実させた医療 施設	29.4%	36.7%	34.0%	25.9%	22.6%	51.5%

問13 次のような地域密着型サービスを知っていますか。また、利用したいと思いませんか。(各サービスごとに「認識度」「利用意向」に1つずつ○)

(N=371)

事業名		認 識 度			利 用 意 向		
		知って いる	知らな い	無回答	利用 したい	利用し たくない	無回答
①夜間対応型 訪問介護	定期巡回と利用者からの通報により随時対応する訪問介護を組み合わせる24時間サービスを提供する	22.4%	46.6%	31.0%	26.4%	23.7%	49.9%
②認知症対応型 通所介護	認知症の居宅要介護者を対象とした通所介護サービスを提供する	19.1%	48.5%	32.3%	22.6%	24.5%	52.8%
③小規模多機能型 居宅介護	「通い」を中心として、要介護者の状態から、随時「訪問」や「泊り」を組み合わせるサービスを提供する	16.4%	50.7%	32.9%	22.6%	25.3%	52.0%
④認知症対応型 共同生活介護 (グループホーム)	地域のなかで中程度の認知症高齢者が少数の家庭的な環境の中で暮らす介護を提供する	19.9%	47.2%	32.9%	15.6%	32.1%	52.3%
⑤地域密着型 介護老人福祉施設 入所者生活介護	入居定員29人以下の小規模な特別養護老人ホーム	16.7%	51.8%	31.5%	20.2%	29.1%	50.7%

＊地域密着型サービスは、高齢者が住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、身近な生活圏域(府中市の生活圏域は6つ)ごとにサービスの拠点をづくり、市町村ごとに行われるサービスです。

問14 「介護保険制度」全体をよりよくするため、市が力を入れるべきことは次のうちどれですか。(3つまで○)

(N=371)

- | | |
|--|-------|
| 1. サービス事業者の質を高めること | 21.0% |
| 2. ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること | 17.8% |
| 3. 市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと | 31.3% |
| 4. 利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと | 33.4% |
| 5. 介護保険についての市民向けの勉強会などを実施すること | 3.2% |
| 6. 寝たきりにならないよう、介護予防のサービスに力を入れること | 19.7% |
| 7. 地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと | 4.6% |
| 8. 身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと | 17.3% |
| 9. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと | 23.2% |
| 10. 家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること | 18.1% |
| 11. 在宅介護支援センターを充実すること | 4.9% |
| 12. 介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること | 4.6% |
| 13. その他〔具体的に：〕 | 1.9% |
| 14. わからない | 8.1% |
| 無回答 | 17.8% |

保健福祉サービスについておたずねします

問15 市では介護保険以外にも様々な保健福祉サービスを行っています。以下のようなサービスの利用状況、今後の利用意向についておたずねします。

(各サービスごとに「利用状況」「利用意向」に1つずつ○)

(N=371)

事業名		利 用 状 況					利 用 意 向			
		利用している	利用したことがある	知っているが利用していない	知らない	無回答	利用したい	利用したくない	わからない	無回答
①高齢者福祉電話	ひとり暮らし等の人の安否確認、孤独感解消のため電話を貸与する	0.5%	0.0%	25.9%	42.9%	30.7%	15.4%	11.9%	25.3%	47.4%
②入浴券支給	ひとり暮らし等の人で自宅に風呂設備のない方に無料入浴券を配布する	1.3%	0.3%	28.8%	36.1%	33.4%	6.7%	20.5%	20.2%	52.6%
③家具転倒防止器具の取付	ひとり暮らし等の人が家庭内で所有する家具に家具転倒防止器具を取り付ける	3.2%	2.2%	22.1%	39.9%	32.6%	23.5%	7.8%	18.1%	50.7%
④「食」の自立支援サービス	ひとり暮らし等の人に、調理した食事を自宅に届けて安否確認をし、食生活改善の講習会・指導等を行う	1.6%	0.8%	31.8%	34.5%	31.3%	19.7%	12.1%	18.3%	49.9%
⑤自立支援ショートステイ	月7日を上限に介護老人ホームに滞在し健康管理や食事提供などを行う	0.8%	0.0%	28.8%	37.7%	32.6%	17.0%	12.7%	21.0%	49.3%
⑥高齢者医療ショートステイ	月7日を上限に市内の医療機関に入院し療養管理・健康管理を行う	1.1%	0.0%	23.7%	43.4%	31.8%	18.3%	12.1%	20.8%	48.8%
⑦入浴サービス	在宅サービスセンターで月3回の入浴が受けられる	0.5%	0.0%	37.7%	29.1%	32.6%	11.9%	17.0%	20.5%	50.7%
⑧日常生活用具給付とレンタル	一時的に身体機能が低下している方に用具などを貸与または給付する	1.3%	2.2%	32.6%	31.8%	32.1%	22.4%	9.2%	17.8%	50.7%
⑨はいかい高齢者探索サービス	はいかい探索システムを用い、行方不明時に早期に居場所を発見し、事故を防止する	1.3%	0.0%	16.4%	48.2%	34.0%	13.7%	10.2%	24.5%	51.5%
⑩日常生活用品(おむつ)の助成	おむつが必要な方が布または紙おむつのどちらかを自宅で受け取れる	2.7%	0.5%	26.7%	37.7%	32.3%	22.1%	8.9%	18.1%	50.9%
⑪車いす福祉タクシー	リフト付タクシーによる通院を年間24回を限度に利用できる	1.1%	0.5%	30.7%	36.9%	30.7%	28.0%	6.7%	17.8%	47.4%
⑫寝具乾燥サービス	月1回、寝具を自宅まで受け取りに行き、その日のうちに乾燥して返す	0.8%	0.0%	19.9%	47.4%	31.8%	23.2%	9.2%	18.1%	49.6%
⑬訪問理髪サービス	自宅に月1回理容師が訪問して理髪が受けられる	1.3%	0.0%	23.5%	43.7%	31.5%	22.6%	11.9%	17.3%	48.2%

＊サービスの利用に関しては、利用条件のあるものもあります。

問16 今後、市が取り組む保健福祉サービスとして、次のうちどれを優先して充実すべきだとお考えですか。（3つまで○）

（N=371）

1. 生きがいづくりを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など）	7.8%
2. 高齢者が働く場所を確保すること	6.2%
3. 世代間の交流・相互理解を促進すること	3.8%
4. 介護予防サービスを充実すること	12.9%
5. 在宅福祉サービスを充実すること	22.4%
6. 高齢者向けの住宅を整備したり、住宅改造を支援すること	14.0%
7. 特別養護老人ホームや老人保健施設など入所できる施設を整備すること	24.3%
8. 認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること	15.6%
9. 家族介護者への支援制度を充実すること	32.1%
10. 健康教育、健康相談、健康診査等の保健事業や医療体制を充実すること	4.0%
11. 健康づくりを推進すること（健康教室の開催・スポーツ活動の促進など）	3.2%
12. 保健・福祉関係の相談窓口を充実すること	10.8%
13. 保健・福祉サービスに関する人材を育成すること（保健師、介護職員など）	9.2%
14. ボランティアの育成、NPO法人の支援など民間活動を支援すること	0.8%
15. 道路の段差解消や公共的な建物へのエレベータの設置など、ひとにやさしいまちづくりを推進すること	24.5%
16. その他〔具体的に： 〕	2.7%
17. 特にない	5.4%
無回答	18.6%

高齢者の権利擁護などについておたずねします

問17 高齢者の権利や生活を守るために、以下のようなものがありますが、あなたの知っているものはありますか。（いくつでも○）

（N=371）

1. 成年後見制度	25.1%	7. 行政の相談窓口（市役所など）	42.3%
2. 地域福祉権利擁護事業	5.1%	8. 社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室など）	29.9%
3. 在宅介護支援センター	45.8%	9. 権利擁護センターふちゅう	3.0%
4. 地域包括支援センター※	11.1%	10. 消費生活相談室	21.6%
5. 見守りネットワーク	8.9%	11. 知っているものはない	12.1%
6. 高齢者虐待防止法	15.4%	無回答	19.7%

- 地域包括支援センターは、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー中心となって、介護予防事業のマネジメント、総合的な相談・支援、虐待防止などの権利擁護などを行います。

問18 あなたのまわり（あなたご本人も含む）に、下の枠内のようなことでお困りと思われる方はいますか。（1つに○）

(N=371)

1. いる 16.2% 2. いない 59.0% 無回答 24.8%

- ・金銭管理ができない
- ・福祉サービスの利用に対する苦情が言えない
- ・悪質商法にだまされた
- ・土地の権利書など重要書類の管理ができない
- ・行政や金融機関などへの窓口手続きができない

問 18-1 問 18 で「1. いる」と答えた方におたずねします。

それはどなたですか。(いくつでも○)

(n=60)

1. あなたご本人	63.3%	5. 知人	1.7%
2. 配偶者	15.0%	6. 近隣の人	5.0%
3. 子ども	8.3%	7. その他〔具体的に： 〕	1.7%
4. 親族	11.7%	無回答	5.0%

問 18-2 問 18 で「1. いる」と答えた方におたずねします。

それはどのような事例ですか。(いくつでも○)

(n=60)

1. 金銭管理ができない	45.0%
2. 悪質商法にだまされた	8.3%
3. 行政や金融機関などへの窓口手続きができない	50.0%
4. 福祉サービスの利用に対する苦情が言えない	16.7%
5. 土地の権利書など重要書類の管理ができない	33.3%
6. その他〔具体的に：	6.7%
無回答	15.0%

問19 あなたは、災害時に避難を助けたり、避難状況を確認するために、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、あなたの住所・氏名・連絡先などを事前に知らせておくことについて、どう思いますか。(1 つに○)

(N=371)

1. 最低限の情報ならば、知らせておいてもいい	69.0%
2. 知らせたくない	1.9%
3. わからない	13.2%
無回答	15.9%

市への要望についておたずねします

問20 保健福祉や介護保険について、府中市へのご意見・ご要望や知りたい情報がありましたら、ご自由にお書きください。

【ここからは、主に介護している方が記入してください。主な介護者がいない方は、ここから先の設問に回答する必要はありません。ご返送ください。】

主な介護者の状況やご意向についておたずねします

問21 あて名のご本人を主に介護しているのは、どなたですか。（1つに○）

(N=371)

1. 配偶者	24.5%	4. 娘・息子の配偶者	5.4%	7. その他の親族	0.0%
2. 娘	16.4%	5. 兄弟・姉妹	1.1%	8. その他〔具体的に： 〕	0.8%
3. 息子	7.5%	6. 親	0.0%	無回答	44.2%

問22 あて名のご本人を主に介護している方の年齢はおいくつですか。（1つに○）

(N=371)

1. 30歳未満	0.0%	4. 50歳代	15.1%	7. 70～74歳	7.5%	10. 85～89歳	1.3%
2. 30歳代	0.5%	5. 60～64歳	8.4%	8. 75～79歳	7.5%	11. 90～94歳	0.0%
3. 40歳代	3.8%	6. 65～69歳	5.4%	9. 80～84歳	6.7%	12. 95歳以上	0.0%
						無回答	43.7%

問23 あて名のご本人を主に介護している方はどこに住んでいますか。（1つに○）

(N=371)

1. 同じ住宅	46.4%	4. 府中市内	4.0%
2. 同じ住宅ではないが同じ敷地	1.9%	5. 東京都内	3.0%
3. 同じ町内	0.5%	6. その他〔具体的に： 〕	0.8%
			43.4%

問24 あて名のご本人を介護している期間はどのくらいですか。(1つに○)

(N=371)

1. 1年未満	7.5%	3. 3年以上5年未満	11.6%	5. 10年以上	8.6%
2. 1年以上3年未満	13.7%	4. 5年以上10年未満	7.5%	無回答	50.9%

問25 あて名のご本人の介護に1日に平均してどのくらいかかわっていますか。

(1つに○)

(N=371)

1. 1時間未満	4.9%	4. 6～10時間未満	3.0%	7. 決まっていない	25.1%
2. 1～4時間未満	7.3%	5. 10時間以上	1.6%	無回答	52.0%
3. 4～6時間未満	3.5%	6. 1日中かかりきり	2.7%		

問26 あて名のご本人は、日常生活において認知症の症状がみられますか。次の設問ごとにお答えください。(それぞれ1つに○)

(1) 慣れた道や場所がわからなくなること

(N=371)

1. ひんぱんにある	3.5%	2. ときどきある	11.3%	3. まったくない	38.5%	無回答	46.6%
------------	------	-----------	-------	-----------	-------	-----	-------

(2) 薬を飲む時間や、飲む量を間違えること

(N=371)

1. ひんぱんにある	4.3%	2. ときどきある	19.1%	3. まったくない	29.9%	無回答	46.6%
------------	------	-----------	-------	-----------	-------	-----	-------

(3) 火の始末や火元の管理ができなくなること

(N=371)

1. ひんぱんにある	1.6%	2. ときどきある	15.4%	3. まったくない	34.8%	無回答	48.2%
------------	------	-----------	-------	-----------	-------	-----	-------

問27 あなたは、今後、あて名のご本人がどこで生活するのが良いと考えていますか。

(1つに○)

(N=371)

1. 家族などの介護を受けながら自宅で生活する	30.2%
2. 在宅サービスを受けながら自宅で生活する	15.6%
3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する	5.1%
4. 有料老人ホームに入居する	1.1%
5. グループホーム（少人数を単位とした小規模な共同住居）に入居する	0.0%
6. 自宅近くで様々なサービスが受けられる小さな施設などを利用しながら生活する	4.0%
7. その他〔具体的に： 〕	0.5%
8. わからない	5.1%
無回答	38.3%

問28 介護をしていくうえで、どのようなことに問題がありますか。(いくつでも○)

(N=371)

1. 精神的に疲れ、ストレスがたまる	32.3%
2. 肉体的に疲れる	23.2%
3. 自分の自由な時間がない	20.5%
4. 家族や自分の仕事に影響がある	10.8%
5. 介護がいつまで続くのかわからない	23.5%
6. 経済的な負担がかさむ	10.8%
7. 介護の方法がわからない	4.6%
8. 介護に関して相談する相手がいない	4.9%
9. 介護サービスに関する情報が少ない	4.6%
10. 家族や親族の協力が得られない	2.2%
11. 介護事業所・医療機関などが家の近くにない	1.1%
12. 夜間のサービスが足りない	1.1%
13. その他〔具体的に： 〕	1.3%
14. 特にない	8.6%
無回答	48.5%

問29 介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、府中市へのご意見・ご要望・ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

———ご協力ありがとうございました———

府中市福祉計画（居宅介護支援事業者）調査

調査についてのお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、平成 20 年度に策定を予定しております「府中市福祉計画」の基礎資料として、福祉全般の調査を実施します。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成 19 年 10 月 府中市

記入についてのお願い

- 21. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
- 22. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
☐の場合は回答内容等を記入してください。
- 23. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
- 24. 「その他」に○印をつけられた方は、〔 〕内に具体的な答えを記入してください。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

10 月 24 日(水)までに ご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

問合せ先：

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護支援係 担当：新藤、中野

TEL 042-335-4470

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護保険係 担当：田添、村越

TEL 042-335-4021

貴事業所についておたずねします

問1 貴事業所の名称及び所在地等を記入してください。

法人名	
事業所名	
所在地 〒 ー	
調査に回答いただいた方 〔役職〕	〔お名前〕

問2 活動状況についてお教えてください。

項目	回答欄			
組織形態 (1つに○) (N=41)	1. 社会福祉法人	19.5%	7. JA・生協	2.4%
	2. 社会福祉協議会	0.0%	8. 株式会社	31.7%
	3. 福祉公社・事業団	0.0%	9. 有限会社	14.6%
	4. 社団法人	2.4%	10. NPO	9.8%
	5. 財団法人	0.0%	11. その他〔具体的に： 〕	0.0%
	6. 医療法人	19.5%	無回答	0.0%
併設する 事業所の種類 (あてはまるものすべて○) (N=41)	1. 在宅介護支援センター	22.0%	14. 特定施設入居者生活介護	0.0%
	2. 訪問介護	56.1%	15. 小規模多機能型居宅介護	0.0%
	3. 通所介護	14.6%	16. 介護予防小規模多機能型居宅介護	0.0%
	4. 訪問入浴介護	2.4%	17. 夜間対応型訪問介護	2.4%
	5. 訪問看護	14.6%	18. 認知症対応型通所介護	9.8%
	6. 訪問リハビリ	4.9%	19. 介護予防認知症対応型通所介護	4.9%
	7. 通所リハビリ	9.8%	20. 認知症対応型共同生活介護	0.0%
	8. 居宅療養管理指導	4.9%	21. 介護予防認知症対応型共同生活介護	0.0%
	9. 住宅改修・福祉用具	7.3%	22. 地域密着型特定施設入居者生活介護	0.0%
	10. 短期入所生活・療養介護	14.6%	23. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.0%
	11. 介護老人福祉施設	14.6%	24. その他〔具体的に： 〕	7.3%
	12. 介護老人保健施設	7.3%	無回答	12.2%
	13. 介護療養型医療施設	0.0%		
職員・スタッフの 人数 ※非常勤は常勤換 算ご回答ください (N=41)			常 勤	非常勤
	介護支援専門員 うち 専 従 兼 務		平均 2.21 人	平均 0.51 人
			平均 1.39 人	平均 0.25 人
			平均 1.02 人	平均 0.33 人
	事務管理者		平均 0.52 人	平均 0.06 人
職員の資格取得 の状況 (N=41)			常 勤	非常勤
	社会福祉士		平均 0.45 人	平均 0.11 人
	介護福祉士		平均 1.90 人	平均 0.69 人
	医師		平均 0.00 人	平均 0.00 人
	保健師・看護師		平均 0.25 人	平均 0.15 人
	管理栄養士・栄養士		平均 0.00 人	平均 0.00 人
	薬剤師		平均 0.08 人	平均 0.03 人
	理学療法士		平均 0.00 人	平均 0.00 人
	作業療法士		平均 0.00 人	平均 0.00 人
	言語聴覚士		平均 0.00 人	平均 0.00 人
	歯科衛生士		平均 0.08 人	平均 0.00 人
	あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師		平均 0.10 人	平均 0.00 人
	ホームヘルパー			
	1 級		平均 0.13 人	平均 0.00 人
	2 級		平均 0.55 人	平均 1.50 人
	3 級		平均 0.00 人	平均 0.03 人

事業の状況をおたずねします

問3 本年 3 月に府中市の要支援・要介護認定者に対し作成したケアプランの給付管理件数は何件でしたか。(該当部分に○をつけ、件数を記入)

(N=41)

回答欄		
総件数 平均 67.51 件	要支援 1	平均 2.29 件
	要支援 2	平均 3.17 件
	要介護 1	平均 15.85 件
	要介護 2	平均 18.17 件
	要介護 3	平均 11.68 件
	要介護 4	平均 7.51 件
	要介護 5	平均 5.15 件
	申請中・暫定プラン	平均 3.68 件

問4 貴事業所の中で、府中市を中心に活動しているケアマネジャーは何人いますか。
そのうち主任ケアマネジャーは何人いますか。(数字を記入)

(N=41) ケアマネジャー：平均 3.02 人 (主任ケアマネジャー：平均 0.05 人)

問 4-1 ケアマネジャーの在職年数及び昨年 1 年間の離職者（退職者・転職者）数と離職率、その理由を記入してください。

※離職者には非常勤も含みます。離職率は在籍ケアマネジャーを母数とします。

- ① 貴事業所のケアマネジャーの平均在職年数：(N=39) 平均 3.66 年
- ② 昨年一年間の離職者数及び離職率： 離職者数全体 (N=41) (平均 0.78 人)
離職率 (N=31) (平均 18.0%)

■内訳

- ア 退職者 (N=19) (平均 0.84 人)
離職率 (N=11) (平均 24.8%) (理由：)
- イ 転職者 (N=14) (平均 0.79 人)
離職率 (N=10) (平均 12.8%) (理由：)

問5 貴事業所ではケアプランをどのように作成していますか。
(全体を 100%として、数字(内訳)を記入してください)
(N=41)

1. ケアマネジャー（含む主任ケアマネジャー）だけで作成している 10.6%
2. サービス担当者会議を開いて作成している 71.1%
3. その他〔具体的に： 〕 18.3%

問6 ケアプランの作成にかかわる人はどなたですか。(1つに○)

(N=41)

1. ケアマネジャーとサービスの担当者	0.0%
2. ケアマネジャーと利用者・家族	4.9%
3. ケアマネジャーとサービス担当者と利用者・家族	90.2%
4. その他〔具体的に： 〕	4.9%
無回答	0.0%

問7 居宅サービス事業を兼務している事業所におたずねします。

貴事業所が作成したプランのうち、貴社だけのサービスで対応したケースは全ケアプランのうち何パーセント程度ですか。

(N=41)

平均 27.7 %

居宅介護支援の質の向上に向けた取組みをおたずねします

問8 現在、貴事業所では質の向上に対する取組みをどのように行っていますか。

(N=41) (いくつでも○)

1. 第三者評価の実施	19.5%	8. 人材の確保	29.3%
2. 専門家、コンサルタントの活用	9.8%	9. スタッフの資格取得への支援	24.4%
3. ISO等品質管理に関する認証取得	7.3%	10. 事業者間の交流	48.8%
4. 苦情事例等の活用・蓄積	51.2%	11. 事業者連絡会への出席	100.0%
5. 事業所内での検討会	58.5%	12. 利用者調査の実施	26.8%
6. 手引書の作成と見直し	34.1%	13. 介護情報の公表	70.7%
7. 外部研修会への出席	87.8%	14. その他〔具体的に： 〕	7.3%
		無回答	0.0%

問9 問8で「1. 第三者評価の実施」と回答しなかった事業所におたずねします。

今後、第三者評価を実施する予定はありますか。(1つに○)

(n=33)

1. 実施の予定がある	12.1%	2. 実施の予定はない	81.8%	無回答	6.1%
-------------	-------	-------------	-------	-----	------

問9-1 問9で「2. 実施の予定はない」と回答した事業所におたずねします。

その理由は次のうちどれですか。(1つに○)

(n=27)

1. 費用がかかりすぎるから	55.6%
2. メリットがわからないから	7.4%
3. 評価機関の選び方がわからないから	0.0%
4. サービスの改善に結びつくかわからないから	7.4%
5. その他〔具体的に： 〕	25.9%
無回答	3.7%

問10 人材を確保するためどのような取組みを行っていますか。(いくつでも○)

(1) 現在の取組み

(N=41)

1. 新規採用枠の拡大	24.4%	9. 職員間の助け合い制度	14.6%
2. 中途採用枠の拡大	39.0%	〔具体的に：	〕
3. 就業時間の見直し	9.8%	10. 同事業所内で人員確保	19.5%
4. 福利厚生の実施	14.6%	11. 社外の協力体制の整備	4.9%
5. 賃金面の充実	17.1%	12. 求人広告掲載	51.2%
6. 研修会への参加支援	46.3%	13. その他 具体的に	9.8%
7. 資格取得の支援	31.7%	〔具体的に：	〕
8. 苦情・相談体制の実施	22.0%	無回答	7.3%

(2) 今後の取組み

(N=41)

1. 新規採用枠の拡大	26.8%	9. 職員間の助け合い制度	12.2%
2. 中途採用枠の拡大	34.1%	〔具体的に：	〕
3. 就業時間の見直し	7.3%	10. 同事業所内で人員確保	24.4%
4. 福利厚生の実施	12.2%	11. 社外の協力体制の整備	2.4%
5. 賃金面の充実	22.0%	12. 求人広告掲載	51.2%
6. 研修会への参加支援	36.6%	13. その他 具体的に	7.3%
7. 資格取得の支援	39.0%	〔具体的に：	〕
8. 苦情・相談体制の実施	9.8%	無回答	7.3%

問11 研修についておたずねします。

(1) 事業所内での講習会・研修は十分実施できていますか。できていない場合の理由を具体的にお書きください。(1つに○)

(N=41)

1. 十分実施できている	17.1%
2. 十分ではないが実施できている	61.0%
3. ほとんど実施できていない〔理由：	〕 14.6%
4. その他〔具体的に：	〕 7.3%
無回答	0.0%

(2) 外部の研修や事例検討、勉強会について職員が積極的に参加できるよう支援していますか。できていない場合の理由を具体的にお書きください。

(1つに○)

(N=41)

1. 支援している	56.1%
2. 十分でないが支援している	36.6%
3. ほとんど支援していない〔理由：	〕 2.4%
4. 支援したいができない〔理由：	〕 4.9%
5. その他〔具体的に：	〕 0.0%
無回答	0.0%

ケアマネジメントについておたずねします

問12 貴事業所だけではケアプランの作成が困難だったケースはどの程度ありますか。(1つに○)

(N=41)

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. 対応できないケースが多い(50人のうち5人以上) | 4.9% |
| 2. 対応できないケースが少しある(50人のうち2～4人程度) | 46.3% |
| 3. 対応できないケースが若干ある(50人のうち1人程度) | 31.7% |
| 4. ほとんどない | 17.1% |
| 無回答 | 0.0% |

問13 困難だったのは、どのようなケースですか。(いくつでも○)

(N=41)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1. 認知症高齢者のケース | 26.8% |
| 2. 胃ろう、経管栄養などの医療処置を行っているケース | 12.2% |
| 3. ひとり暮らしでキーパーソンがいないケース | 39.0% |
| 4. ケアプランの内容について本人と家族からの理解が得られないケース | 43.9% |
| 5. 経済や住宅に困窮する生活面での支援が必要なケース | 22.0% |
| 6. 施設から退所したばかりのケース | 14.6% |
| 7. その他〔具体的に： 〕 | 29.3% |
| 無回答 | 7.3% |

問14 困難だったケースについて、貴事業所ではどこかに相談しましたか。

(いくつでも○)

(N=41)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 事業所内で相談した | 48.8% |
| 2. 他事業所のケアマネジャーに相談した | 14.6% |
| 3. 地域包括支援センターに相談した | 53.7% |
| 4. 在宅介護支援センターに相談した | 70.7% |
| 5. 高齢者支援課に相談した | 48.8% |
| 6. その他〔具体的に： 〕 | 19.5% |
| 7. 特に相談していない | 0.0% |
| 無回答 | 4.9% |

問15 お差支えなければ、最も困難だったケースについてお教えてください。

今後の事業運営についておたずねします

問16 昨年度の事業の採算はいかがでしたか。お差支えなければお答えください。

(1つに○)

(N=41)

1. 黒字	4.9%	3. 損益なし	22.0%
2. 赤字	61.0%	4. その他[具体的に：]	12.2%
		無回答	0.0%

問17 介護報酬変更による運営上の影響はいかがでしたか。(1つに○)

(N=41)

1. 影響はない	9.8%	3. その他[具体的に：]	9.8%
2. 影響があった	80.5%		0.0%

問18 貴事業所では、今後3年のうちに事業規模についてどのように考えますか。

(1つに○)

(N=41)

1. 拡大予定	24.4%	3. 縮小予定	0.0%
2. 現状維持	41.5%	4. 検討中・わからない	34.1%
		無回答	0.0%

問19 介護予防ケアプラン作成事業への参入意向はありますか。(1つに○)

(N=41)

1. ある	41.5%	3. 検討中	14.6%
2. ない	22.0%	4. その他[具体的に：]	17.1%
		無回答	4.9%

問 19-1 問 19 で「2. ない」、「3. 検討中」と回答した事業者におたずねします。その理由を具体的にお書きください。

問 19-2 問 19 で「2. ない」、「3. 検討中」と回答した事業者におたずねします。参入する場合の条件を具体的にお書きください。

問20 貴事務所が特に力を入れていること、力を入れたいことを教えてください。

(1つに○)

(N=41)

1. 相談	24.4%
2. 夜間への対応	4.9%
3. 地域資源の把握	12.2%
4. 権利擁護への対応（成年後見制度）	0.0%
5. 重度化への対応（看取り）	7.3%
6. 他事業所との連携	26.8%
7. 医療との連携（主治医等）	14.6%
8. 検討中	0.0%
〔具体的に：	〕
9. その他	7.3%
〔具体的に：	〕
無回答	2.4%

府中市への意向についておたずねします

問 21 今後保険者としての府中市に対し、事業者として望むことは次のうちどれですか。(3つまで○)

(N=41)

1. 介護保険に関する情報提供、研修の実施	65.9%
2. 質の向上のために事業者が行う研修への支援	24.4%
3. 不正な事業所への指導	7.3%
4. 利用者への適正なサービス利用の啓発	48.8%
5. 地域包括支援センター機能の充実	29.3%
6. 市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催	39.0%
7. 制度運営における保険者判断部分の周知	51.2%
8. その他〔具体的に〕	4.9%

9. 特にない	2.4%
無回答	0.0%

問 22 「介護保険制度」全体をよりよくするための環境整備として、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。(3つまで○)

(N=41)

- | | |
|--|-------|
| 1. サービス事業者の質を高める取組を行うこと | 12.2% |
| 2. ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること | 24.4% |
| 3. 市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと | 24.4% |
| 4. 利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと | 17.1% |
| 5. 寝たきりにならないよう、介護予防のサービスに力を入れること | 9.8% |
| 6. 地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと | 31.7% |
| 7. 身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと | 2.4% |
| 8. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと | 7.3% |
| 9. 家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること | 22.0% |
| 10. 介護保険を効率的に運用するしくみづくりを行うこと | 29.3% |
| 11. 在宅介護支援センターの充実 | 14.6% |
| 12. 介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること | 48.8% |
| 13. その他〔具体的に〕 | 4.9% |

- | | |
|-----------|------|
| 14. わからない | 0.0% |
| 無回答 | 7.3% |

問 23 その他、介護保険に関するご要望について、ご自由にお書きください。

———ご協力ありがとうございました———

府中市福祉計画

(予防・居宅介護サービス提供事業者及び施設サービス提供事業者) 調査

調査についてのお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、平成 20 年度に策定を予定しております「府中市福祉計画」の基礎資料として、福祉全般の調査を実施します。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成 19 年 10 月 府中市

記入についてのお願い

- 25. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
- 26. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。
☐の場合は回答内容等を記入してください。
- 27. ○の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
- 28. 「その他」に○印をつけられた方は、()内に具体的な答えを記入してください。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

10 月 24 日(水)までに へんそうご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

問合せ先：

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護支援係 担当：新藤、中野

TEL 042-335-4470

府中市福祉保健部高齢者支援課 介護保険係 担当：田添、村越

TEL 042-335-4021

貴事業所についておたずねします

問1 貴事業所の名称及び所在地等を記入してください。

法人名	
事業所名	
所在地 〒	—
調査に回答いただいた方 〔役職〕	〔お名前〕

問2 活動状況について教えてください。

項目	回答欄			
組織形態 (1つに○) (N=79)	1. 社会福祉法人 17.7%	7. J A・生協 1.3%		
	2. 社会福祉協議会 1.3%	8. 株式会社 36.7%		
	3. 福祉公社・事業団 0.0%	9. 有限会社 10.1%		
	4. 社団法人 1.3%	10. N P O 8.9%		
	5. 財団法人 0.0%	11. その他〔具体的に： 〕 2.5%		
	6. 医療法人 20.3%	無回答 0.0%		
事業所の種類 (1つに○) (N=79)	1. 在宅介護支援センター 0.0%	14. 特定施設入居者生活介護 5.1%		
	2. 訪問介護 40.5%	15. 小規模多機能型居宅介護 0.0%		
	3. 通所介護 15.2%	16. 介護予防小規模多機能型居宅介護 0.0%		
	4. 訪問入浴介護 3.8%	17. 夜間対応型訪問介護 0.0%		
	5. 訪問看護 7.6%	18. 認知症対応型通所介護 0.0%		
	6. 訪問リハビリ 0.0%	19. 介護予防認知症対応型通所介護 0.0%		
	7. 通所リハビリ 3.8%	20. 認知症対応型共同生活介護 3.8%		
	8. 居宅療養管理指導 0.0%	21. 介護予防認知症対応型共同生活介護 0.0%		
	9. 住宅改修・福祉用具 5.1%	22. 地域密着型特定施設入居者生活介護 0.0%		
	10. 短期入所生活・療養介護 5.1%	23. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 0.0%		
	11. 介護老人福祉施設 5.1%	24. その他〔具体的に： 〕 0.0%		
	12. 介護老人保健施設 3.8%	無回答 0.0%		
	13. 介護療養型医療施設 1.3%			
併設する 事業所の種類 (あてはまるもの にすべて○) (N=79)	1. 在宅介護支援センター 20.3%	14. 特定施設入居者生活介護 2.5%		
	2. 訪問介護 21.5%	15. 小規模多機能型居宅介護 0.0%		
	3. 通所介護 16.5%	16. 介護予防小規模多機能型居宅介護 0.0%		
	4. 訪問入浴介護 1.3%	17. 夜間対応型訪問介護 3.8%		
	5. 訪問看護 5.1%	18. 認知症対応型通所介護 10.1%		
	6. 訪問リハビリ 0.0%	19. 介護予防認知症対応型通所介護 8.9%		
	7. 通所リハビリ 6.3%	20. 認知症対応型共同生活介護 1.3%		
	8. 居宅療養管理指導 1.3%	21. 介護予防認知症対応型共同生活介護 0.0%		
	9. 住宅改修・福祉用具 1.3%	22. 地域密着型特定施設入居者生活介護 0.0%		
	10. 短期入所生活・療養介護 24.1%	23. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 0.0%		
	11. 介護老人福祉施設 12.7%	24. 居宅介護支援事業者 41.8%		
	12. 介護老人保健施設 8.9%	25. その他〔具体的に： 〕 6.3%		
	13. 介護療養型医療施設 0.0%	無回答 30.4%		
職員・スタッフの 人数 ※非常勤は常勤換 算でご回答くださ い (n=65)		常 勤	非常勤	
	介護支援専門員 うち 専 従 兼 務	平均 1.24 人 平均 0.55 人 平均 0.62 人	平均 0.65 人 平均 0.24 人 平均 0.38 人	
	事務管理者	平均 0.79 人	平均 0.06 人	

項目	回答欄		
職員の資格取得 の状況 (n=78)		常 勤	非常勤
	介護福祉士	平均 4.06 人	平均 1.69 人
	ホームヘルパー		
	1 級	平均 0.63 人	平均 0.27 人
	2 級	平均 3.88 人	平均 7.93 人
	3 級	平均 0.00 人	平均 0.12 人
	社会福祉士	平均 0.32 人	平均 0.03 人
	医師	平均 0.10 人	平均 0.35 人
	保健師・看護師	平均 1.01 人	平均 1.19 人
	管理栄養士・栄養士	平均 0.38 人	平均 0.01 人
	薬剤師	平均 0.01 人	平均 0.08 人
	理学療法士	平均 0.13 人	平均 0.15 人
	作業療法士	平均 0.21 人	平均 0.08 人
	言語聴覚士	平均 0.08 人	平均 0.04 人
	歯科衛生士	平均 0.01 人	平均 0.03 人
	あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師	平均 0.09 人	平均 0.01 人

今後の事業運営についておたずねします

問3 昨年度の事業の採算はいかがでしたか。お差支えなければお答えください。
(1つに○)

(N=79)

1. 黒字	31.6%	4. その他	2.5%
2. 赤字	36.7%	具体的に：	
3. 損益なし	20.3%	無回答	8.9%

問4 介護報酬変更による運営上の影響はいかがでしたか。(1つに○)

(N=79)

1. 影響はない	21.5%	3. その他	5.1%
2. 影響はあった	69.6%	具体的に：	
		無回答	3.8%

問5 貴事業所では、今後3年のうちに事業規模についてどのように考えますか。
(1つに○)

(N=79)

1. 拡大予定	19.0%
2. 現状維持	49.4%
3. 縮小予定	5.1%
具体的に：	
4. 検討中・わからない	26.6%
無回答	0.0%

問 5-1 昨年1年間の職員の離職状況（退職や転職）をお教えてください。また、補充はどのようにしていますか。具体的にお書きください。

※ 「退職」とは、専業主婦となる場合のほか他産業への転職を含みます。

※ 「転職」とは、他の介護保険事業者へ移行することです。

※ 離職者には非常勤も含みます。離職率は在籍職員数を母数とします。

（1）離職状況

① 貴事業所の職員の平均在職年数は何年ですか。

イ. 看護師 (n=38) (平均; 2.28 年)

ロ. ヘルパー (n=62) (平均 2.60 年)

ハ. 介護福祉士 (n=61) (平均 3.42 年)

ニ. 社会福祉士 (n=18) (平均 4.04 年)

② 昨年一年間の離職者数及び離職率

全離職者数 (n=58) (平均 8.69 人)

離職率 (n=45) (平均 24.36%)

<退職者>イ. 看護師 (n=20) (平均 2.28 年)

ロ. ヘルパー (n=38) (平均 3.15 年)

ハ. 介護福祉士 (n=19) (平均 3.32 年)

ニ. 社会福祉士 (n=6) (平均 0.33 年)

<転職者>イ. 看護師 (n=14) (平均 2.73 年)

ロ. ヘルパー (n=16) (平均 2.76 年)

ハ. 介護福祉士 (n=15) (平均 3.27 年)

ニ. 社会福祉士 (n=3) (平均 0.37 年)

③ 離職の理由（主要な理由）

イ. 働きがい (n=14) (平均 3.14 年)

ロ. 給与・賃金 (n=26) (平均 4.81 年)

ハ. 人間関係 (n=17) (平均 5.35 年)

ニ. 転出・結婚等 (n=20) (平均 2.35 年)

ホ. その他〔具体的に： 〕 (n=9) (平均 1.89 年)

（2）補充対策〔具体的に〕

--

< 予防・居宅介護サービス提供事業者の方におたずねします >

問6 日ごろ、居宅サービスを提供していくうえで、法令順守（コンプライアンス）は当然として、利用者からの信頼を得るためには何が必要か、お考えをお教えてください。（いくつでも○）

(N=79)

1. 経営理念・ビジョンの確立	45.6%	7. マニュアルや手引書の整備	41.8%
2. 組織体制	26.6%	8. 利用者への対応	75.9%
3. 人材確保	54.4%	9. 他機関（他事業所等）との連携	44.3%
4. 人材育成（研修・学習会）	68.4%	10. 情報収集及び提供方法	39.2%
5. 就業環境整備（人件費・福利厚生等）	25.3%	11. 個人情報保護	49.4%
6. サービス内容の充実	55.7%	12. その他	8.9%
		無回答	20.3%

【その他】具体的に

問7 居宅サービスを受けている利用者からサービスへのご意見・ご要望等がありましたら、お書きください。

＜ 施設サービス提供事業者の方におたずねします ＞

問8 日ごろ、施設サービスを提供していくうえで、法令順守（コンプライアンス）は当然として、利用者からの信頼を得るためには何が必要か、お考えをお教えてください。（いくつでも○）

(N=22)

1. 経営理念・ビジョンの確立	36.4%	8. 利用者への対応	59.1%
2. 組織体制	22.7%	9. 老朽化した施設の改善	22.7%
3. 人材確保	45.5%	10. 他機関（他事業所等）との連携	22.7%
4. 人材育成（研修・学習会）	59.1%	11. 情報収集及び提供方法	22.7%
5. 就業環境整備（人件費・福利厚生等）	22.7%	12. 個人情報保護	31.8%
6. サービス内容の充実	45.5%	13. その他	13.6%
7. マニュアルや手引書の整備	27.3%	無回答	40.9%

【その他】具体的に

問9 施設サービスを受けている利用者からサービスへのご意見・ご要望等がありましたら、お書きください。

< 介護予防事業をしていない事業所におたずねします >

問10 今後、参入予定の介護予防事業はありますか。当てはまるものに○をつけてください。また、「参入意向がない」、または「検討中」の場合は、その理由と参入条件を下段の枠の中から選択してください。(いくつでも○及び選択)

<※は、新予防給付サービス>

事業名 (N=79)	参入意向 の有無	検討中	無回答	参入意向無しの理由（上段）
				条件（下段）
① 介護予防通所介護	有 1 事業所 無 2 事業所	1 事業所	75 事業所	【理由】(n=3) 1. 採算があわない — 2. 人材が不足 — 3. 他社との競合が激しい — 4. 市場拡大が望めない — 5. 公的支援が受けにくい — 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない — 7. その他 1 事業所 無回答 2 事業所 【条件】(n=3) 1. 財政面の公的な支援 — 2. 人材面の公的な支援 — 3. 場の提供 — 4. 市場ニーズの情報提供 — 無回答 3 事業所
② 介護予防通所リハビリテーション	有 — 無 3 事業所	1 事業所	75 事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 1 事業所 2. 人材が不足 1 事業所 3. 他社との競合が激しい — 4. 市場拡大が望めない — 5. 公的支援が受けにくい — 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない — 7. その他 2 事業所 無回答 2 事業所 【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 — 2. 人材面の公的な支援 — 3. 場の提供 — 4. 市場ニーズの情報提供 — 無回答 4 事業所
③ 介護予防訪問介護	有 — 無 4 事業所	—	75 事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 2 事業所 2. 人材が不足 2 事業所 3. 他社との競合が激しい — 4. 市場拡大が望めない — 5. 公的支援が受けにくい — 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない — 7. その他 2 事業所 無回答 1 事業所 【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 — 2. 人材面の公的な支援 — 3. 場の提供 — 4. 市場ニーズの情報提供 — 無回答 4 事業所

事業名 (N=79)	参入意向 の有無	検討中	無回答	参入意向無しの理由（上段）
				条件（下段）
④介護予防訪問リハビリテーション	有 ー 無 4事業所	ー	75事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 2事業所 2. 人材が不足 2事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 2事業所 無回答 1事業所
				【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4事業所
⑤介護予防訪問入浴介護	有 ー 無 4事業所	ー	75事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 2事業所 2. 人材が不足 2事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 2事業所 無回答 1事業所
				【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4事業所
⑥介護予防訪問看護	有 ー 無 3事業所	1事業所	75事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 1事業所 2. 人材が不足 1事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 2事業所 無回答 2事業所
				【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4事業所
⑦介護予防居宅療養管理指導	有 ー 無 3事業所	1事業所	75事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 1事業所 2. 人材が不足 1事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 2事業所 無回答 2事業所
				【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4事業所

事業名 (N=79)	参入意向 の有無	検討中	無回答	参入意向無しの理由（上段）
				条件（下段）
⑧介護予防福祉用具貸与	有 ー 無 3事業所	-	76事業所	【理由】(n=3) 1. 採算があわない 2事業所 2. 人材が不足 1事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 1事業所 無回答 1事業所
				【条件】(n=3) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 3事業所
⑨特定介護予防福祉用具販売	有 ー 無 3事業所	-	76事業所	【理由】(n=3) 1. 採算があわない 2事業所 2. 人材が不足 1事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 1事業所 無回答 1事業所
				【条件】(n=3) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 3事業所
⑩介護予防住宅改修費支給	有 ー 無 3事業所	-	76事業所	【理由】(n=3) 1. 採算があわない 2事業所 2. 人材が不足 1事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 1事業所 無回答 1事業所
				【条件】(n=3) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 3事業所
⑪介護予防短期入所生活／療養介護	有 ー 無 4事業所	-	75事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 2事業所 2. 人材が不足 1事業所 3. 他社との競合が厳しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報が無い ー 7. その他 2事業所 無回答 1事業所
				【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4事業所

事業名 (N=79)	参入意向 の有無	検討中	無回答	参入意向無しの理由（上段）
				条件（下段）
⑫介護予防特定施設入 居者生活介護	有 ー 無 4 事業所	-	75 事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 2 事業所 2. 人材が不足 2 事業所 3. 他社との競合が激しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 1 事業所 7. その他 2 事業所 無回答 1 事業所 【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4 事業所
⑬運動器の機能向上（筋 力向上・転倒予防） ※	有 ー 無 4 事業所	-	75 事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 1 事業所 2. 人材が不足 2 事業所 3. 他社との競合が激しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない ー 7. その他 2 事業所 無回答 1 事業所 【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4 事業所
⑭栄養改善 ※	有 ー 無 4 事業所	-	75 事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 1 事業所 2. 人材が不足 2 事業所 3. 他社との競合が激しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない ー 7. その他 2 事業所 無回答 1 事業所 【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4 事業所
⑮口腔機能の向上 ※	有 ー 無 4 事業所	-	75 事業所	【理由】(n=4) 1. 採算があわない 1 事業所 2. 人材が不足 2 事業所 3. 他社との競合が激しい ー 4. 市場拡大が望めない ー 5. 公的支援が受けにくい ー 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない ー 7. その他 2 事業所 無回答 1 事業所 【条件】(n=4) 1. 財政面の公的な支援 ー 2. 人材面の公的な支援 ー 3. 場の提供 ー 4. 市場ニーズの情報提供 ー 無回答 4 事業所

【理由】 1. 採算があわない 2. 人材が不足 3. 他社との競合が厳しい 4. 市場拡大が望めない 5. 公的支援が受けにくい 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 7. その他 〔 〕	【条件】 1. 財政面の公的な支援 2. 人材面の公的な支援 3. 場の提供 4. 市場ニーズの情報提供 5. その他 〔 〕
--	--

< 地域密着型事業についておたずねします >

問11 今後、参入予定の地域密着型事業はありますか。当てはまるものに○をつけてください。また、「参入意向がない」、または「検討中」の場合は、その理由と参入条件を下段の枠の中から選択してください。(いくつでも○及び選択)

事業名 (N=79)	参入意向 の有無	検討中	無回答	参入意向無しの理由（上段）
				条件（下段）
①小規模多機能型居宅介護	有 0.0% 無 30.4%	6.3%	63.3%	【理由】(n=29) 1. 人件費が高い 6.9% 2. 人材が不足 17.2% 3. 家賃が高い 13.8% 4. 地代が高い 13.8% 5. 市場のニーズがわからない 6.9% 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 20.7% 7. その他 17.2% 無回答 44.8% 【条件】(n=29) 1. 財政面の公的な支援 27.6% 2. 人材面の公的な支援 6.9% 3. 場の提供 20.7% 4. 市場ニーズの情報提供 0.0% 5. その他 0.0% 無回答 72.4%
②介護予防小規模多機能型居宅介護	有 0.0% 無 30.4%	6.3%	63.3%	【理由】(n=29) 1. 人件費が高い 6.9% 2. 人材が不足 17.2% 3. 家賃が高い 13.8% 4. 地代が高い 13.8% 5. 市場のニーズがわからない 6.9% 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 13.8% 7. その他 17.2% 無回答 51.7% 【条件】(n=29) 1. 財政面の公的な支援 20.7% 2. 人材面の公的な支援 0.0% 3. 場の提供 13.8% 4. 市場ニーズの情報提供 0.0% 5. その他 0.0% 無回答 79.3%

事業名 (N=79)	参入意向 の有無	検討中	無回答	参入意向無しの理由（上段）	
				条件（下段）	
③夜間対応型訪問介護	有 1.3% 無 34.2%	0.0%	64.6%	【理由】(n=27)	
				1. 人件費が高い	11.1%
				2. 人材が不足	40.7%
				3. 家賃が高い	14.8%
				4. 地代が高い	14.8%
				5. 市場のニーズがわからない	11.1%
				6. 施設を開設する土地や建物について情報がない	14.8%
				7. その他	29.6%
				無回答	25.9%
				【条件】(n=27)	
				1. 財政面の公的な支援	22.2%
				2. 人材面の公的な支援	0.0%
				3. 場の提供	14.8%
				4. 市場ニーズの情報提供	0.0%
				5. その他	0.0%
				無回答	77.8%
④認知症対応型通所介護	有 0.0% 無 29.1%	3.8%	67.1%	【理由】(n=26)	
				1. 人件費が高い	23.1%
				2. 人材が不足	38.5%
				3. 家賃が高い	15.4%
				4. 地代が高い	15.4%
				5. 市場のニーズがわからない	15.4%
				6. 施設を開設する土地や建物について情報がない	19.2%
				7. その他	30.8%
				無回答	26.9%
				【条件】(n=26)	
				1. 財政面の公的な支援	23.1%
				2. 人材面の公的な支援	0.0%
				3. 場の提供	15.4%
				4. 市場ニーズの情報提供	0.0%
				5. その他	0.0%
				無回答	76.9%
⑤介護予防認知症対応型通所介護	有 0.0% 無 29.1%	3.8%	67.1%	【理由】(n=26)	
				1. 人件費が高い	23.1%
				2. 人材が不足	38.5%
				3. 家賃が高い	26.9%
				4. 地代が高い	26.9%
				5. 市場のニーズがわからない	15.4%
				6. 施設を開設する土地や建物について情報がない	19.2%
				7. その他	30.8%
				無回答	26.9%
				【条件】(n=26)	
				1. 財政面の公的な支援	23.1%
				2. 人材面の公的な支援	0.0%
				3. 場の提供	15.4%
				4. 市場ニーズの情報提供	0.0%
				5. その他	0.0%
				無回答	76.9%
⑥認知症対応型共同生活介護	有 2.5% 無 34.2%	0.0%	63.3%	【理由】(n=27)	
				1. 人件費が高い	22.2%
				2. 人材が不足	37.0%
				3. 家賃が高い	25.9%
				4. 地代が高い	25.9%
				5. 市場のニーズがわからない	18.5%
				6. 施設を開設する土地や建物について情報がない	18.5%
				7. その他	29.6%
				無回答	25.9%
				【条件】(n=27)	
				1. 財政面の公的な支援	22.2%
				2. 人材面の公的な支援	0.0%
				3. 場の提供	14.8%
				4. 市場ニーズの情報提供	0.0%
				5. その他	0.0%
				無回答	77.8%

事業名 (N=79)	参入意向 の有無	検討中	無回答	参入意向無しの理由（上段）	
				条件（下段）	
⑦介護予防認知症対応型共同生活介護	有 1.3% 無 34.2%	0.0%	64.6%	【理由】(n=27) 1. 人件費が高い 11.1% 2. 人材が不足 25.9% 3. 家賃が高い 14.8% 4. 地代が高い 14.8% 5. 市場のニーズがわからない 18.5% 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 18.5% 7. その他 18.5% 無回答 37.0%	
⑧地域密着型特定施設入居者生活介護	有 0.0% 無 34.2%	0.0%	65.8%	【理由】(n=27) 1. 人件費が高い 11.1% 2. 人材が不足 25.9% 3. 家賃が高い 14.8% 4. 地代が高い 14.8% 5. 市場のニーズがわからない 18.5% 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 18.5% 7. その他 18.5% 無回答 37.0%	
⑨地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	有 0.0% 無 32.9%	1.3%	65.8%	【理由】(n=27) 1. 人件費が高い 11.1% 2. 人材が不足 25.9% 3. 家賃が高い 14.8% 4. 地代が高い 14.8% 5. 市場のニーズがわからない 18.5% 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 18.5% 7. その他 18.5% 無回答 37.0%	

【理由】 1. 人件費が高い 2. 人材が不足 3. 家賃が高い 4. 地代が高い 5. 市場のニーズがわからない 6. 施設を開設する土地や建物について情報がない 7. その他 { }	【条件】 1. 財政面の公的な支援 2. 人材面の公的な支援 3. 場の提供 4. 市場ニーズの情報提供 5. その他 { }
--	--

サービスの質の向上に向けた取組みをおたずねします

問12 現在、貴事業所では質の向上に対する取組をどのように行っていますか。

(いくつでも○)

(N=79)

1. 第三者評価の実施	32.9%	8. 人材の確保	63.3%
2. 専門家、コンサルタントの活用	11.4%	9. スタッフの資格取得への支援	51.9%
3. ISO等品質管理に関する認証取得	5.1%	10. 事業者間の交流	36.7%
4. 苦情事例等の活用・蓄積	77.2%	11. 事業者連絡会への出席	64.6%
5. 事業所内での検討会	88.6%	12. 利用者調査の実施	36.7%
6. 手引書の作成と見直し	58.2%	13. 介護情報の公表	60.8%
7. 外部研修会への出席	72.2%	14. その他〔具体的に： 〕	2.5%
		無回答	0.0%

問13 問12で「1. 第三者評価の実施」と回答しなかった事業所におたずねします。

今後、第三者評価を実施する予定はありますか。(1つに○)

(n=53)

1. 実施の予定がある	7.5%	無回答	9.4%
2. 実施の予定はない	83.0%		

問13-1 問13で「2. 実施の予定はない」と回答した事業所におたずねします。その理由は次のうちどれですか。(1つに○)

(n=44)

1. 費用がかかりすぎるから	52.3%
2. メリットがわからないから	15.9%
3. 評価機関の選び方がわからないから	0.0%
4. サービスの改善に結びつくかわからないから	4.5%
5. その他〔具体的に： 〕	27.3%
無回答	0.0%

問14 人材を確保するためどのような取組みを行っていますか。(いくつでも○)

(1) 現在の取組み

(N=79)

1. 新規採用枠の拡大	46.8%	9. 職員間の助け合い制度	16.5%
2. 中途採用枠の拡大	60.8%	〔具体的に： 〕	
3. 就業時間の見直し	13.9%	10. 同事業所内で人員確保	21.5%
4. 福利厚生の実施	29.1%	11. 社外の協力体制の整備	7.6%
5. 賃金面の充実	29.1%	12. 求人広告掲載	72.2%
6. 研修会への参加支援	54.4%	13. その他	8.9%
7. 資格取得の支援	44.3%	〔具体的に： 〕	
8. 苦情・相談体制の充実	34.2%	無回答	1.3%

(2) 今後の取組み

(N=79)

1. 新規採用枠の拡大	46.8%	9. 職員間の助け合い制度	10.1%
2. 中途採用枠の拡大	49.4%	〔具体的に： 〕	
3. 就業時間の見直し	8.9%	10. 同事業所内で人員確保	16.5%
4. 福利厚生の実施	32.9%	11. 社外の協力体制の整備	11.4%
5. 賃金面の充実	48.1%	12. 求人広告掲載	65.8%
6. 研修会への参加支援	50.6%	13. その他	16.5%
7. 資格取得の支援	45.6%	〔具体的に： 〕	
8. 苦情・相談体制の実施	27.8%	無回答	3.8%

問15 研修についておたずねします。

(1) 事業所内での講習会・研修は十分実施できていると思いますか。できていない場合は理由を具体的にお書きください。(1つに○)

(N=79)

1. 十分実施できている	6.3%
2. 十分ではないが実施できている	89.9%
3. ほとんど実施できていない〔理由： 〕	3.8%
4. その他〔具体的に： 〕	0.0%
無回答	0.0%

(2) 外部の研修や事例検討、勉強会について職員が積極的に参加できるよう支援していますか。できていない場合は理由を具体的にお書きください。

(1つに○)

(N=79)

1. 支援している	25.3%
2. 十分でないが支援している	62.0%
3. ほとんど支援していない	7.6%
〔理由： 〕	
4. 支援したいができない	5.1%
〔理由： 〕	
5. その他	0.0%
〔具体的に： 〕	
無回答	0.0%

府中市への意向についておたずねします

問16 今後保険者としての府中市に対し、事業者として望むことは次のうちどれですか。（3つまで○）

（N=79）

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 介護保険に関する情報提供、研修の実施 | 58.2% |
| 2. 質の向上のために事業者が行う研修への支援 | 38.0% |
| 3. 不正な事業所への指導 | 7.6% |
| 4. 利用者への適正なサービス利用の啓発 | 45.6% |
| 5. 地域包括支援センター機能の充実 | 20.3% |
| 6. 市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催 | 38.0% |
| 7. 制度運営における保険者判断部分の周知 | 46.8% |
| 8. その他〔具体的に〕 | 11.4% |

- | | |
|---------|------|
| 9. 特にない | 1.3% |
| 無回答 | 0.0% |

問17 「介護保険制度」全体をよりよくするための環境整備として、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。（3つまで○）

（N=79）

- | | |
|--|-------|
| 1. サービス事業者の質を高める取組みを行うこと | 24.1% |
| 2. ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること | 30.4% |
| 3. 市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと | 8.9% |
| 4. 利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと | 35.4% |
| 5. 寝たきりにならないよう、介護予防のサービスに力を入れること | 7.6% |
| 6. 地域全体で介護を支援するしくみづくりを行うこと | 40.5% |
| 7. 身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと | 7.6% |
| 8. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと | 19.0% |
| 9. 家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること | 26.6% |
| 10. 介護保険を効率的に運用するしくみ作りを行うこと | 25.3% |
| 11. 在宅介護支援センターの充実 | 5.1% |
| 12. 介護保険サービス利用の制限をカバーする保健福祉サービスを充実すること | 41.8% |
| 13. その他〔具体的に〕 | 7.6% |

- | | |
|-----------|------|
| 14. わからない | 0.0% |
| 無回答 | 0.0% |

問18 その他、介護保険に関するご要望について、ご自由にお書きください。

———ご協力ありがとうございました———

府中市
福祉計画（高齢者福祉）調査報告書
平成 20 年 3 月

発行：府中市 福祉保健部 地域福祉推進課
〒183-8703 府中市宮西町 2 丁目 24 番地
TEL 042(335)4182（直通）

調査：株式会社生活構造研究所
〒102-0083 千代田区麹町 2 丁目 5 番地 4
TEL 03(5275)7861

